收容書目

Takimoto, Seiichi (ed.)
Nihon keizai sōsho

日本經濟叢書

卷六

日本經濟叢書刊行會

日本經濟叢書卷六目次

目次終

解題

經濟録

本書は有名なる太宰春臺の著す所なり、春臺、名は純、字は德夫、通稱は彌左衞門、別に紫芝園と號す、本姓は平手氏にして、信州飯田の人なり、初め程朱の學を中野撝軒に受け、後ち去つて、物徂徠の門に遊び、所謂復古の學を修め、遂に蘐園門第一の高足を以て推さるゝに至る、延享四年歿す、年六十八、著す所は、本書及下記の書の外に、論語古訓十卷、同外傳十卷、老子特解二卷、聖學問答二卷、六經略說一卷、辨道書一卷、紫芝園漫筆八卷等數十種あり、皆世に行はる

本書は享保十四年に成りたるものにして、その內容は之を十卷に分ち、第一卷を經濟總論とし、第二卷は禮樂、第三卷は官職、第四卷は天文、地理、律曆、第五卷は食貨、第六卷は祭祀、學政、第七卷は章服、儀仗、武備、第八

卷は法令、刑罰、第九卷は制度、第十卷は無爲、易道にして、其の論述する所は徂徠の政談に似て頗ぶる雜駁なる政治經濟論なれども、當時の著作としては、比較的最も完全なるものなり、而して本書は政談と共に盛に行はれたるものにして、板本寫本ともに、其の種類甚だ多く、隨て往々その字句、文章を異にする所あり、何れを是とし、何れを非とするや、讀者をして取舍に苦ましむるものなきにあらず、殊に板本にて行はるゝものに在りてすら、其の製板本と活字本とを問はず、悉く粗笨にして、行文中意義の通ぜざる所も、亦尠なからざりしが、編者が此に採擇せる底本は、犬塚勝太郎君珍藏の著者自筆本に據りて、最も嚴正に對校訂正したるものなれば、その精確なることは從來通行本の類にあらざるなり、犬塚君の著者自筆本は春臺の門人水野元朗（犬塚君の鄉里庄内の人なり）の舊藏本にして、水野氏、その卷末に附記して、先師の自筆なることを證明せり、本編に揭げたる卷首の寫眞板は、即ち著者自筆本の序文にして、全書悉く同筆法を以て、嵩山房の原稿用紙に寫し

たるものなり
（參考）本書の第壹卷經濟總論は、荻生徂徠の著作「經濟總說」と題する單行本となりて、世上に流布し、又五井蘭洲の「政事辨」として傳へらるゝものも、亦此の經濟錄の第一卷と第二卷の一部分とを綴合したるものにして、故意の僞作か、將た著作者の誤傳か、何れか判然せざれども、兎に角、此等の事を以てしても、春臺の經濟錄が、當時如何に盛に行はれ居たるかを證するに足らん

經濟錄拾遺

本書は前記經濟錄中の食貨（第五卷）及制度（第九卷）に洩れたる事柄を、問答體に論述したるものなり、本書の底本は、編者の藏本にして、犬塚君の著者自筆本と同じく、水野氏の舊藏本なれども、本書は著者の自筆本の複寫なることは、速水恒則の奧書に記したるが如し

春臺上書

本書は著者が享保十八年、時の執政黑田豐前守直邦に奉りたる上書にして、その內容は言を災異の鑑戒すべきに托して、君主たる者は民心の恐るべきを知らざる可らざる事を述べたるものなり、但丹治公とあるは豐前守の事なるべし

産語

本書十二篇は、皆殖産治生の事にして、多くは管仲、晏子、李悝、白圭等の語を錄したるものなり、故に題して産語と云ふ、著者春臺は本書は奈良の佛寺に出でたるものを、自分が浪華の市に獲たるものなりとて、自著にあらざるが如く吹聽するも、其の實、春臺の著作なることは、同人高足の弟子、宮田明の序文に依て明なり、蓋し春臺は古文辭を以て自ら誇るもの、乃ち故らに得

意の古文を綴りて得意の經濟說を述べ、以て竊かに古書に擬して、世人を欺かんとしたるものに外ならず、然れども其の欺や君子の欺にして、固より之が爲めに、風雅を傷くるに足らざるのみならず、其の措辭成文の巧みなるは、宮田明の云へる如く、之を秦漢の古文中に措くも、容易に其の眞僞を判別すること能はず、實に著者獨特の大手腕を示したるものと云ふべし、故に本書は古より有名の著作として、世上に喧傳せられ、著者の歿後、三四年ならずして、文荆山人の譯本(下記の民家生要記即ち是なり)出で、幾もなく、又加藤某なるもの「治生草」の名稱を付して、別に其の譯本を出板せり、又近く維新の前に於ては、吉田松陰、大に此の書を重愛し、故品川子爵又座右缺ぐ可らざるの珍書となし、嘗て自ら之を邦文に譯して、刊行せられたることあり、以て如何に本書が世上に重んぜられたるかを推知すべし

民家生要記

本書は前記「產語」の中、治生に關する緊要の事項を邦文に反譯したるものなり、譯者源卯とは何人なるや、其の傳を詳にせざれども、東海釣徒、文荊山人等は皆其の雅號なるが如し、跋文に依れば、此の譯本は、寛延四年（寶曆元年）に成れるものにして、春臺の歿年を距ること、僅かに四年に過ぎず、或は紫芝園門下の一人にあらざるか

燕居偶筆

本書は伊豫松山の人、大月履齋の著す所なり、履齋は夙に伊洛の學に志し、經濟家を以て鄉里に知られ、享保十九年、六十一歲にして歿せり、本書は藤森弘庵の如不及齋叢書本を底本となしたるものにして、弘庵の題跋に依つて略〻本書の性質如何を推知することを得べし、編者の私藏に係る別本（寫本）には同鄉人宮原彬なる人の漢文奧書あり、頗ぶる本書の價値を知るに足るべきを以て、弘庵の跋文の後に、之を附載して、讀者の參考に供せり

本書中世の弊風を痛論したる一例を示せば

作法正シキコトヲスルトテ、仕置所役人ノ仕樣、アマリ作法、嚴シ過タルハ惡シ、聖人ノ仕置ハ、隨分事ヲ省キ、イヤ念ナク、手短ニ埒明ヤウニシタルモノ也、治世ウチ續キテ、人主役人共ニ、次第ニ威高ク位貴クナリテ、カリソメノ事モ、段々取次多ク、持テ廻ルユヘ、次第ニ役數、多クナリテ、却テ事モ夫ニツレ、不埒明ヿ多シ、例ヘバ口上ニテ濟タル事モ、口上書ニナリ、口上書デ濟タル事モ、急度證文加印ナド云樣ニナル故、急グ事ハ間ニ不合、ユヘニ次第々々ニフエタルモノナリ、夫ニ付テハ無用ノ費モ多カラン、昔役所ニ硯一ツアレバ、濟タル事モ、今ハ一人々々、硯ヲヒカヘ、紙筆モ大分費ヘ、假リソメノ事モ、帳面々々ト云テ、役人モ增シ乍ラ、昔ノ十倍モ用多シ、直ニ上ヘ伺フテ濟ンダルヿモ、念ヲ入ルトテ、方々ヘ問尋ネ、無益ノ足ヲ運ビ、事滯テ下ノ滯ト成ル、ソレ故大方ノ事ハ、先ヅ其分ニシテ、下ヨリ願フ事モ、取上ゲヌユヘ、下情日々ニ塞ルナリ、云々

是れ實に當時の弊風に適中したる痛切の言にして、其他處々に「世間ノ人、皆己レ一代ニ、シルシヲ付ント思フ故、外ノ難儀ナルㇷ多シ、國家ハ長久ノモノナレバ、永代ドコモカモ能キ様ニスルコソ、仕置トモ可ㇾ申」と云々、又「聖人ノ政ニハ、平均ヲ大事トシテ、妄リニ大儲ヲシテ、一夜長者ニ成事ヲサセズ、人々家々、如ㇾ此ニナラバ、物ノ直段モ平等ニ、四民モクツロギテ、夫レヨリシテ、忠孝人倫ノ道モ行ハルベシ」と云へるが如きは、何れも警拔の言と云ふべし

救饑大意 附社倉略法、社倉法大意

本書の著者三輪希賢は、京師の儒にして、通稱は善藏、執齋又躬耕廬と號す、始め佐藤直方に從て、程朱の學を修め、後ち王氏陽明の學を信ぜり、嘗て近江の小川村に至り、帷を下して、王學を講ず、聽者皆感泣して、藤樹先生の再生となせりと云ふ、寛保四年、京師に歿す、年七十六、著す所、本書の外

に、乾坤講義、傳習錄標注、四言教講義等あり
救餓大意及社倉法大意共に正德三年に成れるものにして、前者の內容は、京師に於ける飢民の救助法、其の宜しきを得ざることを痛論し、實際費用を省きて、效果の著大なる方法を述べ、後者は、朱子の社倉法に基きて、我邦相當の備を爲すの必要を說きたるものなり
(參考)本書の末尾に「昌世曰云々」とある「昌世」は、本叢書第五卷、勸農固本錄の解題中に、記し置きたる、小見山昌世のことなるべし

辻六郎左衞門上書

本書の著者、辻六郎左衞門は、鶴翁と號す、元祿享保年中の人にして、當時所謂地方巧者の名あり、甞て美濃笠松に於て、郡代となり、大に治績を擧げ、殊に同地に於て完全なる社倉法の組織をなしたるが如きは、其の最も見るべきものなり、享保年中、幕府の御勘定吟味役に拔擢せられ、其の財政上に貢

獻する所、少なからずと云ふ、本書は田制に關する慣例、定格、取扱等の概要を、著者の經驗に依て、覺書樣に記述したるものにして、其の大部分は上書の體裁を爲さゞれども、全く當路の諮詢に應じて、答申したるものなるが如し

本書の底本は、內田銀藏君の藏本を借寫したるものなり

宣室夜話

本書の題名は唐人の詩に「宣室求賢訪逐臣、賈生才調自無倫、可憐夜半虛前席、不問蒼生問鬼神」とあるに基きたるものなり、宣室は帝王の御居間なり、天子の御面前へ忠言を奉ると云ふの意にて付けたる名稱なるべし、著者山縣周南、名は孝孺、字は次公、少助と稱す、周南は其の號、周防の人なり、物徂徠に師事して、春臺、南郭、東野等と與に大に古學を研鑽し、後ち國に歸りて藩校明倫館の祭酒となり、其の名、關西に振ふ、寶曆二年、歲六十六

にして歿せり、著す所は、本書の外に、爲學初問二卷、養子說一卷、講學日記若干卷、及詩文集等あり

治國修身錄

本書は岡白駒の倫理的政治論にして、肥前蓮池侯の爲めに述べたるものなり、白駒字は千里、太仲と稱し、龍州と號す、播州の人なり、初め攝州西宮に在りて醫を業とす、後ち京師に移り、業を改めて儒となり、帷を下して生徒に教授し、專ら經學を修めて、其の傳注を作り、旁ら小說俗語に通じ、博覽を以て知らる、明和四年歿す、歲七十六

本書は寬政五年、著者の姪彥謙なる者が、書肆小川某の請に應じて、上梓せしめたるものなり

齊桓問對

本書は齊の桓公が、群臣に爲政の要を問へるの故事に因み、著者自ら我國の事を以て、之に對ふるに擬したるものなり、著者澤村琴所、名は維顯、字は伯陽、近江彥根侯の儒臣として、夙に經濟の學に志し、著す所、本書の外に、富强錄、井家新書、軍國要覽等十數部あり、元文四年、歲五十四にして歿せり

本書は措辭粗雜にして秩序なく、猶或は未定稿に屬するものなるやの疑なきにあらざるも、經濟上著者の意見の一斑を見るに足るべきものあれば、玆に之を採收せり、但し本書は其の記事に依れば「富强錄」を併せて見るべきものの如くなるも、編者未だ之を手にすること能はざるは、甚だ遺憾とする所なり

金銀吹替評

本書は元文元年に金銀吹替の風説盛なりしかば、斯くては由々しき大事なり

とて、其の不可なる事を痛論したる上書なり、何人が何處へ差出したるものなりや、詳かならざれども、書中間々見るべきものあるを以て、此に收容せり

杢政談

本書は何人の著作なるや詳かならざれども、信州松代藩主眞田伊豆守の家臣恩田木工と云へる人が、寶暦の頃、その藩主の委任を受けて、眞田家の財政整理を斷行したる顚末を記したるものなり、宛も同時代、肥後熊本に於ては、夫の有名なる堀平太左衞門が、大に藩政を釐革したる事ありしが（其の事蹟は本叢書の後卷に收容すべき龜井道載の「肥後物語」にあり）恩田の事蹟は、全く之に似たる美談にして、經濟史を研究する者の爲めには、好個の資料なるべしと思はる、恩田が百姓を遇するの仕方は、寛猛その宜しきに適ひ最も見るべきもの鮮なからざりしが、左の一言の如きは、頗ぶる民情に適し

たる一證となるべし

家業に疎く麁略なる者は天下の罪人なり、家業出精して、其餘分あらば、分限相應に樂しみは、如何樣なりとも、不ㇾ苦候間可ㇾ仕候、碁、將棊、双六、謠、俳諧、扨ては淨瑠璃、三味線の類、慰みならば、博奕なりとも、好みたる事をして、樂むがよい、去ながら博奕は、天下の御法度なれば、商賣にてはならぬ、若し商賣にする者あらば、急度曲事申付候間、此旨能々申聞せよ、慰みに致すべし、惣じて人は分限相應の樂みなくては、又精を出しても、面白からぬもの也

斯くの如き注意を加へて、財政經濟の革新を圖りたることなれば、事業は着着と奏功して、着手後日ならず、眞田家の財政は勿論の事、一般百姓まで、皆其の業務に精勵して、上下大に富めるに至れりと云ふ、本書は即ち此の事蹟を詳記したるものなり

地方國本錄

本書は太田英任なる人が、寶暦三年に書記したる田制書なり、著者の傳は詳かならず、又本書も格別重要のものにあらざれども、多少參考に資するに足るべきを以て、此に之を收容せり

大正三年十一月　　　　　　　　　　瀧本誠一

解　題　終

經濟錄

太宰純著

經濟錄序

孔子ノ道ハ、先王ノ道ナリ、先王ノ道ハ天下ヲ治ムル道ナリ、先王ノ道ハ六經ニ在リ、六經ヲ讀ニ、先王ノ道ヲ學テ、經濟ノ術ニ達セザルハ、譬ヘバ醫者ノ經方ヲ學テ、人ノ病ヲ治スルコト能ハザルカ如シ、博聞強記、多才多藝ナルトテモ、天下國家ノ爲ニ真益ナシ、漢朝ノ學者ハ、皆經術ヲ修シテ、治道ヲ論スルヲ務トス、賈誼董仲舒ノ如キハ、スナハチ其巨擘ナリ、漢ノ古ヲ去コトイマダ遠カラザリシ故ナリ、漢ノ季ヨリ、經術ヲ講ズル者、稍昔ニ及バス、然レドモ唐以前ハ、心法ノ説イマダ起ラズ、是猶イマダ全ク古ヲ失ハザリシナリ、宋ノ代ニ及テ、程氏朱氏ノ學、專心法ヲ以

テ聖人ノ道ヲ説ク、徽宗欽宗ノ二帝ヲ狄人ニ取ラレテ、君ニモ臣モコレヲ耻辱トセズ、其讎ヲ復スル計ヲ求メズシテ、只誠意正心ノ説ヲ抗ダ、其後天下ヲ蒙古ニ取ラレテ、天子海ニ浮ヘルニ、陸秀夫カ徒、船中ニテ日ニ大学章句ヲ講ジテ、涙ヲ流シケルトイフハ、愚昧ノ至リハ一笑ニ餘リ、痛マシキ事ナリ、是スナハチ心学ノ餘殃ナリ、凡心法ヲ談ズルハ、釋氏ノ学ニテ、先王孔子ノ道ニ決シテ無キ事ナリ、朱晦庵ガ同時ニ陸象山アリ、明ニ及テ王陽明アリ、其説朱氏ト異ナレドモ、心法ヲ主トスルコトハ同一途轍ナリ、是ヨリ先王ノ道世ニ昧クナリ、經濟ノ術地ニ墜チ、孔子ノ流盡テ、儒者ノ業、全ク乞食頭陀ノ行ヒトナレリ、日本ノ學者モ、百

年以來ハ皆宋儒ノ徒ニテ心法ヲ講ズルヨリ外ニハ孔子ノ道ヲ
知レル者絶テ無シ王公ヨリ以下ノ人ニ聰明ナルモ有テ經濟ニ志
ス人ナキニアラズトイヘドモ其道ヲ学ビ其術ヲ習フベキ由ナケレバ
只一分ノ俗智ヲ用テ其政ヲ行フノミナリ凡經濟ハ古ト今ト
時ヲ異ニシ中華ト日本ト俗ヲ殊ニスレドモコレヲ行フ術ハ少モ
異ナルコト無シ若古ニ宜クテ今ニ宜カラズ彼國ニ宜クテ此國ニ
宜カラズハ聖人ノ道トイフベカラズコレヲ行テ行ハルト行ハザ
ルトハ行フ人ニアリ四方萬國日月ノ照スホドノ地ニ聖人ノ道ノ
行ハレザル處アルベカラズ況ヤ日本ハ往古ヨリ中華ノ道ヲ用テ
治メ來レル國ナレバ末世トテモ再興セラルマジキニ非ズ若英雄

豪傑ノ人アリテ上ニ用ラレ時ヲ得テ其術ヲ施サバ先王ノ道孔子ノ教海内ニ行レテ萬民其澤ヲ被ランコト日ヲ計テ待ツベシ昔人千金ヲ費シテ龍ヲ屠ル術ヲ学ビシガ屠ルベキ龍ナクテ空ク一生ヲ終ヘシトカヤ純ガ如キ者是ニ似タリ然レドモ此身此マヽニテ終ラバ学得タル屠龍ノ藝徒ニ土中ノ物トナルベキモ惜ケレバ拙キ筆ニテ記録シテ篋中ニ藏置キ廣キ世間ニ若龍ヲ得テ屠ントオモハン人アラバ潜ニコレヲ授テ其謀ヲ賛ント願フ是純ガ平生ノ微志ナリ若此中ニテ萬分ノ一ヲモ取用ラルヽコト有ラバ此身死ストモ生ルガ如クナラン漢ノ賈誼ガ長太息シテ治安ノ策ヲ文帝ニ獻ゼシハ其身朝士ノ列ニ

在ニ故ナリ今純ハ草野ノ民ナリ何ゾ敢テ賈生ガ為ニ
傚ンヤ只憤懣ニ堪ズシテ聊胸中ノ蘊ヲ吐クノミナリ

享保十四年己酉二月八日

東都處士本姓平手氏中務大輔政秀五世孫太宰純書

序終

經濟錄序

孔子之道者、先王之道也、先王ノ道ハ、天下ヲ治ル道也、先王ノ道ハ、六經ニアリ、六經ヲ讀、先王ノ道ヲ學デ、經濟ノ術ニ達セザルハ、譬バ醫者ノ經方ヲ學デ、人ノ病ヲ治スルコト不レ能ガ如シ、博聞強記多才多藝ノ人也トテモ、天下國家ノ爲ニ、其益少シ、漢朝ノ學者ハ、皆經術ヲ修シテ、治道ヲ論ズルヲ務トス、賈誼、董仲舒ノ如キハ、則其巨擘也、漢ハ古ヲ去ルコト未遠カラザリシ故也、漢ノ季ヨリ、經術ヲ講ズル人、稍昔ニ不レ及、然レドモ唐以前ハ、心法ノ說未起ラズ、是猶未ダ全ク古ヲ不レ失也、宋代ニ及デ、程氏朱氏ノ學、專ラ心法ヲ以テ聖人ノ道ヲ說ク、徽宗欽宗二帝ヲ狄人ニ取ラレテ、君モ臣モ是ヲ恥辱トセズ、其讐ヲ復スル計ヲ求メズシテ、只誠意正心ノ說ヲ抗グ、其後天下ヲ蒙古ニ取レテ、天子海ニ浮ベルニ、陸秀夫ガ徒、船中ニテ日々大學章句ヲ講ジテ、涙ヲ流シケルト云、愚昧ノ至リ、一笑ニ餘リ、痛マシキコト也、是則心學ノ餘殃也、凡心法ヲ談ズルハ、釋氏ノ學ニテ、先王孔子ノ道ニ、決シテ無キコト也、朱晦庵ガ同時ニ陸象山アリ、明ニ及デ陽明アリ、其說朱子ト異ナレドモ、心法ヲ主トスルコトハ、同一途轍ナリ、是ヨリ先王ノ道、世ニ昧クナリ、經濟ノ術、地ニ墜テ、孔子ノ流盡テ、儒者ノ業全ク乞食頭陀ノ行ト成レリ、日本ノ學者モ、百年以來ハ皆宋儒ノ徒ニテ、心法ヲ講ズル

ヨリ外ニハ、孔子ノ道ヲ知レル者絕テナシ、王公ヨリ以下ノ人ニ、聰明ナルモ有テ、經濟ニ志ス人ナキニ非ト雖ドモ、其道ヲ學ビ、其術ヲ習フベキ由ナケレバ、只一分ノ俗智ヲ用テ、政ヲ行フノミ也、凡經濟ハ、古ト今ト時ヲ異ニシ、中華ト日本ト俗ヲ殊ニスレドモ、是ヲ行フ術ハ、少モ異ルコトナシ、若シ古ニ宜クテ、今ニ不宜、彼國ニ宜クテ、此國ニ不宜バ、聖人ノ道ト云ベカラズ、是ヲ行テ、行ハルルト、不行トハ、行フ人ニアリ、四方萬國、日月ノ照ス程ノ地ニ、聖人ノ道ノ行ハレザル所有ベカラズ、況ヤ日本ハ往古ヨリ中華ノ道ヲ用テ治メ來レル國ナレバ、末世迚モ再興セラレマジキニ非ズ、若シ英雄豪傑ノ人アリテ、上ニ用ヒラレ、時ヲ得テ其術ヲ施サバ、先王ノ道、孔子ノ敎、海內ニ行ハレテ萬民其德澤ヲ蒙ランコト、日ヲ計テ待ベシ、昔人千金ヲ費シテ、龍ヲ屠ル術ヲ學シガ、屠ルベキ龍ナクテ、空ク一生ヲ終シトカヤ、純ガゴトキ者、是ニ似タリ、然ドモ此身此儘ニテ終ラバ、學ビ得タル屠龍ノ藝、徒ニ土中ノ物トナルベキモ惜シケレバ、拙キ筆ニテ記錄シテ、筐中ニ藏置キ、廣キ世間ニ、若シ龍ヲ得テ屠ント思ン人アラバ、潛ニ是ヲ授テ、其謀ヲ賛ント願フ、是純ガ平生ノ微志也、若シ此中ニテ、萬分ノ一モ取用ヒラルルコトアラバ、此身死ストモ、生ルガ如クナラン、漢ノ賈誼ガ長大息シテ、治安ノ策ヲ文帝ニ獻ゼシハ、其身朝士ノ列ニ在シ故也、今純ハ草莽ノ民也、何ゾ敢テ賈生ガ爲ニ傚ンヤ、唯憤懣ニ堪ズシテ、聊胸中ノ蘊ヲ吐ノミナリ、

享保十四年己酉二月八日　東都處士本姓平手氏中務大輔政秀五世孫　太宰純　書

經濟錄凡例

一凡經濟ノ術ハ、中華ノ先王ノ道ヲ至極トス、先王トハ、唐虞ノ二帝、夏殷周三代ノ明王ヲ指テ言、二帝三王ハ、皆大聖人ニテ、神妙ナル智慧ヲ以テ、天下ヲ治メ玉ヘレバ、其定置レタル法式ハ、何モ萬世ノ鑑也、三代ノ王者ノ中ニ、中興ノ主ト稱スル君モ數多アリ、大聖人ト云程ニ非ズトテモ、其太祖ノ聖人ノ道ヲ能ク守リ、賢者ヲ擧用テ、中興ノ業ヲ立玉ヘバ、其功ハ聖人ト異ナルコトナキ故ニ、堯舜禹湯文武ノ君ト同等ニ尊崇シテ、都テ先王ト稱スル也、孔子ノ說玉ヘル道ハ、此先王ノ道也、秦漢ヨリ以後ハ、先王ノ道ニ違フコト多キ故ニ、輕々シク取用ヒ難シ、先王ノ道ナレバ迚、今日本ニ、是ヲ全ク其儘ニテ行フベキニハ非子ドモ、天下ヲ治メバ、何事モ古ヲ稽テ、是ヲ本トシテ料簡セザレバ、末世ノ俗智ニ牽レ易シ、俗智ハ大ニ害ヲナス也、今此書ニ必ズ先王ノ事ヲ稱スルハ本ヲ明サントス也、先王ハ周以前ノ明王ヲ指ト知ベシ

一凡公家ノ世ト云ハ、源平ノ亂ヨリ以前、公家ノ治メノ時ヲサス也、武家ノ世ト云ハ、鎌倉ノ右大將家ヨリ以後ヲ云、室町家ト云ハ、京都將軍足利氏ノ世ヲ云、織田氏ハ信長也、豐臣氏ハ太閤秀吉父子ノ世ナリ

一中華ニテ漢ノ代ニハ、大將軍ノ官ヲ重ンジテ、三公ト同等ニセリ。日本ノ征夷大將軍ハ、三位ノ官也、漢ノ大將軍ニ比スレバ頗ル輕シ、今ノ大將軍ハ、海內ヲ有チ玉ヘバ、是則日本國王也、サレバ室町家ノトキ、明ノ永樂ノ天子ヨリ、鹿苑院殿ヲ日本國王ト稱シテ、書ヲ遺リ玉ヘリ、當代ニハ、東照宮ヨリ山城天皇ヲ憚ラセ玉ヒ、謙退ニ過テ、王號ヲ稱シ玉ハズ、謙遜ハ誠ニ盛德ノコトナレドモ、國家ノ尊號正シカラザレバ、文字ニアラハシ、書籍ニ載ルニ及デ、何トモ稱シ奉ルベキ樣ナシ、大君ト稱シ奉ルモノアレドモ、僭稱也、大君ハ天子也、將軍ハ尊爵ニ非ズ、大樹ト云モ、將軍ノ別號也、室町ノ時ヨリ、公方ノ號アレドモ、義理ナキ文字也、和漢ノ禮制先蹤ヲ考ルニ、王ト稱シ奉ルヨリ外ニ、然ルベキ尊號ナシ、然レドモ上ニテ稱シ玉ハヌ王號ヲ、下ヨリ妄ニ稱シ奉ルベキ儀ナキ故ニ、敢テ是ヲ書セズ、詮方ナクシテ縣官ト書ス、縣官モ天子ヲ稱スルニ用ユレドモ、實ハ今ノ世ニ公儀ト云ガ如シ、大君ト云ヨリモ、較ヤ汎キ詞也、或ハ國家ト稱シ奉リ、或ハ朝廷ト稱シ奉ル所モアリ、此二ツハ又汎キ詞ニテ、所ニヨレバ、君上ヲ指奉ルニ成也、皆是斟酌ノ詞也、此書ヲ讀ン人、怪ミ玉フベカラズ、孔子ノ言ニ、「名不ㇾ正則言不ㇾ順」ト宣ヒシコト、今サラニ思ヒ當レリ、文廟ノ朝鮮王ニ復書シ玉ヒシ時ニ、日本王ト稱セラレシハ、英斷ニテ、義ニ當レルコト也　僭稱ト云ベカラズ

一日本ニテ御ノ字ヲ用ルコト妄也、御ハ車ヲ御スルト云ヨリ出タル字也、車ヲ御スルトイフハ、古ヘ

ノ車ニハ、四匹ノ馬ヲ駕シテ乗ヲ驅馬ノ車ト云、五馬六馬ノ車モアリ、車ノ上ニテ、轡ヲ取テ馬ヲ使フ者ヲ御者ト云、天子ノ天下ヲ治メ玉フコト、御者ノ馬ヲ使フニ似タル故ニ、是ヲ御宇ト云、宇内ヲ御スルト云義也、是ヨリ推テ、何ニテモ天子ノコトニ、皆御ノ字ヲ用フ、天子ノ衣服ヲ、御衣御服トイフ、食物ヲ御膳トイヒ、座ヲ御座トイヒ、器物ヲ御物トイヒ、又ハ御用ノ物ト云類ナリ、出御、入御、還御ノ類モ、皆天子ニ限タル詞也、天子ニ非シテ御ノ字ヲ用ルコトハナキコト也、日本ニテハ、昔ヨリ貴賤皆御ノ字ヲ用ルコト、海内ノ風俗トナリテ、僭妄ト云コトヲ不レ知、殊ニ今ノ世ニハ、猥妄ナルノミナラズ、御字ヲ用ルハ尊ブ意ナルニ、尊ブマジキコトヲ尊ビテ、御ノ字ヲ加ル詞アリ、タトヘバ宮中ニ直宿スルヲ、己ガ口ヨリ御番トイヒ、仕官スルヲ御奉公ト云、此類甚多シ、一笑ニ餘レルコト也、今此書ニ凡テノ御ノ字ヲ去テ書セズ、是僭テ上ヲ輕シメ奉ルニハ非ズ、僭妄ヲ改メ、且ハ愚蒙ヲ除ン爲也、讀マン人純ニ不敬ノ罪ヲ加ヘラレズバ大幸ナラン

一中華ニテハ、夏殷周ノ三代ヨリ以後ハ、王者ノ興ル毎ニ、必一代ノ國號ヲ立ツ、秦漢魏晉宋ノゴトキ、皆其王者ノ興レル國ノ名ヲ以テ、其一代ノ天下ノ總號トス、元ノ太祖ハ蒙古ノ人ニテ天下ヲ取シガ、蒙古ハ夷狄ナル故、是ヲ耻テ其本國ノ名ヲ稱セズ、別ニ國號ヲ立テ元ト稱セリ、是ヨリ後ハ、其例ヲ追テ、明ノ太祖ハ中華ノ人ナリシカドモ、興レル所ノ國ヲ稱セズ、新ニ國號ヲ立テ、天下ヲ明ト稱ス、今ノ清朝ハ、韃靼ノ人ニテ、天下ヲ取タレバ、元朝ノ舊例ニ隨テ、清ト云號ヲ立タリ、是

皆天下ヲ新シクスル意ニテ、如レ此セズシテハ不レ叶義也、日本ニテ公家ノ世ハ、只日本ト云本號ヲ稱シテ別ニ國號ヲ立ルニ不レ及、武家ノ代ト成テハ、鎌倉ノ代トイヒ、室町ノ代ト云、是則武家ノ國號也、ケ樣ニ其一代ノ總號ヲ稱セザレバ、時代ワカレズシテ、古今ノ事實混亂スル故ニ、上ニテ國號ヲバ立ラレネドモ、自然ニ下ヨリ如レ此稱スル也、東照宮海內ヲ統御シタマヒテヨリハ、江戶ニ都ヲ定メ玉ヘレバ、鎌倉室町ノ例ニ依テハ、江戶ノ世トモ云ベシ、中華ノ人當代ヲ稱スルニハ、必ズ其國號ヲ云、常ノ事也、當代ノ朝廷ヲ稱スルニハ、國朝トモ、本朝トモ云、日本ノ今ノ世ノ事ヲ言ントスルニ、國號ナケレバ、何トモ稱スベキ詞ナシ、サレバ此書ニ神祖以下ノ事ヲ云ニハ、當代ト稱ス、愚俗ノ詞ニハ、御當代、又ハ當御代ナドイフヲ、今御ノ字ヲ去レル也、其義上ニ云ヘルガ如シ、恭敬ヲ忘タルニハ非ズ

一昔周ノ代ノ諸侯ハ、公侯伯子男ノ五等ヲ以テ、其國ノ大小、爵位ノ尊卑ヲ分テリ、日本當代ノ定メハ、萬石以上ヲ大名ト云、是則諸侯也、其分劑ヲ言ヘバ、萬石以上、五萬石以上、十萬石以上、三十萬石以上ト四等ニ分ツ、其品第ヲイヘバ、國主、城主、領主ト三等ニ分ツ、其爵位ヲ言ヘバ、大中納言、參議、中將、少將、侍從、四位、五位ノ八等アリ、畢竟皆諸侯也、此書ニハ萬石以上ヲ諸侯ト稱シテ、細カニ分ケズ、萬石以上ノ領スル封疆ノ內ヲバ、大小ヲ論ゼズ皆國ト云、異國ノ古ニ倣テ稱スル也、凡國ト云ハ、人ノ領スルニ由テ名ヅクル者也、其義本文ニ見ユ

一凡大夫ト云ハ、天子ノ朝ニテハ、五品以上ヲ大夫ト云、大夫ノ中ニテ、一等貴キ者ヲ卿ト云、諸侯ノ臣ノ中ニテ、國政ニ預ル重キ者ヲ大夫ト云、大夫ノ中ニテ、天子ヨリ爵命セラレテ貴キ者ヲ卿ト云、今ノ世ニハ、國家直參ノ人ノ内ニテ、五位以上ハ大夫也、諸侯ノ臣ニテハ、俗ニ家老ト云者則大夫也、諸侯ノ大小ニ隨テ、其大夫ニモ又尊卑アリ、異國ニテ家老ト云ハ大夫ノ家ノ宰臣ナリ

一異國ニテ、古ハ天子ヨリ以下、諸侯大夫マデノ嫡子ヲ太子ト稱ス、又世子トモ云、卽位ト云詞モ、天子ヨリ諸侯大夫マデ通用セリ、政事ヲ行フ所ヲ朝トイヒ、臣下ノ出仕スルヲ朝スルト云モ、天子ヨリ諸侯大夫マデ同然也、後世ハ天子ノ嫡子ヲ皇太子ト稱シ、諸侯ノ嫡子ヲ世子ト稱ス、卽位ト云フ詞ハ、天子諸侯ニ限ル、朝ノ字モ、大夫ニハ用ヒズ、此書ニ世子ト稱スルハ、諸侯ノ嫡子也

一此書ニ執政ト云ハ、今ノ老中ヲ指ス、執事ハ少老中也、官人ト云ハ、諸役人也、吏ト云ハ、小役人、與力手代ノ類也、卒ト云ハ、足輕也、徒トイフハ、中間也、朝士ト云ハ、直參麾下ノ諸士也、處士トイフハ、浪人也

一凡君子ト云ハ、士ヨリ以上也、小人トイフハ、細民奴婢ノ類ヲ云、是古ノ名目也、君子小人ヲ、善人惡人ト見ルハ、宋儒ノ謬說ニテ、經傳ニナキコト也

一佛法ニ信ヲ尙ブニツキテ、「佛法大海、信爲能入」ト云文アリ、佛法ハ大海ノ如キ者ニテ、入難キコトナルニ、信心アル者ハ能入ト云義也、佛法中ノ語ナレドモ、至極ノ道理也、佛法ノミニアラズ、何

事モ信ズル心深カラザレバ、其道ニ達スルコトナシ、サレバ孔子モ「信而好レ古」トノタマヘリ、今此書ハ、純ガ愚陋ナル心ヲ、拙キ詞ニ著シタレドモ、先王聖人ノ道ヲ本トシテ、孔子ノ敎ニ從ヒ、和漢ノ往蹟ヲ考テ、今日ノ事務ヲ論ズルコト的切也、若シ聖人ノ道ヲ信ズル心アラン人ハ、必其旨ヲ會得スベシ、聖人ヲ信ゼザル人ニハ看スベカラズ、凡書ヲ看ルニハ、虛心ニテ看ルヲ善シトス、虛心トハ、己ガ我ヲ立テズ、心中ニ一物モ蓄ヘザルヲ虛心ト云、書中ニ數々ノ事アルヲミテ、此中ニ定テ善キ事モ有ベシト云心ニテ、細カニ看レバ、カナラズ益ヲ得ルモノ也、然ドモ純ガ言フ所悉ク是ニシテ、悉ク是ヲ用ヒ玉ヘカシト思ニモアラズ、看ル人ノ心ニ思慮ヲ加ヘテ、百ニ一ツ善キ道理ヲ見ツケテ、取用ヒラルヽコトアラバ、大幸ナランノミ

太宰純撰

經濟錄凡例 終

經濟錄篇目

經濟錄篇目終

經濟錄卷第一

經濟總論

信陽 太宰純著

凡天下國家ヲ治ムルヲ經濟ト云、世ヲ經メ民ヲ濟フト云フ義也、經ハ經綸也、周易ニ、君子以經綸スト云、又中庸ニ、經綸天下ノ大經ト云ヘル是也、經綸トハ、絲ヲ治ムルヲ云、布ノ縱ヲ經ト云ヒ、橫ヲ緯ト云、工女絹布ヲ織ルニ、先ヅ經ノ絲ヲ治テ、其縷ヲ條達スルヲ經ト云、此方ノ言ニ、布ヲヘルト云是也、綸ハ絲ヲヨル也、又經ハ經營也、毛詩ニ、「經ニ始靈臺一經レ之營レ之」ト云ヘル是也、經ハ度也ト註ス、度ハハカルトヨム、此方ノ俗語ニ、ツモルト云意也、宮室ヲ造營スルニ、初ニ其事ノ全體ヲツモリテ處分スルヲ、經ト云也、濟ハ濟度ノ義ナリ、ワタルト讀ミ、ワタスト讀ム、川ヲ渡リテ向ノ岸ニ到ルヲ濟ト云、周易ニ、既濟未濟ノ卦アリ、尙書ニ、「弘ニ濟于艱難一、康ニ濟小民一」ナドトアル、皆是義也、又救濟ノ義也、スクフト讀ム、人ノ苦ミヲ救也、又成也ト註ス、事ノ成就スルヲ云、此數ノ義アレドモ、歸スル所ハ一致也、畢竟事ヲ治テ、其事ノ成就スル意也、堯舜ヨリ以來、歷世ノ聖賢、心ヲ盡シテ言ヲ立テ敎ヲ垂タマフハ、皆此經濟ノ一事ノ爲也、聖人ノ道ハ、天下國家ヲ治ヨリ外ニハ所用

ナシ、孔子ノ門人七十二賢ヨリ後來ハ、學者皆此事ヲ學ブ者也、是ヲ捨テ學ズシテ、徒ニ詩文著述ヲ事トシテ、一生ヲ過ス者ハ、眞ノ學者ニ非ズ、琴碁書畫等ノ曲藝ノ輩ニ異ナルコトナシ、假令一世ノ工ヲ極テ、其名ヲ宇内ニ高クストモ、只自己ヲ樂ミ、世ノ玩ト成ノミニテ、國家ノ爲ニ其益少ケレバ、聖人ノ大道ヲ無用ノ閑事トナス、其罪ノガレ難カルベシ、今ノ學者、數千載ノ下ニ生レテ、才學見識ハ古人ニ不レ及トモ、聖人ノ書ヲ讀デ、頗ル義理ニ達セバ、如何ニモシテ此一大事ノ爲ニ、心力ヲ竭シテ理世安民ノ術ヲ世ニ宣布スベシ、サモアラバ、萬物ノ靈ト云ニ負カズシテ、天地ノ德ニ報フコト有ベシ、聖人ノ經濟ハ、六經ニ載テ昭々タリ、中庸ニ「文武之政、布在ニ方策一」ト云ル是也、周ノ代ノ衰ルニ當リテ、齊ノ桓公ト云ヘル君、管仲ト云賢者ヲ用テ、霸業ヲナス、管仲ガ政功利ヲ先トシ、國ヲ富シ兵ヲ強クスルコトヲ務テ、二帝三王ノ治ニ及バザレドモ、桓公ヲ相テ、九タビ諸侯ヲ合シテ、一タビ天下ヲ匡セル功、天下ノ爲ニ補アルコト甚多シ、然ル故ニ孔子ハ盛ンニ管仲ガ功ヲ稱シ玉ヘリ、後ノ儒者、是ヲ霸術ト名ヅケテ、管仲ヲ賤シムコトハ、孟子ヨリ始レリ、凡ソ國ヲ富シ兵ヲツヨクスルハ、霸者ノ務ナレドモ、二帝三王ノ道、本ヨリ是ヲ外ニセズ、周ノ末ニ及テ、諸子百家作ル、戰國ノ時、申不害韓非ガ徒、刑名法術ヲ以テ世主ニ說ク、聖人ノ道ニアラザレドモ、是又經濟ノ一端也、秦ノ孝公ハ商鞅ヲ用テ、其國ヲ強クシ、始皇帝ハ李斯ヲ用テ、六國ヲ滅シ、海內ヲ並ス、遂ニ再ビ諸侯ヲ建ズ、天下ヲ一國トナシテ、郡縣ヲ建ツ、是古今ノ一大變也、秦ノ代僅ニ三世ニテ亡ブ、漢ヨリ以

後制度ヲ建ルコトハ、往古ヲ斟酌シテ、時宜ニ隨フト雖ドモ、郡縣ノ制ハ、秦ノ軌轍ニ從テ改メズ、二千餘年ヲ歷テ、今ノ世マデ、二帝三王ノ治ニ復セズシテ、商鞅李斯ガ法ヲ守レリ、此二人ノ者ハ豪傑ナル故ニ、聖人ノ道ニ背テ、別ニ一ツノ經濟ヲ出セリ、是ヨリ其後、經濟ヲ言ル者ハ、漢ノ司馬遷ヲ首トス、漢朝ニ經濟ヲ言ル者多ケレドモ、多クハ一事ノ上ニテ論ズルノミ也、司馬遷ハ史記ヲ作テ、其中ニ八書ヲ著セリ、八書ハ、禮書、樂書、律書、曆書、天官書、封禪書、河渠書、平準書ナリ、此八篇ハ、政務ノ要也、禮書ハ禮ヲ論ズ、樂書ハ樂ヲ論ズ、治道ハ禮樂ヲ先トスル故也、律書ハ十二律ヲ論ズ、律ハ天下ノ物度軌則ノ本也、尚書ノ舜典ニ、同律度量衡トアルニ由テ也、曆書ハ曆法ヲ論ズ、尚書ノ堯典ニ、乃命羲和、欽若昊天、曆象日月星辰、敬授人時トアリ、又帝堯ノ言ニ、咨汝羲曁和、朞三百有六旬有六日、以閏月定四時成歲トアルニ由テナリ、曆ヲ明ニスルハ、政ノ要務ナレバ也、天官書ハ天文ヲ論ズ。舜典ニ在、璿璣玉衡、以齊七政トアルニ由テ也、曆法ヲ正サントスルニハ、天文ヲ明ニシ、推步ヲ詳ニスルヲ本トスル故也、封禪書ハ禱祠祭祀ノ事ヲ論ズ、左傳ニ、國之大事、在祀與戎ト云ヘリ、祭祀ハ國ノ重事ニテ、先王ノ愼玉フ所ナレバ也、河渠書ハ天下ノ水道地理ヲ論ズ、尚書ニ、禹貢ノ篇アリ、水道ヲ利シ、地域ヲ畫シ、人民ヲ居クハ經國ノ本ナル故也、平準書ハ錢穀ノ政ヲ論ズ、尚書ノ大禹謨ニ、三事ヲ言フ、二ツニ利用、三ツニ厚生也、錢穀ノ政ヲ治ルハ、利用厚生ノ道也、論語ニ、子貢政ヲ問ヘルニ、孔子答テ、足食足兵、民信之矣トノ玉フ、又武王ノ政ヲ稱

シテ「所ㇾ重民食喪祭」ト云ヘリ、錢穀ノ政ハ、人民ノ利病ノ係ル處、尤重キ故ニ、太史公モ殊ニ詳ニ是ヲ論ゼリ、太史公古往今來ヲ考テ、當代ノ經濟ヲ論ズル事、如ㇾ此ソレ詳也、是ヨリ後ノ國史ヲ作ルモノ皆是ニ倣テ、一代ノ經濟ヲ言、太史公ガ書スル所ハ、誠ニ萬世ノ法也、然ドモ太史公ハ武帝ノ時ノ人ナレバ、其中ニ論ズル所ハ、武帝以後ノコトニ及バズ、漢ノ制度、武帝ノ後ニ定タルコトモ多ケレバ、太史公ガ書モ未ダ全備ト言ベカラズ、後漢ノ班固前漢書ヲ作テ、前漢ノ世ヲ紀スルコト詳也、其體裁悉ク太史公ニ傚ヘリ、八書ニ倣テ十志ヲ作ル、只書ヲ改テ志ト名ヅケタルノミ也、律書暦書ヲ合セテ、律暦志ヲ作リ、禮書樂書ヲ合セテ、禮樂志ヲ作リ、平準書ニ依テ、食貨志ヲ作リ、封禪書ニ依テ、郊祀志ヲ作リ、天官書ニ依テ、天文志ヲ作リ、河渠書ニ依テ、溝洫志ヲ作リ、別ニ地理ヲ詳ニシテ、地理志ヲ作レリ、外ニ刑法志ヲ作レルハ、刑罰ハ治道ノ助ナレバ也、五行家ノ說ヲ取テ、五行志ヲ作レルハ、災異ノ說ハ、洪範ニ本ヅキテ治道ニ用アル故也、藝文志ヲ作テ、天下ノ諸道藝術ヲ論ズ、是又國家ヲ治ル具ナレバ也、是ヨリ以來、歷代ノ國史、皆班史ニ倣テ、必ズ志ヲ作テ、一代ノ制作政務ヲ紀ス、事ニ沿革アリ、興廢アル故ニ、志ノ篇目ニモ多少異同アリ、沿革トハ前代ノ政ニ因ルヲ、沿ト云、前代ノ政ヲ改ルヲ、革ト云、又損益ト云コトアリ、前代ノ制度ヲ減殺スルヲ、損ト云、增加スルヲ、益ト云、論語ニ「所㆓損益㆒可ㇾ知也」ト云ヘル是也、損益ハ一事ノ上ニモ在コト也、歷史ヲ讀ム者、此等ノ義ヲ以テ、古來經濟ノ不同ナルコトヲ知ルベシ、凡經濟ヲ論ズル者、知ルベキコト四ツアリ、一ツニハ

時ヲ知ルベシ、二ツニハ理ヲ知ベシ、三ツニハ勢ヲ知ルベシ、四ツニハ人情ヲ知ベシ、一ツニ時ヲ知トハ、古今ノ時ヲシル也、中華ニテハ周ヨリ以前ハ、帝王ノ地ヲ方千里ニ定テ、之ヲ王畿ト云、其外ハ諸侯ヲ封ジ、萬國ヲ建テ、國々各別ニ治シム、是ヲ封建ノ政ト云、秦ノ始皇ニ至テ、諸侯ヲ滅シ、國名ヲ去リ、天下ヲ一國トナシ、三十六郡ニ分テ、官吏ヲ置テ治メシム、漢ヨリ以來歷代是ニ因テ改メズ、郡ノ内ニ縣ヲ置ク、郡ハ日本ノ六十六州ノ如シ、縣ハ此方ノ郡ノ如シ、郡ヲ治ル者ヲ守ト云ヒ、縣ヲ治ル者ヲ令ト云、海内ヲ擧テ、天子ノ國トシテ諸侯ヲ建テズ、守令ヲ置テ治シムル故ニ、是ヲ郡縣ノ治ト云、サレバ周以前ハ、天下封建ニシテ、秦以後ハ、郡縣也ト云コトヲ知ル、是經濟ヲ論ズル第一義也、然ルニ封建ノ政ハ、三代以前載籍備ハラザレバ、得テ考フベカラズ、今經傳ヲ考テ、其大略ヲ知ベキハ、周一代ノ政也、郡縣ノ治ハ、秦漢以後、歷代ノ記錄多ク傳リテアレバ、詳ニ是ヲ考ルコトヲ得ル也、然レドモ二千年來、歷代ノ沿革、損益多端ナレバ、其異同ヲ知ルコトハ容易ナラズ、日本ハ上古ノ事、紀載詳ナラザレバ、考知ルコトヲ得ズ、神武天皇帝位ニ卽玉ヒシ時、如何ナル法ヲ立玉ヒシヤラン、諸侯ヲ建ルコトモナク、郡縣ヲ置コトモナク、洪荒草昧ノ儘ニテ、數百年ヲ歷タリト見ユ、其後異國ト交通スルニ及デハ、中華ハ既ニ郡縣ノ治ナレバ、吾國モ是ニ倣テ、國郡ヲ定置テ、國ニハ國司ヲ立テ、郡ニハ郡司ヲ立タリ、中華ニテハ、州郡ヲ以テ縣ヲ統ブ、縣ハ州郡ノ内ニアリ、州ト郡トハ、名異ニシテ實ハ同ジ、州ト云モ郡也、郡ト云モ州也、日本ニテハ、國ヲ以テ郡ヲ統ブ、郡ハ國

ノ内ニアリ、日本ノ郡ハ中華ノ縣ニ當ルナリ、國ハ則州也、然ドモ中華ニテハ、國ト云ヒ州ト云フ、其義別ナリ、國ト云ハ、諸侯ヲ建ル時ノ名ニテ、土地ノ名ニハ非ズ、州ト云ハ、土地ノ名也、諸侯ノ封域ノ内ヲ國ト云、サレバ數州ヲ兼併シテ一國トナスコトアリ、一州ノ内ヲ分割シテ二國三國トナスコトアリ、是國ハ封建ノ名ナル故ニ、中華ニテハ州郡ト云テ、國ト云ハズ、此方ノ國司ハ、中華ノ郡守ニ當ル、此方ノ郡司ハ中華ノ縣令ノ如シ、國司ト云フハ、國ノ守也、守ノ下ニ介アリ、掾アリ、目アリ、四等ノ官人ヲ以テ、一國ヲ治メシ也、中古ヨリ保元平治ノ頃迄ハ、如此ナリシニ、源平ノ亂ノ後、右大將賴朝卿、後白河法皇ノ命ヲ受テ、日本ノ總追捕使ト成玉ヒシヨリ、國司ノ外ニ、守護職ト云者ヲ諸國ニ置テ、其權ヲ制セシ故、國司ノ權イツトナク武家ニ奪ハレ、公家ハ次第ニ衰ヘ、關東ノ御家人ト云者、威ヲ處々ニ振ヘリ、コレ將軍家ノ海内ヲ統御シ玉フ始也、是一大變也、鎌倉將軍ノ代ハ、北條氏執權ト稱シテ、政柄ヲ執シカドモ、其政ハ右大將家ノ法ニ依テ、貞永ノ式目ヲ用テ治メタリ、其末ニ元弘ノ亂起リテ、鎌倉亡ビ、暫ク公家一統ノ世ト成シガ、程ナク又亂レテ、天下遂ニ足利氏ニ屬セリ、武家ノ政、前代ニ因ルト雖ドモ、世變リ風移ルニ隨テ、萬事ノ法制漸ニ變ゼリ、公方家ノ政、海内ニ行ハルヽニヨリテ、公家ハ彌衰ヘ、武家ハ日ニ盛也、是ヨリ諸國ニ國司ヲ置カズ、守護バカリヲ置キ、其上ニ管領ト云者ヲ立テ、諸國ヲ統治セシメタリ、是又一變也、室町家ノ衰ルニ及デ、管領ハ勢強ク成テ、相共ニ權ヲ爭ヒ、守護ハ其國ニ居テ、恣ニ近隣ヲ侵伐セシ程ニ、其中ヨリ豪傑蜂起シテ、遂

ニ戰國トナレリ、既ニシテ室町家亡テ、天下織田氏ニ屬セントセシガ、未ダ海内ヲ一統スルニ不レ及シテ、忽焉トシテ事敗レタリ、豊臣氏匹夫ヨリ起テ、織田氏ニ代リ、能ク海内ヲ一統シ給ヒシカドモ、偏ニ武力ニ任セテ、仁政ヲ施シ玉ハザリシ故ニ、二世ヲ終ズシテ滅亡シ玉ヘリ、我東照神祖、累世ノ餘烈ヲ奮ヒ玉ヒテ、神武不殺ノ德ヲ以テ、天ニ順ヒ人ニ應ジテ、海内ヲ定メ、萬世ノ鴻業ヲ創玉ヘリ、室町家ノ時ヨリ、諸國ニ大名高家ト云者多クアリ、又守護職ノ家ニテ、累世其國ヲ領シテ、君主ノ如クナル者有リテ、イツトナク封建ノ如クニ成タリシヲ、神祖登極ノ初ニ、同姓ノ貴族、並ニ勳勞ノ諸臣ヲ、樞要ノ地ニ封ジテ、國家ノ藩屛トナシ玉ヒ、舊ヨリ分國アリテ、領主タリシ者ヲバ其所領ヲ故ノ如ニシテ安堵セシメ玉ヒ、朝覲職貢ノ法ヲ定ラレシヨリ、天下遂ニ眞ノ封建ト成テ、中華ノ周ノ世ト略相似メリ、是又一大變也、然バ中華ハ、往古ハ天下封建ニテ、秦漢以後ハ郡縣也、日本ハ、古ハ郡縣ニテ、今ハ封建也、異國本邦、古今ノ世變如レ此、是ヲ知ラズシテ、一概ニ古道ヲ以テ今ニ行ハントスレバ、時ト齟齬シテ行ハレズ、其行ハレザルニ及デハ、古道終ニ國家ノ治ニ益ナシト云ントス、是大ナル誤也、然ル故ニ治道ヲ論ズルニハ、時ヲ知ルヲ最要トスル也、二ツニ理ヲ知ルトハ、理ハ道理ノ理ニ非ズ、物理ノ理也、物理トハ、凡ソ物ニハ必理アリ、理ハ木ノモクメ也、物ノスヂメ也、木ノモク目ヲ木理ト云、玉石人類ニモ必モクメ有リ、玉ノモクメヲ玉理トイヒ、石ノモクメヲ石理ト云、人ノ肉、鳥獸魚鼈ノ肉ニモ必ズモクメアリ、肉ノモクメヲ肉理ト云、木ニモクメ有如ク、凡物ニハ必ズ

スヂメト云モノアリ、是ヲ物理ト云、凡物ノ理ニハ必ズ順逆アリ、故ニ物ヲ治ルニ、理ニ順ヘバ治ル、理ニ逆ヘバ治ラズ、譬バ木ヲ劉ルガ如シ、木ノモクメヲ順ニ劉レバ、刀滯ラズシテ思フ儘ニスラスラト劉ラル、其モクメヲ逆ニ劉ラントスレバ、刀澁リテ劉ラレズ、強テ劉レバ、必ズ斜ニ殺（ソゲ）ユク也、サレバ工人ノ好キ鉋ニテモ、木ノ理（モクメ）ヲ逆ニ劉ルコト能ハズ、又水火ノ如キ、水ハ潤下シ、火ハ炎上スル、是自然ノ理ナリ、其理ニ逆ラヒテ、水ヲ上ヘ上セ、火ヲ下ヘ下スコトハ決シテ能ハズ、如此物々ニ必ズ理アル如ク、天下ノ事ニモ、必ズ理アリ、政ヲナシテ其理ニ逆ラヘバ、大事モ小事モ決シテ行ハレズ、民ハ微賤ナル者ナレドモ、理ニ逆ヒタル政ニハ必ズ從ハズ、如何ナル猛威ニテモ、是ヲ從ハシムルコト能ハズ、其從ハザルヲ強テ從ハシメントスレバ、事ノ敗トナリ、亂ノ階ト成也、然ル故ニ政ヲナス者ハ、事々ニ就テ其理ヲ求ムベシ、既ニ其理ヲ得テ、其理ニ順テ逆ハヌ樣ニ行フベシ、是ヲ理ヲ知ルト云ナリ、三ツニ勢ヲ知ルトハ、勢ハ事ノ上ニ在テ、常理ノ外ナル者也、譬ヘバ水ト火トノ如シ、水ハ火ニ勝ツ者ナレドモ、少ノ水ヲ以テ大火ヲ救フ事能ハザルハ、火ノ勢強ケレバ也、又風ハ火ヲ熾ンニスル者ナレドモ、燈燭ノ火ハ風ニ吹レテ滅ルハ、火ノ勢風ニ不レ及故也、又油ハ火ヲ助ルモノナレドモ、焔々ノ火ニ數石ノ油ヲ覆セバ、必ズ滅ルハ事ノ勢也、又水ハ卑キ處ヘ流ルルモノナレドモ、激シテ行レバ、高キ所ヘモ上ルハ、勢ノ然ラシムル也、又堅キ木ニ大ナル釘ヲ打ツニ、重キ石ヲ以テ壓テハ入難キヲ、小ナル鐵槌ニテ打テバ、即時ニ入ルモ勢也、凡ソ此類皆勢ト云者ニテ、常理ノ外ナル事

也、天下ノ事ニ、理ト勢ト二ツアリ、理ヲ知テ勢ヲ知ラザレバ、大事ヲ行フコト能ハズ、勢ヲ知テ理ヲ知ラザレバ、大功ヲ立ルコト能ハズ、必ズ理勢ノ二ツヲ兼明メテ、理ノ達セザル所ヲバ、勢ヲ以テコレヲ達シ、勢ノ行レザル所ヲバ、理ヲ以テ之ヲ行ヒ、理ヲ以テ勢ヲ主ドリ、勢ヲ以テ理ヲ佐ケ、理勢相濟シテ、兩ナガラ其用ヲ盡ス、是政治ノ要術也、四ツニ人情ヲ知ルトハ、天下ノ人ノ實情ヲ知ル也、實情トハ、好惡、苦樂、憂喜ノ類ヲ云、好ハスキコノム也、惡ハニクミ嫌フ也、苦ハクルシム也、樂ハタノシム也、憂ハウレフル也、喜ハヨロコブ也、人此情ナキ者アラズ、大人小人、貴者賤者、少モ替ルコトナシ、又父母妻子恩愛ノ情モ、貴賤替ラズ、此等ノ情ハ、皆人ノ天性ノ誠ヨリ出デ、少モ僞ナキ者ナル故ニ、是ヲ實情ト云、情ノ字ニ實ノ字ノ意アル故ニ、マコトトモヨム也、又貴人ニ貴人ノ情アリ、小民ニ小民ノ情アリ、士ニ士ノ情アリ、農工商賈ニ農工商賈ノ情アリ、男子ニ男子ノ情アリ、女人ニ女人ノ情アリ、人ノ品ニ因テ、夫々ノ情替ルコトモアレドモ、情ト云ハ、都テ僞ナキ處ヲ指テ言フ也、凡ソ政事ヲ施シテ、人情ニ協ヘバ、民從ヒ易シ、人情ニ悖レバ、民從ハズ、人情ニ協フトハ、人ノ好ミ樂ミ喜コブコトヲ行フナリ、人情ニ悖ルトハ、人ノ嫌ヒ苦ミ憂フルコトヲ行フ也、士大夫ハ大抵義ヲ知テ道ヲ守ル心モアル者ナレバ、人情ニ協ハヌ政ニモ、情ヲ抑ヘ情ヲ制シテ姑ク從ヘドモ、本來心ノ安カラヌコトナレバ、自然ニ法令ニ違ヒ、制禁ヲ犯ス者出來ルコト必然ノ理也、小民ハ義ヲ知ラズ、道ヲ守ル心モナケレバ、情ヲ抑ヘ、情ヲ制スルコト能ハズ、一身ノ便利ノミヲ思フモノナル故ニ、人情ニ悖タ

ル政ニハ、決シテ從ハズ、刑罰ノ怖ロシキコトヲ不レ知ニハ有ラネドモ、眼前ノ愁苦ニ堪ヘカネテ、法令ニ違ヒ、制禁ヲ犯ス也、サレバ昔ヨリ、人情ニ悖タル政ノ永久ニ行レタルハアラズ、古ノ聖人ノ政ハ、皆人情ニ協ヒタル者也、人情ハ古モ今モ、異國モ吾國モ、大ニ異ナルコトハナシ、大要ヲ云ヘバ、好惡ノ二ツ也、大學ニ、「民之所レ好好レ之、民之所レ惡惡レ之、此之謂ニ民之父母」ト云ヘルハ、民ヲ愛スル道ヲ言ル也、民ノ好ムコトヲバ、上ノ人モ是ヲ好ミテ、其事ヲ下ニ行ヒ、民ノ惡ムコトヲバ、上ノ人モ是ヲ惡デ、下ノ爲ニ其事ヲ除ク、是父母ノ子ヲ愛スル心ナル故ニ、左樣ノ人ヲ民ノ父母ト云也、父母ノ子ヲ愛スルハ、天性ノ誠ナレバ、其子ノ爲ヲ思ヒテハ、善キ上ニモ善キ樣ニト願フコト、深切ニシテ僞ナシ、君上ノ下ヲ愛スル事、父母ノ子ヲ愛スルガ如ク、民ノ好惡ヲ知テ、其情ニ悖ラザルヲ仁政ト云也、人情ノ好惡ハ、上ニ云ヘル物理ノ順逆ノ如クナルモノナリ、少モ是ニ逆ラヒテハ、人心服從セズ、其服從セザルニ及デハ、天下ノ力ニテモ是ヲ强ルコト能ハヌ者也、サレバ經濟ニ心アラン人ハ、上ニ云ヘル如ク、時理勢ノ三ツヲ知タル上ニ、必ズ是ヲ知ルコトヲ務ムベキ也、然ルニ時理勢ノ三ツハ知リ易ク、人情ハ知リ難シ、其故ハ、人情ニ常理ノ外ナル事アリ、譬バ細民ノ賤キ者ヲ、俄ニ士トナシテ美服ヲ著セ、公堂ノ上ニ座セシメテ、美膳ヲ以テ之ヲ饗サバ、大ニ困ミテ己ガ家ニテ襤褸ヲ著テ、蹲踞シテ糲飯藜羹ヲ食フニハシカジト思フベシ、美服美食ハ、人ノ好ム所ナレドモ、身ノ習ハヌ事ヲナシテ心ヲ苦シムルハ、人ノ厭フ事也、此等ノ人情、常理ニテハ知リ難シ、必ズ其人ノ身ニ成替

リテ察セザレバ、其實情ヲ得ル事ナシ、凡人情ヲ知ルコトハ、物理ヲ知ルヨリモ難シ、物理ハ、ヨク書ヲヨミ學問シタル人ハ之ヲ知ル、人情ハヨク書ヲ讀ミ學問シタル計ニテハ知ラレズ、天下ノ人、貴賤等ヲ異ニシテ、其好惡苦樂一樣ナラザレバ、尋常ノ道理ヲ以テ、外ヨリ遙ニ推察シタル分ニテハ、當ラヌ事多シ、只ヨク學問シタル上ニ、其品々ノ人ニ近ヅキテ、親(マノアタリ)ニ其事ヲ見聞シテ、一々ニ其人ノ身ニ成替リテ、其隱微ノ處ヲ深ク察シ、其所業(ナスワザ)ト其言語トニ意ヲ注デ、精ク思惟スレバ、其大要ヲ得ル也、サモナクテハ、決シテ人情ニ通ズルコト能ハズ、士大夫世祿ノ家ニ生レタル者ハ、庶民ニ交ルコトナキ故、タトヒ聰明ナル人モ、庶民ノ情ヲ悟ラズ、況ヤ天子王公九重ノ内ニオハシマシ、廣堂大廈ニ安座シ玉ヒテ、何トシテ下民ノ情ヲ知ロシ召ンヤ、是ニ因テ古ノ明王ハ、天下ヲ巡狩シ玉ヒテ、大史ノ官ニ命ジテ、諸國ノ民間ノ歌詩ヲ採シメテ、其詞ヲ叡覽シ玉ヒ、樂師ニ歌ハシメテ、其聲ヲ聽玉フ、是諸國ノ風俗人情ヲ知シ召ン爲也、其太史ノ採輯タル詩ヲ國風ト名ヅケテ、毛詩ノ中ニアリ、今ノ詩經是也、吾國ニテモ、昔ハ民間ノ歌ヲ徵シテ、朝廷ノ樂歌ニ用ヒラレシコトアリ、催馬樂是也、萬葉集ノ中ニモ、民間ノ歌ドモ多ク入タリ、是國風ノ詩ニ比スベキ者也、此事ノミニ非ズ、古ノ聖帝明王ハ、必ズ補佐ノ臣ヲ用玉フ、補佐ノ臣ハ、多クハ卑賤ヨリ出タル人也、帝堯ハ虞舜ヲ擧テ攝政トナシ玉フ、虞舜ハ歷山ノ農夫也、堯ノ時ノ名臣、大禹、稷契ハ卑賤ノ人ニ非ズ、皐陶、伯益、伯夷、工倕、夔龍等ハ、出身如何ナル人ト云コト詳ナラネドモ、意フニ卑賤ヨリ出タル人成ベシ、夏ノ代ハ紀載其ラ

ズ、殷ノ成湯ハ伊尹ヲ擧テ師範トシ玉フ、伊尹ハ有莘國ノ埜人也、高宗ハ甘盤、傳說ヲ擧テ師範トシ玉フ、二人皆卑賤ノ人也、傳說ハ傳巖ニ隱レテ、刑徒ニ雜テ版築ノ賤キコトヲ爲シヲ、一旦ニ擧テ相國ト爲玉ヘリ、周ノ文王、武王ハ呂望ヲ擧テ太師トナシ玉フ、呂望ハ渭濱ノ漁翁也、成王ノ時、周公旦天子ノ叔父ニテ、三公ノ位ニ居テ攝政シ玉ヒシニ、一飯ニ三タビ餔ヲ吐キ、一沐ニ三タビ髮ヲ握リテ、一日ニ七十人ノ士ニ接見シ玉ヘリ、七十人ノ士ハ、多分卑賤ノ人成ベシ、虞舜ヨリ以下、伊尹、傳說ノ如キ人々、皆貧賤困究ノ中ヨリ起タル人ナル故、人情ニ能通ジテ、天下ヲ治ルコト掌ノ上ニ在シ也、孟子ノ言ニ、「人ノ有二徳慧術知一者、恒存二乎疢疾一」ト云ヘル、誠ニ然也、久ク民間ニ雜リ、卑賤ニ屈テ、備ニ艱難ヲ嘗タル者ハ、必ズ人情ニ通ズル故ニ、書ヲ讀タル計ニテ得難キ徳慧術知モ、自然ニ出來ル也、左樣ノ人ヲ擧用テ師範ト成シ玉ヘバ、天子ノ至尊ニテモ、下民ノ情ヲ知ロシ召コト難カラズ、是君上ノ人情ヲ知ロシ召ス道也、此道ヲ閣テ、別ニ隱微ノ術ヲ用テ、民間ノ事情ヲ探求ルハ、小智ノ爲ニテ、國家ヲ治ル規模ニ非ズ、凡ソ古ヨリ補佐ノ臣ナクシテ、獨智ヲ用ヒ玉ヘル人主ノ功業ヲ成就シ玉ヘルハアラズ、學問有テ古今ノ世變ニ達シ、時ヲ知リ理ヲ知リ、勢ヲ知リ人情ヲ知テ、經濟ノ道ヲ明メタル者ヲ、卑賤ヨリ擧テ、是ヲ補佐トシテ治道ヲ論ジ、政事ヲ議シテ不易ノ定法ヲ立玉ハヾ、天下何ゾ治メ難カランヤ、明王ノ手ヲ拱シテ太平ヲ致シ、裕ナルコトヲ後昆ニ埀玉フ道、此一擧ニアリ、此則政務ノ本也、凡經濟ハ、古ヲ稽ヘ古ヲ師トスルヲ貴ブ、尚書ニ、「唐虞稽レ古」ト云ヘルハ、堯舜ノ古ヲ稽

へ玉ヒシコトヲ言ルナリ、堯舜既ニ古ヲ稽玉フ、況ヤ後ノ人、古ヲ稽ズシテ可ナランヤ、又傳說ノ言ニ、「學ニ于古訓一、乃有レ獲、事古以克永レ世、匪ニ說攸一レ聞」ト云ヘリ、古ヲ稽テ今ノ宜ヲ制スレバ、事ニ條理アリ弊ヲ生ゼズ、古ヲ稽ザレバ、眼前ノ利害ニ眩デ、後ノ慮ヲ忘ルコトアリ、古ヲ稽ヘ古ヲ師トスト云ヘバ迚、古ノ政ヲ悉ク今ノ世ニ行フベシト云ニハ非ズ、古ノ政、今ノ世ニ行ヒ難キコトモ多シ、然レドモ政ニハ大體ト云者アリ、古ノ道ヲ本トセザレバ、政ノ大體ヲ知ルコト能ハズ、大體ハ古モ今モ、異國モ吾朝モ、替ルコトナキ故ニ、必古ヲ師トスベシト云フナリ、譬バ醫ノ病ヲ治スルガ如シ、醫ニ古法アリ、古方必シモ一々ニ今ノ病ニ的中スルニ非ザレドモ、古方ニ依ズシテ、今ノ治法ヲ求レバ、虛空ヲツカムガ如ニシテ、手ヲ著ベキ所ナシ、醫ニ古法アルハ、大匠ノ規矩アルガ如シ、圓ヲナス者ハ規ニ依リ、方ヲナス者ハ矩ニ依ル、工倕、魯般モ法ヲ規矩ニ不レ取バ、方圓ノ形ヲナスコト能ハズ、此義ハ孟子ノ語ニ見エタリ、國家ヲ治ルコト是ニ少モ替ルコトナシ、古ノ道ヲ今ニ不レ宜ト云ハ、醫ノ古方ヲ信ゼズ、大匠ノ規矩ヲ廢スルガ如シ、徒ニ心思ヲ勞スルノミニテ、功ヲ成スコト能ハズ、古ニ泥ミテ今ノ變ヲ不レ知ハ、又所謂柱ニ膠シテ琴ヲ調ルト云者也、又古ノ道ヲ其儘ニテ今ニ行ヘバ、行ハルルコトアルヲ、世ヲ駭シ變ヲ生ゼンコトヲ懼テ、敢テ行ハザルモアリ、是見識ナク力量ナキ故也、苟モ見識アリ力量有テ、理ニ達シ人情ニ通ジ、其位ニ居テ賞罰ノ權ヲ執ラバ、無二無三ニ行ベシ、何ゾ愚人ノ怪ミヲ顧テ狐疑センヤ、古ヨリ英雄豪傑ト稱セラル人ハ、皆ヨク是ヲ行ヘリ、君子ノ果斷明決ヲ

尚ブハ、ケ様ノ處也、然レバ君子ノ德有テ、又豪傑ノ氣慨アル人ニ、國政ヲ任ズベキ者也、已上ハ經濟ノ大綱ヲ論ズ、政事ノ條目ハ史記ノ八書、漢書ノ十志ヨリ、歷代ノ史ニ詳ナルノミナラズ、其他モ經國ノコトヲ記錄セル書多シ、吾國ニハ古ヨリ異國ノ如ク記錄ノ詳ナルコトハ無レドモ、少分ハ諸書ノ中ニ雜出シ、人ノ語リ傳ル事モ有テ、其大較ヲバ知ルベシ、政事ニ本末アリ、本ヲ立レバ末治メヤスシ、「其本亂而末治者否矣」ト、大學ニ云ヘリ、本ヲ立ルハ、經濟ノ先務ナリ、今竊カニ愚見ヲ以テ古道ニ准擬シテ、政務ノ要ヲ條陳スル事左ノ如シ

經濟錄卷第一　終

經濟錄卷第二

禮樂

禮ハ萬事ノ作法儀式也、禮法禮儀トイフ是也、樂ハ歌舞音樂也、天下ヲ經綸スル道、禮樂ヨリ先ナルハナシ、去バ三代ノ明王、天下ヲ取玉ヒテハ、必ズ首ニ禮ヲ制シ樂ヲ作リ玉フ、禮樂ニアラザレバ、天下ヲ治ル事不レ能故ナリ、禮ニハ必樂アリ、樂ニハ必禮アリ、禮ト樂トハ、相離ザル者也、禮ハ嚴肅ナル者也、樂ハ和順ナル者也、禮ヲ以テハ上下ノ位ヲ定メ、貴賤ノ等ヲ辨ヘ、男女ノ別ヲ明カニシ、父子兄弟ノ倫ヲ正シクス、樂ヲ以テハ上下ノ交ヲナシ、君臣ノ情ヲ協ヘ、賓主ノ好ミヲ合セ、神ト人トノ和ヲ導キ、モノ云ズシテ人ノ心ヲ感通セシムル者ハ、只禮樂也、然ル故ニ是ヲ不言ノ教トイフ、周ノ代ノ末ヨリ禮樂壞レテ世ニ行ハレズ、戰國ヲ經テ秦ノ始皇ノ時ニ至テ、禮樂遂ニ亡ビヌ、漢ノ高祖ノ時、叔孫通始テ朝儀ヲ作シカバ、高祖大ニ悅ビ玉ヒテ、我今日始テ天子ノ貴キコトヲ知ヌトノ玉ヘリ、其後禮樂ノ道稍々興テ、一代ノ文物、遂ニ百代ノ準式トナレリ、是ヨリ後ノ王者、苟モ天下ニ臨ンデ、業ヲ創メ統ヲ垂玉フ程ニテハ、禮樂ヲ制作シ玉ハズトイフコトナシ、漢以後ハ三代ノ禮樂ニ不レ及ト

雖ドモ是ヲ廢シテ天下ヲ治ルコトハ末之アラズ、吾國ノ古ヘ、公家全盛ノ時ハ、唐朝ノ禮樂ヲ習ハシテ、コレヲ朝廷ニ用ヒラレシニ、武家ノ世ト成テヨリ、禮樂廢シテ用ヒラレズ、室町家ノ時、曾我、小笠原等ノ家ニテ制セル躾形トイフモノヲ禮トナシ、猿樂トイフモノヲ樂トナシテ、朝廷ノ儀式ニ之ヲ用ヒラル、今ノ世ニ至テモ猶然也、公家ハ今衰微甚シケレドモ、尚古來ノ禮樂ヲ用ヒテ、俗禮俗樂ヲ用ヒラレズ、今ノ世ノ人、公家ノ儀式ヲ觀テハ、情ナキ卑賤ノ身ニテモ感ヲ興サズトイフコトナキハ、禮樂アル故也、佛法ナドハ世外ノ教ニテ、人間ノ禮法ヲ離タル者ナレドモ、事有テ其法ヲ行フニハ、必夫々ノ儀式アリ、種々ノ鳴物ヲナラシ、伽陀梵唄ヲ唱フ、儀式ハ禮也、鳴物ハ樂也、伽陀梵唄ハ歌也、世ノ人、僧ノ佛事ヲナスヲ觀テ、感ヲ興サズトイフコトナキハ、是又禮樂アル故也、凡人心ヲ感發セシムルコト、禮樂ヨリ甚シキハナシ、民ヲ善ニ導クコト、禮樂ヨリ近キハナシ、言語ノ教ハ、人ニ入事淺ク、其及ブ所狹クシテ、功ヲナスコト遲シ、禮樂ノ教ハ、人ニ入ル事深ク、其及ブ所廣クシテ、効ヲ得ルコト甚速也、古ノ聖人モノイハズシテ萬民ヲ教ヘ、天下ノ心ヲ一致セシメ玉ヘルハ禮樂ノ道也、世ニ一種ノ人アリテ、禮樂ハ上古ノ道也、今ノ世ハ禮樂ニテ治ムベカラズトイフハ、治道ヲ知レル者ニ非ズ、時ニハ古今アレドモ、人情物理ハ古今大ニ同ジ、天地人民ノ有ン限リ、禮樂ノ行ワレザル世モ國モ決シテ有マジキナリ、禮樂ヲ用ヒズシテ、法令計リニテ國家ヲ治ルハ、申不害、韓非、商鞅、李斯等ガ道ニテ、當時速ニ其効ヲ取ル故ニ、便利ナル樣ニ思ヘドモ、永安ノ計ニアラズ、サレバ踵ヲ旋

サズシテ、事敗レテ亂亡ニ至ル、往轍ヲ觀テ戒トスベシ　以上禮樂ヲ合セテ論ズ

禮ハ五禮アリ、吉、凶、軍、賓、嘉也、吉禮トイフハ、祭祀ノ禮也、天地、山川、社稷、宗廟ヲ祭ル儀式也、凶禮トハ、喪禮也、死ヲ送ル儀式也、軍禮トイフハ、軍旅ノ禮也、平時ハ國君四時ノ獵ニ是ヲ用フ、事アリテ兵ヲ起ス時ハ、將ニ命ジ師ヲ出シ、征討戰伐シ、捷書ヲ奏シ、孚馘ヲ獻ジ、出ルニ治兵シ、入ルニ振旅シ、飲至策勳スル等ノ儀式、皆此禮也、賓禮トイフハ、賓主ノ禮也、聘問朝覲ノ儀式也、嘉禮トイフハ、冠婚、相見、飲、射、燕、享等ノ禮也、冠ハ冠禮也、男子ノ元服スル儀式也、婚ハ婚禮也、婦ヲ娶リ女ヲ嫁スル儀式也、相見ハ、士大夫ノ相見スル儀式也、飲ハ鄕飲酒ノ禮也、鄕人ニ酒ヲ飲シムル儀式也、射ハ、射禮ナリ、射ル儀式也、燕ハ、燕禮也、卿大夫ニ酒ヲ飲シムル儀式也、享ハ享禮也、饗膳饗應ノ事也、人ニ物ヲフルマヒテモテナス儀式也、凡ソ人間ノ萬事、夫々ニ儀式ナクテハ叶ワヌモノ也、小事スラ猶然ナリ、况ヤ天下國家ノ重事ニ於テ、何ゾ儀式ナカルベキヤ、天下ノ事ハ、皆此五禮ニ在テ遺ル事ナシ、凡ソ禮ハ人情ニ協ヘ物理ニ順テ、中ヲ制シタル者也、古ノ聖人、聰明叡智ヲ以テ人情ニ通ジ、物理ヲ明メテ、萬事ノ作法儀式ヲ定置テ、天下ノ民トトモニ是ヲ守リ玉フ、是則中道ナレバ、百世ノ末迄弊ナキコト規矩準繩ノ如ク、一定シテ易ラザル法ナル故ニ、不易ノ常典トイフ也、人情ニ協ヒ物理ニ順フトイフハ、上ニ云ヘル如クノ五禮ハ、人情ニ於テモ、物理ニ於テモ、皆ナクテ叶ハヌコトドモ也、然レドモ人情ニハ厚薄深淺アリ、物理ハ常人ノ知リ難キ者ナレバ、兼テヨリ

其作法儀式ヲ定置ザレバ、時ニ臨ミ事ニサシカヽリテ是ヲ議スルニ、人々ノ心同カラザルコト、面ノ異ナルガ如クニシテ、衆議一決シ難ク、縦ヒ一決スレドモ、過不及在テ、中道ニ合ザレバ、是ヲ行テ害アル事ヲ免レズ、聖人ハ往古ヲ考ヘ、未來ヲ知テ、百世ノ後迄モ、礙ナク弊ナク、永々ニ行ワルベキ樣ヲ計テ、定法ヲ立玉ヘル也、人心不レ同トイフハ、タトヘバ、何ニテモ一事ヲ行フ上ニ就テ、華奢ヲ好ム者アリ、儉素ヲ好ム者アル類也、先王ノ禮ニ遵ヘバ、華奢ヲ好ム者モ、華麗ヲ致ス事ヲ得ズ、儉素ヲ好ム者モ、質朴ヲ致スコトヲ得ズ、是則中道也、人情ニ厚薄深淺アリトイフハ、譬バ父母ノ喪ニ居ルニ、三年ヲ過テモ、哀未ダ去ザル者有、是情フカク厚キ也、三年ニ及バズシテ哀既ニ去ル者アリ、是情淺ク薄キ也、先王ノ禮ニ遵ヘバ、哀未ダ盡ザル者モ、三年ヲ限テ喪ヲ除キ、哀既ニ盡ル者モ、必三年ヲ待テ喪ヲ除ク、是則中道也、凡テ人ハ自己ノ便利ヲ求ル者ナレバ、王者兼テヨリ禮法ヲ定置ザレバ、天下ノ人、皆己々ガ便利ニ任テ事ヲ行フ故ニ、天下平均ナラズ、自然ニ富ル者ハ貧者ヲ外ニシ、貴キ者ハ賤キ者ニ驕リ、强キ者ハ弱キ者ヲ虐ル樣ニ成テ、夫ヨリ爭奪ノコト起リテ、卒ニ亂ノ階トナル也、禮ハ辭讓ヲ本トスル故ニ、禮行ハルレバ、爭奪ノ事止ム也、凡事ニハヨキ程トイフコトアリ、是則過不及ナキ中也、此ヨキ程トイフコト、人々ノ心不同ナリ、先王ノ禮ヲ以テ規矩トセザレバ、眞ノ中ニ當ラズ、又人ノ性ニ樣々アリ、能程トイフ處、イツモ過越ル者アリ、ヨキホドヽイフ處マデ、イツモ行届カヌ者アリ、是モ禮法ニ遵ヘバ、過越ル性ナル者モ、抑ヘテヨキ程ニ止マリ、不レ及

者モ、勉テヨキ程迄ニ至ル也、サレバ中道トイフハ、今日ノ人ノ自己ノ心ニテ定ルコトニハ非ズ、先王ノ禮ヲ以テ中トスル也、今ノ學者、宋儒ノ說ニ依テ、自己ノ心ニテ中ヲ定ムトイフハ、大ナル誤ニテ、己ガ身ヲ聖人ト思ヘル大ナル罪也、又上ヨリ法令ヲ出シテ、此事ヲ如ㇾ此セヨト命ズレバ、姑ク之ヲ守レドモ、民ノ身ニ少ニテモ便利ナラヌコトアレバ、竊ニ其法ヲ用ヒズ、禮ハ敎ナル故ニ、此事ハカク行フ物ゾト兼テ敎ツレバ、民ノ心ニ、扨ハカク行ハデハ叶ハヌ事ト思ヒテ、何ノ義トモ不ㇾ知シテ、敎ノ儘ニ行フ也、今ノ世民間ニモ士大夫ノ間ニモ、筋ナキ俗禮數多アルヲ、愚昧ナル婦女迄モ、堅ク愼テ守リ行フハ、敎ノ然ラシムル也、眞ノ禮トイフ者モ是ニ同ジ、恭敬儉約ノ類ヲ行フコトモ、禮儀ヲ定置カズシテ、法令ヲ嚴ニスルノミニテハ、民從ヒ難シ、凡禮ハ君ト民ト共ニ守ル者也、縱ヒ禮ヲ制シテモ、上ノ人ヨリ之ヲ行ハザレバ、民亦不ㇾ從、民ト共ニ守リ民トトモニ行フヲ、禮ノ本意トスル也、近世吾國ニ古禮廢シテ、曾我、小笠原等ノ家ノ儀形トイフモノヲ用フ、是甚シキ俗禮ニテ、朝廷ノ上ニ用ユベキ者ニ非ズ、凡世ノ盛衰ハ、民ノ風俗ニ係ル也、風俗隆ケレバ國盛ン也、風俗汚レバ國衰フ、風俗ヲ保ツ者ハ禮也、禮ハ淫ヲ防ギ、慾ヲ禁ズル者也、風俗ノ敗ルヽハ、民ノ慾ニ淫スルヨリ始マル也、國ニ禮アレバ、民慾ヲ恣ニスルコトヲ得ザル故ニ、風俗其本ヲ失ハズ、淫靡ニ流ルヽコトナシ、風俗正シケレバ、國家蕃昌也、是禮ハ國家ノ守也、何ゾ是ヲ貴バザランヤ、禮ヲ制スルニハ、聖人ノ事ナレドモ、禮ハ義ヲ以テ起ス者也、苟モ德アリ位有テ、古ヲ稽ヘテ是ヲ制センニ、何ノ不可ナ

ル事カアラン、孔子ノ言ニ、禮也者、義之實也、協ニ諸義ニ而協、則禮雖ニ先王未ニ之有、可ニ以義起也ト曰ヘリ、誠ニ人情ニ通ジ、物理ヲ明メ、禮義ノ原ヲ究テ、今日ノ事務ヲ知ラバ、即今古ニナキコトモ、義ヲ以テ起スベシ、況ヤ今日ノ人事古ニナキコトアラザルヲヤ、又一身ノ上ニテ云ヘバ、禮ハ身ノ固メ也、衣冠ヲ整ヘ束帶シテ、動止ニ禮ヲ愼メバ、肌膚緊リ筋骨固マリテ、心氣モ正クナル故ニ、風寒暑濕外邪モ犯スコト能ハズ、身體常ニ康寧也、人ト交ルニモ、恭敬辭讓ヲ先トスル故ニ、悖逆爭鬪ノコト起ラズ、人ニ厭ワルヽコトナシ、一日モ禮ヲ廢スレバ、怠惰放肆ニシテ肌膚緩マリ、筋骨慢ミ心氣モ治マラザル故ニ、外邪モ犯シ易クシテ、疾ヲ生ズル也、人ト交ルニモ、恭敬辭讓ナキニ因テ、人ノ心ニ悖テ必禍ヲ召ブ也、然バ禮ハ護國護身ノ神符トモイフベキ者也、是ヲ外ニシテ別ニ國家ヲ治ル術アリトイフハ、皆邪說ニシテ聖人ノ道ニ非ズ、決シテ信用スベカラズ

一　冠禮ハ男子ノ初テ冠ヲ著ル禮也、冠ヲ元服トイフハ、元ハ首也、服ハ著モノ也、首ノ著モノ成故ニ、元服トイフ也、禮記ニ、男子二十、冠而字トアリ、古ヘ男子十ニナリテ、初テ冠ヲ著ル、十九才迄ハ童子也、冠シテ後ヲ成人トイフ、成就セル人トイフ意也、然ドモ二十ヨリ內ニテモ、婦ヲ娶ルコトアリ、其時ハ二十歲ヲ待ズシテ冠スルハ、童形ニテ婦ヲ娶ルマジケレバ也、冠セザル前ハ童子也、冠スレバ、丈夫トナリ、人ノ父トナル首也、然ル故ニ古人ハ冠禮ヲ重ンゼシ也、冠シテ字ツクトイフハ、字ハ人ノ尊稱也、必ズ德ヲ表スル故ニ、是ヲ表德號トイフ、名ハ生レタルトキ、父ノツケタル名ヲ名

トイフ、人ニ對シテ自己ノコトヲ云ニハ、卑賤ノ人ニ向テモ、必ズ名ヲ名乘ル也、字ハ尊稱ナル故ニ、人ノ方ヨリ呼ニハ、必字ヲ稱ス、人ヲ呼ニ、其人ノ名ヲ云ハ不敬也、父ヨリ子ヲ呼ビ、君ヨリ臣ヲ呼ビ、師ヨリ弟子ヲ呼ニ、名ヲ云、其外ハ皆字ヲ稱スル也、然レバ字ハ丈夫ニ成テノ尊稱ナル故ニ、必ズ人ヨリ與フル也、冠禮ニハ必ズ冠賓トイフ者アリ、此方ニ云烏帽子親也、冠賓ハ、親族ノ中、又ハ鄕黨ノ父老ノ中ニテ、德行名望アル人ヲ擇デ請ズル也、冠ヲ著セ、敎戒ノ辭ヲ述べ、字ヲ命ズル等ノ事、皆冠賓之ヲ行フ、古ノ冠禮ハ、儀禮ノ士冠禮ニ見ヘタリ、後世ノ禮ハ、後世ノ書ニ載タリ、吾國ニハ冠禮トテ定タル儀式ハナケレドモ、元服トイフコトアルハ、冠禮ノ意也、初冠トイフハ初テ冠ヲ着ルヲ云、古ハ士庶人迄モ、烏帽子ヲ著ストイフコトナキ故ニ、元服スル時、必ズ然ルベキ人ヲ請ジテ賓トスルヲ、俗ニ烏帽子親トイフ、是中華ノ古禮ニ合ヘリ、只此方ニハ字ヲツクルコトナクシテ、童形ノ時ハ小名ヲ稱シ、元服ノ時名ヲツク、是倭俗ノ謬也、名ヲバ今ノ俗ニコレヲ名乘トイフ、自己ヨリ名乘ルモノナル故ニ、名乘ト云ナリ、名乘ト云ニテ尊稱ニアラザルコトヲ知ルベシ、今ノ世ニハ、元服トテ冠ヲ著、烏帽子ヲ著ルコトハ、公家ノミ有テ、武家ニハ如何ナル貴人ニモ、烏帽子ヲ著ルコト絕テナケレバ、只額髮ヲ剃落ス計リヲ元服トイフ、是元服トイフ名目ニ合ハズ、烏帽子親トイフ者モ虛名也、貴人ヨリカクアレバ、士庶人ハ殊ニ其作法モ簡略也、冠禮ハ人ノ人トナル初ナル故ニ、古ノ聖人是ヲ重ジ玉ヘリ、今日本ニテ必ズ中華ノ如クノ冠禮ヲ行フベキニハアラネドモ、古禮ノ意ヲ得テ、其禮

義ヲ正シクシテ、定式ヲ立置レバ、風化ノ補成ベシ、女子ハ十五歳ニナリテ笄トイフ物ヲ首ニ著ク、男子ノ冠スルト同ジ、禮記ニ「女子許レ嫁、笄而字」トイヘリ、又内則ニ「十有五年而笄」トイヘリ、許嫁トハ、婚ヲ約スルヲ云、此方ノ俗ニ云縁組也、大抵十五歳ニテ笄スルコト定レル禮ナレドモ、十五ヨリ内ニテモ、許婚スレバ笄スル也、笄スレバ字ツク也、女子ハ常ニ字ト姓トヲ稱スル故ニ、笄シテハ字ツク也、吾國ニハ笄スル禮ハナクテ、眉毛ヲ剃落シ、歯ヲ黒クスルコトアリ、コレ夷狄ノ風俗也、若冠禮ヲ制セラレバ、女子ノ笄禮ヲモ制セラルベキ也、女子笄シテ字ツクハ、人ノ母トナルベキ初ナル故ニ、是又重事也

一 夫婦ハ、人倫ノ始也、婚禮ハ、夫婦ノ道ヲ正シクスル禮ナル故ニ、聖人殊ニ是ヲ重ンジ玉ヘリ、中華ノ古禮ニハ、納采、問名、納吉、納徴、請期、親迎トテ六ノ儀式アリ、是ヲ六禮トイフ、詳ナルコトハ、儀禮ノ士婚禮ニ見ヘタリ、今此方ノ婚禮ハ、極テ俗禮ナレドモ、其本ハ異國ノ禮ヨリ來レル事共ニテ、士大夫以上ハ云ニ及バズ、庶人モ少シハ其儀式ヲ行フベキコトト思ヘリ、諸ノ人事ノ中ニ、此禮バカリハ婚禮トイフ名目ヲ失ハズ、人々其法ヲ守ル心モアレバ、姑ク俗禮ヲ用ヒテ事ヲ行フモ便利成ベシ、今コヽニ録セズ

一 喪禮ハ、死ヲ送リ人ノ終ヲ愼ム禮也、死ヲ送ルニハ、死シテヨリ送ル迄、段々ノ儀式作法アリ、葬ハ、藏ナリト釋シテ、死骸ヲ藏ルヲ葬トイフ、火葬トイフコトハ、佛者ノ所爲ニテ、天竺ノ法也、天竺ハ

戎狄ナル故ニ、中華ノ如クノ喪禮ハナクシテ、父母死スレバ、屍骸ヲ焚ク也、中華ニハ、古ヘヨリ火葬ハ無リシニ、佛法行ハレテヨリ、彼法ヲ信ズル者、間々火葬スルコトアリ、サレドモ民間ニノミ此事アリテ、士大夫以上ニハナキコト也、宋ノ太祖天下ヲ取玉ヒテ、首メニ詔シテ民ノ火葬ヲ禁ゼラレシハ、誠ニ善政ナリト、後ノ君子是ヲ美タリ、吾國モ、古ノ葬ハ、棺槨ヲ具ヘテ甚厚キコトナリシニ、中古以來、天子ト雖ドモ火葬スルコトアリ、今ノ世ニモ、士民ハ云ニ不レ及、列侯貴人ノ中ニ火葬ヲ悦ブ人アリ、風俗ノ敗レ、悲ムニ餘アリ、聖人ノ道ハ、死シタル父母ヲ死シタリト思ハヌヲ孝トス、死骸ヲ斂テ棺槨ニ入レ、土ニ埋テ、イツ迄モ朽ザル樣ニ計ルハ、親ヲ死シタリト思ハヌ故也、親ヲ死タリトスル至極ハ屍骸ヲ焚クヨリ甚シキハナシ、火葬ヲ善シトスル風俗ナル故ニ、凡葬ヲ營ムモノ、厚クスルスベヲ知ラズ、富貴ナル家モ、貧賤ナル者ニ異ナルコトナシ、喪ハ哀ヲ主トスル故ニ、中華ニテハ、人死スレバ、其妻子ハイフニ及バズ、諸父兄弟、親戚朋友相聚リテ、哭泣トテ聲ヲアゲテ啼叫ビ、擗踊トテ婦女ハ心ヲ拊チ、男子ハ踊ル也、此方ニテハ、哀マザルヲ賢シト譽メ、哀ム者ヲバ愚ナリト笑フ、是イカナル心ゾヤ、又喪服トイフハ、喪ニ居ルトキノ著物也、服ニ五等アリ、斬衰、齊衰、大功、小功、緦麻也、五等ノ服、夫々ニ制法アリ、斬衰ハ三年、齊衰ハ一年、大功ハ九ケ月、小功ハ五ケ月、緦麻ハ三ケ月也、父母ニハ斬衰三年、其外ハ齊衰以下、親疎ニ隨テ輕重アリ、上ハ高祖父母、下ハ玄孫、横ハ族兄弟トテ、俗ニイフイヤイトコトイフ者迄、互ニ喪服ヲ著テ、哀戚ノ誠ヲアラワス、是ニ因テ平日

モ親族ノ親シミ甚深シ、又父母ノ喪ニハ死シタル日ヨリ三日絶食ス、第四日ニ始テ粥ヲ食フ、既ニ葬テ後ニ、初虞、再虞トテ三度祭ル、是ヲ虞祭トイフ、其後又祭ルヲ卒哭トイフ、卒哭ハ三ケ月迄行フ、卒哭ノ後ヨリ蔬食水飲ス、菜菓ヲ食ハズ、蔬食ハ麤飯也、水飲トハ湯水ヲノム計ニテ、鹽味ヲ食ハザル也、菜菓ヲ食ハズトハ、菜ハ野菜也、果ハ菓子也、小祥ノ後ヨリ菜果ヲ食フ、小祥トハ明年ノ其日也、俗ニ云フ一周忌也、又翌年ノ其日ヲ大祥トイフ、大祥ヨリ一月ヲ隔テ、死シタル月ヨリ二十七ケ月ニ當ル時、又祭ルヲ禫祭トイフ、此祭終テノ後、始テ酒ヲノミ肉ヲ食フ、又父母ノ喪ニハ、常ノ居處ヲ離テ廬ニ居ルヲ喪次トイフ、喪次ハ、喪ノヤドリ也、廬ハ此方ニ云フ小屋也、中門ノ外ニ墻ニ倚カケテ、片庇トイフモノニ作ル故ニ、是ヲ倚廬トイフ、死シタル時ヨリ卒哭ノ前ハ、苫ニ寢塊ヲ枕トス、苫ニ寢ルトハ、新薦ヲ敷テ寢ル也、塊ハ、土ノカタマリ也、卒哭シテ後、席ニ寢テ木ヲ枕ニス、三年ノ内ハ、斬衰ノ服ヲ著テ倚廬ニ居ル、禫祭シテ後、酒ヲノミ肉ヲ食ヒ、常ノ寢處ニ復ル、其後漸々ニ音樂ヲモ作ス、是喪禮ノ大略ナリ、齋衰ヨリ以後ハ段々輕シ、具ナルコトハ禮記ニ見エタリ、中華ノ喪禮ハ、如レ此厚重也、世ノ末ト雖モ、今ニ至ル迄是ヲ廢セズ、父母ノ喪ニ遇ヘバ、官人モ官ヲ解テ家ニ歸リ、三年過ル迄出デズ、若君ヨリ其人ヲ使ハズシテ叶ハザルコトアレバ、別義ノ詔勅ヲ以テ、强テ召出サルルヲ奪情起復トイフ、是トテモ志ヲ守リ私情ヲ伸テ、起復ノ命ニ從ハザル人アレバ、古今其孝ヲ稱シテ美事トスル故ニ、起復ノ命ニ應ズルヲバ遺恨トスル也、庶人ハ云フニ及バズ、賤キ奴婢ノ

輩迄モ、必服ヲ著テ三年ノ喪ヲ遂ルコト、天下一同也、若シ父母ノ喪ヲ匿シテ哭泣セザル者ヲバ、一年ノ徒刑ニ行フ、若三年ノ喪ヲ終ズシテ、早ク服ヲ釋テ吉服ニ改メ、哀ヲ忘レテ酒宴歡樂シ、音樂ヲナス者ハ、杖八十ノ刑也、其外モ喪ニ居ルコト禮制ノ如クナラズ、或ハ婚姻ヲナシ、吉事ヲ行フ者ハ、律ニ於テ皆刑アリ、聖人ノ禮ヲ制シ玉ヘル、其品多キ中ニ、喪禮ヨリ重キハナシ、之ニ因テ古來歷代ノ王、皆是レヲ重ンジ玉ヘリ、吾國ニハ古ヘヨリ五等ノ服制ナキ故ニ、親戚ノ親シミ甚薄シ、サレドモ古ハ一種ノ喪服アリテ、フヂゴロモトイフ者ヲ著タリ、古歌ニ「かぎりあれば今日脫すてつふぢ衣、果なきものは淚なりけり」ト詠ルハ、喪服ヲ脫デ吉服ニ成タルトキノコト也、イツノ程ヨリカ是モ廢レテ、今ノ世ニハ服トイフ名目バカリ遺テ、服ヲバ著ズ、古ハ喪次アリテ籠リ居ケル故ニ、喪次ヲモヤトイフ、モヤハ喪屋也、古歌ニ「四阿のもやの妻戶にいたれども、姿なければ問ふ人もなし」ト詠ル、是其證ナリ、今ハ只家ノ內ニ籠リ居テ、出ザル計リヲ喪トス、夫モ其日數甚少ク、九族ノ內ニモ服ナキ者多シ、是又衰亂ノ世ノ遺風ニテ、太簡ノ政也、又喪ニハ必ズ僧ヲ憑ミ佛事ヲ行フコト、世俗ノ通禮トナリテ、齋食ヲ設ケ、布施ヲ行ヒ、誦經念佛スルヲ作善ト稱シテ、自己ニハ神靈ヲ祭ラズ、縱ヒ薄膳ヲ供スルモノモ、酒肉ヲ用ヒズ、死シタルトキ僧ノ手ニ懸リテ髮ヲ剃ラレ、戒名ヲ付ラレテヨリ、其子孫タル者モ、只管佛事ヲ行テ親ノ後世菩提ヲ祈ルノミ也、是子孫トシテ其親ヲ罪人ニスル意也、此事庶民ニハ便利トモ云ベシ、士大夫ニハ決シテ有間敷事也、況ヤ國君ナドノ用ユベキコトニ非ズ、然

ドモ近世ハ何トナク國ノ常典ノ如クニ成テ、志アル者モ是ヲ變ズルコト能ハズ、モシ千人ニ一人モ、喪ヲ治メテ禮ヲ行フ者アレバ、見ル者モ聞ク者モ驚キ怪ミテ、國禁ヲ犯セル者ノ樣ニ思ヒテ厭ヒ惡ム故ニ、如何ナル仁人孝子モ、喪禮ヲバ遂行フコト能ハズ、悲ムベキコトナリ、是國ニ禮ナキ故也、中華ニテハ縱ヒ佛法ヲ信ズル者モ、屍骸ヲ斂メ、棺槨ヲ具ルコトハ、禮制ノ如クニシテ、寺院ノ內ニ葬ラズ、城郭ノ外ノ山原空閑ノ地ニ葬埋ス、後ニ法事ヲ行ント思フ者ハ、僧ヲ請ジテ道場ヲ設ケテ追薦ヲナス、是ヲ超度トイフ、吾國ニモ、京都ニハ鳥部船丘ノ二山、蓮臺野ノ如キ、昔ヨリノ葬地アリ、諸侯ノ國ニモ、多クハ一國ノ葬地ヲ定置カル、國都ニ遠キ在處ニハ、空閑ノ地ヲ一鄕ノ葬地ニ定置テ、是ヲ三昧トイフ、是古風ノ遺レル也、唯東都ニノミ定レル葬地ナクシテ、小キ寺院ノ內ニ多クノ人ヲ葬ル故ニ、力アル者モ禮法ノ如クニ葬埋スルコトヲ得ズ、是大欠事也、今ノ風俗ニテ、中華ノ喪禮ヲ一々行ンコトハ、容易ナラ子ドモ、喪ハ人ノ子孫タル者ノ終ヲ愼ム重事ニテ、人倫ノ綱紀、敎化ノ本ナレバ、漸ヲ以テ是ヲ興シテ、古ニ復サレンコトアラマホシキ者也、吾國ニ喪禮ナクシテ、死ヲ送ル儀式極テ麤略ナル故ニ、中華ノ人ノ喪ニ居テ哀戚ノ甚シキコトヲ聞テハ、詐ヲ行フト思ヘリ、人情ハ異國モ我國モ替ルコトナシ、事ノ儀式ヲ禮法ノ如クニスレバ、自然ニ其誠在テ、哀戚モ深クナル、是レ自然ノ道理也、中華ノ人何ゾ詐ヲ行ハンヤ、昔滕ノ文公喪禮ヲ行ハレシカバ、四方ヨリ來觀ケル者皆感悅セシコト、孟子ニ見エタリ、禮ノ人ヲ感ゼシムルコト凡慮ノ外也、今タトヒ中華ノ禮ノ如クナラズ

トモ、吾國ノ古風ノ如クニモアラバ、天下ノ大慶成ベシ

一 祭禮ハ、天神地祇人鬼ヲ祭ル儀式也、天地、山川、社稷ヲ祭ルハ、天子諸侯ノ事也、父母先祖ヲ祭ルハ、天子ヨリ庶人迄一同也、論語ニ追レ遠トアルハ、父母先祖ヲ祭ルヲ云也、宗廟トイフハ、父母先祖ノ神主ヲ藏メ置ク宮也、神主ハ、先祖ノ正體也、此方ノ位牌ノ如クナル者ニテ、位牌ニハ非ズ、廟ノ字ヲバ、和語ニミヤト讀ム、此方ノ俗ニ靈屋トイフモノ是ニ近シ、俗ニ墓所ヲ廟トイフハ大ナル誤也、天子ハ七廟ヲ立、父ヨリ上六世ノ廟ニ、太祖ノ廟ヲ合セテ七ツ也、諸侯ハ五廟ヲ立ツ、父ヨリ上高祖父迄四世ノ廟ニ、太祖ノ廟ヲ併セテ五ツ也、大夫ハ三廟ヲ立ツ、曾祖父迄也、天子ノ士ハ一廟ヲ立ツ、父ノ廟バカリ也、諸侯ノ士ト庶人トハ廟ヲタテズ、家ノ內ニテ祭ル也、天子諸侯ハ月祭トテ、毎月祭玉フ、大夫以下ハ時祭トテ、春夏秋冬ノ四時ノ仲月ニ祭ル、別ニ忌日ノ祭アリ、忌日トハ、死シタル日ヲ云、歲ニ一日也、和俗毎月ノ其日ヲ忌日トイフハ誤也、死シタル翌年ノ其日ヲ小祥忌トイフ、又次ノ年ノ其日ヲ大祥忌トイフ、大祥迄ハ喪ノ內也、第四年ヨリ以後ハ忌日トイフ、忌日ヲバ、君子終身之喪トイフ故ニ、祭ル儀式モ、喪ノ內ノ小祥大祥等ノ祭ノ如シ、忌日ノ外ハ、皆吉祭ナル故ニ、外ノ神ヲ祀ル如ク同然也、禮記ニ、「夫祭也者、必夫婦親レ之」トイヘリ、凡父母先祖ヲ祭ルニハ、天子モ后ト偕ニ事ヲ行ヒ玉フ、諸侯以下ハ勿論也、前三日ヨリ齋戒沐浴シテ居所ヲ淨メ、衣服ヲ改メ、酒肉葷菜ヲ食ハズ、身モ心モ清潔ナル樣ニ愼ム也、當日ニハ、早朝ヨリ祭服ヲ著テ、數多ノ有司執事ノ人ヲ

從ヘテ、廟ニ入テ、牲ヲ殺シテ祭ル、牲ナキヲバ薦トイヒテ、祭トイハズ、天子諸侯ノ祭ニハ必音樂アリ、大夫以下ハ樂ヲ用ヒズ、又墓祭トテ墓ヲ祭ル禮アリ、墓所ノ土地神ヲ祭ル禮アリ、是皆先祖ヲ崇メテ孝敬ヲ盡ス道也、凡人ハ皆先祖ニ本ヅキテ今日ノ此身ハ、皆先祖ヨリ出タル者ナル故ニ、君子ハ必先祖ノ祭ヲ愼ム也、サレバ人君ハ國家ノ政事ヲバ、聊モ我意ニ任ゼラルヽコトナクシテ、一々ニ宗廟ニ告玉ヒ、祖宗ノ命ヲ受テ行ヒ玉フ故ニ、古ノ人君ヲ後世ヨリミレバ、只鬼神ニ事ル巫祝ノ如クナル者也、吾國本來鬼神ヲ信ズル風俗ニテ、士大夫以上ハ、先祖ヲ崇メ父母ヲ敬フコトヲ知レドモ、祭祀ノ禮世ニ行ハレザル故ニ、父母先祖ヲ祭ルスベヲ知ラズ、父母死シテ後ハ、歳時ニ祭ルコトモナク、小祥大祥ヲ過テ後ハ、七年、十三年、十七年、二十一年、二十五年、三十三年、五十年、百年ニ一タビ日忌ヲ祭ルヲ、年忌トイフ、ソレモ已ガ家ニテハ祭ラズ、一向ニ僧ニ委子テ佛事ヲ作テ、後世菩提ヲ祈ルヲ孝ト思ヘリ、大夫以上有祿ノ家ニモ、宗廟モ祠堂モナケレバ、神主モ立ズ、自己ニ祭ラザレバ、齋戒スルコトモナシ、年忌トテ寺ヘ詣デ、或ハ僧ヲ家ニ請ジテハ、追薦ニ託テ、親戚朋友ヲ集テ、酒宴歡樂スルノミニテ、少モ仁孝ノ思ヒヲ起ス者ハナシ、是歎カシキコトナラズヤ、然ドモ海内一同ニ此風俗ナレバ、千人ニ一人モ、古ノ道ヲ好デ父母先祖ヲ祭ル者アレドモ、人ノ怪ンコトヲ恐レテ隱密ニ事ヲ行フ也、其上ニモ國法ナレバ已ムコトヲ得ズ、僧ニ布施シテ佛事ヲ行ハシムルハ、本意ナキコト也、許多ノ米穀金銀ヲ費シテ、道德モナキ放逸無慙ノ僧徒ヲ集テ、佛事ヲ行ハシメテ、何ノ功德

ヲ成ゼンヤ、是貧賤ノ小民ニハ、便利ナルコトモアリ、士大夫以上有祿ノ家、マシテ國君ナドノ用ユベキコトニアラズ、聖人ノ道ニ本ヅキテ、古禮ヲ斟酌シテ、時宜ニ隨テ祭禮ヲ行ハヾ、費用少クシテ孝敬ノ道ヲ盡シツベシ、久ク世ニ絶テナカリツル禮儀ヲ俄ニ興サバ、人々驚キ怪ミテ、始ハ不便利ナル樣ニ思フベケレドモ、禮敬ノ人ヲ化スルコト妙ナレバ、見聞スルニ隨ア、漸々悅服スベキコト必定也、サモアラバ、正シク國家長久ノ道也、曾子ノ言ニ、「愼レ終追レ遠、則民德歸レ厚」トイヘリ、「愼レ終追レ遠」トイフハ、喪祭ノ二ツ也、喪祭ノ禮行ハルレバ、民ノ德厚ニ歸ル也、民ノ德厚ケレバ、風俗日ニ隆盛也、風俗隆盛ナレバ、災害生ゼズ、禍亂作ラズ、萬祥降リテ國家長久ナリ、已上冠昏喪祭、是ヲ四大禮トイフ、天子ヨリ庶人ニ至ルマデ、闕クコト能ハザル禮也

一　士相見禮トイフハ、士大夫ノ中ニテ互ニ相見シ、又ハ君ニ見ユル儀式也、士ト士ト相見シ、士ト大夫ト相見シ、大夫ト大夫ト相見スル、爵位ノ高下ニ隨テ、其儀式不同也、君ニ見ユルモ亦然也、凡初テ人ニ見ユルニハ必贄アリ、贄トハ今ノ俗ニ云進物也、贄ノ品モ、人ノ品ニ隨テ輕重アリ、ケ樣ノコトハ、禮ノ中ニテハ輕キコトナレドモ、上ヨリ兼テ其法式ヲ定メ置レザレバ、下ノ人己々ガ心ニ任テ事ヲ行フ故ニ、過不及アリテ、平均ナラズ、爭競モ起リ、奢侈モ始リテ、政ノ害トナル故ニ、昔先王此禮ヲ立玉ヘリ

一　鄉飮酒禮トイフハ、鄉黨ノ人ニ酒ヲ飮スル儀式也、古ハ大夫ノ位ナル者、一鄉ヲ治ムルヲ鄉大夫ト

イフ、此方ノ日代ナド云者ノ如シ、三年ニ一タビ一鄕ノ人ヲ集テ酒宴ヲナス、是ヲ鄕飮酒トイフ、鄕大夫ナル者主人トナリテ、其鄕ノ父老ヲ賓客トス、父老ノ中ニテ、一人ノ宿老ノ禮義ヲ習ヒ知レル者ヲ賓トス、賓トイフハ、上客也、其餘ヲ衆賓トス、衆賓ハ俗ニ云相伴也、鄕黨ニハ齒ヲ尙ブ故ニ、年ノ長少ヲ以テ座ノ次第ヲ定ム、一日モ先ニ生レタル者ヲ上ニ居ク也、酒宴ノトキ、樂人參テ、詩ヲ歌ヒ樂ヲ奏ス、酒宴トイヘバ迚、酒ヲ强テ飮スルニハ非ズ、始終只揖讓進退ヲ要トス、儀式甚ダムツカシキコト也、此禮ノ本意ハ、長幼ノ節ヲ明ニシ、賓主ノ禮ヲ習ハサン爲也、此禮行ハルレバ、人々老ヲ養ヒ長ヲ敬フコトヲ知テ、自然ニ孝悌ノ道ニ向フ也、先王ノ民ニ孝悌ヲ敎玉フハ、言語辯說ヲ以テ敎ヘズシテ、禮ヲ以テ孝悌ノ事ヲナシテ視セ玉フ故ニ、是ヲ見聞スル者、感悅セズトイフコトナシ、是則不言ノ敎也、凡民ハ愚ナル者ニテ、君上ノ敎ナケレバ、孝悌ノ道ヲ知ラズ、孝悌ノ道ヲ不レ知ニヨリテ、子弟ノ少キ者、父兄ノ言フコトヲキカズ、敎訓ニモ從ハズ、賤キハ貴キヲ犯シ、下ナル者ハ上ノ人ヲ蔑ニスル故ニ、爭奪等ノ種々ノ惡事起リ、獄訟モ繁クナリ、亂ノ本トナル也、孝悌ノ道ヲ知レバ、一家ノ內ニテ、父兄ニ隨順スルノミナラズ、他人ノ長老ヲモ、父兄ノ如ク敬フ故ニ、鄕黨ノ內和順シテ、違逆ノコト出來ラズ、是國家治安ノ本也、其故ハ、君ハ舟ノ如ク、民ハ水ノ如シ、水平ナレバ舟穩也、民靖ナレバ君安シ、水ニ風波アレバ必ズ舟ヲ覆ス、民騷動スレバ必ズ君ノ患トナル、古來一轍也、然レバ民ニ孝悌ヲ敎ルハ、國ヲ治ル要務ナラズヤ、孟子ノ言ニ、「堯舜之道、孝悌而已矣」ト云ヘルハ是

也、孔子ノ言ニ、「吾觀二於郷一、而知二王道之易々一也」ト曰ヒシハ、孔子郷飲酒ヲ觀玉ヒテ、王道ノ易キコトヲ知玉ヘルト也、又古ハ郷黨ノ中ヨリ、賢者能者ヲ見出シテ君ニ獻ズ、是ヲ郷貢トイフ、是郷大夫ノ職分也、然ルニ賢者能者ヲ見出スコトハ、郷射禮ニテ試ル也、既ニ試テ君ニ薦タルヲ貢士トイフ、貢士ヲ郷飲酒ノ賓トシテ、彌其人ノ禮貌容儀ヲ觀ル也、人才ヲ貴ブ意也、然レバ郷飲酒ハ輕キ事ニ非ズ、誠ニ國ノ大禮也、冠昏喪祭ニ、郷飲酒士相見ヲ加ヘテ、是ヲ六禮トイフ、天下ニ無テ叶ハヌ禮ナレバ也、周ノ代衰ヘテヨリ後ハ、郷飲酒廢レテ行ハレズ、後世ニ至テ、古ニ志アル者ハ、往々私ニ是ヲ行ヘリ、吾國ニハ元來此禮ナケレバ、修復スベキ樣モナシ、然ドモ古ヲ好ム人アリテ、新ニ制シテ行ハンニ、何ノ不可ナルコトカ在ン、古禮ノ意ヲ得テ、萬分ノ一モ似タルコトアラバ、治教ノ小補ナルベシ

一　郷射禮トイフハ一郷ノ人ヲ集テ禮射ヲナス儀式也、古ハ民家一萬二千五百ヲ郷トイヒ、二千五百ヲ州トイフ、一州ヲ治ル者ヲ州長トイフ、州ノ學校ヲ州序トイフ、一州ノ學問所也、州長毎歲春秋二度ニ、一州ノ民ヲ州序ニ會シテ禮射ヲ成サシムルヲ郷射トイフ、射ハ弓射ル也、射ニ禮射武射ノ二ツアリ、武射ハ力ヲ主トシ、禮射ハ禮ヲ主トス、揖讓進退ノ容儀ヲ觀テ、其人ノ德行ヲ知ン爲也、州序ニテ行フ禮ナレドモ、州ハ郷ノ内ナレバ、郷大夫モ出テ其事ニ蒞ム故ニ、郷射トイフ也、州長ナル者主人トナリ、其在處ノ民ノ中ニテ、學問アリテ禮儀ヲ習熟シ、射ニ達セル者ヲ擇デ賓トス、司正、司射、司

馬等ノ有司ヲ立テ、其外執事ノ人ヲ數多設テ、其儀式ヲ司ラシム、初ニ酒宴ノ儀式アリ、樂人參テ、詩ヲ歌ヒ樂ヲ奏ス、酒宴畢リテ射始マル、二人番ヒテ是ヲ耦トイフ、六人ヲ三耦トナス、其餘モ耦數多アルヲ衆耦トイフ、矢四筋ヲ乘矢トイフ、人每ニ乘矢ヲ持テ出ルトキ、司正、司射、司馬ノ者其儀式ヲ取計ラフ、射ノ間モ音樂アリ、耦ノ中ニテ勝負ヲ爭フコトアリ、サレドモ常ノ爭ニテハナク、揖讓ヲ要トスル故ニ、「其爭也君子」ト孔子曰ヘリ、此禮殊ノ外ムツカシキ儀式ナル故ニ、能々習熟セザレバ、行ヒ得ルコト難シ、凡ソ男子ノ技藝數多キ中ニ、射ヲ以テ最上トス、藝ハ人ノ性質ニヨリテ工拙アルコトナレバ、射ノ中ルコトハ、必シモ有德不德ニヨルマジキ道理モアレドモ、郷射ノ禮ハ甚ムツカシキ儀式ニテ、射ノヨク中ル計ハ貴ブニ足ラズ、始終ノ威儀進退其度ニ中リテ、聊モ失禮ナク、可觀ナル樣ニ有コトハ、內ニ君子ノ德アリテ、身ヲ端正ニ持習ハシタル者ナラネバ、及難キコトナル故ニ、之ヲ以テ人ノ德行ヲ試ル也、此禮ニ於テ德行ノ見エタル者ヲ君子トシテ、庶人ノ中ヨリ拔テ薦擧テ、國家ノ用ニ供ルヲ貢士トイフ也、總ジテケ樣ノ大禮ハ、强有力ノ者ニアラザレバ、行ヒ得ルコトナシ、强有力トハ、精神氣力ノ强キヲ云也、禮ヲ行フニハ、早天ヨリ日中迨モカヽル故ニ、時刻久シケレバ、心モ倦ミ身モ疲レ、口モ渴キ腹モ飢テ、堪難キコト多カルヲ、能堪テ遂行ヒ、退屈ノ色ヲ見セザル、是ヲ强有力ト稱スル也、此强有力ニアラザレバ、何ニテモ大事ヲ行フコト能ハズ、先王此强有力ノ者ヲ得玉ヒテ、平日ハ之ヲ禮儀ノコトニ用ヒ、萬一モ大事アルトキハ、是ヲ戰ニ用ヒ玉ヘリ、氣力ノ强弱

ハ生質ニアリト雖ドモ、人ノ身ハ習ハシニヨリ替ル者ナレバ、只習ハスニシクハナシ、是射禮ノ大意也、吾國ニハ古ヨリ射禮ナシト聞ユ、今小笠原家ナドニ射禮トテ傳フルハ、近世ノ妄作ニテ、甚俗ナルコト也、若今鄉射ノ禮ヲ行ハントナラバ、古禮ヲ考テ、新ニ制作スベシ、鄉黨ニハ行ヒガタクトモ、士林ニ行ハルマジキニ非ズ

一　大射禮トイフハ、諸侯ノ禮射也、古ハ國君宗廟社稷ヲ祭ラントシテハ、先大射ノ禮ヲ行フ、祭祀ハ國ノ大事ナレバ、殊ニ其禮ヲ重ンジテ妄ニ人ヲ用ヒズ、群臣ノ中ヨリ、謹愼ニシテ禮儀ニ習熟セル者ヲ擇テ祭ニ預ラシム、然ル故ニ先大射ノ禮ヲ行テ、群臣ノ禮儀ヲ觀ル也、大射ハ鄉射ノ如クニシテ、其禮又鄉射ヨリモ重シ、鄉大夫ノ中ニテ、賓主ヲ立テ事ヲ行ハシム、賓主ハ君ヨリ命ゼラル、有司ノ數モ鄉射ヨリ多シ、禮重ケレバ儀式モ又六カシキ故ニ、此禮ヲ行テ士大夫ノ輩ノ禮儀ニ習熟セルト、未熟ナルトヲ試ル也、若果シテ禮儀ニ習熟シテ、始終失禮モナク、射モ多ク中レバ、其人ヲ祭ニ預ラシム、射モ中ルコト少ク、禮儀モ未熟ナルモノハ、祭リニ預ルコトヲ得ズ、サレバ君ヨリ大射ニ召サル時、若射禮未熟ニテ憚ル所アル者ハ、病ト稱シテ出ズ、其故ハ、射ハ男子ノ所作ニテ、必ズ習熟スベキコトナル故ニ、病ニ非ズシテハ是ヲ逃ルコト能ハザル也、大射ノ禮行ハルレバ、士大夫ノ人品容貌、威儀進退ノ美惡、明ニ見ユルノミナラズ、君臣上下ノ交モ睦クナル、其益少カラズ、禮ハ士大夫以上ノコトナレバ、今ノ世ニモ行ハヾ、行ハルベキ事也、古禮ノ意ヲダニ失ハズバ、其儀式ハイカニモシ

テ今ノ世ニ行フベキ様ヲ思フベシ、凡禮ハ義ヲ以テ制スルモノナレバ、末世トテモ制作ナルマジキ事ニアラズ

一　燕禮トイフハ、燕ハ宴ト通ズ、酒宴也、諸侯國ニ事ナク、閑暇ナルトキ、群臣ヲ集テ酒ヲ飲シメラル儀式也、是亦群臣ノ禮儀ヲ觀ン爲、且ハ上下ノ親ミヲツケン爲也、古ハ君臣上下ノ交甚睦キコト後世ト異ナリ、朝廷ニテハ上下ノ分辨ヲ嚴ニスレドモ、燕享ノトキハ、君臣和樂シテ歡ヲ交フル故ニ、君臣ノ間睦クナリテ、君ハ臣ヲ愛シ、臣ハ君ヲ愛シテ恩情深クナル、是ヨリ君ハ仁德ヲ長ジ、臣ハ忠貞ヲ勵ム、國家安寧ノ本也、燕禮ニハ、大夫ノ中ニテ賓主ヲ立ツ、有司執事ノ者數多アリ、樂工參テ、詩ヲ歌ヒ樂ヲ奏ス、儀式最重シ、酒宴ノ間、臣君ニ向テ再拜稽首スレバ、君之ニ答テ再拜ス、衆士小臣樂工迄皆宴ヲ賜ハル、君恩ノ臣下ニ洽キ事此禮ニアリ、又他國ノ大夫、聘使トシテ來レルニモ、燕禮ヲ行フコトアリ、是又來聘ノ勞ヲ慰メ、異邦ノ客ヲ愛敬スル意也、又燕禮ニハ、語トイフコト有テ、賓主物語スル也、語ニハ必先王ヲ稱シテ、仁義忠信禮樂ノ道ヲ云フ故ニ、人君之ヲ聞シ召テハ、德ヲ明ニシ政ヲ修メ玉フ益アリ、秦漢ヨリ以後ハ、此禮廢レテ、君臣ノ間モヤヽ疎ク成ヌレドモ、公燕トイフコト有テ、臣下ニ宴ヲ賜フコト、後世ニモ猶是アルハ、古ノ遺意也、吾國ニモ公燕ノ如クナルコト無ニハアラザレドモ、竊ニ思フニ、古ノ王朝ノ禮ハ不レ知、今ノ世ハ君臣ノ間殊ノ外嚴ニテ、上下睦ジカラザル故ニ、上ノ情ハ下ニ降ラズ、下ノ情ハ上ニ達セズ、上下隔絶スルコト、譬バ天地ノ氣否塞シテ、

升降セザルガ如シ、天氣ハ降リ、地氣ハ升テコソ、陰陽六氣和調シテ、萬物共生ヲ遂ベケレ、天地交ラズ、陰陽和セザレバ、妖災作リ、萬物育セズ、縱ヘバ人ノ身內ニテ升降ノ氣ナケレバ、疾作ルガ如シ、古ノ聖人是ヲ知シ召テ、燕禮ヲ制作シ玉ヘルハ、誠ニ深キ知慮也、サレバ今ノ世ニモ、古ノ如ク燕禮ハ行ヒ難クトモ、其意ヲ得テ、時々公燕ヲナシテ、君臣上下ノ交ヲ睦シクセラレバ、國家ノ爲ニ補益有ベシ

一　聘禮トイフハ、諸侯國ニ事ナキトキ、卿大夫ヲ使トシテ他國ノ君ノ安否ヲ問ヲ聘トイフ、卿ヲ遣スヲ大聘トイヒ、大夫ヲ遣スヲ小聘トイフ、聘使ニハ必介アリ、介ハ副使也、介ノ字ヲバタスクルト訓ズ、正使ノタスケ也、後世ハ是ヲ副使トイフ、副ハ今ノ俗ニタチガハリトイフ者也、正使ハ一人ニテ、介ハ一人ニ不レ限、國ノ大小、使者ノ輕重ニ隨テ多少アリ、介ノ數多ケレバ、其第一ノ介ヲ上介トイヒ、其餘ヲ衆介トイフ、凡聘使ヲ遣スニハ、君臣皆朝服シテ、朝廷ニテ是ヲ命ズ、其儀式甚重シ、他國ノ君ヲ重ンズル故也、又使者ハ我ニ代リテ行ク者ナル故ニ、臣下ナレドモ敬テ遣ス也、贈物ハ玉帛、皮幣、乘馬ノ類、其外其國ノ土產ナリ、玉ハ珠玉也、帛ハ布帛也、此方ノ卷物ノ如シ、皮ハ獸ノ皮也、幣ハ金銀ノ類也、乘馬ハ馬四匹也、古ハ乘車一輛ニ馬四匹ヲ用ル故ニ、四匹ヲ乘馬トイフ也、使者既ニ命ヲ受テ行ク、若シ道中ニ人ノ國ヲ過ルコトアレバ、道ヲ假ルトイフ禮アリ、其國ノ境ヨリ次介ヲ使トシテ、束帛ヲ以テ贈物トシテ、其國ノ君ニ請フ也、次介トハ、上介ノ次也、束帛トハ、數十ヲ束ト

イフ、道ヲカラル丶國ノ君ヨリ、上下人馬ノ食物ヲ送リ、馳走有テ、士ヲ出シテ案内者トシテ、境ヨリ境迄導カシム、使者既ニ到着スレバ、主國ノ君ヨリ郊勞ノ儀式アリ、主國トハ、聘ヲ受ル國也、郊勞トハ、國外ヲ郊トイフ、國外トハ、國都ノ外也、城外也、國ノ境ニ關門アリ、關門ニ至レバ、關吏ヨリ注進アリ、主國ノ君ヨリ士ヲ出シテ導カシム、既ニ境ニ入テ、城外ノ郊迄來レルトキ、主國ヨリ郊勞ノ使アリ、聘使ノ輕重ニ隨テ、或ハ大夫ヲ遣シ、或ハ卿ヲ遣ス、勞ハ慰勞ノ義ニテ子ギラフト訓ズ、旅行ノ勞ヲ賞シテ疲ヲ慰ル意也、郊勞ニハ、束帛並ニ食物菓子等ヲ送ル、郊勞畢レバ、主國ノ大夫、聘使ヲ引テ客館ニ入ル、客館トハ、旅客ヲ舍ス所也、聘使既ニ客館ニ入レバ、主國ノ君ヨリ、朝夕調膳ノ具、人馬ノ食物、薪蒭ノ類迄ヲ送リ、官吏ヲ遣シテ食物ヲ用意セシム、今ノ俗ニ云馳走也、其後主國ノ君、使ヲ以テ聘使ヲ朝廷ニ迎シム、聘使朝廷ニ至ル、賓主相見ノ禮、甚ムツカシキ儀式也、主國ノ君ニ擯者アリ、擯トハ君ノ禮儀ヲ佐クル者也、卿ヲ上擯トシ、大夫ヲ承賓トシ、士ヲ紹擯トス、賓ニ介アル故ニ、主人ニ擯者アリ、使者君命ヲ致シテ後ニ、自分ニテ主國ノ君ニ見ユル禮アリ、是ヲ私覿トイフ、此禮畢テ聘使客館ニ返ル、主國ノ君ヨリ又食物等ヲ送テ馳走アリ、使ノ事終テ、聘使其國ニ歸テ、使ノ始末ヲ君ニ言上シ、他國ノ君ノ答ヲ述ルヲ、反命トイフ、反命ノ儀式モ作法ムツカシ、反命ノトキ、使者ヲ再拜ス、是又他國ノ君ヲ敬ハルル故也、使者並ニ介マデモ賞シテ皆夫ソレニ賜物アリ、是聘禮ノ大略也、諸侯ヨリ使ヲ天子ニ奉ルヲモ聘トイフ、諸侯ノ使者ハ、天子ノ陪臣ナレドモ、天

子必ズ御前ニ召出シテ、天顔ヲ拝セシメ、聘禮ヲ行ハシメラル、諸侯ノ聘禮ニ似テ、夫ヨリモ重シ、朝廷ニテ酒ヲ賜ヒ、食ヲ賜フコトハ諸侯ノ國ノ禮ノ如シ、陪臣ナレドモ、天子ノ御前ニ出テ、天顔ヲ拝シ享燕ヲ賜ハルハ、諸侯ヲ重ンゼラル丶故ニテ、使者ノ面目也、ケ様ノ式禮アル故ニ、諸侯ノ國モタガヒニ相和シテ睦ジク、陪臣トイヘドモ、天子ノ恩ヲ感戴ス、是則天下和平ノ道也、吾國ハ天下封建ナレドモ、諸侯ノ聘禮ナシ、間ニ別事アリテ使ヲ遣スコトアレドモ、其儀式甚麁末也、諸侯ヨリ使者ヲ東都ニ奉ルコトアレドモ、古ノ聘禮ニ似タルコト少モナク、君上ノ洪恩臣下ニ及ブコト少シ、是歎カハシキコトナラズヤ、古ノ聘禮ノ如クナルコトハ、迚モ世ニ行ハルベクモ有ネドモ、諸侯ヲ重ジ臣下ヲ禮シ、恩義ヲ下ニ及ボシ玉フコトハ、古禮ノ義ヲ以テ稍其儀式ヲ始ラレバ、萬分ノ一モ古禮ノ意ニ叶フマジキニアラズ、是有道ノ士ノ同ク願フ所也

一　朝覲トイフハ、諸侯ノ天子ニ見ユル禮也、今此方ニ云參勤也、勤ハ覲ノ字ノ誤也、古ヘハ諸侯六年ニ一度天子ニ見ユ、春見ユルヲ朝トイフ、夏見ルヲ宗トイフ、秋見ルヲ覲トイフ、冬見ルヲ遇トイフ、常ニ之ヲ總テ朝覲トイフハ、春秋ヲ擧テ夏冬ヲ兼ル也、諸侯天子ニ朝スルニ、王城ノ外ノ郊ニ至レバ、天子ヨリ使ヲ以テ郊勞シ玉フニ、玉ヲ以テ禮ヲ行フ、諸侯ノ方ヨリ束帛乘馬ヲ出シテ、天子ノ使者ニ贈ル、使者歸ル時、諸侯之ニ從テ王城ニ入ル、天子ヨリ使ヲ以テ館ヲ賜フ、其使者ニモ、亦諸侯ノ方ヨリ束帛乘馬ヲ贈ル、其後天子ヨリ大夫ノ使トシテ朝參ノ日ヲ命ゼラル、定日ニ及デ、諸侯朝參ス、皮

幣、玉帛、乘馬、此外土產ヲ獻ズ、天子ニハ擯者アリ、諸侯ニハ介アリ、儀式甚重シ、禮畢テ退出ス、其後天子ヨリ享燕ヲ賜フ、賓客ノ禮ヲ以テ接待シ玉フ、禮儀甚尊嚴ナレドモ、君臣ノ際ノ睦キコトハ、後世ノ君臣ト大ニ異ナリ、又古ハ諸侯ノ中ニテ、互ニ相朝スルコト有リ、是ヲモ朝トイフ、今ノ世ニハ此禮ナシ

一 享禮トイフハ、享ハ饗ト同ジ、此方ニテ饗膳、饗應トイフガ如シ、賓客ヲ食物ニテモテナス儀式也、諸侯ノ天子ニ朝シ、諸侯ノ諸侯ニ朝シ、諸侯ノ卿大夫諸侯ニ聘セルニ、皆享禮アリ、儀式甚重キ事也、享禮ニハ侑食トイフコトアリ、侑ハスヽムルト訓ズ、食ヲ勸メテ喰ハスル也、侑食ニハ束帛ヲ贈ル、是ヲ侑幣トイフ、享禮ノ外ニ、又燕禮アリ、燕ハ酒宴也、賓客ニ酒ヲ飮スル儀式也、燕禮ニモ、貨物ヲ賓客ニ送ルコトアリ、是ヲ好貨トイフ、此方ニテ引出物トイフガ如シ、燕禮ハ大略前ニ云ヘルガ如シ、酒ハ人ノ歡ヲ合スル物ナル故ニ、君臣ノ間ノ尊嚴ナルヲモ、酒宴ニテ和ラゲテ、上下ノ交ヲ睦ジクスル也、然レドモ酒ハ人ヲ狂亂サスルモノ故ニ、殊ニ禮儀ヲ重クシテ、放逸ナラザル樣ニスル也、凡先王ノ禮ハ、上下尊卑ヲ辨別スルヲ旨トスレドモ、辨別甚シケレバ、交通ノ路ナクシテ、上下隔絕スル故ニ、上下ノ情ヲ交ヘン爲ニ、燕饗ノ禮ヲ制シテ、君臣、上下、尊卑、長幼ヲ和睦セシメ玉ヘル也、サレバ古ノ禮ハ、嚴ナレドモ和ヲ傷ラズ、和スレドモ禮ヲ失ハズ、嚴ヲ以テハ亂ヲ防ギ、和ヲ以テハ恩ヲ結ブ、國家安寧ニシテ長久ナルコト、禮ノ力ニアラズトイフコトナシ、禮記ニ、「禮從宜」トアレバ、必

シモ古ノ禮ヲ今世ニ行フベシトイフニハ有子ドモ、苟モ禮ヲ制セントセバ、古禮ノ意ヲ掛デ、今ノ時宜ニ合スルニ非ズシテハ、禮ノ本意ヲ失フコト有ベシ、四夷ヲ夷狄ト名付テ、中華ヨリ賤シムルハ、禮儀ナキ故也、中華ノ人ニテモ、禮儀ナケレバ夷狄ト同ジ、四夷ノ人ニテモ、禮儀アレバ中華ノ人ニ異ナラズ、日本ハ古ヨリ何モ中華ヲ學ブ國ナレバ、今トテモ禮樂ヲ興サンニ、サノミ難キコトハ在マジキ也、已上禮ヲ論ズ

一　樂ハ本ト人ノ慰ミ也、樂ハ樂也ト釋シテ人ノ心ノ樂ヨリ起ル者也、人ハモト動物ナル故ニ、須叟モ所作ナクテハアラレヌ者也、若暫時モ所作ナケレバ、必邪僻ノ心起テ、不善ヲナスコトアリ、何ニテモ所作アレバ、其所作ヲ成シテ心ヲ慰ムハ常也、然レドモ常ノ所作モナシ難キ時アリテ、心寂シキコトアリ、又所作ニ因リ心ノ鬱結スル事モアリ、左樣ノトキハ、歌謠ヲナシテ聲ヲ發シ氣ヲ泄シ、絲竹ヲ鳴シテ鬱ヲ開キ、徒然ヲ慰ム、是又人ノ常ノ情也、又宴享等ノ事ニテ會集スルモ、飮食ノミニテ日ヲ暮シ夜ヲ明シテハ、歡樂盡難キ故ニ、必ズ歌舞音樂ヲ用ヒテ、賓主ノ歡ヲ盡シ、睦ヲ修シ好ヲ結ブ、是又人情ノ已ムコトヲ得ザル所也、凡樂ハ人心ヲ和スル者也、禮ニ嚴敬ヲ本トスル故ニ、禮ヲ正シクスレバ、君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友、人倫ノ間嚴畏愿愨ナルノミニテ、和睦ノ意失セ易シ、樂ハ和ヲ本トスル故ニ、之ヲ用ヒテ君臣、上下、父子、兄弟ヲ和スル也、サレバ古ノ禮ニ必ズ樂ヲ用ルハ、和ヲ導ン爲也、樂ニハ必ズ禮ヲ用ルハ、敬ヲ存セン爲也、又古ハ賓客ヲ宴スルニ、或ハ射禮ヲ行ヒ、或ハ投壺トテ、矢ヲ

壺ニ投入ル、慰アリ、是ニモ樂ヲ用フルハ、歡樂ヲ飾ル意也、又禮儀ヲ節セン爲也、禮儀ヲ節ストイフハ、節ハ程ナリ、拍子也、大禮ヲ行フニハ、進退遲速ヲ度ニ合セテ、其程拍子ヲ齊クスルニ樂ヲ以テ相圖トスルナリ、譬ヘバ僧家ニテ佛事ヲ行フニ、鐘鼓ヲ撃テ進退作止ノ相圖トスルガ如シ、此等ノ義ニ因テ、大禮ニハ必樂ヲ用ル也、凡人ハ、少シ心ヲ慰ムルコトナクテハアラレヌ者也、心ヲ慰テ鬱ヲ開キ、氣ヲ行スコト、樂ニシクハナシ、サレバ天地ノ間、中國ヨリ外ノ萬國ニ至ル迄、國トシテ樂ナキハアラズ、然ルニ夷狄ハ土地ニ偏氣アル故ニ、人情モ偏僻ニテ、樂ノ聲音多クハ正シカラズ、中國ニモ、鄭衛桑間濮上ノ樂ハ淫聲也、先王ノ雅樂ノミ、天地ノ正氣ヨリ出タル聲ニテ、眞ノ中和ノ音也、凡音樂ハ、妙ニ人心ヲ感動スル者ナリ、サレバ淫樂ヲ聽ケバ、心蕩テ淫佚ニナガレ、雅樂ヲ聽ケバ、心正クナリテ中和ニ合フ、是天然ノ妙也、孝經ニ、「移レ風易レ俗、莫レ善二於樂一」トイヘルハ、淫樂世ニ行ハルレバ民ノ風俗頽レ、雅樂世ニ行ハルレバ、民ノ風俗正クナルコト古今コレ同ジ、風俗ヲ移シ易ル者ハ樂ナル故ニ、風俗ヲ保ツモノモ樂也、サレバ國家ヲ立ルニハ、初ニ雅樂ヲ作テ世ニ行ヒ、淫樂ヲ禁ジテ民間ニ用ヒザラシムル、是王者ノ要務也、孔子ノ顏淵ニ邦ヲ爲ルコトヲ告玉フニ、「樂則韶舞」ト曰ヒテ、又「放二鄭聲一」ト曰フ、則此義也、秦ノ代ニ儒書ヲ焚キ、儒者ヲ殺テヨリ、禮樂ノ道絕ヌレドモ、漢ノ世ニ諸ノ博士ニ詔シテ、古書ヲ考シメテ、古道ヲ興サレシヨリ、禮樂ノ道復興レリ、三代ノ古ニ及バズトイヘドモ、漢ヨリ以後、歷代ノ帝王天下ニ臨玉ヒテハ、必禮樂ヲ作ラシメラル、禮ア

レバ必樂アリ、天地、社稷、宗廟ヲ祭玉フニ、樂ヲ用ヒズトイフコトナシ、是天下ヲ治ルニ、禮樂ナクテ叶ハザル故也、漢ヨリ以後ノ樂ハ、完キ古樂ニ非ト雖ドモ、宗廟朝廷ニ用ユル樂ナル故ニ、世俗ノ淫樂トハ同日ニ語ルベキ者ニ非ズ、日本ニハ聖德太子中華ノ樂ヲ求テ、數多ノ伶人ニ是ヲ習ハシメテ、朝廷ニ用ラレシヨリ、今ノ世迄傳レリ、此方ニ傳ハレル樂ハ、漢朝ヨリ唐朝迄ノ樂也トイフハ、琵琶、橫笛、篳篥、洞簫、尺八、鞨鼓ナド、皆漢以後ノ樂器ナル故也、サレドモ絲ノ屬ニ琴アリ、匏ノ屬ニ笙アリ、此二ツハ皆上古ノ樂器ニテ此方ニ傳レリ、瑟ヲバ、昔ハ鯖尾琴ト名付テ樂ニ用タリトイヒ傳フレドモ、世ニ傳ハラズ、箏ハ秦ノ樂器ニテ、漢以來之ヲ用フ、瑟ヨリ出タル者ニテ、瑟ハ二十五絃ナルヲ、半ニシテ十三絃ニナシタリトイヒ傳フ、是モ古キ物也、和琴ハ吾國神代ノ樂器也トイフ、今思ヘバ其制中華ノ筑トイフ物ニ似タリ、中華ハ唐朝迄ハ古樂遺リテ有シガ、宋朝ヨリ音樂大ニ變ゼリト聞ユ、吾國ノ樂ハ、唐人ヨリ受來レル故ニ、却テ古樂多シトイフ、然レバ今吾國ニ傳ハレル如クノ樂ハ、今ノ中國ニハ絕テ有マジキ也、又此方ニハ高麗ノ樂アリ、高麗ハ今ノ朝鮮ナレドモ、今彼國ニハ高麗ノ樂少シモ傳ハラズトイフ、凡異國ニテハ、歷代天下ノ改ルトキ、必禮ヲ制シ樂ヲ作ル故ニ、イツトナク變化シテ、古樂亡失テ新樂トナルコトアリ、此方ハ新ニ樂ヲ作ルコトナク、聖德太子ノトキ、伶人ヲ定置テ、專門ニ此業ヲ守ラシメラレシ故ニ、千餘年ヲ歷テ今ノ世迄ニ、亡ビ失セズシテ全ク傳ハレリ、誠ニ珍重スベキ事也、瑟ヲ彈ズルコトハ、源氏物語ナドニ見エテ、昔ハ殊ニ是ヲ用タリ

ト開ユルニ、イツノ程ヨリカ其道亡テ、今ノ世ニハ知レル人ナシ、琵琶、箏、和琴ハ其道傳ハレリ、尺八ハ、唐ノ玄宗ノ好玉ヘル物ニテ、昔ハ雅樂ニ用タリシニ、是モイツノ程ヨリカ廢シテ今ハ俗樂トナレリ、南都法隆寺ニ、聖德太子ノ吹玉ヒシ尺八アリトイフ、長サ一尺八分ナル故ニ尺八トイフ、今ハ之ヲ一節斷（ヒトヨギリ）トイフ、竹ノ節ヲ一ツ籠ル故也、今ノ世ニ虛無僧ノ吹ク物ヲ尺八トイフハ誤也、彼ハ洞簫ノ類也、節三ツ籠ル故ニ、三節斷（ミヨギリ）トモ云、洞簫モ本雅樂ノ器ニテ、其制度ハ伶工ノ家ニ傳ハリテ、今ノ世ニモアレドモ、吹ク人ナシ、今ノ樂器ハ琵琶、箏、和琴ヲ三絃トイヒ、笙、篳篥、横笛ヲ三管トイヒ、羯鼓、太鼓、鉦鼓ヲ三鼓トイフ、昔ハ歌ノ類ニハ、今樣朗詠トイフ者アリ、今樣ハ俗間ノ歌曲ナレドモ、其詞鄙俚ナラズ、風雅ニ近キ者也、朗詠ハ、公任大納言ノ和漢朗詠ヲ歌フナリ、是ニハ管絃ヲ和スルコトアリ、扨管絃ハ、上一人ヨリ下民間迄、同ク用ルコトナリシ故ニ、俗說ニ矢作（ヤハギ）ノ宿長ノ女モ、管絃ヲナシタリシコトヲ云傳フ、平ノ重衡囚トナリテ鎌倉ニアリシトキ、千壽トイフ妓女參テ箏ヲ彈ゼシニ、五常樂回忽皇麞ナドヲ奏セシトアリ、凡其頃ハ、是ヨリ外ニ別ノ音樂ナカリシ故ニ、貴賤皆此雅樂ヲ奏シテ心ヲ慰シ也、但平ノ清盛ノ好マレシ白拍子トイフ者計リ、妓女ノ歌舞ニテ、吾國ノ風俗ナル者也、然ドモ其歌ノ詞ヲ觀レバ、風雅ノ意在テ、今ノ世ノ歌曲ノ如クニハ非ズ、今ノ世ニアル大頭（ダイガシラ）ノ舞トイフ者、昔ノ白拍子ノ流也、サレドモ昔ノ如クノ歌曲ハナシト聞ユ、北條家ノ末世ヨリ、猿樂田樂ナド云者アリ、古ニナキ俗樂作レリ、然ドモ此等ノ類ハ、其樂工ノ者ノスル業ニテ、士

大夫ノ自身ニ其事ヲナスニハ非ズ、其世ニモ士大夫ハ、只雅樂ヲ爲テ樂トセシナリ、新田義貞ハ笛ヲ吹キ、足利尊氏ハ笙ヲ吹キ、楠正成ハ琵琶ヲ彈ジテ、皆堪能ナリシトカヤ、室町家ノ末ヨリ、猿樂盛ニナリテ、朝廷ノ燕享ニモ之ヲ用ヒラレシ程ニ、自然ニ武家ノ樂トナリテ、海內ニ行ハルヽコト二百餘年ニ及ベリ、此猿樂ハ、中華ニテ俳優雜劇ノ類也、其音聲ハ、古人ノ云ヘル北鄙殺伐ノ聲ニテ、中和ノ聲ニ非ズ、凡ソ人ノ聲ハ、必絲竹ニ協フ者ナルニ、猿樂ノ謳ハ絲竹ニ協ハズ、笛ノ聲ハ律ニ中ラズ、絲ニ協ハズ、鼓ヲ打ツ者ノ掛聲ハ、罪人ナドノ叫ブニ似タリ、總ジテ樂ハ中和ノ氣ヲ養フ者ナルニ、猿樂ニハ中和ノ聲ナクシテ、鬪爭スル者ノ撃アヒテヲメキ叫ブガ如ク譟シキコトノミナレバ、是ヲ樂ム人ハ、覺エズ中和ノ氣ヲ傷ルベシ、幸若ノ舞ト云者アリ、幸若氏ノ者ノ所作也、イツノ世ヨリ始マレルヤラン、輓近ノコトト聞ユ、舞ト稱スレドモ、舞ニハ非ズ、扇ニテ手ヲ拊チ、拍子ヲ取テ古人ノコトヲ謳フ、猿樂ノ謳ノ如クナル者ニテ、是亦音律ニ叶ハズ、中和ノ聲ナク、北鄙殺伐ノ聲ナル者也、琵琶法師ノ物語トイフハ、琵琶ヲ彈ジテ平家物語謳フ也、信濃前司行長ガ、生佛トイフ瞽者ニ教テ謳シメケルヨリ始レリトイフ、猿樂ヨリ古キコトニテ、音聲モ中和ノ氣ハナケレドモ、シメヤカナルコト猿樂ノ謳ニハ勝レリ、說經トイフハ、昔釋氏ノ屬ニ、說經師トイフ者アリテ、佛菩薩ノ緣起ナドヲ詞ニツヾリテ、稱名念佛ニ加ヘテ謳テ、世ノ俗人ニ佛道ヲ勸ケルヨリ始リテ、其後異國本朝ノ古今ノコトノ哀ニ悲キヲトリ、又ハ名僧ノ傳抔ヲ撰テ詞ニ屬（ツヾ）リテ、人世ノ無常ナルコトヲ示シ、人ニ菩提ヲ勸シ

也、今其詞ヲ聽ケバ、鄙俗ナルコトモ多ケレドモ、今ノ世ノ流俗ニハアラヌコトドモアリ、本ハ鉦鼓ヲ鳴シテ拍子トセシヲ、今ハ賤キ樂工ノ業トナリテ、三線ヲ和スルコトニナリヌ、說經ハ悲哀ヲ主トシテ、人ヲ泣シムルヲ貴ブ、淫聲ニ非レドモ、哀聲ノ過ルハ淫ノ端也、淨瑠璃トイフハ、略說經ノ如クナル者ニテ、其始サダカナラズ、俗說ニ近世小野氏ノ女、昔ノ三河國矢作ノ宿ノ長ノ女淨瑠璃トイヒシ者ノコトヲ、十二段ノ詞ニ作テ謳ヒシヨリ始マレリトイフ、其後此曲世ニ盛ニ行ハレテ、異國本朝ノ古人ノコトヲ詞ニ屬リテ謳フコトニ成ヌ、其音調モ、關東關西ニ種々ノ變調有テ一樣ナラズ、賤キ樂工、並ニ瞽者ノ業トナリテ世俗ニ用ラル、初ハ古人ノ名アル者ノ事ヲ作リシ故ニ、其詞モ文雅ナリシニ、後ニハ世俗ノモテハヤスニ從テ、近來ノ賤キ者ノ色慾ニ溺レ、淫亂ニシテ家ヲ亡シ身ヲ喪ヒシコトヲ作ル故ニ、其詞モ俗樂ニナリ來レリ、昔ノ淨瑠璃ハ、鄙俚ナル者ナガラモ、士大夫ノ中ニ玩ビテモ、其害猶少カリシニ、今ノ淨瑠璃ハ、猥褻ノ至極ニテ、甚シキ淫聲ナレバ、士大夫ノ玩ブベキモノニ非ズ、凡國ニ淫聲ノ禁ナケレバ、民間ニ種々ノ淫樂ヲ作リ出シテ、人ノ心ヲ流蕩サスル也、サレバ先王ノ政ニ、淫聲ヲ作ヲ者ヲ殺スヨシ、禮記ノ王制ニ見エタリ、俗間ノ歌曲ノ類モ、皆淫聲ナレドモ、昔ハ其詞文雅ニ近カリシニ、近來ハ鄙俚猥褻ヲ極テ、聞ク者ニ耳ヲ掩ハシムル計也、箏ハモト雅樂ニノミ用ヒタリシヲ、近世雅樂ニ非ズシテ、別ニ一種ノ曲調ヲ作リ出シテ、俗間ノ常ノ歌ニ和スルコトアリ、筑紫ノ人ヨリ起レリトテ、是ヲ筑紫箏トイフ、其本ハ雅樂ノ越天樂（エテンラク）ヨリ變化シ來テ、今ハ種々ノ歌曲トナレリ、

雅樂ニハ非ザレドモ、淫聲少シ、三線、小弓トイフ者、俗樂ノ要器也、此二ツノ器ハ皆今世琉球國ヨリキタレリトイフ、琉球ニテハ雅樂ニ用ルヲ、此方ニテハ俗樂ニノミ用ル也、三線ハ、中華ノ胡琴トイフ者ニ近シ、小弓ハ箲䉘トイフ者ニ類ストイフ、小弓ノ聲ハ、野鄙ナル樣ナレドモ、却テ雅ニ近キ所アリ、三線ノ聲ハ、淫哇ノ至極也、此聲纔ニ發スレバ、乍チ人ノ淫心ヲ動カスコト、他ノ樂器ノ比類ニアラズ、形ハ琵琶ニ類スレドモ、琵琶ハ彈法簡疎也、三線ハ彈法極テ繁數ニテ、人ノ聲ニ協フコト、他ノ樂器ノ及ブ所ニ非ズ、然ル故ニ人ヲ悦バシムルコト甚シクシテ、世俗ノ好ミニ入ルコト深シ、上ニ云ヘル説經、淨瑠璃、其外俗間ニアラユル歌曲、皆三線ヲ和セザレバ、其聲ノ美ヲ盡スコト能ハズ、凡俗ノ淫樂ハ、必繁手トテ、手ヲ繁クシ細ニスルコトアリ、繁手ハ、三線ニ至テ極レリ、是ニ因テ世俗ノ耳ヲ悦バシメ、心ヲ樂マシムルコト甚シク成テ、始ハ瞽師賤工ノ所作成シニ、今時ハ貴人モ是ヲ學ブコトニ成リヌ、況ヤ士庶ノ間ニハ、此藝ニ精シキ者多シ、此三線小弓モ其調子ヲ正クシテ、之ヲ雅樂ニ用ヒナバ、雅樂ナルベケレドモ、俗調ヲ以テ淫樂ニノミ用ル故ニ、全ク淫聲トナレリ、箏、尺八ノ類ヲ俗樂ニ用レバ、則淫聲ヲ出スガ如シ、然レバ淫聲ハ器ノ罪ニ非ズ、調ル者ノ罪也、凡樂ハ人ノ聲ヲ本トス、人ノ聲正シケレバ糸竹ノ聲モ正シ。人ノ聲淫ナレバ、管絃ノ聲モ淫也、樂ハ必歌ニ和セテ奏スル故也、サレバ淫樂ヲ禁ズルニハ、民間ノ歌謠ニ淫聲アルヲ禁ゼザレバ、淫樂止ムコトナシ、民間ノ歌謠ニ正シキコトヲ言ズシテ、淫亂猥褻ノコトヲ謳フ故ニ、士民童稚ノトキヨリ習聞テ、人心皆

放蕩淫佚ニナル也、又中華ニ俳優トイフハ、此方ノ狂言師也、中華ニ雜劇トイフハ、此方ノ歌舞妓モノ眞似也、中華ニテハ俳優ノ輩ニ命シテ、雜劇ニモ必古人孝子忠臣等ノコトヲナサシメ、淫邪不法ノコトヲナサシメズ、是民ノ風俗ヲ敗ランコトヲ恐ルヽ故也、此方ノ今ノ歌舞妓狂言ハ、今ノ俗情ニ協ヘン迚、今ノ世ノ民間ニアル淫亂放佚ノコトヲナス故ニ、皆人ニ淫ヲ誨ル也、民ノ風俗ヲ敗ルコト是ニ過タルハナシ、皆淫樂ノ故也、風俗ノ頽ルヽハ、國家ノ患ナレバ、淫樂ノ政治ヲ害スルコト誠ニ莫大也、古ハ雅樂世ニ流布シテ、庶民モ之ヲ以テ樂ミトセシハ、下ニ別ノ俗樂ナカリシ故也、後世ハ下ニ種々ノ俗樂出來テ、人ノ耳目ヲ悅バシムル故ニ、只當時ノ俗情ニ近キヲ悅デ、是ヲ面白シト思フ心ヨリ、雅樂ハ俗樂ホドニ面白カラズナリテ廢レタル也、猿樂ハ鄙俗ナル者ナレドモ、只殺伐ノ聲ニテ管絃ノ律呂ニ協ハザルノミニテ、淫娃ノ聲ナキ故ニ、人ノ淫心ヲ動サズ、餘ノ俗樂ハ、悉ク淫娃ノ聲ナル故ニ、人ノ淫心ヲ發動スル也、人ノ心ヲ悅バシムルモ淫聲ノ故也、俗樂淫聲ノ中ニモ、又昔ト今ト變易アリ、昔ノ歌曲ハ、淫ナルコトヲ云フニモ、吾國ノ雅語ヲ用テ、詞ヲヤサシク作レルニ、世ノ末ニ成程、漸々ニ風調變リテ、次第ニ鄙俚猥褻ニナリテ、人家ノ父子兄弟ノ間ニテハ聞ニ忍ビザル程ノコト多シ、是則風俗ノ衰也、國家ニ雅樂ヲ用ヒズ、淫樂ノ禁ヲ立ザレバ、必ズ如此アル也、「聞ニ其樂ヲ而知ニ其德ヲ」トイヘルハ、樂ハ德ヨリ出ル故ニ、古ノ世ノ善惡ヲ知ルコトハ、樂ヲ觀テ知ル也、俗樂ハ民間ニテ制作スルモノナレバ、是ニテ其世ノ民ノ德ノ善惡ヲ知ル也、俗樂ノ風俗ヲ敗ル如ク、雅樂世ニ行

ハルレバ、風俗必ズ正クナル事天然ノ妙也、風俗ヲ移ス事ハ、樂ニシク者ナシトイフハ、邪ヨリ正ニ移スハ雅樂ノ力ナリ、正ヨリ邪ニ移スハ俗樂ノ力ナリ、古ノ聖人、樂ヲ作テ人ノ心ヲ慰メ玉ヘルハ、風俗ヲ保チテイツ迄モ變ゼザラシメン爲也、樂ヲ以テ禮ト並ベテ、此二ツヲ國家ノ政務ノ本トシ玉ヒシハ、誠ニ深キ智慮也、孫武、吳起ガ兵法、老聃、莊周ガ無爲、申不害、韓非ガ刑名、商鞅、李斯ガ法術、凡諸子百家ノ道、天下國家ヲ治ムルコトヲ宗トスル故ニ、彼等ガ道ヲモ善ク用レバ、何レニテモ天下治マラズトイフ事ナシ、然レドモ彼等ハ皆禮樂ヲ捨ル故ニ、一時ノ治平ヲ致スノミニテ、永世ノ治化ヲ開クコト決シテ能ハズ、二帝、三王、聖人ノ道ハ、禮樂ヲ以テ太平ヲ無究ニ保ツ、是諸子百家ニナキコト也、然レバ後世ノ人主、先王ノ治ニ傚ハントナラバ、必ズ禮樂ヲ興シ玉フベキ也、我日本ニハ、幸ニ古樂傳ハリアレバ、是ヲ朝廷ニ用ヒ、士庶ノ間ニモ行ハヾ、長久ノ計事ナルベシ、夫迚モ近來ニ行ハル、俗樂、俳優舞妓ノ類モ、卒ニ禁ジ難カルベケレバ、其中ニ就テ法制ヲ立テ、說經淨瑠理ニハ、古人ノ孝悌忠信ノ事ノミヲ作テ、今時ノ淫亂猥褻ノコトヲ言ハズ、歌舞妓狂言ニモ、人倫ノ道ヲ害スル樣ノコトヲナサズ、里巷ノ歌謠モ、鄙俚猥褻ノコトヲ禁ジテ、淫民ノ防ヲ固クセラレバ風俗モ淳朴ニ復リ、國家長久ノ基ナルベシ、是則チ先王禮樂ノ敎ナリ（已上樂ヲ論ズ）

經濟錄卷第二 終

經濟錄卷第三

官職

凡天下國家ヲ治ルニハ、百官ノ定職ヲ定置事ヲ先トス、官トハ今ノ世ノ役人也、職トハ官人ノ職掌也、某ノ官ハ、某ノ事ヲ掌トイフ、是職也、官人ニハ位階アリ、是ヲ爵トイフ、今ノ世ニ某ノ格式某ノ席トイフ、是爵位也、天下ニハ萬機トテ、日日種々ノ政事アリ、是ヲ天子ノ一人ニテ治玉フコト能ハザル故ニ、百官ヲ立テ各其事ヲ掌ラシム、百官トイヘバトテ、其數必シモ百アルニハ非ズ、只其數多キコトヲ云ヒテ、百官トイフ也、尙書ニ、「唐虞稽レ古建レ官惟百」トイヘルハ、官人ヲ立テ天下ヲ治ルコトハ、堯舜ノ前上古ヨリアルヲ、堯舜其古ヲ考テ百官ヲ立玉ヘル也、唐虞ノ代ハ未ダ上代ニテ、政事モ少キ故ニ、百官トイフニテ治マリシガ、夏殷ノ代ヲ歷テ次第ニ事多ク成シ故ニ、周ノ代ニハ三百六十ノ官アリ、周公ノ成王ノ輔相トシテ、三公六卿以下ノ諸官ヲ立テ、其職掌ヲ分テ常法ヲ定置玉ヘル、其書ヲ周禮トイフ、三公ハ、太師、太傅、太保也、此三公ハ、定マレル職事アルニ非ズ、譬ヘバ人ニ師範アリ、小兒ニ乳母抱守ナドイフ者有ルガ如シ、朝夕ニ君ノ御前ニ在テ、德行ヲ輔ケ、治道ヲ論ジ、

邪辟ヲ閑セギ、淫佚ヲ戒ルノミ也、君ニハ此三公ヲ師範トシテ、善道ヲ聞シ召、德ヲ明ニシ、過ヲ改メ玉フ也、故ニ其位ヲ一品ニシテ人臣ノ中ニテ至テ貴キ者ニシ玉ヘリ、三公ハ特ニ其人ヲ選ム故ニ、必シモ三人ノ員ヲ揃ヘズ、若シ然ルベキ人ナケレバ、闕タル儘ニテ指置也、三公ハ別ニ其人ヲ立テズ、六卿ノ中ヨリ昇テ三公トナリテ、六卿ノ職ヲ故ノ儘ニテ領スル也、三公ノ次ニ三孤アリ、少師、少傅、少保ヲ三孤トイフ、三孤モ定マレル職掌ナク、三公ニ副テ天子ヲ補佐スル者也、太子ニモ必三公三孤アリ、太子ヲ輔翼スル也、然レドモ太子ノ三公ハ位階少卑シ、古ハ天子モ太子モ、此三公ヲ師範トシテ殊ノ外尊敬シ玉ヒ、毎日御前ニ召テ著座セシメ、古今ノ物語ヲ聞召スユヘニ、自ラ見聞モ廣クナリ、淫亂放佚ノコトニモ遠ザカリ玉フ也、六卿トイフハ、天下萬機ノ政事ヲ六ツニ分テ、是ヲ六人ニ主ドラシムル故ニ、天下ノ事悉皆此六人ノ外ニ出ズ、是ヲ六官ト稱シテ、天地ト四時トニ配ス、天官ヲ冢宰トイフ、冢ハ、大ノ義也、又大宰トイフ、地官ハ大司徒、春官ハ大宗伯、夏官ハ大司馬、秋官ハ大司寇、冬官ハ大司空也、此六官皆卿ノ位ナルユヘニ、六卿トイフ、此六卿ノ中、三卿ハ三公ヨリ兼テ之ヲ領スル也、成王ノ時、周公旦太師ニテ冢宰ヲ領シ玉ヒシニ、周公薨ジ玉ヒテ後、康王ノトキニハ、召公奭太保ニテ冢宰ヲ領シ、畢公高周公ニ代リテ太師トナリテ大司馬ヲ領シ、毛公太傅ニテ大司空ヲ領ス、芮伯ハ大司徒、彤伯ハ大宗伯、衞公康叔ハ武士ノ弟ニテ、大司寇也、六官ニハ各職掌有テ、三公ニハ定レル職掌ナキ故ニ、別ニ其人ヲ立テズ、是周ノ代ノ制也、後世迄モ公卿大臣トイフハ、是ヲ指

ス也、扨六卿ノ職ハ、冢宰ヲ治官トイフ、邦治ヲ掌ル、邦治トハ、天下國家ノ治メ也、六官皆國家ヲ治ルコトヲ掌ルト雖ドモ、餘ノ五官ハ各一事ヲ掌ル、冢宰ハ天下ノ事ヲ統テコレヲ知ル也、其職第一ニ人ヲ知ルコトヲ務トシ、人ノ才能ヲ選出シ、君ニ言上シテ、百官夫々職ニ居ラシメテ、官事ノ闕ヌ樣ニスル、是冢宰ノ當職也、次ニハ國計ヲ掌ル、國計トハ、計ハ、勘定也、歲計トイフハ、一年中ノ總勘定ナリ、米穀、金銀、布帛一切ノ貨財ノ出入ヲ勘定シテ、國用軍用ノ匱シカラヌ樣ニ、公卿百官ヨリ下萬民迄困究セザル樣ニ、水旱、火災、兵革等ノ厄難有テモ、國家ノ痛マザルヤウヲ、常ニ思惟シテ取計フ也、此二ツハ、天下ノ總體ニ係ル政ニテ、冢宰ノ專要ニ心懸ルコト也、サテ朝廷ノ內ニテハ、君ノ御服、朝夕ノ御膳、醫藥ノ事、皆冢宰之ヲ主ドル、又後宮ノコト皆冢宰ニ屬ス、後宮トハ、奧方也、サレバ今ノ世ニ納戶方、臺所方、奧方ノ諸役人トイフ者、並ニ醫師ノ類、盡冢宰ニ屬スル也、屬ストハ、支配ナリ、大司徒ヲ敎官トイフ、邦敎ヲ掌ル、邦敎トハ、天下ノ民ヲ敎ルナリ、司徒ハ天下ノ人民ヲ主ドリテ、君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友ノ五倫ノ道ヲ敎ルヲ職トス、天下ニ戶籍トイフモノアリ、籍ハ帳面ナリ、民ノ家數ヲ記シタル帳也、家ヲバ幾戶ト數ヘ、人ヲバ幾口ト數ヘテ、天下ノ家數人數ヲ委細ニ記シタル帳ヲ、戶籍トイフ、今ノ世ノ人別帳也、天下ノ土地ノ圖ト、戶籍トヲ司徒ノ官ニ藏置テ、天下ノ土地ノコト、人民ノ風俗ノ善惡ヲシリ、五倫ノ敎ヲ施シ、時々ニ其利害ヲ察シ、愁苦ヲ問ヒ、離散騷動ノコトナク、安堵スル樣ニ治ムル、是司徒ノ職分也、故ニ凡土地、人民、百姓、

米穀貨財出納ノコトニ係ル諸役人、皆司徒ニ屬スルナリ、今ノ世ノ地方奉行、郡代ナド云樣ナル者ニテ、其總司ナル故ニ甚重キ官也、大宗伯ヲ禮官トイフ、邦禮ヲ掌ル、天地・山川、宗廟、社稷ノ祭ヨリ朝廷ノ禮法、儀式ニ至ル迄、前ノ禮樂ノ篇ニ云ヘル朝覲會同ノ類・冠婚喪祭ノ禮、凡天下ノコト聊モ禮儀ニ係リタルコトハ、大小皆此官ノ掌リナリ、樂ハ禮ニ附タル故ニ、是モ宗伯ノ掌リナリ、サレバ凡宗廟社稷ノ官人、其外ノ禮法儀式ニ預ル程ノ官人、並ニ樂師ノ類、皆宗伯ニ屬スルナリ、大司馬ヲ政官トイフ、邦政ヲ掌ル、六卿ノ職皆政事ナレドモ、王化ニ從ハズ、王法ヲ犯ス者ヲ征伐シテ、天下ヲ平均ニスル、是政ノ要ナル故ニ、此官ヲ政官トイフ、此官ヲ政官トイフニテ、先王ノ政ハ、軍旅兵馬ヲ要トスルコト見エタリ、此官ハ一切ノ軍旅兵馬ヲ掌ル、軍事ハ馬ヲ主トスル故ニ、此官ヲ司馬ト名ヅケラレタリ、凡天下ノ軍旅兵馬ノ事ヨリ、常ニハ朝廷ヲ守護シ、禁門ヲ守リ、關門ヲ固メ、或ハ行幸ニ供奉警衛スル類ノ事盡司馬ノ掌リ也、六卿ノ中ニテ、コノ一官ノミ武官也、然ル故ニ凡武士タル者ハ云フニ不及、何ニテモ武事ニ係ル程ノ官人吏卒ハ、皆司馬ニ屬スル也、大司寇ヲ刑官トイフ邦禁ヲ掌ル、天下ノ刑罰獄訟ノコトヲ掌ル、一切ノ制禁ヲ立テ、仕置ヲ行ヒ、公事沙汰ヲ折クコト、皆此官ノ掌リナル故ニ、刑罰獄訟ノコトニ係ル役人、皆司寇ニ屬スルナリ、大司空ヲ事官トイフ、邦士ヲ掌ル、事トハ、土木ノ事ナリ、土木トハ、今ノ世ニイフ普請、造作ノコト也、司空ハ天下ノ土地ヲ掌ル、土地ノ事ハ、司徒ノ職ニモ係レドモ、司徒ハ民ヲ治ルコトヲ要トスル故ニ、山林、田地等ノコ

トノ百姓ニ係リタル事ハ、皆司徒ニ屬ス、都邑、城郭、道、橋等ノコト、或ハ川ヲ浚ヘ堤ヲ築ク類ノ普請ノコトハ、皆司空ニ屬ス、又百工ノ器物ヲ作ルコトモ、此官ノ掌リ也、然ル故ニ普請、造作ノコトニ係ル官人、役人並ニ百工ノ類、皆司空ニ屬スル也、已上周ノ世ノ六官ノ職掌如レ是、天下ノ事ヲ六ツニ分テ六卿之ヲ掌ル、六卿ノ下ニ、小宰、小司徒、小宗伯、小司馬、小司寇、小司空トイフ者各二人宛アリ、位皆中大夫也、卿ニ副テ其事ヲ佐ク、今ノ世ニイフ副役也、其下ニ又下大夫四人、上士八人、中士十六人、下士三十二人有テ、卿ノ佐トナリ、使ヒ者トナル、其末ニ府吏胥徒トイフ四等ノ者アリ、府ハ、藏也、凡官ニハ必役所アリ、役所ニハ必藏有テ、其官ノ記錄、諸道具ヲ藏ル、此藏ヲ預カリテ出入スル者ヲ、府トイフ、府六人アリ、史ハ、文書ヲ作リ、政事ヲ記錄スル者也、後世ニイフ書記也、史十二人、是ニハ必文字ヲ學ビタル者ヲ用フ、胥ハ、今ノ世ノ足輕ノ樣ナル者也、徒ハ、中間ノ樣ナル者也、胥十二人、徒百廿人アリ、徒十人ニ、胥一人宛其頭トナル故ニ、胥ハ則什長也、司馬ノ官ニハ、史十六人、胥三十二人、徒三百廿人アリ、餘ノ五官ハ上ノ如シ、此府史胥徒ハ、六卿ノミニ限ラズ、六官ニ屬スル諸官ニ皆各之アリ、サテ六官ニ各其官ノ支配人アルコト、上ニ云ヘル如ク數多アリ、是ヲ屬官トイフ、六官ノ屬小々不同アレドモ、大數ヲ六十ト定テ、六官ヲ合テ三百六十トイフ也、此三百六十ノ官ヲ以テ、天下ノ政事ヲ行フニ漏ルヽコトナシ、但周ノ世ハ封建ナル故ニ、天下ノ諸侯ノ中ニテ方伯トイフ者ヲ二人立テ、東西ニ分テ主ドラシム、諸侯ニモ支配ナクテ叶ハヌ故也、方伯ハ、諸侯ノ長

也、昔唐虞ノ世ニ、帝堯ノ天下ヲ治玉ヒシニハ、虞舜ヲ匹夫ヨリ擧テ百揆ノ職ニ居ラシメ、萬機ノ政務ヲ掌ラシメ玉フ、周ノ代ノ家宰ハ、即百揆ノ職也、百揆トハ、百官ヲ總ル故ノ名也、大禹ハ司空ノ官ニテ、天下ノ水土ヲ掌リ玉フ、棄ハ后稷トナリテ天下ノ民ニ農業ヲ敎ヘ玉フ、周ノ代ニハ司徒ノ官是ヲ兼ヌ、契ハ正ク司徒ト成テ民ニ五倫ノ道ヲ敎玉フ、皐陶ハ士トナリテ刑獄ヲ掌ル、是周ノ司寇ノ職也、伯益ハ虞トナリテ山澤ヲ掌リ、禽獸ノ害ヲ除ク、周ノ代ニハ是モ司徒ノ掌リニテ、司徒ノ屬官ニ、山虞、澤虞、林衡、川衡ナドイフ官アリ、垂ハ共工トナリテ百工ノ事ヲ掌ル、器物ハ國家ノ利用ニテ制度アル者也、官ヲ立テコレヲ治メザレバイツトナク制度ヲ失ヒ、人々物好キニ任セ、且ハ工人ノ方ニ利ヲ取ン爲ニ、姦惡ヲナシテ、粗糙ニ作リ出スヲ、聖人之ヲ惡ミタマヒテ、垂トイフ人ハ天性ノ工ニテ、精妙ナリシ人ナルヲ、以テ此共工ノ職ニ居ラシメ玉フ、周ノ代ニハ司空ノ官之ヲ兼ヌ、伯夷ハ秩宗トナリテ天地人ノ三禮ヲ掌ル、是周ノ世ノ宗伯ノ職ナリ、夔ハ典樂トナリテ音樂ヲ掌ル、周ノ代ニハ、宗伯ノ官コレヲ兼ヌ、龍ハ納言トナリテ天子ノ詔ヲ外ニ出シ、臣下ノ言ヲ君上ヘ奏達スルコトヲ掌ル、周ノ內史ノ職是ニ似タリ、內史ハ宗伯ノ屬官也、已上司空ヨリ下九官ハ、皆是舜ノ命ジ玉ヘル也、此外ニ四岳トイフハ、天下ノ諸侯ヲ主ドル官也、一人ニテ四方ノ諸侯ヲ主ドル故ニ、四岳トイフ、四人アルニハ非ズ、周ノ方伯ノ如シ、四岳ノ下ニ、十二牧トイフ者アリ、唐虞ノ世ハ、天下ヲ十二州ニ大分シタルヲ、一州ニ一人宛其長ヲ立テ、是ヲ州牧トイフ、天下ニ十二人アリ、上ノ九官ニ、四

岳十二牧ヲ加ヘテ、二十二人也、尙書ニ、帝舜ノ「咨汝二十有二人欽哉」ト曰ヒシハ、是也、唐虞ノ代ハ、此世界ノマダウヰ〳〵シキ時ナル故ニ、官職モ簡約ニテ事治マリシ也、夏殷二代ノ官職ハ詳ニ知レズ、周ハ上ニ云ヘル如ク、周禮ニ記セル所極テ詳悉也、サレドモ周禮ノ中ニテモ、冬官司空ノ一官、其文闕テ考フベキ樣ナシ、周ノ代ハ諸侯ノ國モ、天子ノ制ニ倣テ、大國小國、夫々ニ官職ヲ立テ、各其國ヲ治メタルコト、春秋傳其外諸書ニ見ユ、秦ノ代ハ、始皇天下ヲ一統シテ、十五年ニテ滅亡セシ故ニ、官職ヲ立ル間モナク、諸侯ノ時ノ儘ニテ終レリ、漢ノ代ハ、天下治平ニテ、文化興リシカバ、敢テ百官ヲ立ベキトキナルニ、相國、丞相、大尉、御史大夫等ノ官ヨリ末々ノ小吏ニ至迄、多ク秦ノ官制ヲ承襲シテ、前後四百年ノ間、終ニ新制ヲ定ルコトモナカリシハ、君上モ臣下モ古ノ道ニ志ナカリシ故也、凡周以前ハ封建ノ世ナリシ故ニ、天子ノ地トイフハ、畿内千里ノミニテ、其外ハ大小ノ諸侯ニ分チ與ヘタレバ、諸侯ハ分々ニ己々ガ國ヲ治テ、天下ノ百官ノ政ヲ受ケズ、天子ハ天下ノ芳主ナレバ、天子ノ百官ハ、天下ノ事ヲ不レ知ニハ有ネドモ、正シク天子ノ地トイフ者、僅ニ方千里ノ内ナレバ、何事モ輕ク小クアリシ也、秦漢以後ハ郡縣ナレバ、天下一國ニテ、四海九州、皆天子ノ地ナル故ニ、天子ノ富、三代以前ノ君ニ比レバ、十倍ニ餘レリ、是ニ因テ天子ノ尊大ナルコトモ古ニ越テ、城郭宮室ノ制モ古昔ニ超過セリ、且又天下ノ郡縣ニ、次第ノ官吏ヲ置ク故ニ、朝廷ヨリ郡縣迄ノ官吏ノ數、周ノ代ニ幾倍トイフコトヲ知ラズ、官職ノ政モ遙ニ異ナリ、漢書ニ、官吏ノ員ヲ盡シテ、佐史トイフヨリ以上

丞相迄、十三萬二百八十五人トイヘリ、夥シキコトニ非ズヤ、漢ヨリ以後ハ歴代沿革有テ、官制一定セズ、然レドモ天下ヲ郡縣ニシテ治ルコトハ同前ナル故ニ、官職モサノミ大ニ易ルコトハナキナリ、三公ヲ六卿ノ外ニ立タル時モアリ、別ニ立テズシテ、司徒、司馬、司空等名ヲ付テ、卿ノ列ニ並ベタルトキモアリ、六卿モ周官ノ如ク備ハルニ非ズ、其名モ職掌モ種々ニ易レリ、九卿ヲ立タル世モアリ、唐ノ代ヨリ、六卿ヲ六部トナシテ、吏部、戸部、禮部、兵部、刑部、工部ノ官ヲ立ツ、是即周ノ六官ニ依テ立タルドモ、上ニ別ニ三公宰相ヲ置ク故ニ、六部ノ官ハ、周ノ六官程ニ重カラズ、又漢ヨリ以後ハ、六卿九卿ノ上ニ、宰相トイフ者ヲ立テ、天下ノ政事ヲ行ハシム、宰相ハ一人ナルベキコトナレドモ、二人アリシ世モアリ、近世ノ代ニ至テ、古ノ周官ノ例ニ倣テ、六部ノ尚書ヲ立テ、周ノ六卿ノ如ク、萬機ノ事ヲ六ツニ分テ掌ラシム、其位ヲ一品ニシテ甚貴キモノニセリ、別ニ三公ヲ立テズ、太師、太傅、太保ヲ立テ、此三人則六尚書ノ中、何レニテモ三官ヲ領ス、然レドモ明ノ代モ、後ニハ大學士トイフ官ヲ六尚書ノ上ニ置テ、天子ノ師範トナリ、天子ヲ輔相シ、天下ノ政ヲ執ラシム、是則宰相也、今ノ清朝モ多分ハ明ノ官制ノ如シト聞ユ、中華ハ本來聖人神明ノ國ニテ、三代以前ハ聖人出玉ヒシ故、官職ハ代々ニ不同ナレドモ、皆聖人ノ制作也、秦漢以後ハ、聖人出玉ハズ、後ノ人心々思々ニ官職ヲ立テ、時ノ便利ニ順テ世ヲ治メシカバ、古ノ先王ノ法ニ違ヒタルコトモ多ケレドモ、畢竟聖人ノ制作ノ跡ヲ承タルモノ故ニ、末世ニナリテモ、古制ノ形ノ遺リタルコト少ヅヽアル也、サレバ後世ニ至テ官職ヲ立

ルニモ、大本ヲ古制ヨリ取ルニ非ズシテハ叶ヒ難キコト也、日本ノ古、推古天皇ヨリ以前ハ、官職ノ定制モナカリシニ、推古ノトキ、厩戸皇子攝政セラレシ時ヨリ、官職ノ說始マリ、其後稍々ニ唐ノ世ノ制ヲ學デ、朝廷ニ百官ヲ立テラレタリ、諸國ヲ治ルコトモ、郡縣ノ制ニ傚テ諸侯ヲ立テズ、國司郡司ヲ置テ其政ヲ行ハシハ、朝廷ニハ太政大臣、左大臣、右大臣ヲ三公ト稱ス、三大臣ニハ定マレル職掌ナクシテ、其中ニ一人天下ノ政ヲ執ル者ヲ關白トイフ、是異國ノ宰相ニ當ル、三公ノ下ニ、大納言、參議等ノ官アリテ三公ノ佐トナル、參議ヲ後世ニ宰相ト稱スルハ、大ナル誤也、中務、式部、治部、民部、兵部、刑部、大藏、宮內ヲ八省トイフ、是異國ノ六部ニ傚テ置タレドモ、位モ卑ク、官制頗異ナリ、餘ノ諸官モ、皆異國ニ傚テ立タレドモ、異國ト吾國ト、土地モ風俗モ同カラザル故ニ、萬事少シ宛易リアリ、只文職ト武職トヲ別ツコトバカリハ、全ク異國ト同ジキナリ、如レ是中華ノ制ニ傚テ百官ヲ定ラレシハ、誠ニ日出度經略ナレドモ、公家トイフ者、官ヲ世ニシテ、新ニ人才ヲ卑賤ヨリ取ラザル、是中華ニナキコトニテ、我日本ノ風俗、大ニ政治ヲ害スル事也、鎌倉ノ右大將家ヨリ以後、公家ノ政天下ニ及バザル故ニ、皇朝ノ百官ハ、皆有名無實ノ物ニ成タリ、武家ノ世ト成テハ、上下ノ人學術ナキ故ニ、古ヲ稽ルコトモナク、百官ヲ立テ國家ヲ治ムル計モナク、只因循シテ世ヲ送ルノミ也、殊ニ當代ハ、戰國ノ中ヨリ兵亂ヲ歷テ、其後東照宮海內ヲ一統シ玉ヒシ故ニ、國初ノ時ハ、立官ノ議ニ及バズ、軍中ノ法令ヲ其儘ニ治國ニ用ヒテ、萬事ヲ簡易ニ行ヒ玉ヘリ、治平久シキニ隨テ、朝廷ヨリ

末々ニ至ル迄、事多ナルハ世ノ習ナレバ、此時ニ當リテ、百官有司ヲ立テザレバ、事治リ難シ、然ルヲ國初ノ簡易ヲ行ヒシトキノ如ク、軍中ノ法令ニテ治ントスルハ、諸工人ノ其道具ヲ用意セズシテ、其事ヲ巧ニセントスルガ欲シ、凡聊ノ小事ヲナスモ、ソレ〳〵ノ有司執事ノ役人ヲ立ズシテハ、事成就シ難シ、況ヤ國家ヲ治ルハ、極タル大事ナルヲ、百官有司ナクテハ、如何ニシテ治マルベキヤ、是必然ノ理也、今ノ世トテモ、天下ニ大小ノ役人トイフ者ナキニ非ズ、役人ハ則官吏也、此外ニ百官迚、イカ様ノコトヲ建置クベキヤト難ズル者アリ、是立官ノ道ヲ知ラザル也、今此難ニ因テ、官職ノ義ヲ略記シテ、志アル人ノ爲ニ、立官ノ道ヲ明スコト左ノ如シ

一　凡官ニハ必爵位アリ、爵位トハ、位階也、周ノ代ニハ、位階ノ下ヨリ數ヘテ、一命ヨリ九命ニ至ル、譬ヘバ今ノ世ノ釋法師ノ位階ノ如シ、命ハ、君上ヨリ爵ヲ賜ル命也、庶人ヨリ始テ爵命ヲ賜ハリテ士ト成ルヲ一命トス、是今ノ九位ニ當ル、是ヨリ陞リテ九命ニ至テ極ル、九命則今ノ一位ニ當ル、人臣ノ位、是ヲ最上トス、秦ノ代ニハ、二十等ノ爵アリ、漢ノ世ハ爵名ノ名ナクシテ、祿秩ニテ階級ヲ定ム、祿秩トハ、俸米ノ高也、俸ハ今ノ役料切米トイフ物ノ如シ、秩ハ其高也、三公ハ俸米萬石、其下ハ中二千石、比二千石、千石、比千石、八百石、比八百石、六百石、比六百石、五百石、比五百石、四百石、比四百石、三百石、比三百石、二百石、比二百石、百石、比百石、凡テ二十等也、中ハ滿ノ義、比ハ並トイフ意ナリ、中二千石ヨリ二千石ハ少ク、二千石ヨリ比二千石ハ又少シ、廩米ヲ取ルニ、

分量多少アリ、百石ノ下ハ皆小吏也、三國ヨリ以後ハ、又爵位アリ、唐ノ代ニハ、一品ヨリ九品迄ノ位階ヲ定ム、一級ニ正從二等有テ、凡十八等也、正トイフハ、本等也、從ハ今ノ世ニ某ノ並トイフガ如ク、本等ノ爵ノ後ニ從フ義也、此十八等ハ、唐ヨリ以後皆然ナリ、日本ニテモ、公家ノ世ハ、隋唐ノ制ニ倣テ、一位ヨリ八位迄ノ位階ヲ定ム、一位ヨリ八位マデハ、各正從アリ、四位以下ニハ、正ニモ從ニモ上下有テ、四等トナル、九位ヲバ初位ト名ヅケテ、是ニ又大少上下ヲ分タレバ、是モ亦四等也、凡テ正一位ヨリ少初位下マデ三十等也、總ジテ官人ノ禮法ハ、官ノ高下ニ拘ラズ、爵位ノ高下ニテ尊卑ヲ定ムル也、其故ハ、官ノ高下ハ定マリタル者ニテ、別段ノ恩賞ニ因テハ、位階計リ昇進スルコトアル故ニ、官人ノ尊卑ハ位階ニテ分クル也、恩トイフハ、君ノ親戚、或ハ何ニテモ由緒有モノヲバ、位階ヲ陞セラルヽコトアリ、賞トイフハ褒美也、其官ノ上ニ功勞アルモノニハ、褒美ニ位階ヲ陞スル也、官職ハ、人々ノ才能ニ叶ヘルコトヲ任ズル物ナレバ、輙ク遷シ易ヘヌ也、武家ニハ爵位トイフ物ナクシテ、役ニ高下ヲアラシメ、恩賞ノコトアレバ、才能ノ可否ヲ問ハズ、下キ役ヨリ高キ役ニ遷スコトアリ、是大ニ政事ノ害也、當代ハ少々公家ノ爵位ヲ假テ、四位、五位、六位ノ三等ノ位階アレドモ、僅ニ此三等ノミニテ、六位ノ下ハ皆無位也、カヤウニ位階少クテハ、尊卑高下ヲ別ツベキ様ナキ故ニ、從來ノ如ク、役ニテ尊卑ヲ別ツコトヲ免レズ、是立官ノ道ニアラズ、サレバ古ヘヨリ官ニハ必爵位ヲ定ムル也

一凡官ニハ必人ノ數ヲ定ム、官人ノ數ヲ員トイフ、一人ニ限ル官アリ、二人三人、乃至十人二十人ニスル官モアリ、是肝要ノコト也、六卿ノ如キハ云フニ及バズ、何ニテモ政事ヲ行ヒ、判斷ヲ用ル官ハ必一人ニ限ル、若二人三人ナレバ決斷成難ク、イツモ衆議判ニ落テ、縱其中一人器量ノ者有テ、上策ヲ思ヒ付ケテモ、同役ノ心ヲ兼憚テ言ヲ出サズ、縱言ヲ出シテモ、人心不レ同コト面ノ同カラヌ如クナレバ、衆議トリ〳〵ニテ一決セズ、イカナル上計モ行ハレズシテ止ムコト多シ、且官事ハ權ヲ以テ行フ物ナルニ、同役二人モ三人モ有レバ、役ノ權イクツニモ分レテ、下ノ者其役人ヲ畏レズ、此方ニテ咎ラルレバ、彼方ヘトリ入テ憐ヲ乞ヒ、彼方ニテ咎メラルレバ、此方ヘ取入テ憐ヲ乞フ様ナルコト有リ、窮鳥懷ニ入トイフ如クニテ、我ガ方ヘヒシ〳〵ト取入テ憐ヲ乞フ者アレバ、自然ニ心傾クハ人情也、同役ノ中ニテ、一人ハ是ヲ惡ミ、一人ハ是ヲ愛スルトキハ、議論必一決セズ、是ヨリ役ノ權モ輕クナリテ、政事ノ行ハレヌ端トナル、周易ニ、一君二民ハ、君子ノ道也、二君一民ハ、小人ノ道也トイヘリ、今ノ政ハ則二君一民也、又月番トイフコトハ、番衆ノ上ニ有ルコト也、異國ニテ郎官トイフハ、此方ノ番衆ノ如クナル者也、彼郎官ニハ、更番トテ交代シテ其役所ヲアケヌ様ニスル、是ニ一日ニテ代ルモアリ、五日十日ニテ代ハルモアリ、一月或ハ一時トテ三月ニテ代ハルモアリ、半年一年ニテ代ハルモアリ、其務ニアタルヲ直トイフ、此方ニテ當番トイフガ如シ、一日ノ當番ヲ直日トイフ、一月ノ當番ヲ直月トフ、一年ノ當番ヲ直歲トイフ、直月ハ、此方ノ月番也、直歲ハ此方ノ年番也、如レ是番衆ノ

上ニ有ルコトヲ、政事ヲ行フ役人ヲ方ニ取用テ、同役數人ニテ、政事ヲ一月宛輪番ニ行ヒテ廻スコト、以テノ外ナル怪事也、輪番ニテ主ドレバ、人々其心ニ合セテ行フ故ニ、政事一定セズ、威權モ立タズ、下ニテ政ヲ受ル者モ、人々ノ思附ニ隨テ、朋黨モ出來ル、政事ノ敗ル丶基也、異國ニハ勿論ナリ、吾國ニモ公家武家ノ世ニ、月番ト云フ事ハ、終ニ未是アラズ、當代ニ始マルコトニテ、甚シキ非法也、サレバ立官ノ道ニハ、政事ヲ行フ官ハ、必一人ニ定ムル也、又國家ヲ治ル道ハ、政事ヲ人ニ委任スルヲ善トス、委ノ字ヲバユダヌル、マカスル、スツルト訓ズ、ユダヌルトイフモ、人ニ打マカスルコトナリ、人ニマカスルハ、其コトヲ捨物ニスル意ニテ、イカ樣ニスルヲモ此方ヨリ構ハヌ故ニ、委ノ字ニ弃ル意アルナリ、下ノ上ニ事ル道、上ヨリ其事ヲ我ニ打任セラレ子バ、何程ノ忠臣ニテモ、十分ニ心ヲ盡シ難キモノ也、心ヲ遺シ事ヲ扣ル樣ニアリテハ、政事行ハレズ、善政ハ出來ラズ、上ヨリ我ニ打任セラルレバ、上ノ目ガ子ヲ大切ニ思ヒ、又我モ何卒此事ヲ立ント思フ故ニ、譬中品ノ人ニテモ、有程ノ智慧ヲ振ヒ出シ、精力ヲ盡ス故ニ、思ノ外ニ事ノ成就シ難キモ、成就スル也、又至テ姦邪ナル者ハ恃マレズ、大抵ノ人ニテハ、上ヨリ我ヲ憑ミテ打任セラレタルコトニハ、私曲モ、怠惰モ成難キ物ナル故ニ、古ヘヨリ明君ハ必臣下ニ委任セラル、漢ノ高祖ノ未漢王ニテオハセシトキ、黄金四萬斤ヲ陳平ニ持セテ、此金ニテ楚ノ軍中ヘ反間ヲ遣ラシメテ、其金ノ出入ヲ問玉ハヌガ如キ、英雄ノ作略トイヒツベシ、委任トイフハ、ケ樣ノコトヲ云フ也、然ルニ此委任トイフコトモ、役人數多アリテハナ

リガタシ、唯一人ナレバ、如何樣ニモ委任セラルヽナリ、二人三人ニ命ジテ、委任トイフモノニアラズ、如レ是ノ子細有ル故ニ、官人ハ必一人ニ限ル也、異國ニテ六卿ヲ立ルハ、六人ナレドモ、各々其職アル故ニ、六人ノ中ニテモ互ニ人ノ官ヲバ少シモイロハズ、一官一官ノ事バカリヲ、其卿一人ニテサバク也、若一人ノ處分ニ疑惑有テ、自分一己ニ決シ難キコトアレバ六卿タガヒニ相談スルコトモアレドモ、人ノ智慮ヲ借リ、人ノ思ハク聞ク計ニテ、畢竟ノ決斷ハ、我一人ニテ定ムル也、然レバ六卿トテ六人アリテモ、月番トイフコトハ決シテコレナシ、百官ノ中ニテ、員ヲ多クシテ、二人三人、乃至十人廿人アルモアリ、譬バ行人トイフハ、今ノ世ノ使番也、謁者トイフハ、今ノ奏者ナリ、給事中、舍人ナド云フハ、今ノ小姓近習也、監トイフハ、今ノ目付也、ケ樣ノ類ハ、一人ニテ濟ヌ故ニ、幾人モ置テ、用ノ足ル樣事ノ缺ヌ樣ニスル也、此等ノ官ハ、政事ヲ行フ役ニ非ズ、決斷ヲ用ヒザル役ナレバ也、輕キ官ニテモ判斷ノ入ル役ハ、必二人トタテズ、一人ニ限ル、是立官ノ本意也

一　凡立官ノ道ハ、一官ニ必三等四等ノ役人アリ、其一官ノ首ヲ長官トイフ、長官ハ必一人也、其下ニ副トイフ者アリ、副ノ字ハ、ソフト訓ズ、又立カハリ、カケ替ノ役也、副ハ、佐ナリ、長官ヲ佐クル也、今ノ世ニ副役トイフ者ナリ、此副ニハ二人三人モアリ、一人ナルモアリ、官ノ大小輕重ニ因ル、長官ノ病氣、其外指合アルトキハ、此副ナル者、長官ニ代リテ、長官ノ事ヲ務ム、常ニハ長官ノ職事ヲ佐テ其勞ヲ省キ、又ハ當職ノ事二ツニモ三ツニモ分テ司ルモアリ、此副ヲ、明朝ニテハ佐貳官トイフ、

貳ノ字モ、副ノ字ノ意也、副ノ下ニ、又一等ノ佐アリ、今ノ世ノ書役、或ハ勘定人抔ノ類ナル者也、又其下ニ、記錄ヲ司ドリ、或ハ藏ヲ預カル樣ナル者アリ、畢竟周官ノ府史トイフ類也、此等ハ皆人數ニ多少アリ、凡官ノ下ニハ、吏トイフ者アリ、今ノ世ノ與力手代ナドイフ者ノ如シ、異國ニテハ、官ノ務ヲ職トイヒ、吏ノ務ヲ役トイフ、畢竟吏トイフハ、下役ノコト也、吏ノ下ニ卒トイフ者アリ、官人ノ使ヒ者也、今ノ足輕中間ノ如シ、此吏卒ハ、何レノ官ニモコレアリ、畢竟周官ノ胥徒也、日本ノ古ノ百官ニモ、皆四等ノ役人アリ、一ヲ長官トイフ、次ヲ次官トイフ、三ヲ判官トイフ、四ヲ主典トイフ、主典ハ記錄ヲ司ドル、此四等、何レノ官ニモアリ、譬ヘバ中務等ノ八省ノ卿ハ長官也、大輔少輔ハ次官也、丞ハ判官也、錄ハ主典也、諸寮ノ頭ハ長官也、助ハ次官ナリ、允ハ判官ナリ、屬ハ主典也、諸司ノ正ハ長官ナリ、佑ハ判官ナリ、令史ハ主典ナリ、諸司ニハ次官ナシ、諸國ノ守ハ長官ナリ、介ハ次官ナリ、椽ハ判官ナリ、目ハ主典也、他ノ諸官モ皆然ナリ、サレバ長官ノ政事ニ疑惑アレバ、次官判官主典マデモ、打ヨリ論議シテ、其上ノ決斷ハ長官一人ニテ行フ、凡官ハ如此ナルベキ物ナルニ、當代ハ諸役ニケ樣ノコトナシ、只勘定奉行計リ官制ニ似タリ、奉行ノ下ニ、吟味役トイフ者四五人アリ、又其下ニ、勘定衆トイフ者數十人アリ、勘定衆ニモ上中下三等アリ、又下ニ同心トイフ者アリ、足輕也、是官制ニ似タレドモ、長官ノ勘定奉行トイフ者只一人成ベキニ、三四人有テ、月番ニテ其役ヲ務ムル、是官制ニ違ヘリ、然レドモ他ノ諸役ニハ是程ノコトモナシ、老中抔ハ天下ノ政事ヲ行フ役ナル

ニ、是ヲ佐クル下役ナシ、歎カシキコト也

一 凡官ニハ必職掌トイフコトアリ、職トハ、役目也、何ノ官ハ何ノコトヲ掌ル、何ノ事ヲ、役ニシテ務ルトイフコトアリ、先諸役ノ職ヲ二ツニ分テ、文職武職ト定テ混ゼヌ様ニスル、是第一ノ義也、異國ノ書ニ、文武ノ官人トイフハ是也、當代ハ文職武職混雜シテ分レズ、是大本ヲ失ヘリ、扨文職武職ノ中ニテ、又一官一官ニ、其職掌ヲ正シク分テ定置クベキニ、當代ノ諸役ハ、職掌サダカナラズ、執政老中ハ、天下ノ政事ヲ出ス役ナルニ、幾人アリテモ、人々ニ職掌ヲ分ケズ、月番ニテ事ヲ行フ、是大ナル違也、サレバ何事ニテモ、執政ノ役ノ上ノコトヲ、時ニ臨テ一人ニ命ゼラルレバ、辱キトテ拜謝ス、當職ノコトヲ其役ニテ務ムルニ、何ゾ新ニ命ゼラルルコトアラン、又ナンゾ是ヲ辱キトテ拜謝スルコト有ンヤ、是大ナル誤也、官人ノ法ハ、譬バ宗廟社稷ヲ祭玉フベキ時節ニハ、大宗伯トテ、祭祀ヲ掌ル官人言上シテ、上意ヲ承テ下ノ諸官ニ命令ヲ行テ、其用意ヲ致スコト也、然ルヲ今ハ大祭祀ノ事アレバ、老中ニテ一人、寺社奉行等ノ諸役人ヲ一人ヅツ召テ、其事ヲ命ゼラル、同役數多アル中ニテ、時ニ臨テ一人ニ命セラルレバ、辱キトテ拜謝スルイワレ有ル様ナレドモ、上モ下モ勞煩スルコト也、且必シモ人才ヲ擇デ命ゼラルニハ非ズ、是モ順次ヲ以テ務ルコトナレバ、特恩トイフモノニテモナキニ、辱キトテ拜謝スルハ諛ニ近シ、兼テヨリ一人ノ身ニ職掌定リテ有レバ、時ニ臨テ命ゼラル、ニモ及バズ、拜謝スルコトモナシ、萬事皆此類也、今ノ老中ハ、異國ノ六部ノ尙書ノ如クナルモノナ

レバ、六卿ノ如ク一人一人ニ職ヲ分テ掌ラシムベキ事也、サモアラバ、不才ナル人ハ、アグミテ困ムコトモ有ベケレドモ、少モ才略アル人ハ、顧望スル所ナク、決斷シ易カルベシ、不賢ナル人ハ、過失モ有ルベケレドモ、賢能ヲサヘ用ヒラレバ、大ニ政事ニ益有リテ、國家ノ光ヲ増スベキ也、老中ヨリ下ニテ、國家ノ政事ニ預カル重キ役ハ、執事ナリ、寺社奉行ナリ、町奉行ナリ、勘定奉行也、執事ハ、執政ニ並テ國政ヲ議スル故ニ、是ヲ若年寄トイフ、異國ノ參知政事ノ官ノ如シ、旗本ノ士大夫ヲ主リ、奥方ノ政ヲ聽キ、納戸泉、臺所ヲ主ドリ、米穀、金銀、貨財ノ出納ヲ主ドル、甚重キ職也、然レバ長官ヲ一人ニ定テ、佐貳官ヲ三等モ四等モ附ラルベキ者ナルヲ、同役數多ニテ、月番送リニスルコト、甚不可ナルコト也、寺社奉行ハ、天下ノ神社寺院、僧尼巫祝ノ類ヲ主ドリ、遠國ノ町人、代官所ノ外ノ百姓ヲ主ドル、甚重キ役也、殊ニ獄訟ヲモ決斷スル役ナレバ、長官一人ニシテ、佐貳官ヲ數多附ケラルベキニ、同役三四人ニテ、月番送リニスルコト心得ヌ事ナリ、町奉行ハ、東都ノ市鄽ヲ主ドリ、工商ノ類、凡町人タル者ヲ主ドル、是亦長官一人ニ、佐貳官ヲ數多附ケラルベキ事ナリ、然レドモ都下ハ極テ廣キ處ニテ、事モ甚多ケレバ、一官ニテハ制令行ヒ難キコトアリ、サレバ都下ノ地ヲ二ツニモ、三ツニモ四ツニモ分テ、其分タル數程官ヲ置テ主ドラシムベシ、昔漢ノ代ニ、長安ノ京ヲ三ツニ分テ、京兆、左馮翊、右扶風ト名ヅケテ官ヲ置タリ、是ニ倣テ、日本ノ公家ノ世ニハ、平安城ノ都ヲ東西二ツニ分テ、東ノ京ヲ左京ト名ヅケ、西ノ京ヲ右京ト名ヅケテ、官ヲ兩處ニ立テ治メシム、其長官ヲ左

京大夫、右京大夫トイフ、次官ヲ亮トイヒ、判官ヲ進トイヒ、主典ヲ屬トイフ、此左京右京ノ官ヲ京職トイフ、當代ノ諸司是ニ似タリ、京職ノ下ニ、市正トイフ官ヲ置テ、市町ノコトヲ主ドラシム、左京ノ下ナルヲ東市正トイヒ、右京ノ下ナルヲ西市正トイフ、是モ下役有テ、判官ヲ佑トイヒ、主典ヲ令史トイフ、如レ是アリテコソ、職掌分レテ政事ノ決斷モ成ルベキニ、今ハ町奉行二人モ三人モ有テ、月番送リニスルハ、甚官制ニ違ヘリ、勘定奉行ハ、古ノ司徒ト司空トヲ兼タル樣ナル役ニテ、後世ノ大司農ノ官ノ如シ、日本ノ公家ノ民部主計ノ如クナル者也、昔ニ比スレバ、今ノ勘定奉行ハ位卑シ、此役ニハ、上ニ云ヒシ如ク、佐貳官數多有リ、官制ニ近ケレドモ、長官ヲ一人ニ定メラレズ、同役數多ニテ、月番送リニスルコト不可也、遠方ノ役人モ、其所ニテ政令ヲ行ヒ、獄訟等ヲ判斷スル程ノ役ハ、皆長一人ニ定ムルコト、伏見、奈良、堺、山田等ノ奉行ノ如クニシテ、次ニ佐貳官ヲ相應ニ附ラルベキ者也、サモアレバ、長官ノ指合タルトキハ、左貳官其代リヲ務メ、長官ノ心ニ疑惑アル樣ナル六カシキ事ハ、佐貳官小吏マデモ打ヨリテ、僉議シテ其上ノ決斷ハ長官一人ニテ行フベシ、又長官遷リ替リテ、新官其跡ヘスワリタルトキ、佐貳官以下ノ者ハ、前ヨリ務來レル者ニテ、其官ノ法式等ヲ能ク心得テ居ル故ニ、只今ノ新シキ官人ニテモ、政事ヲ行フニ指支ルコトナシ、ケ樣ニ萬端ニ付テ便利ナルコト多シ、天下ヲ平均ニ治ムル道、是ヨリ肝要ナルコトハナシ、サレバ國家ヲ治ムルニ、何ゾ官職ヲ立ザランヤ

一　凡百官ヲ立ル法ハ、執政ヨリ以下末々迄、何レノ官ニモ必役所ヲ立ツ、是ヲ官府ト云フ、或ハ曹ト云、或ハ司ト云、所ト云、局ト云、務トイフ、色々ノ名アレドモ、皆官府也、役所也、其一官ノ人、毎日役所ニ會集シテ、夫々ノ事務ヲナス也、官府ニハ必藏ヲ建テ、其一官ノ記錄、諸道具ヲ入レ置ク、サレバ官人ハ易レドモ、官府ハ永々ニ易ラヌ故ニ、イツニテモ其官ノ故事、先例ヲ尋ルニ滯ルコトナシ、官府ノ作リハ、朝廷ノ外ニ、別處ニ建ル也、日本ニテモ公家ノ世、大內裏ノトキハ、然有リシ也、當代ハ執政ヨリ以下何ノ役ニモ、官府有ルコトナシ、只勘定奉行計リ、朝廷ノ外ニ勘定所トイフ處アリ、是官府ニ似タリ、町奉行モ役屋鋪トイフ者アレバ、是モ官府也、此二役ノ外ハ官府ナシ、寺社奉行抔ハ、面々其宅ニテ、政事ヲ行フ故ニ、記錄等有リテモ、面々ノ藏ニ入レ置テ、其役ヲ免ジタル後ハ、其記錄ヲ人ニ見スルコトモナク、果ハ反故トナル、是官府ニアラザル故也、サレバ何ニテモ久シキ昔ノ故事ナドヲ考ントスルトキ、舊記ノ出ルコト無クシテ、下ノ其政ヲ受クル者ニ命ジテ、先例ヲ錄呈セシメテ、其例ノ如ク行フ、諸侯皆然ナリ、是上ノ人下ノ政ヲ受ル也、ケ樣ノコトハ、官ノ制ニ於テ有ルベキコトニ非ズ、凡公事ヲ私第ニテ行フコトハ、古ヨリ甚禁ズルコト也、私第トハ、己ガ宅ナリ、今ノ役人ハ、皆公事ヲ私第ニテ行フ、役人ノ私ニ非ズ、官府ナキ故ナリ

一　凡百官ノ官人ヨリ出ス書キ物ヲ文書トイフ、上ヘ奉ルニモ、下ヘ下スニモ、必官名ヲ書シテ、下ニ其官人ノ名ヲ書ス、異國ハ勿論ナリ、日本ニテモ、公家ハ古ヨリ今ニ至ル迄然ナリ、當代武家ニテハ、

官制ナキ故ニ、文書ニモ記錄ニモ、官名ヲ書セズ名ヲ書セズ、苗字ト常ニ稱スル假名計ヲ書ス、譬バ本多佐渡守、青山大藏大輔ナド書ス、上ニ役ノ名ヲ書セザル故ニ、此文書ヲ出シタル人、老中カ、寺社奉行カ、何ノ役ニテ有リシトイフコト知レズ、名トイフハ、今ノ名乘也、佐渡守、大藏大輔ナド云フハ實名ニ非ズ、モトハ官名ナレドモ、官ニハ必職アリ、佐渡守トテ、佐渡國ヲ治ムルニ非ズ、大藏大輔トテ、大藏ノ職事ヲ務ルニアラズ、只古ノ官名ヲ取テ、常ノ稱號トシタル者ナレバ、假名トイフベキ者也、此假名ハ、父子代々襲デ稱スルコト世ニ多キヲ、是計リヲ書シテ、實名ヲ下ニ書セザレバ、父カ、子カ、孫カ、イヅレノ人トイフコト知レズ、殊ニ松平ナドハ、國姓ナレバ、松平氏ノ人ニハ、同假名ノ人數多アリ、又役ハ度々易ハルコトナレバ、縱其人ト知レタルモ、何ノ役ノトキ出シタル文書トイフコト知レ難シ、當時三五年ノ間ニテサヘ、知レ難キ事アリ、増テ數十年ヲ歷テハ、如何ニシテ是ヲ知ンヤ、是大ニ歎カシキコト也、又異國ニテハ、官人ニハ必官ノ印有テ天子ヨリ賜ハルヲ、文書ニハ必官ノ印ヲ打ス、今此方ノ武家ニテハ、官ノ印ナキ故ニ、文書ニ私印ヲ打ス、是亦非禮也

一　當代武家ノ諸役、皆官制ニ違テ、政ノ害ト爲ルコト多ケレドモ、他ノ事ハ姑論ゼズ、中ニ就テ甚シク政事ノ障トナルコト二ツアリ、一ツニハ斷獄ノ官ヲ立ラレズ、二ツニハ問刑ノ官ヲ立ラレズ、此二ツノ官ハ、必別ニ立ツベキ官也、一ツニ斷獄トハ、獄訟ヲ聽ク官也、獄訟トハ、今ノ世俗ニ公事トイフ是也、對頭有リテ爭論スルヲ獄訟トイフ、獄訟ヲ判斷スル官ヲバ、必別ニ立テ、士大夫ヨリ農工

商賈、僧尼巫祝道ノ輩迄ヲ、只一官ニテ聽ク樣ニ有ルベキナリ、異國ニテハ、斷獄ノ官ヲ大理ト名ヅケ、日本ニテ公家ノ世ニハ、檢非違使ノ官ヲ異國ノ大理ニ擬ヘタレドモ、檢非違使ハ、今ノ世ノ盜賊奉行ノ樣ナル官也、異國ノ大理ハ獄訟ヲ折クノミ也、當代ハ寺社奉行、町奉行、勘定奉行、三奉行所ニテ、各其支配ノ獄訟ヲ聽ク、寺社ノ訟ヲバ、寺社奉行所ニテ聽キ、町人ノ訟ヲバ、町奉行所ニテ聽キ、百姓ノ訟ヲバ、勘定奉行所ニテ聽ク、凡獄訟ニハ、必對頭アリテ曲直ヲ爭論スル也、双方俱ニ其ノ奉行所ノ支配ナレバ、其奉行所ニテ折クハ勿論也、然ルニ獄訟ハ、對頭ニ定リナキ物ナレバ、支配ノ異ル者ト訟ヲ取結ビタルハ、一方ノ奉行所ニテ折クベキ樣ナキニヨリテ、双方ヲ評定所ニ召テ、三奉行會合シテ同時ニ是ヲ聽キ、判斷モ三奉行相議シテ是ヲ決ス、是衆議判也、斷トイフ物ニハアラズ、凡テ官人ハ私ヲ懷ハズ、偏頗有ル間敷コト勿論ナレドモ、何ノ官ニテモ、支配ノ者ヲバ、回護スルハ人情也、回護トハ、人ヲカバヒテ佐ル也、評定所ニテ、彼支配此支配跨ガリタル訟ヲ、三奉行折クトキ、如何程私ヲ懷カズ、偏頗ナキ樣ニ思フトモ寺社奉行ハ寺社方ヲ回護シ、町奉行ハ町人ヲ回護シ、勘定奉行ハ百姓ヲ回護スル心ナキトイフコトハ有ルマジキナリ、サモアランニハ、何レノ處ヨリ決斷ノ詞ヲ出サンヤ、衆議判ニテ、多分ニ附テ事ヲ治ムルヨリ外ノ道ナシ、是ナンゾ正シキ政ナランヤ、且獄訟ハ、百姓、町人、寺社人ノミニ限ラズ、士大夫ノ中ニモ有ルコト也、左樣ノ獄訟ヲバ何人ニ折カシメンヤ、三奉行會合スレバ、十人程ノ人ナリ、一人モ其事ヲ我身ニ任ジテ決斷スル者ナケレバ、

只口々ニ理窟ヲ云フ計ニテ、一途ニ落著スルコトナシ、故ニ官ヲ立ル道ハ、斷獄ノ官ヲ一官ニ定置テ、長官一人ニ佐貳官ヲ數多附テ、國中ノ人ノ獄訟ヲ只一官ニテ折カシムル也、當代モ此官ヲ別ニ立ラレテ、獄訟トイフ獄訟ヲバ、何レノ支配ノ者ナリトモ、皆是ニ折カシメ、三奉行ハ只夫々ノ政令ヲ行ヒ、其下ヲ治ルノミニテ有ルベキ也、問刑ノ官トハ、刑罰ヲ行フ官也、刑罰ヲ行フヲ問刑トイフ、問刑ノ官ヲバ、必別ニ立ルコト古ヨリノ法也、異國ニテハ、大司寇刑部ノ官也、日本ニテモ公家ノ世ニハ、刑部卿則判官ノ長也、卿ノ下ニ、輔丞錄トテ三等ノ佐貳官アリ、一切ノ刑ヲ主ドル、刑官ニハ民ヲ支配スルコトナシ、支配スルト、刑ヲ行フトハ、一官ニ混雜スマジキ義アル故也、其義トイフハ、上ニ云ヘル如ク、支配ノ者ヲバ必回護スル心アル、是人情也、人情ハ人ノ內心ノ實情アル故ニ、是ニ悖リテハ、何事モ指支ヘテ行ハレヌモノナリ、故ニ古ヨリ刑官ヲ別ニ立テ、六卿ニ列シテ重キ職トセリ、人ヲ刑スルハ大事ナル故ニ、是ヲ重職トシテ、殊ニ其人ヲ擇ブ也、當代ハ此刑官ヲ別ニ立ラレズ、寺社奉行、町奉行、勘定奉行、盜賊奉行、此四奉行面々ニ刑罰ヲ行フ、是甚官制ノ法ニ非ズ、其子細ハ人ノ畏ル、所也、寺社ト町ト勘定ト此奉行ハ、皆民ヲ治ル役也、盜賊奉行ハ民ヲ治ムル役ニハ有レドモ、姦惡ノ者ヲ捕フル役也、此四奉行ハ、其奉行所ニテ刑ヲバ行フマジキ義也、今ハ此四奉行皆面々ニ刑ヲ用フ、故ニ刑ノ權ヲ以テ支配ノ民ヲ劫カス樣ノ私曲生ジ易シ、奉行タル人ハ、左樣ノ私曲有ルマジケレドモ、下ノ小吏ノ輩、刑殺ノ威ヲ以テ小民ヲ懼シ劫カシテ、貨賂ヲ求ルコトアリ易シ、

刑ヲバ刑官ニテ行フ事ニ定マリヌレバ、小吏ノ輩左樣ノ姦ヲナスコト能ハズ、又刑ヲ行フハ至テ大事ナレバ、正大公明ノ人ニ非レバ能ハズ、右ノ四奉行モ、皆正大公明ノ人成ベケレドモ、上ニ云ヒシ如ク、我ガ支配ノ民ト、他ノ支配ノ民ト、取結ビタル訟ヲ判斷ノ上ニテ、一方ニテモ双方ニテモ、罪アリテ刑ヲ當ルトキ、人情ニテ我ガ支配ノ民ヲバ回護スル心アル故ニ、覺ヘズ正大公明ヲ取ハヅスコトアリ、是少事ニアラズ、大ニ政ノ害也、然レバ刑官ヲバ別ニ立テ、士農工商、其外出家社人、凡ノ人民ノ刑ヲ一官ニテ行ハシメラルベキ也、當代百官ヲ立ラレズ、今ノ如クノ諸役ニテアルベクトモ、此理官ト刑官トヲバ、別ニ立ラルヽ樣ニ有マホシキ也、當代諸侯ノ國ニハ、左樣ノ制アル處モ有リト聞ケリ

一當代武家ノ諸役、世ノ治平久シキニ隨テ、事多クナリ來リテ、役ノ品モ增加シテ、萬機ノ政務ニ於テ、遺ル處ナシトミユ、然レドモ愚意竊ニ古ヲ稽テ思フニ、今ノ世ニ無クテ叶ハザル役ノ闕タル者三ツアリ、一ツニハ方伯ノ職、二ツニハ宗正ノ官、三ツニハ太僕ノ官也、一ツニ方伯トイフハ、諸侯ノ長也、異國ノ古、封建ノ世ニハ、天子ノ同姓ノ諸侯ノ中ニテ、德アル人ヲ二人擇デ、諸侯ノ長トシ、天下ノ諸侯ヲ東ト西ト二ツニ分テ、二人ノ方伯ニ屬セシム、是ヲ東伯西伯ト稱ス、周ノ文王ヲ西伯トイフハ、殷ノ代ノ方伯ナリシ故也、殷ノ代ニハ、同姓ヲ擇ニモ限ラザリシトミユ、周ノ代ニハ、同姓ヲ用ラレタリ、總ジテ天下ノ人、大モ小モ統ル所ナクテハ叶ヒ難シ、諸侯ハ天子ニ次テ重キ者ナレド

モ、屬スル所有リテ、天子ヨリ一等下ニテ、是ヲ統治ムル者無クテハ叶ハザル事ナル故ニ、方伯ヲ立タリ、方伯ノ下ニ、又連帥トイフヲ立テ置テ小グヽリヲシタリ、連帥ハ、將帥ノ意ニテ、下ヲ帥ユル者ヲ帥トイフ、俗ニ引キマハストイフ意也、連トイフハ其方角ノ最寄〱ニテ、五國十國程與アヒテ、諸侯ヲ相約シテ力ヲ合スル樣ニスルヲ、與國トイフ、諸侯ノ中ニテ、其與國ヲ引連レ引廻ス者ヲ、連帥トイフ、此連帥ハ方伯一人ノ下ニ幾人モアリ、如レ是諸侯ノ長ヲ立置テ、天下ノ諸侯ヲ治ル故ニ、異國ノ書ニ、方伯連帥トイフ名目見ユルナリ、前ニ云ヘル如ク、秦漢ヨリ以後ハ郡縣ナレバ、方伯連帥トイフ者ナシ、郡守縣令トイフ者ハ、郡縣ヲ治ル官ナレドモ、當代ノ郡代抔ノ樣ナル者ニテ、其重キ者也、然レバ方伯連帥トイフ者モナキナリ、日本モ公家ノ世ハ、郡縣ノ治ナレバ、方伯連帥トイフ者モナキコト勿論也、當代ハ不思議ニ封建ノ制トナリテ、萬石以上ノ諸侯三百ニ近シ、萬石ニ滿ザル更代ノ寄合衆トイフ者ハ小諸侯也、都合シテハ三百程ノ諸侯ナレバ、是ヲ東西二ツニモ分テ、統治ムル人ヲ、同姓ノ諸侯、若ハ譜第昵近ノ諸侯ノ中ニテ其人ヲ擇テ立置レバ、甚政ノ事ノ便利ナルベシ、此方伯ノ職ナキ故ニ、諸侯ヲバ執政之ヲ主ドリ、執政數多アレバ、月番ニテ輪番ニ其政令ヲ主ドル、是大ニ古制ニ違テ不便利ナルコト也、二ツニ宗正トイフハ、宗ハ、宗室也、人主ノ兄弟、其外親シキ同族ヲ宗室トイフ、宗正トイフ官ハ、宗室ノ面々ヲ主ドリテ其政令ヲ出シ、其行跡ヲ正ス官ナリ、異國ニテハ宗正トイフ、日本ニテ、公家ノ世ニハ、正親正トイフ官是ニ當ルナリ、異國ニテハ必同姓ノ人ヲ

用ユ、日本ニテハ、同姓ニモ限ラズト見ユ、此官ヲ立ル意ハ、宗室ハ君ノ一族ナレバ、人臣ト云ヒナガラ、極テ貴キ人ニテ、其祿モ厚ケレバ、富貴ナルト、上ニ親キトノ故ヲ以テ、驕奢淫佚ノ不行跡ヲ働クコト多シ、縦其臣下ナドニ忠信ノ者アリテ諫メ止ムル迚モ、富貴ノ人ノ習ニテ、畏ロシキコトナケレバ聽納ルヽコトナシ、サル故ニ宗正トイフ官人ヲ立テ、宗室ノ面々ノ儀ヲ正シ、若其上ニ宗正ノ手ニ餘ルコトアレバ、天子ニ言上シテ、天子ヨリ黜罰ヲ行ヒ玉フ、是ニ因リテ宗室ハ、此宗正ノ官人ヲ常ニ畏ルヽナリ、宗室ノ畏ルヽ者ヲ立置クハ、宗室ノ方ニ惡事ナキ樣ニトノ防也、異國ニテ古ハ諸侯ノ國ニモ此官アリ、公族大夫トイフ是也、楚國ニテハ三閭大夫トイフ、昭氏、屈氏、景氏トテ、楚國ノ一族三家ニ分レテ、三所ニ居ルヲ主ドル故ニカク名ヅケタリ、屈原此官ニ有リシ也、當代ハ尾張、紀伊、水戸ノ三國ヲ始トシテ、宗室ノ類葉歳ヲ逐テ繁榮ス、國家ノ政教修レル故ニ、宗室ノ驕奢淫佚ノ過失モナク、安寧ナルハ目出度コト也、然ドモ古詩ニ、「君子防ニ未然ニ」トイヘリ、禍ノ來ラヌ前ニ其防ヲ致スハ、聖人ノ道也、貧賤ノ身ニテモ、必畏ルヽ者ナクテハ叶ハズ、増テ富貴ノ人ニハ、常ニ畏ルヽ者アレバ、愼ノ便トナリテ、惡事ノ防ト成也、當代ハ宗正ノ官ナクシテ、宗室ノコトヲ執政ヨリ取捌ク、執政ハ日々萬機ノ政務ニ暇ナケレバ、事アリテ宗室ヨリ告ルヲ聽テ、其事ヲ取捌クノミ也、常ハ宗室ニ疎々シクテ、何ゴトヲモ聞知ラヌ樣ニアレバ、宗室ノ守ト成コトナシ、然レバ今若宗室同姓ノ諸侯ノ中ニテ、長者ヲ一人擇デ宗正ノ職ヲ命ゼラレ、宗室ノ政令ヲ掌リ、上ヨリ下ル命ヲ傳

ルモ、宗室ヨリ申シ玉フコトヲ奏進スルモ、悉是ニ掌ラシメ、朝參ノ日ハ、殿上ニテ其進退ヲ輔導シ、常ニハ時々ニ宗室ノ邸第ヲ訪問シテ、其行儀ヲ省察シ、若不法ノコトモアラバ、潜ニ教訓ヲ加ヘ、孝悌ニシテ德行ノ人有ラバ、言上シテ上ヨリ其人ヲ褒奬セサセ玉フ樣ニ有ラバ、宗室ノ爲ニ大ナル益ニテ、國家ノ藩屛盤石ノ固メ成ベシ、若宗室ノ中ニ然ルベキ人ナクバ、譜第昵近ノ諸侯ノ中ニテ、同姓ノ長者ヲ擇ビ、爵位ヲ貴クシテ宗正ノ職ニ居ラシメラルベシ、是長久ノ計ナリ、三ツニ大僕トイフハ、人主ノ出行ニ、車馬、僕從、路次ノ行列等ヲ掌ル、人主ノ朝廷ヨリ他ニ出玉フ程ナレバ、遠方ヘ旅行シ玉フニモ、都ノ內ニテモ、又祭祀、田獵等ニ出玉フモ、從者ノ政令、大小皆此官ノ掌也、サレバ人主ノ出行シ玉フコトノ類ヲバ、何事ヲモ平日ニ調置テ、不時ニ急ナルコトアル時、少モ手支ナキ樣ニ心懸ル、是太僕ノ職分也、古異國ニテハ、諸侯ノ國ニモ此官ハアリシナリ、當代武家ニ此官ナキ故ニ、少ニテモ常ニ變リタルコト有レバ、時ニ臨デ他ノ役人ニ命ジテ、此事ヲ主ドラシメラル故ニ兼テ心得ヌコトヲ俄ニ調レバ、先例ノ知レ難キ事モ有リ、急ニ辨ジ難キコトモ有テ、一旦ニ成就セズ、半年一年ノ日數ヲ閱テ、其事ノ行ハル樣ニナル、是ナゲカシキコト也、官人ニ闕タル者アレバ、政ノ滯トナルハ、ケ樣ノ類也、然レバ太僕ノ官ハ、必有ルベキ官也、周ノ穆王ノトキ、君冏トイフ人ヲ太僕ノ官ニナシ玉ヒシ、其勅命ノ詞ヲ記シテ、尚書ニ冏命ノ篇アリ、太僕ハ君ノ身ニ近ヅキ、車馬、僕從數千萬人ノ首領ナル故ニ、殊ニ其人ヲ擇ブ也、人主出行ノトキニ限ラズ、乘輿ニ扈從スル輩ハ、

平日モ太僕ニ屬シテ、其法令ヲ受ル也、公家ノ官ニハ大舍人頭アリ、日本ノ太僕也

一　凡天下ノ治メハ、封建ニシテ治ムルト、郡縣ニシテ治ムルト二ツノ制アリ、封建ニアラザレバ異國吾國郡縣、郡縣ニアラザレバ封建、古ヨリノ體、此二法ニ外ナラズ、封建ニハ封建ノ治メアリ、郡縣ニハ郡縣ノ治メアリ、是ヲサヘ心得ヌレバ、其上ノ治メハ、異國モ吾國モ、古モ今モ人情物理少モ易ハルコトナケレバ、異國吾國ノ古ヲ稽テ、今ノ政ニ行フニ、行ハレザルコトナシ、人君ハ人ノ首ノ如クナル者ナル故ニ、元首トイフ、首計リニテ手足ナケレバ、人ノ身ノ用タラズ、首ハ靜ナル物ニテ、手足ハ動ク者也、君ト臣トハ、首ト手足トノ如クナル者ナリ、サレバ大國ヲ治ムルニモ、小國ヲ治ムルニモ、君ノ身一ツニテ治ムルコト能ハヌ故ニ、必百官ヲ立テ、夫々ノ職ヲ分テ事ヲ掌ラシム、百官ヲ立ルコトハ、必古ヲ稽テ今ノ時宜ニ合セテ、闕典ナキ樣ニスル、是聖人ノ法也、前段ニ倭漢ノ古ヲ引テ、立官ノ義ヲ論ズルハ、今ノ世ヲ必古ノ如クニ治メ、古ノ異國ノ官職ヲ當代ニ用ントイフニハ非ズ、古ヲ稽ヘズシテハ、如何ナル大智ニテモ、今日ノ事ニ便利ナル法ヲ立ルコト能ハヌハ、必然ノ道理ナル故ニ、遠キ古ヲ引タル也、末段ニ云ヘル大理、宗正、太僕ハ、漢ノ代ニテハ九卿也、周ノ代ニハ六卿ニテ有リシヲ、漢ノ代ニハ、三公ノ下ニ九卿ヲ置タリ、九卿ノ中ニ、大理ハ理官ト刑官トヲ兼タル職ナリ、理官ト刑官トハ、本ハ一官ナレドモ、國家多事ナルニ及デハ、二官ニ分ルコト便利也、周禮ニハ、秋官司寇ノ屬官ニ、種々ノ官アリ、一官トイヒナガラ別官也、當代ハ此役テキニモ有ネドモ、職

掌混雜スル故ニ、政ニ不便利也、宗正太僕ノ二官ハ、漢ノ九卿ノ中ノ官ニテ、今ノ世ニ全クナキ官ナル故ニ、是ヲ闕典トイフ也

一　當代武家ニ大中納言、參議、中少將、侍從ノ官ヲ命ゼラルヽハ、眞ノ官ニハ非ズ、公家ノ官ヲ借テ、武家ノ爵位トナシタル者也、又山城守、大和守ナドト稱シ、中務大輔、掃部頭抔ト稱スルハ、爵ニモ非ズ、只公家ノ官名ヲ借テ、五位以上ノ爵アル人ノ呼名ニシタル者也、世俗是ヲ官ト思ヘルハ誤也、侍從以上ハ、皇朝ヨリ任官ノ宣旨下ル、其餘ハ四位五位ノ叙爵ノ口宣計也、既ニ五位ニ叙セラルレバ、呼名ハ何國ノ守トモ、何大輔トモ、何頭トモ、心ニ任セテ稱スル也

一　當代諸侯ノ國、國毎ニ制度各異ニシテ一樣ナラザレドモ、皆官職ヲ立テザルコトハ一同ナリ、天子ハ天下ヲ治メ、諸侯ハ一國ヲ治ム、政ニ大小有ルノミニテ、其道異ナルコトナシ、然レバ百官ヲ建ルコトモ、天子ノ如クニシテ其員ヲ少クシ、其事ヲ省クノミ也、今ノ世ハ、諸侯ノ國モ同役ヲ數多立置テ、萬事ヲ月番ニテ主ドル世ノ風俗也、政事ノ害是ニ過タルコトナシ、必一官一人ニ定テ其職掌ヲ別チ、夫々ノ政事ヲ一人ニ委任シテ、傍ヨリ指イロハヌ樣ニスベシ、長官次官ノ意ヲ以テ、本役一人ニ副役トイフ者ヲバ、役ノ大小輕重ニ隨テ、二人モ三人モ附置キ、又其下ニ、判官主典ノ意ヲ以テ、下役ヲ數多附テ、本役ヲ佐ケシムベシ、一人ニテ二官三官ヲ兼ルコトハ、大夫ノ家ノコトニテ、諸侯ニハ有ルマジキ古ノ道ナレドモ、小諸侯ハ大國ノ大夫ノ如ク、祿モ薄ク人モ少ケレバ、役ノ筋ト其人ノ材ト

ヲ考テ、兼帯シテ便ナルコトヲバ、一人ニ二役ヲ任ズルモ可也、又諸侯ハ大小トナク、東都ニ朝覲シテ、一歳或半歳滯留スルコト有ルニ因テ、國ト江戸トニ役人ヲ置カザレバ叶ハズ、サレバ迚同役ヲ二人ニナシテハ、國ト江戸ト政ヲ異ニスル弊有リテ、害ヲ生ズル也、國ハ本也、江戸ハ旅館ニテ末ナレバ、本役ハ常ニ國ニ居リ、副役ノ者替ル〴〵江戸ニ在番シテ、小事ヲバ在番ノ副役決斷シ、大事ヲバ國ノ本役ニ告テ決斷ヲ受クベシ、是古ノ道ニテ、今ノ世ニモ侯國ノ治メ、是ヨリ便ナル事有ルベカラズ、近來諸侯ノ政ヲ觀ルニ、必國ト江戸ト兩派ノ諸役人アル故ニ、萬事兩端ニナリテ一決ナク、同役ノ中ニテモ、異見サマ〴〵ニテ和合セズ、郡下ノ爲ニ不便ナルコト多ク、畢竟其君ノ爲害ヲナスコト甚多シ、皆流俗ノ習ハシニ染ミテ、官職ノ道ヲ不レ知故也

經濟錄卷第三　終

經濟錄卷第四

天文

史記ニ天官書アリ、漢書ニ天文志有リ、皆天文ノコトヲ具ニ書セリ、天文トハ、文ハ、文明文章ノ義也、日月星辰ハ、天ノ文章ニテ明ナル物ナル故ニ、是ヲ天文トイフ、帝堯ノ時、義氏和氏ノ兩家天文ヲ主ドル、義仲、義叔、和仲、和叔、此四人ヲ四方ノ遠地ニ居ラシメテ、四方ノ天象ヲ考シメラル、帝堯天下ヲ治メ玉ヒシ最初ニ、此事ヲ勅命有リシ也、帝舜ノ世ニ至テ、璿璣玉衡ヲ造テ、天文ノ日月、五星、列宿ノ運行ヲ推歩セシム、璿璣玉衡ハ、今ノ世ノ渾天儀ノ如クナル物也、天文ヲ測ル器也、推歩トハ、天ノ運行ヲ測ルコト也、天文ハ厤ヲ作ル本也、人ハ天地ノ間ノ靈物ニテ、人ノ道ハ天ニ本ヅキタル者也、上天子ヨリ下庶人ニ至ル迄、平日ノ仕業、悉天道ニ順テ爲スベキ故ニ、堯舜ノ聖人天下ヲ治メ玉フニ、天文ヲ殊ニ重ンジ玉ヘリ、人ノ行ヒ天道ニ合ヘバ祥瑞現ジ、天ニ背ケバ災殃降ル、賤キ者ニテモ、分ニ隨テ其驗有リ、況ヤ天子諸侯ノ身ハ、天下國家ニ係ルコトナレバ、善惡ノ行ヒ必天ニ達シテ、吉凶ノ應アラズトイフコトナシ、三代ヨリ以下、何ノ世ニモ天官ヲ重ンジテ、大史ノ官是ヲ掌ル、後世ハ此官ヲ欽天監トモ名ヅケタリ、朝廷ノ側ニ、司天臺トイフ高キ臺ヲ作テ、大史欽天ノ官人、

日夜此臺ニ登テ天文ヲ觀ル、若天變見ユルコト有レバ、君ニ奏聞シテ、愼デ德ヲ修メ玉フベキ由ヲ言上ス、古ノ人主ハ、天ヲ畏レ玉フコト甚シキ故ニ、漢ノ天子杯ハ、日食ヲサヘ畏レ玉ヒテ、天下ニ詔ヲ下シテ、賢良、方正、直言、極諫ノ士ヲ求メ玉ヘリ、増テ其餘ノ大小ノ天變ニハ、甚シク恐懼シ玉ヘリ、其故如何ニトイフニ、天ハ活物ナリ、二六時中運動スル物也、活物ハ暫モ運動セズシテアラレヌコト、人間ハ云フニ不レ及、鳥獸魚鼈迄モ同然也、然レドモ天ハ萬物ノ父母ニテ、其位至テ尊ク、其德至テ正キ故、鳥獸魚鼈人類ノ運動ノ如クニ、隨意ニ運動スルニテハナク、日夜ニ常度有リテ、毎日過不足ナク運動シテ、三百六十五日ヲ歷テ故ノ處ニ復ル、是天道ノ正直ナル處也、サレバ人ノ知術ヲ以テ推測レバ、日月星辰ノ運行皆知ラルヽ也、明年ノ日食ヲ今年ヨリ知ル樣ナルコト、是推步ノ力トハ云ヒナガラ、天道ノ正直ナル故也、然ドモ本來活物ナレバ、常度アル內ニ、少ヅツノ過不足ナキニ非ズ、又時トシテハ大ナル過不及モアリ、是ニ因テ古ノ聖人ハ、天ヲバ人智ニテ測知ルベキ者トシ玉ハズ、日食ヲモ天變トナシテ、孔子モ春秋ニ書シ玉ヘリ、又古ノ天官ハ、後世ノ如クニ算數ヲ用テ推步スルコトヲ尙（カミ）トセズ、日夜ニ天文ヲ觀テ、其常ト變トヲ的知スルコトヲ貴ベリ、是却テ天文ニ精シカリシ故也、後世ニ及デ、人ノ智巧盛ニナリテ、推步ノ術精シキニ益精シクナリテ、十年ノ後ヲモ前ニ考知ル樣ニナリテ、其推步スル所差ナキヲ恃デ、古ノ如クニ目ニテ見テ知ルコトヲ務メズ、今日推步ノ差ハザルニ誇テ、古ハ天官ノ道粗略ナリシトイフ、淺間舖心也、凡古人ノ萬事ニ精巧ナルコト、後人ノ及

ブ所ニ非ルハ天官ノミニ限ラズ、古人ハ此道ヲ創タル人ナリ、若古人ノ智巧ヲ用テ、其術ヲ精シクセバ、何ゾ後世ノ如ク日食等ヲ前知スルコト能ハザランヤ、然ルヲ是ヲ算數ニテ前知セントセズシテ、只其時ニ臨デ目ニ見テ知ル様ニアリシハ、畢竟天ハ活物ナレバ、時ニ當リテ差ナキコト能ハズ、且天意ハ測リ難ケレバ、巧ヲ用テ是ヲ測ントセズ、立テ災變トナシテ戒愼ヲ人主ニ示玉ヘル、古聖人ノ深キ智慮ナリ、此義ハ聖人ノ道ヲ知タル者ナラデハ、會得セヌコト也、凡古ノ聖人ハ、天ヲ畏レ玉フコト殊ニ甚シク、世ノ婦人女子ノ鬼神ナドヲ畏ル、如ク、後世ヨリ觀レバ、愚ナル様ニ思ハルル事アリ、孔子ノ言ニ、「君子有二三畏一」ト曰ヒテ、「畏二天命一」トイフヲ第一ニ曰ヘリ、又王孫賈ニ答テ、「獲二罪於天一、無レ所レ禱」トモ曰ヘリ、宋儒ノ理學ノ說作リテヨリ、二程、朱晦菴ガ徒、天ハ即理也ト說テ、理ヲ以テ天ヲ推サントス、凡理ハ、死物ノ上ニアル者ニテ、智者ノ明ナル心ニテ推セバ、一ヨリ十迄見透サルル物也、譬ヘバ圍棊ノ上手ノ一局ノ棊ヲカコムニ、敵ト我トノ始終ノ道ヲ見通スガ如シ、棊ニハ勝ツ理ト負ル理ト、二ツヨリ外ニ理ナキ故也、天命ハ左様ニ見通サルル者ニ非ズ、譬ヘバ雙六ノ骰子ヲ投ルガ如シ、雙六ニモ上手ト下手ト有レドモ、骰子ノ采ハ、一ヨリ六迄ノ內ニテ、何レノ采ガ出ントイフコトヲ知ルコト能ハズ、宋儒ノ天ヲ理ニテ推ストイフハ、骰子ノ采ヲ、何ノ次ニ何ト定置ク様ナルコト也、左様ノ道理何トシテ有ルベキヤ、宋儒ノ說ノ如ク、天ヲ理トミレバ、天命ハ畏ルヽニ足ラヌ者トナルナリ、近代ハ天官ヲ談ズル者モ、皆理學ヲ傅會シテ、廣大無邊ノ天ヲ、方寸ノ掌ニ置タル様ニ云ヒナス、

是五星列宿ヲ見識リタルノミニテ、天ヲ知タル者ニハ非ズ、星經ニ記セル所モ、史記ノ天官書、漢書ノ天文志、其外歴代ノ天文志ニ載タル所モ、運行ノ度數ヲ明セルノミナラズ、天變災異ノ說ヲ多ク記セリ、是乃古聖人ノ天ヲ敬ヒ畏レ玉ヘル遺敎也、吾國ニテモ公家ノ世ニハ、天文博士ヲ置テ、天官ヲ掌ラシメラレシニ、武家ノ世ニハ、此官ヲ設ケズ、當代モ國初以來其沙汰ナカリシニ、憲廟ノ時、安井算哲ヲ弈師ヨリ擢テ、天官ニ備ヘ玉ヒテヨリ、國家ニ此道ノ博士出來レリ、誠ニ一代ノ盛擧也

律曆

一　律ハ十二律也、此方ニテハ十二調子トイフ、黃帝ノトキ、伶倫トイフ、人嶰谷ノ竹ヲ截テ十二律ヲ造リシヨリ、律トイフコト始マレリ、黃鐘、太簇、姑洗、蕤賓、夷則、無射ヲ陽トス、大呂、夾鐘、仲呂、林鐘、南呂、應鐘ヲ陰トス、陽律六ツ、陰律六ツ、合セテ十二也、伶倫竹ヲ截テ管トナシ、是ヲ吹テ音律ヲ定メ、五音ヲ分ツ、五音ハ宮、商、角、徵、羽也、五音十二律ヲ以テ天地ノ氣ヲ和ゲ、八風ヲ調ヘ、萬物ヲ生育ス、八風ハ、八方ノ風也、聖人樂ヲ作テ天地ノ氣ヲ調ヘ、人心ヲ和ゲ玉フ、其本ハ十二律也、軍中ニテモ、律ヲ吹テ兵氣ヲ候フコトアリ、六韜ニ見エタリ、迂遠ナル樣ナルコトナレドモ、左ニハ非ズ、音律ノ道ハ極テ微妙ナル者也、日本ニテ十二調子トイフハ、壹越、斷金、平調、勝絕、下無、雙調、鳧鐘、黃鐘、鸞鏡、盤涉、神仙、上無也、壹越ハ黃鐘、斷金ハ大呂ナリ、平調ハ太簇ナリ、勝絕ハ夾鐘ナリ、

下無ハ姑洗ナリ、雙調ハ仲呂ナリ、凫鐘ハ蕤賓也、黃鐘ハ林鐘ナリ、鸞鏡ハ夷則ナリ、盤涉ハ南呂ナリ、神仙ハ無射ナリ、上無ハ應鐘也、五音ハ、宮ヲ君トシ、商ヲ臣トシ、角ヲ民トシ、徵ヲ事トシ、羽ヲ物トス、萬物ノ聲種々各別ナレドモ、五音十二律ノ外ニ出ルコトナシ、十二律ハ黃鐘ヨリ起ル、是十一月ノ律也、黃鐘ノ管ハ、內ノ圍九分、長サ九寸ナリ、是ヨリ大呂、太族、夾鐘ト、次第ニ少ヅツ短ク成リテ、應鐘ニ至テ四寸有奇也、天下ノ物ノ制度、皆黃鐘ノ律ヨリ出ヅ、黃鐘ハ萬事ノ本也

一 度ハ黃鐘ノ律ヨリ起ル、度トハ、丈尺也、今ノ俗ニイフモノサシ也、黃鐘ノ管、長サ九寸、此一寸トイフハ九分也、サレバ黃鐘ノ九寸トイフハ、實ハ九九八寸一分也、十寸ヲ尺トシ、十尺ヲ丈トシ、十丈ヲ引トス、分、寸、尺、丈、引是ヲ五度トイフ

一 量ハ黃鐘ノ律ヨリ起ル、量トハ斗斛ナリ、此方ニ云フマス也、黃鐘ノ管ノ內ヘ秬黍ヲ入ルレバ、千二百粒入ル、是ヲ龠トイフ、龠ヲ二ツ合セタルヲ合トス、十合ヲ升トシ、十升ヲ斗トシ、十斗ヲ斛トス、龠、合、升、斗、斛是ヲ五量トイフ、斛ハ則石也

一 衡ハ黃鐘ノ律ヨリ起ル、衡ハ、斤兩也、衡ハ秤ノサホ也、錘ヲ權トイフ、秤ノオモリ也、權衡トイフモ秤也、黃鐘ノ管ノ內ニ容タル秬黍千二百粒ノ重サヲ十二銖トス、是ヲ倍シテ二十四銖ヲ兩トシ、十六兩ヲ斤トシ、三十斤ヲ鈞トシ、四鈞ヲ石トス、朱、兩、斤、鈞、石是ヲ五權トイフ、一兩ハ、後世ノ一錢ノ重サ也、一鈞ハ四百八十兩也、一石ハ千九百二十兩也、一銖ハ三分三厘三毫有奇也、以上度量

衡ノ法、皆古制也、後世ハ幾度モ增損有リテ、古法ノ如クニハアラズ、日本ノ度量衡ハ、又日本ニテ古來增損アル故ニ長短、大小、輕重、異國トオナジカラズ、此類ハ一代ノ制作ニ係ルコトナレバ强ニ古法ヲ不レ用

一 律度量衡ノ四ツハ、天下ノ制度ヲ定ムル本ナル故ニ、古ノ聖人是ヲ重ンジ玉ヘリ、尚書ノ舜典ニ、「同ニ律度量衡ニ」トアルハ、帝舜ノ天下ヲ巡狩シ玉フトキ、四方ノ國ニテ、其處ノ律度量衡ヲ召集メテ、法制ニ合ヘルカ違ヘルカヲ點撿シ玉ヘル也、此四ツハ法度ノ器ナレバ、是ニ違有リテハ、天下ノ制度亂ルヽ故ニ、是ヲ天下一同ナル樣ニ正シ玉ヘリ、中庸ニ、「車同レ軌」ト云ヘルモ、天下ノ制度一同ナルコトヲ云ヘリ

一 異國ニテ、古ハ樂師ニ瞽者ヲ用テ、音律ヲ正サシム、目ナキ者ハ、必音律ニ精シキ故也、吾國ニテハ瞽者ヲ用ヒズ、音律ノ道ヲバ伶人ノ家ニノミ傳ヘテ、他人ハ是ヲ不レ知、サレドモ公家ノ世ニハ、雅樂世ニ行ハレシ故ニ、常ノ人モ是ヲ學デ、平日ノ樂ミトセリ、武家ノ世ヨリ以來ハ、猿樂、田樂等ノ俗樂作リテ、雅樂廢レシ故ニ、音律ノ道ヲ知ル者世ニ稀也、マシテ今ノ世ニハ、又種々ノ俗樂多クナリヌレバ、雅樂ハ愈廢レタリ、此時ニ於テ音律ノ道ヲ說クハ、甚迂遠ナルコト也、古ノ道ヲ以テ論ズレバ、是政事ノ本ニシテ肝要ナルコトナレドモ、今日ノ急務ニアラザレバ、姑是ヲ略スルモ害ナシ、然ドモ律ハ萬事ノ本ナリトイフコトヲバ知ラズバ有ルベカラズ

一　日本ノ度ハ、唐ヨリ受傳ヘタリトイフ、昔ノ尺ハ、今姑略シテ之ヲ論ゼズ、當代用ル所ノ尺四種アリ、一ツニハ木匠ノ曲尺、是唐ノ世ノ尺也トイフ、錬鐵ニテ作ル故ニ、是ヲカネザシトイフ、二ツニハ鯨尺、木匠ノ曲尺ニテ一尺二寸五分ヲ一尺トス、婦人衣服ヲ裁ツニ是ヲ用フ、海鯨ノ鬚ニテ作ル故ニクジラザシトイフ、三ツニハ呉服尺、曲尺ニテ一尺二寸ヲ一尺トス、布帛ヲ賣ル者是ヲ用フ、四ツニハ襪子尺（タビザシ）、曲尺ニテ八寸ヲ一尺トス、和襪（タビ）ヲ作ル者是ヲ用フ、此四種ノ尺ハ、天下一同ニシテ、公私皆是ヲ用フ、上ヨリ嚴令ヲ下シ玉ハザレドモ、姦猾ノ民モ、下ニテ私ノ度ヲ作ルコトモナシ、然レドモ布帛ヲ鬻グ者、或ハ呉服尺ヲ用ヒ、或ハ鯨尺ヲ用ヒ、或ハ曲尺ヲ用ルコト有リ、鬻グ所ノ物ニヨリテ、尺ニ不同アリ、是紛ラハシキコトナル故ニ、布帛ヲ買フ者、若是ヲ辨知セザレバ、誤テ心得ルコトアリ、姦商或ハ是ヲ以テ人ヲ欺ク、是則尺ニ種々ノ尺アル故也、願クバ種々ノ尺ヲ止テ、萬事ニ曲尺一ツヲ用ル樣ニ有リタキモノ也

一　日本ノ量、古代ハイカナル制ニテ斗斛ノ大小、幾許ナリシトイフコト詳ナラズ、近世マデハ、曲尺ニテ方五寸、深サ二寸五分ヲ升トセシヲ、當代方四寸九分、深サ二寸七分トナセリ、方ニテ二分ヲ損ジ、深サニテ二分ヲ增タルニヨリテ、內實舊量ヨリモ多シ、舊量ハ一升ノ內實六十二寸五ナリシニ、今ノ新量ハ、六十四寸八二七也、是新量ハ舊量ヨリ大ナリ、此新量ヲ今升ト稱シテ行フニヨリテ、舊量ヲバ、古升ト稱シテ用ヒズ、國家既ニ新量ヲ制セラレテヨリ、都下ニ官局ヲ立テ、大小ノ量器ヲ作

ラシム、其制、鐵ヲ以テ外ヲ固メ、口ニハ斜ニ鐵弦ヲ施シテ、姦猾ノ者ノ輙ク削少スルコトヲ防ギ、底ニ烙印ヲ打シテ制度ヲ明ニス、世俗是ヲ弦懸升トイフ、此方量ヲ天下ニ行ヒテヨリ、民間ニテ私ニ量器ヲ作ルコトヲ禁ズ、是誠ニ律度量衡同クストイヘルニ合ヘル政也、然ドモ何ナル故ニヤ、民間ニテ私量ヲ作リ用ルコト、今ニ至ル迄止マズ、禁止ノ令下レバ、暫止テ程ナク又起ル、私量ヲ作ルトナレバ、厚キ板ヲ用ル故ニ、外面ハ縦定制ノ如クノ大サニテモ、内實少シ、況ヤ外方深サ倶ニ方量ヨリ小キヲヤ、姦猾ノ民、是ヲ以テ人ヲ欺キ利ヲ求ム、是恐クバ禁令ノ未ダ嚴ナラザル故成ベシ、又甲州ニハ、武田氏ノ制トテ、二升五合ヲ一升トスル量アリ、江州ニハ、佐々木氏ノ制トテ、八合ヲ一升トスル量アリ、是ヲ武者升(ムサマス)トイフ、武者ハ、地ノ名也、江州ノ内ハ、今モ此量ヲ用フ、豫州勢州ニハ、六合ヲ一升トスル量アリ、封建ノ世ハ、諸侯國別ニ制度ヲ立テ、其風俗ニ從テ治ムルハ、固ヨリノコトナレドモ、度量衡ノ三ツハ、天下通用スル法度ノ器ニテ、一統ノ制ヲ守ルベキ義ナル故ニ、唐虞ノ世ノ政ニ、「同ニ律度量衡ニ」トイヘリ、孔子ノ言ニ、「謹ニ權量ニ審ニ法度ニ」ト曰ヘルハ、則此義也、度量衡ニ異同有レバ、姦猾ノ民是ニ因テ詐ヲ行ヒ、人ヲ欺クコト有リテ、政ノ害トナル故ニ、古聖人是ヲ謹ミ玉ヘリ、謹ムトハ、嚴密ニスルコト也、然レバ諸侯ノ國モ、一同ニ官局ヨリ出ル法量ヲ用フベキ者也、官局トハ、國家ノ制度ヲ奉テ器財等ヲ作出ス所ヲ、局トイフ、今ノ世ニ座トイフ是也

一　日本ノ古ノ秤ハ、イカナル制ナリシヤトイフコト詳ナラズ、當代ハ、京都ト東都ト兩處ニ官局ヲ立

テ、京都ハ神氏、東都ハ守隨氏ニ命ジテ、大小ノ秤ヲ作ラシメラル、東國ハ守隨ガ秤ヲ用ヒ、西國ハ神氏ノ秤ヲ用フ、民間ニテ私ニ秤ヲ作ルコトヲ不レ許、秤ヲ作ルコトヲ得ザルノミナラズ、秤ノ少ニテモ損ジタルヲ、私ニ修補スルコトヲモ許サズ、又神氏ノ秤ヲ東國ニテ用ヒ、守隨氏ノ秤ヲ西國ニテ用ルコトヲモ許サズ、若此法ヲ犯ス者アレバ、兩局ノ徒見ツクルニ隨テ、其秤ヲ奪取テ衡ヲ折テ棄ル、是國家ノ法令ニテ、制禁甚嚴也、度量衡ノ三ツノ中ニテ、只此法ノミ至テ嚴密也、秤ハ微細ナル物ニテ、姦ヲ成易キ故ナルベシ、誠ニ「謹二權量一」ト曰ヘル孔子ノ聖謨ニ合ヒテ、目出度法令也、然ルニ異國ニテハ、十錢ノ重サヲ一兩トシ、十六兩ヲ一斤トス、一斤ハ百六十錢也、斤ヨリ以上ハ、幾斤ト數ヘ、斤ノ下ハ、幾兩、幾錢、幾分ト數フルコト、金銀、藥物、絲綿、鹽肉何ニテモ輕重ヲ以テ數フル者ハ、皆此數ヲ用フ、日本ニテハ、物ニ隨テ斤兩同カラズ、黃金ハ四錢八分ヲ一兩トシ、銀子ハ四錢三分ヲ一兩トシ、餘ノ諸物ハ、大抵四錢ヲ一兩トス、或ハ五錢ヲ一兩トスル物モアリ、斤ニ至テハ、百六十錢ヲ一斤トスルハ通法ニテ、二百錢ヲ一斤トスル物モアリ、二百三十錢、或ハ二百五十錢、或ハ三百錢ヲ一斤トスル物モアリ、尋常ノ粗大ノ物ハ、斤ヲ以テ數ヘズ、只十匁百匁ト數ヘテ、千匁ニ至レバ、一貫匁ト數ヘテ、其上ハ百千萬貫匁トイフ、貫ハ則錢一千文也、匁ハ則錢ノ字也、如レ此幾匁ト數ヘテ上ルハ、紛ラハシキコトナシ、斤兩ニテ數フル物ハ、上ノ如ク斤兩ニ不同アル故ニ、常ノ人惑ヒ易ク、姦猾ノ民欺詐ヲナシ易シ、異國ノ如クニ、斤兩ヲバ一同ニ定ラレンコト、政事ノ便利ナルベシ 已上律ヲ論ズ

一曆ハ民ニ時日ヲ授テ、稼穡ノ時節ヲ失ハザラシメン爲ニ設タル者也、堯典ニ、朞三百有六旬有六日、以㆓閏月㆒定㆓四時㆒成㆑歲ト有ルハ、帝堯ノ羲和ニ命ジ玉ヘル言也、是ヨリ以後歷代是ヲ重ンズ、日本ノ曆ハ、皆中華ノ曆也、此方ノ百官ニ、曆博士有リテ曆ヲ作ル、上古ヨリ中華ノ代々ノ曆ヲ用タリシニ、清和天皇ノ貞觀三年ヨリ、唐ノ長慶宣明曆ヲ用テ、當代ノ天和年中迄、八百餘年是ヲ行ヘリ、其間異國ニテハ數度改メシニ此方ニテハ推步粗略ナル故ニ、曆ノ差ヲ不㆑知、因循シテ八百年ヲ經タリ、天和二年日蝕大ニ差ヘルニ因テ、憲廟鈞命ヲ下シ玉ヒテ、曆ヲ改シム、弈師安井算哲、元ノ郭守敬ガ授時曆ノ法ニ依テ、新曆ヲ作テ獻ズ、號ヲ貞享曆ト賜ハリ、貞享元年ヨリ是ヲ行フ、授時曆ハ、法ノ精微ナルコト古曆ニ度越セリ、今ノ貞享モ、日本ニテ上古ヨリ未ダ如㆑此ノ曆ハアラズ、憲廟ノ明德、算哲ガ功誠ニ不朽トイフベシ、然レバ當代曆法ニ於テハ遺憾ナシ、不佞又何ヲカ議センヤ、但今ノ見行ノ曆本ヲ觀ルニ、習俗ニ牽レテ、謂レナキコトドモヲ書附タル處アリ、茲ニ一二ヲ擧テ其非ヲ示ス

一二月ノ中ヲ春分トイヒ、八月ノ中ヲ秋分トイフ、春秋分ヨリ第三日ヲ、世俗ニ入彼岸トイフ、此日ヨリ一七日ノ內ヲ、彼岸ト名ヅケテ、佛法ヲ信ズル愚俗婦女ノ輩、寺院ニ詣デ燒香ス、農人ハ是ヲ以種樹收獲ノ候トス、此彼岸トイフコト、佛經ノ中ニテハ、只煩惱ノ苦ヲ離レテ、涅槃寂滅ノ樂地ニ到ルヲ、人ノ海ヲ渡テ向ノ岸ニ著クニ喩ヘテ、彼岸ニ到ルトイフヲ、到彼岸トイヘルノミ也、仲春ト仲秋トノ月ノ中ニテ、一七日ヲ彼岸ト名ヅケテ、佛事ヲ行ズルトイフコトハ、佛法ニナキコト也ト聞ユ、

是只僧家ニテ利ヲ貪ル輩、是ニ託シテ愚民ヲ寺院ニ集テ、施物ヲ取ン爲ニ設タルコトナルベシ、縱佛法ニ有ルコト成共、暦法ニ關ラヌコトハ、書記スマジキ也、況ヤケ様ノ無稽ノコトヲ暦本ニ載スベキ義ナシ、是必刪去ルベキ事ナリ、暦本ニ載セズトモ、其日ニ用アラバ、春秋分ヨリ第三日ヲ初日ト知ツレバ、佛者ノ方ニ缺ルコトモ有ルマジ、農業ハ廿四氣七十二候ヲ以テ、其時節ヲ知ルコトナレバ、是亦彼岸ヲ恃ムコトモ有ルマジキ也

一 鬼宿日ハ、鬼宿値日也、値ハ當ルトイフ義ニテ、當番トイフ意也、二十八宿ヲ日ニ配スルコト、佛家ノ宿曜經ノ説ニテ、暦家ニナキコト也、二十八宿ノ中ニハ、鬼宿ハ吉事ヲ主ドル星也トテ、此星ノ値ル日ヲ吉日トスル也、鬼宿ノアタル日ヲ好テ用フベキナラバ、圭宿ハ凶事ヲ主ドルトイヘバ、圭宿ノ値ル日ヲバ除クベキ也、凡二十八宿ノ値日トイフコト、謂レナキコト也、日ノ名ハ、本甲乙等ノ十幹ヲ以テ定タルヲ、後ニ及デ子丑等ノ十二支ヲ配シテ、甲子乙丑等ノ六十ノ名ヲ立タリ、月ヲ十二支ヲバ十二支ヲ以テ名トス、此古來ノ大法也、此外ニモ七曜二十八宿等ヲ日ニ配シテ、値月値日トイフコトアルハ、皆佛家ノ説ニテ、暦法ニ聊モ關ラヌコト也、此等モ可二刪去一也

一 七十二候ハ、十二箇月ニ各節ト中ト有テ、一氣廿四氣ナルニ、一氣ニ各三候アリ、一氣十五日ナル故ニ、一候ハ五日也、候ハ、ウカヾフトイフ訓ニテ、一歳ノ内、風、雨、霜、露ノ變、鳥獸、草木ノ化ヲ觀テ、寒暑ノ往來、陰陽ノ氣ノ過不及ヲ候フニ、是ヲ證驗トスル也、陰、陽、寒、暑ノ氣ノ變遷スルコ

ト、大約五日程ニテ易ハル故ニ、五日一候ト定タル者也、譬バ桃初華トイフ候ニ、花未開カザレバ、春ノ寒キヲ知リ、花サク候ヨリ前ニ花サケバ、春ノ暖ナルヲ知ル類也、此七十二候ハ、二十四氣ニ附タルコトナレバ、暦本ニ廿四氣ヲ書附タレバ、是ニテ推テ、七十二候ヲバ知ルコト也、今ノ暦本ニ、餘ノ候ヲノセズ、半夏生一候ヲノス、半夏生ハ夏至ノ第二候也、夏至ヨリ十一日ヲ半夏生トス、藥草ノ半夏、此時ヨリ生ズルト也、今ノ俗說ニ、此日ヲ過テハ、筍ヲ喰ハズトイフニ因テ、暦本ニ足ヲ載タリ、又此日天ヨリ惡露降ル、又此日ヲ過テ生ジタル筍ハ、蟲ヲ生ジテ竹ニナラズトイフ樣ナル俗說アリ、凡七十二候ヲ書ツケバ、皆書附ベシ、半夏生バカリヲ書ツクル、是亦謂レナキ事也

一　二十四氣ハ、暦ノ本也、暦ヲ作ルニハ、當年ノ冬至ヨリ始テ、來年ノ大雪迄ニ至テ止マル、先二十四氣ヲ定テ、次ニ十二ケ月ノ朔ヲ定メ、次ニ滅日、沒日、四季ノ土用等ヲ定メ、後ニ日食、月食ヲ推測ス、是二十四氣ハ暦ノ體也、二十四氣ニハ各其名アリ、昔ノ暦ニハ、其名ヲ書タリシニ、近來ハ八節ト、小寒大寒ニノミ名ヲ書シテ、餘ハ只正月中、二月節抔ト、書シテ、其名ヲ不レ書、是法ニ背ケルコト也、八節ハ、立春、春分、立夏、夏至、立秋、秋分、立冬、冬至也、此八節ニ名ヲ書スル程ニテ、餘ノ氣ニ名ヲ書セザルハ粗略也、十二月ノ節ヲ小寒トイヒ、十二月ノ中ヲ大寒トイフ、又其ノ如ク、六月ノ節ヲ小暑トイヒ、六月中ヲ大暑トイフ、小寒大寒ニハ名ヲ書シテ、小暑大暑ニ名ヲ書セザルモ如何ナル義ゾヤ、是暦ヲ作ル者ノ俗ニ牽ルル故ノ失也、願クハ今ヨリ改テ、廿四氣ニ皆其名ヲ書スル樣ニ有リ

タキ者也

一　滅日沒日ハ、世間ニ所用ナキコトナレドモ、暦法ニ所用有リ、是モ昔ノ暦ニハ載タルヲ近來略セリ、今ヨリ之ヲ載スベキ也、暦ハ俗ノ爲計リニ作ル者ニ非レバ也

一　立春ヨリ七十五日ヲ花盛トシ、八十八夜ヲ春寒ノ終ニテ、霜ノ降ルトイヒ、二百十日ヲ風ノ吹クトイフ、皆和俗ノ云ヒ習ハセルコトニテ、異國ノ書ニ本據ナキコトナレドモ、農民ノ爲、又ハ世人ノ其時節ヲ知テ、夫々ノ心懸ヲスル爲ニモナレバ、是ヲ暦ニ載スルハ、苦シカルマジキカ

一　建除納音等ノ毎日ノ下ニ書シ、其外大明日、福日、誅日、五墓日、天赦日、滅門日、天火、地火、大火、往亡、血忌、幷ニ種々ノ宜禁ヲ書スルハ、陰陽家、五行家ノ説ニテ、暦法ニ少モ關カラヌコトナレバ、是等ヲバ載セズトモ有リタキ者也、然レドモ周易ニ、「聖人以ニ神道一設レ敎、而天下服矣、」ト説テ、時日ヲ擇ブ類ノコトハ、聖人ノ捨玉ハヌコトナレバ、愚民ノ爲ニ是ヲ存スルモ可也、畢竟民ノ爲ニ設タルコトニテ道ヲ知ル君子ハ拘ラヌコト也、此義ハ理學ノ儒者ノ知ル所ニ非ズ、凡天下ノ民ヲ悉君子ニ成シテ見ントスルハ、宋儒ノ道也、聖人ノ道ニハ非ズ、納音トハ、日ノ下ニ五行ヲ配スルヲ云フ

一　暦ノ初ニ、歳德、太歳、大將軍、金神等ノ位ヲ書スルハ、方所ノ宜禁ヲ知ラシムル也、是モ暦法ニ少モ關ラヌコトナレドモ、方所ヲ擇ブモ時日ヲ擇ブト同然ニテ、民ノ爲ニ設タル道ナレバ、存スルモ害ナシ、宜禁トハ、何ニヨシ何ニアシヽトイフコトナリ

一甲申ノ日ヨリ癸巳ノ日迄十日ヲ、十方暮トイフ、俗說甚謂レナキコト也、可レ除レ是

一八專ハ、壬子ヨリ癸亥迄十二日ノ內、十干ノ五行ト、十二支ノ五行ト同キ日、八日有ルヲ八專トイフ、丑辰未戌此四日ハ、干支ノ五行同カラザル故ニ、是ヲ間日トス、俗說ニ八專ノ日ハ天氣惡シトイフ、尤謂レナキコトニテ其驗モ見エズ、人事ニ所用ナシ、曆法ニ關ラヌコトニテ、陰陽五行占候ノ書ニモ本據ナキコトナレバ、是亦曆ニ載セズトモ有ルベシ　已上曆ヲ論ズ

地理

一地理トハ、理ハスヂメ也、木ノ木目ヲ理トイフ、理ハ條理也、地ニハ山川溪谷等ノ夫々ノ條理アル故ニ、地理トイフ、異國ニテハ、尙書ニ禹貢ノ篇アリテ、天下ノ土地山川ノコトヲ具ニ記セル、是地理ノ始也、又古書ニ山海經アリ、周ノ世ニハ、大司空ノ官、天下ノ土地ヲ主ドリ、職方氏ノ官、天下ノ土地ニ付タル政令、貢職ノ事ヲ掌ル、貢ハミツギ物也、職ハ天子ヘノ務方也、三代ノ後ニ及デハ、史記ニ、河渠書アリ、漢書ニ、地理志、溝洫志アリ、後漢書ニ、郡國志アリ、是皆地理ノ書也、漢ヨリ以後ハ、歷代ニ必地理志アリ、中華ニテハ、代ノ改ル每ニ、地理易ハル故也、歷代ノ地理志ノ外ニ、地理ノコトヲ記シタル書古來甚多シ、天下ノ全體ヲ記セルモアリ、州郡ヲ別ニ一州一郡宛詳ニ記シタルモアリ、凡地理ノ書、數百部トイフ數ヲ不レ知、土地ノ圖モ樣々ニテ、大小詳略數多アリ、地理ヲ知

ルハ、天下ヲ治ル本也、然レドモ大禹ノ如ク、一人ノ身ニテ、天下ヲ徧歷シテ知ルコトハ、常人ノ及バヌコトナル故ニ、後代ノ王者、天下ヲ取玉ヒテハ、必其一代ノ地理ヲ定メ、臣下ニ命ジテ地理ノ書ヲ撰セシメラル、明ノ太祖ハ天下ヲ取玉ヒテ、數多ノ儒者ニ命ジテ、大明一統志ヲ撰セシメラル、古來ノ地志ノ中ニ、一統志程詳ナルハナシ、其後又州郡ヲ別ニ記シテ、府志トイフモノ多ク出ヅ、地理ニ於テハ遺憾ナシトイフベシ、日本ニテハ上古ハ海内ノ地名モ定カナラズ、文字モ分明ナラザリシヲ、文武天皇詔有リテ、海内ヲ六十六州ニ定メ、郡ノ數ヲモ定メ、國郡ノ名ヲ悉ク二字ニ定メラル、是ヨリ日本ノ地理一定シテ、後世之ヲ改ルコトナシ、是誠ニ盛擧也、然レドモ異國ノ如クニ地志ヲ作ルコトナキユヘニ、海内ノ人、吾國ノ地理ヲ不レ知、昔ノ時、官人ノ處ニハ其記錄繪圖抔モ有ツランカ、世ニ普ク行ハレザレバ、人ノ可レ知樣ナシ、其後諸國ノ風土記アレドモ、是モ世ニ弘マラザル故ニ、永クハ傳ハラズ、末ノ世ニ至テハ、散亡シテ國家ノ力ニテモ求ラルベキ樣ナシ、增テ在下ノ人ハ、一覽スルコトモ不レ叶、開闢以來幾千年ヲ歷テ、中古ヨリ文字ノ道モ行ハレシニ、今ニ至ル迄地理ノ書トテ一部モ傳ハラザルハ、歎シキコトニ非ズヤ、畢竟文字ニ拙ク、述作ニ懶キ故也、又異國ニテハ、天子ノ勅命ニテ、何ニテモ政務ノ書ヲ撰ズレバ、板ニ刻デ天下ニ頒行フ行フユヘニ、人民マデ悉ク是ヲ見ル、吾國ニテハ、左樣ノ書若有リテモ、秘密シテ下ニ頒行ハル丶コトナシ、是政ヲ爲ス人ノ公ナラザル過也、吾國ノ古書ノ中ニモ、國家有用ノ書ドモ、多クハ亡失シテ後世ニ傳ハラザルハ、皆官府ニ秘密シ

テ廣ク世ニ行ハザル故也、鎌倉ノ右大將家ヨリ、天下武家ノ國トナリテ四百年ニ及ブ迄ハ、公家ノ世ノ風ニテ、天下郡縣ノ政ヲ行ヘリ、當代ハ封建ノ制ヲ創テ既ニ百年ナリ、大小ノ諸侯各分國有リテ封疆ヲ守ル、此時ニ於テ、地理ノ正シキ書世ニ行ハレザル故ニ、諸侯以下ノ領主、隣國隣郷ト境ヲ爭フコト往々ニ是レ有ルトキ、奉行所ニテ決シ難キコト多シ、異國ノ如クニ、勅撰ノ地志天下ニ流布スレバ、疆界分明ニシテ、下民モ常ニ是ヲ知ル故ニ、自然トシテ爭訟モ起ラズ、若爭ヒ起リテモ、官府ニテ判斷シ易シ、是地志ハ天下ヲ治ル道具ニ非ズヤ、當代モ、天下ノ地圖記錄ハ本ヨリ有リ、近世ニ及デ、憲廟ノ時、又天下ノ國郡ニ詔シテ新圖ヲ作ラシメラレ、數年ヲ歷テ成就セリ、是誠ニ治道ノ要務ヲ知シメシタル也、然レドモ其圖モ記錄モ官府ニ秘シテ世ニ行レザレバ、人ノ知ルベキ樣ナシ、今ノ世ハ、天下文明ノ時ニテ、文章ニ達セル儒者モ前代ヨリ多ケレバ、此時ヲ幸トシテ、儒臣ニ命ジテ我國ノ一統志ヲ作ラシメテ、海內ニ頒行ハレバ、實ニ一代ノ盛擧ニシテ、天下ノ人ノ重寶ナルベシ

一 日本ハ元來文字ナキ國ナル故ニ、物ノ名多クハ文字ニアタラズ、土地ノ名ハ、六十六州ノ國郡ノ名ヲ定置レタルノミニテ、其外ノアラユル山川等ノ名ハ、定マリタル文字モナキコト多シ、只俗間ニイヒ習ハセルヲ、其儘ニ文字ニ寫ス故ニ、其名雅馴ナラズシテ、文章ニ入リ難シ、記錄ヲ作ルニモ、地名ハ有ノ儘ニ書スルモノ也、又詩文ヲ作ルニモ、地名ヲ見ハサズシテ不レ叶コトアリ、然ルニ地名甚鄙俗ニシテ、文字ニ當ラザレバ、イカナル文章ノ達者ニテモ、其詞ヲ文雅ニスルコト不レ能、スベテ記錄等ヲ作ルニ、好キ文章ニテ正シク作リタル事ハ、永世ニ傳ハリテ棄レズ、鄙俗ナル詞ニテ淺ハカニ作

タル書ハ、一旦世ニ行ハレテモ、程ナク廢レテ永クハ傳ハラヌ物也、然レバ凡物ノ名ヲバ正シクスベキコト必然也、地名ハ天下ニ流布シタル者ナレドモ、上ヨリ令ヲ下シテ改メ玉フニ、改難キコト少モ有ルベカラズ、諸侯ノ一國ノ内ニテモ、舊名ヲ改ルコトハ珍シカラズ、増テ海内ノ主トシテ、海内ノ地名ヲ改メ玉ハンニ、何ノ憚ル所カ有ラン、其瑣碎ナル樣ナルコトナレドモ、關カル所廣大也、國家ノ光ヲ揚ル一事ナリ、經濟ノ意アリテ古ヲ好マン人ハ、建白スベキコト也

一　中華ニテ、歷代ニ皆其一代ノ地理ヲ記シテ、地理志トイフ、歷史ヲ作ル者ノ私ニ作レルニハ非ズ、其代ノ天子ノ勅命ニテ、圖籍トイフ物アルヲ取テ、其文ヲ修飾シテ書ク也、圖籍トハ、繪圖ト帳面トナリ、吾國ニハ、古ヨリ左樣ノ物ナキ故、只今若史記ノ類ヲ作ラント思フ者モ、地理志ヲ作ルベキ樣ナシ、是學者ノ私ノ力ニ及バヌコトナレバ也、サレバ遠キ異國ノ地理ヲバ、此方ニテ委ク知ルコトヲ得レドモ、吾國ノ地理ハ、却テ異國ヲ知ルホドニハ知リ難シ、是恨メシキ事ニ非ズヤ、總ジテ記錄ハ國ノ寶也、地理ノミニ非ズ、中華ニテハ、何事ヲモ記錄スル故ニ、千萬年ノ古ヨリ、大事モ小事モ、世ニ傳ハリテ亡ビズ、此方ニテハ、記錄スルコト稀ナル故ニ、世ニ傳フベキコト傳ハラズシテ、消滅スルコト甚多シ、尤惜キ事也、其中ニモ地理ヲ辨ヘ、封疆ヲ正シクスルハ、國家ノ大典ナリ、昇平ノ時節ケ樣ノ事ヲ議セラレザルハ闕典ト云フベシ

經濟錄卷第四　終

經濟錄卷第五

食貨

一　食貨ハ、上天子ヨリ下庶民迄、天下ノ人ノ治生ノ道ヲ云也、尙書ノ洪範ハ、大禹ノ天下ヲ治メ玉ヘル道ヲ記シタル書也、其中ニ八政トテ、國ノ政事ノ肝要八ツアリ、八政ノ第一ニ食、第二ニ貨也、此二ツハ八政ノ中ノ肝要ナル故ニ、是ヲ取テ食貨トイフ、班孟堅漢書ヲ作テ、漢ノ代天下ノ治生ノ道ヲ記錄シ、其政ノ得失利害ヲ辨論シテ、是ヲ食貨志ト名ヅケタリ、食ハ、人ノ喰物也、米穀ノ類ヲ指テ言フ、貨ハ、貨財也、寶貨也、タカラト訓ズ、貨ニハ種々ノ物アリ、布帛綿絮ノ類ハ、膚ヲ蓋ヒ寒ヲ禦グ物也、鹽、茶、酒、醬、魚、肉、菓、蔬ノ類ハ、五穀ノ佐トシテ身ヲ養物也、柴、薪、油、炭ノ類ハ、平生ニ所用アル物也、其餘人家ニ常ニ用フル一切ノ器物、或ハ竹木沙石等ノ物迄モ、皆夫々ニ所用有テ、人ノ生涯ヲ助ル故ニ、都テ是ヲ貨物トイフ、又貨幣トイフハ、錢也、錢ニ三品アリ、金、銀、銅也、金錢トイフハ、今ノ世ノ大小板金ノ類也、銀錢トイフハ、今ノ世ノ銀子也、銅錢トイフハ、則今ノ錢也、錢ノ字、古ハ泉ノ字ヲ用ヒタリ、錢ハ天下ヲ行テ人ノ用ヲ通ズルコト、水ノ地ヨリ湧出テ、何處迄モ流行

スル如クナル故ニ、泉トイヘルヲ、後世ニ及デ錢ノ字ヲ用ル也、金子銀子ト雖トモ、畢竟錢也、異國ニテ、上古ハ皮幣迚、獸ノ皮ヲ錢ニ用ヒタリシガ、中古ヨリ金錢銅錢ニ成タリ、銀ヲ用ルハ、又其後ノコト也、此三種ノ幣ハ、物ニ代テ用ヲ足ス故ニ、之ヲモ貨トイフ、凡人ノ患ハ、飢ト寒トノ二ツヨリ急ナルハナシ、飢ヲ療スハ食也、寒ヲ禦グハ衣也、食ハ五穀也、五穀ハ地ヨリ生ズル者ニテ、農人ノ手ヨリ出ル者也、衣ハ布帛也、桑ヲ樹ヘ麻ヲ樹ルハ、農家ノ業ニテ、桑ヲ採リ蠶ヲ養テ帛ヲ作リ、麻ヲ績テ布ヲ織ハ婦女ノ功也、五穀桑麻ハ地ヨリ生ズル者ナレバ、何レノ處ニモ作ルベシ、衣食共ハリテ飢寒ヲ免ル丶程ナラバ、外ニ求ルコトハ有マジケレドモ、衣食計ニテモスマズ、上ニ云ヘル如ク、平生ニ無テ叶ハヌ物モ數多アリ、又衣食ヲ作ルニモ、夫々ノ器物モ有ラデ叶ハズ、又天下ノ土地一同ナラザレバ、其地ニ生ズル物ト、生ゼヌ物トアリ、サレバ古ノ聖人、農作ノ道ヲ人ニ敎玉ヒテ、其上ニ又交易シテ有無ヲ通ズルトイフ道ヲ敎玉ヘリ、交易トハ、此ト彼ト物ヲ取替ルコト也、有物ヲ以テ無物ニ易レバ、此方モ彼方モ融通シテ用足ル也　周易ニ「天地之大德曰レ生」トアルハ、天地ハ萬物ヲ生ズルノミノ德也、既ニ物ヲ生ジテ、又是ヲ養フ道アリ、天地ノ道ニサヘ不レ違バ、凡生アル物ノ養ハレズシテ死スルトイフコトハ無キナリ、聖人ノ敎ハ、則天地ノ道也、聖人ノ敎ニ順テ、人々治生ノ道ニ心ヲ用レバ、飢寒ノ患モナク、日用ニ匱キコトモナク、一生ヲ安穩ニ送ル、是天地ノ大德也、堯舜ノ政ニ、利用厚生トイフコトアルハ、則此事也、治生ノ道ハ、人々心ヲ用フベキコトナレドモ、人ノ

心種々不同ナレバ、治生ヲ勤ル者モアリ、不レ動者モアリ、又人主ノ身ノ行ト、政ノ善惡トニ因テ、下民ノ風俗モサマ〴〵ニ變ズル故ニ、若シ姦邪ノ者起レバ、米穀貨物ノ周徧ニ行渡ラヌ樣ニナリテ、民ノ愁苦トナリ、國家ノ難モ出來ル也、人ハ貴キモ賤キモ、衣食無テハ一日モ在レヌ者也、禮義ハ人ノ守ルベキ道ナレドモ、饑寒身ニ偪レバ、禮義ヲモ忘ルハ人ノ常也、管仲ガ言ニ「倉廩實而知二禮節一、衣食足而知二榮辱一」トイヘルハ、人ノ禮義ヲ知ルハ、衣食ニ不足ナク、飢寒ノ患ナキ上ノ事トイフ義也、孟子ノ言ニ、「無二恒產一、因無二恒心一」トイヘリ、恒產トハ、士農工商夫々ノ渡世ノ業ヲ云、恒心トハ、恒久ニ其道ヲ守テ、易ラヌ心アルヲ云、「無二恒產一、因無二恒心一」トハ、渡世ノ業ナクテ、朝夕ノ營ミニサシツマレバ、飢寒ノ患ニ本心ヲ失テ、一日ノ命ヲ繫ントテ、種々ノ計策ヲ思惟スルヨリ、詐ヲモ行ヒ、不義ヲモナス、常住ニシテ何迄モ變ズマジキ心ヲ變ズルヲ、無二恒心一トイフ也、民ハ如レ此ナル者ニテ、士ハ恒產ナケレドモ、恒心ヲ失ハヌ者ト、孟子ハイヘレドモ、士モ大抵ハ恒產ナケレバ、恒心ヲ失テ節義ヲカグ事多シ、鄙賤ナル者ノ諺ニ、貧ノ盜トイフハ、誠ニ有事也、管仲ガ齊ノ桓公ノ相國ト成テ、齊國ヲ治メシニ、四維トイフコトヲ建タリ、四維トハ禮義廉耻ノ四字也、禮ハ人ノ作法也、義ハ節義也、廉ハ廉隅ト續キテトカドヽイフ義也、士ハ士トイフカドヲ立ルヲ廉トイフ、耻ハ耻辱也、ハヂ也、是ヲ四維トイフハ、維ハ船ヲ繫グ索也、凡國家ヲ治ルニハ、禮義廉耻ノ四ツニテ繫グ事、索四筋ニテ一ツノ舟ヲ四方ヨリ繫グガ如シ、四維ノ索一ツ斷レバ舟少動ク、二ツ三ツ斷レバ彌動ク、皆斷レバ舟

漂流シテ、何クヘ往クベキモ知レズ、國家モ亦然也、四維絶レバ、國家動亂スルコト古來其例甚多シ、此禮義廉恥ヲ守ルコトハ、人民衣食ニ不レ乏、上ヨリ下迄産業ヲ勤メ、用度ニ事缺ヌ樣ニ處タル上ノ事也、定マレル産業モナキ者ハ、渡世ニ差ツマリテ朝夕ノ立兼ルモ理ナルニ、士大夫以上、增テ一郡一國ヲモ領スル諸侯ナドノ衣食ニサシツマリ、用度足ラズ、妻子家人等ヲ難儀セシムルハ、廉恥ナキトイフ者也、然故ニ管仲ガ齊國ヲ治メシハ、國ヲ富スコトヲ本トセリ、國富メバ兵ヲ強クスルコトモ易シ、因テ是ヲ富國強兵ノ道トイフ、富國強兵ヲ覇者ノ術トイフハ、後世ノ腐儒ノ妄説也、堯舜ヨリ以來、孔子ノ教ニ至ル迄、聖人ノ天下ヲ治ル道、富國強兵ニ非ルハナシ、富國強兵トイフ内ニ、富國ハ強兵ノ本也、然レバ天下國家ヲ治ル人ハ、食貨ノ道ヲ能々心ニ懸テ、臣民ヲ養ヒ、四維ヲ張リ、國用軍用匱シカラヌ樣ニ思慮セラルベキコト也（已上食貨ヲ合セ論ズ）

一　天下ヲ治ルニ、穀ヲ貴ビ貨ヲ賤シムルハ、古ノ善政也、先王ノ道也、穀ハ民ノ食物也、食ハ民ノ天也、一日モナクテ叶ハヌ物也、貨トハ金銀錢也、金銀ハ勝レタル寶ト、人毎ニ思ヘドモ、飢タルトキ、金銀ヲ嚙デハ腹充タズ、一椀ノ粥ヲ啜レバ死ヲ免カル、寒キトキ、金銀ヲ山ノ如ク積テ、其中ニ居テハ煖ナラズ、一ツノ布被ヲ著レバ病起ラズ、是金銀ハ、人ノ飢寒ヲ救フ物ニハ非ルナリ、然ルヲ愚ナル民ハ、米穀ヨリモ優レル寶ト思ヘルハ、金銀アレバ、米穀ハ求易シト思故也、治世ニハ交易賣買ノ道、何ク迄モ達スル故ニ、金銀サヘアレバ、米穀モ布帛モ即時ニ出來ル、又米穀ハ嵩高ク重キ物ナ

レバ、齋アリクニ勞煩ナリ、金銀ハ懷中ニ入腰ニ佩テ、百里千里ヲモ行キ、一握ニテ許多ノ用ヲ足ス物也、是ニ因テ世俗愚人ハ、コレニ過タル寶ハナキト思也、亂世ニアヒ、又ハ治世ニテモ、凶年饑歲ニテ、米穀ノ乏シキ時ニ當リテ、金銀ニテ米穀ヲ求難キコトアラバ如何セン、是金銀ノ德ノ米穀ニ不及道理顯然也、古人此理ヲ知レル故ニ、漢ノ鼂錯ガ如キ人、文帝ニ奏聞シテ、穀ヲ貴ビ貨ヲ賤シムル道ヲ勸メ奉レルナリ、日本ニテモ、古ハ穀ヲ貴ビテ、金銀ヲ用ルコトハ、後世ノ如クニハアラザリシト見ユ、當代ハ天下ノ人、東都ニ輻輳シ、諸侯貴人ヨリ庶民ニ至ル迄、旅客ニテ居住スル故ニ、萬事ヲ金銀ニテ行フコト風俗ト成テ、遠國迄モ同然也、是ヨリ米穀ヲ賤メテ金銀ヲ貴ブコト、古代ヨリモ甚シ、太平ノ世ニ生レテ、民ハ食ヲ以テ天トストイフコトヲ人知ラザル也

一士農工商ヲ四民トイヘバ、士モ民也、然ドモ農ハ五穀ヲ作リ、工ハ器物ヲ作リ、商ハ有無ヲ通ズ、此三ツハ其業ヲ食ム者也、士ハ國ニ仕ヘテ君ノ祿ヲ食ム者也、サル故ニ士ヲ除テ、農工商賈ヲ四民トスルコトアリ、商ハ行テ物ヲ賣ル、賈ハ家ニ居テ物ヲ賣ル、皆アキ人也、民ノ業ニ本末トイフコトアリ農ヲ本業トイヒ、工商賈ヲ末業トイフ、四民ハ國ノ寶ニテ、一ツ缺テモ國トイハズ、然ドモ農民少ケレバ、國ノ衣食乏ク成故ニ、先王ノ治メニハ、殊ニ農ヲ重ンゼラル、農業ハ至テ艱難ナルコトニテ、終歲勞苦シテ、而モ利潤少ク、嘉穀ヲ食フコトモ能ハヌ故ニ、工商ノ勞苦輕シテ、利潤多キヲ羨ミ、農ヨリ工商ニ遷ル者多シ、縱ヒ住所ヲ城下ヘ不移ドモ、田舍ニテモ賈ヲスレバ、農業ヨリハ利得多

キ故ニ、耕作ハ粗略ニシテ、買賣ノコトヲ精勤スル、是民ノ常ノ情也、左樣ニアリテハ、國ノ衰微トナル也、子細ハ、農民漸々ニ減少スレバ、米穀乏クナル、工商多クナレバ、種々ノ貨物出生シ、四方ヨリモ聚ル故ニ、人ノ奢侈ノ心ヲ引起シ、金銀ヲ重寶スル風俗ニ成テ、國用漸々ニ匱クナリ、上下貧乏ノ端トナル、國家ノ大ナル害也、是ニ因テ聖人ノ政ニハ、天下ノ戸籍ヲ正シクシテ、四民ノ家數、人別ヲ度々改テ、農民ヨリ妄ニ他ノ業ニ遷ルコトヲ禁ズル也、當代ニハ此禁ナキ故ニ、工商ノ輩日々數多クナリ、在々所々ニ徧滿シテ、人ノ用ヲ辨ズルハ便利ナル樣ナレドモ、人ノ侈心ヲ引起シ、金銀ノ貨悉ク賈人ノ藏ニ納マル、歎カシキコトニ非ズヤ

一 勞苦ヲ惡ミ、安佚ヲ好ムハ、人ノ情也、四民皆己ガ業ヲ勤メズシテ佗ノ業ヲ羨ミ、怠惰ヲ好ミ、安佚ニ耽ルハ、古モ今モ同然也、孟子ノ言ニ、「民事不レ可レ緩也」トイヘルハ、四民ノ中ニテモ、農民ハ殊ニ勞苦ノ甚シキ者ナル故ニ、上ヨリ督責セズシテ、彼ガ儘ニナシヲキ 當前飢寒ノ患ナキ程ナレバ、耕作ヲ懶クナリテ、其業ヲ精勤セズ、困窮貧乏ニ至ルコト踵ヲ旋サヌ內也、然レバ民ヲ治ル道ハ、嚴刻ナル仁政ニアラネドモ、慢キコトノ過ルモ亦民ノ害也、サル故ニ上ヨリ時々督責シテ、精勤スル者ト、懶惰ナル者トヲ吟味シテ、夫々ニ賞罰ヲ行フベシトイフ義也、異國ニテハ勸農トイフコトアリ、天子ヨリ使ヲ出シテ民ニ農業ヲ勸ル也、孝悌力田トテ、父母兄長ニ善ク事フル者ト、農作ニ力ヲ盡シ善ク田ヲ耕ス者トヲバ、其所ノ役人ヨリ言上スルヲ聞シ召テ、上ヨリ賞ヲ行ハル、如レ斯ナレバ、民敢テ懶

惰懈怠ノ念ヲ起サズ、農事ヲ精勤スル故ニ、貧乏スルコトナシ、民富メバ國モ富ム也、畢竟民ハ小兒ノ如ナル者也、上ノ政ト教トニ依テ、善クモ惡クモ成也

一 天子諸侯ノ寶トイフハ、土地也、孟子ノ言ニ、「諸侯之寶三ツ」トイヘル其第一ハ土地也、土ニ五ツノ名アリテ、五土トイフ、周禮ニ見エタリ、一ツニ山林、二ツニ川澤、三ツニ丘陵、四ツニ墳衍、五ツニ原濕也、山ハ、土石ノ積リテ高キ也、林ハ、竹木ノ多キ也、川ハ水ノ流ルヽ也、澤ハサワト訓ズレドモ、池沼湖水ノ類也、丘ハヲカト訓ズ、土ノ少高處ヲ云、陵ハ大ナル阜也、墳ハ水邊ノ崖也、俗ニガケトイフ是也、衍ハ、地下クテ平ナル處、原ハ高クテ平ニ打開キタル處ヲ云、濕ハ下クテ濕リアル處ヲ云、此五種ノ土、何レモ所用アリテ、人民ヲ養ヒ、國家ノ寶トナル、凡土ハ必ズ物ヲ生ズル者也、米麥等ノ嘉穀ヲ生ズルハ、上地也、縱嘉穀ヲ生ゼズトモ、百穀ノ内何カハ不レ知、民ノ食スル物ヲ生ゼザルコトハナシ、食物ノ外ニハ、種々ノ物ヲ生ジテ國ノ利トナル、是天地ノ人ヲ養フ所也、然ドモ天地ハ言ハズ、人ノ手ヲ執テ教ルコトモナシ、五土ノ土、皆人民ノ利トナリ、國ノ寶トナル道アレドモ、智者ニ非ザレバ是ヲ知ラズ、英雄ニ非レバ是ヲ行フコト能ハズ、異國ノ昔ニハ、魏王ノ臣ニ李悝トイフ者、地力ヲ盡ストイフ道ヲ立テ、是ヲ魏國ニ行ヒテ、大ニ國ヲ富セリ、地力ヲ盡ストハ、土ヨリ出ル程ノ利ヲ遺サズ取盡ストイフ義也、後世ニハ、此道ヲ知レル者少ク、縱知テモ、是ヲ其國ニ行フ程ノ勢力ナケレバ、其術ヲ試ルコトモ能ハズ、楚國ノ山ニ、夜光ノ璧トイフ寶玉有シヲ、卞和ト

イフ者見出シテ楚王ニ獻ゼシニ、楚王之ヲ玉人ニ視セタレバ、是玉ニ非ズ、石也トイフ、石ヲ玉ト詐テ、人主ヲ僞タリ迚一足ヲ刖ラル、其后又獻ジテ、亦前ノ如ク信ゼラレズシテ、又一足ヲ刖ラル、卞和此玉ヲ抱テ山ニ入テ、三日三夜哭泣セル故ニ、楚王是ヲ取擧テ、玉人ニ命ジテ琢カシメタレバ、果シテ天下無双ノ美玉也、正シク寶玉ヲ見出シテ獻ゼシダニ、未ダ琢カザルトキハ、石ノ如ナル物ナレバ、欺詐ノ名ヲ與ヘラレテ、兩足ヲ刖ラレタリ、況ヤ此山ノ中ニ寶アリトイハンニ、人誰カ是ヲ信ゼンヤ、地力ヲ盡ス道モ然也、卽時ニ其利ノ見エザルコトニハ、人ノ心趨カズ、五年十年ノ後ニ其利ノ見ユベキコトヲ思立ンニハ、決シテ同心ノ人有ベカラズ、只其效ノ見エザルヲ疑ヒ、人夫ノ勞ト、金銀ノ費トヲ恐レテ、事ヲ創ムル人アルマジキ也、今ノ世ニハ、李悝再生ストモ、其道ヲ行ヒ難カルベシ、況ヤ李悝ニ似タル人モ稀ナルヲヤ、恐ラクハ海內ニ地力ノ未ダ盡ズシテ、遺レル處多カルベシ、地力ヲ盡ストイフハ、五穀ヲ作出スノミニ限ラズ、土ハ萬物ヲ生ズル者ナレバ、何ニテモ五土ノ中ヨリ、能ク生ズル者ヲ知テ、其物ヲ取出セバ、人民ノ用ニ立チ、國ノ利トナル、今ノ世ノ人ハ、田ニナラヌ土ハ用ニ立タズト思ヒ、五穀ノ生ゼヌ土ハ、廢物也ト思フ、是大ナル誤也、土ハ民ヲ養フ者也、五穀ハ民ノ命ヲ續グ物ナレバ、最上ノ寶ニテ、國トイフ國ニ五穀無クテハ叶ハヌコト勿論也、然ドモ天下ノ土地、其性様々ニテ、五穀ノ生ジ難キ處モアリ、五穀生ジ難ケレバ、必他ノ物ヲヨク生ズルコトアリ、若天下ノ土地、必五穀ノミヲ生ジテ、他ノ物ヲ生ゼヌ法ナラバ、是又人民ニ不便利成ベシ、

サレバ古ノ聖人、五土ノ土ヲ分別シ玉フハ、五土ノ利ハ、五穀ノミニ限ラヌ故ナリ、造物トイフ神アリテ、土ノ中ヨリ種々ノ物ヲ生出シテ、人民ノ用ニ施ス故ニ、人ノ智慧ヲ以テ、五土ノ別レヲ辨ヘ知テ、其中ヨリ生ズル物ヲ傷害セズ、能ク長養スレバ、土地ニアル程ノ利、遺ラズ出デ、而モ之ヲ用テ盡ルコトモナシ、是ヲ無盡藏トイフ、此無盡藏ハ何レノ處ニモ有ルナレバ、其處ノ無盡藏ヲ考テ、其無盡藏ノ物ヲ取出シ、其上ニテ他所ト交易シテ、有ル物ヲ無キ物ニ換レバ、何ニテモ用度ノ乏シキコトハナシ、如レ此ニ土地ヲ治ルヲ、地力ヲ盡ストイヒ、地ニ遺利ナシトイフ、遺利トハ、國ノ利トナルコトノ取ノコサレテ隱レ居ルヲ云、李悝ガ道ハ、ケ樣ノコトヲ敎ヘタル也、此術ハ今ノ世ノ人ノ生レ付タル一應ノ世智計リニテ、學智ナキ者ノ及ブ所ニアラズ、千萬人ノ中ニ、一人モ有コト稀也、近世ニハ、津和野侯ノ大夫多湖子ガ、半紙ヲ造テ國ヲ富シタルガ如キ、地力ヲ盡セルトイフベキ者也、其後ニハ、水戸ノ義公ノ水戸ヲ治メ玉ヘルヲ觀ルニ、地力ヲ盡スコトヲ知玉ヘリト見ユ、其外ハ多ク聞カズ

一古ヨリ草萊ヲ闢クヲ、國ノ善政トスルハ勿論也、草萊ヲ闢クトハ、萊ハ、ヨモギ也、草萊ノ殖茂リタル荒地ヲ開發シテ新田トナスヲ云、國ニ艸萊ノ地多キハ、國ヲ治ル人ノ耻也、地ヲ闢テ新田トナスハ、誠ニ善治也、然ドモ新田ヲ開發スルハ、極テ大事也、率爾ニ事ヲ創ムレバ、多ハ故田ノ障ト成、民ノ害トナルコトアリ、國ノ爲ニ未ダ少ノ利モナサヌ內ニ、一方ニ大テル害ノ出來ルコトアリ、然ドモ人主是ヲ好ミ玉ヒ、政ヲ執ル人是ヲ以テ功ヲ立ントスレバ、下ヨリ上ノ好ミニ投ジテ一己ノ利ヲ求

ントスル者、必蜂起シテ其事ヲ請ヒ願フ也、如レ此輩ハ、國ノ利害ヲモ論ゼズ、民ノ愁苦ヲモ顧ミズ、只一時ノ計策ヲ申テ、其事ノ創ルベキ樣ヲ圖ル故ニ、其說ヲ巧ニシテ上ノ人ノ肺腑ニ入ル、上ノ人モ民間ノ事ヲ精ク知ラズ、地理ニモ深クハ達セザレバ、多クハ其願フ者ノ辯說ニ誑カサレテ、後日ノ害ヲ思ハズ、害ノ生ズルトキニ及デ、俄ニ其事ヲ止ムレドモ、民ノ被リタル傷ミハ愈エズ、國ノ害モ故ニ復セズ、ケ樣ノ事ヲ申出ルヲ興利ノ說トイフ、興利トハ、利ヲ興ス也、古ヨリ國家ニハ是ヲ憎ム也、サル故ニ新田ヲ多闢クハ、目出度コトナレドモ、其利害知難キニヨリテ、古人ハ是ヲ重ンジテ、輙クハ事ヲ創メズ、又上ニ云ル如ク、五土ハ皆夫夫ニ功用アル者也、平原曠野ハ田地ニ比スレバ、ムダナル樣ナレドモ、常ニハ牛馬ヲ放チ牧ヒ、草ヲ刈テ田ノ糞トス、人君ノ遊獵ニモ、平原曠野ハ無クテ叶ハズ、萬一國ニ大事アルトキハ、數十萬ノ軍兵ヲ集ムルニ、廣キ處ナケレバ、良田ヲ蹂躪スルコト有リ、五穀ヲ種ルガ好キ迚、平原ノ地ヲ悉田地トシテハ、又不便利成コトアリ、此義ヲ思惟シテ斟酌アルベキコト也、又川澤ハ、水ノ行ク處止マル處ニテ、五土ノ一ツ也、水ハ流行スル性ニテ、畢竟海ニ入ル物ナレドモ、海迄行ク間ニ、地ノ窪キ處アレバ、四方ノ水聚リテ。池トナリ、沼トナリ、大ナルハ湖トナル、是地勢トイフ者也、人ノ成シタルコトニ非ズ、天造ニテ自然ナル者也、此水澤モ五穀ヲ生ゼヌ物ナレバトテ、無用ナリト云ハヾ、大ナル惑也、川ニハ川ノ德有、澤ニハ澤ノ德アリ、澤ノ字ヲウルホスト訓ズレバ、潤澤ノ義也、其地ヲ潤澤スル德アル也、今興利ノ說ヲ申モノ、動モスレバ池

沼ヲ乾シテ新田ニ成サントスルニハ、必新ニ河渠ヲ開テ水道ヲ作ル、其間ニハ許多ノ田地ヲ壞リ、郷村ヲ破ル故ニ、人民ノ痛ミ甚シク、國ノ害多シ、凡池沼ハ、旱ノ時ハ、水ヲ引テ田地ヲ養ヒ、霖雨激水ノトキハ、潦水ヲ此ニ瀦テ流注スルヲ待ツ者ナレバ、國ニナクテ叶ハヌ物也、是ヲムダナル物ト思ヒ、水ヲ落シテ田ト成ントスルハ、五土ノ用ヲ不レ知也、異國ニテ、宋ノ代ニ王安石、宰相ニテ天下ノ政ヲ執シ時、新田ヲ好ミケレバ、下ヨリ其事ヲ願望ム者數多出來テ、種種ノ說ヲナス、其中ニ或者太湖トイフ五百里ノ湖ヲ、水ヲ落シテ新田ニ成サント願ヒケレバ、安石悅デ其事ヲ創ント思ケルニ、客數多アリシ日、客ニ對シテ其事ヲ語出シ、扨太湖ノ水ヲバ如何シテ落サンヤ、面々如何思玉フゾト問ケルヲ、一座ノ客皆安石ニ諂ヒ、或ハ頻ニ是非ヲ辯ヘヌモ有テ、答ノ未ダ出ザルニ、劉貢父トイフ人、是コソ最易キコトナレトイヒケレバ、安石サテハ如何ニト問フ、貢父ガ答ニ、太湖ノ水ヲ落サントナラバ、太湖ノ傍ニ、別ニ今一ツ太湖程ノ湖ヲ鑿タラバ、太湖ノ水スナハチ落ベシトイフ、安石モ流石ニ學者ナレバ、是ヲ聞テ忽悟リ、大ニ笑テ罷シトカヤ、是程ノコトハ、安石モ知ベキコトナレドモ、利ニ惑テ智ノ暗ミタル也、貢父ガ別ニ又太湖ヲ一ツ鑿ルベシトイヒシハ、至極ノ道理必然也、元來地ニナクテ叶ハヌ天造ノ湖ヲ乾シテ、其代リヲ人ノ力ニテ作ラネバ、必天ヨリ作ル也、サレドモ此理ハ、天ヲ知リ地ヲ知リタル者ナラデハ、會得セヌコト也、昔ヨリ水澤ヲ塡テ平地トナシ、或ハ水ヲ落シテ新田トナセバ、必其邊洪水ノ難多キコト、異邦我朝其例多シ、凡山川、溪

谷、丘陵、水澤ハ、國ノ要害ニテ、國ヲ固ムル者也、都ヲ作リ城ヲ築クニ、要害ニ依ルハ法也、周易ニ「地險、山川丘陵也、王公設レ險、以守二其國一」トイヘリ、然レバ水澤ハ水澤ニテ、國ノ固メ也、輙ク之ヲ無クスベカラズ、又山ニ木アレバ必水アリ、又山ニ水アレバ山下ニ水澤有テ、其處ノ田地ヲ養フ、山ニ木ナケレバ必水ナシ、水生木ニテ、木ハ水ヲ得テ生ズル物ナル故ニ、既ニ生ジテハ又木中ニ水ヲ含ム、母ノ氣ヲ具ル也、故ニ山ノ木ヲ伐盡セバ、山ノ水氣盡テ、山下ノ川澤必枯ル、ナリ、川澤枯ルレバ田ヲ作ルベキ樣ナシ、地力ヲ盡ストイフコトヲ惡ク心得テ、山林ヲ伐盡サバ、大ナル害ヲ招クベシ、亦海中ヨリ魚ヲ出スハ、誠ニ限モナキコトナルニ、漢ノ武帝ノ時、海魚ヲ縣官ヨリ占タリシカバ、其年ヨリ魚不レ出、後ニ又民ニ與ヘテ取シメタレバ、魚又出タリ、其後モ海租ヲ增テ取シカバ、魚出デズ、海租ヲ減ジタレバ、魚出タリト也、造物者ノ無盡藏ナレバ迚、妄ニ取盡スコト有ベカラズ、然レバ地力ヲ盡ス道ヲ知テ行フ上ニモ、斟酌有ベキコト也、縣官トハ、公儀ヲイフ、海租ハ海ノ年貢也、斟酌トハ、ヨキホドヲ料簡シテ取ル義ナリ

一 凡百姓ノ君上ニ奉ズルコト三ツアリ、租、庸、調也、是唐朝ノ法也、租ハ租稅也、今此方ノ俗ニイフ年貢也、庸ハ夫役也、調ハミツギト訓ズ、米穀ノ外ニ、土地ヨリ出ル貨物也、鹽、酒、茶、漆、布帛、絲、綿、紙、炭、薪、油、蠟、百菓、藥物、鳥獸、魚鼈、羽毛、皮革ノ類其品甚多シ、是ヲ土產トイフ、土產ハ、大抵十分ノ一ヲ上ニ奉ル、是古來ノ法ニテ、異國モ吾邦モ同然也、一ツニ租法ヲ論ズルニ、異國ノ法

ト、日本ノ古法トハ姑ク置ク、當代ハ田租ヲ取ル、十分ノ四ヲ通法トス、十石ノ內ヨリ四石ヲ上ニ奉ル、是ヲ今ノ俗ニ四ツ物成トイフ、土ノ肥瘠ト、田ノ上中下ニ因テ、四ツヨリ多キモアリ、少キモアリ、中ヲ取テ四ツヲ今ノ世ノ通法トス、古ノ井田ノ法ノ什一トイフヨリ觀レバ、厚斂ニ似タレドモ、今ノ世ハ是ニテ民ノ痛ミモナシ、凡テ稅斂ヲ薄クスルハ、王者ノ仁政ナレバ、租稅ヲバ少ク取ルヲ美トスルコト勿論也、然レドモ民ハ小兒ノ如ナル者ニテ、衣食充足シタル上ニ、上ノ政餘リ寬ナレバ、覺エズ怠慢シテ耕作ヲ精勤セズ、遊惰ノ民ト成テ、其終リハ亦衣食ニ乏シク成テ、飢寒ヲ苦ミ、年貢ニ追ハレテ、罪ニ陷ル者モ出來ル也、凡政ハ寬ト猛トヲ兼行フヲ善トス、是孔子ノ敎也、然レドモ古ヨリ今ニ至ル迄、暴斂ニテ民ヲ苦シメ、終ニ國ヲ喪ヒシ例ハ甚多シ、近世以來、少ク取テ民ノ害トナル程ノコトハ未ダ不レ聞、畢竟上ノ人奢ヲ止テ、國用乏シカラネバ、民ヨリ多ク取ラネドモ、事ノ缺ルコトハナキ也、民ヨリ非道ニ取ルヲ暴斂トイフ、暴斂ハ虐政也、虐政ヲ行ヘバ、踵ヲ旋ラサズシテ國ノ禍ヲ起ス、近世ノ例、吾人ノ見聞スル所枚擧スルニ暇アラズ、二ツニ庸法ヲ論ズルニ、徭役ノ法ハ、軍旅、土木、田獵等ノ事ニ、民ヲ役ニ宛テ使フハ、古ヨリ定マレル法ナリ、然レドモ農作ノ時ニ民ヲ使ヘバ、民ノ痛トナリ、國ノ害トナル故ニ、農作ノ時ヲ避テ、閑隙ノ時使フハ、王者ノ仁政也、孔子ノ言ニ、使レ民以レ時トイヒシハ是也、禮記ノ王制ニ、用二民之力一歲不レ過二三日一トイヘルハ、古法ヲ述タル也、三日ニモ限ラズ、已ムコトヲ得ザルコトアレバ、民ニ徭役ヲカクルコト、一概ニ非道トモ

イハズ、只徭役數多ケレバ、百姓ノ苦ムハ必定ナル故ニ、上ノ人ノ心ニテ、成ベキ程ハ事ヲ省ク樣ニスルヲ、仁政トイフ也、然ルニ當代ハ、百姓ヲ徭役ニテ使フコトハ稀ニテ、土木抔ノコトニハ、都下ニテ賃夫ヲ雇テ使フ、軍旅征伐ハ、治世ニハナキコトナレドモ、戍役トテ、大坂、京都、駿府抔ヲ戍リニ行クハ、則軍旅也、此軍役ニモ、今ノ諸侯ハ、其國ノ民ヲ使フコトハナク、東都ニテ賃夫ヲ雇テ使フ、賃夫トハ、今ノ俗ニ云日傭也、何ニテモ徭役ノコトニハ、錢ヲ出シテ賃夫ヲ雇フ故ニ、民ノ痛トハナラズ、却テ澤トナル、是古ト今ト法制ノ異ナル也、三ツニ調法ヲ論ズルニ、上ニ云ル如ク海內ノ土産ハ、皆十分ノ一ヲ上ニ奉ルコト古法也、サレバ若是ヲ過分ニ取リ非道ニトレバ、民ノ痛トナル故ニ、是ヲ虐政トイフ也、當代ハ此等ノ物ヲ民ノ家ヨリ取コトハ少ク、大抵金銀ニテ商賈ノ手ヨリ買取テ用ヒラル、故ニ今ノ世ニハ調法ハナシト云ベシ

一　當代田租ヲ取ルニ二法アリ、一ツニハ視取、二ツニハ定免也、凡年ニ豐年凶年アリ、五穀ノ登ルニ上熟、中熟、下熟アリ、視取トイフハ、毎歲ノ秋成ニ代官並ニ手代等ノ役、其地ヲ巡行シテ、穀ノ熟不熟ヲ視テ、上熟ニハ多ク取リ、下熟ニハ少ク取ル、俗ニ是ヲ免トイフ、代官巡行シテ見タル通リヲ其領主ニ告テ、領主ヨリ其年ノ免ヲ定テ、文書ヲ民ニ下シテ租ヲ徵ス、是ヲ免狀トイフ、免狀下リテ免狀ノ如クニ收納スル故ニ、是ヲ視取トイフ也、定免トイフハ、十年二十年程ノ內ニテ、上熟下熟ノ中ヲトリテ、是ヲ定法トシテ、年々定法ノ如クニ收納スル也、上熟ノトキ多ク取ラヌ故ニ、下熟ノトキニ

及デ、民其上ヲ怨ルコトナシ、此法ハ則孟子ノ云ヘル貢法ニテ、夏ノ代ノ法也、孟子ハ龍子ガ言ヲ引テ、惡キ法トイヘレドモ、彼ハ別ニ謂レ有ルコト也、日本ノ古ハ姑論ゼズ、當代ニハ定免ニ勝レル善キ法ハナシ、視取ハ甚シク民ニ害アリ、子細ハ代官ノ秋成ヲ視ルヲ、今ノ俗ニ毛見トイフ、代官ノ毛見ニ行クトキ、其處ノ民數日奔走シテ、供具ヲ營ミ、道ヲ除ヒ、館舍ヲ酒掃シ、前日ヨリ種々ノ珍膳ヲ調ヘテ、其來ルヲ待ツ、當日ニハ庄屋名主ナド云者、人馬肩輿ヲ牽テ境迄出迎フ、館舍ニ到レバ、種種ノ饗應ヲナシ、其上ニ種々ノ進物ヲ獻ジテ其歡樂ヲ極メ、手代等ハ云ニ不レ及、僕從ノ至テ賤キ者迄モ、其品ニ應ジテ、夫々ニ金銀ヲ贈ル、如レ斯スル其費幾許トイフコトヲ不レ知、若少モ彼等ガ心ニ滿ヌ事アレバ、サマ〳〵ノ難題ヲ以テ、其民ヲ圖賴テ苦シメ、其上ニ毛見スルニ及デ、下熟ヲ上熟ナリトテ、免ヲ高クス、若饗應ヲ厚クシ、進物ヲ重クシ、從者ノ賤キ奴マデモ賂ヲ重クシテ、彼等ガ心ニ滿足スレバ、上熟ヲモ下熟トイフテ、免ヲ下クスル也、是ニ因テ里民萬事ヲ閣テ、代官ノ悅ブ樣ヲ計ル、代官ノ毛見ニ行ク其利甚多シ、從者迄モ許多ノ金銀ヲ取ル、是皆上ノ物ヲ盜ム也、毛見ノ時ノミニ非ズ、平日モ民ノ處ヨリ、代官並ニ手代等ニ賄賂ヲ輸ブコト其限ナシ、サル故ニ代官ノ輩、皆小祿ナレドモ、富ミ封君ニ均シク、手代等ニ至マデ僅二三口ヲ養フ程ノ俸ニテ、十餘口ヲ養フノミナラズ、鉅萬ノ金ヲ蓄テ終ニハ與力又ハ旗本衆ノ家ヲ買取テ、榮華ヲ極ムル也、如レ是代官ノ私曲ヲナシ、民ノ代官ニ賄賂ヲ輸ブ狀ハ、純昔久シク田舍ニ住デ、親見聞シタルコト也、是偏ニ視取ヨリ起レリ、民ノ

痛ミ國家ノ害トイフハ是也、定免ナレバ、毎年ノ毛見ニ及バズ、定マレル免ノ如ク收納スルコト相違ナシ、然レバ民ヨリ代官ニ賂フコトモナケレバ、小民ノ役使セラルヽコトモナク、金銀ノ費ルコトモナキ故ニ、民ノ苦ミナシ、サル故ニ少高免ニ取テモ、定免民ノ爲ニ利アリ、毛見トイフコトナケレバ、代官ヲ置クニモ不レ及、代官ニハ口米トイフコト有テ、許多ノ米ヲ上ヨリ賜ハル、代官ヲ置カザレバ口米不レ出、是又國家ノ利也、今ノ世ノ田租ノ法、定免ニ勝ルコトナシトイフハ是也、大聖神禹ノ法ナレバ言フモ愚ナルベシ

一 日本ノ内ニテ、畿内近國ノ民ハ、農業ヲ精勤スルコト他國ニ超エタリ、關東ハ懶也、風俗モ、畿内近國ハ質素ナリ、關東ハ奢侈ナリ、是純ガ親見聞シタル處ナリ、民ヲ治ル人ハ、是ヲ不レ知バ有ルベカラズ

一 米ノ價ノ高下ハ、民ノ利病ノ懸ル所也、國ヲ治ル人、心ヲ盡シテ思慮セズバ有ルベカラズ、凡四民ノ中ニテ、農人ハ穀ヲ作出ス者也、租ヲ納テ其餘ヲ食シ、又其餘ヲ賣テ諸色ノ用ヲ調フ、士人ハ君ヨリ田祿ヲ賜ハリ、此祿ヲ以テ、衣食ヨリ以下諸色ノ用ヲ足ス者也、工人ハ器物ヲ作リ、四體ヲ動シテ米ニ易ル者也、商賈ハ貨物ヲ賣テ米ヲ糴フ者也、是四民ノ内ニテ、士ト農トハ米ヲ糶ル者也、工商ハ米ヲ糴フ者也、サル故ニ米ノ價貴ケレバ、士ト農トニ利アリ、工ト商トニ害アリ、米ノ價賤ケレバ、工ト商トニ利アリテ、士ト農トニ害アリ、古ヨリ米價ノ賤ヲ太平ノ象トシテ、漢ノ昭帝ノ世ニ、米一石

ヲ五錢ニ賣買シ、唐ノ太宗ノ世ニ、斗米三四錢ナリシトイフハ、誠ニ太平ノ效也、古ハ量小ク錢貴カリシ故トハ云ナガラ、石五錢斗三四錢ナド云ハ、極テ下直ナルコト也、是ヲ太平ノ效トイフハ、米穀豐饒ニテ、民食乏シカラサルヲ美タル也、實ハ其時モ米價太賤ケレバ、士ト農トハ害ヲ受ル也、然レドモ古代ヨリ近世迄ハ、四民ノ間ニハ米ヲ以テ萬事ノ用ヲ辨ジテ、金銀ヲ使フコトハ當代ノ如クニハ非リシ故ニ、米價賤クテモ、米穀豐饒ニテ倉ニ盈ル程ナレバ、士人モ農人モ困究スルコト無カリシ也、今ノ世ハ、天下ノ諸侯人民迄、東都ニ輻湊シテ皆旅人ナレバ、金銀ヲ以テ萬事ノ用ヲ達スル故ニ、米價貴ケレバ士人悅ビ、米價賤ケレバ士人困ム、士人ノ方ニ金銀多ク收マレバ、武人ハ利ニ疎キ者ニテ、金銀ヲ蓄ル心モ少キ故ニ、一時ノ歡樂榮曜ニ、輙ク金銀ヲ出シ費ス、此時ニ於テ、工人商賈ノ輩、其利ヲ得テ喜ブ、價ノ貴キ米ヲ糴ヘドモ、口ニ食フハ僅ニテ、利ヲ得ルコト多キ故ニ、サノミ米價ノ貴キヲ苦マズ、米價賤ケレバ、士人ノ方ニ金銀乏キ故ニ、工商モ却テ利ヲ得ルコト少シ、故ニ今ノ世ニハ、米價太賤シケレバ、四民皆困窮スルコト古代ヨリモ甚シ、是古今ノ政ノ不同ナル處也、凡米價太賤ケレバ、士ト農トニ害アリ、太貴ケレバ、工商ニ害アルハ、定マレルコトナル故ニ、漢ノ宣帝ノ時、耿壽昌トイフ者、君ニ白シテ常平倉トイフコトヲ創タリ、在々處々ニ倉ヲ立テ、穀賤キトキハ、價ヲ增テ民間ノ穀ヲ糴取テ倉ニ納メ、穀貴キトキハ、價ヲ減ジテ糶出ス、是ニテ穀ノ價貴カラズ、賤カラズ、イツモ能程ノ價ニテアル故ニ、士農工商、互ニ害ヲ受ルコト無カリシ也、凡穀ヲ蓄ルハ、治世ニ

ハ凶年飢饉ノ備トナリ、萬一非常ノ變アレバ、軍旅ノ食ニ宛ル故ニ、國家ノ要務也、ケ様ノ術ハ、今世ニモ行ハルヽ也、扨穀ヲ久ク蓄ルニハ、粟ニテ藏ムレバ、イツ迄モ蟲ヲ生ゼズ、朽腐セズ、當代國初ヨリ憲廟ノ時迄ハ、天下ノ米價甚賤カリシカドモ、士人サノミ困窮セズ、世ノ風俗質素ニテ、奢侈ナルコトナク、他物ノ價モ甚賤カリシ故也、憲廟ノ世、元祿年中迄ハ、米價猶賤クテ、東都ノ米價、金一兩ニ石二三斗ヨリ五六斗也、憲廟奢靡ヲ好ミ玉ヒシ故ニ、物價稍々貴クナリテ士人困メリ、其時士人相語テハ、米價ノ賤キヲ歎キテ、アハレ金一兩ニ米一石ナラバ、少息ヲ續グベキニトイヒアヘリ、サレドモ上ノ奢侈ニ因テ、世間ニ金銀多ク動キ、假借モ容易ナリシ故ニ、士人モ用度ニユキツマルコト無カリシ也、元祿十年己卯ノ秋、八月十五夜ニ大風アリ、年穀不熟成シカバ其年ノ冬、太倉ノ米價百苞三十五石ヲ、金五十兩ニ定メラル、則金一兩ニ米七斗也、久ク賤カリシ、米價、頓ニ甚貴クナリシ故ニ、士人ハ大ニ利ヲ得テ喜ビ、工商小民ハ奔走シテモ僅ニ二粥ヲスヽル計也、カクテ米價ノ貴キコト三年ヲ歷シカバ、辛巳ノ冬ニ至テ、都下ニ飢民多ク、道路ニ餓死スル者アリ、憲廟財令ニ有司ニ命ジテ、本所ノ郷ニ廬舍ヲ作リ、毎日數十石ノ米ヲ粥ニ煮テ、飢民ニ與ヘシメ玉フコト、百餘日ニ及ベリ、翌年ノ春ニ至テ、飢民モ稍寡クナリヌ、夫ヨリ兩年ヲ歷テ、年穀モ熟シ、米價モ稍賤クナルベカリシ處ニ、癸未ノ歳十一月二十二日ノ夜、東都大地震ニテ、關東諸國皆殃災ニ罹リ、大小ノ諸侯ハ、多ク都城ノ修築ニ人夫ヲ出シ、天下徭役ニ困メリ、其翌年寶永改元、七月三日江戸ヨリ東北ノ方水災ニテ、

年穀不レ登、米價ノ貴キコト依然タリ、寶永四年丁亥十月下旬、富士山ヨリ火出テ、砂石ヲ數十里ニ雨ス、關東諸國ノ田地、砂石ニ埋マレテ廢ル者勝計スベカラズ、是ニ因テ米價又貴シ、己丑ノ歲憲廟薨ジサセ玉ヒ、文廟立セ玉フ、正德元年辛卯ノ秋ヨリ、米價稍々賤クナリテ、壬辰ノ春ニ至テハ、金一兩ニ米九斗ノ左右也、此時既ニ元祿ノ色金ヲ廢シテ、乾金ヲ行ハル、是ヨリ又乾金ノ二兩ヲ以テ一兩トナシ、慶長ノ故金ニ復スベキトノ上意ナルニ因テ、民間ニハ早ク乾金ヲ賤メテ、一兩ヲ半兩トミル、米價ノ漸々ニ賤クナルベキ時節ニ當リテ、金幣ノ直ノ半減スルニ因テ、米價又貴クナレリ、壬辰ノ十月、文廟薨ジサセ玉フ、遺命アリテ、金幣ヲ改ラルベキコトヲ天下ニ告諭セラル、章廟ノ世ニ及デ、乾金ノ直彌賤ク成テ、米四斗餘ヲ以テ金一兩ニ賣買ス、正德ノ末ニ及デ、小民又飢饑スル者アリツレドモ、昔ニ比スレバ多カラズ、章廟ノ世ヲ終ルマデ金幣未ダ改マラズ、今ノ國家ニ及デ、果シテ慶長ノ故金ニ復ス、享保初年ヨリ六年辛丑ニ至ル迄、米價猶依然トシテ貴シ、凡己卯ノ歲ヨリ辛丑マデ、廿餘年ノ內、米價ノ貴賤、少ノ低昂有ツレドモ、賤キ時モ金一兩ニ米一石ニハ至ラズ、辛丑ノ冬ヨリ、米價又甚貴クナリテ、翌年ノ夏ニ至テ、太倉ノ米百苞ヲ今ノ金五十六兩ニ糶ラル、則乾金一百十二兩ニ當ル、今ノ金一兩ニハ米六斗二升五合也、元祿ヨリ以來、米價ノ貴キコト是ヲ至極トス、然ルニ此時都下ニ飢餓ノ者無リシハ何ゾヤ、己卯ヨリ以來、二十餘年ノ間、米ノ貴キニ習テ、小民治生ノ道ニ敏ク、且士人ノ手ヨリ金銀ヲ出スコト多キ故也、昔ノ米價ノ貴キヲ聞ケバ、近年ノ貴キニ不レ及ドモ、

其時ニハ飢餓ノ者アリ、近年ノ米價ノ至テ貴キニ、飢民出ザルハ、習ヘルト不レ習トノ故也、習フトハ、其事ニナルヽ也、此等ノ處一應ノ俗智ニテハ知難キコト也、凡物極リテ變ズルハ自然ノ理也、壬寅ノ秋ヨリ、米價頓ニ賤クナリ、其後少昂リテハ、又大ニ低リ、六七年ノ間ニ、愈益賤クナリテ、昔貴カリシトキノ五分ノ二ノ價トナル、民間ニテ米ヲ視ルコト土ノ如シ、士大夫ノ家ニテ、飯粥ノ料ヲ除テ、其餘ヲ賣テ他ノ用ヲ辨ゼントスレバ、朝夕ノ急用サヘ足ラズ、他ノ用ヲ足サン迚多ク米ヲ賣レバ、又食足ラズ、士人ノ困究尤甚シ、農家モ士人ト同ジ、豐年ニ遇テ穀ヲ多ク收レドモ、是モ賣ルニ及デ、輸出ス人馬ノ勞費ヲモ償ハヌ程ナレバ、僅ニ家人ノ口ニ食フ計ニテ、利潤ヲ得ベキ様ナシ、士人貧シケレバ、世ニ金銀乏キ故ニ、工商ノ類モ利澤少シ、サレバ今土ノ如ク賤キ米ヲ、小民ハ食フコト能ハズシテ、飢餓スル者却テ多シ、是常理ヲモツテハ論ジ難シ、凡上ニ云ル如ク、米價賤キヲ太平ノ象トスルハ、古ヘノコトニテ、今ノ世ハ、米價太賤ケレバ、四民皆困窮スルハ、制度ノ不同也、古ハ米穀ヲ貴ビ、今ハ金幣ヲ貴ブ故也、ケ様ノ類ヲ事勢トイフ、是ヲ不レ知シテハ政ヲナシ難シ、漢ノ賈誼ガ曰シシハ皆此類也

一　漢ノ耿壽昌ガ行ヒシ常平倉ノ法ハ、今ノ世ニモ行ハルヽコト也、凡米價ノ貴キ賤キヲ以テ、四民ノ利害ヲ論ズルハ、只一時ノ事也、豐年打續テ、天下ニ米穀多クアルハ、誠ニ國ノ美事也、米價ノ賤ヲ患テ、年穀ノ不熟ナランコトヲ冀フハ、今ノ世ノ士大夫ノ情ナレドモ、道理ニ背キタルコト也、サレ

バ今論ズル所モ、米價ヲ貴クセン迚、天下ニアル米ヲ少クセントイフニハ非ズ、此トキニ於テ、常平倉ノ法ヲ行ハレンコト有マホシキ也、其術トイフハ、海内ノ凡公領アル處ニ倉ヲ建テテ、其處ノ穀ヲバ倉ニ納置テ、東都ヘ輸バズ、其處ニテモ糶ラズ、イツ迄モ蓄置ベシ、左モアラバ東都ノ米少ク成テ、自然ニ價ヲ増スベシ、東都ニハ諸士以下ヲ養フベキ程ノ米ト、不虞ノ災變ニ備フル程ノ儲蓄トサヘアラバ、事缺ルコトナシ、此二ツノ外ニ、海内ノ米ヲ多ク輸ブハ、無用ノ物トイフベシ、無用ノ米ヲ多ク東都ヘ入ルル故ニ、其價太賤クナリテ、世ノ患トナル、東都ニ米少ケレバ、價貴クナル、江戸ノ米價貴クナレバ、海内皆貴クナル、是一益ナリ、米價甚賤ケレバ、民間ニテ米ヲ視ルコト土ノ如シ、米價少貴ケレバ、人皆穀ヲ貴ブコトヲ知ル、是二益也、常平倉ヲ建テ、穀ヲ多蓄レバ、萬一ニ水旱等ノ凶年アルトキ、民ヲ賑フニ好シ、先王ノ政ニ、「三年耕、必有二一年之食一、九年耕、必有二三年之食一、以二三十年之通一、雖レ有二凶旱水溢一、民無二菜色一」トイヘリ、又「國無二九年之蓄一、曰二不足一、無二六年之蓄一、曰レ急、無二三年之蓄一、曰二國非二其國一也」トイヘリ、菜色トハ、饑饉シテ野菜ヲ食ヒテ顔色悪キ也、國非二其國一トハ、國ヲ破テ人ニ取ラルルトイフ義也、然レバ遠方ノ穀ヲバ東都ヘ輸バズ、其處ニ置テ、九年十年ノ蓄トシ、不虞ノ災變アラバ、是ヲ出シテ民ヲ賑ヒ、其間ニ米價ノ太貴キコト有ラバ、價ヲ賤クシテ糶リ、太賤キ時ハ、亦糴テ倉ニ納メバ、太貴太賤ノコトナク、四民害ヲ受ザルベシ、是三益也、穀ヲ東都ヘ輸バザレバ國家ニ漕輸ノ費ナシ、是四益也、漕ハ船ニテ輸ブ也、輸ハ車ニテハコブ也、常平倉

ニハ如レ此益アルコトナレバ、今世ニモ是ヲ行ハレバ、善政ナルベシ、若常平倉ヲ置テ穀ヲ蓄ントナラバ、必粟ヲ納ムベシ、米ハ蟲ヲ出シ、腐易キ物也、久ク蓄フルニハ粟ヲ好シトス、日本ニテモ、廢帝ノ時ニ常平倉ヲ置レタルコト、國史ニ見エタリ

一凡士以上ハ、田祿アル者也、田祿トハ、君ヨリ田畑ヲ賜ハル也、今ノ世ニ知行トイフ是也、知行トハ、其田地ヲ己ガ物トナシテ、其事ヲ知行スル故ノ名目也、サレバ知行トイフハ、必地方也、今ノ世ニハ、小祿ノ者ハ廩米ヲ取テ、地方ナキ者モアレドモ、地方ヲ取ル者ニ准ジテ、是ヲモ知行トイフナリ、田祿アリテ知行スル者ヲ給人トイフ、給人ノ下ノ賤キ者、田祿ヲ賜ハラズシテ、廩米若ハ金銀錢、ヲ賜ハリテ、其衣食ニ給スルヲ俸トイフ、今ノ俗ニ切米、給分トイフ是也、俸ニ歲俸、月俸ノ品アリ又米ヲ給ハルヲ米俸トイヒ、金ヲ給ルヲ金俸トイフ、田祿ナクシテ米俸、金俸ヲ受ル者ヲ、今ノ世ニ無足人トイフ、農人ノ中ニテ、田地ヲ持テル者ヲ百姓ト稱シ、田地ナキ者ヲ無足人ト稱スルニ倣ヘル也、凡國ニ仕官スル者ハ、田祿ヲ賜ハラザル賤キ者迄モ、皆米俸ヲ給ハルベキ者也、當代國家ニ直參スル者ハ、卒徒ノ類迄皆米俸也、卒ハ足輕ノ類ナリ、徒ハ中間小人ノ類也、諸侯ノ國ニハ、米俸アリ、金俸アリ、諸侯ノ中ニモ、故キ諸侯ノ國ニハ、米俸多ク、金俸少シ、或ハ金俸ナキモアリ、新國ニハ金俸多ク、米俸少シ、諸侯ノ國ニテ、金俸ヲ出スハ甚不便利ナルコト也、子細ハ大モ小モ、諸侯ハ其國ヨリ收納スル物ハ米也、此米ヲ取テ金銀ヲ取ル、米價貴ケレバ、金銀ヲ取ルコト多シ、米價賤ケレ

バ、金銀ヲ取ルコト少シ、諸侯ノ人ヲ養フ所ヲ計ルニ、給人ハ少ク、無足ハ多シ、米ハ本土地ヨリ出ル者ニテ、水旱ノ災ナケレバ、收納スル所增減ナク、每年同然也、給人ハ米ヲ取ル者ナレバ、給人ニ給スル米モ增減ナク、每歲同然也、只無足人ニ給スル所金俸ナレバ、米價ノ高下ニ因テ、米ノ出ル所增減アリ、元祿以來享保六七年迄ノ如ク、米價貴キ時ハ、金俸ノ爲ニ米ヲ出スコト少クシテ、上ニ利アレドモ、壬寅ヨリ以來、米價甚賤ク成テハ、金俸ノ爲ニ米ヲ出スコト、前ノ一倍ニ過グ、又近年來、大小ノ諸侯皆貧究シテ、國用不レ足故ニ、給人ノ祿ヲ減ジ、或ハ死亡アル闕ヲモ補ハズ、或ハ罪モナキニ、永キ暇ヲ給フ類頗多シ、三十年前ノ昔ニクラブレバ、諸侯ノ人ヲ畜フ處、給人以上ハ人ニテ減ジテ、給人ノ爲ニ米ノ出ルコトハ、既ニ三分ノ一ヲ減ズト見ユ、大國ノ故キ諸侯ハサモアラズ、新國ノ小諸侯ハ、比々トシテ皆然也、是ニテハ、國用モ足ルベキニ、一年ハ一年ヨリモ困究スルハ、何ノ故ゾヤ、所詮ハ元祿以來、奢侈ノ餘風トイヒナガラ、金俸ノ者多キユヘ也、給人以上ハ上ニ云ル如ク、祿ニテ減ジ、人ニテ減ズレドモ、無足人ハサノミ人ニテモ減ジ難ク、歲俸モ定レル給分ニテ、一列ニ給スル者ナレバ、僅ナル內ヲ減ズベキ樣モナク、昔モ今モサノミ易レルコトナシ、今ノ時ニ至テ金俸ノ害ミエタリ

一　凡士人ハ、不レ耕シテ君ノ養ヲ受ル者ナレバ、卒徒奴隸ノ賤キ者迄モ、米俸ヲ給スベキコト道理顯然也、工商ノ輩ハ、祿ナキ者ナレバ、奴婢ヲ畜フニ、金銀ヲ給スベキコト勿論也、諸侯卿大夫ハ、金俸

ヲ以テ人ヲ畜フコト、有ルベカラザルコト也、若金俸ヲ米俸ニ收ントナラバ、近年ノ米價ノ最貴最賤ヲ考ヘ、二十年程ノ内ニテ、其中價ヲ取テ、米俸ノ定額トスベシ、無足人ニ悉ク米俸ヲ給スレバ、凡諸侯ノ人ヲ養フ所、毎歳幾許ノ米ヲ用ルトイフコト定リテ增減ナシ、モシ凶年ニ遇テ、年穀登ラズ、國ノ收納常年ヨリ少キコト有ラバ、其程ニ隨テ、其年ノ祿俸ヲ減ズベシ、既ニ米俸ニ定マレル上ハ、凶年ニ其俸ヲ減ゼラルヽヲ、誰カ怨ンヤ

一 凡士大夫ノ田祿アル者ヨリ以上、諸侯天子マデ、土地ヨリ出ル者ヲ以テ祿トス、土地ヨリ出ル者ハ米穀ヲ主トス、因テ士大夫以上ノ者ノ祿トイフハ米穀也、古ヨリ穀祿トイフ是也、然バ士大夫以上、增テ諸侯ナドハ、萬事ノ用ヲ米ニテ調フベキコト勿論也、萬事米ヲ用ルトイフハ、萬事ノ費用ヲ米ニテ定ムル也、是則前ニ云ル穀ヲ貴ブ道也、今ノ世ニハ金幣ヲ貴ブ故ニ、諸侯ノ國ニテモ、萬事ノ費用ヲ金銀ニテ定ム、譬バ貢獻ニ、金銀若干兩、其君ノ衣服器財ニ、金銀若干兩、廚下ノ膳食ニ、金銀若干兩、廐ノ用ニ、金銀若干兩、後宮ノ養ニ、金銀若干兩、世子ノ養ニ、金銀若干兩、諸公子ノ養ニ、金銀若干兩、親戚等ノ貧究ヲ賑フニ、金銀若干兩トイフ類ノ如キ是也、無足人ヲ金俸ニテ畜フノミナラズ、ケ樣ニ萬事ノ費ヘヲ金銀ニテ定ムルコト、世ノ習俗ニテ大ナル謬ナリ、金銀ニテ定レバ、米價貴キトキハ、米ヲ出スコト少クシテ、出ス方ニ利アリ、米價賤キトキハ、米ヲ出スコト多シテ、出ス方ニ不利也、費用ハ定マリタルコトニテ、損益シ難キ物ナルニ、米ノ出ル所ニ多少アリテサダマレル

コトナキ故ニ、會計モ成難ク、國家ニ甚不便利ナルノミナラズ、近年來ノ如ク、米價太賤キトキハ、金銀ニハ定數アレドモ、米ノ出ルコト昔ニ倍シテ、國用足ラズ、諸侯ノ貧究スルコト皆此故也、若此類ノ費用ヲ米ニテツモリテ、某ノ爲ニ米若干石、某ノ爲ニ米若干苞ト定メ置ケバ、米價ノ貴キ時モ、賤キ時モ米ノ出ル所增減ナクシテ、是ヲ出ス方ニ損益ナシ、然ルトキハ、毎年ノ費用一定シテ、會計モ成易シ、會計ハ、勘定也、金銀ニテ定メタルハ、米價甚賤キ迚、米價ニ應ジテ甚シク減ズルコトモ成難キハ人情也、自己ノ俸養ハ、自己ノ心ニテモ濟スベケレドモ、後宮世子、其外親戚等ノ、其君ノ養ヒヲ受ル方ニテハ、米價賤キ迚、其定マレル養ヲ減ゼラレバ、必不滿ノ心ヲ起シテ主君ヲ怨ミ、其役人ニ怒ルコトモアリ、是ニ因テ米價甚賤クテモ、ケ樣ノ金銀ハ、米價程ニハ減ジ難キコトアルモ、已ムコトヲ得ザル人情也、然レバ、ケ樣ノコトヲバ、皆米ニテサダメ置クベキコト異議有マジ、米ナレバ、是ヲ賣テ金銀ヲ取テ、其用ヲ辨ズルニ、米價貴キトキハ、金銀ヲ多ク取テ豐ニ使ヒ、米價賤キトキハ、金銀少キニ應ジテ事ヲ省キ、用度ヲ減ジテ儉約スルノミ也、米價ノ貴キ賤キハ、士大夫以上一同ノ損益ナレバ、誰ヲ怨ムベキ樣モナシ、只米價ノ貴賤ニ心ヲ動カサズ、會計ノ得失ナク、國用ノ逼迫セザル樣ニ思慮スルコト、是國計ノ專務也、國計トハ、諸侯以上ノ國用ノ總勘定也

一　漢ノ代ニ、武帝奢靡ヲ好ミ玉ヒ、其上ニ國家多事成シニ因テ、封君諸侯皆貧究シテ　商賈ノ富有ナル者ヨリ金銀米穀ヲ借テ用ヲ辨ジ、秋成ノ時ニ及デ、邑入ヲ以テ之ヲ償フ、邑入トハ、知行ノ收納也、

此事ヲ史記漢書ニ、封君皆低首仰給トハ、封君トハ、土地ヲ賜ハリ、列侯ニ封ゼラレタル人也、今ノ世ノ大名トイフ者也、低首トハ、封君ハ貴キ者ナルニ、首ヲ下テ商賈ノ賤キ輩ニ無心ヲ言フ也、仰給トハ、仰ノ字ハ、タノムトイフ意也、給ハ、ツヾキトイフ意也、用度逼迫シテ續キ難キヲ、人ヲ賴テ助ヲ乞フヲ仰給トイフ、武帝ノトキ如此ナリシト聞クハ、遠キ古ノ事ナルニ、今ノ世ノ諸侯ハ、大モ小モ、皆首ヲタレテ町人ニ無心ヲイヒ、江戸、京都、大坂、其外處々ノ富商ヲ憑デ、其續ケ計ニテ世ヲ渡ル、邑入ヲバ悉ク其方ニ振向ケ置テ、收納ノ時節ニハ、子錢家ヨリ倉ヲ封ズル類也、子錢家トハ、金銀ヲ借ス者ヲ云フ、邑入ニテ償ヒテモ猶足ラズ、常ニ債ヲ責ラレテ、其罪ヲ謝スルニ安キ心モナク、子錢家ヲ見テハ、鬼神ヲ畏ル、如ク、士ヲ忘レテ町人ニ俯伏シ、或ハ重代ノ寶器ヲ典當シテ時ノ急ヲ免カレ、家人ヲバ飢シテ、子錢家ヲバ珍膳ニテ饗シ、或ハ子錢家トテ、故モナキ商賈ノ輩ニ、祿俸ヲ與ヘテ家臣ノ列ニ入レ、或ハ貰リタル物ノ直ヲ償ハズ、工人役夫等ノ賃錢ヲ償ハズシテ、其人ヲ困究セシムル類、凡廉恥ヲ忘レテ不仁不義ヲ行フ人、比々トシテ皆是也、諸侯スラ然也、况ヤ薄祿ノ士大夫ヲヤ、風俗ノ敗レ、悲ムニ餘レリ、是元祿以來、奢靡ノ風ニテ致ス所ト雖ドモ、實ハ士大夫以上生產ノ道ニ昧キ故也、凡天子ヨリ以下士庶人ニ至ル迄、生產ノ道ヲ不知バ有ルベカラズ、禮記ノ王制ニ、量入以爲出ト云ヘル一句、是生計ノ要文也、千言萬語此一句ニ約マル、庶人ハ士大夫ヨリモ生產ニ賢キ者ナレバ、玆ニ論ゼズ。且諸侯ノ生計ヲ云フニ、量入トハ、一歳ノ內、知行ヨリ收マル所

ヲ入トイフ、一歳ニ知行所ヨリ收ル處、米穀以下山海ノ諸運上道ヲ數ヘテ、幾程納ルゾト云フコトヲ、總勘定ヲナスヲ量入トイフ、出ストハ、出シテ使フ也、凡人ノ心ニ願ヒ望ムコトモ、耽リ樂ムコトモ、限ナキ者ナレバ、米穀貨財ヲ出シテ費シ用ルコトハ、幾程使テモ、是ニテ滿足シツト思フコトハナキ者也、然レバ身ノ分限ニ應ジテ、能程ヲ量ルベキコト勿論也、サレドモ能程トイフモ、其位見エ難シ、只入ヲ量リテ出スコトヲナストイフ、是第一ノ用心也、大小夫々分限ニ隨テ、先其知行ノ收リヲ勘定シテ總數ヲ知リ、扨毎年定リテ出ス所ノ米穀金銀ノ員數ヲ勘定シテ、入ト出トヲ對算シテ、其多少ヲ視ルベシ、入ル方多ク、出ル方少キハヨシ、若出ル方入方ヨリ多ケレバ、是其多キ分不足也、僅ニモ不足ノ處見ユレバ、出ス方ノ中ニテ、何レヲカ減省スベキト思量シテ、省テヨキコトヲ省クベシ、究竟スル所、入ル方ヨリモ出ル方ヲ少クスル、是儉ノ道也、儉トイフハ、諸事ヲウチワニスルコト也、孔子ノ言ニ、節レ用ト曰ヒ墨子ガ道ニハ、節用ヲ殊ニ肝要トセリ、竹ノ節ハ限アル者也、用度ノ限リヲ思惟シテ、竹ノ節ノ如ク、是ヨリ外ニハ出ヌコトト、堅ク分量ヲナシテ、其制度ヲ過ザルヲ節用トイフ也、王制ニ、「量レ入爲レ出」トイヘルハ、則節用ノ道也、「量レ入爲レ出」トイフニ付キテ、出ルヲ入ルヨリ少クスベシトイフハ、凡天下國家ニ經費トイフコトアリ、經ハ常也、經費トハ常ノ入目トイフ義也、毎歳公私ノコトニ出ル、米穀金銀等ノ定マレル入目ヲ經費トイフ、毎歳ニアラザレドモ、二年三年、四年五年ニ一度ニテモ、定マリテアル事ノ物イリハ、是モ經費也、經費ハ明年ノコトヲ今年ヨリツモリ

テ、其用意ヲナシ置、其期ニ至テ行支ヘヌ様ニスベシ、此經費ハ、則出入ノ出ナリ、入ト出ト同シ程ナラバ好カルベシト、常ノ人ハ思フ故ニ、有餘不足ナク、一バイニ生産ヲ治ムルヲ、今ノ世ニハ上計トス、然ルニ天下國家ニハ、不虞トイフコト有、不虞ハ計ラズトイフ義ニテ、思ヒガケヌ事也、國ニ水旱大風災アレバ、年穀不熟シテ、邑入不足スル、是第一ノ不虞也、次ニ水火ノ二ツハ天災ナリ、盜賊ハ人禍也、又軍旅行役ハ、國家ノ大事也、軍旅ハ治世ニハナキ事ナレドモ、武備ヲ忘レヌハ、國ヲ守ル道ナレバ、治世ニモ軍旅ヲバ常ニ心ニ懸ベキ也、行役ハ今ノ世ニ京都、大坂抔ヲ戍ル在番ノ類也、凡軍役ノ旅行ヲ行役トイフ、行役ハ治世ニモ必有ルコト也、此等ハ外來ノ不虞也、家ニ病人死人アルハ、內ノ不虞也、如レ此內外ノ不虞、何レカハ不レ知、時々ニ出來リテ、米穀貨財ヲ費スコトアリ、天子諸侯ヨリ庶民ニ至ル迄、逃ル、コト不レ能、又吉事嘉事ノ類ニ、祭祀ハ神ヲ祭リ、先祖ヲ祭ル、今ノ俗ニ、年忌佛事ヲ修スル類ハ吉事也、誕生、元服、婚嫁ノ類ハ皆嘉事也、此等ハ每歲定リタルコトニハアラネドモ、國家ニハ必アルコトニテ、米穀金銀ノ費ルコトナレバ、經費ニ非ズシテ、經費ノ如クナル者也、又自國自家ニハ何事モナケレドモ、親族或ハ他人ノ方ニ不慮ノ患難アルヲ、濟ハズシテ不レ叶コトアリ、凡テ不虞トイフ事ハ、天下國家ヨリ吾人ノ家迄モ、必有コトナレバ、此備ヲ豫メナサズシテハ、不レ叶、備トハ其心當ヲナシ置也、サレバ常ニ入ルト出トヲ同ジ程ニシテハ、不虞ノ備ヲ成ベキ様ナシ、不虞ノ備ヲ不レ爲シテ不虞ニ遇ヘバ、用度不足スル故ニ、人ニ借ルコト是ヨリ始ル、

米穀金銀ヲ人ニ借レバ、利息ヲ加ヘテ還ス故ニ、鼠ノ子ヲ生ム如ク、債彌增ニ多クナリテ、初ニ復スルコト成難キ者也、是ニ因テ古ノ君子ハ、必不虞ノ戒ヲナセリ、戒トハ用心也、季文子ガ言ニ、「備ニ豫不虞、古之善教也」トイヘリ、サテ出ヲ入ヨリ少クシテ、不虞ノ備ヲナサンニハ、如何センヤトイフニ、王制ニ、「三年耕、必有二一年之食一」トイヘル、是聖人ノ法也、此法ハ、三年耕作スレバ、必一年ノ食程ノ餘分アルトイフニハ非ズ、一年ノ收納ヲ四ツニ分テ、三分ヲ以テ其一年ヲ養テ、一分ヲ餘シテ蓄トスル也、譬ヘバ當代ノ諸侯ノ萬石ノ祿ナラバ、七千五百石ニテ一年ヲ養ヒ、公私ノ諸用ヲ辨ジテ、二千五百石ヲ餘シテ蓄トス、三年ナレバ、此餘分又積リテ七千五百石トナル、是則一年ノ食也、如レ此毎年四分ノ一ヲ餘ス故ニ、九年無事ナレバ、三年ヲ養フ程ノ蓄アリ、三十年無事ナレバ、十年ノ蓄アリ、然ル上ニハ、如何ナル凶年饑饉、不虞ノ災患有リテモ、國用ノ不足スルコトナキ也、今ノ人ノ心ニテハ、毎年四歩ノ一ヲ餘スヲバ、太多キ事トイフ、是會計ニ拙キ也、今ノ諸侯、其國ニ火災アリテ、城下抔焚レバ、再築ニ數年ノ邑入ヲ盡ス、東都ノ火災ニ邸第焚レバ、二三年ノ邑入ヲ出ス、或ハ國家ニ土木興作ノコトアリテ人夫ヲ出シ、或ハ軍旅行役ノコトアリテモ、亦二三年ノ邑入ヲ出ス、此等ノ外ニ、小々ノ不虞有テモ、半年一年ノ邑入ヲ費スコトハ數也、此等ヲ細ニ會計セバ、毎歲四歩ノ一ヲ餘シテモ、猶不足ナルベシ、王制ノ古法ヲ不レ知、三年ノ内ヨリ一年ノ食ヲ出スコトナキ故ニ、古ニ云ル如クノ不虞ノコトアレバ、商賈ニ借リテ急用ヲバ辨ズレドモ、其不足ヲ補ベキ計ナキニ因テ、

年々ニ國用窘迫シテ、後ハ家人ヲ畜フベキヤウモナク、借タル物ヲモ還サズ、信ヲ失ヒ義ヲ虧ギ、人道ニ背クコト多端也、然レバ三年ノ內ヨリ必一年ノ食ヲ餘ストイフハ、古聖人ノ敎ニテ、善クツモリタル法ニ非ズヤ、凡人ノ生計ハ、大モ小モ、當年ノ入ヲ來年暮迄使フベキ也、當年ノ入ヲ當年ニ用ル樣ナレバ、甚急迫ナリ、今ノ諸侯以下ハ、明年明後年ノ入ヲモ、前年ニ取越テ用レバ、困究スマジキ樣ナシ、誠ニ不學無術ノ致ス所、歎クニ餘リ有ルコト也

一　異國ニ義倉トイフコトアリ、隋ノ文帝ノ時ニ、長孫平トイフ者、度支尙書ノ官也、度支尙書トイフハ、國家ノ諸事ノ費用、錢穀ノ出納ヲ掌ル官也、開皇年中、長孫平言上シテ、在々所々ニ義倉ヲ立ツ、民ノ家々ヨリ、其貧富ニ應ジテ、每年粟麥一石以下ヲ出サシメ、是ヲ聚テ其在所ノ倉ニ藏メ、其里ノ父老是ヲ主ドリ、常ニ蓄置テ、凶年飢饑ノトキニ之ヲ出シテ其難ヲ濟ハシム、是ヲ義倉トイフ、民間ニテ互ニ相恤デ、急難ヲ濟フガ故ニ、義ト名ヅケタリ、此事日本ニテモ、文武天皇ノ世ニ有シコトニテ、今ノ世ニモ行ハルコト也、在々所々ノ民間ハ云フニ不レ及、諸侯ノ國ニテ、士大夫ノ中ニ是ヲ行ハバ補フ處多カルベシ、今其法ヲ擬スルニ、且ク萬石以上ノ諸侯ナラバ、諸臣ノ祿俸ノ內ヨリ、廿分ノ一ヲ出シテ義倉ニ入ルベシ、廿分ノ一ハ、米百苞ノ內ヨリ五苞ヲ出ス也、百苞以上ハ勿論ナリ、百苞ヨリ下ノ微俸小給ノ者迄モ、悉ク廿分ノ一ヲ出サシムベシ、主君モ二十分ノ一ヲ出スベシ、一萬石ナラバ五百苞也、此二十分ノ一ヲ、上モ下モ每歲出シテ義倉ニ入レ、穀ニテ蓄フベキ程ヲバ、粟ニテモ

米ニテモ蓄置キ、其餘ヲバ價ノ貴キヲ待テ、糶テ金トナシテ蓄フベシ、諸士ノ中ニテ算數ニ達シ、清白ナル者ヲ擇デ義倉ヲ主ラシメ、下ニ吏卒ヲ付テ倉ヲ守ラシメ、出納ノ役ニ使フベシ、扨凶年飢歳在テ、祿食不足セバ、是ヲ出シテ其不足ヲ補フベシ、若其國邑ニテモ、又ハ東都ノ邸ニテモ、火災有テ其難ニ遭シニハ、其災ヲ被レル者ニ是ヲ出シテ、或ハ與ヘ、或ハ貸スベシ、此等ハ皆諸人一同ノ厄難ナリ、又一士ノ家ニモ疾病死喪アリ、不時ニ窘迫スルコトアリ、又不時ナラネドモ、婦ヲ娶リ女ヲ嫁スル類ニ費用多キコトアリ、左樣ノトキハ、願フニ隨テ、穀ニテモ金ニテモ、出シテ貸スベシ、其多少ニ隨テ、當年ニ還シ、或ハ二年三年ニ還シ、或ハ四五年ニモ還スベシ、是ニ利息ヲ出サシムベシ、息ハ米一石ニ一月一升程ヲ定トスベシ、金銀ノ息モ之ニ准ズベシ、此義倉ニ還ス所ノ本利ハ、皆毎年ノ祿俸ノ內ニテ引取ルベシ、凡士人ノ家ニ不虞ノコト在テ、用度不足スレバ、外ヨリ借用スルニ、許多利息ヲ出シ、或ハ其金ヲ急ニ責ラレテ困究シ、其上ニ猶窘迫スレバ、武具馬具ヨリ始テ、累代ノ重寶ヲモ斥賣シ、平日ノ衣服迄モ典當シテ、奉公ノ務モ成難キニ至ル者多シ、今ノ士人ノ廉耻ヲ斷ギ、節義ヲ失フ、皆是ヨリ起ル也、義倉ノ金穀ヲ貸シテ、是ニ利息ヲ出サシムルハ、如何ト思フ人モ有ベキガ、典舖モ子錢家モ、皆厚利ヲ貪テ借ス者也、外ニ向テ厚利ヲ出サンヨリ義倉ニ入ルヽハ、己ガ府庫ニ入ルルガ如シ、人ヲ憑ミ奔走スル勞モナク、時々ニ責ラルヽ患モナケレバ、義倉ヨリ借ルハ、士人ノ爲ニ甚便利也、既ニ如レ此ノ法ヲ立ル上ハ、外ニテ借リ、又ハ武器衣服等ヲ典當スルコトヲ嚴禁シ、

凡何ニテモ債ヲ負ザルベシトノ令ヲ出シ、士人各其身ノ分ヲ知テ、儉約ヲ宗トシ、奢侈ヲ好マザル樣ニ政ヲ行フベシ、其國若幸ニシテ久シク無事ナラバ、義倉ノ金穀年ヲ追テ豐饒成ベシ、若不幸ニシテ凶變アランカ、軍旅行役ノコトナド起リテ、國用軍用不足スルコトアラバ、主君モ臣下モ、義倉ノ金穀ヲ借用シテ、其急ヲ濟ヒ、無事ノ日ニ至テ、數年ノ內ニ必是ヲ償フベシ、若諸士ノ中ニ死亡シテ子孫ナク、後トナルベキ親族モナク、其家絕スル者アランニ、寡婦或ハ孤女アラバ、其士ノ父祖以來、義倉ニ入レタル穀ヲ計算シテ、其寡婦孤女ニ賜フベシ、是又仁政ノ一ツ也、義倉ノ術大略如レ此、凡人ハ平生無事ノ日ニ、侈ヲ戒シメ用ヲ節シテ、少ヅツモ貨財ヲ餘シテ儲蓄シテ、不虞ニ備フベキ義ナレドモ、遠慮アル人ハ罕ニテ、目前ノ事ノミヲ營ム者多ケレバ、縱上ヨリ號令ヲ出シテモ、私家ニ不虞ノ備ヲナス者ハ、百人ニ一人也、夫モ私家ノ物ナレバ、一タビ不虞ノコトアリテ、用度窘迫スレバ、數年ノ儲蓄ヲモ一時ニ用ヒ盡シテ空囊ヲ抱キ、夫ヨリ遂ニ貧窮スル者世ニ多シ、義倉ハ國儲ニテ、一人ノ蓄ニ非ズ、納ムルニ法アリ、出スニ制有テ自由ナラズ、每年祿俸ノ內ニテ、少許ノ米ヲ引取ラルルハ、定マレルコトナレバ、私家ヨリ新ニ出ス如クニハアラデ、左ノミ苦ムコトモナシ、凡士民ハ千萬人ノ心不同ニテ、政ノ利害ヲ受ル處モ一樣ナラネドモ、不虞ノコトアルニ及デ、財用ノ不レ足ヲ苦ムコトハ衆人同然也、サレバ君上ノ下ヲ統御スルハ、小々ノ利害ニ拘ラズ、不虞ノ急難ヲ濟フベキ方術ヲ常ニ思惟シテ、無事ノ日ニ其備ヲナス、是ヲ善政トイフ、今云フ所ノ義倉ノ如クナルコトハ、何レ

ノ世何レノ國ニテモ行ハル丶術也、今モ奥州ノ三春ニハ、秋田氏ノ政ニテ、義倉ニ似タルコトアリト聞ケリ、他ノ侯國ニモ是ヲ行ハマホシキ者也、然レドモケ樣ノ政ハ常ニ其國邑ヲ善ク治テ、上モ下モ祿食用度不足ナキ中ヨリ行フベシ、今ノ諸侯ハ皆貧究ニテ、臣下ノ祿俸ヲ抑留シテ、定數ノ如ク給セズ、舊債ヲ償ハントスルニ、數歳ノ入ヲ盡テモ及ビ難キ程ナレバ、義倉ヲ立ルコト叶ヒ難カルベシ、苟モ經濟ノ志アラン人ハ、痛哭スベギコト也（已上食貨ヲ論ズ）

一日本ノ金幣、古ハイカナル制ナリシトイフコトヲ不レ知、中古以來ハ、砂金ヲ用タリト聞ユ、銀ヲ用ルコトハ、何レノ世ヨリ始マレルトイフコト詳ナラズ、銅錢ハ、和銅錢ヲ鑄テノ後ハ、重テ鑄ルコト稀也、中古ヨリ、唐ノ開元錢多ク此國ニ渡リ、其後宋ノ錢彌多ク渡リシ故ニ、此方ニテ錢ヲ鑄ザレドモ、乏キコトナカリシト見ユ、元ノ錢モ多ク渡レリ、明ノ洪武永樂ノ錢ハ、近代ナレバ殊ニ多ク渡レル故ニ、日本ニテ關東ノ田地ヲバ、永樂錢ニテ其直ヲ定テ、祿秩ヲモ錢ノ數ニテ幾百貫、幾十貫ト定タリ、ケ樣ニ異國ノ錢ヲ用ルコト豐饒ナリシ故ニ、此方ニテハ絕テ鑄ザリシ也、當代ニ及デ、寛永年中ニ、始テ新錢ヲ鑄サセラル、文ヲ寛永通寶トイフ、昔ヨリ有來ル異國ノ錢ト相雜ヘテ行フ、永樂錢ハ、一貫ヲ以テ黃金一兩ニ直ストイフ、寛永錢ハ、四貫ヲ以テ永樂ノ一貫ニ直ス、然レドモ、新錢多ク出ルニ因テ、永樂モ價賤クナリテ、其後ハ寛永ト同直也、寛文年中ニ、又新錢ヲ鑄ル、面ノ文ハ寛永通寶ニテ、背ニ文ノ字アリ、世ニ是ヲ文錢トイフ、寶永ニ又新錢ヲ鑄ル、寛永通寶ノ文ヲ用テ、背

ニ文字ナシ、正德ニ又鑄ル、享保ニ又鑄ル、皆寳永ニ鑄タル錢ノ如ク、寛永通寳ノ文ニテ、背ニ文字ナシ、數度ニ鑄タル新錢世ニ行ハレテ、近年ハ異國ノ古錢漸々ニ少ク成レリ

一　寳永ノ間、濃州關ノ農民、宅地ヲ掘テ板金ヲ獲タリ、形モ大サモ、今ノ大板金ノ如シ、文モナク、款識モナシ、兩面ニ粗キ刻アリ、款識トハ、銘也、刻印也、其民京都ニ持往テ、金幣局ノ者ニ視セテ問ケルニ、織田氏ノ時ノ板金ナリトイフ、文モ款識モナキハ如何ニト問ヘバ、精金ナル故ニ、款識ナクシテ天下ニ通行シ、僞造スル者ナシ、若少分ノ用ニハ、鏨ニテ切テ、其重サヲ秤テ使ヒシ也ト答フ、純其時京ニ在テ此板金ヲ見タリ、凡金銀ハ純粹ナルヲ貴ブ、純粹ナレバ、僞ヲ成難シ、印文等ハ僞ヤスシ、是ニ因テ前代ニハ、金ヲ純粹ニシテ、印文ヲ用ヒザリシ也、當代ハ精金銀ヲ用テ、又印文款識アリ、僞造ヲ防ガン爲也、金ハ重サ四錢八分ヲ以テ一兩トシ、一錢二分ヲ一歩トス、大板金ハ重サ卅六錢、是七兩二歩也、小板金ハ四錢八分、則一兩也、板金ハ形橢也、歩金ハ形方ニシテ長シ、金幣ニ三品アリ直ハ高下ナク、三品同直也、金一兩ハ銀六十錢、銅錢四貫八百文ニ直スルヲ常トス、時ニ隨テ價ノ貴賤アレドモ、大抵ハ如レ是、然ルニ大板金ヲ以テ小板金ニ易ヘ、小板金ヲ歩金ニ易ルニハ、皆兌錢ヲ出ス、俗ニ是ヲ切賃トイフ、大金ヲ切テ小金ニナストイフ義也、兌舖是ヲ以テ其利トス、大小ノ易レルノミニテ、直ニ高下ハナク、大小板金ノ一兩ト、歩金ノ一兩ト、少モ増減ナキニ大ノ方ヨリ兌錢ヲ出シテ小ヲ取ルハ、使ヒヨキト使ヒニクキトノ故也　使ヒニクキ大小板金世ニ行ハルヽニ因

テ、士人皆兌錢ヲ出シテ歩金ヲ取ル、是兌舗ノ利ニテ、士大夫以上ノ害也、其中ニ大板金ハ民間ニ常ニ用ヒザル物也、小板金ハ歩金ト等ク、士民ノ常ニ用ル物ナレバ、是ガ爲ニ兌錢ヲ出スコト甚不便利ナルコトナリ、且三十年前ハ金一兩ニ兌錢八文、或ハ十二文成シニ、近歳ハ三四十文ヲ常トシ、多キハ百文ニ至ル、士民ノ害甚シ、願クハ板金ヲ止テ、歩金一品ヲ行ハヾ、兌錢ヲ出スコトナクシテ、士民ノ爲ニ益アラン

一 當代慶長年中ニ、佐渡ノ山ヨリ金ヲ出ス、是ヲ取テ金幣ヲ造ル、今ニ至ル迄世ニ行ハル、元祿中ニ、國用乏キニ因テ、銀銅鉛錫ヲ雜ヘテ新金幣ヲ造ル、文ニ元ノ字アリ、三品ノ外ニ、又二銖金ヲ造ル、一歩金ヲ半ニシテ形小シ、四品ノ金、皆黄金ノ眞色ヲ失ヒテ、鍮石ノ如シ、是ヲ元祿新金ト稱シテ海内ニ行ヒ、慶長ノ故金ヲ止ム、此新金既ニ純金ニ非ズシテ、僞ヤスキニ因テ、僞造ノ罪人多出來テ磔刑ヲ被レリ、民間ニモ此幣ノ純金ニ非ルヲ賤ミテ、稍々百貨ノ價ヲ增ス、金ノ直ハ故金ニ減ズルコトナケレドモ、貨物ノ價貴クナリタレバ、則是金ノ直ノ減ジタル也、且僞造ノ金多ク民間ニ流布シテ、不レ識者ハ皆欺ヲ受タリ、文廟此事ヲ深ク憂玉ヒ、登極ノ初ヨリ、金幣ヲ故ニ復サンコトヲ思惟セサセ玉フ、然レドモ元祿金ニハ、銀銅鉛錫ヲ雜ヘテ金ト等分ナル故ニ、是ヲ銷シテ慶長ノ故金ノ如ク、純金ニナサントスレバ、天下ノ金幣ノ數其半ヲ減ズベキコトヲ慮リ玉ヒ、故ニ復ス造ノ內、姑ク小金幣ヲ造ラシメ玉ヘリ、元祿ノ小板金、並ニ一歩金ヲ鎔シテ、其中ノ雜物ヲ去テ、純金ヲ以テ新幣

ヲ造ル、其形薄ク小クシテ、其重サ故幣ノ半也、則小板金重サ二錢四分、一歩金重サ六分也、大板金ヲバ未改メズ、二銖金ヲバ、向後停止シ玉ハン爲ニ是モ改メズ、寶永ノ季ヨリ此新幣ヲ行ヒ、元祿金ト並ベテ海內ニ行フ、小板金ノ文ニ乾ノ字アルニ因テ、是ヲ乾金ト稱ス、此幣出シヨリ、民間ニ僞造ノ者モナク、欺ヲ受ル患モナキユヘニ、民之ヲ便トセリ、然レドモ其形薄小ニシテ、重サ故幣ニ半減ナルヲ以テ、人情何トナク此幣ヲ輕ンズルユヘニ、直ヲサノミ減ズルニテハナク、諸物ノ價ヲ增テ賣買ス、且亦此幣ハ永久ニ行フベキ者ニ非ズ、慶長ノ故幣ニ復ス迨ノ內、元祿ノ惡金ヲ止メン爲ニ、姑ク之ヲ行ハルト思ヘルヨリ、久カラズシテ慶長ノ故幣ニ復セバ、乾金ハ自ラ半直ニナルベシト悟リテ、漸々ニ乾金ノ直ヲ減ジ、諸貨ノ價ヲ增テ、故幣ニ復セル時ニ、少モ損失ナキ樣ニ計レリ、下民ノ狡黠ナル、商賈ノ利ニ賢キコト、士大夫ノ及ブ所ニ非ズ、玆ニ至テ乾金又大ニ不便也、正德二年、文廟薨ジ玉フトキ、大臣ヲ召テ金幣ヲ慶長ノ故ニ復スベキコトヲ顧命シ玉フ、是ヨリ民間ニハ、彌乾金ノ直ヲ減ジテ物價ヲ貴クス、一兩ヲ以テ銅錢二貫六七百文ニ直スルニ至レリ、章廟ノトキ、慶長ノ故幣ニ准ジテ、又新幣ヲ造ラシメラル、大板金ヲバ姑置テ、先小板金ト、一歩金トヲ造ル、精金ヲ以テ造リ、乾ノ字ノ文ヲ止メ、大サ重サ悉ク慶長ノ故幣ノ如シ、正德ノ末ヨリ稍々世ニ出シ行ハシム、是ヲ新金ト呼デ、一兩ヲ乾金二兩ニ直シ、一歩ヲ乾金二歩ニ直ス、乾金一歩ハ、則慶長ノ半歩ニ直ス、半歩ハ、二銖也、慶長ノ故幣ト並ベ行フベキ由ヲ令セラル、此時金幣多品繁雜シテ、民用甚不便利也、今ノ國

家ニ及デ、享保ノ初ニ、斷ジテ乾金ヲ止メ、並ニ元祿ノ二銖金ヲ廢シテ、專ニ新金ヲ行ハシメラル、元祿中ニ新幣ヲ造リテヨリ慶長ノ故幣ヲ止メラレシカバ、世ニ慶長金トイフ者絶テ見エザリシニ、正德ノ末ニ今ノ新幣ヲ造リ、慶長ノ故ニ復シ、新故並ベ行ハシメラレシヨリ、慶長金世ニ多ク出來リテ、殆ド新金ト相半セリ、元祿ヨリ以來二十餘年ノ間、何レノ處ニ隱タリシヤラン、怪敷コト也、享保ノ新令ニ、乾金ヲ悉ク今ノ新幣ニ易シメラルトイヘドモ、乾金ハ精金ナルコトヲ民間ニ知レルニ因テ、乾金又多ク隱レタル成ベシ、既ニシテ慶長ノ故幣ヲ以テ、今ノ新幣ニ比量スレバ、故幣ノ重サ新幣ニ少シ減ズトイフ、年久シキニ因テ、銷磨シテ耗損シタル也、是ヨリ又新金ヲ貴ビ、故金ヲ賤シムルコトニナリテ、藏中ニ蓄タル故金ヲ漸々出シテ、新金ヲ蓄藏スト見エタリ、數年ノ間ニ、慶長金彌多クナリテ、新金ハ十分ノ一也、元祿以來廢レタル故幣ノ、今如レ此出タルヲ以テ、今日乾金又多ク隱レタルベシトイフコト明也、凡金銀ハ天下通用ノ貨幣ナレバ、蓄藏シテ隱シ置クベキ物ニ非ズ、元祿ノ惡金ノ如キハ、堅ク禁止シテ世ニ行ハシムマジキ物也、乾金ハ形ノ薄小ナルノミニテ好金ナルヲ、之ヲ禁ジテ行ハザレバ、民間ニ蓄タルヲモ出シ用ルコトヲ得ズ、改造ノ時ヲ過ツレバ、新幣ニ易ルコトモ不レ叶、自ラ一世ノ廢物トナリ隱レ去ル、玉ヲ土ニ埋メルガ如シ、至テ惜キコト也、是世ノ寶ヲ匱クスル道也、願クハ乾金ヲ今ノ新幣ノ半直ニ用テ、前ノ如ク新故並ベ行ハシメラレバ、隱タル乾金又出來リテ、貨幣世ニ豐饒ナラン、是國家ノ益ニシテ、民ノ利ナルベシ、丁未ノ歲ヨリ新幣ノ大板金ヲ行テ、

元祿ノ大板金ヲ止ラル、玆ニ至テ元祿以來ノ改造ノ金幣止テ、全ク慶長ノ故ニ復セリ、誠ニ目出度善政也、享保ノ新令下リシトキハ、海內ノ金幣其半ヲ減ズト思ヒテ、士民皆之ヲ歎キシガ、數歲ヲ新幣流布シテハ、減半ノ損モサノミ見エズ、民其痛ミヲ忘タリ、國家ノ政ハ、誠ニ果敢ヲ以テ行フベキ者也

一 當代ノ銀幣ハ、國初以來二品アリ、一ツニハ銀錠ナリ、二ツニハ碎銀也、銀ハ四錢三分ヲ以テ一兩トス、碎銀ハ大小齊シカラズ、重サ二三分ヨリ四五錢ニ至ル、其形豆ノ如クナル故ニ、俗之ヲ豆板トイフ、銀錠ハ十兩ヲ一梃トス、重サ四十三錢也、俗ニ梃銀トイフ、錠ニ大小アリテ、必シモ重サ十兩ナルニ非ズ、梃銀ト碎銀ト、銀ニ善惡有ルニ非レドモ、梃銀ヲ以ヲ碎銀ニ易レバ、必梃銀ノ方ヨリ充錢ヲ出ス、板金ヲ步金ニ易ル如ク、便ト不便トノ故也、國初ノ銀幣ハ純物成シニ、元祿改造ノトキニ、銅鉛錫ヲ雜ヘテ其數ヲ多クス、文ニ元ノ字ヲ印シテ、是ヲ元祿新銀ト呼ブ、慶長ノ故銀ニ比スレバ色稍薄シ、此幣海內ニ行ハレテヨリ、故銀ヲ停止セラル、此幣純銀ニアラザルニ因テ、僞造スル者起リテ、士民欺ヲ受ル者多シ、此新銀ニテ已ムベカリシニ、寶永年中ニ、又國用匱クナリテ、幣ノ數ヲ多クセン爲ニ、銅鉛錫ヲ增加シテ、文ニ寶ノ字ヲ印シテ、是ヲ寶永新銀ト呼ブ、元祿ノ銀ヲ止メテ寶永ノ新幣ヲ行フ、其色黑黯ニシテ、元祿ニ比スレバ鉛ノ如シ、民之ヲ賤ンズ、是ニテモ已マズ、其後又雜物ヲ增加シテ、文ニ二ツノ寶ノ字ヲ印ス、色彌惡シ、民是ヲ賤ンズルコト彌甚シ、是ニテモ猶已

マズ、其後又雜物ヲ增加シテ、文ニ寶ノ字三ツ印ス、其次又雜物ヲ增加シテ、文ニ寶ノ字四ツヲ印ス、寶永中ニ四度造レル銀幣ヲ、民間ニ一(ヒトツ)寶二(フタツ)寶三(ミツ)寶四(ヨツ)寶ト目ク、四寶ニ至テハ、其色黑黯ニシテ鏽ヲ生ジ、銀ノ本色失ハレテ、鉛錫ト少モ異ルコトナシ、民是ヲ賤シムルコト土石ノ如シ、國初以來ノ故銀ハ、六十錢ヲ以テ金一兩ニ直シ、一錢ヲ銅錢七八十文ニ直スルヲ常トセシニ、三寶四寶ノ惡銀ニナリテハ、直大ニ減ジテ、八十餘錢ヲ以テ金一兩ニ直シ、一錢ヲ銅錢四十文許ニ直ス、茲ニ至テ士民ノ患甚シ、東國ハ金ト錢トヲ用テ、銀ヲ用ルコト稀ナル故ニ、惡銀ノ害ヲ被ルコトモ輕シ、京都ヨリ西ハ、專ニ銀ヲ用ル故ニ、惡銀ノ害ヲ受ルコト甚重シ、僞造モ彌多クシテ、士民ノ患是ニ過ルコトナシ、文廟大統ヲ繼セ玉ヒショリ、大ニ其事ヲ憂玉ヒ、元祿以來ノ五等ノ惡銀ヲ銷シテ、國初以來ノ故幣ニ復センコトヲ議セラル、遂ニ有司ニ命ジテ、純銀ヲ以テ故幣ノ如ク新幣ヲ造ラシメラル、正德ノ二年ヨリ新銀稍々世ニ行ハル、其直ハ故幣ノ如クニシテ、一錢ヲ以テ四寶ノ四錢ニ直ス、三寶二寶一寶、元祿造四等ハ其色ノ甲乙ニ隨テ、幾分ノ增トイフヲ以テ改造ノ新幣ニ直ス、新幣未ダ海內ニ行フベキ程ニ成就セザル故ニ、五等ノ惡銀ヲモ未ダ廢セズ、新幣ト並ベ行フ、只一種ノ銀幣ニ好惡六等アリテ、其直モ多少不同ナル故ニ、士民是ヲ苦ムコト甚シ、享保ノ初ニ及デ、新令下リテ、元祿以來ノ惡銀ヲ悉ク廢シテ、專ニ新幣ヲ行ハシメラル、茲ニ至リ海內ノ銀幣減ジテ四分ノ一ト成シ故ニ、士民大ニ苦シメリ、然レドモ數年ヲ歷テ、新銀海內ニ流布セシカバ、漸々ニ其痛モ去テ、イツトナク國初以來

ノ故ニ復セリ、是又目出度善政也

一　銅錢ハ寛永以來世ニ多ク流布セリ、元祿ノ季ヨリ、國用匱キニ因テ、東都ニテ新錢ヲ鑄ルコトヲ命ゼラル、其時ノ有司荻原直秀、銅ノ多ク費ルコトヲ厭ヒテ鉛錫ヲ雜ヘ、錢ノ形ヲ薄ク少クス、寛永寛文ノ錢ハ重サ十分ナルニ、元祿寳永ノ新錢ハ、文ニハ寛永通寳トアレドモ、重サ僅ニ六七分也、寛永寛文ノ錢ハ、上好ノ銅ナレバ、其色黄白ヲ帶テ光アリ、元祿寳永ノ錢ハ、色赤黯ニシテ麁惡ナルコト、古今ノ錢ニ比類スベキ者ナシ、異國ニテ慳錢トイヘル、則ケ樣ノ惡錢ヲ云也、有司ノ意ハ、錢ハ好クテモ惡クテモ、一文ハイツモ一文ナレバ、多ク銅ヲ費シ人工ヲ費サンコト、無用ナリト思ヘル也、是無學ニテ古ヲ稽ザル故也、錢ハ賤キ物ナレドモ、天下通用ノ貨幣ニテ、當時ニ行フノミナラズ、後世ニ遺リテ、彼ハ某ノトキノ錢、此ハ某ノ世ノ錢ト人ノ評スル物也、周ノ景王ノ時、文錢ヲ鑄テ、文ニ寳貨トアリ、二千二百餘年ヲ歷テ、今ノ世迄遺レリ、漢ノ代ハ又周ヨリ後ナレバ、錢多ク存セリ、況ヤ漢ヨリ以後ノ錢ハ更ニ多クアリ、古物ノ世ニ傳ハル者ニ、錢程久シク存スルハナシ、是ニ因テ異國ニテハ、錢ヲ鑄ルコトヲ重ンジテ、銅モ上好ヲ擇ビ、錢文ヲバ其世ノ能書ヲ擇デ書シム、唐ノ太宗ノ時、開通元寳ノ錢ヲ鑄タルニハ、天下ノ能書褚遂良ニ命ジテ、錢文ヲ書シメラレシトイフ、宋ノ代ニ大觀通寳ノ錢ノ文ハ、徽宗皇帝書玉ヘリトイフ、徽宗ハ天子ノ能書也、此等ハ隱ナキコトニテ、他ノ錢モ皆其時ノ能書ノ手跡也、字體ニ篆書、隷書、八分、眞草諸體アリ、其美ナルコト、何レモ一種ノ觀也、又

古錢ハ銅ニ銀ヲ和シタル故ニ、色青白ク光アリテ美也、今モ古錢ヲ火ニテ煅ケバ、露ノ如ク銀浮ビ出ル、是其證也、日本ノ古錢モ、和同開珍ナドハ、銅モ錢文モ甚美ニシテ、中華ノ古錢ニ不レ劣、當代寛永寛文ノ錢ハ、銅ノ古ニ不レ及ノミナラズ、錢ノ周郭太ダ大ク、文字太細クテ看ニクシ、筆ニ拙キ者ノ書タル故ニ、字形惡ク看苦シ、異國ノ古錢ハ云フニ不レ及、日本ノ和同ニモ比スベキ者ニ非ズ、此等ノ錢サヘ、若異國ニ渡リ後世ニ傳ハラバ、人ノ笑ト成ベシ、況ヤ元祿寳永ノ錢ハ、古來見モ聞モ及バヌ惡錢ニテ、是ヲ後世ニ遺サンハ、國家ノ耻ナルコトヲ不レ知、姦惡ノ吏ノ國ヲ誤ルコト、古ヨリ皆此類也、寳永中ニ、國用又彌匱キニ因テ、新ニ大錢ヲ鑄セシメラル、圓徑一寸五歩許ニシテ、面ノ文ニ寳永通寳ト置キ、背ノ周郭ニ、永久世用ノ四字ヲ置ケリ、一文ヲ以テ常ノ錢十文ニ直ス、此錢出テ、民大ニ不便利ノ思ヒヲナシ、甚是ヲ厭ヒニクム、國家嚴令ヲ出シテ、必ズコレヲ行ハシムレドモ、民益コレヲ用ヒズ、國家彌嚴令ヲ下シテ、是ヲ用ヒザラン者ヲバ、重刑ニ處スベキ由ヲ告シラシメ、有司日々ニ此事ヲ下ニ令スレドモ、民彌之ヲ行ハズ、茲ニ至テハ國家ノ權力ヲ以テモ、强テ行ハシムルコト能ハズ、誠ニ民情ニ不レ協コトハ、嚴刑ニテモ服從セシメ難キ者也、丁丑ノ春、文廟ノ初政ニ、是ヲ廢セラレテ民大ニ悅ベリ、然レドモ民間ニテ物ノ價ニ此大錢ヲ取テ、多ク蓄藏シタル者ハ、一時ニ其貨ヲ失ヘリ、正德ノ末、章廟ノ時ニ及デ、又新錢ヲ鑄セシメラル、寛永以來ノ錢ヲ法トシテ、文ニモ寛永通寳ト書ケリ、然レドモ寛永寛文ノ故錢ニ較レバ、銅頗劣レリ、文字モ痛細クナリテ、數十年ヲ歷

バ漫滅スベシト思ハル、其後民間ノ錢マタ少ナリテ、價貴キニ因テ、享保中ニ又新錢ヲ鑄セシメラル、正德中ノ錢ト同品也、此錢行ハレテ、民間ニ錢又多クナレリ、錢少ケレバ價貴クナリ、多ケレバ賤クナル、他ノ貨物ノ如シ、凡錢ノ直ハ、寬永ノ錢ヨリ、金一兩ニ四貫文ヲ以テ定トス、上ヨリ賜ハリ、下ヨリ納ルニ、皆此直ヲ用フ、然レドモ民間ニテハ金一兩ニ四貫八百文以上也、少キトキハ四貫ニ不レ及コトアリ、多キ時ハ五貫ニ至ル、士人ハ錢ノ賤キヲ利トシ、民ハ錢ノ貴キヲ利トス、錢ノ貴キハ、金ノ賤キ也、錢ノ賤キハ、金ノ貴キ也、商賈ハ錢ノ貴キヲ利トスト雖ドモ、錢賤キニモ取ベキ利ヲバ不レ失、只士人ハ米ヲ賣テ金ヲ取リ金ヲ以テ錢ヲ買ヒ、錢ヲ以テ萬事ノ用ヲ辨ズル故ニ、金賤ク錢貴ケレバ用足ラズ、商賈ノ錢賤クテモ利ヲ不レ失者ト同ジカラズ、サレバ今ノ政ハ、錢ヲ豐饒ニシテ、價ヲ賤クスルニシクハナシ

一當代寬永以來、錢ヲ鑄ルコト數度ニ及ベルニ、海內ノ錢昔ヨリ多クモナラズ、新錢ヲ鑄タル五七年ハ、民間ノ錢豐饒ニテ、二十年ノ外ニ出レバ、錢マタ乏クナリテ、價ヲ增テ賣買ス、其故何ゾト云フニ、一ツニハ火災ノトキ燒失ス、二ツニハ民間ニテ人ヲ葬ルニ、六道錢ト名ヅケテ錢六文ヲ棺中ニ入ルコトアリ、六文ハ僅ナレドモ、海內ノ民每日ニ死スル者幾千萬トイフコトヲ不レ知、棺中ニ入タル錢ハ、土葬スレバ土トナリ、火葬スレバ灰トナル、三ツニハ愚民富士淺間湯殿等ノ山ニ登ル者、錢ヲ坎中ニ投入ルコトアリ、山ヲ守ル者モ、坎ニ入テ取出スコト能ハネバ、遂ニ棄ルヽ也、四ツニハ寺院

ニテ佛像ヲ鑄、大鐘ヲ鑄ルニ、愚俗ノ男女錢ヲ鑪中ニ投入ルヽコトアリ、又近來銅ノ價貴クシテ、世ニ好銅乏キ故ニ、寛永寛文ノ錢ハ上好ノ銅ナレバトテ、是ヲ聚テ佛像ヲ鑄ル者アリ、或ハ茶具、又ハ種々ノ器物ヲ鑄ル者アリ、已上ノ四ツハ、錢ノ銷亡スル道ニテ、諸人ノ知ル處明白也、此外ニモ人ノ不レ知、心ヅカヌ方ニ銷亡スルコト有ベシ、純ガ少キ時マデハ、寛永寛文ノ錢許成シニ、元祿以來惡錢出テ、其後ハ寛永寛文ノ故錢漸々ニ少ク成テ、近キ比ハ、百文ノ錢ノ內ヲ觀ルニ、元祿以來ノ惡錢ノミ多ク有テ、寛永寛文ノ故錢ハ、僅ニ十ノ一二也、增テ永樂以上ノ古錢ハ、更ニ甚少シ、是錢ノ銷亡スル證也、國家宜ク制禁ヲ立テ、錢ノ多ク銷亡セザル樣ニ有ベキ者也、異國ニテモ葬ニ錢ヲ埋ミ、神ヲ祭ルニ錢ヲ焚キ、水神ヲ祭ルニ錢ヲ水ニ沈ムル類ノコト有シヲ、後世ニハ錢ノ形ヲ紙ニ印シテ、紙錢ト名ヅケテ用ルナリ、銅錢ノ銷亡スルヲ厭テノコト也

一　近世異國ト貨物ヲ交易スルニツキテ、銅ヲ異國ニ渡スコト夥シ、是ニ因テ銅ノ價甚貴シ、海內ノ山ニ銅ヲ產スル處モ多ケレドモ、有司ノ者人工ノ費ヲ憚テ、深ク劚ザル故ニ、銅ノ出ルコト少シ、世用ニ乏キ程ニモ有レドモ、價甚貴キ故ニ、新錢ヲ鑄ルニモ費多シ、サレバ國家ニ鑄錢ノ議アレバ、有司必銅ノ乏キコトヲ言テ其議ヲ拒ム者アリ、昔河越侯信綱執政ノトキ、京都ノ大佛ノ銅像ヲ毀テ寛文ノ錢ヲ鑄ラレシハ、眞ノ英雄ノ所爲也、京都ノ大佛ハ、其時木像ヲ以テ銅ニ易タリ、南都ノ大佛像ハ、其時未ダ毀タザリシ故ニ、今ニ依然トシテ銅也、次ニハ鎌倉ノ大佛像モ銅也、其餘海內ニアル銅像、小

キハ云フニ不レ足、長一二丈ナル者其數ヲ不レ知、近年東都ニ六地藏ノ像ヲ鑄タルモ、長一丈六尺也トヲフ、昔ヨリアル像ダモ無用ノ物ナルニ、今又新ニ大像ヲ鑄テ銅ニ費ヤスコト、國家ノ害也、ケ樣ノコトナス者ヲ國ノ蠹トイフ、蠹ハ、木ヲ食フ蟲也今世ニモ河越侯ノ如キ英雄アラバ、南都ヲ首トシテ、處々ノ大像ヲ悉毀テ錢ヲ鑄出シ、其餘銅ヲバ國家ノ諸用ニ供シ、其上ニ嚴禁ヲ建テ、小像ヲモ妄ニ鑄ルコトヲ得セシメズ、又寺院ニテモ名寺巨刹ニ非ズバ大鐘ヲ鑄ルコトヲ不レ許、小寺院ニハ喚鐘ヲ懸ルコトヲ許シテ、有來レル大鐘ヲバ悉ク毀テ、鑄錢以下ノ諸用ニ供スベシ、如レ此セバ、銅ノ用乏シカラズシテ、國家モ民モ其利ヲ受ベシ、凡佛法ノ意ハ、必銅ニテ佛像ヲ鑄テ、其功德勝ルニモ非ズ、木ヲ刻ミ土ヲ塑スルモ、功德ハ同然也トイフ、然ルヲ國用、軍用、民用ニ切要ナル銅ヲ佛像ニ棄ルコト、誠ニ不智ナルコト也、今ニモアレ、此等ノ禁令ヲ出サレバ、銅ハ海內ニ豐饒ナルベシ、又所々ノ山ヨリ銅ヲ出スモ、有司ノ者人工ト勞ト、錢穀ノ費トヲ計テ、銅ノ出ルコト其勞費ヲ償フ程ニアラザレバ、深ク劚ラシメズ、是亦不智也、官家ヨリ出ル錢穀ハ、民ニ下レバ、徒ニ費ルニ非ズ、銅鐵ノ類ハ、少モ出レバ、國ノ用トナル、且細民此事ニ使ハルレバ、其間食物ヲ得テ困究ヲ免ル、喜アリ、是又民ノ利也、然レバ上ノ費ヲ不レ憚、出スベキ物ヲバ劚出シテ、地力ヲ盡ス術ヲ行フベキ也、サレドモ大見識大力量アル者ニアラズシテハ、ケ樣ノ事ハ決斷成難シ

一　昔ハ奥州ノ山ヨリ金ヲ出セシガ、今ハ不レ出、慶長ノ間、佐渡ノ山ヨリ金ヲ出シテ、海內ニ豐饒ナリ

シニ、是モ漸々少ク成テ、今ハ大ニ減ゼリトイフ、凡土ヨリ生ズル物ハ、造物ノ力ニテ民用ヲ助クル者ナレバ、此山ニ乏クナレバ、又彼山ニ多ク生ズル、是陰陽消長ノ理ニテ、自然ノ道也、サレバ海内ニ今又金銀等ヲ生ズル山モ處々ニ有ルベシ、左樣ノ山ヲ尋テ、勞費ヲ不レ憚シテ劚出サバ、金銀又豐饒ニナリテ、元祿寶永ノ如クハ、惡幣ヲ造ルニモ及バザルベシ、但是ニ術アリ、姑ク其一ツヲ言フニ、和州ノ金峰山ニハ、名ノ如ク金ヲ生ズトイフ、然レドモ山神是ヲ惜デ人ニ與ヘズ、若是ヲ劚ントスレバ必祟ヲナストイフ、其土人ノ俗說、又ハ其山ヲ主ドル浮屠巫祝ノ說也、世ノ愚人等之ヲ信ジテ其說ヲ傳誦ス、國家ノ官人吏人多クハ愚昧ニテ、河越侯ノ如クナル英雄ニ非レバ、俗說ヲ聞テハ、サモ有ント思テ、畏ヲナスノミ也、若或ハ貪冒ニシテ利ヲ好ム輩アリテ、稍々是ヲ試ントスレバ、危ブミ疑フ心ヨリ、心神ノ祟ヲ受ケ、禍ニ遭テ退ク、是ヲ見聞シテハ、人彌畏レ憚テ、其後ハ敢テ言ヲ出ス者モナシ、金峰山有馬山ノ類皆然也、外ニモ多カルベシ、民用ニ利アル物ヲ、空ク土中ニ隱シ置コト、惜キコトニ非ズヤ、是ニ術アリトイフハ術ハ道也、天地ハ萬物ヲ生ジテ、人ヲ養フ者也、神ハ聰明正直ナル者也、人ヨク禮ヲ以テ神ヲ敬ヘバ、神必人ニ福ヲ與フ、若無禮ヲ以テ神ニ近ヅケバ必祟ヲ受ル也、凡山川ニハ必神アリ、サレバ山川ノ生ズル所ノ寶ヲ求ントスルニハ、國君ヨリ重キ禮ヲ以テ其神ヲ祭テ、其物ヲ乞フ、神ハ言ハヌ者ナレバ、言語ニテハ交ルコト能ハズ、卜筮ヲ成シテ問フ、神其祭ヲ歆デ、卜、筮吉ナレバ、神ノ許セル也、不吉ナレバ許ナキ也、神ノ許容セル上ハ、何ノ危踏コトモナケレバ、祟ヲ受ル

コトモナシ、如此スレバイカナル神山ニテモ、入難キコトナシ、是神ヲ神トシテ敬ヲ致シ、民人ノ心ヲ安クスル道也、只今ニテモ朝廷ヨリ勅使ヲ遣サレ、重キ禮ヲ以テ其神ヲ祭リ、卜筮ノ兆ニ任セテ可否ヲ決シ、神ノ許ヲ得テ其産物ヲトラバ、金峰山ノミニ非ズ、何レノ山ニモ入ラルベシ、「普天之下、莫非王土」トイヒ、君ハ人神ノ主也トイフ、國君ヨリ國ノ爲ニ禮ヲ以テ求ンニ、山川ノ神何ゾ其寶ヲ惜ムコト有ンヤ、只人無禮ヲ以テ非道ニ其寶ヲ奪ントスル故ニ、寶ヲ得ザルノミナラズ、却テ神罰ヲ受ル也

一 異國ニテハ、天下ニ銅錢乏キ故ニ、紙札ヲ造テ錢ノ代ニ用フルコト多シ、是ヲ寶鈔ト名ヅク、吾國ニハ古來此事無リシニ、元祿中ヨリ、諸侯ノ國ニテ用度乏キニ困テ、寶鈔ヲ造テ其國內許ニ是ヲ用フルコトアリ、其比ノ俗ニ之ヲ銀札トイフ、是ヲ用ルヲ札遣ヒトイフ、其鈔ヲミレバ、廣サ二三寸、長サ一尺許也、苟且ニモ懷中ニ入ルヽニハ、板ニテ夾ム故ニ、小板金ナドヲ持ヨリモ甚勞煩也、或ハ火ニ焦ゲ、或ハ水ニ濡レ、或ハ鼠ニ咬レ、或ハ汚レ、或ハ皺ミ、或ハ摺レ、少モ損敗スレバ、其直ヲ減ジ、又ハ全ク棄ル、故ニ、民其害ヲ被ルコト限ナシ、異國ニテモ鈔ヲ用ルヲバ、昔ヨリ善政ト云ハズ、上其利ヲ占テ、下ニハ大ナル患害ナル故也、文廟ノトキ、嚴令ヲ下シ諸國ノ鈔ヲ禁止シ玉ヘリ、其時民間ニ有シ鈔ドモ、一旦ニスタレシ故ニ、人々忽ニ寶ヲ失テ大ニ困メリト雖ドモ、永々ノ害ヲ除キ給ヒシヲ悅ベリ、是善政也、凡國家ニ用度乏クナレバ、興利ノ臣種々ノ惡說ヲ言上スルハ、定レルコト也、其中ニモ鈔ヲ造ルコトハ、甚シキ惡政也、防ガズンバアルベカラズ

一漢ノ代ノ政ニ、平準トイフコトアリ、準ハ、水ヲ以テ物ノ平ヲ正ス器也、今ノ俗ノミヅモリトイフ是也、平準トハ、諸色ノ貨物ノ價ヲ、貴カラズ、賤カラズ、平均ニスルヲ云フ、太史公ガ史記ニ、平準書ト名ヅケタルハ、此事ヲ書タル篇也、凡民ハ利ニ賢キ者也、論語ニ、「小人喩ニ於利ニ」ト、孔子ノ曰ヒシハ是也、朝暮ニ利ノ事ノミヲ思案スル故ニ、利ノコトニハ妙ナル智慧ヲ出ス也、諸ノ貨物ハ民ヨリ出ル者也、貨物ノ價貴ケレバ、民ニ利アリテ、士人ニ不利ナリ、價賤ケレバ、士人ニ利有リテ、民ニ不利ナリ、サレドモ貨物ハ民ヨリ出テ、士大夫此ヲ買取テ、用度ヲ辨ズルモノナレバ、價貴キ迚モ、衣服飲食ノ類ヨリ、其外人家ニ必用ノ物ハ、買取ラデハ叶ハズ、工人商賈ハ是ヲ知テ、常ニ價ヲ貴クス、上ヨリ時々令ヲ下シテ、價ヲ貴クスルコトヲ禁ズレドモ、賤クハ賣ラズ、貴キトテ買ハデバ、士人ノ方ニテ用度辨ゼザル故ニ、買フ者ノ方ニハ、貴キト知リツヽ買フ也、商賈ノ利ヲ貪ルコトヲ云フニ、譬ヘバ酒ハ米ト水トヲ以テ造ル者ナレバ、米價貴キ時ハ酒モ貴ク、米價賤キ時ハ酒モ賤カルベキ物ナルニ、米價貴クナレバ、頓ニ酒ノ價ヲ貴クシ、米價賤クナレバ、米價ノ貴キ時ニ造タル酒也トイヒテ、急ニハ價ヲ減ゼズ、諸物皆此類也、サマ〴〵ノ假託ニテ、トモスレバ價ヲ增テ、一タビ增タル價ヲバ輙クハ減ゼズ、且貨物ニハ各行家アリ、行家トハ、今ノ世ニ云問屋也、行家ニハ必黨アリ、黨トハ、ナカマナリ、江戸、京、大坂ヲ始トシテ、其外處々ノ行家等黨ヲ結デ一朋也、何事ニテモアレ、國家ニ變アリテ物ノ價ヲ增スベキ時ハ、驛使ヲ馳テ其黨ニ告知ラスル故ニ、國ノ急ニ乘ジテ、即時ニ其價ヲ貴

クシ、或ハ乏キヲ見テ、有力ノ行家其物ヲ占ル故ニ、卒ニ騰躍スル也、四海廣シト雖ドモ、掌ニ握タルガ如クニ自由ヲナスハ、黨ヲ結ブト、驛使ノ往來便利ナルトノ故也、玆ニ至テハ、上ヨリ嚴令ヲ出シ、刑罰ヲ立テ威セドモ、如何ニモスベキ樣ナシ、又商船ノ東都ニ來ルヲ海上ニ留置テ、貨物ノ乏キ樣ニナシテ、價ヲ騰ルコトアリ、國家此ヲ知シメズシテ、吏ニ命ジテ海上ヲ巡行シテ留マルヲ逐ハシムレバ、又其吏ニ賂ヲ行ヒテ、暫ノ容赦ヲ乞フ、凡テ下民ノ狡猾ニテ利ニ敏キコトハ、如何ナル智者モ及ビ難シ、是皆利權下ニアル故也、利權トイフハ、物ノ利ヲ自由ニスル權利ナリ、善ク政ヲ行フ人ハ、上ニテ利權ヲ執テ、下民ニ利權ヲ持タセヌ也、此術ハ常人ノ及ブ所ニ非ズ、學者モ今ノ朱氏學ノ經生、或ハ文章ノ士ハ決シテ此ヲ知ラズ、古今ノ經濟ニ達セル者ナラデハ、行ヒ得ルコト有ルベカラズ、漢ノ代ニ東郭咸陽、幸弘羊、卜式ナド云者ハ、本皆賈人ナリシヲ、天子ヨリ召出シテ重キ位ニ陞セ、九卿ノ列ニ入レテ天下ノ利權ヲ執ラシメシハ、常ノ士大夫ノ不ㇾ知及バヌ處ヲ、能知テ行フ故ナリ、サレバ其時サマ〴〵ノコトヲナシテ、國家ノ爲ニ利ヲバ附ケタレドモ、本賈人ナレバ、利ノ道ニ曉キバカリニテ、聖人ノ道術ヲ知ラズ、國ヲ治ムル大法ヲ明ラメザル故ニ、後ニハ皆國家ノ害トナルコト多カリキ、然レドモ彼等ガ行ヒシ平準ノ法ハ善キ政ニテ、今ノ世ニモ行ハルヽコト也、貨物ノ出ル本ノ處々ニ、上ヨリ官人吏人ヲ立置キ、物ノ多少ト、價ノ高下トヲ計テ都下ニ送リ、扱賤キ時ハ上ヘ買取リ、貴キ時ハ上ヨリ出シテ賣ル、如ㇾ此スレバ、富商大賈擅ニ大利ヲ取ルコト能ハズ、是ヲ平準トイフ、平準トイフ

ハ、高下ヲナラス義也、凡上ノ人利ヲ好デ、民ト利ヲ爭ヘバ、必民ニ之ヲ奪ハレテ國ノ害トナル、民ノ利ニ賢キコトハ、士君子ノ智ノ及ブ處ニアラザル故ニ、利ヲ爭ハントスレバ、イツトテモ爭ヒ負ル也、上ニテ利ヲ捨ル意ニテ損失ヲ顧ミザレバ、民ノ方ニアル利權ヲ、此方ヘ取還スコトヲ得ル也、所謂平準トイフモ、上ニハ少ノ損アル也、上ニ損ナキ様ニシテ民ノ利ヲ抑ントスルハ、不學無術ノ所爲ニテ、狡猾ノ民ニ利ヲ占ラルヽコト踵ヲ旋サズ、四民ノ中ニ、商賈程利ニ敏キ者ハナシ、サル故ニ治世ニモ亂世ニモ、豐年ニモ凶年ニモ、他ノ民ハ得喪アレドモ、商賈ハイツモ利ヲ得ル也、サレバ國ヲ治ル人ハ、ヨク〱是ヲ考テ、商賈ノ情ヲ察シ、平準ヲ行ヒテ、富商大賈ニ利ヲ占ラレヌ様ニ、權ヲ執ルベキ者也

一　日本ノ今ノ幣ハ、金、銀、銅、錢凡テ三種也、京ヨリ西ハ銀ヲ尙ビ、東國ハ金ヲ尙ブ、銅錢ハ東西ニ通ズ、西國ハ銀ヲ尙ブガ故ニ、三幣ノ中ニテ、銀ヲ主トシテ、金ト錢トノ直ヲ低昂ス、金一兩ヲ銀若干ニ、錢一貫ヲ銀若干ニ賣リ買フトイフ、サレバ一切ノ貨物ヲ賣買スルニ、皆銀ヲ以テ其價ヲ定ム、譬ヘバ米一石ハ銀若干、絹布一匹ハ銀若干ニ直ストイヒ、或ハ銀一錢ニ佗ノ貨物若干ヲ賣ルトイフ類也、金若ハ錢ニテ物ヲ買フモ、先銀ニテ其價ヲ議定シテ、其銀ニ直スル金程錢ヲ出ス也、凡西人ハ銀ヲ好ミテ、金ヲ好マズ、西人ノ心ニ、金ト錢トハ時價ニ高下アリ、銀ハ常直アリテ一錢(モンメ)ハ何モ一錢也ト思フ、是ニ因テ富家ノ蓄藏スル所皆銀也、銀ニハ增減ナシト思ヘル也、東國ハ金ヲ尙ブガ故ニ、三幣ノ中ニ

テ、金ヲ主トシテ、銀ト錢トノ直ヲ低昂ス、金一兩ニテ銀若干ヲ賣リ買フトイフ、サレバ一切ノ貨物ヲ賣買スルニ、皆金ヲ以テ其價ヲ定ム、譬バ金一兩ニ米若干石、綿布若干匹トイヒ、或ハ金一歩、或ハ錢百文ニ、他ノ貨物若干ヲ賣ルトイフ類也、モシ銀ニテ物ヲ買フモ、先金ニテ其價ヲ議定シテ、其金ニ直スル程銀ヲ出ス也、凡東人ハ金ヲ好デ銀ヲ好マズ、東人ノ心ニ、銀ハ時價ニ高下アリ、金ハ蓄藏シテ增減ナク、一兩ハイツモ一兩也ト思フ、是ニ因テ富家ノ蓄藏スル處皆金也、東人ニ錢ヲ蓄フル者アリ、西人ニ金ヲ蓄フル者アルハ、蓄フルニ非ズ、價ヲ貴クセン迚占ル也、多クハ兌鋪ノ者ノナスコト也、東西ニテ金ト銀ト輕重如レ此ナルハ、好ムト不レ好トノ易リ也、實ハ三幣ニ皆時價ノ貴賤アリテ、定マレル直ナキ也、賓主ノ易リニテ、主トナル方ヲバ、人ノ心ニイツモ常直アリト思ヘル感也、然レバ東ハ東、西ハ西ニ、其處ノ民情ニ協ヘテ、貨幣ヲ通行スルニ、得失損益ナキハ勿論ナレドモ、士民ノ利害ヲ論ズレバ、銀ヲ主トスルハ便利ニテ、金ヲ主トスルハ、不便利ナルコトアリ、東國ニテハ、金ヲ以テ百貨ノ價ヲ定テ、金一兩ニ物若干、金一歩ニ物若干トイフ故ニ、金一歩以上ニテ物ヲ買フハ、金ノ直イツモ同然ナル故ニ、賣ル者モ買フ者モ利害ナシ、金一歩ノ內ニテ物ヲ買フニハ、錢ヲ以テ直トスル故ニ、幾百文、幾十文トイフヲ以テ其價ヲ議ス、價ノ大抵定マレル物ハ、イツモ百文、イツモ十文ニテ賣買スル故ニ、錢貴キ時ハ、賣ル者ニ益アリ、買フ者ニ損アリ、錢賤キ時ハ賣ル者ニ損アリ、買フ者ニ益アリ、凡物ヲ賣ルハ商賈也、物ヲ買フハ士人也、貧賤ナル士人ハ、金ヲ以テ物ヲ買フコト

ハ稀ナリ、金ヲ以テ錢ヲ買ヒ、錢ヲ以テ物ヲ買フ、然ルニ錢ニテ賣リ買フ物ハ、錢ノ賤キ時モ貴キ時モ、百錢ニ賣ル物ハ、イツモ百錢ナル故ニ、錢貴ケレバ、士人甚不利也、士人ノミニ非ズ、諸侯ノ下ニテモ、錢ヲ用ルコトナキニ非ズ、此ニ因テ東國ニテハ、商賈ノ輩錢ノ貴キヲ以テ利トス、上ヨリ嚴令ヲ出シテ、錢ヲ賤クセシムレドモ、暫アレバ又貴クナルハ、此故也、コレ金ヲ主トスルノ害也、西國ニテハ、百貨ヲ賣買スルニ皆銀ヲ用ル故ニ、五釐ヨリ以上ハ、必ズ銀ヲ以テ價ヲ議ス、其直ヲ還スニハ、金ニテモ錢ニテモアルニ任スレドモ、金一兩、金一歩ハ、銀若干ニ當ルトイフヲ計テ、金ノ價賤キ時ハ、一兩ノ銀五十匁ニモ當テ、貴キトキハ、一兩ヲ銀六十餘錢ニモ當ツル也、錢ナレバ銀一錢ニ錢四十文許ヨリ、八十文許迄時價ノ貴賤ニ從テ、銀ニアテ用ル也、銀五釐ニ上ラザル程ノ物ヲ、錢一文ヨリ三四文迄ニテ賣買スルハ、錢ノ貴賤ニ因テ利害アレドモ、微細ノコト也、五釐一分ヨリ以上ハ、銀ヲモツテ價ヲ定テ、錢ヲバ銀ニ當ル程出ス故ニ、銀賤シケレバ、銀一錢ニ錢八十文モ出シ、錢貴ケレバ銀一錢ニ錢四十文モ出ス也、如レ此ナル故ニ、錢ノ價貴クテモ賤クテモ、士民ニ少モ利害ナシ、東國ニテハ、錢賤シケレバ士人喜ビ、貴ケレバ士人困ム、西國ニテハ、貴キモ賤キモ、我ニ大ナル損益ナケレバ、喜ブコトモ苦ムコトモナシ、是銀ヲ主トスルノ利也、然レバ今ニモ東國ノ風俗ヲ易テ、西國ノ如クニ銀ヲ主トシテ用ル樣ニナサバ、錢ノ貴賤ニ利害ナクシテ、士人ニ益アルベシ、去ナガラ東西ニ流布スル程ハ、銀ノ數有マジケレバ、急ニハ變ジ難カルベシ、且先業ヲバ西國ノ如クニ用ヒズ

トモ、諸物ノ價ヲ皆銀ニテ定テ、幾錢幾分トイフヲ以テ賣買シ、錢ヲ銀ニ當テ用ヒバ、西人ノ錢ヲ用ルト同然ナルベシ、サモアラバ、士人ノ金ヲ以テ錢ヲ買ヒ、錢ヲ以テ物ヲ買フ者、錢ノ貴キニ損ナカルベシ、是成難キコトニ非ズ、上ヨリ一タビ號令ヲ出サレバ、半年一年ノ内ニハ改マルベキ者也、近年關東ノ風俗易リテ、京、大坂ノ如クナルコト多ク見ユ、風俗ヲ移スコトハ、上ノ政ニ在テ、サノミ難キコトニアラズ

一　王者ハ天下ノ君ナレバ、何ニテモ金銀ヲ出シテ用ヲ辨ズルトイフハナキ事也、諸ノ貨物ハ皆海内ノ諸國ヨリ貢獻スルヲ取テ、用ヒ玉フニ乏キコト有ベカラズ、和語ニミツギ物トイフ是也、諸ノ器物ハ、都ノ内王城ノ側ニ、局トイフ所ヲ建テ、百工ヲ夫々ノ局ニ召入レテ作ラシム、局ハ今ノ世ニ細工所也、百工ハ諸工人也、百工ヲ局ニ召入レテハ、毎日朝夕ノ食物ヲ給ハル、是ヲ餼稟トイフ、局ニハ夫ノ官吏ヲ置テ掌ラシメ、工人ヲバ其コトノ大小ニ隨テ、人數ヲ多クモ少クモ召入レテ、是ヲ役使ス、上ヨリハ材木ヲ出シ、餼稟ヲ給ハルノミニテ、別ニ賃錢ヲ與ヘ玉フコトナシ、百工モ皆君ノ民ニテ、役使セラルヽハ本分ノコトナレバ、賃ヲ受クベキ義ナキ也、國ニ土木營作ノコトアレバ、人夫ヲバ皆民ヨリ徵テ役使ス、幾千萬人ニテモ、朝夕ノ食物ヲ給ルノミニテ、別ニ賃錢ヲ與ヘ玉フコトナシ、役夫トイフ是也、異國ハ古ヨリ今ニ至ル迄如ㇾ此、日本ニテモ、公家ノ世ハ然ナリキ、天下ノ主ハ固ヨリ如ㇾ此、諸侯モ其國ノ内ニテハ、其民ヲ使フコト亦然也、如ㇾ此ナル故ニ、上ノ人儉約ヲ好ミ玉ヘバ、

海内安ク困マズ、漢ノ武帝隋ノ煬帝ナドノ如ク、奢靡ヲ好ミ、淫樂ニ耽リ玉ヘバ、上ノ用度不足シテ、貢獻ヲ責ラルヽニ因テ、海内困ミ、百工ヲ徵シ、人夫ヲ使フコト、度ニ過ルニ因テ四民疲ル、是ヨリ國家危ク成テ、亂ノ端トナル、古ヨリ奢侈ヲ戒シメ、儉素ヲ尙ビ、漢ノ文帝ノ如キヲ美テ、賢君ト稱スルハ此故也、今世ハ貢獻トイフコトナクシテ、上ヨリ金銀ヲ出シテ、百貨ヲ商賈ノ處ヨリ買取リ玉フ、百工ヲ局ニ召入ルルコトナクシテ、諸ノ細工ヲバ、金銀ヲ出シテ雇ヒ、或ハ御用ノ器物ヲ工人ノ私家ニテ作ラシメテ、其直ヲ與ヘ玉フ、土木營作ノコトニハ、役夫ヲ徵スコトナクシテ、都下ニテ傭夫ヲ雇ヒテ、毎日ニ賃錢ヲ與ヘ玉フ、如レ此ニ萬事皆金銀ヲ出シテ用度ヲ辨ゼラル故ニ、上ノ人奢靡ヲ好ミ玉ヒ、屢々土木ヲ興シタマヘバ、商賈ハ貨物ノ售レテ、金銀ヲ取ルコトヲ喜ビ、百工ハ其業ヲ鬻テ、大利ヲ得ルコトヲ喜ビ、都下ノ傭夫ハ日々ニ賃錢ヲ取コトヲ喜ブ、凡何ニテモ上ニ耽リ好ミ玉フコトアレバ、其事ニツキテ金錢出テ、民間ニ流ルヽ故ニ、上ノ奢侈ハ下ノ潤澤トナル、是ニ因テ今ノ民ハ上ノ奢侈ヲ冀フ也、若上ノ人儉素ヲ好ミ玉ヘバ、金銀皆上ノ蓄藏ト成テ、工商以下役徒ノ細民迄、利ヲ得ルコトナキ故ニ、却テ困究ス、是今ノ政古ト異ナル所也、ケ樣ニ法制ノ古ト易レルヲ不レ知シテ、一概ニ古ノ道ヲ以テ今ノ世ニ行ハントスルハ、柱ニ膠スル類也、此段ハ前ニ米價ノ賤キヲ太平ノ世トイフハ、古代ノコト也イヘルト同意ナリ、サレバ古今ニ通達シテ、時ヲ知レル者ニ非レバ、善政ヲ行フコトハ成難シ

一儉約ハ聖人ノ道也、儉ノ字ニ和訓ナシ、今ノ言ニスレバ、萬事ヲウチバニスルコト也、約ノ字ハ、ツヾマヤカト訓ス、世俗ノ言ニ、ツマシクスルトイフ是也、儉約ノ道ハ、節用ノ二字ニアリ、節ハ竹ノ節也、竹ノ節ハ限アル者也、萬事ノ費用ニ、是迄トイフ限リヲ立テ、其度ヲ過ヌ樣ニスル義也、費用トハ萬事ノイリメ、金銀、米穀、貨財ノ使ヒ方ヲ云、節用ノ本ハ省事ニアリト、漢ノ賈誼云ヘリ、多事省事ハ事ヲ省ク也、省クトハ少クスルコト也、凡今ノ世ニ諸侯大夫モ、年々ニ貧困ニナルハ、多事ナル故也、亂世戰國ニハ、上モ下モ萬事簡易也、簡易トハムツカシキコトナク、無造作ナル義也、簡ハ、煩ノ字ノ裏也、易ハ、難ノ字ノ裏也、煩ハ、ムツカシキ意也、難ハ、ガタシト訓ジ、易ハ、ヤスシト訓ズ、亂世戰國ニハ、上モ下モ日々ニ事シゲク、心忙キ儘ニ、諸事ヲ略シ、ヤツシテ、テマイラズ、無造作ニ事ノ辨ズルヲ詮トスル故ニ。自ラ萬事簡易ニナル也、治世ニハ人々閑暇成ヨリ、萬事ニ念ヲ入レ、細カナル禮節ニ意ヲ注グ、隅ヨリ隅迄落ノナキ樣ニセントト思フ、是ニ因テ治世久キ程、漸々ニ事多クナル也、假令バ昔ハ一度ニテ濟シコトヲ、今ハ兩三度ヲ歷テ濟シ、昔ハ一言ニテ濟シコトヲ、今ハ紙ニ書付テ出ス、昔ハ一人ノ心ニテ決斷セシヲ、今ハ世間ヲ聽ツクロヒテ、人並ヲ外レヌ樣ニト思フ、萬事ケ樣ニ成行故ニ、日々ニ事多クナル也、事多クナレバ、役人モ多クナル、役人多クナレバ、事モ亦彌多クナル、治世久シケレバ、少シヅツイツトナク事多クナルヲ、上モ下モ覺エズ不レ知、ウカウカト打過ル故ニ、事ヲ省カントシテモ、省キアハセラレヌ程ニナル也、サレバ事ヲ省クト

イフハ、果敢決斷ノ心ヲ以テ省キ難キ事ヲハブキ、止メガタキ事ヲ止ル也、此段ハ英雄豪傑ニアラザレバ及ビ難シ、古ノ皐陶ノ言ニ、「臨レ事以レ簡」トイヒシハ是ガ爲也、事ヲ省ク道ヲ知レル人ハ、二三年、四五年、或ハ十年ニ一度宛モ、國家ノ事ヲ吟味シテ、昔ヨリモ繁多ニナリタルコトヲバヒシト抑ヘ、減省シテ事ノ少クナル樣ニスル也、是ニ少モ油斷アレバ、次第ニ事多クナル者也、周ノ太祖ノ后稷ノ遺戒ニ、「無二多事一、多事多レ患」トアリ、是肝要ノ言ナリ、國家ヲ治ル者、是ヲ知ラズバ有ルベカラズ、又今ノ世ノ儉約トイフハ、小吏ヲ數多立置テ、瑣碎ナルコトヲ吟味シ、棄リノナキ樣ニスルヲ儉約ト思ヘリ、瑣碎ナル處ヲ細ニ察シテモ、補フ所ハ僅也、大ナル處ヲバ粗略ニシテ、細ナル處ヲ察スルハ不智也、總ジテ小吏役人ハ、必上ノ物ヲ盜ム者也、士大夫以上ニモ、淸白廉潔ナル者ハ稀也、況ヤ小吏ノ輩ヲヤ、怪ムニ不レ足コト也、イカ程法ヲ嚴密ニ立テモ、不レ盜トイフコトナシ、小吏ハ俸モ輕ケレバ、上ノ物ヲ盜デ妻子ヲ養ヒ、世ヲ渡ル者也、サル故ニ此ヲ防ゲバ彼ニテ盜ミ、左ヲ制スレバ右ニテ盜ム、守ル者ハ隙ナケレドモ盜ム者ハ隙アリトイフ世ノ諺ノ如シ、サレバ孔子ノ言ニ、「君子不レ盡レ利以遺レ民」ト曰ヘリ、此意ハ利ヲ上ヘ取盡サズ、少宛遺シテ民ニ取スルトイフ義也、鄙キ詞ニ、落コボレハ沙彌ノ物トイフガ如シ、小祿小俸ノ者ノ家ニサヘ、分ニ隨テ少シヅツノ落コボレ有テ、奴婢ノ輩之ヲ拾テ己ガ所得トス、増テ諸侯國君ノ下ニテ、落コボレナキ樣ニスルハ、君子ノ仁道ニ非ズ、今世ノ官人ノ心ニ、落コボレヲバ棄タル物ト思ヘルハ誤也、棄タルニ非ズ、實ニ下ノ澤トナル也、然レバ國

計ヲ主ドル者ハ、此役ニ少シ宛ノ落コボレノ出來ルヲバ、經費ノ勘定ニ入テ、下ノ小吏ニ盜マセテ、之ヲ察セヌヲ長者トイフベシ、君上ノ貨財ヲ、己ガ貨財ノ如クニ思テ、約ニ用ル者ハ、眞ノ忠臣也、然レドモ古ヨリ忠臣ハ至テ稀ナル者也、今ノ世ニ適ス忠ナル者アレバ、己ガ直ナルニ任セテ他人ノ上ヲ正ス故ニ、事ノ敗レト成テ、却テ其國ニ禍スル類往々ニアリ、忠ノ不忠トイフ者ナリ、水甚清ケレバ魚ナシ、人甚察ナレバ民ナシトイヘル、古ノ君子ノ誠ヲ知ベシ

一　孔子ノ時、公西華齊國ニ使ニ行クコトアリ、冉有其母ノ養ノ爲ニ粟ヲ與ヘ玉ヘト孔子ニ乞ヘリ、孔子之ニ釜ヲ與ヘヨト曰フ、釜ハ六斗四升也、冉有餘リ少シト思ヒテ、今少益シ玉ヘト乞フ、孔子之ニ庾ヲ與ヘヨト曰フ、庾ハ一石六斗也、是釜ノ一倍半也、冉有猶少シトオモヒテ、己ガ意ニテ五秉ヲ與ヘタリ、秉ハ十六石ナレバ、五秉ハ八十石也、孔子之ヲ聞シ召テ、公西赤ハ富ル者ニテ齊ニ往クニ、肥馬ニ乘リ、輕裘ヲ著タリ、君子ハ貧窮ナル者ヲバ、財ヲ不レ惜シテ賑ヒ、富ル者ニハ、其富ヲ繼足スコトヲセザル者ト聞ケルニ、冉有ガ赤ニ粟五秉ヲ與ヘタルハ、富ニ繼グトイフ者也ト責玉ヘリ、富メルニ繼グトイフハ、今ノ鄙キ譬ニ、長者ノ脛ニ味噌ヲヌルトイフ意也、此類ノコト今世ニ甚多シ、今ノ富貴ナル人ヲミルニ、下ノ貧窮ナル者ヲバ賑サズ、却テ是ヲ遠ザケテ、富有ニテ何事ニモ不足ナキ者ニハ、節度ヲ過シテ多ク物ヲ贈リ與フルコトアリ、孔子ノ子華ガ母ニ粟ヲ少與ヘシメ玉ヒシハ、悋惜ナルニハ非ズ、子華若貧者ナラバ、冉求ガ乞ナクトモ、孔子粟ヲ與ヘ玉フベシ、子華ハ富人ニテ肥馬

輕裘ニテ齊ニ往ク程ノ者ナル故ニ、母ノ養ヲ給セズトモ可也ト思玉ヘリ、然レドモ冉求ガ乞ヘルヲモ拒マズ、甚意ニ逆ラヒ玉ハズ、與ヘハ少許ヲ與フベシトノ意ニテ釜ヲ與ヘヨト曰ヘリ、冉有ガ心ニ餘リ少シト思ヒテ、益ンコトヲ請シカバ、釜ヨリ少シ增加シテ庾ヲ與ヘヨト曰フ、孔子ノ旨ハ長者ノ脛ニ跌蹭ヲ塗ルマジキ爲也、是則君子ノ道也、冉子未ダ此道ニ不レ達、夫子ノ心ヲ不レ知シテ、五秉ヲ與ヘシハ太過ナルコトニテ、君子ノ道ニ違ヘル故ニ、夫子之ニ語テ、其旨ヲ明シ玉ヘリ

經濟錄卷第五 終

經濟錄卷第六

祭祀

一　祭祀トハ、外神ヲ祭リ、先祖ヲ祭ル、皆是ヲ祭祀トイフ、左傳ニ、國之大事、在祀與戎トイヘリ、祀ハ祭祀也、戎ハ兵戎也、此二ツヲ國ノ大事トス、天子ハ天地ヲ祭リ、天下ノ名山大川ヲ祭リ、社稷ヲ祭玉フ、諸侯ハ社稷ヲ祭リ、名山大川ノ國內ニアルヲ祭ル、大夫ハ五祀ヲ祭ル、社ハ、土ノ神也、稷ハ五穀ノ神也、五祀トイフハ、戶ノ神、竈ノ神、門ノ神、行ノ神、中霤ノ神也、行ハ道也、中霤ハ家ノ中ノ庭也、凡祭ハ天子ト雖ドモ必親ラ是ヲ行ヒ玉フ、況ヤ諸侯以下ハ勿論也、凡天地ノ間ニアラユル事トイフ者、人ノ爲スコトノ外ハ、悉ク神ノ所爲也、人ノナスコトモ、人力ヲ盡シタル上ニ、其事ノ成就スルト、成就セザルトハ、神ノ助ニ依ル也、譬ヘバ農夫ノ耕作ヲ勤テ少モ懈怠セズ、精力ヲ盡シタル上ニハ、穀ニ熟不熟アリ、年ニ豐凶アルハ、天ニ懸リテ如何ナスベキ樣モナキガ如シ、是ニ因テ古ノ先王ハ、神ヲ祭ルコトヲ重ジ玉ヒ、一歲ノ內ニ、種々ノ祭ヲナシテ、神ヲ敬ヒ德ニ報イ、年ヲ祈リ災ヲ禳ヒ、國家安寧ニ萬民愉樂センコトヲ願ヒ玉フ、日本ノ人、吾國ヲ神國ト稱ス

レドモ、祭祀ノ禮ハ、粗略ナルコト甚シ、第一ニハ天下ニ社稷ヲ建テズ、中華ニテハ、天子ノ社ヲ大社トイヒ、諸侯ノ社ヲ國社トイフ、天子モ諸侯モ、必自身ニ之ヲ祭リ玉フ、在々所々ニハ、民ノ家二十五戸程アル小キ里ニモ社ヲ建テ、仲春仲秋兩度ノ社日ニ、里民此ヲ祭ル、社日ハ春分秋分ノ前ニテモ後ニテモ、近キ戊ノ日也、土ハ萬物ヲ生ジテ人ヲ養フ物也、吾人ノ今日安居スル處也、五行ノ中ニテ、土ノ徳莫大也、是ニ因テ其徳ニ報ハントテ、社ヲバ祭ル也、然ルヲ日本ニテハ社ノ祭ヲ行ハズ、是國家ノ闕典也、又異國ニテハ、旅行スルニハ、祖道トテ出門ノ祭ヲナス、祖ハ道ノ神也、兵ノ出ルニハ、軍ノ神ヲ祭リ、馬ノ神ヲ祭ル、軍ノ神ハ、蚩尤也、馬ノ神ハ、天駟トイフ星也、ケ樣ノ祭ハ、人事ノ重キ者也、此外小事ニモ、種々ノ祭アリ、神ヲ敬ヒ祭ヲ行フコト吾國ヨリモ甚シ、又日本ニテハ、天子諸侯自身ニ祭ヲ行ヒ玉フコトナシ、巫祝ノ徒ニ任セテ行ハシメテ、自身ニハ齋戒ヲモシ玉ハズ、是甚粗略也、何ニテモ祈禱ノコトアレバ、浮屠、巫祝、修驗等ヲ憑デ其法ヲ行ハシメテ、自身ニハ曾テ其事ニ預カラズ、凡神ヲ祭ルハ、自身ニ齋戒沐浴シ、衣服ヲ改メ、不淨ヲ禁ジ、誠敬ヲ盡サズシテハ、神ノ納受アルコトナシ、此ヲ如在ノ敬トイフ、如在ハ神ノ在スガ如クニ思テ敬フ也

一 凡天地、山川、社稷、五祀ノ類ヲ神トイフ、天神地祇トイフハ、天地ヲ分ケタル名目也、神トイフハ、通名也、人ノ死シタル神靈ヲ鬼トイフ、合セテ言ヘバ鬼神トイフ、凡鬼神ヲ祭ルニハ、己ガ祭ルベキ鬼神ト、祭ルマジキ鬼神トヲ能ク分別スルコト、禮法ノ肝要也、祭ルベキ鬼神トイフハ、聖人ノ定置玉

ヘル分也、天子ハ天下ノ主ナレバ、天下ニアラユル鬼神ハ、皆祭リ玉フベキ也、然レドモ其祭リ玉フベキ分ヲ定テ、是ヲ祀典トイフ、諸侯ヨリ下ハ、天子ヨリ命ゼラレテ祭ルベキ鬼神ニ制限アリ、是ヲ命祀トイフ、命祀ノ外ハ祭ラズ、小キ在所ニテモ、其所ニ在シ人功勞アリ、仁德アリテ、後ノ人其恩澤ヲ被ルコトアレバ、上ヨリ許シテ祠ヲ造リ、廟ヲ建テ其靈鬼ヲ祭ラシムルコトアリ、是又命祀ノ類也、此等ノ外祭ルベキ道理モナキ鬼神ヲ妄ニ祭ル、是ヲ淫祠トイフ、禮記ニ「淫祀無レ福」トイヘリ、人民ハ愚ナルモノニテ、少モ怪キコトアレバ、何ノ故モナキ神ヲ尊敬シテ祭ルコトアリ、左樣ノ淫祀ヲバ、時時ニ上ヨリ抑ヘテ其祠ヲ破却シ、其祭ヲ停止スル、是政務ノ一ツ也、唐ノ代ニ、狄仁傑氏ノ淫祀ヲ禁ジテ、三百餘所ノ祠ヲ毀チケルトイフハ、英雄ノ所爲也、日本ニハ昔日ヨリ淫祀ノ禁ナキ故ニ、民間ハ云フニ不レ及、士大夫以上ニモ、淫祀トイフコトヲ不レ知シテ、謂レモナキ神ヲ祭ルコト甚多シ、其中ニ伊勢、八幡ノ如キハ、天子ノ祭リ玉フ神ニテ、諸侯以下ノ祭ル所ニ非ズ、是ヲ庶人ノ不淨ナル家ニテ祭ルハ、貴キ神ヲ瀆ス也、春日ハ、藤原氏ノ祖神也、藤原氏ニ非ズバ祭ルベカラズ、天滿宮ハ菅丞相ノ廟也、菅原氏ニ非ズバ祭ルベカラズ、此等ノ類ヲ祭ルハ、皆淫祀也、又此ヲ瀆祀トモイフ、瀆祀トハ、神ヲ瀆ス也、孔子ノ言ニ、「非二其鬼一而祭レ之、諂也」、ト曰ヘルモ是也、魯ノ季孫氏ガ泰山ヲ祭リシヲ、孔子ノ誹リ玉ヘルモ、祭ルマジキ神ヲ祭レル故也、「淫祀無レ福」トアレバ、福ヲ求ントテ祭テモ、福ヲ得ルコトハナキ也、殊ニ淫祀ハ神ノ罰ヲ得ベキ義ナルニ、即時ニ罰ナキハ幸也、又狐ヲバ稻荷ト崇メ、

蛇ヲバ宇賀神ト名ヅケテ祭ル類ハ、淫祀ノ中ニモ殊ニ愚ナル事也、人ハ萬物ノ靈ニテ、萬物ノ中ニ人ヨリ貴キ物ハナシ、然ルニ狐ヲ尊ビ蛇ヲ敬フハ、譬ヘバ人君ノ奴僕ヲ尊ブガ如シ、逆ナルコト也、至愚トイフベシ、異國ニハ、俗間ニ北斗ノ星ヲ祭ル法アリ、然レドモ天ノ星ハ、下民ノ祭ルベキ神ニ非ザル故ニ、上ヨリ此ヲ禁ジテ祭ラシメズ、總ジテ一切ノ淫祀ヲ禁ズルコト甚嚴也、犯ス者ハ刑ニ處ス、其法歴代ノ律ニ見エタリ、凡民間ノ淫祀ヲバ、上ヨリ嚴ニ禁ズルヲ善キ政トス、近世ニハ、水戸義公國內ノ淫祀ヲ停止シテ、數多ノ祠ヲ毀チ玉ヒシトイフ、治道ヲ知リ玉ヘル英雄ト云フベシ

一 凡鬼神ニハ必爵位アリ、天帝ハ至尊也、云フニ及バズ、月日星辰ハ天ニ在ル神ナレバ、是又爵位ヲイハズ、地ニアル神ハ、天子ヨリ爵位ヲ以テ其尊卑ヲ定メラル、先王ノ禮ニ、五嶽ハ三公ニ視ヘ、四瀆ハ諸侯ニ視フトイヘリ、五嶽ハ、東岱、南衡、西華、北恒、中嵩也、天下ノ山ノ中ニテハ、此五ヲ最尊トシテ三公ノ位ニ比スル也、四瀆ハ、江、河、淮、濟也、川ノ中ニテハ、此四ツヲ最尊トシテ諸侯ニ比スル也、諸侯ト云ヘバ、三公ヨリ一等降レリ、如此ナレバ、五嶽四瀆ノ外ハ、公侯ニ比スル位ノ神ナシト見ユ、爵位ノ容易ナラヌ也、吾國ニテモ、古ハ諸國諸祠ノ名神ニ、皇朝ヨリ爵位ヲ賜ハルコト、三位ヨリ上ナルハ稀也、爵ヲ重ンジ玉フ故也、今ノ世ニハ在々所々ノ小祠、或ハ都下ノ市中ニ在ル稻荷ノ祠ナド、數ニモ足ラヌ程ノ賤キ神ヲ正一位ニ叙シ、白河吉田ノ兩家ヨリ、宣旨ヲ申シ下シテ、巫祝ノ輩ニ與ルコト甚多シ、サレバ所々ノ神廟ニ、正一位ノ額ヲ掛ザルハ稀也、是大ニ謂レナキコトニテ、吾國

ノ古禮ニ違ヘル也、縱淫祀ニアラザル正シキ神ナリトモ、三品以上ノ爵ヲバ輙ク賜ハルマジキ義也、況ヤ狐ヲ祭リ蛇ヲ祭ル類ノ淫祀ニ正一位ヲ賜ハルベキヤ、日本ノ古禮ハ、三公モ生前ニ正一位ニ陞レル人ハ稀也、然ルヲ今小々ノ賤キ神ヲ正一位ニ叙シテ、大祠ノ貴キ神ヲバ如何ナル爵位ニ陞スベキヤ、是國家ニ古ヲ稽ル人ナキ故也、爵ヲ黷ストイフ、此類ノ事也

一　古ヨリ天子國君祭祀ヲ爲シテ、民ノ爲ニ年ヲ祈リ災ヲ禳ヒ玉フハ常也、久ク雨降ラザレバ、雨ヲ求ル祭アリ、雨多ケレバ雨ヲ止ル祭アリ、此方ニテモ、在處ノ民間ニハ雨ヲ求ル祭アリ、今東都ニテ重キ患トイフハ火災也、火災ハ、久ク雨降ラズシテ風甚キヨリ起ルナレバ、時々ニ祭ヲナシテ、雨ヲ求メ風ヲ止メ、火災ヲ禳ハゞ、其効アルマジキニ非ズ、聖人ノ神祇ヲ敬ヒ、サマ〲ノ祭ヲナシテ、國ノ爲民ノ爲ニ、福ヲ祈リ災ヲ禳ヒ玉フコト、常ノ人ヨリ觀レバ、却テ愚ナル樣ニ見ユルコトアリ、然レドモ人力ヲ盡シタル上ニハ、神祇ノ助ヲ憑ムヨリ外ナキ者也、神ハ聰明正直ナル者ニテ、兒童ノ戲ノ如クナル祭ヲナシテ感應アル、是鬼神ノ測ガタキ所也、天ヲ畏レ民ヲ憂フルハ王者ノ心也、此段ハ尋常ノ經學ノ徒ノ預リ知ル所ニ非ズ

一　凡祭ニハ必主人アリ、天子國君モ、重キ祭ハ必ズ自身ニ行ヒ玉フ、其時ハ天子國君則祭主也、若輕キ祭ニ、臣下ヲ代ラシメラルレバ、其君ニ代ル者則祭主也、鬼神ニ事フル者ヲ巫祝トイフ、巫ハカンナギト訓ズ、今云フミコナリ、巫覡トイフ時ハ、巫ハ女也、覡ハ男也、覡ハ今ノ禰宜也、祝ノ和

訓ニ、ハフリトイフ、常ニ神主宮司ナドイフ是也、中古以來、僧ヲ用ルコトアリ、今ノ俗ニ別當トイフ、別當モ祝也、祝ハ鬼神ニ事ル者ニテ、祭ノ主人ニハ非ズ、世俗是ヲ知ラズ、神主別當ヲ祭主ノ如クニ思フハ誤也、又神主トイフハ、鬼神ノ正體也、或ハ石ニテ作リ、或ハ木ニテ作ル、位牌ノ如クナル者ニテ、位牌ニハ非ズ、俗ニイフ神體ナリ、日本ニテハ、石主木主ヲ作ラズ、紙ニテ幣トイフ物ヲ作テ神體トスルハ、國ノ風俗也、是則チ神主也、然ルニ祝ヲ神主トイフハ、名目ノ謬也、又凡神靈ヲ安置スル所ヲ廟トイヒ、祠ト云フ、祠ノ字ヲバミヤト訓ジ、祠ノ字ヲバ、ヤシロト訓ズレドモ、實ハ同義也、異國ニテハ、五嶽、四瀆等ノ神ノ宮ヲモ、祠トイフ、賢人、君子、忠臣、義士、貞女、節婦等ノ靈ヲ祭ル宮ヲモ、祠トイフ、二ツノ名ヲ合セテ祠廟トモ云フ、今ノ俗ニ人ノ墓ヲト廟イフハ大ナル訛也、又凡神ノ祠ヲ社トイフハ、昔ヨリノ訛也、社ハ社稷ノ社也、土神ヲ祭ル所ヲ社トイフ、上ニ云ヘルガ如シ、又異國ニテハ、祭ニハ必牲ヲ用ユ、牛ヲ太牢トイヒ、羊ヲ少牢トイヒ、豕ヲ特牲トイフ、牛羊豕ヲ三牲トイフ、牲アルヲ祭トイヒ、牲ナキヲ薦トイフ、古ヨリノ名目也、日本ニテハ、鹿兎ナドヲ牲トスルコトアレドモ、其類多カラズ、大概ハ魚鳥ヲ用フ、浮屠ノ別當スル祠ニハ、魚鳥ヲモ用ヒズ、只菜蔬ヲ用レバ、薦トイフベキコトニテ、祭トハ云ヒ難シ、是異國ト吾國ト、風俗ノ異ナル也、若シ今此ヲ改メントセバ、却テ害ヲ生ズベシ、習俗ニ任セテ改メザルモ、便利ナルベシ

一 先祖ノ祀ヲ奉ズルニ、天子ハ七廟ヲ立テ、諸侯ハ五廟ヲ立テ、大夫ハ三廟ヲ立ツ、士ハ一廟ヲ立ル

トイフハ、天子ノ元士也、士ニ上中下アリ、元士ハ、上士也、上士ハ爵祿貴ク祿モ重キ故ニ、一廟ヲ立ル也、中士以下ハ廟ナシ、廟ハ墓所ニ非ズ、神主ヲ安置スル宮也、天子七廟トイフハ、太祖ノ廟ヲ南ニ向ケテ立ツ、左右ニ三廟ヅツ相並ベテ立ツ、皆南向也、左ヲ昭廟トイヒ、右ヲ穆廟トイフ、是ヲ三昭三穆トイフ、太祖ノ廟ハ永々ニ祭ル、其下三昭三穆ハ、今上ノ父ヨリ以上六代ヲ祭ル、七代ニナレバ其廟ヲ毀チ、其神主ヲバ祧廟トテ、祭ラザル神主ヲ藏ムベキ爲ノ廟ヲ、太祖ノ廟ノ側ニ作テ其中ニ藏ムル也、是廟ヲ毀ツトイフハ、悉破却スルニハ非ズ、檐計リヲ毀チ取テ、新ク作リ更テ、其外ハ修理ヲ加ヘ、彩色等ヲ新ニシテ又用ル也、扨下ヨリ順々ニ繰上ゲテ神主ノ遷シ最下ノ廟ニ新キ神主ヲ立ル也、然レバ昭ノ子ハ穆也、穆ノ子ハ昭也、父ト子ト相並ベテ廟ヲ立ル也、諸侯ハ五廟ナレバ、太祖ノ廟ノ外ニ二昭二穆ヲ立テ、父ヨリ上高祖迄四代ヲ祭ル、五代ニナレバ、其廟ヲ毀チ其神主ヲ遷スコト、上ニ云ルガ如シ、大夫ハ三廟ナレバ、太祖ノ外ニ一昭一穆ヲ立テ、祖父迄ヲ祭ル、二代也、曾祖ニナレバ廟ヲ毀チテ其神主ヲ遷ス、士ハ一廟ナレバ、父バカリヲ祭ル、父ノ廟ヲ禰廟ト名ヅク、祖父以上ヲバ祭ラズ、宗廟ノ制度如レ此、王者ハ「右ニ社稷、左ニ宗廟」トイヒテ、朝廷ノ右ニ社稷ヲ立テ、左ニ宗廟ヲ立ツ、天子モ諸侯モ、國家ノ政事ノ少モ重ダチタルコトヲバ必宗廟ニ告テ行ハル、又國家ノ大禮ヲバ、多クハ宗廟ニテ行フガ故ニ、天子諸侯ハ、宗廟ニ朝セラルヽコト數也、凡宗廟ノ禮式ヲバ、大宗伯、太帝ナド云フ官人此ヲ掌ル、天子ノ墓ヲバ陵トイフ、諸侯以下ヲバ墓トイフ、陵墓ハ都城ヨリ五里モ十

里モ遠キ處ニアリ、是ニモ別ニ數多ノ官吏ヲ置テ守ラシム、陵墓ニハ天子モ諸侯モ、宗廟ノ如ク展拜謁シ玉フコトハナキ也、陵墓ニハ園アリ、側ニ寢殿ヲ作テ、先王先公ノ神靈ヲ栖シム故ニ、寢園トモ、陵寢トモ云フ、今ノ俗ニ靈屋トイフ様ナル者也、是宗廟ニハ非ズ、凡宗廟ヲ祭ルハ、天子ハ月祭トテ毎月ニ祭リ玉フ、其下ハ時祭トテ、四時ニ一タビヅツ祭ル、四時ハ仲月ヲ用フ、二月、五月、八月、十一月也、又其下ハ春秋兩度ニ祭ル、是モ仲春仲秋也、此等ノ祭ハ、吉祭トテ目出度祭也、外神ヲ祭ルト同然也、忌日トイフハ、先祖父母ノ死セル日ヲ忌日トイフ、年ニ一日也、是ヲ忌日トイフハ、何事ニモ此日ヲバ忌デ用ヒザル故也、忌ムトイフハ愼ム意也、此日ニハ、其死セル先祖父母ノ事ヲ思フテ、其死セル時ノ心ニナリテ哀ヲ起スガ故ニ、萬事ヲ止テ愼ム也、是ニ因テ忌日ヲ終身ノ喪トイフ、一生ノ内ノ喪トイフ義也、サレバ忌日ヲバ、四時常祭ノ外ニシテ、喪ノ内ノ如ク祭ヲナス、衣服モ祭服ヲバ著ズ、素服ヲ著ル、素服ハ凶服也、祭ニ音樂ナドヲ用ヒズ、供物等ハ吉祭ニ異ナルコトナシ、但祭ル者ノ心、吉事ノ思ヒヲナスト、哀ヲ起ストノ易リノミ也、已上宗廟ノ祭ノ大略也

一　異國ニテハ、古ヨリ今ノ世迄、國家ニ宗廟ノ禮ヲ廢セズ、中古以來法盛ニナリテ、天子王公ニモ佛法ヲ尊信スル人アレドモ、喪ト祭トニハ、必ズ聖人ノ道ヲ用テ、佛者ノ道ヲバ用ヒズ、士大夫モ然也、若佛法ヲ信ズル者モ、僧ヲ請ジテ齋會ヲ設ケ、布施ヲ行ズルノミ也、是ヲナスニ因テ、家ノ祭ヲ廢スルコトハナシ、吾國ニハ古ヨリ天子ニモ宗廟ナシ、祭祀ヲバ如何ニ行ハレシヤラン、詳ニ知リ難シ、

佛法ナカリシ以前ハ、草昧ノ時ニテ、國史モ詳ナラネバ、殊ニ其事實ヲ尋求ムベキ樣モナシ、佛法行レテヨリ以來ハ、只佛法ニテ祭ラレシト見ユル也、古ノ葬ハ、天子モ共下モ、所々遠地ニ葬テ、寺院ノ地ニ葬ルコトハナカリシニ、中古以來ハ、天子ヲモ寺院ノ地ニ葬リ奉ルコトニナリヌ、況ヤ武家ノ世トナリテハ、中華ノ聖人ノ道ヲ學ブ人モナク、吾國ノ古ヲタヅヌル者モナク、只便利ニ就テ佛者ノ教ニ從ヒ、喪祭ノ禮ヲ捨テ、偏ニ法事ヲ營ムノミ也、當代ハ天下文明ノ時至テ、士大夫ノ間ニ儒學有リ、書ヲ讀ミ文ヲ學ビ、孝悌仁義ノ道ヲ問フ者モ世ニ少カラズ、是誠ニ東照宮ノ神德、赫々トシテ秋津洲ヲ照臨シ玉フコト、前代ニ超タル故也、此時ニ當リテ、宗廟祭祀ノ禮ヲ制セラレバ、何事カ行ハレザルコト有ルマジキニ、國初以來有司ノ人、因循ノ政ヲ行フノミニテ、此一事ヲ議スル人ナキハ遺恨也、是習俗ノ蔽ノミニ非ズ、當代ノ國法ニ、天主教ヲ禁ゼラルヽコト甚嚴ニテ、海內ノ人貴賤トナク、佛法ノ宗旨ヲ奉行スベキ由ヲ令セラルヽニ因テ、佛法ニ非レバ喪祭ヲ行フベカラズト思テ、中華ノ聖人ノ道ヲモ、天主教ト均ク忌テ、敢テ是ヲ行ハズ、舊キニ依テ佛法ニ任ズルノミ也、是俗ノ謬也、天主教ヲ禁ジ玉フハ、誠ニ國家ノ至意ナリ、聖人ノ道何ゾ天主教ト混ゼンヤ、上ニ云ヘル如ク、佛事ヲナシテ追薦スルハ、人々ノ心ニ任ズルコトニテ、殊ニ當代ノ國家ノ大法ナレバ、定マレル宗旨ノ寺院ニテ、大小夫々ノ佛事ヲナスベキハ、何ノ害モナキコトナリ、祭祀ヲ僧ニ任セテ、一向ニ佛事ヲナスノミナルコトハ、庶人細民ノ貧賤ナル者ニハ、便利ナルコトモアリ、士大夫以上爵祿モアル者、增テ國君ナ

ドハ、其國其邑ニ宗廟祠堂ヲ建テ、四時ノ祭ヲ行ハルベキ者也、然ルヲ庶民ノ如ク、僧ニ任セテ佛事ヲ行ハシメテ、自身ニハ齋戒ヲモナサズ、酒肉ヲモ絶タズ、其家ニテ輕キ祭ヲモ行ハザルハ、不孝トイフベシ、如何程大ナル佛事ヲナシテモ、孝子孝孫ノ自身ニ祭ラザルヲバ、先祖父母ハ享クマジキ也、父母ノ生前ニハ、一日モ養ハズシテハ、有ラレズ、死亡セル人ハ、日々ニ飲食ヲ作テ養フニモ非ズ、四時ニ一タビ宛モ祭ルコトハ難事ニモ非ズ。是ヲ廢シテハ孝子ト云フベカラズ

一　今ノ世俗、佛法ニ從テ、死後一周年再周年ヲ過テハ、七周、十三周、十七周、二十一周、或ハ二十三周、二十五周、或ハ二十七周、三十三周、五十周、一百周ニ當レル年ニハ、追薦トテ佛事ヲナシ、其間ノ年ハ幾年モ空ク過ル也、百年以後ハ、百年毎ニ佛事ヲ成スノミ也、凡此事ハ。佛法ニモ本據ナシト聞ユ、舊事本紀ノ中ニ出タリ、舊事本紀ハ、聖德太子ノ作ラレシ書トイフハ詐ナリ、近世人ノ僞作也、書中ニ記セルコト、多クハ虛妄ノ說ニテ信用スルニ足ラズ、去ナガラ當代ハ、天主教ヲ奉ゼザル證驗ニ、必佛法ヲ奉守スルコト國法ナレバ、毎年ニ非ズトモ、三年五年ニ一タビ寺ニ詣デ佛事ヲナシ、或ハ僧ヲ家ニ請ジテ齋ヲ設ルモ、國法ヲ守ル一事也、今ノ世ハ、王公大人モ、寺院ノ內ヲ借テ葬地トス、寺僧ハ檀那ノ爲ニ墳墓ヲ守ル者ナレバ、佛事ニ寄テ、其勤ヲ報謝スルモ道也、必シモ是ヲ廢スベカラズ、若果シテ忌日ヲ祭ル意ナラバ、家ニテ毎年ニ祭ルベシ、僧ヲ憑ムベカラズ

一　當代西城ノ紅葉山ニ、神祖以下累世ノ廟ヲ立置セ玉ヘドモ、祭祀ノ禮ヲ擧行ヒ玉ハズ、依然トシテ

世俗ノ習ハシノ如ク、大祥ノ後ハ、七周、十三周等ノ年數ヲ以テ、東叡山、增上寺ノ兩寺ニテ、每日千僧ヲ集テ千部ノ經ヲ讀シメ、十日ヲ積デ一萬部ニ滿ルヲ追薦トシ玉フ、此時ハ皇朝ヨリ勅使ノ公卿ヲ差遣ハサレ、大法會ヲ行ハル、十日讀經ノ外ニ、又兩日ノ法會アリ、國家ノ費數萬金ナルノミナラズ、是ヲ助ル諸侯有司モ數千金ヲ費サヾルハナシ、憲廟薨ジ玉ヒテヨリ、三年ニシテ文廟薨ジ玉ヒ、又四年ニシテ章廟薨ジ玉フ、寶永正德ノ間十年ナラザルニ、大葬三ツアリ、東叡、增上ノ兩寺ニテ、追薦ノ佛事ヲナシ玉フコト一年兩三度ニ及ベリ、海内ノ富ヲ以テスレドモ、數度ノ大法會ノ費ヲ支ヘルコト能ハズ、殆國用ノ匱キニ至ントス、是ニ因テ享保ノ初、今ノ國家新令ヲ下シ玉ヒ、萬部ノ經ヲ千部ニ減ジ、千僧ヲ減ジテ或ハ二百僧、或ハ三百僧ヲ集テ、五日三日ヲ限テ經ヲ讀マシム、皇朝ノ勅使ヲ止メ、大法會ノ儀式ヲ減裁シテ小法會ヲ行ハル、是ヨリ國家ノ費大ニ減ジテ、十分ノ一トナリ、是ニ預ル諸侯有司モ、多クノ錢穀ヲ費スコトヲ免カル、是實ニ節用ノ道ヲ得玉ヘル長策トイフベシ、然レドモ聖人ノ道ヲ用テ、宗廟ノ祭祀ノ禮ヲ行ハセ玉ハヾ、縱每月ニ祭リ玉フトモ、其費今ノ佛事ノ費ノ十分ノ一ニモ及ブマジ、日數ヲ經ルコトモナク、七日三日ノ齋戒ヲ守リ玉フノミニテ、早祀ハ只一日ニテ成就スベシ、是ヲ行ヒ玉ハズシテ、佛事法會ヲ行ヒテ、無益ノ財ヲ費シ玉フハ何ゾヤ、然レドモ眞ノ祭禮ヲ行ヒ玉ハズシテ、專ニ佛事ヲナシ玉ハンニハ、人主ノ貴キ、海内ノ富ヲ以テ、先廟ノ爲ニ五七年ニ一タビ千僧ヲ集メ、萬部ノ經ヲ讀シメラルヽモ、過タルニハ非ズ、大國ノ諸侯ハ云フニ

及バズ、民間ノ富有ナル者モ、先祖父母ノ爲ニ、寺院ニテ千部ノ經ヲ讀シムルコトアリ、今國家ノ佛事ニ千部限トシ玉ヘバ、諸侯以下ノ佛事ト異ナルコトナシ、茲ニ至テハ、貴賤別ナシトモ云フベシ、又佛法ニテ、昔ヨリ千僧萬僧ヲ供養スルトイフハ、飲食衣服ヲ以テ、一日ニテモ五日十日ニテモ、僧ヲ養テ是ヲ作善トスル也、必シモ千部萬部ノ經ヲ讀シメテ、衆僧ヲ勞苦セシムルニハ非ズ、供養ヲ主トスル故也、サレドモ供養ヲ受ル僧等、徒ニ供養ヲ受クベキニ非ザルガ故ニ、各其家ノ法ニ依テ、大小夫々ノ佛事ヲナシ、施主ノ恩ニ報フ也、佛法ノ本意ハ、只佛法僧三寶ヲ供養スルヲ作善トス、施主ノ方ヨリ僧ニ請テ、經ヲ讀シメテ勞苦サスベシトニハ非ズ、今ノ佛事トイフハ、數多ノ僧ヲ集テ供養ヲバ略シテ、千部萬部ノ經ヲ讀シメ、勞煩ナル佛事ヲナスヲ要トス、是佛法ノ本意ニ違ヘリ、且衆僧ノ中ニハ、放佚無慚ノ俗僧多ケレバ、法會ノ場ニテ非禮不敬ナルコトノミ也、左樣ノ惡徒ヲ多ク集テ、經ヲ讀シメテ、何ノ功德カ有ン、實ニ無益ノコト也、然レバ今ノ世ニ、宗廟祭祀ノ禮モ行ハレズ、只流俗ニ從テ佛事ヲナシテ、先祖父母ニ追薦セントナラバ、千部萬部ノ讀經ヲ止テ、王公ナドノ富貴ナル人ハ、寺院ニテモ、又ハ自己ノ第宅ニテモ、行儀ノ正キ僧徒ヲ集テ、大齋會ヲ設ケ布施ヲ行ヒテ、儀式アル佛事ヲナスベシ、其時集レル僧衆モ、徒ニ信施ヲ受クベキニ非レバ、聲明禮佛ナドノ殊勝ナル佛事ヲ行ジテ、亡者ノ冥福ヲ祈リ、施主ノ功德ニ報フベシ、日數ヲ多ク歷ルニモ及バズ、當日一朝、或ハ前日ヲ添テ、兩日ニテ事ヲ終フベシ、如レ此セバ、佛法ノ本意ニ合ヒ、儀式モ觀ニテ、人ノ信敬ヲ

起シ、僧徒モ勞苦ナク、施主ノ費モ少カルベシ、祭祀ノ正禮ニハ非レドモ、佛法ヲ用ル中ニテハ、此ハ、彼ヨリモ善シト云フベキカ

一　先祖父母ヲ祭ルニ神主アリ、神牌アリ、神主ハ亡者ノ正體也、影像ト同ジ義也、神牌ハ亡者ノ神靈ノ居所ヲ記ス札也、何レモ木ニテ作ル物ナレドモ、其義別也、其制同ジカラス、題名モ、神主ニハ某ノ神主ト書シ、神牌ニハ某ノ神位ト書ス、神牌ヲバ神板トモ云フ、今ノ世ニ位牌トイフ是也、士大夫以上ニテ、先廟祠堂アル者ハ、神主ヲ作ルベシ、祠堂ナキ者ハ、神牌バカリヲ作テ、神主ヲ作ルベカラズ、其故ハ、神主ハ親ノ正躰ニテ、其神靈ヲヤドシタル者ナレバ、常ニ此ノ守ル者アリテ、水火等ノ非常ノ難アルトキニ、奉ジテ他所ニ移スベシ、若シ過テ水ニ流シ火ニ燒ケバ、親ノ身ヲ害スルト同然ノ罪也、神牌ハ、只其座位ヲ表スル物ニテ、神靈ノ憑レルニ非レバ、過ツテ水ニ流シ火ニ燒テモ、親ヲ害シタル罪ニハ非ズ、今江戸ニテハ、士大夫以上モ多クハ旅客也、殊ニ火災數ニテ危キコトノミナレバ、厚祿ノ家モ、神主ヲバ輒ク作ルマジキ義也、今ノ俗ニ、位牌ヲ神主ノ如クニ思ヒ、學者ト雖ドモ誤テ主ト牌トヲ混同スル者アリ、考ヘザルノ過也

一　上ニ云ル如ク、忌日トイフハ、親ノ死シタル日也、歳ニ一日也、今俗間ニ毎月ノ其日ヲ忌日ト稱シテ、寺院ニ詣デ燒香シ、墳墓ニ拜謁スルハ誤也、然レドモ今ノ世ハ、王公大人ヨリ四時ノ吉祭ヲ行ハズ、只毎月ニ位牌ヲ拜スルノミナレバ、是ヲ非禮也迚止メナバ、彌先祖父母ニ遠ザカリテ、祀ヲ廢ス

ルニ近カルベシ、姑是ヲ其儘ニ置テ、先祖父母ヲ忘レザルノ端トセンモ可也、若四時ノ常祭ヲ行ハヾ、毎月ニ墳墓ニ謁シ、寺廟ニ燒香スルニ及ブマジキ也、朔望等ノ日ニ、茶菓ヲ獻ジテ、拜禮スルハ、中華ノ禮也、墳墓ヲ祭ルコト、古禮ニハ非ズト雖ドモ、異國ニモ此事アリ、唐ノ代ヨリ、毎歳清明ノ日ニ、墓ヲ掃除シテ酒肉ヲ以テ祭ル、清明ハ三月ノ節也、日本ニテハ中元ニ祭ル、中元ハ、七月十五日也、佛家ノ盂蘭盆ヨリ起レル俗說也、然レドモ是異國ト吾國ト、風俗ノ不同也、必シモ清明ニ祭ルガ是ニテ、中元ニ祭ルガ非ナルニモ有ルマジケレバ、中元ノ墓祭ヲ其儘ニ行ンコト、苦シカルマジキ也、ケ樣ノコトハ、人々ノ意ニテ用捨不同ナレドモ、厚キハ薄キヨリ勝ルベシ、國家ノ禮制ニモ非レバ、古來ノ禮ヲ斟酌シテ、宜キニ隨フノ外ハ有ルマジキモノ也

學政

一　學政トイフハ、學術ノ政令也、天下國家ヲ治ルニハ、人才ヲ得ルヲ先トス、人才ハ學問ヨリ出ルナレバ、天下ノ人ニ學問ヲナサシメテ、人才ノ出ル樣ニスル政ヲ、學政トイフ、凡人ハ性質ニ智愚賢不肖アリテ、學問セザレドモ賢キ者アリ、學問シテモ不賢ナル者アリ、然レドモ性質ノ好キバカリニテ、學問ナキ者ハ、今日目ニ見耳ニ聞タル計ヲ知テ、遠キ古ノ事ト、廣キ天下ノ事ヲ不レ知故ニ、聞見狹ク知識小クシテ、一己ノ身ヲ修シテ、小キ家ヲ治ルニモ、是非ニ迷ヒ、處置ニ惑フコトアリ、況ヤ

天下國家ヲ治ルニ、管ノ中ヨリ天ヲ視ル如クナル小キ見識ニテ、何トシテ大ナル政ヲ行ハンヤ、書ヲ讀ミ學問シタル者ハ、此國ニ居テ異國ノコトヲモ知リ、今ノ世ニ生レテ千萬年ノ遠キ古ヲモ知リ、聖賢ノ教ヲ守リ、歷代ノ治亂、政事ノ得失ヲ考テ、今日ノ時宜ニ隨フ、是學問ノ益也、宋ノ太祖ノ、宰相ニハ書ヲ讀タル人ヲ用フベシト曰ヒシハ、眞ノ帝王ノ言也、サル故ニ昔先王ノ世ニハ、天子諸侯ノ國都ハ云フニ不レ及、鄉黨州里トテ、在々所々マデニ、皆學校有リテ士民ニ學問ヲ勸ム、士民ノ子、八歲ニシテ小學ニ入ル、小學トハ在所ニアル小キ學校也、是ニ入學シテ六甲、五方、書計ノコトヲ學ブ、六甲トハ、十干、十二支也、甲子乙丑ノ類也、五方トハ、東西南北中央ノ名ヲ云フ、書ハ、書藝也、モノカクコトヲ學ブ也、計ハ、算數也、是童子ノ學業ニテ、八歲以上ノ者ノ習フ所也、是ヨリ稍々ニ長幼ノ節ヲ知ル、今ノ世ニ七八歲以上ノ童子ヲ師ノ所ニ集テ、物書クコトヲ教ヘ、小謳ヲ教ヘ、今川狀、庭訓、式目ナドヲ讀シテ、九々八算ナドヲ教ル如ク也、朱晦庵ガ小學ノ書ヲ作テ、古ノ小學ノ道也トイヘルハ、小學ノ道ニ非ズ、書中ニ記セルヲ觀レバ、皆大人ノ學ブベキコトドモ也、晦庵古ノ小學ノコトヲ考ヘズシテ作レル也、扨十五ニシテ大學ニ入テ、先王ノ禮樂ヲ學ビ、士大夫トナリテ朝廷ニ立ツベキ禮義ヲ習フ、サテ大學ノ中ニテ、性質怜悧ニテ、秀才トモナルベキ者ヲバ鄉學ニ移ス、鄉トイフハ、戶數一萬二千五百ノ人ノ聚マル所也、戶數ノ組立ニ、五家ヲ隣トイフ、五隣ヲ里ト云フ、里ハ二十五戶也、四里ヲ族トイフ、族ハ百戶也、五族ヲ黨トイフ、黨ハ五百戶也、五黨ヲ州トイフ、州ハ二千五百戶

也、五州ヲ鄕トイフ、鄕ハ一萬二千五百戸也、支配ニ大小アリ、其地ヲ治ル官吏ニ貴賤アル故ニ、鄕、州、黨、族、里ノ五等ノ名アル也、鄕學トイフハ、一鄕ニ一ツアル學校也、鄕學ニ入タル諸生ニハ、國君ヨリ養ヲ給ハル也、サテ鄕學ノ中ニテ、秀タル者アレバ、其國ノ少學ニ移ス、諸侯ノ學校ヲ國學トイフ、又是ヲ少學トイフハ、天子ノ學校ヲ太學トイフニ對シテ、少學トイフ也、上ニ云ル大學小學ハ、大小ノ名也、此太學少學ハ、尊卑ノ稱也、扨少學ノ中ニテ、又秀タル者ヲ擇デ、諸侯ヨリ推擧シテ天子ニ獻ジ、京都ノ太學ニ入ル、是ヲ貢士トモ、造士トモ云フ、扨又鄕黨ニテ人ノ德行才藝器量ヲ擇ブニハ、鄕飮酒、鄕射ノ禮ヲ以テ試ル、其事ハ前ニ見エタリ、秦ノ代ハ學問ヲ絶滅シタレバ、論ズルニ及バズ、漢ヨリ以後南北六朝ノ間ハ、學問ノ道盛ナレドモ、天下郡縣ニナリタレバ、三代以前トハ學政同カラズ、鄕飮酒鄕、鄕射ノ禮モ廢レテ、只其所ヨリ才士ヲ推擧スルノミ也、然レドモ漢ヨリ隋ノ代迄ハ、文章ニテ試ルコト無カリシハ、猶古ノ遺風也、唐ノ代ヨリ詩文ヲ作ラシメテ、其才ヲ試ルコト始マレリ、是後世ノ一變也、凡詩文ハ、人ニ別才アリテ、智愚賢不肖ニ因ラヌ者也、詩文ハ技藝ノ類ニテ、是ニ達セル者ハ、國家ノ一ツノ道具ナレドモ、天下ヲ治ル政事ノ肝要ニハ非ズ、然ルニ一途ニ是ヲ以テ人才ヲ試ルハ、古道ニ違ヘリ、然レドモ人ノ才智ハ書ヲ讀ミ學問スルヨリ出ルナレバ、詩文ヲ習フ中ヨリ、賢智ノ生ズル者モ多シ、何ゾ是ヲ廢センヤ、總ジテ中華ノ風ハ、古ヨリ今ノ世ニ至ル迄、學問才藝ニ因テ立身シテ、庶民ノ子モ爵祿ヲ得富貴ニ進ムガ故ニ、人々競テ學問ヲ勵ム也、

一 異國ニテ人才ヲ求ムルハ、儒學ノミニ非ズ、武學兵法、諸ノ技藝迄、夫々ニ試ル法アリテ、其勝レタル者ヲバ、召出シテ國學ノ用ニ立ル也、試ニ中リテ召出サルヽヲ及第トイフ、サル故ニ天下ノ人、己々ガ好ム所得タルコトニテ、及第ヲ望ム也

一 日本モ公家ノ世ニハ、學文ヲ用ラレシ故ニ、及第ノ法モ在テ、學者モ多カリキ、武家ノ世トナリテヨリ、學問スタレテ、僧徒ノ外ハ學問スマジキ樣ニ人皆思ヘリ、歎カシキコトニ非ズヤ、當代ニ及デ、東照宮ノ明德ニ賴テ、士大夫ノ間ニ學問アリテ、上ハ公卿國君ニ至リ、下ハ庶民ニ至ル迄、儒學ヲ尊信スル風俗ニナレリ、憲廟儒學ヲ尊崇シ玉ヒテ、卑賤ヨリ儒學ヲ以テ仕進スル者モ多ク、士大夫世祿ノ家モ、書ヲ讀ムコトヲ務トス、武家ノ世始テ以來五百年、未ダ此時ノ如ク盛ナルコトハ非ズ、然ドモ惜ムラクハ、學ヲ勸ムル政未ダ立タザルニ、憲廟薨ジサセ玉ヒ、文廟章廟二代ハ、國ヲ享玉フコト日淺クシテ、儒學ヲ興シ玉フベクモナク、文明ノ化暫息ナントセシニ、享保ノ時ニ及デ、國家又學術ヲ好マセ玉ヒ、文武ノ才藝ヲ登庸シ玉フコト少カラズ、此時ニ當リテ、海內文明ノ化、前代ニ度越セントス、竊ニ願クバ、古ヲ稽ヘ時ニ隨テ學政ヲ立ラレバ、彌治亂ノ本ヲ張テ、人才ヲ出スコト窮リナカルベシ

一 元祿以來、儒學ノ士ヲ微賤ヨリ擢テ、祿俸ヲ給ハリ、朝士ノ班ニ列セシメ玉フコト頗多シ、然レドモ此等ノ輩ハ、只文學書記ノ任ニ止マリテ、政事ニ預ルコトナシ、官吏トナリ政事ニ預ル者ハ、皆士

大夫世祿ノ家也、尙書ノ畢命ニ、「世祿之家、鮮ニ克由レ禮」トイヘリ、世祿ノ家ハ、飽食煖衣ニテ學術ヲ知ラズ、情ニ通ゼズ、政事ノ得失ニ於テハ、忙然トシテ醉人ノ如シ、譬ヘバ醫者ノ醫書ヲ讀マズ、古方ヲ學バズシテ、一己ノ私智ヲ以テ人ノ病ヲ治セントスルガ如シ、誤多キコト宜也、今若學術ヲ興シ玉ハントナラバ、士大夫世祿ノ人ニ、學問ヲ勸メ玉フニシクハナシ、凡學問ヲ勸メ玉フニハ、只學問セヨト號令ヲ下シ玉フノミニテハ、人ノ勸ムコトナキモノ也、號令ナクトモ、又ハ號令ヲ下シ玉ヘル後ニテモ、士大夫ノ中ニ學問ヲ好ミ、德行才藝アル者アラバ、是ヲ重ク賞シ玉フベシ、其賞ハ或爵位ヲ賜ヒ、或ハ金銀等ヲ賜ヒ、或ハ祿俸ヲ益シ、或ハ宅地ヲ賜ヒ、或ハ番衞ノ列ヲ出シ、或ハ官ヲ遷ス類也、其人品ニ隨テ宜キ所アルベシ、利ヲ見テ勸ムハ人情也、上ヨリ學問ヲ賞シ玉フヲ見テハ、及バヌ者モ是ヲ美ミ、己ハ學問ナクトモ、子孫ナドヲ勵マシテ、學問ニ勸マシムル者有ルベシ、必シモ古代ノ如クニ、學校ヲ建テ學バシメラルヽニモ及バズ、學問アル者ヲサヘ賞セラルレバ、下ノ人ハ必勸ミテ學問サスル也、是學政ノ一ツ也、又士大夫ハ云フニ不レ及、萬石以上ノ諸侯モ、官人トナリテ上ニ用ヒラレンコトヲ樂ブハ人情也、サレバ必學問アル人ヲ擇デ大小ノ役ヲ命ゼラレバ、號令ナクトモ、人々學問ニ赴クベシ、是必然ノ理也、番衞ノ列ヲ出ストハ、番衆ノ内ヨリ拔ク也、官ヲ遷ストハ、役ヲ易ユル也、然ルニ古ヨリ德アル者ニハ爵ヲ進メ、功アル者ニハ祿ヲ益ス、是常道也、今學問ヲ好ムハ、德ノ類ナレバ、大抵ハ爵位ヲ陞スルヲ賞トセラルベキ也、爵位ヲ陞スルハ、六位ヲ五位ニ陞

セ、五位ヲ四位ニ陞スル類也

一　學術ハ、儒學ヲ第一トスルコト勿論也、次ニハ武學也、武學トイフハ、孫吳ガ兵法軍旅ノ道也、此外ハ文武ノ藝術其品多シ、文藝ニハ、詩文ノ才、天文、暦法、醫方、卜筮、能書、能畫、算數、音律、和歌ノ道、此國ノ古書ヲ讀ミ、故實ニ達セル輩、是皆文藝ノ類也、武藝ハ、射、騎、劍術、鳥銃、鎗、捧打拳、游泅、馬醫、鷹師ノ類也、又此外ニ、諸ノ細工ニ達セルモノ、或ハ庖厨調膳ニ精ク、或ハ茶ヲ嗜ミ、或ハ花ヲ栽ヘ、或ハ鳥獸ヲ養ヒ、或ハ種々ノ小技小藝迄、各其妙ヲ極タルハ、皆國家ノ用ニ非ズト云フコトナシ、是等ノ藝術、皆其家ヲ限ラズ、有司ノ選ビ試ミヲ以テ、大小貴賤其品ニ隨テ、朝士ノ中ヨリモ拔出シ、庶人ノ中ヨリモ召出シテ是ヲ用ヒ、祿俸ヲ賜テ其一生ヲ養ヒ、其子ニ至テ、父ノ業ヲ繼グコト不レ能者ヲバ、故ノ身ニ還シ玉フベシ、異國ハ如レ此、日本ニテハ、諸道ノ學者、技藝ノ徒迄、多クハ專門ニテ其家ヲ世ニシ、國家ニ仕ヘテ、其祿俸ヲモ世ニス故ニ、藝術漸々ニ拙クナリテ、堪能ナル者出來ルコト稀也、又事ニ因リテ其業モ賤クナリテ、士人ハ肯テ學バヌモアリ、是專門世業ノ失也、專門トハ、一家ヲ立テ其業ヲ傳フルナリ

一　凡人ノ才ニハ長短アリ、長トハ其人ノ得タル方ニテ賢キ也、短トハ得ザル方ニテ拙キ也、又藝術ヲ習フニ、好ムト好マヌトアリ、父兄ノ命ニテモ、上ヨリノ督責ニテモ、其心ノ好マヌコトハ進ミ難キ者也、己ガ嗜好ムコトハ、父兄ノ命ナクテモ、上ノ督責ヲ待ズトモ、日ニ進ミテ學習スル故ニ、

成就スルコトモ早ク、上手ニモ至ル也、其中ニ又才ノ長短アリテ、辛苦セズシテ成ルコトアリ、骨ヲ折テモ成リカヌルコトアリ、サレバ人ノ藝術ハ、己ガ好ム事ニテ、才ノ長短ハ自己ニモ知リガタキ者ナリ、先己ガ好ムコトヲ學デ、其事ヲ習熟シテ看ルニ、兼テムツカシク思ヒシコトノスラスラトノ容易ニナルコトアル、是才ノ長也、始ハ容易ニ思ヘル事ノ思ノ外ニムツカシク成リ兼ヌル事アル、是才ノ短也、此長短ハ其事ヲ習テ看テノ後ニ見ユル也、如此自身ニサヘ知難キ者ナレバ、增テ他人ノ才ノ長短ハ知リ難キ事勿論也、然レバ上ヨリ令ヲ下シテ、士人ニ藝術ヲ勸ムルモ、其人ノ好ム所ニテ、才ノ長ナル事ヲ習ハシムルニシクハナシ、今ノ世ニ、番衛ノ諸士ヲ上ヨリ督責シ玉フハ、弓馬ノ二ツ也、然ルニ番衆ノ中ニ弓馬ヲ好ム者アリ、好マザル者アリ、弓馬ヲ好ム中ニモ、才ノ長短アリテ、能クスルト能クセザルトアリ、弓馬ヲ好マズシテ學問ヲ好ミ、或書畫等ノ技藝ヲ好ミ、或ハ他ノ武藝ヲ好ミ、或ハ餘ノ雜技ヲ好ムモアリ、左樣ニ好ム所アリテ、其藝ヲ習ハントスレドモ、弓馬ノ藝ヲ督責セラレテ、是ニノミ工夫ヲ費ス故ニ、己ガ好ム方ヲ習フニ暇ナク、弓馬ハ己ガ好マザルコトナレバ、日々ニ學習シテモ心留ラネバ、成就スルコトモナク、歳月ヲ歷テモ、上手ニ至ルコトナシ、是人才ノ出來ラザル端也、竊ニ願ハクバ、一概ニ弓馬ヲ習ハシムルコトヲ止メテ、番衆ノ中ニテモ、其人ノ好ム所ニ任セテ、儒學以下文武ノ技藝ヲ何ニテモ學バシメ、儒官ノ子モ武藝ノ才アラバ、武藝ヲ習ハシメ、醫師ノ子モ、儒學ヲ好マバ、儒士ニ列セシメ、各其家業ニ拘ハラズ、好ム所ニテ、才ノ長ナル所ヲ學バ

シメラレヽバ、人才ハ朝廷ニ盈ルベシ、扨人才ヲ用ヒ玉ハンニハ、爵位人品ニ拘ラズ、書字ノコトニハ、誰ニテモ能書ナル者ヲ召シ、畫圖ノコトニハ、誰ニテモ能畫ノ者ヲ召テ其事ヲ辨ゼシメ、其事畢リタル後ニ賞ヲ行ハレバ、書畫ノ家ニ非ズシテ書畫ノコトヲナスモ、其人ノ耻ニ非ズ、誰カ是ヲ辭センヤ、是則人才ヲ用ル道也、中華ニテハ、古ヨリ今ニ至ル迄、人才ヲ用ユルコト此類也、漢ノ淳于意ハ大倉令トテ、米倉ヲ主ドル者也、張仲景ハ長沙ノ大守也、此二人ハ皆名醫也、晉ノ王羲之、唐ノ虞世南、柳公權、歐陽詢、褚遂良、顏眞卿等ハ、皆貴キ官人ナリシガ、能書ニテ國家ノ書事ニ預レリ、曹霸ハ將軍ナリシガ、能畫ニテ屢々朝廷ニ召レテ畫筆ヲ執レリ、是ノミニ非ズ、異國ニテハ、藝術ニ家ヲタテズ、誰ニテモアレ、其藝ノ上手ヲ召テ其業ヲ成サシムル故ニ、諸藝ニ名人多シ、此方ニテハ家ヲ定テ、其家ニ非ザレバ用ヒザル風ナル故ニ、其家ニ名人出來ルコト稀也、狩野氏ノ畫ヲ業トスルガ如キ、元信、守信ガ外ハ皆下手也、今ノ狩野氏ノ徒、斗ニテ量ル程有テ、碌々タル劣才也、彼等ヲ用ヒ玉ハンヨリ、常ノ人ノ中ヨリ選デ召レバ、上手出來ルベシ、儒士醫員ノ類、凡諸藝、皆狩野氏ノ畫ト同然也、サレバ國家ニハ、十年バカリニ一度ビ沙汰ノ政ヲ行フ古制也、沙汰トハ、沙ヲ陶ルヲ云フ、國家ノ用ニ立ザル者ヲ、多キ中ヨリ揀ビ出シテ除去スルヲ沙汰トイフ、今ノ世ニハ沙汰シタキ輩甚ダ多シ、元祿年中ニ、醫家ノ輩ヲ沙汰セラレシコトアリ、善政也、凡是等ノ類、皆學政ノ一事也

一 中華ニテハ、藝術ノ士ヲ試ルニ、科目トイフコトアリ、科ハ品也、目ハ名目ナリ、拔藝ノ品ヲ

分テ夫々ニ名目ヲ題スル也、大ニ分レバ、文學武學也　細ニ分レバ、文學ノ中ニ、又明經宏辭等ノ科目アリ、武學ノ中ニ、又方略騎射等ノ科目アリ、譬ヘバ孔門ノ諸賢ニ、德行、言語、政事、文學ノ四科アルガ如シ、人ノ才藝ニ種々ノ器用アル故ニ、其人ノ才ニ隨テ、夫々ノ科ヲ以テ試ル也、是人才ヲ出ス術也、今吾國ニテモ、文武ノ諸藝ニ科目ヲ立テ、番衆諸士ノ中ヨリ、其科目ニ應ズル者ヲ試テ擧用ヒ玉ハヾ、種々ノ才藝ノ士出ヅベキ也、然ルヲ專ニ弓馬ノ藝ノミヲ以テ督責セラルヽハ、狹キ道也、凡學政ハ、唯人才ヲ多ク得ルヲ要トス、人才ハ國家ヲ治ル道具ナル故也、毛詩ニ、「濟々多士、文王以寧」トイヘルハ、文王ノ王業ヲ成就シ玉ヘルハ、多士ノ力ナルコトヲ詠ゼシ詩也、濟々ハ多キ貌ナリ

經濟錄卷第六　終

經濟錄卷第七

章服

一　章ハ、文章也、和訓アヤトイフ、服ハ衣服也、和訓ニキモノトイフ、身ニキル物ノミニ非ズ、首ニ著ル冠ヨリ、足ニ著ル履マデヲ皆服トイフ、冠ヲ元服トイフモ、元ハ首也、首ノ服トイフ也、凡萬物ノ中ニテ、鳥ニハ羽アリ、獸ニハ毛アリ、魚ニハ鱗アリ、鼈ニハ介アリ、羽毛鱗介ハ、鳥獸魚鼈ノ寒熱ヲ禦グ具也、人ハ倮蟲ナリ、衣服ナクテハ、肌膚ヲ蓋フコトモナク、寒熱ニ耐ルコトモナシ、是ニ因テ上古ノ聖人、衣裳トイフ物ヲ制シテ、寒熱ヲ禦ガシメ玉フ、然ルニ鳥獸魚鼈ニハ、羽毛鱗介ニ各夫々ノ文彩アリテ、雉ハ雉ト見エ、虎ハ虎ト見ユル、是天然ノ章服也、人ハモト倮蟲ニテ、身ニ生レツキタル文彩ナキ故ニ、赤倮ニテ衣服ヲ著ザレバ、天子モ庶民モ易リナシ、聖人是ヲ知シ召テ肌膚ヲ蓋ヒ、寒熱ヲ禦ントテ衣服ヲキルニ因テ、其衣服ニサマ〳〵ノ制度ヲ成シ、色々ノ文彩ヲ成シテ、貴賤上下ノ差別ヲ立玉フ、是章服ノ起リ也、然レバ人ハ章服ナクテ叶ハヌ者ト知ルベシ

一　周易ニ、「黄帝堯舜垂二衣裳一而天下治」トアリ、衣服ノ制ハ、黄帝ノ時ヨリ始レリ、堯舜ノ時ノ制ハ、

尚書ニ見ユ、其後歴代ノ制サマ〳〵ナリ、凡衣服ハ、天子諸侯、大夫、士、庶人ノ五等皆其制アリ、士大夫以上ニ、又一品ヨリ九品迄ノ階級アリ、衣服ハ官職ニ拘ハラズ、爵位ヲ以テ其品ヲ分ル、是古來ノ制也、然レドモ間ニハ官職ニ因テ其冠服ヲ異ニスルモアリ、執法ノ吏ハ獬豸冠ヲ冠リ、侍中ハ貂蟬ヲサシハサム類ノ如シ、又三代以後歴代ハ冠服ニ文職ノ別チナカリシニ、明ノ代ニハ文武ヲ別チテ、一品ヨリ九品迄ノ服ヲ制セリ、是衣服ノ詳ナル也

一　日本ニテハ上古ノ冠服、如何ナル制ナリシトイフコト詳ナラズ、推古天皇ノ朝ニ、聖徳太子攝政セラレシ時、始テ十二階ノ冠ヲ制ス、大徳、少徳、大仁、少仁、大禮、少禮、大信、少信、大義、少義、大智、少智是也、文武天皇ノトキニ、始テ紗冠漆塗ノ烏帽子ヲ制ストイフ、然レドモ是等ノ冠服、其制詳ナラズ、是ヨリ其後、冠服ノ制幾度カ變ゼリト見ユ、今ノ公家ノ冠服ハ、何レノ時ノ制ゾトイフコトヲ不レ知、其初中華ノ六朝ヨリ唐ノ代迄ノ制ニ傚テ、其上ヲ損益シタル者也、サレバ今ノ公家ノ服ハ、異國ノ制ニ似タル處モアリ、大ニ似ザル處モアリ、畢竟ハ日本ノ服ナレドモ、爵位ノ高下ニ隨テ等級アリ、文彩モ華美ニテ、眞ノ章服也、武家ノ世ト成テハ、公家ノ冠服ヲ用ヒズ、烏帽子ニ布ノ直垂ヲ着ル、是武家ノ服也、烏帽子ハ今ノ立烏帽子折烏帽子ナリ、布ノ直垂トイフハ、今ノ大紋ノ直垂也、公家ニテ大紋ノ袴ト云フハ指貫也、武家ノ直垂ニ、昔ハ家ノ紋ヲ畫クコトハ無カリシ故ニ、只是ヲ直垂トイヘルヲ、近世ニナリテ、家ノ紋ヲ畫テ其シルシトス、是ヨリ俗ニ大紋トイフ、士烏帽子ニ素

襖ヲ著ルルコトハ、何ノ世ヨリ始マレルトイフコトヲ知ラズ、是又武家ノ服ト見エタリ、狩衣ハ公家ノ服ニテ、武家ニモ用ルコトアリ、布ノ直垂モ素襖モ、昔ハ柔カニシナヤカナル衣ナリシヲ、今ハ布ニ糊ヲ濃クシテ剛キ樣ニスル、是風俗ノ卑劣ナルヨリ起レリ、公家ノ衣モ、古ハシナヤカナリシニ、中古ヨリ糊ゴハニナリテ、今ノ如ク剛バリタルモノニナレリトイフ、皆是風俗ノ惡キ也、中華ノ衣服ハ、著タル姿打シホレタル樣ニテ、畫圖ニテ見タル所モ溫雅也、日本ノ服ハ、公家モ武家モ、肩ヲ聳ヤカシ臂ヲ張タル姿、サナガラリキミテ見ユ、中華ハ云フニ不レ及、萬國ノ中ニケ樣ノ體ハ見エズ、是中古以來風俗ノ汙レル故也、又異國ノ服ハ、古ヨリ衣裳ノ制ニテ、腰ヨリ上ヲ衣トイヒ、腰ヨリ下ヲ裳トイフ、衣ト裳トヲ腰ニテ綴合セタルヲ、總ジテ衣トイフ、僧家ニ直綴トイフ者ノ如シ、衣ノ內ニ袴ヲキルコトハナシ、袴ハ舞樂ヲ奏スルニ、舞人ノキル者也、舞ハ袴ヲ著ザレバ不便利ナル故也、袴ハ本膚ニ著ル者ニテ、常ニ是ヲ犢鼻褌トイフ、人ノ膝蓋ヲ犢鼻トイフ、犢ノ鼻ニ似タル故也、褌ハ、袴也、犢鼻ヲ蔽ス袴ナル故ニ、犢鼻褌ト名ヅク、今ノ世俗ノ肌ヲビ也、日本ノ服ニハ、公家モ武家モ、舞人ニ非ズシテ袴ヲ外ニキル、是大ニ中華ト易レル事也、又武家ニテ布ノ直垂モ素襖モ、袴ノ裾ヲ長クスルハ、指貫ノ如ク膝ノ下ニテ紮ラン爲ナルヲ、今ハクヽラズシテ地上ニ曳ク、甚ダ不便利ナルコト也、ケ樣ノコトハ、皆古ヲ忘レ本ヲ失テ、誤レル也、古ヲ好ム人ハ、考ヘズバ有ルベカラズ

一　室町家ノ末ヨリ、海內戰國トナリ、公家ハ彌衰ヘ、武家ハ亂世ノ騷シキ中ニ生レ長テ、萬事ニ簡易

ヲ好メルヨリ、章服ノ制毀レ、烏帽子モ直垂モ廢レテ、上下トイフ服ヲ用フ、上下ノ起リハ、素襖ノ袖ヲ割去テ、胸ノ兩旁ニ襞積ヲツケタル也、今ノ長袴也、其後又袴ノ裾ノ長キヲ嫌テ、是ヲ割去テ短クス、今ノ半袴也、其後又麻ノ剛キヲ嫌テ裏ヲ附ク、今ノ裏附上下也、ケ樣ニ變化シテ、今ハ貴賤ノ通服トナリ、上ハ王公ヨリ下庶民迄、是ヲ以テ禮服トス、凡古ヨリ人ニ衣服ノ制アルハ、貴賤ノ品ヲ分ツベキ爲ナルニ、今ノ禮服ハ、貴賤ノ差別ナケレバ、章服トイフ者ニ非ズ、今ノ世ニハ王公貴人ヲ路次ニテ觀レバ、從者多ク、輿馬ノ飾モ美麗ナル故ニ、眞ニ富貴ノ人ト見ユレドモ、朝廷ニテハ輿馬モナク、從者モ離ルレバ、只一个ノ人也、此時ニ觀レバ、大國ノ君モ、小國ノ君モ、卿大夫モ、執政執事モ、諸吏ノ賤者モ、農工商賈モ、一同ニ上下ヲ着タルノミニテ、少モ差別ナクシテ其貴賤ヲ分ツベキ樣ナシ、武家ノ世ト成リテ、五百年來、公家ノ禮ヲバ用ヒザレドモ、鎌倉ノ時ヨリ室町ノ末ニ至ル迄ハ、士大夫以上ハ、必烏帽子直垂ヲ著タリ、戰國以來亂世ノ風俗ニテ、冠服ヲ去テ上下トナリシヨリ、當代太平ノ人ト成リテモ、上モ下モ簡易ニ安ンジテ冠服ノ制ヲ定メラルヽ政モナク、因循シテ、百年ニ及ベリ、公家ノ世ハ云フニ及バズ、武家ノ世トナリテ以來ニ、冠服ノ棄レタルコト、當代ノ如クナルコトハナシ、口惜キコトニ非ズヤ、既ニ章服ナキ故ニ、小袖上下ノ新ク美麗ナルヲ見テハ、貴人ト思ヒ、舊ク麁敝ナルヲ見テハ、賤者ト思フ、是ヨリ人々新ク美麗ナル物ヲ著テ、人ニ高ブラントス、是奢侈ノ始也、凡制度アル冠服ハ、舊クシホタルヲ著テモ、其人品威儀サモラシク見ユル

者也、冠服ニ非ズシテ常ノ衣服ヲ麁簡ナルヲ著タルハ、威儀モ成ラズ、不恭ニ見ユル者也、今ノ世ニ公家ノ貧キ人ヲ觀レバ、舊キ衣冠ノ敝レタルヲ著レドモ、其人品貴ク見ユルハ、身ニ章服アル故也、凡人ハ首ニ必冠ヲ著ルベキ者也、雉鷄ハ鳥ナレドモ冠アリ、人ハ萬物ノ中ノ貴キ者ナレバ、頂ヲ露スマジキ爲ニ冠ヲ著ル也、異國ハ勿論ナリ、吾國ニテモ、公家ノ世ヨリ武家ノ世ニ及ブ迄ハ、冠烏帽子ヲ脫タルヲバ、大童ト名ヅケテ甚シキ不恭トシ、大ナル耻トセリ、譬ヘバ、人ノ赤裸ナルヲバ、必是ヲ笑フガ如シ、冠烏帽子ヲ脫タルハ、首ヲ裸ニスル也、首ハ一身ノ上ニ居テ至テ尊キ者也、是ニ服ナカルベキ様ナシ、人トシテ冠ヲ著ザルハ、夷狄ノ俗ナリ、文廟ノ時、武家ニ冠服ヲ制シテ、平日ニ烏帽子直垂ヲ著セシメント旨アリシト聞ユ、其時士大夫ノ中ニテ、大ニ便利ナルコトナラント思ヘル者多カリ、是流俗ノ習ニ染テ、人情ヲ不レ知也、人情ハ貴キヲ好マヌ者ハナシ、其人品ノ夫ト見ユルヲ悅バヌ者モナシ、今ノ人上下ヲ著タル計ニテハ、貴キモ賤キモ別レズ、其人品モ夫ト見エズ、若烏帽子直垂ヲモ著ル程ナレバ、其爵位ノ高下モ見エ、人品モ夫ト見ユベキ故ニ、烏帽子直垂ノ我身ヲ束縛スルコトヲバ忘テ、己ガ人品ノ夫ト見ユルヲ樂ムハ必定也、久シク廢レタル冠服ヲ一旦ニ興サレバ、常ニ著馴レヌ烏帽子直垂ヲキテ不便利ナルコトヲ思ヒ、身ヲ縛ラレタル様ニ苦ムベキガ、程ナク一年二年ノ後、其服ニ習ナバ、不便利ヲ忘テ便利ト思フベシ、總ジテ人ノ身ハ習ハシニ因ル者ニテ、何事ニモ習ルレバ安ンズル者也、サル故ニ古ヨリ英雄ノ人ハ、改テヨキコトハ、果決ノ心ヲ以テ遲疑

スル所ナク、一旦ニ改ムル也、又直垂ヲ著ル程ナレバ、內ニイカナル麁服ヲ著テモ苦シカラズ、故老ノ談ニ、昔直垂ヲ著タル世ニ、貧士ハ內ニ色々ノ絹布ノキレヲ綴合セテ著タルヲ、近世其體ヲ摹シテ、一種ノ絹ヲ織ナシテ、是ヲ士大夫ノ禮服トス、今ノ熨斗目トイフモノ是也トイヘリ、然レバ今ニモ直垂ヲキル程ナラバ、內ニハ麁服ヲ著ルベキ故ニ、奢華ヲ去テ、儉素ニ歸ル道、是ヨリ近キハナシ

一 古ヨリ帝王ノ興リ玉ヘル時ハ、其代ノ始ニ、必ズ正朔ヲ改メ、服色ヲ易ルトイフコトアリ、正朔ヲ改ムルトハ、歳首正月ヲ易ル也、服色ヲ易ルトハ、冠服ヲ易ル也、如此改易スルハ、天下ノ民ノ耳目ヲ易テ、何事モ前代ノ制ヲ捨テ、當代ノ政ヲ新クセンタメ也、然レバ今ノ世ニモ、若武家ノ冠服ヲ制セラレントナラバ、古來ノ烏帽子直垂ヲ捨テ、新ニ一代ノ冠服ヲ制セラルベシ、古來ノ公家武家ノ制度ヲ斟酌シテ、其ノ間ノ宜キヲ取テ、如何樣ニモ制作スベシ、若然ラズバ、姑今迄ノ烏帽子直垂ヲ用ヒテモ、其制度ヲ詳ニシテ、卿大夫、士庶人迄ノ階級ヲ定メラレバ、是則一代ノ冠服也、制度ヲ詳ニストイフハ、今ノ世ノ朝儀ノ時ノ裝束ニ、五位以上ノ人ノ著ル大紋ノ直垂モ、六位ノ人ノ著ル布衣ノ狩衣モ、四位ノ人ノ著ル紗ノ狩衣モ、諸士ノ著ル素襖モ、皆色ニ定マレル制ナキ故ニ、紫緋ノ外ハ、心ニ任セテ何ノ色ヲモ用ル、コレ麁略ナルコト也、異國ニテハ、衣ノ色ト文彩トヲ以テ、文武ノ官人ノ一品ヨリ九品迄ノ階級ヲ立ル故ニ、朝廷ニテモ、路次ニテモ、遙ニ看テ其人ノ何ノ官、何ノ位トイフコトヲ知ル、是章服ノ本意也、サレバ、今ノ世ニモ、狩衣、直垂、素襖ノ三等ノ服ニ、各其中ニテ色ト文彩ト

ヲ數多ニ別テ、其官其職ニ隨テ、色ト文彩トヲ定テ、私ニ其制ヲ變ゼザル樣ニアルベシ、又布ノ直垂ト素襖トハ、麻ニテ作ル者ナルヲ。今ノ如クニ糊ヲ剛クシ、板ノ如クニテハ、身モ一キハ縛ラレタル樣ニテ、賤ク不便利也、損敗スルコトモ速ナレバ、僧家ノ麻衣ノ如クシナヤカニスベシ、袴ノ裾ヲ地ニ曳クハ、甚ダ不便利ナルコトナレバ、指貫ノ如クニ膝ノ下ニテ紮ルベシ、又素襖ハ士庶人ノ服ニシテ、士ノ素襖ニハ麻ヲ用ルコト勿論也、士ノ下ハ、吏卒ヨリ農工商賈ノ輩迄モ、素襖ヲ著ルベキ者ハ、綿布ニテモ作ルベシ、如レ此制度ヲ立テ、色ト文彩トヲ以テ爵位ノ等級ヲ差別セバ、昔ヨリ有來レル烏帽子、直垂、素襖ノ類ヲ用テモ、一代ノ冠服ハ制セラル、コト也、今ノ世モ、烏帽子、直垂ヲ全ク用ヒザルニモ非ズ、宗廟朝廷ノ大禮ニノミ是ヲ著ルコト有テ、常ニ之ヲ用ヒズ、只貴賤一同ニ上下ヲ著ル、是章服ヲ廢スル也。大禮ニ烏帽子、直垂ヲキルモ、階級詳カナラザル故ニ、章服ノ本意ヲ盡サズ、是恨メシキコト也、刀ヲ佩ルモ章服ノ一ツ也、公家ハ武職ノ官人ノミ刀ヲ佩ルモ章服ノ一ツナリ、公家ノ服ニハ、武職ノ官人ノミ刀ヲ佩テ、文職ハ刀ヲ佩ビズ、武家ノ人ハ指添ト名ヅケテ短キ刀ヲ腰ニ挿シ、別ニ太刀ト名ヅケテ長キ刀ヲ佩ブ。殿上ニハ指副バカリヲサス、太刀ヲ佩ルコトヲ得ズ、今ノ世モ然ナリ、但今ノ世ハ古ト易リテ、庶人奴僕ノ輩迄刀ヲサス、釋氏ノ徒迄、從者ニハ必刀ヲサヽシムル、是無用ノコト也。凡刀ハ士人ノ佩ルモノ也、士人ニ非ズシテ刀ヲ佩ル、何ノ用ゾヤ、士人モ衛士トナリ、或ハ儀仗鹵簿ニ列スルニハ兩刀ヲ佩ベキガ、左モナクテ平日兩刀ヲ佩ル事無用也、短キ

指副ニテ事足ヌベシ、昔ノ插副トイフハ、今ノ世ノチサ刀トイフ者ナリ、今ノ俗間ノ刀トイヒ、脇差トイフハ、近來ノ俗制ニテ、古制ニ非ズ、若今ノ世ニ章服ノ制度ヲ立ラレンニハ、士人ハチイサ刀一ツヲ佩ビ、庶人工商ハ短キ刀ヲモ佩ル事ヲ得ザルベシ、士人モ奴僕ハ一刀ヲモ佩ザルベシ、況ヤ僧尼ノ從者ハ、聊モ刃アルモノヲ身ニ附ベキニ非ズ、今ノ士人平日ニ兩刀ヲ佩ルダモ、無用ノコトナルニ、甚長キ刀ヲ佩ルハ、殊ニ無用也、庶人工商奴僕ノ刀ヲ佩ルハ、猶又益無用也

一 武家ノ世トナリテヨリ以來ハ、海內ノ人武ヲ尙ブ風トナリ、何事モ武家ノ人ノナスワザヲ見テ是ヲ學ブ、公家ノ人モ、漸々ニ古來ノ皇朝ノ文雅ナル風ヲ忘レテ、只管ニ武家ヲ學ブ、今ノ公家、其身ニハ冠服ヲ著レドモ、輿馬從者ハ、悉ク武家ニ倣テ、武家ト爭テ馳驅ス、是其本ヲ忘レタル也、武家モ昔ハ冠服アリテ、容儀好カリシニ、今ハ冠服ナキ故ニ、容儀古ニ不レ及、然ルニ公家僧家ノ人、是ヲ好キコトト思テ、只管ニ學ブハ何ゾヤ、其心ノ鄙俗ナルコト一笑ニ餘レリ、如レ此海內ノ人ノ儀則トナル武家ナレバ、如何ニモ冠服ヲ制シテ、風俗ヲ整フベキ者也

一 凡人ノ形容ハ、畫圖ニ入ベキ者ナリ、中華ハ云フニ及バズ、日本ノ人モ、公家ノ形ハ畫テモ觀也、武家モ、鎌倉ヨリ室町ノ末迄ノ人ハ、貴賤皆畫ニカヽル、戰國以來當代ノ武士ハ、甲冑ヲ著タル體ノミ畫ニカヽル、平日上下ヲ著テ跪タル體ハ、決シテ畫圖ニ入ラズ、爵位ナキ士庶人モ、有德有名ノモノハ、眞像ヲ畫テ後世ニモノコスベキ者ナルニ、畫圖ニシテ觀ルベカラザル體ナルハ、淺マシク口惜キ事

也、然レバ國家ニ冠服ノ制ナキハ、其害多端也、願ハクハ今ニモ武家ノ冠服ヲ制セラレバ、海內ノ人ノ大慶ナルベシ

儀仗 附 鹵簿

一儀仗トイフハ、儀ハ威儀也、儀則也、儀式也、仗ハ、兵仗也、儀仗トイフハ、朝廷ヲ衛ルニ、種々ノ兵器ヲ置キ、武士諸卒列立シテ非常ヲ戒ムル也、又天子諸侯出行シ玉フニ、武士諸卒種々ノ兵器ヲ持テ扈從スルヲモ、儀仗トイフ、又是ヲ鹵簿トイフ、中華ノ儀仗ハ、歷代其制有リテ、其代ノ國史ニ見ユ、吾國ニテ公家ノ時ノ儀仗ハ、格式等ノ書ニ見ユト雖ドモ、今其制ヲ詳ニ知レル人ナシ、今ノ公家ハ、衰微ノ後ナレバ、古制ヲ失ヘルコト多カルベシ、縱古制ヲ存ストモ十分ノ一ニモ及バザルベシ、武家モ鎌倉室町ノ制ハ詳ナラズ、當代ハ戰國ノ餘習ニテ、儀仗ノ制立タズ、今ノ儀仗ハ、弓、矢、鳥銃槍、棒、偃月刀也、此中ニ弓、矢、鳥銃ハ諸門ノ衛所ニ陣スルト、遠方ノ征役旅行ニ是ヲ持タシムルトノミ也、都下ノ出行ニハ、國家ト雖ドモ、弓、矢、鳥銃ヲバ持タシメラレズ、諸侯以下ハ、槍ヲ持タシムルノミ也、偃月刀ハ、諸侯モ特賜ニ非レバ、持タシムルコトヲ得ズ、槍モ一枝ヲ持タシムルハ常也、二枝三枝ヲ持タシムルハ、皆特賜也、特賜トハ、其人其家ニ限リテ別ニ許サルヽ也、是當代ノ法制也、中華ニテハ、天子ノ儀仗ニハ旗ヲ建ツ、旗ノ類ニ種々ノ制アリテ、其名モ別也、行幸ニハ音樂ヲ路次

ニ奏ス、路次ニ奏スル樂ヲ鼓吹トイフ、公卿大夫モ、儀式ノ出行ニハ旗ヲ建テ、鼓吹ヲ用フ、朝鮮琉球ノ人ノ來聘スル時ノ儀仗、中華トハ異ナルベケレドモ、皆中華ノ餘風也、又異國ニテハ、天子諸侯ノ使者ハ、節旄トイフ物ヲ持ツ、旄牛トイフ獸ノ尾ヲ、竹ノ節ノ如クニ繫ギテ、竿ニ繫テ持ツ、路次ニテ遙ニ望見テモ、天子諸侯ノ使者トイフコトヲ知ラシムベキ爲也、使節トイフハ是也、使ヲ節使トイフモ節旄ヲ持ツ故也、異國ニテハ、ケ樣ニ事々ノ上ニ文物ヲ具スル故ニ、行路ノ間ニテ遙ニ看テモ、其人品ヲ知リテ夫々ノ禮儀ヲ行フ、輿馬ノ飾モ、天子ヨリ以下、爵位ノ品ニ隨テ階級アリ、人ノ是ヲ見テ、其人品ヲ知ルベキ爲也、此方ニハケ樣ノ文物ナキ故ニ、路次ニテ諸侯以下ノ人ノ貴賤ノ品ヲ別ツベキ樣ナシ、纔ニ槍ノ鞘ヲ見テ、誰某トイフコトヲバ識レドモ、數百千人ノ槍ノ鞘ヲ、悉ク識ルコトモ難キコト也、縱是ヲ識テモ其人ハ何ノ位ニテ、何ノ官職ゾトイフコトヲバ知ラズ、其ニ因テ其富貴ヲ人ニ知ラシメン迚、只管ニ從者ノ數ヲ多クシテ、大道ヲフサグバカリニ充滿シテ、行路ノ妨トナルヲモ不ㇾ顧、衣ヲ褰ゲ臂ヲ露シ、臂掉リ足踏シテ、螳螂ノ怒レル狀ノ如クナルヲ、美ナル事ト思フ、此國ニテモ、公家ノ世ハ勿論ナリ、武家ノ世モ、室町ノ末マデ、烏帽子直垂ヲ着タリシ時ハ、ケ樣ノコトハ有ルベシトモ思ハレズ、戰國ノ餘習トハ云ヒナガラ、國家ニ制度ト云フヿアラバ、如ㇾ此ノ風俗ハ出來ルマジキニ、制度文物ノナキヨリシテ、卑賤ノ者ノスルワザヲ、王公大夫モ是ヲ賞翫シテ、文ニモ非ズ、武ニモアラザルコトヲ好ミ樂シム、淺マシキ風俗也、若此風ヲ改テ古ニ復サントナ

ラバ、儀仗鹵簿ノ制ヲ立、文物ヲ作リ出サズシテハ、此弊風改メ難カルベシ

一　當代諸侯ノ外ニ、國家ノ大臣トイフハ、執政執事也、是異國ノ宰相參政ニアタル者ナレバ、都下ノ路次ニテモ、執政ハ執政ト見エ、執事ハ執事ト見ユル樣ニアルベキ者也、然ルニ諸侯ノ中ヨリ起テ、執政執事トナリヌレバ、却テ鹵簿ノ飾ヲ去ル、譬ヘバ今ノ武家ノ鹵簿ニ、長柄ノ雨傘ヲ持タシムルハ常也、雨傘ニ衣(フクロ)ヲ衣スルアリ、衣ヲ衣セザルアリ、衣ヲ衣スルヲ飾トシ貴シトス、諸侯ノ中ニテ、昨日迄雨傘ニ衣ヲ衣セタルガ今日執政執事ヲ命ゼラルレバ、傘ノ衣ヲ去ル、是何ノ爲ゾヤ、貴官トナリテ驕ヲ止メ、謙退ヲ示ストイハヾ、其理アル樣ナレドモ、傘ヲ持タシムルモ、傘ニ衣ヲ衣スルモ皆章服ノ類ニテ、其爵祿ニ附タル儀仗ナレバ、是ヲ以テ謙退ヲ示スベキニ非ズ、國ノ大臣ハ何ク迄モ大臣ト見ユル樣ニ有ルベキ者ナレバ、常ノ諸侯ノ傘ニハ、大抵黑色ノ衣ヲ衣スルヲ、執政執事ハ其色ヲ異ニシテ、紫緋等ノ色ヲモ用フベキ儀也、此一物ニ限ラズ、他事モ皆然也、異國ノコトハ姑置ク、我國ニテ公家ノ大臣ニハ、兵仗ノ宣旨トイフコトアリテ、大臣ハ隨身ヲ從フル禮也、隨身ハ弓矢ヲ持テ扈從スル者也、是大臣ヲ重ンジテ此儀仗ヲ賜ハル也、然レバ今ノ世ニモ、執政執事等ノ大臣ニハ、他人ノ儀仗ニナキ物ヲモ加ヘテ持タシメラルベキ者也、執政ノ外ニモ、彥根侯ノ如キハ、開國ノ元勳ニテ、今ニ至ル迄爵位モ貴キ人ナルニ、儀仗ハ却テ他ノ諸侯ヨリモ少シ、是道理ノ明カナラヌ事也

一　今ノ鹵簿ニ、挾箱トイフ器アリ、近世ノ制作ナリトイフ、其始板二片ヲ合セテ、衣服ヲ挾テ持セタ

ルヲ、不便利ナリ迚、後ニ箱トナシテ、木ニテ貫テ荷フ、今ノ挾箱也、モト俗間ニテ私ニ制シタル物ナルヲ、今ハ國家ノ鹵簿ノ列ニ入テ、金銀ヲ以テ飾リ、或ハ文彩ヲ加ヘテ、其數モ一ツヨリ三ツ四ツニ至ル、或ハ從者ノ先ニアリ、或ハ從者ノ後ニアリ、此一物ニサマ〲ノ法式アリ、武家ノ器ナルヲ、今ハ公家ノ人モ是ヲ持タシムルハ、流俗ニ化セラレタル也

一 前ニ云ル如ク、人ハ本倮蟲ナル故ニ、衣服ヲ以テ膚ヲ蓋フ、首ニハ冠幘アリ、足ニハ履アリ、身躰ハ衣服ニテ裹ム、裹マヌ處ハ、面ト手腕バカリ也、一身ノ內ニテ面ト手腕トヲ露ス外ハ、皆衣服ニテツヽム、是聖人ノ敎ニテ禮儀ノ道也、日本ノ人モ、公家ハ云フニ及バズ、武家モ前代迠、烏帽子直垂ヲ著タリシ時ハ、膚ヲ露スコトハナカリシトイフ、其時士大夫ノ間ニテ、或ハ出テ畋獵シ、或ハ騎射ヲ習ヒ、或ハ平日ノ歩行ニ袴ノ裾ヲ褰グレバ、必ズ行縢ヲ以テ足脛ヲ裹ム、是膚ヲ露スマジキ爲也、古ノ禮儀ノ遺レル溫雅ナル風也、今ノ儀仗ニハ、士大夫モ袴ノ裾ヲ高ク褰テ髀ヨリ下ヲ露シ、奴隸ノ輩ハ腰ヨリ下ヲ露ス、人身ノ中ニテ、臀ハ至テ不淨ナル處ナルヲ、是ヲ露シテ貴人ニ示ス、殊ニ舁夫ハ輿ノ前後ニアル者ニテ、前ニアル者ハ、臀ヲ輿中ノ人ノ面前ニ當ツ、輿中ノ人、輿ノ窓ヨリ是ヲ守リミテ穢ハシトモ思ハヌハ、如何ナル習俗ゾヤ、熟々思ハヾ、嘔吐スベキコト也、倭奴ノ風俗トハ云ヒナガラ、前代迠ハケ様ニハ非ザリシニ、當代ニ及デ如此ノ醜態ヲアラハス、口惜キコト也、日本ノ古ハ東夷ノ風ニテ、冠服モナカリシニ、中古以來、中華ノ禮儀ヲ學デ冠服ヲ制作シ、公家ノ裝束文

雅ナル風トナリ、武家ノ世トナリテ、冠服ノ制モ易リヌレドモ、室町ノ季迨ハ、右風モ遺リテ、在シト見ユ、今ニ及デハ、中古以來ノ冠制ノ制失セ果テ、臂ヲ露ス風トナリ、倭奴ノ本相ヲ異國ノ人ニモ視スルハ、口惜キコトノ至極也、是皆冠服ヲ廢セルヨリ起ルコト也

一 諸侯以下ノ人、都下ニテ平日ノ出行ニ、鹵簿行列、一行若ハ左右兩行ニ過ベカラザル儀也、今諸侯以下ノ行列ニ必歩士ヲ先立テ、三行ニ排列スルコト、軍旅ノ陣列ノ如クナルハ、禮法ニ違ヘリ、且行列ノ間ヲ闊クシテ、歩士以下奴隷ノ輩迨、左右ノ手ヲ展テ高ク掉リ、足ヲ擧テ地ヲ踏ミ、傍若無人ナル體ヲナス、廣キ路ニテモ人ト相軋ル、增シテ狹キ路ニテハ、行人ノ妨トナル、殊ニ大國ノ諸侯ハ數百人ノ從者ヲ連テ、前後數百歩ノ間ニ充滿スル故ニ、人々是ガ爲ニ足ヲ止テ其過ルヲマツ、サモアラザレバ、必爭鬪ノ端ヲ起シテ禍ヲ生ズルコトアリ、是皆禮儀ノ外ニシ、辭讓ノ道ヲ不レ知也、總ジテ鹵簿ニ文物ヲ制作シ、輿馬ノ飾ニ等級ヲ立テ、爵位ノ貴賤ヲ知ラスル樣ナレバ、大國ノ諸侯、富貴ノ人モ、僅ニ從者多ク具スルニ及バズ、自然ニ人ノ畏敬ヲオコス、是則禮儀ノ敎ニテ、費用ヲ省キ、儉約ニ歸スル道也

一 當代諸侯ノ士卒、衞所ニテ、君上若ハ官長貴人等ノ其所ヲ過ルヲ見テハ、士卒皆俯伏スルヲ以テ敬トス、凡衞士ハ、非常ノ變ニ備ル者ナレバ、俯伏スルコト有ルマジキ也、俯伏シテハ、變有リテモ見ツクルコトナシ、譬ヘバ禁門ヲ守ルニ、衞士ノ俯伏セベキ程ノ人其門ヲ出入センニ、萬一モ其人不軌ノ

心ヲ挟デ、出入スマジキ者ヲ從者ノ中ニ雜テ、其門ヲ出入セバ、守ル者誰何セズバ有ルベカラズ、然ルニ其時俯伏シテハ、何トシテカ其姦ヲ見附ルコト有ンヤ、是決シテ俯伏スマジキ道理也、凡異國ニテハ、立ツヲ敬トシ、日本ニテハ、坐スルヲ以テ敬トスル、是國俗ノ易リ也、昔公家ノ世ニ、吾國モ中華ノ如ク、立ツヲ以テ敬トセヨトノ詔有リシコトモアリシカドモ、其後此禮遂ニ行ハレズ、故ノ如ク坐スルヲ以テ敬トスルコト、今ニ至ル迄易ラズ、他事ハ此俗禮ニ從フベクトモ、衛士ハ立ツヲ以テ敬トシテ、何事ニモ俯伏スベカラザル者也

一　昔鎌倉ノ右大將、富士野ニ獵シ玉ヒシヲバ、其圖ヲ畫ニ書テ、イマニ至迠觀トス、其躰上モ下モ裝束アル故也、今ノ世ノ畋獵ハ畫圖ニ入ラズ、裝束ナキ故也、畋獵ノ裝束ハ、常ノ裝束ニハ異ナレドモ、夫々ノ冠服有リテ、膚ヲ露スコトハナシ、今ノ畋獵ニハ、公卿大夫モ、士卒モ、一様ニ上ニハ外套ヲ着、下ニハ褌子ヲ着ルノミ也、褌子ハ則古ノ犢鼻褌ニテ、異國ノハダヲビナレバ、是ヲ外ニ顯スハ、赤裸ナルニ同ジ義ナリ、奴隷ノ類ハカクモ有ルベキガ、士大夫以上ノ躰ニハ非ズ、是ヲ畫圖ニストモ、何ノ觀カアラン、富士野ノ獵ノ圖ニハ、奴隷ノ中ニモ、今ノ士大夫ノ如クナル躰ノ者ハ見エズ、古ヲ鑑トシテ今ヲ知ルハ、ケ様ノ事也

武備

一武備トハ、武ノ用心コヽロガケ也、備ノ字ハ、戒備ト屬テ、事ナキ時ニ、其事ノ用心ヲスル義也、備ノ字ヲバソナフルト訓ズ、事ノ來ラヌ前ニ、其心當手當ヲナシヲキ、事ニ遇テ手ヲツカヌ樣ニ、敗レヲ取ヌ樣ニ計ルヲ云フ、譬ヘバ火災ノ爲ニ、平日水ヲ蓄ルガ如キ、是ヲ備トイフ、古ノ王者ハ、文ヲ右ニシ武ヲ左ニストイフ、文武ハ車ノ兩輪ノ如シ、偏廢スベカラザル者也、偏廢トハ、一ツヲ用ヒテ一ツヲ捨ルヲ云フ、天下太平ナル時ニ、武ヲ忘レザルヲ賢智トイフ、武ノ字ハ「止戈爲レ武」ト左傳ニイヘリ、止戈ノ二字ヲ合セテ、武ノ一字ヲ作レル也、止戈ハ、干戈ヲ止ルトイフ義也、兵ヲ用テ人ト戰ヒ、人ノ軍ヲ破リ、人ノ城ヲ攻テ、人ノ土地ヲトル類ヲ武トハ云ハズ、己ガ國ノ善ク治テ、鄰敵ニ侵サレヌ樣ニ守リ、鄰國ニ暴亂アルヲバ、兵ヲ出シテ是ヲ征討シ、都テ己ガ國ノ武威ヲ四鄰ニ輝シテ、鄰敵ニ窺ハレズ、人ヲ畏レシムル樣ニ計ル、是ヲ武ノ本意トス、戰國亂世ニハ、人々武事ニ慣テ、敎ヘズ學バザレドモ、其道ヲ悟リ其法ニ達ス、旦暮ニ火急ナルコトアレドモ、變ニ應ズルコトモ敏捷也、太平久シクナリテ、海内艾安ナレバ、劒ヲ匣ニ藏メ、弓ヲ嚢ニ韜ムヲ目出度コトヽシ、上下安佚ノ念ニ住シ、酒色ニ耽リ、遊畋ヲ樂テ、イツトナク武ヲ忘ル風俗トナルコト、古來一轍也、司馬法ニ、「國雖レ大、好レ戰必亡、天下雖レ安、忘レ戰必危」トイヘル、至極ノ論也、異國ニテ三代ノ天下ハ、聖王ノ經營シ玉ヘル國家ナルニ、一世二世ノ間ニハ、一タビハ王命ニ逆ラヒ謀反スル者モアリ、邊土ニハ暴亂ノ國モ有テ、天子ヨリ將帥ヲ遣シ、軍旅ヲ出シテ征伐シ玉フコト時々ニアリ、後世ヨリ觀レバ、法令ノ

粗略ナル故ト見ユル、然ニハ非ズ、是却テ聖人ノ深キ智慮也、凡人ニハ外患内患トイフコトアリ、患ハ患難也、然ルニ内モ外モ患難ナクシテ安寧ナルハ、聖人ノミ然ル也、聖人ニ非ザルヨリ以下ハ、外患ナケレバ必内患アリ、畏ル丶所ナキ故也、外患アレバ、是ヲ畏ル丶ニ因テ、己ヲ愼ミ内ヲ治ル故ニ、内患生ゼズ、此説左傳ニ見エタリ、是ヲ譬ルニ、人ノ至テ無病ナル者ハ、養生ノ愼ナキ故ニ、大病ヲ得テ夭死スルコトアリ、少々ノ病アル者ハ、愼テ其身ヲ保護スル故ニ、却テ大病ヲ生ゼズ、命モ長キコトアルガ如シ、聖人是ヲ慮リ玉ヒテ、少ノ外患ヲ處々ニ遺シ玉ヒ、後ノ君臣ニ亂ヲ忘レズ、武備ヲ修スベキコトヲ知ラシメ玉フ也、サレバ天下ノ甚シク治リテ、大海ニ少シノ風波モナキガ如クナルハ、カヘツテ亂ノ近キト知ルベシ、然レバ國家ヲ治ムル人ハ、一日モ武備ヲ忘ルマジキ者也

一 武備ノ要ハ、卒伍ヲ定ムルニアリ、異國ノ軍法ニ、五人ヲ伍トス、十人ヲ什トス、五伍ヲ兩トイフ、兩ハ二十五人也、四兩ヲ卒トイフ、卒ハ百人也、五卒ヲ旅トイフ、旅ハ五百人也、五旅ヲ師トイフ、師ハ二千五百人也、五師ヲ軍トイフ、軍ハ一萬二千五百人也、伍什兩卒ニ皆長アリ、伍ハ今ノ世ニイフ五人與也、伍ト什ト兩トノ長ハ、今ノ世ニイフ與頭也、則同輩ノ中ニテ、年ノ長ゼル者ヲ立ル意也、卒以上ノ長ハ、今ノ世ニ者頭トイフガ如シ、尚書ニ、千夫ノ長、百夫ノ長トイフ者アル是也、旅ヨリ以上ニハ將帥アリ、古ハ「寓㆓兵於農㆒」トイヒテ、農ト兵トヲ二ツニ分ケズ、兵ハ農ヨリ出ル故ニ、卒伍ヲ立ルコト鄰伍ト同法也、鄰伍ノ法ハ、前ノ食貨ノ篇ニ見エタリ、卒伍ハ、軍陣ニ差カ丶リテ、

伍ニ組立ル事ニハアラズ、平日ニ定置ク事也、井田ノ法ニ、五家ヲ鄰トスルハ、東西南北ノ家ニ中央ノ家ヲ加テ、五家ト數フル也、然レドモ必東西南北ト中央トニ定マレルニ非ズ、士民ノ家ハ、縱ニ並ビ、横ニ並ビ、一樣ナラズ、只家數五ツヲ合セテ、是ヲ組デ鄰伍トスル也、鄰伍ハ生ルヽヨリ死スルマデ、一處ニ在テ平日親ク相語リ、晝夜トナク互ニ往來シ、飮食聚會シテ相狎ルヽコト、遠ク隔レル親戚ヨリモ睦キ者也、此鄰伍ヨリ軍伍ヲ出ス故ニ、軍中ニテモ相離ルヽコトナシ、背ヨリ其姿ヲ見テモ、誰某トイフコトヲ識リ、若ハ暗夜ニ聲ヲ聞テモ其人ヲ識ル、戰ニ臨デモ、危キ處ヲバ互ニ相救テ、五人ノ中ニテ敗レヲ取ラヌ樣ニ相助クルハ、平生ノ親ミアルニ因テ、外ニ看難キ心ノ生ズルモ人情也、若五人ノ中ニテ、一人戰死スルヲ見テ救ハザレバ、四人皆斬刑ニ處ス、一人敵ニ降スレバ、四人皆同罪也、ケ樣ニ定ムル上ハ。五人ノ中ニ一人モ不勇不忠ナル者アレバ、五人皆其罪ヲ被ル故ニ、タガヒニ勉勵シテ、敗レヲ取ラヌ樣ニ心ニ挂クル也、サレバ管仲ガ齊國ヲ治メシニハ、卒伍ヲ定テ平日一處ニ在ラシメタリ、行列ヲ立ルニモ、什伍ノ中ニテ。立チ處ヲ平日ニ定置キ、某ガ前、某ガ後、某ガ左、某ガ右ニ立ツベシトイフヿヲ知ラシメテ、一行ノ時ハケ樣、二行ノ時ハケ樣、三行ニハケ樣雁行ニハケ樣、魚鱗ニハケ樣、鶴翼ニハケ樣トイフコトヲ一々ニ敎テ、扨事ニ臨デハ、一タビ旗ノ動クヲ見テモ、或ハ鼓ノ聲ヲ聞テモ、約束ノ如クニバラバラト列ヲナシ、一言ヲモ出サズシテ、將帥ノ指麾ニ從フ、是ヲ訓練セル士卒トイフ、如レ此ナラザレバ、法戰ハ成リ難シ、凡兵ハ、五百三百ノ小

衆ニテモ、法ニテ使ハザレバ、使ハレズ、況ヤ數萬ノ大衆ナドヲ使フニ於テヲヤ、異國ノ軍ハ法ヲ專トス、若シ行伍ノ中ニテモ、法ヲ犯シテ列ヲ亂ル者アレバ、刑ニ處スル故ニ、士卒皆愼デ法ヲ守ラズトイフコトナシ、然ルニ此法ノ本ハ什伍也、能々什伍ノ法ヲ堅クセザレバ、軍ヲ行ルコト能ハズ、今吾國ニハ、士ニ伍法ナシ、卒徒ニハ伍アレドモ、五人ヲ一ツニ組タルノミニテ、行伍ノ法ヲ平日ニ定置カズ、行列ヲ立ルコトアレバ、事ニ臨デ有司俄ニ其次第ヲ行テ、某ガ次ニ某トイフコトヲ指テ、一人ヅツ繰出ス、其體甚勞煩也、常ノ小事ハ、是ニテモ辨ズベキガ、大衆ヲ動カスコト能ハズ、況ヤ軍陣ニ臨デ、ナニヲ以テカ能ク擾亂ナカランヤ、是伍法ナキ故也、然レバ武備ノ要ハ、卒伍ニアリト知ルベシ、卒徒トイフ卒ハ、今ノ足輕也、徒ハ中間ナリ

一 武備ノ務ハ、士卒ヲ訓練スルヨリ先ナルハナシ、既ニ卒伍ヲ立テノ上ニ、平日ニ士卒ヲ訓練スル、是古來ノ大法也、訓ハ教訓也、オシフル也、練ハ練熟也、ネル也、士卒ヲ訓練ストイフハ、一ツニハ行列ヲ習ハシ、二ツニハ座作進退ヲ習ハス也、行列ヲ習ハストハ、上ノ段ニ云ヘル如ク、伍法ヲ立テ、行列ノ前後左右ヲ知ラシメ、士モ卒モ、一人一人ニ、己々ガ立處ヲ能ク心得テ、晝ハ旗ノ手ヲ見、夜ハ鼓ノ聲ヲ聞テ、將帥ノ指麾ニ從テ、行列ヲ縱ニモ横ニモ、圓ニモ闊方ニモ、狹クモ大クモ、小クモ、長ニモ、短クニモ、直グニモ、斜ニモ、宜キニ隨テ立ルコト、兼テ定タル約束ノ如ク、一言ヲモ出サズシテ、一身ノ手足ヲ使フガ如ク、自由自在ナル樣ヲ習ハス也、坐作進退ヲ習ハストハ、坐ハ

地ニ跪ツ也、作ハ起ツ也、進ハ前ム也、退ハ却ク也、進退ハ此方ノ俗ニイフカケヒキ也、戰ノ道ハ、坐作進退ニアリ、是モ旗ノ手ト鼓ノ聲トニ應ジテ、一隊ノ人衆一同ニ拍子ヲ齊テ、或ハ坐シ或ハ作チ、或ハ進ミ或ハ退クヿ、一人ノ身ノ動カス如ク、自由自在ナル樣ヲ習ハス也、是等ノ訓練ハ、將帥ノ人其麾下ノ士卒ヲ率テ、平原曠野ニ出テ、幾度モ教訓シ習慣スルニ非レバ、練熟ニ至リ難シ、凡戰ハ如何ナル無双ノ勇士アリテモ、一人ニテ敵ニ勝ツヿハ能ハズ、數百千萬人ノ衆力ヲ一ツニ合セテ、平日訓練シタル所ヲ以テ行伍ヲ亂ラズ、進退ノ度ヲ失ハズ、總懸リニカヽレバ、過當ノ敵ニモ勝ツコトヲ得ル也、サレバ劒術ノ類ヲバ、一人ノ敵也、學ブニ足ラズト楚ノ項羽ハ云ヘリ、將帥ノ道ハ、萬人ノ敵也、萬人ニ敵スルハ、萬人ヲ使フコトヲ知ラザレバ叶ハズ、項羽ハ是ヲ學ビシ故ニ、天下ノ覇王トナレリ、今太平ノ世ニ武備ヲ修スルモ、一人ノ敵ヲバ略シテ、萬人ノ敵ヲ習ハスベキ也、中華ニテ先王ノ四時ニ畋獵シ玉ヒシハ、民ノ爲ニ禽獸ノ田ヲ害スル者ヲ除ントテ、農業ノ隙ヲ視テ出玉フトイヘドモ、禽獸ヲ取ルヲ主トスルニハ非ズ、是ニ託テ武ヲ講ズル也、講ハ講習ニテ、習ハス義ナリ、ケ樣ノ次ニアラザレバ、大軍ヲ郊野ニ出シテ、行列進退ヲ習ハシ、士卒ノ勇怯ヲ試ルコト成リ難キ故也、蒐トイフコトアルモ、人衆ヲ集メテ軍陣ノ習ハシヲセントノコト也、漢ヨリ以後ハ、武職ニ將軍トイフ官アリ、今吾朝ノ大番書院番ナドノ番頭ノ如クナル者也、此將軍ハ、麾下ノ士卒ヲ訓練スルコト平日ニ怠慢ナシ、凡士卒ヲ訓練スルニハ、平日モ甲冑ヲ著テ、夫々ノ兵器ヲ持チ、旗ヲ建鼓ヲ

鳴スコト、戰ニ出ルト異ナルコトナシ、凡將軍ニ屬スル者ハ、人モ馬モ常ニ戰陣ノ心ニナリテ、兵事ヲ忘ルヽコトナシ、人ハ甲冑ヲ著ルコト、常ノ衣服ヲ著ル如クニ思ヒ、馬ハ甲士ヲ視ルコト、衣冠ノ人ノ如シ、サレバ萬一ニ不虞ノ變アリテモ、周章スルコトモナク、其事ニ應ズルコト速也、是皆先王ノ講武ノ遺法也、日本ノ俗人、吾國ハ武國ニテ、武ヲ專ニ修練スト思ヒ、異國ハ文國ニテ、文ヲ專トスル故ニ、武道甚粗略ニシテ、兵モ弱カルベシト思フハ、愚昧ノ至リ也、日本ハ文武ヲ分ケズ、士トイフ者ハ、皆武士ナレドモ、講武ノ道粗略也、異國ハ文武ヲ分テ、文士ハ文學ヲ專ニ治メ、武士ハ武道ヲ專ニ治ムル故ニ、異國ノ武士ノ武事ニ慣タル躰ハ、日本ノ武士ノ及ブ處ニ非ズ、講武ヲ務トスルニ由テ也、豐臣氏ノ時、日本ヨリ朝鮮ヲ伐シニ、加藤清正、小西行長等、數萬ノ兵ニ將トシテ彼國ニ渡リ、平壤迄攻入リヌ、朝鮮既ニ危カリシ程ニ、使ヲ明ニ遣シテ救ヲ請フ、明ノ代ハ、此時萬曆年中、太平ノ時ニテ、天下文明ノ世ナレバ、邊塞境ノ戍ヲ遣ス外ニハ、兵革ノヿアラズ、朝鮮ノ難ヲ聞テ、北邊ノ戍卒ノ代リテ選ル者ヲ差シテ、遂ニ往テ朝鮮ヲ救ハシム、日本ノ兵ハ、將帥モ士卒モ、亂世ニ生長シテ、智謀モ勇猛モ、勝レテ虎ノ如ク熊ノ如クナル人共也、然ルニ明ノ戍卒ノ來救フ者ト戰テ、大ニ敗軍セリ、是近證也、是ニテ中華ノ人ノ常ニ武備ヲ修シ、士卒ノ訓練スルコトヲ知ルベシ、今吾國ニテモ、武備ヲ修スルコトハ、上ヨリ法令ヲ立置レテ、忽諸スルコトハナケレドモ、畢竟文具トイフ者ニテ其實ナシ、士卒ノ武藝ヲ督責セラルヽモ、只一人ノ敵ヲ學ブモノヲ督責スルノミニテ、兵法ヲ

知リ、將略ニ達セル者ヲ擧用ヒ玉フコトナク、將帥ノ任ニ當ル人ハ、皆世祿ノ貴介公子ニテ、一隊ノ人衆ヲ指麾スル道ヲ不ㇾ知、有司ノ試ムル處モ、只弓馬鳥銃ノ藝ノミニテ、士卒ヲ訓練スル事ハ、東テ高閣ニアリ、卿大夫ノ中ニ建議スル人モナシ、是大ナル闕典也、凡今ノ大番頭、書院番頭ノ如キハ、異國ノ將軍官也、五十人ノ衛士ハ、異國ノ羽林郎ナリ、騎郎ナリ、與力ハ吏士也、同心ハ、歩卒也、是ヲ率ル者ヲ將軍ト云フ、其爵五品以上也、將軍ニ副テ其事ヲ佐ル者ヲ、裨將トイフ、又校尉トイフ、六品以下也、今ノ與頭是ニ當ル、異國ノ將軍ハ、上ニ云ル如ク、麾下ノ士卒ヲ率テ郊外ニ出テ、行列ヲ習ハシ、進退ヲ習ハスコト、平日ニ怠慢ナシ、若是ヲ怠慢シテ粗略ナルコトアレバ、罪ヲ得ル故ニ、人々心ヲ用テ、其務ヲ忘ルヽ事ナシ、是異國ト此方ト、武備ノ不同也

一 異國ノ武備ニハ、「選二車徒一、閱二軍實一」トイフコトアリ、畋獵ニ託テ行フコトナリ、則上ニ云ル蒐也、車徒ヲ選ブトハ、車ハ兵車也、徒ハ卒徒也、古代ハ車戰ナリシ故ニ、軍事ニハ車ヲ重ンズ、蒐ノ時ニハ、車ニ乘ルベキ者ハ車ニ乘リ、歩卒ハ徒歩ニテ郊原ニ出ルヲ、將帥タル者是ヲ見テ、車馬兵器ノ善惡、卒徒ノ足ダチノ健ナルカ、健ナラザルカヲ委ク點檢スル也、軍實ヲ閱スルトイフハ、軍事ニ用フル牛馬器械等ヲ悉出サシメテ、法ノ如ク具足全備セルカ、否ルカトイフコトヲ點檢スル也、凡武備ハ、國家ノ急務ナレバ、武人タル者ハ、常ニ其用意アルベキ事ナレドモ、治マレル世ニ、久シク軍事ナケレバ、武器ノ闕タルヲモ不ㇾ補、壞タルヲモ繕ハズ、軍役ノ定マリタル人馬ノ數ヲモ減ジテ、何

事ゾ有ラバ、急ニ支度セント思テ、當前ノ家事ヲ營ミ、遊宴ヲ樂デ日ヲ暮ス、是常人ノ習也、古ノ人是ヲ慮テ、其失ヲ防ントテ、蒐トイフコトヲナシテ、今云フ如クノ怠ナキ樣ニ計レル也、是又武備ノ肝要也、日本ノ今ノ世ハ、百年ノ太平ニテ、軍事ヲ忘レ、奢靡ノ風俗ナル故ニ、祿俸アル武士モ貧窮ニナリテ、甲冑ヲ典當シ、他ノ武器ヲバ、無用ナリトテ、斥賣スル類ノ者多シ、小キ武士ハ云フニ不レ及、一郡半郡ヲ領スルホドノ諸侯モ、軍役ノ士卒ヲ畜ハズ。馬ノ數ヲモ減ジテ、軍用ヲ粗略ニスルコト、世上皆然也、聖人君子ハ、治マレル世ニ亂ルヽコトヲ忘レズ、武備ヲ修メ國ヲ衛ル、何ゾ是ヲ忽ニセンヤ、然レバ今ノ世ニモ、古ノ車徒ヲ選ビ、軍實ヲ閱スル法ヲ用テ、一歲ノ內ニ、幾度モ不時ニ令ヲ出シテ、諸侯以下士大夫迄ノ兵馬ノ多少ト、器械ノ有無トヲ點檢シテ、賞罰ヲ其間ニ行ハレバ、士大夫以上ノ人オノヅカラ奢靡ヲ止テ、軍用ヲ心ニ懸ル樣ニ成ルベシ、又今ノ武士ハ、一生ニ一度モ甲冑ヲ著ルコトナキ故ニ、甲冑ヲ著ルスベヲモ不レ知、甲冑ヲキテハ、身ヲ如何樣ニ動スモノトイフコトヲモ不レ知、常ノ衣服裝束モ、著馴ヌ物ヲ著テハ、身ノ擧動不便利也、況ヤ甲冑ハ重ク堅キ物ナレバ、平日ニ著馴ズシテハ、急變ノ時ニ、必大ニ不便利成ルベシ、又馬ハ物ニ駭キ易キ物ニテ、少モ常ニ替タル物ヲ見、或ハ物ノ音ノ喧キヲ聞テハ必駭キ、或ハノセズマヒスル物也、然レバ馬ニモ甲冑ノ體ヲ見習ハセ、螺鼓鳥銃ノ音ヲモ聞習ハスベキ也、異國ノ武士ハ、平日ニ甲冑ヲキテ戰ヲ習フ故ニ、甲冑ヲバ常ノ衣服ノ如クニ思フ也、サレバ今ノ世ニモ、武備ヲ修セラレンニハ、必甲冑ヲ著テ軍事ヲ習ハ

シムベキ也、是則古ノ講武ノ遺意也

一　昔先王ノ世ニハ、「寓ニ兵於農ニ」トイヒテ、兵ヲバ農ヨリ出セリ、漢ノ代ニ、趙充國ガ屯田トイフ法ハ、邊塞ヲ戍ル番手ノ卒ニ、常ハ耕作ヲナサシメ、事アル時ハ兵ハ兵トナシテ用ルヲ、屯田トイフ、是充國ガ創タル法ニテ、國家ニ便利ナルコトナル故ニ、後世モ多クハ此法ヲ用ル也、當代ノ八王子ノ千人衆ノ如キハ、屯田ニ似タル者也、唐ノ代ヨリ、農ト兵トヲ分ツコト始リテ、後世是ニ倣ヘリ、明ノ代ニハ、天下ノ民ヲ二ツニ分テ、農ヲ業トスル者ヲ民ト稱シ、兵ヲ業トスル者ヲ軍ト稱ス、民ヨリ軍ニ入ルコトモ叶ハズ、軍ヨリ民ニ移ルコトモ叶ハズ、天下ノ人ノ種ヲ二ツニ分タルモノ也、是明一代ノ制ニテ、前代ニナキコト也、總ジテ國家ハ兵賦ヲ以テ其品ヲ立ル、是聖人ノ法也、兵賦トイフハ、軍役也、田地ノ數ニ隨テ兵馬ヲ出スヲ賦トイフ、周ノ代ノ法ニ、天子ノ國ヲ萬乘ノ國トイヒ、諸侯ノ國ヲ千乘ノ國トイヒ、大夫ノ家ヲ百乘ノ家トイフハ、車一輛ヲ乘トイフニ因テ、千乘萬乘トイフハ、土地ヨリ車ノ出ル數ニ因テ名付タル也、征伐ノコトアリテ、軍ヲ出スニ及デハ、天子ハ六軍、諸侯ハ三軍トイフハ、兵一乘ニ甲士三人、歩卒七十二人、輜重ヲ從ル者二十五人、合セテ百人ニ、馬四匹ハ車ヲ輓キ、牛十二頭ハ輜重ヲ輓ク、輜重ハ、此方ノ小荷駄也、扨一軍トイフハ、萬二千五百人也、一乘ノ人數百人ノ內、二十五人ハ小荷駄ニ付ク者ニテ、戰ニハ預ラザル故ニ、是ヲ除テ、甲士三人、歩卒七十二人、都合七十五人ハ、一乘ノ士卒也、然レバ百乘ニハ士卒七千五百人也、千乘ニハ七萬五千人ナリ、

萬乘ニハ七十五萬人ナリ、七十五萬人ハ六十軍也、七萬五千人ハ六軍也、天子ノ畿內千里ノ地ヨリ、六十軍ノ人衆ヲ出スハ、天子ノ兵賦也、征伐ノコトニ六軍ヲ出スハ、十分ノ一也、諸侯ノ國百里ノ地ヨリ、六軍ノ人衆ヲ出スハ、諸侯ノ兵賦也、此內ヨリ三軍ヲ出スハ、半分也、其半分ハ國ニ留リテ、國ヲ守ル故ニ、征伐ノコトニ出ス處ハ、三軍ニ限ル也、論語ニ、「齊景公有二馬千駟一」トイヘルハ、則千乘ノ馬也、四匹ヲ駟ト云ヘバ、千駟ハ四千匹也、夥シキ馬ノ數也、齊ハ大國ナレバ、サモ有ルベシト思ハルヽニ、魯ハ小國ナレドモ、昭公ノ時、紅トイフ處ニテ蒐シケルニ、革車千乘ヲ出セシコト左傳ニ見エタリ、論語ハ聖經也、左傳ハ實錄也、何レモ詐アルベカラズ、日本ニテ如何ナル大國ノ諸侯モ、四千匹ノ馬ヲ出スコトハ難カルベシ、是ニテ異國ノ兵馬ノ多キコトヲ知ルベシ、人モ馬モ年々ニ多クナルハ、天地ノ常理也、二千年ノ古サヘ既ニ然ナレバ、今ノ世ハ彌多カルベシト知ルベシ、日本ハ昔ヨリ唐ノ風ニ倣テ、農兵ヲ分ル法ナレドモ、古ノ武士トイフハ、當代ノ武士ノ如クニハ非ズ、常ニ田舍ニ住デ農業ヲ務メ、今ノ世ノ有得ナル百姓ノ如シ、鎌倉ノ三浦畠山等ノ輩ヲ、今ノ世ノ諸侯如クナラント思フハ非也、其世ニ是ヲ大名ト稱セシハ、在所ニ名田ト云コト有テ、名田ヲ持タル者ノ中ニテ、家富ミ僮僕ヲ多ク畜ッ者ヲ大名ト稱セシナリ、今ノ世ニ國郡ヲ領スル諸侯ヲ大名トイフハ、俗ノ誤也、鎌倉ノ末ニ及ビ、元亨建武ノ間ニ、武家ト稱セシ新田、足利ナドノ一族モ、皆彼大名ノ類也、サレバ其世ニハ、百姓トイフ者皆武ヲ務メシ故ニ、軍ノ出ルニ及デ、兵數甚多カリシナリ、近世戰トナ

リテヨリ當代ニ至テ、武家ハ武家、農人ハ農人ト分レテ、農人ハ一向ニ軍賦ニ入ラズ、僅ニ只人夫ヲ出スノミナル故ニ、今ノ世ニハ兵ノ出ル數甚少シ、其子細ハ、今ノ武士百石ヨリ五六百石迄ノ祿ヲ受ル者ハ、甲乙ナク、只一人一匹ノ馬ニ騎リ、鎗一ヲ持テ出ルノミ也、縱一二人ノ若黨トイフ者ヲ具スル迚モ、是ヲ行伍ニ入レザレバ、只雜兵ニ列スルノミ也、千石許ノ祿ヲ給ハル者モ。僅ニ騎馬ノ士ヲ一人モ具セバ、善キ士ナルベシ、此數ヲ以テ數フレバ、當時ノ武家ノ祿ニテ、出ス所ノ人衆ノ多少悉知ラルヽ也、今ノ風ニテハ、昔ノ如クノ人衆ハ、決シテ出デザルヿト知ルベシ、若昔ノ如ク人衆ヲ出サントナラバ、百姓ヨリ取ルベシ、試ニ今ノ世ノ田祿ノ制ヲ以テ、兵賦ノ出ベキ數ヲ計ルニ、東國西國、田地ノ肥瘠ニ因テ、農夫ノ人馬ヲ畜フ所、其多少同カラ子ドモ、大抵薄田ノ處ニテ言ヘバ、田一町ヨリ米十石ヲ收ム、此内四石ヲ十苞トナシ年貢ニ納ル、餘六石ハ農夫ノ所得也、是ヲ高十石ノ百姓トイフ、十石ノ百姓ハ、牛一頭カ、馬一匹ヲ畜フ、東國ニテハ馬ヲ畜ヒ、西國ニテハ牛ヲ畜フ、三四十石ノ百姓ハ、家僕三四人ヲ畜フ、五十石程ノ百姓ハ、甲冑ヲ著テ馬ニ騎リ、槍ヲ持テ出ルコト難カラズ、百石以上ニ至テハ、家僕ノ中ニ、又甲冑ヲ著テ行列ニ入リ、軍事ニ從フベキ程ノ者一二人モアリ、然レバ地方百石ノ祿ヲ受ル士ハ、己ガ下ニ二騎ノ兵ヲ具スベシ、其身ヲ加テ三騎ナリ、如レ此ナレバ百石ノ祿ニテ、騎兵三人出ベシ、五百石ニテ十五人、千石ニテ三十人、萬石ニテ三百人也、薄田ノ處ヨリ出ス處如レ此、若沃土ナレバ、此數ニ止ラズ、二十石卅石ノ百姓モ、一騎ノ役ヲ受ベシ、又豪富ノ民ハ、

一家ヨリ十騎二十騎ヲモ出スベキ者アリ、サレバ古法ノ如ク兵ヲ農ヨリ出サバ、今ノ世ニモ兵ノ出ルコト、國家ノ定ノ軍役ニ幾十倍ナラントイフコトヲ知ラズ、今此法ヲ制セズシテ、農ヨリ兵ヲ出サシメズ、兵トイフハ常ノ武士ナル故ニ、百石ニテモ騎士一人、三百石ニテモ騎士一人、五百石ニテモ騎士一人也、如レ此ナレバ厚祿ノ士迚モ、軍役ニハ何ノ益モナシ、タヾ若黨中間抔ヲ多ク具スル迄也、殊ニ當代ノ軍法ニハ、若黨中間ノ輩ヲバ、行伍ニ入レズ、雜兵ト名ヅケテ後ニ立ルノミナレバ、畢竟軍ノ用ニ立タズ、是ヲ多クスルコト無益也、凡兵賦ハ、異國ノ法ハ姑置テ、日本ノ古風ヲ尋ルニ、今ノ世ノ如クニハ非ズ、天地生々ノ理ニテ、人モ馬モ昔ヨリ多クナルベキニ、兵ノ數ハ昔ヨリ減ズルコト、恠ムベキニ似テ、實ハ謂レアルコト也、武備ヲ修センニハ、是ヲ考ヘズバ有ルベカラズ

一　異國ハ三代以前ハ車戰也、秦漢以後ハ騎戰ニテ、今ニ至ル迄替ラズ、日本ハ古來騎戰ナリシニ、近代ニ及デ、騎戰止テ歩戰ニナリヌ、車戰モ馬ナリ、騎戰モ馬也、軍事ニハ馬ヲ主トスル故ニ、兵ヲ主ドル官ヲ司馬トイフ也、車戰ハ其法絶テ傳ハラズ、後世ノ戰ハ、騎戰ニ勝ルヿナシ、日本ニテ近代騎戰廢レテハ、馬ハ只道中ノ用ノミ也、古ヨリ弓馬ト稱シテ、馬ヲ以テ弓ト並ルハ、戰ノ用タルコト重キ故也　然ルヲ近世ノ戰ニ、馬ヲ用ヒザルハ、兵法ノ本意ヲ失ヘル也、今ヨリ以後、武備ニ志有ン人、若騎戰ノ法ヲ考ヘ、平日ニ士卒ヲ訓練シ、人ヲモ馬ヲモ能ク習ハシテ、戰ヒニ臨ン日ニ、敵人皆歩兵ニテ列ヲナサン時、五十騎、若ハ百騎許リモ、槍ヲ持チ、馬ノ首ヲ齊ヘテ馳入ラバ、縱一倍程ノ敵ナ

リトモ、一時ニ破ルベシ、馬ノ馳ル勢ニハ、歩兵一倍ニテモ抗リ難カルミキハ、道理ノ必然也、然レバ向後ノ武備ハ、歩戰ヲ略シテ、騎戰ヲ習ハスニシクコト無カルベシ

一　騎馬ノ法モ、養馬ノ法モ、治平ノ日ト、陣ニ臨ム時ト、二ツノ道アリテ不レ同、今ノ世ニハ、馬ニ騎ルモ、馬ヲ養フモ、皆治平ノ日ノ用ニ立テ、觀ノ美ヲ務ルノミ也、若騎戰ヲナサントナラバ、今ノ養法騎法ニテハ、馬モ人モ用ニ立マジキ也

一　日本ノ武士ノ風、上代ハ如何アリケン考ヘ難シ、中古以來ハ、武士タル者ハ皆農夫也、今ノ世ノ鄉士トイフ者ノ如シ、常ニ鄉里ニ住デ農ヲ業トシ、富ル者ハ弓馬武藝ヲ心ガケ、山野ニ遊デハ禽獸ヲ逐ヒ、川澤ニ入テハ魚鼈ヲ捕リ、或ハ馬ヲ馳セ、或ハ水ヲ游ギ、險阻ヲ涉リ、勞苦ニ慣テ、筋骨モ固ク、行步モ壯健也、貧キ者ハ、平日身ヲ耕作ニ苦メ、寒暑ヲ冒テ勤勞スル故ニ、如何ナル艱難ヲモ能ク忍ブ、是世ノ風也、凡武士ハ本賤キ業也、サレバ手足胼胝シ、肌膚皸裂シテモ筋骨強ク、行履健ナルヲ上トス、今ノ世ノ武士皆世祿ニテ、都下ニ聚リ居テ、數代ヲ歷ル故ニ、イツトナク武士ノ本ヲ忘レ、心モ身モ風儀モ、公家上﨟ノ如クニナリテ、武事ノ用ニ立ベシト見ユル者ハ、數十人ノ中ニ一人也、是只治平ノ久シキ故ノミニ非ズ、都下ニ住ナル故也、或人ノ語ルヲ聞クニ、薩摩ノ國內ニ、外城トイフ者四十八所アリテ、一城ニ武夫ノ數、少キハ二三百、多キハ七八百アリ、是ヲ均クシテ、一城ニ五百許也、四十八所ヲ通計スレバ、二萬餘ノ武士アリ、皆鄉士ニテ、常ニハ農ヲ業トストイフ、又土佐

ノ國ニハ、長曾我部ガ餘類二百人、皆鄕士ニテ今ニアリ、俗是ヲ一領具足トイフ、ケ樣ノ類コソ、古ノ武士ノ餘風ナルベケレ、當代ニハ八王子ノ千人衆バカリ、常ニ田舍ニ住デ農ヲ事トシ、軍役ノ時ハ、長槍ヲ荷テ出ルナレバ、古ノ兵ヲ農ニ寓スル法ニ似タリ、千人衆ハ僅ノ歲俸ヲ給ハレドモ、田舍ニ住デ耕作ヲ事トスル故ニ、生産匱カラズ、父母妻子ヲモ優ニ養フ、都下ニ住ム同心中間ノ類ハ、歲俸ノ外ニ、何ニテモ産業ナク、且繁華ノ地ニ居テ、衣食奉養奢侈ヲナシ、四肢ヲ惰テ安逸ヲ常トスル故ニ、貧窮ヲ苦ミテ、父母妻子ヲモ養ヒカヌル者甚多シ、此類ノ輩ハ、手足モ軟ニ、勞苦ニモ堪ズ、武夫ノ本意ヲ失テ、軍事ノ用ニ立ベシト思ハレズ、然レバ今ノ世ニ國家ヲ經營シ、武ヲ以テ守ントナラバ、旗本ノ諸士以下ヲ、悉廿里ノ內ノ田舍ニ居住セシメ、衞士衞卒ヲバ、一歲ニ三旬五旬ナドノ日數ヲ定テ、東都ニ在番セシメ其餘暇ニハ、在所ニテ農業ヲ務メ、弓馬武藝ヲ習ヒ、射獵釣漁ニ遊樂シ、鄕士ノ風ヲ學バヾ、三五年ノ內ニハ、筋骨モ固マリ、行履モ健ニナリ、公家ノ如ク婦女ノ如クナル風儀失セテ、眞ノ武士ト成ベシ、左モアラバ縱武ヲ習フコト粗略ナリトモ、今ノ武藝ヲ諳シタル士ヨリモ勝ル處有ルベシ、是武道ヲ古ニ復ス術也、又今ノ武夫ノ貧窮ヲ救フ道モ、是ニ過ルコトアルベカラズ

一 百工ハ國ノ寶也、古ヨリ國家ヲ經營スル人ハ、百工ヲ招來スヲ務トス、武備ノ爲ニハ、百工ノ軍器ヲ作ル者ヲ數多畜フベキ也、兵革ノコト起レルトキハ、隣國ノ通路モ絕エ、百工ヲ招クコトモ自由ナラズ、其時ニ攻戰ノ器械ヲ修理シ、城郭ヲ築キ、舟車ヲ作リ、甲冑ヲ繕ヒ、兵刃ヲ礪グ類ノコト、常ノ人ノ能ハ

ザル所、夫々ノ工人ナクテハ不レ叶、常ニ其國ニ畜置クニアラズシテハ、軍用辨ジ難カルベシ、是亦武備ノ一事也、今ノ諸侯ニモ、能ク百工ヲ集テ、常ニ畜置ク國アリト聞ケリ、何ノ國モ然有ルベキモノ也

一　前ノ官職ノ篇ニ云ヘル如ク、百官ノ事ハ、專ナラザレバ治ラズ、中ニモ武事ハ、一ツニ統ル所ナクテハ、法令立難キコト必定也、百官ノ職事ヲ細カニ分ルコトハ姑置テ、文武ノ職ヲバ正ク分ツベキ儀也、當代ノ諸役ニテ云ヘバ、大番頭以下、弓鳥銃ノ頭、諸ノ軍器ヲ掌ル者ノ類ハ、皆武職也、此等ノ諸役ヲ一ツニ統テ、執政ノ中ニテ一人是ヲ領シ、執事ノ中ニテ一人是ヲ佐ケ、凡武備軍用ニ係ル政ヲバ、此二人ニテ掌ラバ、是則古ノ大司馬小司馬也、如レ是ナラバ、法令一致シテ武備モ修マルベシ、扨此司馬ノ職ヲ命ゼラレンニハ、必兵法ヲ學習シ、將略アリテ武ヲ好ム人ヲ用ヒ玉フベシ、諸侯ノ國ニテモ、大夫ノ中ニ、武事ヲ主ドル者ヲ一人定テ、專ニ武職ヲ務シメ、凡武事ニ係ル役ノ者ヲ、悉其支配ニ附ケ、他事ニ預ラズ一國ノ武事ノミヲ掌ラシメバ、武備修マリ軍用辨ズベシ、今ノ如ニテハ、吾國ノ武備全シトハ云ヒ難シ、子貢政ヲ問シニ、孔子答テ、「足レ食足レ兵」ト曰ヘリ、國ハ武ヲ以テ守ル者ナレバ、兵ニ不足ナキ樣ニ治ルハ、政ノ肝要ナルコト勿論也、然レドモ食無クテハ兵モ畜ラレズ、是食ハ兵ノ本也、サレバ食貨ノ政ヲ修シテ國ヲ富スコト、武備ノ先務ニテ、經濟ノ一大事也

經濟錄卷第七　終

經濟錄卷第八

法令

一　法令トハ、國ノ法度號令也、法度トハ、萬事ニ定法ヲ立置ク也、今ノ世ニ掟トイフコトアル是也、號令トハ、何ニテモ事アル時、此事ハ如レ此セヨトイフコトヲ命令スル也、此內ニ又二ツアリ、令ト禁ト也、令ハ號令命令ニテ、其ノ事ハ如レ此セヨト令スル也、禁ハ禁止禁制ニテ、某ノ事ハナスベカラズト禁ズル也、令ハ其事ノ滯ナク行ハルヽヲ美メ、禁ハ其事ノ速ニ止ムヲ美ム、是ヲ令行禁止トイフ、凡法令ハ信ヲ以テ本トス、信トハ、民ヲ欺カザルヲ云フ、欺クトハダマス也、一タビ法ヲ立テ、一タビ令ヲ出シテ、イツマデモ變改セザルヲ信トイフ、法令ニ信アレバ、下民モ亦是ヲ信ジテ敢テ犯サズ、天下是ヨリ治マルナリ、法令數改マレバ、民其法ヲ信ゼズ、令下レドモ從ハズ、民ノ心ニ、此法モ亦幾程モナクシテ替ルベシト思テ、舊來ノ法ニ因循シテ、新令ヲ受守ル意ナシ、上ヨリ下ヲ欺ケバ、下モ亦上ヲ欺ク、上下相欺ケバ法立タズ、令スレドモ行ハレズ、禁ズレドモ止マズ、如レ斯ナレバ、國家治マラズ、今ノ世ノ鄙キ諺ニ、三日法度トイフコト有ルハ、法令ニ信ナクシテ、犯シ易キコトヲ言フ

也、サテ法令ニ眞ヲ立ル術ハ、賞罰也、某ノ事ヲバケ様ニスベシ、ケ様ニセン者ヲバ、賞セントイフ令ヲ出シテ、若能ク其令ニ從フ者アラバ、時ヲ過サズシテ賞ヲ行フベシ、又某ノ事ヲバケ様ニスベカラズ、ケ様ニセン者ヲバ罰セントイフ禁ヲ立テ、若敢テ其禁ヲ犯ス者アラバ、日ヲ延ズシテ罰ヲ行フベシ、賞スベキヲバ賞シ、罰スベキヲバ罰シ、賞モ罰モ約ヲ違ヘザル、是ヲ信賞必罰トイフ、昔秦ノ孝公ノ時ニ、商君政ヲ行シ初ニ、長サ三丈ノ木ヲ都ノ市ノ南門ニ立テ、若此木ヲ北門ニ徙ス者アラバ、十金ヲ與ントイフ令ヲ出セシニ、民其心ヲ知ラズ、怪ミテ敢テ徙ス者ナカリシカバ、重テ令ヲ出シテ、能ク徙サン者ニハ、五十金ヲ與ント徇セリ、時ニ民間ニ一人アリテ、何事トハ知ラネドモ、五十金ヲ取ルベキニ心メデヽ、彼木ヲ北門ニ徙セリ、商君則チ約ノ如ク五十金ヲ與テ、初ノ令ノ詐ナキコトヲ知ラシム、是ヨリ萬事如此ニシテ、信賞必罰ノ法ヲ行シ故ニ、十年ノ内ニ、令行禁止ノ効ヲ奏シテ、民大ニ悅ビ、秦國治リ強カリシトカヤ、商君ガ道ハ、法ヲ以テ國ヲ治ムル道ナル故ニ、是ヲ法術トイフ、聖人ノ道ニハ合ハザレドモ、末世ノ政ヲ行フニハ、便利ナルコトアリ、如何トナレバ、先王ノ世ニハ、賢智ノ人ヲ得テ百官ニ居ラシムル故ニ、忠恕ヲ以テ政事ヲ行ヘリ、忠ハ上ノ事ヲモ下ノ事ヲモ、己ガ事ノ如クニ思テ心力ヲ盡ス也、恕ハ人ノ私情ヲ察シテ、料簡ヲ以テ處分スル也、國家ノ大法ヲバ箇條少ク立置テ、其餘ハ大抵時ノ料簡見計ヒニテ、上ニモ下ニモ害ナキ様ニ處分スル故ニ、商君等ガ如ク細ナル法ヲ立ルニ及バズ、強ニ法ヲ恃ムコトナシ、是仁人ノ政也、サレバ政ヲナス

ニハ、人才ヲ得ルヲ先務トス、先王ノ政ハ、人ニ任セテ法ニ任セズ、人ヲ恃テ法ヲ恃マズ、是ニ因テ商君等ガ法術ヲ、聖人ノ道ニ違ヘリトイフ也、然レドモ國家ニ人才ヲ得ルコト、甚難事也、若仁賢ノ人ヲ得ズ、其器ニ非ル者ニ政ヲ任ジテ只管ニ便宜ニ就テ行ハシムレバ、多クハ害ヲ生ジテ亂ノ本トナル也、周易ニ、「苟非ニ其人ニ道不ニ虚行ニ」ト云リ、先王ノ道ハ、其人ヲ得ザレバ行ハレズ、商君等ガ道ヲ用テ、法ニ任セテ治ルハ、常ノ人モナル事也、サレバ法度ヲ明ニシ、賞罰ヲ信ニシテ、令スレバ行ハレ、禁ズレバ止ムトイフ政ハ、申不害、商鞅、韓非等ガ法術ヲ捷徑トスル也、只法ニ任ズル政ハ、慘刻ニ成易キ故ニ、一旦ニ効ヲ取ルトイヘドモ、程ナク敗レヲ致シテ、國家危亂ノ始トナル也、先王ノ政ハ、仁恕ヲ本トシテ、慘刻ナルコトヲ行ハザル故ニ、効ハ少遲キコトモアレドモ、治マリタル上ニテハ、國家安全也、人ニ任ズルト法ニ任ズルトノカハリ也、聖人ノ政モ、法令賞罰ヲ捨テハ行ハレザレドモ、只法令賞罰ヲ用ルニ、仁恕ヲ本トスル所、商鞅等ガ術ニナキコト也

一 國家ヲ經營スルニ、約法トイフコトアリ、約法トハ、約ハ、約束ノ意也、法ヲ立テ、上ト下ト相約シテ守ルヲ約法トイフ、漢ノ高祖秦ヲ破リテ咸陽ニ入玉ヒシ初ニ、咸陽ノ民ノ秦ノ苛法ニ困究セルヲ知玉ヒ、咸陽ノ父老ヲ召集テ、今迄ノ法ヲ捨テ、向後ノ爲ニ、新ニ法三章ヲ約シ玉フ、三章ハ、三ケ條トイフ義也、人ヲ殺セル者ヲバ、死刑ニ處セン、人ヲ傷ツケタル者ト、盜スル者トヲバ、其輕重ニ隨テ罪ニ抵サントイフ、此三條ヲ約シ玉ヘリ、是約法ノ祖也、約ハ誓約ノ意ニテ、此法ヲ永々迄ニ變

改スマジキコトヲ民ト相約スル也、今ノ世ニ國家ヲ治ムル術ハ、約法ニ勝ルコトナシ、約法ヲ立ル道ハ、國家ノ至テ肝要ナル重キ事ヲ能々僉議シテ、二十章、若ハ三十章程ヲ選ビ、是ニ堅キ法ヲ立テ、其法ヲ一卷ニ書シ、サテ其君ト、卿大夫士ノ政事ニ預ル輩ト、其國ノ祖宗ノ靈前ニ詣テ、如レ斯ノ大法ヲ立ル由ヲ祖宗ニ告ゲ、起請罸文ニ血判シテ、上ヨリ下迄、此法ヲ堅ク守ルベシ、若違犯スル者アラバ、君上ハ其位ヲ廢シ、卿大夫以下ハ其罪ニ隨テ刑罰ニ處スベシトイフ事ヲ誓約シ、其上ニテ其條目ヲ朝堂ニ壁書シテ、國内ノ民迄ニ知ラシメ、毎月ニ一度モコレヲ讀テ、朝士ヨリ國内ノ民マデニ聞シテ、上ト下ト共ニ相守リ、愼デ犯ス事無カルベシ、扨歳月ヲ歴ル間ニ、連判衆ノ中ニ闕出來ラバ、他ノ士大夫ノ中ヨリ、其闕ヲ補フベキ者ヲ擇デ、又祖宗ノ靈前ニテ、前ノ一卷ノ末ニ其名ヲ連署シ、血判セシムベシ、君上モシ此約ニ違フコトアラバ、其親族ニ告ゲ、祖宗ニ告ゲ、縣官ニ請テ、縣官ノ鈞命ト、祖宗ノ命トヲ奉ジテ、其君ヲ退ケ、新ニ其子若ハ弟ヲ立テ、君位ヲ嗣シムベシ、若臣下ノ中ニ、其約ヲ犯ス者アラバ、連判衆即時ニ君命ヲ以テ、祖宗ノ命ヲ奉ジテ刑罸スベシ、如レ此セバ、上モ下モ法ヲ畏テ、犯ス者有ルマジキ也、是國家長久ノ計也、凡法ノ立難キハ、上ヨリ犯ス故也、上ノ人能ク法ヲ守レバ、下民モ是ヲ愼デ、犯ス者ナシ、是約法ノ利也、末世ノ治メ是ヨリ善キハナシ、扨法ヲ守ルハ、上ヨリ守ルヲ美トス、上ノ人守ラズシテ、下民ヨク是ヲ守ルコトハ、決シテナキコト也、上ト下ト共ニ守レバ、其法永久ニ垂テ、犯ス者アルコトナシ、是ヲ約法トイフ、當代ノ諸侯ノ中ニモ、舊キ國ニハ、先

世ヨリ約法ノ如クナルコトヲ立置テ、上下共ニ守ル處アリ、其國必安寧也、上ニ賢君アリ、下ニ良臣アレバ、何事モ時宜ヲ度リテ、仁義忠恕ヲ以テ行フ故ニ、必シモ約法ヲ恃マズ、但古ヨリ世ノ中ニ賢君良臣甚稀也、縦賢君アリテモ、良臣ヲ得ズ、良臣有リテモ、賢君ニ遇ザレバ、便宜ノ政ハ行ハレズ、況ヤ幼主ニ遇ヒ、又ハ不賢不良ノ人良臣トナリテ政ヲ行フニハ、祖宗ノ約法ヲ堅ク守ルニ非ズシテハ、國家治マルコト決シテ有ルベカラズ、先王ノ政ダモ、法ナクテハ行ハレズ、況ンヤ先王ノ政ニ非ルヲヤ、兎ニモ角ニモ、國家ハ法ヲ以テ治ムルヲ便利トス、是尋常ノ經生ノ知ル所ニ非ズ、先王ノ道ヲ本トシテ、忠恕ノ心ヲ以テ行ハヾ、商鞅、申不害、韓非ガ法モ、皆國家ニ益アリテ、善治ヲ開クベキ也

一　凡法ヲ立ルニハ、簡ニシテ嚴ナルヲ善トス、煩ニシテ忽ナルハ惡シ、簡トハ條目ノ粗クシテ少キ也、煩トハ條目ノ細ニシテ多キ也、凡國家ノ事ニハ、大小輕重アリ、法ヲ立ルニハ、事ノ重ク大ナルヲ擧テ、是ニ法ヲ立テ、上モ下モ嚴密ニ守リ、若此法ヲ犯ス者アラバ、少モ容舍ナク其罪ニ隨テ刑罰ヲ行フベシ、事ノ輕ク小キニハ、强ニ法ヲ立ントスベカラズ、是ヲ略スベシ、法ノ條目少ケレバ、記憶スルコトモ易ク、愼守ルコトモ難カラズ、若犯ス者アル時ニ、是ヲ糺スコトモ易シ、法ノ條目多ケレバ、記憶シ難キニ由テ、忘テ犯ス者アリ、犯ス者ヲ罰セザレバ、法立タズ、犯ス毎ニ罰セントスレバ、罪人多クナリテ、下民生ヲ聊ンゼズ、法ノ敗ル、本也、殊ニ瑣碎ナル法ハ、一々ニ守リ難キ者也、是ヲ煩

瑣トイフ、煩瑣ナル法ヲ苛法トイフ、苛政トモ云フ、禮記ニ、「苛政猛ニ於虎ニ也」ト云ルハ、孔子ノ言也、昔秦ノ天下ハ、苛法ヨリ破レタリ、苛政ノ二字ヲ、和語ニカラキマツリゴトヽ訓ズル故ニ、慘刻ナル政ト解スルハ非也、苛ノ字ハ、煩苛トモ苛察トモ屬テ、只政令ノ煩瑣ニシテ察ノ深キヲ云フ也、法ヲ立ルコト瑣碎ナルハ守リ難シ、守リ難ケレバ、犯ス者多シ、犯ス者多ケレバ刑罰ヲ行フ者モ心忙ク、一一ニハ糺明モナリ難キ故ニ、容舍スルトニモ非ズシテ、自然ニ缺漏スルコトアリテ、法ノ忽ニナルヲ覺エズ、法ノ忽ニナルヲ見テハ、下ニテ犯ス者彌々多クナル、是則チ法ノ敗ルヽ端也、サレバ漢ノ高祖ノ秦ノ苛法ヲ除テ、法三章ヲ約シ玉ヒシハ、誠ニ四百年ノ鴻基ヲ開キ玉フ端也

一　凡國家ノ法ハ、祖宗ヨリ立置者ナレバ、子々孫々ノ末迄其國ノ在ン限ハ、イカナルコトアリトモ變改セザルヲ孝トス、若末ニ及デ、當前ノ利害ニ拘リテ、輕々シク祖宗ノ法ヲ改ムレバ、一ツ改ルヨリ、二ツ改メ、三ツ改メ、イツトナク祖宗ノ法ヲ悉失フ者也、祖宗ノ法ヲ失テ、其國家長久ナルコトハ、天地開闢ヨリ以來異國ニモ本邦ニモ終ニナキコト也、サレバ祖宗ノ立置タル法ハ、大法モ小法モ、永々ニ守テ少モ改メザルヲ、孝子孝孫ト稱ス、祖宗ニ孝アレバ、天神地祇ノ加護有リテ其國必治リ、子孫繁昌スルコト明白也、萬一祖宗ノ時ニ法ヲ立ザルコト有リテ、後世ニ及デ新法ヲ立ンニハ、當前ノ利害ハ云フニ及バズ、後來ニモ害ナクシテ、國家ニ利ナルベキカ如何ニトイフコトヲ詳ニ僉議シテ、衆議一決シタル上ニテ、果斷ヲ以テ命令ヲ下スベシ、小人ハ習ニ安ンズル者ナレバ、今迄ニナキ新令ヲ受

テハ、必驚テ前後モ辨ヘズ、一向ニ不便利ナルコトト思フ、是昔ヨリ定マレルコト也、然ル時ニ、上ノ人是ニ心ヲ動カスベカラズ、凡民ハ當前ノ利害ヲ視テ、後ノコトヲ不レ思者也、上ニアル君子ハ、數十年ノ後ヲモ洞視スルコト、圍棊ニ上手ナル者ノ十道二十道ノ末ヲ洞視スルガ如クナレバ、民ノ評議ヲ聞入レズ、果敢ニ事ヲ行フベシ、年數ヲ經テ後ニ、民其便利ヲ得レバ、大ニ悦デ初ニ評議セシヲ悔ル者也、商鞅ガ秦國ニテ新法ヲ行ヒシ時、カク有リシ也、此段ハ英雄ノ事也、縱賢智ノ人ニテモ、英雄ノ膽氣ナク、果斷ナラザル人ハ、行ヒ得ルコトナシ、是又法ヲ行フニ附テノ用心也、サレバ君子ハ英氣ナクバ有ルベカラズ、孟子ヲ英氣アリト譏リ、英氣甚害レ事ト云ヘルハ、程氏ガ誤也、英氣アリテ害ヲナスハ小人也、君子ニシテ英氣ナケレバ、大事ヲ行フコト能ハズ、果敢決斷ハ、英氣ノ所爲也、古ノ聖賢ヲ見ルニ、一人モ英氣ナキハ非ズ、程子朱子等ハ聖賢ノ事業ヲ知ラザル故ニ、孟子ノ英氣ヲ病トセルナリ、孟軻ハ英氣ニテ勝レタル人也

一　今ノ世ニ諸侯以下ノ人ハ、縣官代々ノ條目ト、其餘時ニ臨ミ事ニ因テ、上意ヨリ出タル法令ヲ、固ク守ルベキハ勿論也、其他ハ皆下ニテ創タルコトニテ、習俗トナリタル者也、然ルニ今ノ人ノ一同シテナスコトニ、國初以來代々ノ條目ニ載ラレズ、條目ノ外ニ、上ヨリ特ニ出サレタル法令ニモ非ズ、執政執事ノ命ゼルコトニモ非ズ、イツノ時ニ誰人ノ創ケルトイフコトモ知レズ、自然ニ風俗トナリテ、吾モ人モ其習ハシニ牽レテ、同ジ樣ニナスヲ、是上ヨリ出タル法令ニテ、國家ノ禮式也ト思ヒ、如レ此

セデハ叶ハヌコトト思ヘリ、常ノ諸侯、常ノ士大夫ノミナラズ、國政ヲ知スル人モ、習俗ニテナシ來レル事ヲ、國家ノ典禮也ト思ヘルコトアリ、是大ナル惑也、畢竟國家一定ノ法令ナク、萬事ニ制度トイフ者ナクシテ、只諸侯以下大夫士庶人ノ間ニテ創タルコトヲ、其儘ニ用テ世ノ禮式トナシ、朝廷ニテモ是ヲ用ラルレバ、後ニハ國家ノ典禮ノ如ク固キコトニナル也、此類ノ事、今ノ世ニ甚多クシテ、而モ十ニ八九ハ善カラヌ事也、治平久シキニ因テ、年々ニ事多クナレバ、此類ノ事モ、漸々ニ多クナル也、然レバ今ノ世ニ、諸侯以下卿大夫朝士迄ノ人ノ中ニ、若シ英雄豪傑アラバ、此習俗ヲ離レ、世人ト易リテ、己ガ思フ儘ナルコトヲナスベシ、其時執政執事執法ノ吏ヨリ、之ヲ怪ミ咎ムル者アラバ、之ニ答テ、此事ハ國家代々ノ條目ニモ載ラレズ、時ニ臨ミ事ニ因テ、上意ヨリ出タル法令ニモアラズ、是國家ノ典禮也トイフコトヲ未聞カズ、只下ニテ創タルコトノ、イツトナク習ハシニナリタルナレバ、如何樣ニモ人々ノ思フ儘ニナスベキコトゾト思テ、カク行ヘリ、若向後新ニ法ヲ立、令ヲ出シテ、此事ニ制度ヲ定ラレバ、愼デ其法ヲ守ルベシ、然ラズバ、咎メヲ受ル事アタハジトイハンニ、車ヲ横ニ推ス樣ナル官吏ナリトモ、此理ニ服セザルコト有マジ、如此ノ人アリテ、如此ノ事ヲ行ハヾ、俗弊モ少改ムリ、人ノ心ヲ快クスベシ、然レドモ英雄豪傑ニ非レバ、ケ樣ノコトヲ行ヒ得ルコトナシ、英雄豪傑トイフ者ハ、古ヨリ數百萬人ノ中ニ、一人モ有ル事稀也、今ノ世ノ士氣萎靡ノ諂多キ風ノ中ニ、何トシテ英雄豪傑ヲ求ンヤ、然レバ川ノ水ノ流ルヽ如ク、世ノ風俗漸々ニ汚キ處ヘ流レテ、

源ニ還ルコトナキハ必然也、間ニ上ヨリ法令ヲ立ラルヽコトアレドモ、祖宗ノ法ニ不レ依シテ、一世ノ新法ヲ立ラルレバ、只吾人ノ父祖以來住馴タル家ヲ、一代一代ニ少ヅツ住居ヲ替テ、一己ノ便利ニ順フガ如シ、程ナク又別ノ新法出テ、前ノ法ハ廢スル故ニ、下民是ヲ輕シメテ其法ヲ守リ肯ゼズ、三日法度トイフ名目是ヨリ出タリ、歎カシキコトナラズヤ、凡國家ノ法ハ、一定不易トイフニアラザレバ、法ト云ハズ、上ト下ト同ク守ラザレバ、法行ハレズ、信ナケレバ法立タズ、條目ヲ少クシテ嚴密ナルヲ善法トス、是法令ノ要務也

一　理ヲ枉ル法アリ、法ヲ枉ル理ナシトイフハ、鄙キ諺ナレドモ、至極ノ道理ヲイヘリ、下ノ人ノ法ヲ犯スハ固ヨリ罪也、上ノ人一タビ法ヲ立置テハ、其法ヲ堅ク守ルベキ義ナルニ、依怙偏頗ヲ以テ、時時ニ法ヲ枉ルコトアルハ、下民ノ法ヲ犯スヨリモ重キ罪也、今ノ世ニハ此類甚多シ、凡法ノ行ハレザルハ、上ヨリ犯ス故也ト、昔ノ商君モ是ヲ歎タリ

刑罰

一　刑ハ政ヲ亂リ治ヲ害スル者ヲ誅スル法也、罰ハ過失アル者ヲ懲シ戒ル法也、今ノ俗ニ過怠ヲカクルトイフ是也、刑罰ハ治ヲ佐クル具也、法令ヲ出シ、禁制ヲ立テ、民此ヲ愼ミ守リテ、犯スコトナケレバ刑罰ヲ用ルニ及バザレドモ、人ノ性サマ〳〵ナレバ、萬民ノ中ニハ法令ニ違ヒ、禁制ヲ犯ス者ナ

キコト有ラズ、是ヲ忽ニシテ刑セザレバ、政ノ敗ル端トナリ、國家ノ亂ヲ起ス故ニ、唐虞三代ノ時ヨリ、刑ヲ用テ治ヲ佐ケズトイフコトナシ、譬ヘバ人ノ身ノ養ヒニハ、五穀ヲ主トシテ、若不足アレバ、人參白朮ニテ氣ヲ補ヒ、當歸地黄ニテ血ヲ養フ類ノコトハ常ナレドモ、其間ニ宿滯アレバ、巴豆芒硝ニテ下シ、瓜蔕豆豉ニテ吐シ、大黄石膏ニテ熱ヲ淸シ、附子乾薑ニテ寒ヲ驅リ、針ニテ病ヲ刺シ、灸ニテ邪ヲ逐フコト、一ツモ廢スベカラザルガ如シ、國政ニ刑ヲ用ルハ、滯ヲ導キ邪ヲ去ルノ道也、刑ハ聖賢君子ノ好デ用ルコトニハ有子ドモ、是ヲ捨テハ治道達シ難キ故ニ、堯舜ノ時ヨリ是ヲ用ヒ玉ヘリ、然ルニ唐虞三代ハ、天下封建也、秦漢以後ハ郡縣也、是ニ因テ三代以上ト、秦漢以後トハ、刑罰ノ法大ニ異ナリ、郡縣トナリテ後モ、漢ノ初マデハ刑法慘刻ナリシニ、文帝ノ時、淳于意ガ女ノ上書セシニ感ジテ、肉刑ヲ除キ玉ヒテヨリ、其後ハ歷代ノ刑法不同ナレドモ、肉刑ヲバ遂ニ止テ用ヒズ、是又刑法ノ一變也、三代以上ノ刑法ハ、尙書ノ舜典、呂刑、周禮、禮記ノ中ニ見エタリ、舜典ニ記セルハ、唐虞ノ刑法也、呂刑ハ、周ノ穆王ノ法也、周禮ノ秋官ハ、周ノ刑法也、夏殷二代ノ刑法ハ詳ナラズ、大抵三代以上ハ封建ニテ、士大夫ニ世祿ノ家多ク、先王ノ政ハ、禮義忠恕ヲ本トスル故ニ、士大夫以上ノ人ヲ治ムルニ、只廉耻ヲ養フコトヲ主トス、禮記ニ、刑不レ上ニ大夫ニトイ・レハ、大夫ハ爵位貴キ故ニ、罪アリテモ輒クハ刑ヲ加ヘズ、只禮義ヲ以テ媿シムル也、サレバ古ノ大夫、若不廉汙穢ノ罪アルヲ、上ヨリ是ヲ退ルニハ、不廉汙穢トイハズシテ、簠簋不レ飭トイフ、淫亂ニシテ男女別ナキ者ヲ罪

スルニハ、淫亂ニシテ男女別ナシト言ハズシテ、帷薄不レ修トイフ、上ヲ罔シテ不忠ナル者ヲ罪スルニハ、上ヲ罔シテ不忠ナリト言ハズシテ、臣節未レ著トイフ、罷軟ニシテ任ニ勝ザル者ヲ罪スルニハ罷軟ニシテ任ニ勝ズトハ言ハズシテ、下官不レ職トイフ、國ノ紀ヲ干セル者ヲ罪スルニハ、國ノ紀ヲ干セリト言ハズシテ、行事不レ請トイフ、此五ツノ、罪科既ニ定マリ、其人既ニ其罪ニ服スレドモ、上ノ人其罪ヲ斥スニ忍ビズ、猶其人ノ爲ニ隱シ諱テ、其罪ヲ露顯セズ、詞ヲ設テ其人ヲ媿シム、是即チ廉耻ノ心ヲ養フ道也、大夫ハ人臣ノ中ニテ貴キ者ナレバ、必年五十以上ニシテ德行アル者ヲ擇デ、此位ニ居ラシム、然レバ凡大夫ニナリタル者ハ、元來右ノ如クノ罪ヲバ犯スベカラザルコトトイフニ決定シテ、平日其心ニ廉耻ヲ持セ置ク也、扨萬一右ノ如クノ罪ヲ犯スモノアレバ、大夫ニ似合ザルコトトイフニ落着シテ、ヨモ左樣ノコトハ有マジキトイフ意ニテ、飾リタル詞ヲ以テ其罪ニ名ヲツケテ、其人ヲ退クル也、若大罪有リテ生テ置キ難キ者ヲバ、死刑ニ處ス、是ニ又二ツアリ、一ツニハ賜死、二ツニハ斬也、賜死トハ、上ヨリ死セヨトイフ命ヲ下シテ、自殺セシムル故ニ、死ヲ賜フトイフ也、是ニ又二ツアリ、一ツニハ賜酖、二ツニハ賜劍也、賜酖トハ、酖ハ毒酒ナリ、毒酒ヲ賜フハ、是ヲ飲デ死セヨトイフ意也、酖ヲ飲ミテ死スレバ、病死ニ准ジテ、後ヲ立テ其家ヲ相續セシム、死罪ノ中ニテ、第一ノ輕キ法也、賜劍トハ、此劍ニテ死セヨトイフ意ニテ、劍ヲ賜フ也、劍ニテ自殺スルニ、自刎トイフ、自ラ頸ヲ刎ル也、又自剄トモ云フ、自屠トイフハ、自ラ肚ヲ破ル也、劍ニテ自殺スレバ、

身ヲ傷ル故ニ、酖ヲ飲デ死スルヨリモ重シ、酖ヲモ賜ハラズ劒ヲモ賜ハラザルハ、自經シテ死スルモアリ、自經ハ、首ヲクヽル也、凡賜死トイフハ此類也、此品ニ輕重アレドモ、畢竟自殺ナル故ニ、多クハ其家ヲ滅セズ、後ヲ立テ嗣シムル也、扨斬トイフハ、頸ヲ刎ル也、身首異レ處トイフ是也 又腰斬トイフハ、腰ヲ二ツニ斬ル也、斬ハ罪人ヲ鑕ノ上ニ伏セテ、鈇鉞ニテ斬ル故ニ、是ヲ鈇鉞ノ誅トイヒ、又ハ鈇鑕ニ伏ストイフ、古ノ五刑ノ內ノ大辟トイフハ此刑也、死刑ハ如レ此、死刑ニ處スベキ程ノ罪ニ非レバ、上ニ云ヘル如ク、夫々ノ名目ニテ、其人ヲ媿シメテ其位ヲ退ルノミ也、是ヲ刑不レ上二大夫一トイフ、是大夫ヲ重ンズル道也、士ハ大夫ヨリ賤キ者ナレドモ、禮義ヲ守リ、廉耻ヲ知ルベキ者ナル故ニ、古ノ名目ニ、士以上ヲ君子トイフ、士ノ刑罰ハ、大夫ニ同カラネドモ、畢竟禮儀廉耻ヲ本トスル者ナレバ、大夫ノ刑罰ニ比量シテ、其心ヲ媿シムルコトヲ主トスル也、然レドモ士ノ位ニテ、士ニ似合ハザル罪ヲ犯セルハ、卑賤ノ庶人ニ異ナルコトナキ故ニ、刑ヲ行フ道モ庶人ニ准ズル也、凡聖人ノ刑法ヲ制シ玉フハ、皆仁恕ノ道ニテ、一ヲ殺シテ萬ヲ生シ、前ヲ懲シテ後ヲ戒メン爲也、先王ノ刑ハ、殺スベキ罪ト、殺スニ及バザル罪トヲ分ル事甚明白也、殺スベキ罪ヲバ殺スニ決シテ、如何ナルコト有リテモ赦サズ、其殺ベキ罪トイフハ、周禮、禮記等ニ記セルヲ觀ルニ、後世ト大ニ異ナリ、彼書ニ殺スト書タル罪ヲ、今ノ世ニハ敢テ殺サズ、是古今ノ變也 聖人ノ惡人ヲ誅玉フハ、鷹ノ鳥ヲ捕ルガ如シ、片時ノ容舍モナシ、孔子ノ少正卯ヲ誅シ玉ヘルヲ見ルベシ、漢ノ高祖ノ約法ニ、一殺レ人者死一ト曰ヒテ、

殺害人ノ外ニ死刑ノコトナキハ、秦ノ苛法ヲ改テ、民ノ愁苦ヲ紓メン爲ニテ、一時權宜ノ政ナリ、天下ヲ治ル常道ニハ非ズ、三代以上ノ先王ノ政ニハ、人ヲ殺ス罪ノ外ニ、死刑ニ處スル罪數多アリ、經傳ニ見エタリ、孟子ノ人ヲ殺スコトヲ嗜マザル者、能ク天下ヲ一ニセント云ルハ、妄ニ人ヲ殺スヲ云ヘル也、罪アル者ヲ刑殺スルヲ云フニハ非ズ、今ノ人孟子ノ言ニ因テ、惡人ヲモ殺サズ、政ヲ害スル者ヲモ容舍シテ誅セザルハ、大ナル誤也、世ノ俗儒此段ヲ惡ク講ズル故ニ、人ヲ誤ラシムル也、君子ハ妄ニ人ヲ殺サズ、又妄ニ人ヲ生サズ、善ヲ害シ治ヲ妨ル者ヲバ、卽時ニ殺シテ赦ス事ナシ、是政事ノ大關係也

一 周以前ノ五刑ハ、墨、劓、剕、宮、大辟ナリ、墨ハ額ヲ刺テ墨ヲ其中ニ入ル也、又黥トモ云フ、劓ハ鼻ヲ割ル也、剕ハ足ヲ割ル也、又刖ト云フ、宮ハ男子ニハ勢ヲ割ルナリ、是ヲ腐刑トイフ、勢ハ陰莖也、婦女ヲバ幽閉ス、後宮ニ入レテ、一生外ヘ出サズ、今ノ世ニイフ上リ者也、大辟ハ死刑也、上ニ云ルガ如シ、此外ニ刵トイフハ、耳ヲ割ル也、鼻ノ屬也、扑トイフハ杖ニテ抶ツ也、敎ニ隨ハザル者ニ施ス、贖刑トイフハ、罪ノ疑ハシキ者ニハ、刑ヲ行ヒ難キ故ニ、金銀ヲ出サシメテ、是ヲ赦ス、是ヲ罰金トモ、罰鍰トモイフ、贖ノ字ハ、アガナフト訓ズ、今ノ世ニ過料過錢トイフ是也、髡トイフハ、頭髮ヲ剃ル也、髡ハ肉ヲ傷ラズ、血ヲ出サヾル故ニ、輕キ刑トス、鉗ハ首械也、梏ハ、手械ナリ、桎ハ、足械也、流ハ、五刑ヲ宥ルニ用フ、已上皆聖人ノ制シ玉ヘル刑法也、唐虞ノ代ヨリ、

三代ノ末迄、是ヲ用ヒタリ、唐虞ノ代ニハ、三苗ノ主、慘刻ナル刑ヲ作テ、民ヲ苦シメタル事、尙書ノ呂刑ニ見ユ、其後ハ夏ノ桀、殷ノ紂、炮烙ナドイフ虐刑ヲ行ヘリ、戰國ノ世ニハ、湯鑊ニテ烹ル刑アリ、日本ニイフ釜煎也、車裂トイフハ、車ヲ兩足ニ繫テ裂ク也、又ハ轘トイフ、日本ニイフ牛裂也、三族ヲ夷ストイフハ、父ノ族、母ノ族、妻ノ族ヲ遺ラズ殺ス也、是ヲ族滅ト云フ、日本ニテ從類ヲ絕ストイフ是也、此法ハモト秦國ヨリ始マレリ、畢竟戎狄ノ刑也、三代ノ末ニ及デ、ケ樣ノ慘刻ナル刑ヲ行ヘリ、漢ノ文帝、淳于意ガ女ノ孝ニ感ジテ、肉刑ヲ除キ玉フ、肉刑トハ、墨、劓、剕、宮、等ノ肉ヲ傷ル刑也、文帝是ヲ止テ、城旦舂、鬼薪、白粲、釱抔イフ刑ヲ作リ、其外ハ杖ニテ扶ツノミ也、城旦舂トイフハ、城ノ營築ニ使ヒ、又ハ米ヲ舂スル也、鬼薪トイフハ、宗廟ノ薪ヲ折ラスル也、白粲ハ米ヲ舂スル也、釱ハホダシ也、足ニ鎖ヲヲロス也、是ヨリ後世、皆肉刑ヲ用ヒズ、肉刑ハ只死罪一ツニテ、餘ハ皆漢ノ制ニ本ヅキテ損益シテ、一代ノ刑法ヲ制セリ、二千年ヲ歷テ、今ニ至ルマデ然ナリ、文帝ノ肉刑ヲ除キ玉ヘルハ、仁心ヨリ出タル事ナレドモ、學問シ玉ハズ、古ヲ稽ヘズ一旦人ニ忍ビザル心ニテ、肉刑ヲ慘刻ナル刑ト思ヒテ止メ玉ヘル也古ノ五刑ハ聖人ノ制ナリ、肉刑果シテ慘刻ナル刑ナラバ、聖人何ゾ是ヲ制シ玉ハンヤ、聖人ノ道ニハ、大夫以上ニハ刑ヲ施サズ、只專ニ庶民ノ惡ヲ懲サン爲也、庶民ハ小人ナレバ、柔ナル刑ニテハ懲ルル心ナク、又罪ヲ犯ス者也、墨、劓、剕、宮ノ類ハ、皆其身ニ誌ヲ着ルナレバ、自己ニイツ迄モ其非ヲ忘レズ、他人是ヲ見テモ恐怖スル故ニ、萬民ノ

戒トナルコト深ク廣シ、如何程嚴ナル法ニテモ、暫時ノ苦痛許ニテ、身ニ瘢ノ着カヌ刑ハ、小人ノ心ニ深クハ懼レズ、其時ヲ過レバ、頓テ忘ル、故ニ、又罪ヲ犯ス也、今ノ世ノ鄙キ諺ニ、咽ヲ過レバ熱サ忘ル、トイフ、誠ニ然也、聖人ハ肉刑ヲ行ヘドモ、但其罪ヲ懲スノミニテ、其人ヲバ棄ズ、墨者ニハ門ヲ守ラシメ、劓者ニハ關ヲ守ラシメ、刖者ニハ囿ヲ守ラシメ、宮刑ノ者ヲバ宦者ト名ヅケテ、後宮ノ門ヲ守ラシム、今ノ世ニ奧番、鎖口番抔イフ者ノ如シ、畢竟奧使也、割勢シタル故ニ、婦女ニ近付事ヲ嫌ハザル也、如何ナル小人ニテモ、一タビ足ヲ割ラレ、腐刑セラレテハ、懲リザルコトアルベカラズ、然ルヲ監門監宮ノ役ニ召使ヘバ、生産ニ窮スルコトモナク、是ニテ命ヲ續グ故ニ、惡ヲ改テ善ニ徙ル心モ起ル也、聖人ノ思慮斯ノ如シ、何ノ慘刻ナルコトカアランヤ、文帝是ヲ知玉ハズ、一旦忍ビザルノ心ヲ以テ、聖人ノ刑法ヲ改メ玉ヘルハ、大ナル謬也、凡何事モ聖人ノ法ニ遵テ惡キコトハナシ、聖人ノ法ヲ用ヒザレバ、害ヲ生ズルコト少カラズ、後漢ノ崔寔ガ政論ニ、後世程民ノ姦邪モ盛ニナル故ニ、刑法ハ嚴ナルニシクハナシト云ヘルハ、治道ヲ知レル也、サレバ文帝ノ肉刑ヲ除キ玉ヒシハ、古今刑法ノ一大變也

一周ノ代ノ季ニ、魏ノ文公ノ臣李悝、新ニ刑法ヲ制シテヨリ、戰國ニ及デ、申不害、韓非ガ流、刑名法律ノ學ヲ世ニ行フ、是ニ因テ後世ニ法律トイフコト出來レリ、漢ノ初ニ、蕭何始テ律ヲ作ル、是ヲ漢律トイフ、律ハ罪ヲ正シ刑ヲ行ヒ、國家ノ仕置ヲ立ル法也、是レヨリ歴代ニ各其一代ノ律アリ、因革損益シテ

其制同シカラズ、先王ノ五刑ヲ改テ、律ノ五刑トナス、其品ニ不同アリ、唐ノ代ヨリ、笞、杖、徒、流、死ヲ以テ五刑トス、後世是ニ從テ變ゼズ、宋元ノ代ヲ經テ明ニ至テ、其法甚精細也、第一ニ笞トイフハ、細キ杖ニテ扶ツ、其數一十ヨリ五十迄也、第二ニ杖トイフハ、太キ杖ニテ扶ツ、其數六十ヨリ一百迄也、笞モ杖モ、荊トイフ草ノズハヱヲ用フ、此方ノ芒草ノ如クナルモノ也、第三ニ徒トイフハ、人足トナシ、鉗ヲサシテ逃走ヲヌ樣ニシテ、營築ノコトニ使テ勞苦サスル也、或ハ鹽場鐵冶ニモ使フ、鐵冶ハ、山ニテ鐵ヲ淘ル處也、此方ニテ鐵山鐵座トイフモノ也、何レモ至極勞苦ナル事ナル故ニ、是ニ役使シテ其罪ヲ懲ス也、徒ニ又五等アリ、杖六十徒一年、杖七十、徒一年半、杖八十、徒二年、杖九十、徒二年半、杖一百、徒三年也、杖六十徒一年トハ、徒一年ノ罪ナレバ、先杖ニテ撃コト六十シテ、扨一年ノ徒ニ入ル也、已下皆然ナリ、一年ヨリ三年迄ノ年限滿ズレバ、徒ヲ出サレテ、故ノ庶人ニ復ル也、第四ニ流トイフハ、遠方ニ流シヤル也、是ニ又三等アリ、二千里、二千五百里、三千里也、第五ニ死トイフハ、則死罪也、是ニ又二等アリ、一ツニハ絞、二ツニハ斬也、絞ハ、縊殺ス也、形ヲ傷ラザル故ニ、死刑ナレドモ輕シ、斬ハ頸ヲ刎ル也、斬ノ中ニ、又陵遲處死トイフコトアリテ、常ノ斬ヨリモ一等重シ、陵遲トイフハ、ズタ〳〵ニ切ル也、古ノ葅醢ニスルトイフ是也、魚肉ヲタヽク如クニスル也、此方ニテ試物ニスルトイフガ如シ、サテ此九刑ハ、律ノ法ニテ、爵位アル者ヲモ容舍セザル故ニ、凡罪科アル者ハ、誰ニテモ必其刑ニ當ル時ニ、爵位アル者ニ、笞、杖、徒等ノ刑ヲバ行ヒ難キ故

ニ贖罪ノ法ヲ立テ、錢ヲ出シテ贖ハシムル也、サレバ其定法ノ如ク錢ヲ出セバ、笞、杖、等ノ刑ヲバ免ルル也、古ノ五刑ハ、墨、劓、剕、宮、大辟ト五ツノ品アリテ、別ニ細ナル次第ナシ、尚書ニ「墨罰之屬千、劓罰之屬千、剕罰之屬五百、宮罰之屬三百、大辟之罰其屬二百、五刑之屬三千」トイヘルハ、其刑ニ入ルベキ罪ノ類、是程アルトイフ義也、刑罰ノ品三千アルト云フ義ニハ非ズ、古ノ刑ハケ條少クシテ、其當ル所ハ後世ノ律ヨリモ重シ、ケ條少キ故ニ、刑ヲ行フ所大マカ也、オホマカナル故ニ、刑ノ當リ少重キ也、畢竟爵位アル者ヲバ、禮義廉恥ヲ以テ其心ヲ媿シメテ、輕シク刑ヲ當テズ、刑ハ只庶民ノ罪ヲ正スノミナル故ニ、法ヲ簡ニシテ守リヤスカラシメ、刑ヲ重クシテ其心ヲ懲ス也、孔子ノ仲弓ニ答テ、赦ニ小過ヲト曰ヒシハ、政ヲ行フ身ニナリテ、人ヲ使フ要道也、凡國家ノ政ヲナスニハ、百官群吏ヲ立テヽ夫々ニ職事ヲ任ジテ掌ラシムルニ、小々ノ過失ヲバ容舍シテ、咎メズ罪トセズ、人トシテ己ガ過失ヲ知ザル者ハ少シ、縱上ヨリ容舍セラレテモ、其心ニハ悔ミ媿テ、後ヲ改ル志アル者也、後ヲ改ル志アレバ、今一際方ヲ入レテ勤ル故ニ、前ノ過失ヲモ補フ程ノ功ヲ立ル也、然ルヲ上ノ人、苛察ナル心ニテ小過ヲ赦サズ、一々ニ其罪ヲ正シテ越度トスレバ、人々過失ナキ樣ニトノミ心懸テ、忠ヲ盡シ功ヲ立ルマデノ志ナキ者也、過失トハ、アヤマチ也、今ノ世ニイフ不念、不調法、仕損ジ、シヲチ、料簡違ナド云フ類ノコト也、小過ヲ赦ストイフハ、ケ樣ノ類ヲバ、一切ニ赦シテ罪トセザル也、サレバ古ノ刑法甚オホマカニテ、粗々シク條目ヲ立テ、瑣碎ナル法ノ絶テナキハ此故也、後

世ノ律ハ、歷代其法漸々ニ細密ニナリテ、小過ヲ赦サズ、罪科ニ多クノ階級ヲ立テ、是ニ刑ヲ當ントスル故ニ、刑法ニモ階級ヲ立テ、罪ト刑ト相當スルヲ上トス、刑法ノ瑣碎ニナラズシテ叶ハザル道也、刑法瑣碎ナレバ、小々ノ過失ヲモ宥免セズ、爵位アル士大夫ヲモ容舍セズ、少ニテモ法ニ違ヘバ是ヲ越度トシ、罪名ヲ着テ是ニ相當ノ刑ヲ行フ、漢ノ世ニ法ニ坐スルトイフコトアルハ此事也、是ニ因テ律ノ法行ハルレバ、人々過失ヲ恐ル、故ニ身ヲ入レテ其職事ヲ勤ル者ナシ、又漢ノ蕭何ハ、天下ノ相國ナリシカドモ、小ノ過ニテ獄ニ繫レタリ、其餘ノ九卿以下ノ官人、或ハ笞杖ヲ被リ、或ハ束縛セラレタル者、其數少カラズ、如レ此ナレバ、士大夫ノ廉耻ノ心亡テ、終ニハ耻ヲ耻ザル心ニナルコト必然也、庶民ノ心ニハ、此罪ヲ犯セバ、此刑ニ當ルトイフコトヲ兼テヨリ知ル故ニ、法ノ限ヲ知テ、輕キ刑ヲバ懼レズ、譬ヘバ今ノ世ニ、賭博ヲ禁ジテ博徒ヨリ過料ヲ徵ル、故ニ賭博セン迚ハ、先過料ノ錢ヲ用意スルガ如シ、律ノ法行ハルレバ、萬事皆此類也、凡法ヲ立ルニハ、法ノ奧ヲ民ニ知ラセズ、民ノ心ニ、此法ヲ犯サバ、イカナル刑ニカ處セラレント、危ブミ懼レサスルヲ善トス、律ヲ行ヘバ民皆法ノ奧ヲ知ル、是古聖人ノ道ニ違ヘリ、又律ハ醫法ノ如シ、罪人ハ病人ノ如シ、醫書ニ書タル如クノ病ハ、千人ニ一人モアルコト稀也、似タル樣ニテ、少宛合ザル處アリ、然ルヲ古法ニテ治セントスレバ、今ノ病多クハ愈ズ、愈ザルノミナラズ、却テ他症ヲ生ズ、小人ノ罪ヲ犯スモ亦然ナリ、律ニ書タルニ符合スル罪ハ、千人ニ一人モアルコト稀也、是ヲ一定セル律ニテ判斷セントスル故ニ、

如何程細密ナル法ニテモ、其罪ニ的當スルコト稀也。サル故ニ古ハ犯人ノ罪ト情トヲ深ク察シテ、時ニ臨テ刑ヲバ重クモ輕クモスル也、是明智ノ人ニ非レバ行難キ事ナル故ニ、堯舜ノ世ニハ、皐陶トイフ聖人ヲ用テ、斷獄ノ官ニ任ジ玉ヘリ、魯ノ定公ノ時ハ、孔子ヲ用テ大司寇ノ官トス、皆是人ニ任セテ法ニ任セザル意也、後世ハ法律ヲ立テ、罪名ト刑名トヲ定置テ、其名目ニサヘ合ヘバ、何ノ料簡モナク、此罪ニハ此刑トイフ定法ヲ以テ刑ヲ當ツル也。如レ斯ナレバ、サノミ明智ノ人ニ非ズトモ、刑罰ハ行ハルヽ也。是則法ニ任セテ人ニ任セザル政ニテ、仁恕ニ違ヒ、先王ノ道ヲ去ルコト遠シ、然レドモ秦漢以後、天下郡縣ニナリテハ、律ヲ用ヒズシテハ叶ハザル道理モアリ、其子細ハ三代以上ハ封建ナレバ、天子ノ地ハ僅ニ畿内千里ノミニテ、其外ハ皆大小ノ諸侯ノ國也、諸侯ノ國ハ、一國ヅツ其君ノ法ニテ治ムル故ニ、天子ノ官人ノ預リ知ル所ニ非ズ、方百里ノ内ナレバ、政令モ及ビヤスク、下ニテ治メ難キコトアリテ、君上ノ命ヲ稟ルニモ、狹キ内ニテハ、事ノ滯ルコトモナシ、天子ノ畿内迚モ、千里ノ内ニ數多ノ官人ヲ立置ルレバ、政令ノ滯ルコトナク、官吏ヲ擇ブコトモ便利ナル故ニ、人ニ任セテ、法ニ任セズ、忠恕ヲ以テ行フコトヲ得タリ、郡縣ノ世ハ、天下一國ニテ四海ノ内ノ人、皆天子ノ民ニテ、是ヲ治ムル者ハ皆天子ノ官人也。京都ニテ人ヲ擇デ、遠方ノ官人トナシテ遣セドモ、其任所ニテ政ヲ行ヒ、刑獄ナドヲ折クニ、若一己ニテ決シ難キ疑獄ヲバ、奏聞シテ上意ヲ稟バヤト思フコトモアルヲ、數千里ノ路ヲ經テ、驛使ノ往來ヲ待ツ樣ニテハ、急ナルコトハ一向ニ辨ゼズ、殊ニ文

書ニテ往復スルハ、微細ナル意味モ達シ難シ、然ルヲ一定ノ律ヲ立テ、其法ニテ折ケバ、數千里ノ外ヲモ、帝都ノ內ト同ク一律ニテ治ムル故ニ、律ニサヘ合ヘバ、左右ヲ顧ルコトモナク、速ニ決斷シテ法ノ如ク行ン故ニ、法令ノ滯ルコトモナシ、其事辨ズル也、是ニ因テ郡縣ノ政ニハ、律ヲ便利トスル也、天下ヲ郡縣ニスルコト、モト聖人ノ制ニ違ヘルコトナレバ、是ヲ治ムル道モ、亦聖人ノ制ニ非ル法律トイフモノヲ用ルハ、自然ノ勢也

一　日本ニテハ淡海公不比等、唐律ニ依テ和律ヲ作玉ヒテヨリ、公家ノ世ハ、是ヲ用テ刑獄ヲ折ケリ、明法博士ヲ立テ律ヲ學習セシム、坂上氏是ヲ傳フ、是ヲ法家ト稱ス、公家ノ世ニハ、一罪ヲ治メ一刑ヲ行フニモ、必明法博士ニ命ジテ其律ヲ考シメ、勘文トイフ文書ヲ出サシメテ、其文ニ依テ刑ヲ行フ、法家ノ勘文トイフ是也、和律ノ五刑ハ、則唐律ノ五刑ニテ、上ニ云ル如ク、笞、杖、徒、流、死也、刑法ヲ折クモ、大略唐ノ制ノ如シ、末ノ世ニ及テ、此律モ陵夷シテ行ハレズ、武家ノ世トナリテハ、天下ノ制度替レル故ニ、彌公家ノ律ヲ用ヒズ、鎌倉ノ時、貞永元年ニ、北條氏成敗式目ヲ作テ、武家ノ定法トス、北條氏執權ノ間ハ、此式目ニテ治メタリ、其後室町ノ世ヨリ、武家ノ制度一變シテ、鎌倉ノ式目ヲ用ヒズ、別ニ一代ノ法式アリ、室町ノ末ヨリ海內戰國トナリ、擾亂多年ニシテ、刑罰ノ法モ立タズ、織田氏、豐臣氏ノ世ハ固ヨリ云フニ不足、當代ニ及デ、海內一統シ、國家安寧ナルコト千古ニ超タリ、然レドモ戰國ノ餘習ニテ、萬事ニ制度ナキコト多ク、苟且ノ政ヲ以テ治メ來レル

故ニ、刑獄ノ法モ一定セズ、異國ノ先王ノ法ヲ用ルニモ非ズ、公家ノ律ヲモ廢シ、何トナク一種ノ刑法有リテ、士民ノ罪ヲ治ム、律ノ中ニテ謀反、謀叛等ノ名目許、今ニ遺リテ餘ハ皆廢レタリ、今ノ風俗ニ、士ハ詐ヲ云ハズ、盗セザル者トイフニ定リ、惡口、打擲、蹴踏、束縛セラルヽヲ、大ナル耻辱トスル類ノコト有ルハ、吾國ノ武士ノ道ニテ、事ニ因テハ害ナルコトモ有レドモ、是則廉耻ノ道ナレバ、此風ヲ改メズ、是ニテ士風ヲ勵マシ、廉耻ヲ養フコト政治ノ便利也、サレバ刑ヲ行フ道モ、此風ヲ被ラザル樣ニ、刑法ノ條目ヲ少クシテ、至テ重キ罪ヲバ死刑ニ處シ、其餘ノ輕キ罪ハ、只其心ヲ媿シメテ、後ヲ戒ムル許ニテ有ルベキ者也、當代ノ法大形然ナリ、是却テ先王ノ古風ニ近クシテ、秦漢以後ノ、法律ヲ以テ士大夫ノ廉耻ヲ傷レルニハ勝レリ、况ヤ當代ハ海內封建ニテ、諸侯ハ國別ニ法度ヲ立テ治ムレバ、公家ノ世ノ如ク、一定ノ律ヲ以テ海內ヲ判斷センコト無用也、只アラマシニ刑法ヲ立テ、其立タル法ヲバ嚴密ニ行ヒ、其外ハ禮義廉耻ニテ士大夫ヲ責メ、仁恕ヲ主トシテ恩惠ヲ長クセンコト、今ノ世ノ便利ナルベシ、是則刑不ㇾ上二大夫一ノ意也、士以上ノ罪ヲ治ムル道ハ、是ニ過ル事有ルベカラズ

一 凡刑ハ本庶民ヲ治ムル道也、刑ヲ行フニハ嚴ヲ尙ブ、刑ノケ條少クシテ、是ヲ行フニ嚴ヲ以スレバ、庶民罪ヲ畏テ法ヲ犯サズ、是刑ノ益也、刑法ニ信ナク、名目許立テ、犯人有ルトキニ、法ノ如ノ刑罰ヲ行ハザレバ民法ヲ畏レズ、法ヲ立テ威シタルノミニテ、實ニ其刑罰ヲ行ハザルハ、法ナキト

同然也、サレバ商君ガ徒木ノ令ヲ出セル如ク、刑ヲ行フ道モ亦然ナリ、凡刑ヲ行フニハ赦トイフコトヲ禁ズ、赦ハ刑ヲ宥メ行ハザル也、今ノ世ニ、死罪ノ者ヲ人ノ請フニ因テ赦免スルコト有リ、是大ニ法ヲ亂ル也、死ニ當タル罪ナラバ、決シテ死刑ニ處スベシ、君ノ母妻、又ハ僧尼ノ請アリトモ、赦スコト有ルベカラズ、總ジテ國政ヲ行ハバ、刑罰等ノコトハ勿論ナリ、何ニテモ法ノ事ヲバ、内ヨリモ、外ヨリモ、是ヲ請フコトアルベカラズ、只執法ノ人ノ心任セニ法ヲバ行テ、人ノ請謁ヲ聽受クベカラズ、請謁トハ、今ノ世ニイフ願ヒ憑ミノ類ナリ、今ノ世ニ諸侯ノ國ニテ犯人アルヲ、其君ノ母妻ノ請ニ因リ、或ハ僧ノ請ニヨリテ、死罪ヲ赦テ僧トテルコトヲ許シ、或ハ死罪ヲ宥テ放逐シ、又ハ配流スル類アリ、是尤モ法ノ壞ルル本也、此類ノコトヲ堅ク禁止スベシ、平日ニ請謁ノコトヲ禁ゼザレバ、時ニ臨テ拒ミ難キ勢モアル者也、凡輕キ刑ニテモ、刑スベキニ定マリタル罪ヲバ、速ニ決斷シテ其當レル刑ヲ行フベシ、況ヤ死罪ハ決シテ死罪ニ處スベシ、如何ナル人ノ如何ナル請ニテモ、コレヲ赦スコトアルベカラズ、先王ノ道ヲ記シタル處ニ、殺ス罪ヲバ「殺無赦」ト書ケリ、殺スト計リ書テ已ムベキニ、下ニ無赦ノ二字ヲ着タルハ、赦スマジキコトヲ確ニ知ラセタル也、多ク赦ヲ行フハ、亂世ノ始也、君子ノ刑ヲ行フニハ、赦トイフ事決シテ無シト知ベシ

一日本ノ刑法ハ、公家ノ世ハ、淡海公ノ律ヲ用タリ、武家ノ刑法ハ詳ナラズ、當代ノ刑法ハ、士以上ハ改易、庶人ハ追放ヲ輕刑トス、改易トハ、祿俸ヲ褫ルヽ也、追放トハ、其人ヲ放逐シ、其財産ヲ沒

入スル也、追放ニ、禁錮スルト、禁錮セザルトアリ、禁錮トハ、今ノ世ニ行先ヲ構フトイフ是也、次ニハ流刑也、流ニ流遠近流アリ、次ニハ刎頸也、次ニハ梟首也、死刑ノ中ニ、只頸ヲ刎ル計リハ輕シ、首ヲ獄門ノ木ニ梟スハ重シ、次ニハ磔也、異國ノ磔ハ、死刑ヲ行テ、其屍ヲ路次ニ磔テ諸人ニ視スル也、此方ノ磔ハ、生ナガラ木ニ縛テ、槍ニテ刺殺ス也、此磔ハ前代ニナキ刑ナリ、吉利支丹ノ刑ニテ、百年以來、日本ニテ此刑ヲ用フ、本ハ天主教ノ徒ヲ刑スル法ナルヲ、今ハ常ノ犯人ニ是ヲ用ル也、當代ノ刑ハ、磔ヲ最重トス、士大夫以上ニハ、賜死ノ法有リ、賜死ナレバ自屠ス、自屠トハ、切腹也、已上當代ノ刑法、如レ是簡ニシテ條目少シ、簡ナルハ先王ノ法ニ近シ、然レドモ刑ヲ當ツルコト古ト大ニ異ナリ、盜スレバ死ニ處ス、其他ノ罪モ古法ニ死刑迄ニ不レ至コトヲ、今ノ法ニ死刑ニ入ルコトアリ、墨、劓、剕、宮等ノ刑法ナキ故也、又古ノ法ニ決シテ死刑ニ入ル罪ヲ、今ノ法ニハ一向ニ罪トモセズ、禁ゼザルコトアリ、又異國ノ古ヲ觀レバ、士大夫以上ノ者ヲ、罪ニ因テ殺セルコト多シ、先王ノ法ハ、簡ニシテ嚴也、今ノ世ニハ士大夫ヲ殺スコト甚少シ、異國ノ古ニ較レバ、刑法慢キ也、今ノ政ヲ以テ三代ノ古ヲ觀レバ、虐政トモ云ベキ程ノ事也、古ノ政ハ虐政ニ非ズシテ、今ノ世ニ失刑多キ也、失刑トハ、殺スベキヲ不レ殺、可レ刑ヲ不レ刑ヲ失刑トイフ、又今ノ刑ハ、死刑ノ外ニ、墨、劓、剕、宮等肉刑ナキ故ニ、殺スニ及ブマジキ罪ヲ死ニ處スルコト多シ、是慘刑也、若慈仁ノ人、此死刑ヲ慘刑ナリト思テ、是ヲ宥ントスレバ、宥ルニハ非ズ、赦スニナル、赦シテハ刑法立タズ、刑ハ不レ上ニ大

夫トイフ古制ニテ、刑ハ小人ヲ治ムル法也、小人ハ耻ヲ不レ知、法ヲ畏レズ、罪ヲ悔マズ、懲ベキコトニモ懲リザル者ナリ、サレバ或ハ笞杖ニテ數百扶レテ、頓ニ氣絶スル程ノ苦痛ヲ受テモ、其時ヲ過レバ程ナク忘ルヽハ小人ノ心也、況ヤ暫牢獄ニ入リ、又ハ桎梏ヲ被リ、或ハ追放セラレ、或ハ髠首セラル計リノ輕キ罪ニテ、其身ニ瘢ノ着カヌ刑ナレバ、懲ルヽ心起ラズ、他ノ小人是ヲ見テモ、只常ノコトト思ヒテ、身ノ戒トスル意ナシ、肉刑ハ少ニテモ身ニ誌ノツク刑ナル故ニ、一時ノ痛苦ハイカニモシテ忍ブベキガ、永ク其身ニシルシヲ着ラルヽコト、姦宄ノ心ニモ是ヲ痛マザルコト有ルベカラズ、聖人ノ法ヲ用テ惡キコトハナシ、肉刑ハ、聖人ノ小人ヲ治メ玉ヘル法也、今ノ世迚モ是ヲ行ハンニ、何ノ憚ルコトカ有ンヤ、當代ノ諸侯ノ中ニモ、遠國ニハ黥、劓、刵、刖抔ヲ行フ處アリト聞ケリ、願クハ海內皆カクアラマホシキ事也

一「罪人不レ孥」トイフハ、文王ノ政也、「父子兄弟罪不二相及一」トモ云ヘリ、犯人ノ罪ハ、輕キコトナリモ、父子兄弟謀ヲ合セテ犯シタル罪ハ、父子兄弟同罪也、重キ事ナリトモ、父一人ノ罪ニテ、子ハ是ヲ不レ知、兄一人ノ犯罪ニテ、弟ハ是ヲ不知ハ、父兄ノ罪ヲ子弟ニカクルコトナシ、是先王ノ道也、參夷トテ、父母妻ノ三族ヲ滅スル刑ハ、戎狄ノ俗ヨリ起リテ後世ノ事也、日本ニハ昔ヨリ三族ヲ夷スル刑ハナケレドモ、今ノ世ニモ重キ罪ハ、子ニ及ビ弟ニ及ブ、幼稚ナル者ヲモ誅スルコトアリ、是亦慘刻也、仁政ニハ決シテ此事有ルベカラズ、其父其兄犯罪アリトモ、其子其弟罪ナクバ、刑ヲバ施スマジ

キ者也、又父死刑ニ當レバ、其子流サル、若幼稚ナレバ、十五歳ニナルヲ待ツテ流ス、其間ニ僧家ヨリ請ヘバ、剃髪シテ僧トナルコトヲ許サル、此法ハ、子ノ刑ヲ父ニ一等輕クセラルレドモ、是モ父子相及ノ類也、反逆ノ類ハ、至テ重キ姦惡ナレバ、子孫ヲ絶サルヽコトモ有ルベシ、反逆不軌ノ類ニ非ズシテ、國家ニ係ラヌ犯罪ナラバ、父死ストモ、子ヲバ問ハザルベシ、問ハズトハ、カマハヌ義ナリ、况ヤ幼稚ナル者ハ無知ナレバ、殊ニ罪ナシ、先王ノ法ニモ、後世ノ律ニモ、老人ト小兒トハ罪ヲ犯シテモ罪ニ處セズ、凡賞ハ子孫ニ及ボシ、罰ハ其身ニ止マル、古先聖人ノ道也

一 民ノ姦惡ヲ禁ズルハ、首告連坐ノ法ヨリ便ナルハナシ、是先王ノ道ニハ非ズ、秦ノ商鞅ガ法ナリ、嚴刻ナル法ナレドモ、末世ニハ便利也、首告トイフハ、今ノ世ニ云フ訴人也、犯人ノ與黨ノ中ヨリ其姦ヲ告ルヲ、首トイフ、他人ヨリ告ルヲ告トイフ、畢竟皆訴人也、連坐トイフハ、今ノ世ニ云フマキゾヘ也、一人ノ犯罪ニテ、數多ノ人其罪ヲ受ルヲ、連座トイフ、凡下民ノ姦惡ハ、上ニテ知難キ者ナリ、上ヨリ號令ヲ出シ、數多ノ小吏ニ命ジテ捜索シテモ、知レ難キ處ヲ、下ヨリ首告セシ者ヲバ、賞セントイフ法令ヲ出セバ、必知レ易シ、扨首告シタル者ヲバ、犯人ノ與黨ナリトモ、其罪ヲ赦シテ、犯人ノ財産ノ半ヲ與テ賞トス、財産トハ、財ハ家財ナリ、産ハ農人ノ田園、商賈ノ貨物ナリ、犯人ノ財産ヲ二ツニ分テ、半分ヲバ、訴人ニ與ヘ、半分ヲバ沒入ス、沒入トハ、今ノ世ニイフ闕所也、犯人若貧者ニテ財ナケレバ、上ヨリ金錢ヲ出シテ首告ノ者ニ與フ、是古法也、首告ヲ賞スル法ヲ立ル

ハ、民ノ姦惡ヲ知ル術ニテ、又則チ姦惡ヲ止ル術也、當代ニ天主敎ヲ禁ズルコト甚嚴ニシテ、天主敎ノ伴天連、イルマン等ヲ首告セシ者ニハ、許多ノ銀ヲ賜ヒ、其黨與ナリトモ、其罪ヲ赦シタマハントイフ法令ヲ立ラレタリ、是首告ノ法也、天主敎海內ニ絕テナキハ、此法ノ効也、他ノ制禁ニハ、是ホドノ法令ナキ故ニ、時々ニ犯ス者アリ、「連坐ノ法ハ、何ニテモ嚴ニ禁ズベキコトニハ、連坐ノ法ヲ立テ、犯人ノ隣伍、其處ノ父老迄ニ罪ヲ係テ、重ク輕クソレ〴〵ニ刑罪ヲ行フ、隣伍トハ、今ノ五人與也、賃房ノ者ナラバ、其宅主地主ニモ罪ヲ係ベシ、總ジテ民ノ姦惡ヲバ、近隣ノ者ナラデハ知ルコトナシ、連坐ノ法アレバ、隣伍ノ中ニ必法ヲ畏ル、老實ナル者有リテ、其姦ヲ知レバ、敎訓シテ惡ヲ止シムルコトアリ、敎訓ヲ受ケザレバ、已ムコトヲ得ズシテ言上ス、若言上セザレバ、姦ヲ隱ストイフ罪ニテ、犯人ノ罪ニ連坐ス、是又民ノ姦ヲ知リ、姦ヲ止ル術也、此首告連坐ノ法ハ、戰國ノ時、商鞅等ガ創タルコトニテ、先王仁恕ノ政ニハ有ラネドモ、衰世ヲ治ムルニハ、甚便利ナル術也、此法ニテ民ノ姦惡ノ止マザルコトナシ、是ニテ姦惡ノ止マザルハ、法ニ信ナキ故ナリ、首告セル者ヲバ、法ノ如クニ賞ヲ行ヒ、姦ヲ隱セル輩ヲバ、少モ宥免ナク、定タル如ク連坐シテ、刑罰ヲ受シムル、是法ノ信也、若法ヲ立タルノミニテ、實ニ行ハザルハ、法ニ信ナク、上ヨリ民ヲ欺クトイフ者也　上ヨリ民ヲ欺ケバ、民モ亦上ヲアザムク、上ト下ト相欺クハ、政ノ行ハレザル端ニテ、國ノ亂ル、本也「民無レ信不レ立」ト、孔子ノ曰ヘリ、悉ク信ヲ立ツベキ也、姦人ヲ搜索シテ得難キニハ、都門ニ金ヲ懸ルコトアリ、

異國ニテハ購スルトイフ、購ハタノム意ナリ、此方ノ今ノ俗ニハ囑託トイフ、囑託ハ、人ニアツラヘタノム意ナリ、購ノ義ニハ非ズ、誤レル名目也、凡金ヲ懸テ購スルハ、セン方ナキ時ノ事也

一 漢ノ趙廣漢潁川ノ太守トナリシニ、潁川ノ郡中ニ豪傑朋黨シテ政ヲ害スル者アリ、廣漢缿筩ヲ造テ吏民ノ投書ヲ受タリ、缿筩ハ、瓶壺ノ如クナル器ニテ、小キ孔アリ、文書ヲ入テ出サレヌ様ニ作レル物也、郡中吏、又ハ細民ノ中ヨリ、彼ノ豪傑ノ黨ヲ結デ政ヲ害スル者ノコトヲ書テ、太守ニ告ベキ爲ニ設タル也、唐ノ則天ノ時、朝堂ノ上ニ、匭トイフ匣ヲ四ツ置テ、臣下ノ上表ヲ受タルモ、缿筩ノ意也、凡官吏ノ姦惡ヲバ、民間ヨリ首告シ難キ故ニ、缿筩ヲ以テ投書ヲ受ル也、古ノ先王ハ朝廷ニ誹謗ノ木ヲ建テ、政ヲ誹謗セント思フ者ハ、其言ヲ彼ノ木ニ書付シトカヤ、後世ハ其事ナキ故ニ、缿筩ノ類ノコト出來ル也、衰世ノ政ニハ、是モ便ナルコト有リ、サレドモ小々補ノミニテ、大ナル益アルニ非ズ、享保年中、評定所ノ門外ニ、一ツノ木函ヲ置テ、民ノ投書ヲ受玉フ、缿筩ノ遺意也

一 今ノ世ニ輕罪ノ者ヲ追放スル刑アリ、追放ノ中ニ、少重キ者ヲバ、行先ヲ禁錮シテ、都會繁華ノ地ニ居ルコトヲ許サズ、此刑國政ニ害アリ、子細ハ、追放セラレタル者ハ、產業ニ離テ飢寒身ニ迫ル故ニ、多クハ盜賊ノ類トナル、其中ニモ、當所ヲ追出サレタル計ニテ、他所ヲ禁錮セラレヌバ、遠方ノ都會繁華ノ處へ往テ、生業ヲ營ム方アリ、然ルヲ都會ノ地ヲ禁錮セラルレバ、是非ナク邊部ニ隱ルヽナリ、邊部ニテハ生業ノ營ナリ難キ故ニ、自ラ姦惡ノコトヲナシテ、人ノ害トナリ、其處ノ患トナル、

ケ樣ノ類所々ニ多クナレバ、後ニハ黨ヲ結ビ群ヲ成テ、或ハ強盜ヲナシ、或ハ山賊海賊ヲナス、畢竟亂ノ端トナル也、國政ヲ執ル者ハ、是ヲ慮ルベキナリ、總ジテ刑ヲ行フ道ハ、殺スベキ罪ナラバ、決定シテ殺スベシ、何樣ノ義ニテモ、赦免スルコトアルベカラズ、サテ殺スマデニ及バザル罪ナラバ、流スベクハ流スベシ、流スニモ及バザル輕キ罪ナラバ、鼻ヲ截リ、耳ヲ截リ、足ヲ斷チ、黥シテナリトモ、其處ニ居ラシメテ、生業ノ營ミヲナササシムベシ、サモ有レバ、飢寒ノ苦ミナキ故ニ、自ラ惡事ヲナサズ、況ヤ一タビ刑ヲ被リテハ、懲ル、心モ起レバ、彌罪ヲ畏テ、恒ノ心ヲ生ズル也、古ノ刑法ニ、墨、劓、刵、宮ノ刑人ヲ夫々ノ役ニ使シハ、此義也、民ニハ本來戶籍トイフコトアリテ、其處ノ人別帳ニ名ヲ書シテ、其地ヲ離レザル者也、戶籍ヲハナレ、其處ヲ迯テ、他所ニ漂泊シ、或ハ姓名ヲカヘ、形ヲ變テ、匿ルル者ヲ亡命トイフ、亡命ノ者ハ、必惡事ヲナスコト、異國モ吾國モ替ルコトナシ、亡命トイフハ今ノ世ニ云フ宿ナシトイフ者ノ類也、追放スルハ、人ヲ宿ナシニスル道也、殺サズシテ追放スルハ、仁ニ似タレドモ、生シタル計ニテ、宿ナシニナシテ、飢寒困窮サスルハ、却テ不仁也、此處ニテ人ノ害ニ成タル者ヲ追逐スレバ、他處ニ往テ人ノ害トナル、是則疾ヲ人ノ地ニ棄ルイトフ者ニテ、古ノ孫叔敖ガ兩頭ノ蛇ヲ殺シテ埋タルト相反ス、不仁ノ至リ也、異國ニハ古ヨリ今ニ及テ此刑ナシ

一　今ノ世ニ人ヲ殺セル者ハ、曲直ヲ論ゼズ、必死刑ニ處ス、盜ヲナシ、或ハ官吏抔ノ贓罪有ルモ、多クハ死刑也、然ルニ人ヲ殺セル者、若シ士大夫ノ家、又ハ諸侯ノ門ニ走入レバ、其主人此者ヲ匿シテ、出

サヾルヲ義トス、是任侠ノ風ニテ賴シキ事ナレ共、國家ノ政ニハ大ナル害也、美事トスベカラズ、必堅ク禁止セラルベキ事ナリ、上ヨリ禁ゼザル故ニ、世ニ人ヲ殺ス者多シ、人ヲ殺シテハ、決シテ死スル法ト定テ、如何ナル事ニテモ、生ル理ナキ事ヲ海内ノ人ニ知シムベキ者也、「窮鳥入レ懐、仁人所レ憫」トイフ語アレ共、此義ニハ非ズ、窮鳥入レ懐ト云ハ、罪ナキ鳥ノ鷹ニ追ハレ、或ハ人ニ追ハレテ、困窮シテ人ノ懐ヘ飛入ル也、其人是ヲ愍ムハ人情也、惻隱ノ仁心也、人ヲ殺タル者ヲ救ハ、窮鳥ヲ愍ム類ニハ非ズ、畢竟人ヲ殺セル者ニ黨スル也、士大夫ノ中ニテハ、任侠モ惡キ事ニハ有ネ共私ニ人ヲ殺スハ不仁不義也、然ヲ其人ヲ匿スハ不仁不義ニ與スル也、是ヲ禁制セザルハ國家ノ失刑ニシテ政ノ害也、又或ハ寺院ニ走入バ寺院僧是ヲ匿シ、或ハ官ニ請ヒ或ハ君主ニ請事有、多クハ赦免ヲ被ル、常ノ人家ニテ盜賊ヲ匿セバ多ハ同罪ニ處スルヲ、僧家ニ匿セバ同罪ノ刑ナキノミナラズ、却テ其請ニ因テ犯人ヲモ赦免ス、是甚道理ニ背ケル事也、況ヤ人ヲ殺セル者ヲ寺院ニ隱シタル迚赦スベキ義ナシ、殺生偸盜ハ佛法ニモ大戒トス、人ヲ殺シ盜シタル者ヲ、慈悲ノ家ナレバ迚、僧ノコレヲ隱スベキ義モナシ、兎ニモ角ニモ此等ノ類ヲバ上ヨリ嚴禁シテ、凡犯人ヲ匿シタル者ハ必連坐同罪ト云法ヲ立ラルベキ也、今ノ世ニ此禁ナキ故ニ姦惡ノ者、萬一ノ活路ヲ僥倖シテ、法ヲ犯スコト日ニ多シ、是政ノ大害也

經濟錄卷第八 終

經濟錄卷第九

制度

一　凡天下國家ヲ治ムルニハ、萬事ニ於テ制度ヲ立ルヲ先務トス、制度トハ萬事ノ法式ヲ定ルヲイフ、制度ノ二字ヲ分テ云ヘバ、制ノ字ハ、ツクリト訓ズ、制作ト屬ク字也、天下ノアラユル事物ニ、其シカタコシラヘ樣ト云フコトアル、是制也、度ノ字ハ、ノリト訓ズ、法ノ字ノ意ニテ、法度ト屬キ、又節限ノ義ニテ節度ト屬ク、本ハ丈尺ヲ度トイフ。常ニ云フモノサシ也、丈尺ヲ以テハ物ノ大小長短ヲ度ル故ニ、是ヲ度トイフ、天下ノアラユル事物ニ長短大小ノ節度有ルヲ度トイフ、サレバ制度トイフハ、且一物ノ上ニテ云ヘバ、其物ヲ作ルニ法式アルハ制也、大小長短ノ寸法アルハ度也、天下國家ヲ經營スルニハ、其初ニ萬事ノ制度ヲ立テ、永々ニ遺シ、イツ迄モ是ヲ改メズ、上下共ニ堅ク守ルベキ也、法令ヲ出シ、賞罰ヲ行フモ、本來國家ニ定マレル制度ナケレバ、萬事ニ的ナク、カネアヒ知レザル故ニ、法令モ立チ難ク、賞罰モ行ヒ難シ、昔先王ノ天下ヲ治玉ヒシニハ、禮樂ヲ作リ、官職ヲ定ムルヲ制度ノ治トシテ、萬事ニ制度ヲ立玉ヘリ、秦漢以後ハ天下郡縣ニテ、先王ノ世ト替レルコト多ケレ

ドモ、何レノ代ニモ制度立ズトイフ事ナシ、日本モ公家ノ世ニハ、萬事ニ制度アリ、律令格式等ノ書ハ、皆制度ノ書ナリ、武家ノ世トナリテハ、公家ノ制度ヲ用ヒズ、サレバ迚、別ニ制度ヲ立ルニテモナク、只自然ノ勢ニテ、事ノナリユクニ任セテ、下ヨリナシ治ムルコトヲ國家ニ用テ、是ヲ當時ノ制度ト思ヘル也、鎌倉ヨリ室町ヲ歴テ、織田氏、豐臣氏ノ世迄皆然ナリ、當代ハ天下ノ治平ナルコト、前代ニ超タレバ、如何ニモ制度ヲ立ラルベキ儀ナレドモ、戰國ノ餘習ニテ、因循苟且ノ政ヲ便利トスル風ナレバ、上モ下モ制度ニ心ヅカズ、何ニテモ事ノ出來ルニ隨テ、時宜ヲ度テ行フノミ也、サレバ朝廷日々ノ行事ヨリ、諸侯卿大夫士庶人マデ、平日ノ事務ニ於テ、國家ノ制度ゾト思ヘルコトドモ、多クハ皆下ヨリナシ始タルコト也、總ジテ當代ノ國家ニハ、制度トイフベキコトナシ、但代々登極ノ初ニ、武家法度トイフ者十七條ヲ出シテ、海內ニ示サルヽヲ條目ト稱シテ、海內ノ人愼守ル也、其餘何ニテモ定マレル制度法式アルコトヲ見ズ、コレ國家ノ大闕典也、今愚意ヲ以テ考テ、國家ノ事ノ中ニ、制度無クテ叶ハザル重キコト數箇條ヲ擧テ左ニ錄ス

一 先王ノ天下ヲ治メ玉ヘルニハ、孝ヲ本トス、孝道ノ要ハ、喪服ヲ制スルニアリ、吾國ニモ古ニハ喪服アリ、フヂ衣トイフ服ヲ着テ、百日或ハ一年モ閉籠リ居タリ、イツノ比ヨリカ喪服廢レテ、今ノ世ニハ服トイフ名目バカリ遺レリ、殊ニ今ハ忌服モ、上ハ伯叔父ヲ限リ、下ハ姪ヲ限リ、傍ラ從父兄ヲ限テ、從祖父母ヨリ以上、姪孫ヨリ以下、再從兄弟ヨリ以外ニハ、忌服ナシ、是ニ因テ今ノ人ハ、再

從兄弟ナドヲバ、他人ノ如ク思ヘリ、人倫恩情ノ薄キコト、今ノ世ヨリ甚シキハナシ、竊ニ願クバ、喪服ノ議ヲ興シ、異國本邦ノ古制ニハ非ズトモ、今ノ時俗ニ宜キ様ニ制度ヲ立テ、海内ノ人民ニ孝道ヲ敎ヘ、人倫ノ恩情ヲ長クセラレバ、大幸ナラン、餘ハ前ノ禮樂ノ篇ニ見エタリ

一　人ハ氏族ヲ重ンズル者也、氏族トハ、今ノ世ニ云フ苗字也、氏族ハ人ノ種ヲ分ル者ニテ、先祖ヨリ傳フル者ナレバ、子々孫々永代ニ是ヲ守テ、如何ナルコトニテモ變改スベカラザル者也、或ハ己ガ苗字ヲ他人ニ與ヘ、或ハ己ガ苗字ヲ棄テ、他人ノ苗字ヲ冒スハ、皆先祖ヲ棄ル道理ニテ、大不孝也、異國ニハ本ト此事無カリシニ、漢ノ高祖ノ時ニ、婁敬トイフ賤キ者ニ劉氏ノ姓ヲ賜テ、劉敬ト稱セシメラレシヨリ、後世ノ帝王、臣下ニ國姓ヲ賜フコト多クアリ、唐ノ太宗ノ徐世勣ニ李氏ノ姓ヲ賜シガ如キ、即チ漢ノ劉敬ガ例也、國姓トハ、天子ノ姓也、日本ニハ、公家ノ世ヨリ武家ノ世ニ及ブ迄、國姓ヲ賜フコトナカリシニ、豐臣氏ノ時ニ至テ、諸將ニ羽柴ノ氏ヲ賜ヘル、是臣下ニ國姓ヲ賜フ始也、當代是ニ倣テ、諸侯功臣ニ松平ノ氏ヲ賜フ事多シ、加賀侯ハ前田氏、薩摩侯ハ島津氏、仙臺侯ハ伊達氏、筑前侯ハ黑田氏、安藝侯ハ淺野氏、佐賀侯ハ鍋島氏、長門侯ハ毛利氏、備前侯、因幡侯ハ並ニ池田氏、阿波侯ハ蜂須賀氏、土佐侯ハ山内氏ナルニ、皆松平ヲ賜ヘリ、已上ノ諸侯ハ當家譜第ノ臣ニ非ズ、前代ノ豪傑ノ歸降セル者ナル故ニ、彼等ヲ親ミテ同姓ニ准ゼラルル上意ニテ同姓ヲ賜ヘル也、南松山侯ハ久松氏ナルガ、東照宮ノ同母異父ノ弟ナリシ故ニ、恩ヲ厚クシテ親兄弟ニ准ジテ、松

平氏ヲ賜ヘル也、今ノ松本侯ハ、累世丹波守ト稱ス、本姓戸田氏ナルニ、昔松平氏ヲ賜ヘルハ、何ノ故トイフコトヲ知ラズ、憲廟ノ時、柳澤保明ニ嬖幸ヲ以テ國姓ヲ賜ヒ、本庄宗資ニ外戚ヲ以テ國姓ヲ賜ヘルハ、過擧也、國姓ヲ賜ハル者多キコト、當代ノ如キハ、異國本邦ニ未コレヲ聞カザル故ニ、此風ノ下ニ移リテ、諸侯ハ臣下ニ其苗字ヲ賜ヒ、藝術ノ家ハ、弟子ニ其苗字ヲ與ル者多シ、氏族ヲ亂ル事是ヨリ始リテ、骨肉ノ親族ヲ他人ノ如ク思ヒ、他人ヲ骨肉ノ如ク思フ異風俗ヲナセリ、サレバ今ノ人ハ己ガ家ノ苗字ヲ棄ル事、敝レタル屣ヲ棄ルヨリモ易シ、夷狄ノ風俗トイヒナガラ、古ハカク有ラザリシニ、今ノ世如レ此ナル故ニ、同姓異姓ノ別モナク、親戚他人ノ辨モナシ、或ハ故モナクテ母ノ姓ヲ冒シ、或ハ四十一歳ニテ生タル子ヲバ、其家ニテ育ハズ、他人ノ子トナシテ其姓ヲ冒サシムル類ノ事、種々ノ惡俗皆是ヨリ出タリ、必是ヲ改テ、諸侯ハ云フニ不レ及、士大夫庶民迄氏族ヲ正クセラレンコトアラマホシキ也、是又下ノ姦惡ヲ止ル一ツノ道也

一　異姓ノ人ノ子ヲ取テ、養子トナシテ世ヲ繼シムルハ、夷狄ノ俗ニ有ルコトニテ、聖人ノ國ニハ決シテナキコトナリシニ、周ノ世ノ末ニ、鄫國ノ君ニ繼嗣ナクシテ、莒國ノ君ハ鄫ノ君ノ壻ナル故ニ、莒ノ君ノ子ハ鄫ノ君ノ外孫ナルヲ取テ、鄫國ヲ嗣シメタリ、然ルヲ孔子ノ春秋ニ、莒人滅レ鄫ト書セ玉ヘリ、外孫ハ女ノ他人ニ嫁シテ生タル子也、是ヲ取テ世ヲ繼シメタレバ、鄫國ノ血脈ハ絶タリ、莒國ノ君ハ子ヲ遣シテ、妻ノ父ノ國ヲ繼シメタレバ、鄫國ヲ滅却シタル罪也、莒人滅レ鄫ト書セ玉ヘルハ、莒

國ノ君ヲモ、大夫ヲモ重ク罪シ玉ヘル意也、此一事ヲ以テ聖人ノ戒ヲ知ルベシ、イツトテモ異姓ノ子ヲ取テ、子トナシテ國家ヲ繼シムルハ、先祖ノ血脉ヲ斷絕スルナリ、鄙國ノコトハ古ニ稀ナルコトニテ、其後ハ似タル類ノコトモ見エズ、漢ノ呂太后、惠帝ニ子ナキコトヲ患テ、竊ニ人ノ子ヲ取テ、惠帝ノ子ト詐シハ、養子ノ類ニハ非ズ、漢ノ世ノ末ヨリ、人ノ子ヲ養テ子トスルコト稍々起レリ、實ハ夷狄ノ風ノ及ベル也、後世ニハ、此事漸々多クナリタレドモ、民間ニハ多キ事ニテ、士大夫以上ニハ甚稀也、明ノ代ニハ、此事ヲ禁ジテ律ニ其刑ヲ出セリ、聖人ノ戒ヲ奉ジテ、人倫ヲ重ンズル故也、日本ニモ、古ハ此事ナカリシガ、中古ヨリ稍々始マレリ、然レドモ近代迄ハ猶稀ナリシニ、當代ニ及デ此事甚ダ多シ、倫理ヲ壞リ、國政ヲ害スルコト、是ヨリ大ナルハナシ、凡同姓ノ親族ハ、縱屬ナクナリ、如何程遠クナリテモ、皆太祖ノ子孫ニテ、其骨肉ノ遺ナレバ、今日己ニ子ナキ時ニ、是ヲ取テ繼嗣トスレバ、父祖モ我モ皆其祭ヲ饗ル也、左傳ニ、「神不レ歆二非類一、民不レ祀二非族一」トイヘリ、如何程誠敬ヲ盡シ、美膳ヲ獻ジテモ、血脉ノ異ナル者ノ祭ヲバ、鬼神饗ケズトナリ、祭ヲ饗ザレバ、其神靈ハ、食ヲ得ズシテ餒ル也、後ナキヲ三不孝ノ第一也ト孟子ノ云リシハ、此義也、然レバ我ガ家ヲ嗣ベキ子孫ナクバ、同姓ノ親族ノ中ヲ尋テ、然ルベキ者ヲ養テ子トナシテ、先祖ノ後ヲ嗣シムベシ、是眞ノ養子也、若同姓ノ親族一人モナクテ、繼嗣トスベキ者ナキハ、是則天ヨリ其家ヲ滅却スル也、天ヨリ滅スニ至テハ、誰ヲ怨ムベキ樣モナシ、安ンジテ天命ヲ受クベキ也、決シテ他人ヲ養フコ

ト有ルベカラズ、此事ハ上ヨリ嚴ニ禁ゼラルヽニ非ズシテハ止マザルベシ、今ノ世ニ此事ノ禁制ナキ故ニ、子ヲ多ク持タル者ハ、長子一人ヲ置テ、次ノ子ヨリ下ヲバ、悉ク他人ニ與テ人ノ家ヲ取シム、男子一人モナキ者ハ、同姓ノ親族ハ捨テ、或ハ權勢ヲ求メ、或ハ金ヲ貪テ、異姓ノ子ヲ取テ繼嗣トス、子ノ多キ者モ、長子ノ外ヲバ皆々他人ニ與テ、若不幸ニシテ其長子死スレバ、又他人ヲ取テ繼嗣トナス、諸侯以下此類少カラズ、愚惑ノ至リ、不孝莫大也、殊ニ今ノ武家ハ、貧窮ヲ苦ム故ニ、他人ノ子ヲ養フ程ニテハ、必金ヲ求ム、是ニ因テ卑賤ニテ富ル者ハ、此時ニ乘ジテ金ヲ出シテ、其子ヲ士大夫ニ養ハシメ、數百金ヲ以テ田祿アル士大夫ノ家ヲ取ル、國初以來軍功忠勤ヲ以テ、祿ヲ世ニシタル家ヲ、筋ナキ下賤ノ者ニ取ラシムル類、幾百千人トイフ數ヲ知ラズ、下賤ノ者ノ利ヲ貪ルハ論ズルニ足ラズ、士大夫タル者ノ此姦惡ヲナシテ、上ヲ欺クハ何事ゾヤ、是異姓ノ養子ヲ禁ゼラレザル故也、歎カシキ事也

一 人倫ハ夫婦ヨリ始マル、夫婦ノ道ハ、婚禮ニ由テ成就ス、古ノ聖人婚姻ノ始ヲ重ンジテ、婚禮ヲ制シ玉ヒ、男女ノ別ヲ明ニシ、人倫ヲ正シクシ玉フ、其義ハ六經ニ詳ナリ、其禮ハ古ト今ト異國ト本邦ト大ニ異ナレドモ、婚禮ノ本意ハ、配ヲ擇ブニアリ、配ハ配偶、配匹ノ義ニテ、和訓ニナラブト訓ズ、夫婦ハ相並ビ相對スベキ者ナル故ニ、是ヲ配トイフ也、夫婦偶配宜カラザレバ、家内治マラズ、家内治マラザレバ、親族和セズ、臣下僕從奴婢迄モ、其主ヲ輕シメテ、禍亂是ヨリ起ル也、配ヲ擇ベト

イフハ、我ニ宜キ配偶ヲ査點シテ求ル也、配偶ノ宜キトイフハ、第一ニ徳也、徳トハ性行也、人ニハ氣質サマ〲ノ不同アリ、平日ノ行狀モ、性質ニ隨テ樣々ナリ、夫婦ハ一生ノ友ナレバ、氣質相稱テツリ合ノ好キヲ求ムベキ也、相稱フトハ相應スルヲ云フ、氣質相稱ハザレバ、閨門ノ内不和ニシテ、夫妻反目トイフコト出來ル也、反目トハ、尻眼ニカケテ視ル也、第二ニ年齡也、夫婦ニハ年齒ノ相應アリ、夫ハ年長ケ、妻ハ年少カルベキコト勿論ナレドモ、夫ノ年甚長テ妻ノ年甚少キハ宜カラズ、多クハ内亂ヲ生ズル也、周易ニ、「老夫得二其女妻一」ト云ル是也、又妻ノ年夫ヨリモ長タルハ、逆ナル事ニテ、外ヨリ見ルモ看惡シ、且閨門ノ和セヌ端也、周易ニ、「老婦得二其士夫一」ト云ル是也、此二ツハ年ノ相應ヲ擇バヌヨリ起ル事也、第三ニ婿ト婦ト、兩家ノ門弟、祿位ノ相當ヲ擇ブ也、門弟トハ、人ノ家筋、身上ノ大小也、是ヲ門弟トモ門地トモイフ、士大夫ニハ家筋アリ、祿位アリ、壻ト婦ト門弟祿位ノ相當セルヲ求ムベキ也、諸侯ハ國ヲ享テ、代々相傳スル者ナレバ、其種姓ハ明白也、但國ニ大小アリ、爵位ニ尊卑アリ、婚姻ヲ結バヾ、大國ハ大國ヲ求メ、小國ハ小國ヲ求メ、爵ノ尊トキハ尊トキヲ求メ、爵卑キハ卑キヲ求ムベシ、士大夫ハ家筋ニサマ〲アルモノナレバ、コレヲ撰ブコト肝要也、次ニ祿ノ厚薄、位ノ高下ヲ分別シテ、相當スルヲ求ムベシ、畢竟士ハ士ト婚姻ヲ結ビ、大夫ハ大夫ト婚姻ヲ結ブベシ、然レドモ大夫ハ士ヨリ進ム者ナレバ、今日ハ士ナレドモ、他日ニ大夫トナルマジキニモアラザレバ、事ニ因テハ大夫ト士ト婚姻ヲ結ブモ害ナシ、諸侯以下ノ人此擇ビヲ忘テ、相當セザル者ト婚姻ヲ結ベバ、種々ノ害ア

リ、壻ノ家勝リテ、婦ノ家劣レバ、壻ノ方ヨリ婦ヲ侮ル心起リ易シ、婦ノ家勝リテ、壻ノ家劣レバ、婦ノ方ヨリ壻ヲ輕シムル心起リ易キ故ニ、何レモ閨門ノ和セヌ道也、殊ニ婦ノ家富貴ニテ壻ノ家貧賤ナレバ、事ニ觸テ壻ヨリ妻ノ家ニ諂ヒ屈ミ、或ハ夫トシテ妻ヲ懼ル、心アリ、是丈夫ノ操ヲ失フ、淺マシク口惜キ事也、昔鄭ノ公子忽トイフ者ハ、鄭國ノ君ノ子ナリシガ、齊國ノ爲ニ功有リシヲ、齊ノ君悅デ、女ヲ是ニ妻アハセント云シニ、公子忽辭シテ、鄭ハ小國也、齊ハ大國也、吾耦ニ非ズト云テ命ヲ受ザリシト、左傳ニ見エタリ、是ヲ以テ其世ニモ、公子忽ヲ賢ナリト譽タリ、已上三ツノ擇ビハ、婚姻ヲ結ブ上ノ大道也、色ヲ好ミ財ヲ貪ルハ、小人ノ道ニテ、士大夫ノ事ニ非ズ、妓女ヲ畜ヒ、若ハ妾ヲ召使フニハ、色ヲ擇ブモ可也、妻ヲ娶ルニ色ヲ擇ブコト有ルベカルズ、財ヲ貪テ我ニ相當セヌ富家ノ女ヲ娶ルモ、大夫ノ節ニ非ズ、文中子ガ言ニ、「婚娶論財、夷虜之道也」トイヘルハ名言也、財ヲ論ズルトハ、財ノ多少ヲ評論スル也、夷虜ハ、エビス也、夷虜ノ道トハ、中華ノ君子ノ道ニ背ケルコトヲ云ヘル也、民ノ婚娶ハ云フニ足ラズ、士大夫以上ハ、配ヲ擇ブベキコト肝要ナレバ、上ヨリ堅ク制度ヲ立テ、專一ニ配ヲ擇バシメラルベキ事也、況ヤ士大夫以上ハ、婦ヲ娶リ女ヲ嫁スルニ、必上ニ告シテ許可ヲ受テ、嫁娶スル法ナレバ、相當不相當ハ、上ヨリモ査黠アルベキ事也、其中ニ若詐ヲ設テ上ヲ欺ク者アラバ、嚴科ニ處セラルベシ、是人倫ヲ正シクスル道也、今ノ世ニ此制度ナキ故ニ、士大夫ノ中ニ色ヲ好ミテ、或ハ妾子ヲ娶リ、或ハ妓女ヲ妻トスル者アリ、財ヲ貪リテハ、農工商賈、

其外サラヌ卑賤ノ者ノ女ヲ娶リ、多クノ金ヲ取ル者アリ、殊ニ今ノ士大夫ハ、貧ヲ苦ムコト身ニ切ナル故ニ、妻ヲ娶ルニ因テ、數十百兩ノ金ヲ取テ當前ノ急ヲ救ヒ、其金盡レバ其ノ妻ヲ虐グ、其妻苦ミニ堪兼テ出去ンコトヲ請ヘバ、幸トシテ妻ヲ還シテ、金ヲバ還サズ、又他ノ富家ノ女ヲ娶テ、又前ノ如クスルコト數度ニ及ブ者アリ、不仁不義無禮無度是ニ過ルハナシ、諸侯ノ中ニモ、小國ノ君大國ノ婿トナリ、其澤ヲ受テ諂ヒ屈ム人アリ、又小國ノ君ノ中ニハ、貧ヲ苦ミテ婦ヲ娶ルニハ、必金ヲ求ル人甚多シ、廉恥ノ壞レ是ヨリ大ナルハナシ、凡是皆配ヲ擇ブノ制度立タザル故也、異國ニテ南齊ノ世ニ、東海ノ王源トイフ者ハ、數代高位ニ陞リタル家ニテ、其身モ通侯トテ諸侯ノ列也、滿璋之トイフ者ハ、富陽ノ富人ナリシガ、族姓勝レザル者也、璋之ガ子ニ鸞トイフ者アリ、王源ニ女アリ、璋之是ヲ聘シテ其子ノ婦ニセントテ、劉嗣之トイフ者ヲ媒トシ、錢五萬ヲ以テ聘幣トシテ婚ヲ求ム、王源五十貫ノ錢ニ愛デテ、滿氏ト婚姻ヲナセリ、御史中丞トイフ官ハ、諸臣ノ非ヲナスヲ糺彈スル職也、此時沈約中丞ノ官ニテ、彈事トイフ文書ヲ作リテ、王源ガ事ヲ言上シ、源ガ官爵ヲ削テ、其身ヲ禁錮セラルベシト奏聞セリ、其文ハ文選ニ載タリ、異國ニハケ様ノコトアリ、士大夫ノミニ非ズ、民間ニモ配ヲ擇バザル事ヲ禁ジテ、表子妓女ナドヲ妻トスル者ハ罪ニ處シテ、律ニ定マル刑アリ、表子妓女ノ類ヲバ雜戸ト名ヅケテ、常ノ民ト類ヲ異ニスル故也、今ノ世ニ非人人外トイフガ如シ、異國ニハ庶民ダモ配ヲ擇ブコト如レ此、況ヤ士大夫ヲヤ、今日本ニ此制度無キハ、大缺典也

一　當代ノ法ニ、諸侯以下大夫以上、年十七歳ヨリ四十九迄ニ男子ナキ者ハ、死スルニ臨デ、人ノ子ヲ取テ養子トシテ、後ヲ立ルコトヲ許サル、五十ニ滿ルヨリ以上ハ、存生ノ日ニ、養子スルコトヲ請テ繼嗣ヲ定ム、然ラザレバ、死ニ臨デ請コトヲ得ズ、未ダ十七ニ滿タザレバ、養子ヲ以テ後ヲ立ルコトヲ得ズ、是ニ因テ十六歳以下ニテ死スル者ハ、皆後ナクシテ、諸侯ハ國ヲ除カレ、士大夫ハ家亡ブ、其間ニ或ハ先祖ノ功勳ニ因リ、或ハ國家ノ親屬ニ係リテ、殊ナル故アル者ハ、特恩ヲ以テ其宗族ノ中ヨリ後ヲ立シメ、本祿ノ十分ノ一、或ハ五分ノ一ヲ賜テ、其先祖ノ祀ヲ奉ゼシム、是時ニ臨デノ恩裁也、此法神祖以來國家ノ大法ナル故ニ、今ニ至ル迄變ゼズ、愚意竊ニ思フニ、神祖如何ナル聖智ニテ此法ヲ立置セ玉ヘルヤラン、神慮測リ難シ、今ニ及デハ、國家ノ治メニ害アリ、子細ハ、祖宗ノ時國家ノ事ニ勤勞シ、或ハ身命ヲ棄テ忠ヲ徇シ者ニハ、其功勞ニ報ン迚、大小其分ニ隨テ土田ヲ賜ヒ、子々孫々ニ至ル迄、永々ニ領知スベキ由ノ文書ヲ下シ玉フ、是則臣下ノ忠ヲ勵マス道也、然レバ其功臣ノ子孫アラン限リハ、其國其家ヲ絶滅セズ、祀ヲ奉ゼシメラルベキ者也、何ゾ其宗家主十七ニ滿ザレバ迚、一族ノ內ヨリ後ヲ立ルコトヲ許サズシテ、其家ヲ滅却セラルベキヤ、幾世幾代ヲ歷テ、如何程遠クナリテモ、其同姓ノ一族ハ、皆其先祖ノ骨肉ノ末ナレバ、是ヲ立テ其祀ヲ奉ゼシムレバ、先祖必是ヲ饗ル也、然ルヲ十七ニ滿ザレバトテ其家ヲ滅却セラルヽハ、古人云ヘル少レ恩トイフ者也、近世ニ及デ、開國以來ノ功臣ノ家ノ絶滅セル者、本多氏ノ如キ頗多シ、竊ニ願クハ今迄ノ法ヲ改テ、功臣ノ末ハ幾

世ナリトモ、其血脉ノ子孫アラン程ハ、宗族ノ中ヨリ其家ヲ嗣シメ、十六以下ニ養子ヲ不レ許トイフ法ヲバ止テ行ハレズバ、大善政ナルベシ、サテ上ニ云ヘル如ク、異姓ノ者ヲ養テ子トスルコトヲ嚴ニ禁ジ、功臣ノ末ニテモ、宗族一人モナク絶果テ、其家ヲ嗣ベキ同姓ノ者決シテナクバ、其國其家ヲ除テ、其祀ヲ絶シメラルベシ、如レ此ニテ滅亡スルハ、天ヨリ絶ツ也、凡人ノ家ノ子孫ナクナリ果テ滅スルハ、皆天ヨリ滅ス也、君上ヨリ滅シ玉フニハ非ズ、天ノ滅スハ、誰ヲ怨ムベキ様モナケレバ、上ヨリ其家ヲ滅却シ玉フト思フベクモナシ、異姓ノ養子ヲ禁ジテ、同姓ノ者ハ如何程屬遠クナリテモ、宗族ノ中ニテ互ヒニ繼嗣トナルコトヲ許サレバ、人々自然ニ同姓ノ宗族ヲ親ムベシ、又今ノ世ニ十六以下ハ、養子ヲ以テ後ヲ立ルコトヲ得ザル故ニ、諸侯以下ノ嫡子常ニ年ヲ詐テ、去年生レタル子ヲ、今年ハ四五歳ト稱スルコト十人ニ九人也、是下トシテ上ヲ欺ク也、士大夫以上ノ者ニハ有ルベカラザル事也、是レ皆異姓ノ養子ヲ禁ゼズシテ、十六以下ニ養子ヲ許サレザルヨリニ起レル敝俗也、千秋萬歳ノ後、若縣官ニ繼嗣ナカランニ、德川氏ニ非ザル人ヲ立テ繼嗣トスベキヤ、尾紀水ノ三國ノ君ニ子ナカランニ、他姓ノ人ヲ取テ嗣トセンヤ、是決シテ有ルベカラザルコト也、然レバ其下ノ小國小家ノ君主迚モ、異姓ノ者ヲ取テ子トスベキ義ナシ、扨若今ニモ異姓ノ養子禁ゼラレンニハ、前ニ既ニ養子トナリタル者ヲ、悉本姓ニ復サルベシ、左モ無クテハ、氏族正シガタカルベシ、養子ヲ本姓ニ復シテノ上ニハ、又其養父ノ同族ノ中ヨリ後ヲ立テ、其家ヲ嗣シムベシ、是氏族ヲ正シ、人倫ヲ厚クシ、國恩

ヲ長クスル道也、此道ハ諸侯ノ國ニモ行フベキコト也、凡十六以下ノ者ハ、養子ヲ請フコトヲ得ザルニヨリテ、下ニハ種々ノ姦計ヲナシテ、上ヲ欺クコトアリト聞ユ

一國ヲ治ムル道ハ、士民ニ卒伍ヲ立ルヲ先務トス、伍法ハ、前ノ武備ノ篇ニ詳ナリ、無事ナル時ニ隣伍トイフ、軍陣ニハ卒伍トイフ、士民ヲ治ムルハ、伍法ニ非レバ治マリ難シ、今ノ世ニハ、民ニ計リ伍法アリテ、士人ニ伍法ナシ、當代ノ軍法ニ、卒ニハ伍法アリ、卒トハ、今ノ同心、足輕也、騎士以上ニハ伍法ナシ、一隊ノ中ニテモ、彼此ニ散在シテ、一處ニ聚リ居ラズ、屋ヲ比テ居住スル者ハ、隣伍ニ非レバ常ニ往來セズ、出入セズ、家ノ內ニテ如何ナルコトヲナスヲモ相知ラズ、支配ノ番頭與頭ナドハ、遠處ニ居レバ殊ニ知ルベキ樣ナシ、今時吞衆、小普請衆ノ中ニ、無賴ノ人多ク、惡行ノ者絕ザルハ此故也、縱同隊ノ中ニテ、隣家ニ居ルモ伍法ナキ故ニ、平日親ク相語ラズ、惡行アルヲ見聞シテモ、大抵ハ知ラヌフリニテ過ル也、士人ノ行儀ノ無クナルコト是ヨリ起ル也、然レバ向後士人ノ行儀ヲ正シ、武備ヲ固クシ玉ハントナラバ、凡騎士以上ニ、皆今ノ足輕ノ如ク卒伍ヲ立テ、一處ニ居住セシメ、其法ヲ嚴ニセラルベシ、伍法立タル上ニハ、一伍ノ中ハ、鄰トシテ平日ニ相親ミ、內外ノ隔テナク、睦ク相語リ、疾病死喪、其外急難アル時ハ、親戚ノ如ク互ニ相救ヒ、若又不善ノ行ヒアラバ、隣伍ノ中ヨリ敎訓ヲ加フベシ、若敎訓ニ從ハズンバ、與頭ニ告テ、與頭ヨリ敎訓ヲ加フベシ、此與頭トイフハ、伍長也、足輕ノ小屋頭トイフ者也、與頭ノ敎訓ヲ聽ズンバ、支配ノ番頭ニ告グベシ、如此ナ

ラバ、士人ノ風自ラ正クナリテ、無頼ノ者出來ルコト稀ナルベシ、是昔齊ノ桓公ノ時ニ、管仲ガ行ヒシ法ニテ、治世ニモ、亂世ニモ、其利莫大也、今ノ世ニ此法ナキハ大缺典也、凡伍法ハ、功アレバ五人同ク賞ヲ受ケ、罪アレバ五人皆罰ヲ受ク、何事ニモ相離レザルヲ伍法トス、此法ニテハ、姦ヲ隱スコト叶ハズ

一、民ヲ治ムル道ハ、土着ヲ本トス、土着トハ、天下ノ人ヲ皆土ニ着ル也、又地着トモ云フ、異國ハ勿論ナリ、吾國モ古ハ民皆土着也、當代ニ及デ、土着スル者ハ農人バカリニテ、其他ハ皆土ヲ離レ、旅客ノ如クナル者也、是ニ因テ亡命ノ者世ニ多クナリテ、姦惡ヲナス者絶ルコトナシ、天下ニハ戸籍ナクシテハ叶ハザルコト、前篇ニ云ルガ如シ、戸籍ヲ立ルモ、先海內ノ人民ヲ悉土ニ着ケザレバ、戸籍ヲ立ベキ樣ナシ、是國ヲ治ル一大策也

一、異國ニテ娼家トイフハ、此方ノ傾城屋也、表子トイフハ、此方ノ遊女也、妓女トイフハ、此方ノ舞子也、樂人トイフハ、此方ノ猿樂、役者、淨瑠璃大夫ノ類也、俳優戲子トイフハ、此方ノ狂言師、河原役者ノ類也、凡是等ノ類ヲ總ジテ雜戸ト名ヅク、農工商賈ノ正キ業ヲナス者ヲ良民トイフ、異國ニテハ、雜戸ヲ賤メテ、雜戸ハイツモ雜戸ニテ、良民ト種類ヲ異ニスル故ニ、良民ハイツモ良民、雜戸ヨリ良民ニ入ルコトモ叶ハズ、良民ヨリ雜戸ニ入ルコトモ叶ハズ、雜戸ト良民ト婚姻ヲ結ブコトモ叶ハズ、若良民ト雜戸ト婚姻ヲ結ビ、或ハ妓女表子ヲ取テ妻トナス者ハ刑ニ處ス、是民ヲ貴ブ道也、

今日本ニ此法ナキ故ニ、良民ノ貧キ者ヲバ、男子ヲ俳優戯子トナシ、女子ヲバ妓女表子トナス、婚姻ヲ通ズルコトハ云フニ及バズ、妓女等ヲ妻トスルコトハ庶人ノミナラズ、士大夫ノ爵位アル者ニモ甚多シ、又都下ニテハ、良民ト雜戸ト雜居シテ、少モ差別ナシ、氏ヲ貴ブ道ニソムケリ、憲廟文廟二代ノ間ハ猿樂ヲ好マセ玉フニ因テ、猿樂ヲ陞セテ士トナシテ、累代ノ士大夫ノ中ニ雜ヘ、甚シキハ五位ノ爵ニ陞リ、或ハ諸侯トナリテ一城ヲ領スル者アリ、人民ノ種類ノ混雜セルコト是ヨリ甚シキハナシ、是則士氣ノ衰フル始也、享保年中ニ、諸ノ乞丐人ヲバ皆髻ヲ斷シメラル、是ヨリ平人ト異ル誌出來テ、平人ニ混ズルコト能ハズ、目出度政也、此上更ニ願クハ、諸ノ雜戸ノ輩ヲ皆其種ヲ別ニシ、形ヲモ居所ヲモ別ニシテ、良民ニ混ズルコトノ叶ハザル樣ニ堅キ法ヲ立テ、永々ニ遺シ玉フベキ者也

一　當代ニハ猿樂ニ田祿ヲ賜ル者アリ、室町ノ時ヨリ公家ノ雅樂ヲ用ヒズ、猿樂ヲ朝廷ニ用ル故ニ、自然ニ猿樂ノ者ヲ寵シテ、祿俸ヲ賜ハル風ニナリタリ、然レドモ朝廷ノ儀式ニ預ル者ナレバ、廩米ヲ賜フコトハ有ルベキ義也、田祿ヲ賜フ事ハ有ルベカラザル義也、其子細ハ、農人ハ民ノ上ニテ、人ノ本也、田祿ヲ賜ハルハ民ヲ賜ハル也、猿樂ハ雜戸ニテ、良民ノ類ニ非ズ賤キ者也、是ニ田祿ヲ賜ヒ、民ヲ領セシメラルヽハ、大ニ逆ナルコトニテ義ニ背ケリ、願クハ猿樂ノ田祿ヲ停止シテ、皆廩米ニナシタマフベキ也

一　凡天下ノ人ハ、皆王者ノ民也、民田宅ハ、本皆王者ノ土地也、毛詩ニ、「普天之下莫レ非二王土一」トイ

ヘル此義也、凡農人ハ君ヨリ田地ヲ受テ耕作シ、租税ヲ上ニ奉ル、田地ニハ田地ノ租アリ、宅地ニハ宅地ノ租アリ、宅地ノ租ハ、田地ノ租ヨリモ輕シ、工商ハ宅地バカリ受テ居住スル故ニ、宅地ノ租ヲ上ニ奉ル、是先王ノ制也、人夫ノ役ハ、農工商賈替ルコトナシ、日本ニテモ、京都ノ民古ヨリ地租ヲ出シケルニ、明智光秀大將軍信長ヲ弑シテ、京都ノ民ヲ己ニ歸服セシメン爲ニ、京中ノ地資ヲ免除セリ、是光秀ガ一時ノ權謀ニテ、國家永代ノ法ニ非ズ、其後豐臣公明智ヲ誅シテ、海内ヲ一統セラレシカドモ、國家ノ大體ヲ知ラザル故ニ、光秀ガ政績ニ因循シテ、地租ノ法ヲ故ニ復サズ、又其後東照宮海內ヲ統御シ玉ヒテ、苟且ノ政ニテ都下ノ地租ヲ取玉ハズ、因循シテ今ニ至レリ、平安城ノミナラズ、江戸、大坂、奈良、堺等ノ地迄、皆人夫ノ役バカリニテ、地租ヲ出サシメズ、君ノ土地ニ居テ、宅地ノ租ヲ出スマジキ義ナシ、是大ニ先王ノ制ニ違ヘリ、王者ノ土地ニ居テ、士大夫以上ハ、上ヨリ宅地ヲ賜ハリタルハ地租ヲ出サズ、其他ハ皆多クモ少クモ地租ヲ出ス、是往古ヨリノ大法也

一凡天下ノ人ハ皆王者ノ民ナレバ、租税ヲ出シ、徭役ニ使ハルヽハ、民ノ道也、然ルニ佛法此土ニ行ハレテヨリ、民ノ中ニ出家シテ僧トナル者多シ、既ニ出家スレバ、戸籍ヲ離テ四民ノ外ナル故ニ、租税ヲモ出サズ、徭役ニモ使ハレズ、遊手ノ者トナル、是ニ因テ異國ニハ、民ノ私ニ戸籍ヲ離レテ、僧トナルコトヲ許サズ、僧トナランコトヲ願フ者ニハ、度牒ヲ給テ出家セシム、度牒ヲ給ハラザレバ、出家剃髮スルコトヲ得ズ、若此法ヲ犯シテ私ニ剃髮スレバ、其師モ弟子モ皆刑ニ處ス、此法古ヘヨリ今

ニ至ル迄替ラズ、日本ニテモ、公家ノ世ニハ、玄蕃寮ヨリ、度牒ヲ給テ出家セシメタリ、度牒トハ、出家スルコトヲ許ス文書也、武家ノ世トナリテモ、鎌倉ノ時迄ハ、玄蕃寮ノ度ヲ取テ出家セシメリ、奥州ノ古キ寺ニ、鎌倉ノ建長寺ノ弟子ニ給ハリシ、玄蕃寮ノ度牒アルヲ純昔見タリ、近代ニ及デ、イツノ程ヨリカ此法廢レテ、士民皆心ニ任テ出家スルコトニ成ヌ、今ノ世ニ僧ノ多キハ、此故也、僧ノ中ニ無賴ノ惡僧多キモ、此故也、然レバ向後古制ニ復シテ、凡出家スル者ニハ、度牒ヲ給ハランコト願ハシキ也、サテ出家スレバ、四民ノ外ナル者トナリテ、租稅徭役ヲ免ルルナレバ、度牒ヲ乞フ時ニ、身扱ノ金ヲ出スベキ義也、其金ヲ收テ度牒ヲ給フベシ、是虐政ニ非ズ、決斷シテ行ハルベシ、又此方ノ山臥トイフ者ハ、異國ノ道士ニ似タル者也、異國ニテハ、道士トナルニモ度牒ヲ給ハル、況ヤ此方ノ山臥ハ、浮屠ノ道ヲ行フ者ナレバ、是ニモ度牒ヲ給フベキ也

一　異國ニハ、僧ノ外ニ頭ヲ剃髮スル者ナシ、此國ニハ、僧ニ非シテ剃髮スル者多キ故ニ、僧ト常ノ士民ト混亂スルコトアリ、惡僧ノ尋常ノ人ト爲テ、不法ノ惡行ヲナス者多シ、願クバ僧ノ外ニ、頭ヲ剃ルコトヲ禁止セラレバ、民治ノ益ナラン、昔朝鮮人ノ林羅山ヲ稱シテ、釋道春ト書シヲ、羅山怒シトイフ、羅山ノ怒シハ宜ナレドモ、異國ニハ、釋氏ノ外ニ頭ヲ剃ル者ナキ故ニ、吾國ニ來テ頭ニ髮ナキ者ヲ見テハ、皆釋氏也ト思ヘルハ道理也、如レ此バ國ノ耻也

一　古ヨリ百官ヲ立ルニハ、必文武ノ職ヲ分ルコト大法也、前ノ官職ノ篇ニ云ルガ如ク、文職武職分レ

ザレバ、治道立チ難シ、今ノ世ニハ、文武ノ職分レザル故ニ、政ノ行レガタキコト多シ、縱百官ヲバ立ラレズトモ、今ノ諸役ニモ、文武ヲバ分ラルベキ者也、諸侯ノ國モ亦然ナリ

一　凡爵位ハ、人ノ貴賤ヲ分ツベキ爲也、サレバ古ハ一命ヨリ九命迄、九等ノ爵ナリシ、後世ニ及デ九品ノ爵ヲ立、九品ニ正從ヲ分タレバ、十八等トナレリ、日本ニテハ、一位ヨリ三位迄ハ正從ヲワケ、四位ヨリ八位迄ハ、正從ニ又上下アリ、九位ヲバ初位ト名ヅケテ、是ニ又大少上下アリ、凡三十階也、如レ此細ニ位階ヲ分テ、人品ニ次第セリ、今ノ世ニハ、公家ノ位階ヲ用レドモ、無位ヨリ直ニ六位ニ陞リ、六位ヨリ直ニ從五位下ニ陞リ、從五位下ヨリ直ニ從四位下ニ陞ル、庶士ヨリ從四位下迄、只三等ノ階級也、甚麁キコト也、是ニテハ人品ノ上下分レ難キ故ニ、諸役ニ尊卑ノ品ヲ立テ、人ノ高下ヲ分レ也、故ニ尊卑ノ品ヲ立ルハ、政ノ妨也、人ノ品ニ因テ役ヲ命ジ難キコトアル故也、又凡爵位ニ正從アルハ、正ハ眞ノ其位也、從ハ其後ニ從フトイフ義ニテ、跡ニツク意也、今ノ世ニ某ノ次トイフガ如シ、正五位ハ、眞ノ五位也、從五位ハ、五位ノ後ニ從フトイフ義ニテ、眞ノ五位ナルモノヽ後ニ附テ、其次ニ列スル也、今武家ニハ、正五位ハナクシテ、凡五位トイフハ、皆從五位下也、五位以上ヲ大夫トスル故ニ、凡四位五位ノ人ヲ通ジテ、諸大夫トイフ也、今武家ノ叙爵ニ、少祿ナル輕キ役人モ、諸大夫ニナルトイヘバ、從五位下ニ叙セラル、番頭以上ノ如キ重キ役人モ、從五位下ナリ、萬石以上ノ諸侯、十萬石餘ノ城主迄モ、從五位下也、五位ニ四等アリテ、從五位下ハ其最下ノ位ナル

ニ、人ノ貴賤ヲ分タズ、此一階ニ叙シテ止ムハ、甚大マカナル事也、萬石以上ハ諸侯ナレバ、正五位ニテモ有ルベキ者也、四位モ亦然ナリ、大國ノ諸侯モ、麾下ノ少祿ナル役人モ、四位ニ陞ルトイヘバ、皆從四位下也、凡爵位ハ、人ノ貴賤ヲ分ツ者ナレバ、ケ様ノ處ヲ分別スベキ義也、是ヲ混亂スレバ、禮ヲ行ハントスル時ニ必ズ礙リアリ

一 左傳ニ、「世卿非古也」ト云ルハ、卿大夫ノ國政ヲ執ル者、子孫代々其位ヲ襲グヲ世卿トイフ、是古法ニ非ズト也、日本ハ公家モ武家モ世官ニテ、人ノ賢愚ヲ論ゼズ、子孫代々其父祖ノ官ヲ襲グ、是政ノ大害ナリ、人ノ子孫代々賢ナルハ、甚稀ナル者也、官職ハ國ヲ治ル道具ニテ、賢才ヲ擇デ任ズベキコト也、然ルヲ父祖ノ官ナレバ迚、其器ニモ非ル者ニ是ヲ命ゼラルヽコト道ニ違ヘリ、若人ノ子孫賢ニシテ、其父祖ニ及ブ程ノ才智アラバ、父祖ノ官ヲ襲シムベシ、然ラズバ、別人ヲ擇ブベキ也

一 文王ノ政ニ、「仕者世祿」トイフハ、文王ノ王業ヲ興シ玉ヘル道也、日本當代ノ政モ世祿ニテ、國恩ヲ永クシ玉フ、是神祖ノ海内ヲ併テ、國運ヲ萬世ニ引玉ヘル道也、然レドモ國ニ仕テ、文事ニモアレ、武事ニテモアレ、大成勳業ヲ建タル者ハ、子孫永々ニ其祿ヲ世ニシテ、其祀ヲ奉ズルコト上ノ恩澤ニテ、人君ノ臣下ノ功勞ニ報ズル道カク有ルベキ義也、大勳ニ非ズトモ、君ノ爲ニ事ニ死シタル者ヲモ、世祿ニシテ其子孫ヲ養フハ、忠義ヲ勸ル道也、若文ニテモ、武ニテモ、藝術ヲ以テ仕ル者ハ此例ニ非ズ、其人藝術勝レタル故ニ、召出シテ祿俸ヲ賜フ、其子若父ノ業ヲ嗣ベキ器ナラバ、父ノ祿ヲ

賜フベシ、若父ノ業ヲ嗣コト不レ能バ、其父死シテ後其祿ヲ收上テ、其子ヲバ庶人ニ歸スベシ、凡學問技藝ハ、子トシテ父ノ業ヲ嗣グ者、千人ニ一人也、是ヲ事ニ死シタル者ト同ク、世祿ニシテ其家ヲ傳ヘシムルハ、人才ヲ得ル道ニ非ズ、如レ此ナレバ、世祿ノ者漸々ニ多クナリテ、田祿モ廩粟モ給ギ難シ、其人モ亦父祖ノ業ヲ嗣ントスル心ナク、飮食煖衣ニテ一生ヲ過ス、是ヲ尸位素餐トイフ、民間ノ名目ニ、是ヲ喰潰シトイフ、藝術ノ士ノ子孫皆世祿ニテ、尸位素餐ノ者多ケレバ、其後ハ下ニ藝術ノ勝レタル者アリテモ、祿米給ガザル故ニ、召出シ難シ、今ノ世正シク如レ此、諸藝ノ中ニ、殊ニ多キ者ハ醫者也、國初以來、世毎ニ醫者ヲバ召出サルヽ、故ニ、今其子孫三四百人ニ餘レリトイフ、夥キ數也、扨醫術ニ達セル者ヲ求レバ、百人ニ一二人也、其餘ハ皆碌々タル庸人ニテ、曾テ醫ノ事ヲ不レ知者、斗ニテ量ル程也、憲廟ノ時、元祿年中ニ醫員ヲ沙汰シテ、世醫ノ子孫ノ遊惰無賴ナル輩ヲ、數多改易シ玉ヒシハ善政也、今日モ世醫ノ中ニテ、用ニ立タザル輩ヲ沙汰シ、向後父ノ業ヲ嗣コト不レ能者ハ、其俸祿ヲ收上テ、庶人ニ歸サルベキ由ヲ令シ、學業未成就セザル內ハ、謁見ヲモ許シ玉ハズ、世祿ノ法ヲ止テ、新ニ庶人ヨリ其術ノ達者ヲ召出サレバ、人々學術ニ精力ヲ用フベシ、サモ有ラバ、上手モ世ニ多クナルベシ、醫者ノ外儒者、並ニ其他ノ技藝モ皆然ナリ、世祿ヲ止ルハ不仁ナルニ似タレドモ、不仁ニ非ズ、人才ヲ生ズル道ナル故ニ、却テ仁政也

一　異國ニテ奴婢トイフハ、此方ノ民間ニイフ譜第者也、做工(ソコウ)トイフハ、ヤトヒ者也、或ハ一日雇ヒ、

或ハ十日廿日雇ヒ、或ハ一月二月モ雇フ、此方ニテ日雇月雇トイフ者也、今ノ世ノ人家ニ使フ出替者ノ如クナル者ハ、異國ニハナシ、傭工トイフ者是ニ似テ同カラズ、今ノ出替者ハ、畢竟歳雇也、出替者ハ歳々ニ主家ヲ替ユル故ニ、是ヲ使フ者モ、恩ヲ施ス心薄ク、使ハルヽ者モ、主人ニ忠ヲ致ス心淺シ、殊ニ江戸ニハ、四方ノ亡命無賴ノ者多ク來テ、出替者トナリテ世ヲ渡ル故ニ、逃走スル者甚多シ、是ヲ保フ者モ、亦無賴ナル市人ナレバ、恃ムニ足ラズ、出替者ヲ使テ、金銀財寶ヲ損亡スル者、年々其數ヲ知ラズ、士大夫ノ中ニモ、田祿アル者ハ、知行所ヨリ召テモ使ヘドモ、田祿ナキ者ハ都下ニテ出替者ヲ使ハザレバ、人ヲ使フベキ樣ナシ、是日本ニテモ、古來ナキコトニテ、當代ニ始マレルコト也、今ノ世ニ士民ノ大ナル患ハ是也、畢竟民ニ戶籍ナク、譜第者ヲ使ハザル故也、治マレル世ハ、是ニテモ一年宛過行ベキガ、萬一國家ニ事有リテ、軍旅征伐ノ役ニ赴ン時ニ、此出替者何ノ用ニカ立ベキ、縱從者ノ列ニ入テ、門ヲバ出ルトモ、道ヨリ逃走ンハ必定也、然レバ出替者ハ、國家ノ治メニ害アルコト莫大也、願クハ是ヲ改テ古來ノ如ク、奴婢ヲバ久ク使フ樣ニアラマホシキ也、久ク使フベキ者ト思ヘバ、主人モ小キ過失ヲバ赦シテ恩惠ヲ施シ、奴僕モ此家ヲ去テハ、往ベキ所ナシト思ヘバ、小キ不滿ナルコトヲバ怨トセズシテ、主家ニ忠ヲ致ス心アル、是皆人情也、凡人ハ悉親戚ニモ非ズ、皆仇ニモ非ズ、君臣トナリ、朋友トナリ、同僚トナリテ、久シク年月ヲ經レバ、相馴染ム中ヨリ、慈悲ノ心モ、節義ノ心モ生ズル者也、是則仁ノ道也、凡君子ノ仁トイフハ、必ナジミヨリ出ル

者也、出替者ニハ、仁モ義モナシ、人道ノ敗レ、是ニ過タルニ有ルベカラズ

一　凡民間ニテ、人ノ家ヲ借ルニハ、必契人ヲ立テ契帖ヲ取ル、今ノ世ニ京大坂ニテハ、契人ヲ立ルニ大小ヲ問ハズ、必家ヲ持タル者ヲ立ツ、小キ家ヲモ持ザル者ヲバ、契人ニ立テザル法也、是ニ因テ亡命無賴ノ者ハ、輙ク家ヲ借ルコト能ハズ、是昔ノ所司板倉君重宗ノ法也トイフ、江戸ハ然ラズ、小キ家ヲモ持ザル者、誰ニテモ契人ニ立ツ故ニ、亡命無賴ノ者、輙ク人ノ家ヲ借テ居住ス、姦惡ヲナシテ發覺スベキ時ハ、家ヲ借リタル者迯レバ、契人モ迯グ、其契人ヲ尋レバ、契人ノ契人モ亦迯グ、卒ニハカカルベキ所ナク止ム事多シ、是家ヲ持ザル者ハ、身輕キ故ニ姦黨ニモ入リ易ク、逃走ルコトモ易キ故也、京都ノ法ハ善キ法也、江戸ノ如キハ、民ニ便利ナル樣ナレドモ、畢竟亡命無賴ノ輩ニ便利也、姦惡ノ多キコト宜也

一　當代ノ政ニ諸ノ役人ヲ立テ、海內ノ士民ヲ管轄スルコト嚴也、江戸ニハ寺社奉行、町奉行、勘定奉行アリ、此三奉行ヲ以テ都下ノ民ヲ治ム、僧尼巫覡ノ類ハ、皆寺社奉行ニ隷シ、工商市人ハ皆町奉行ニ隷シ、農人ハ勘定奉行ニ隷ス、都下ノ民ハ、三奉行ノ管轄ニテ遺ル所ナキガ如シ、然ルニ今都下ノ人民ノ中ニ、支配ノ役所ナキモノ二ツアリ、一ツニハ浪人、二ツニハ道心者也、浪人ハ異國ニ云フ處士也、道心者ハ、昔ハ浮屠ノ中ニテ、菩提心アル僧ヲ稱スル名目ナルヲ、今ノ世ニハ、學問僧ノ外ヲ道心者トイフ、管轄トイフハ、上ニテ一ツニ統テ主領スルヲ云フ、今ノ世ニイフ支配也、凡士ハ本農ヨ

リ出ル者ニテ、致仕スレバ故ノ農ニ歸ルハ、古道ノ定マレル事ナレドモ、今日本ニテハ、士ト農ト二ツニ分レテ、士ノ家筋ハ何迄モ士ニテアルナレバ、致仕シテモ農ニ歸ルコトナシ、出テ諸侯ノ國ニモ仕宦スレバ、士大夫トナリテ俸祿ヲ賜ハル、仕ヲ致シテ去レバ、處士トナリテ、何ニテモ業ヲナシテ生產ヲ營ム、今ノ世ニ是ヲ浪人トイフ、浪人ヲバ、京都、大坂、其外海內ノ都會ノ地ニ居住セシメズ、諸侯ノ國ニモ皆是ヲ禁ズレバ、海內ノ浪人ノ住ベキ處ナシ、江戸ハ輦轂ノ下ニテ、昔ヨリ浪人ヲ禁ゼラレズ、且海內ノ輻湊スル所ニテ、生產ノ營モナシヤスキ故ニ、浪人タル者多ク東都ニ集マル、平日ハ安穩ニ居住スレドモ、時々事ニ因テハ、點檢ヲ加ラレテ困苦スル者アリ、其居處ニ宅地ヲ借シ、館舍ヲ借ス者モ、是ヲムツカシク思テ、浪人ヲ厭ヒ遠クル者アリ、是浪人ノ一ツノ患也、浪人ニ支配ナキ故ニ、事アレバ町奉行ニ隷スレドモ、事ナキ平日ニハ、上ノ政令ヲ受ル所ナシ、事アリテ町奉行所ニ出レバ、商賈ト同等ニ接待セラルル故ニ、浪人ノ身ニハ耻辱也、今日處士ニテモ、明日出テ仕宦スレバ、國家ノ朝士トモナリ、諸侯ノ大夫トモナルベキ者ヲ、賈人ト同等ニ接待スルハ、士ノ廉耻ヲ養フ道ニ非ズ、道心者ハ僧ナレバ、事有リテ官ニ詣ルニハ、寺社奉行所ニ出レドモ、下ニ其支配ナキ故ニ、平日ニ上ノ政令ヲ受ル所ナシ、凡寺院ニハ諸宗ノ別レ有リ、一宗ノ內ニ僧錄アリ、本寺アリ、徊頭アリテ、夫々ニ管轄ス、僧モ學問僧ハ其一宗ノ本山本寺ニテコレヲ統ル故ニ、國家ノ政令ノ受ル所アリ、別ニ一種願人トイフ者アリ、民ニ非人乞丐アル如ク、願人ハ浮居中ノ非人ニテ、極テ賤キ者ナレ

ドモ、是ニモ管轄アリテ、一所ニテ主領スル故ニ、政令ヲ受ル所アリ、只道心者トイフ者計リ、管轄主領スル所ナシ、此二ツハ國家ノ法ニ遺漏アル也、愚意竊ニ思フニ、浪人ノ管轄ハ、朝廷ノ士大夫六位以上ノ人ノ中ニテ、一人是ヲ定メ、副役ヲ附ケ、其下ニ卒徒ヲ附テ、都下ノ諸浪人ヲ主領セシメ、凡浪人ノ都下ニ居住スル者ヲバ、其來處ヲ正シ、父祖ノ由緒ヲ詳ニシ、其姓名並ニ都下ニテノ居處ヲ帳簿ニ記シ、浪人ノ中ニテ、又先祖正ク家產モ豐ニ、人品モ好キ者ヲ、都下ノ四方ニ一人宛定テ、其長トシテ政令ヲ傳シムベシ、如レ斯ナラバ、浪人タル者、皆廉隅ヲ砥礪シテ、無賴ノ行ヒヲナス者少カルベシ、又近年ハ家筋アル浪人ニ非ズシテ、農工商賈ノ中ヨリ、サモラシキ者ハ、浪人ト僞テ二刀ヲ帶シ、都下ニ居住シテ士民ヲ欺ク者頗多シ、若浪人ノ支配所ヲ立テ、其來處ヲ正サバ、ケ樣ノ輩自ラ止ムベシ、是治世ノ補ニアルノミナラズ、又武備ノ一助ナルベシ、道心者ヲバ、都下ニテ然ルベキ寺院ヲ一所定テ、宗旨ニ拘ラズ、皆其寺院ニ管轄セシメ、其道心者ノ鄕里來處、並ニ剃髮ノ師ヲ詳ニシテ、其得度シタル寺院ヨリ、文書證文ヲ彼管轄ノ寺院ニ送リ、管轄ノ寺院ヨリ其道心者ニ文書若ハ木牌ヲ授テ、一生是ヲ帶セシメ、其中ニ又其長ヲ數多立テ、平日ノ政令ヲ傳シムベシ、凡道心者ハ、寺院ノ內ニ住スルハ少クシテ、市中田里ニ雜居スル者多シ、然ルニ上ニ管轄ナキ故ニ、無賴ノ者多クシテ、姦惡止ムコトナシ、若管轄スル所アリテ、時々ニ査點ヲ加ヘバ、無賴ノ輩身ヲ容ル所ナクシテ、姦惡少止ムベシ、是國政ノ補ナルベシ

一國家冠服ノ制ハ、章服ノ篇ニ書ルガ如シ、今ノ世ニハ、章服モ一旦ニハ制セラレ難カルベシ、然レバ只今ノ分ニテ、且先士庶人ノ衣服ヲ定ラレバ、士民ニ補アルベシ、先朝ニ士民ニ令シテ、婦女皆繡箔金縷ノ小袖ヲ着ルコトヲ得ザラシメ、農工商ノ衣服ハ絹紬ニ止マル、其時士庶ノ婦女小袖ノ繡金縷ヲ解キ、箔ヲ剝タリシニ、幾程ナク此法斁レテ、其以來ハ士庶ノ婦女、皆公然トシテ繡箔ノ小袖ヲ着ル、所謂三日法度也、此後モ若士庶ノ婦女ノ繡箔等ヲ着ルコトヲ一概ニ禁ゼラルレバ、大ナル害也、其子細ハ、士庶ノ婦女繡箔ノ小袖ヲ持タル者、若一旦ニ是ヲ禁ジテ着ルコトヲ得ザラシムレバ、新ニ絹紬綿布等ノ衣服ヲ作ラントスルニ、許多ノ費アリ、有來ノ繡箔ノ小袖ヲ斥賣セントスレバ、買フ者ナシ、絹紬綿布ハ、世ニ急ニ用ヒラルヽヲ見カケテ、其價ヲ貴クスベシ、若如此ナラバ、士庶ノ困窮今ニ倍スベシ、又世ニ充滿セル繡箔ノ小袖ヲ、空ク棄物トナスモ、天地ノ道ニ違フベシ、是皆善政ニ非ズ、只庶民ニ計綺羅錦繡ヲ嚴禁シテ、士人以上ハ、男女倶ニ綺羅錦繡ヲ着ルヲ聽セラルベシ、サモアラバ、民間ノ綺羅錦繡悉ク斥賣スベケレバ、綺羅錦繡ヲ鬻グ者モ、自然ニ價ヲ賤クシテ賣ルベシ、然レバ民間ノ美服悉士人ニ歸スベシ、士人ト庶民トノ位モ辨別アリテ、士人ハ貴ク、庶民ハ賤クナルベシ、是則時ニ取テノ章服也、凡人ノ衣服ハ、貴賤上下ヲ別ツベキ目印ナルニ、今ノ世ニ士庶ノ衣服ニ制度ナキ故ニ、貴賤ノ差別ナシ、殊ニ士大夫ハ貧窮ナレバ惡服ヲ着、庶民ニハ豪富ナル者多ケレバ、十分ノ美服ヲ著ル故ニ、士大夫ハイツモ庶民ニ壓レテ、影モナキガ如シ、是ニ因テハ自然ニ士大

夫ノ方ヨリ、商賈ノ輩ニ詔屈スルコトアリ、如レ此ハ士風ヲ勵マス道ニ非ズ、歎カシキ事也

一　異國ノ人ニ、姓、氏、名、字、號、ノ五ツアリ、姓トイフハ、始祖以來一本ノ姓也、日本ニテ源、平、藤、橘等ノ姓有ルガ如シ、氏トイフハ、子孫ノ別ルヽニ因テ、其領知スルトコロ、或ハ住處ノ地名ヲ取テ、其一族ノ稱號トスル也、是ヲ氏族トイフ、日本ニテ新田、足利抔云フガ如シ、今ノ世ニ苗字トイフ是也、名トイフハ、生タルトキニ父ノ名ヅケタル名也、日本ニテ賴朝、尊氏抔云フガ如シ、今ノ俗ニ名乘トイフ是也、字トイフハ元服シタルトキ、冠賓ノ與フル號也、德ヲ表シテ命ズル故ニ、是ヲ表德ノ號トイフ、サレバ自己ヨリ稱ルニハ、名ヲ云フ、人ノ方ヨリ呼ニハ、字ヲ云フ、是禮法也、號トイフハ、名ト字トノ外ニ、人ノ方ヨリ權ニ呼ブ稱號也、如レ此五ツノ名目アリ、日本ノ人ニハ、姓、氏、名ノ三ツアリテ、字、號ノ二ツナシ、古人ニ太郎二郎等ノ名アルハ、名ニ非ズ、行第トイフ者ナリ、行第トイフハ、兄弟ノ次第也、唐ノ代ニ行第ヲ以テ人ヲ呼シヲ、日本ノ人是ニ倣テ、行第ヲ稱セシナリ、今ノ世ニ某左衛門、某兵衛、某大夫ナドイフコト有ルハ、昔ノ武士ニ五郎トイフ者、兵衛尉ニナレバ、五郎兵衛ト稱シ、二郎トイフ者、左衛門尉ニナレバ、二郎左衛門ト稱ス、衛門、兵衛ノ尉ハ六位ノ官ナルガ、五位ニ陞レバ大夫ト稱ス、義經ハ九郎ニテ五位ノ尉ニナラレシ故ニ、九郎大夫判官トイフ、衛門兵衛ノ尉ヲ判官トイフナリ、又源氏ノ士左衛門尉ニナレバ、源左衛門ト稱シ、平氏ノ士兵衛尉ニナレバ平衛ト稱ス、是皆官名也、此風後世ニ遺リテ、衛門兵衛等ノ官ニナラザル者モ、昔ノ

人ニ倣テ官名ヲ稱スルハ、上ヲ犯セル私事也、又今ノ世ニ某ノ助、某ノ丞、某ノ進抔云フモ皆官名也、又今ノ世ニ從五位下ニ敍セラレタル者ハ、山城守、大和守ナド稱スルハ、是受領ノ官名也、中務、式部、掃部、雅樂抔云フモ、皆官名也、今ノ世俗此等ヲ、皆人ノ名ト思ヘルハ大ナル謬也、名トイフハ、只今ノ名乘也、字ト號トハ、日本ノ人ニ本來是ナシ、學者ニ字號アルハ私事也、古ハ公家モ武家モ庶人モ常ニ名ヲ稱セシニ、近世ニ及デ、彼ノ私ニ稱スル官名ヲ、常ニ稱スルナラハシニナリテ、イツトナク名ヲ稱スルコト廢レハテ、今ハ只公家ノミ古風ヲ不レ失、常ニ名ヲ稱ス、武家ニハ名ヲ稱スルコトナシ、サレバ親戚朋友ノ間ニテモ、互ニ其名ヲ不レ知、朝廷ノ禮式ニモ名ヲ稱スルコトナク、國家ノ記錄ニモ名ヲ書スルコトナキ故ニ、官名計ヲ書付タルヲ見テハ、誰某トイフコト分明ニハ知レズ、近世ノ風ニテ、官名ヲバ父子代々相襲デ稱スル事多ク、又同族ノ中ニテ、昨日迄彼人ノ稱セシ官名ノ、今日ヨリ此人稱スルコトアリ、譬ヘバ前ニ松本侯ヲ水野日向守ト稱セシヲ、松本侯亡テ、結城侯又水野日向守ト稱スル類也、殊ニ松平氏ハ、諸侯以下ニ其數甚多ケレバ、一ツノ官名ヲ彼方此方ニテ稱スレバ、其苗字ト其官名トヲ聞ケル許ニテハ、其人ハ誰某ゾトイフコトヲ辨知スベキ樣ナシ、ケ樣ノ類ヲ、名ヲ稱セズシテ官名バカリヲ稱シ、朝廷ノ文書記錄等ニモ、名ヲ書セズシテ官名バカリヲ書シテハ、其年ノ内ニモ、混亂シテ知レ難キコトアリ、況ヤ五年十年ノ久シキ年月ヲ經テハ、決シテ誰某トイフコト知レザルベシ、如レ此ニテハ、記錄何ノ用ニ立ベキヤ、是大缺典也、今ノ世ニモ公家ハ猶古ヲ

存シテ、常ニ名ヲ行フ家ニ近衛、九條等ノ稱有レドモ、一人ノ稱ニ非ズ、大臣、納言等ノ官ハ、一人官ニ非ズ、且自己ヨリ稱スルニ名ヲ稱セズシテ、家ノ號又ハ官名ヲ稱スベキ義ナキ故ニ、自ラ名ヲ稱ス、人ヨリ呼ニハ、家ノ號ヲモ官ノ名ヲモ稱スル也、公家ノミニ非ズ、加茂、吉田ノ神官ナドモ、常ニ名ヲ行フコト公家ト同ジ、純ガ加茂ニ詣シトキ、彌宜等ノ伺候スル番所ヲ見タリシニ、長キ板ニ數多ノ彌宜ノ名ヲ書テ挂タルアリ、上ニ從五位下、正六位上等ノ爵位ヲ書シ、下ニ鴨某ト姓名ヲ書セリ、彼等ハ家々ニ苗字アリ、左近、兵部抔イフ官名モ有テ、常ニ稱スルニハ、其苗字ト權ノ官名トヲ稱シテ、タトヘバ鴨脚民部、梨木左京ナドイヘトモ、社頭ノ名籍ニハ是ヲ不レ書、只位階ト姓名計リヲ書スルハ、日本ノ古法ヲ失ハズ、中華ノ禮ニモ合ヘリ、又伶人ニモ苗字有リ、官名有リテ、常ニハ是ヲ稱スレドモ、音樂管絃ノ目錄ニハ、只姓名バカリヲ書スルコト、加茂ノ神官ノ如シ、皆是古風ヲ存セルイミジキ事也、願クバ武家モカク有マホシキ也、凡諸侯以下ノ人縣官ニ謁見シ、其外臣民ノ君上ニ謁見シ、士大夫ノ相見スルニ、苗字官名ノ下ニ、必名ヲ連テ稱スベシ、凡進物ノ目錄ニ、貴賤トナク必名ヲ書スベシ、國家ノ記錄、朝廷ノ文書ニ必名ヲ書スベシ、大夫士庶人平日ノ書札ニ必名ヲ書スベシ、總ジテ吾人平日ノ交ニ、自己ヨリ稱ルニハ必名ヲ云フコト、公家ノ如クニアルベシ、如レ此ナラバ、吾人ノ名世ニ通行シテ、人ノ名ヲモ互ニ記憶シ、苟且ノ筆札ニテモ名存スベケレバ、歲月ヲ歷テモ、其人錯紛ルヽコトナカルベシ、今ノ世ニハ、名ヲ稱スルコトナキ故ニ、親戚朋友ノ近キ交ノ

中ニテモ、一生其名ヲ知ラザルコト多シ、凡天下諸侯ヨリ士庶人ニ至ル迄、名乘ノ外ニ眞ノ名トイフ者アルコトナシ、世俗ニ名乘ヲ實名トイフニテ知ルベシ、名乘トイフモ、自己ヨリ稱ルベキ故ノ名目也、又近世ノ俗ニ、名ニ吉凶有リトイヒテ、韻鏡ニテ反切スルコトヲ貴ブ、是ニ因テ反切シテ吉ナル字ヲ擇ブ故ニ、人ノ名多ク同ジ、士庶ハ衆多ナレバ、同名多キコト云フニ不レ足、諸侯ハ海内ニ三百人ニハ過ザル數ノ內ニ同名アリ、且吉凶ヲ云フニ因テ、一生ノ間ニ、幾度モ名ヲ改ムル者多シ、常ニ稱スル假ノ官名ヲ改ムルニハ、君上ニ請テ、許ヲ得テ改ム、名ヲ改ムルニハ請フ事モナク、自由ニ幾度モ改ム、是イカナル惑ゾヤ、愚昧ノ至リ、義理ニ背ケルコト也、願クハ上ヨリ令ヲ出シテ、韻鏡ニテ反切スルコトト、隨意ニ名ヲ改ムルコトヲ嚴禁セラルベシ、名ヲ反切スルコトハ、異國ハ勿論ナリ、日本ニテモ七八十年來ノコト也、是義理ヲ害シ、人ヲ愚ニスル大惡俗也、此事ヲ禁止セラレバ、天下ノ大幸ナラン、上ニ云ル如ク、名ヲ通行スル風起ラバ、人々自然ニ同名ヲ避ントスベシ、韻鏡ニテ反切スルコトヲ禁ゼラレバ、名ニ用ル字廣クナリテ、遠キ字ヲモ取ルベキ故ニ、同名少カルベシ、然レバ、名ヲ行フコトヲ令セラレンニハ、反切ヲ必禁止セラルベシ

一日本ニテ、古ハ公卿大夫士庶人ノ間ニテ、人ヲ呼ブニ皆殿ト稱ス、昔ノ書籍ニ記セルモノハ、玄惠ガ庭訓往來ノ如キ、書札ノ禮見エタリ、室町ノ時ヨリ樣トイフ稱呼始リテ、今ノ世迄ニ行ハル、古ハ貴賤尊卑皆殿ナリシニ、今ハ樣ト殿ト二等也、殿トイフハ、異國ニテ天子ヲ陛下ト稱シ、太子ヲ殿

下ト稱シ、親王宰相、其外尊官ヲ閣下ト稱シ、又足下ト稱スルニ傚テ日本ニテモ大臣ヲ殿下ト稱ス、此殿下ノ字ヲ取テ、貴賤通行ノ稱呼トセル也、然レバ殿ト稱スルハ、殿下ノ意ニテ義理アリ、樣トイフハ、何ノ義理モナク、且婦女ノ詞ニ近シ、又和文ノ假名草紙抔ヲ作ルニモ、殿トイフ稱呼ハ用ラル、樣トイフ稱呼ハ用ヒラレズ、是甚俗ナル稱呼也、願クハ是ヲ止テ、貴賤皆殿ト稱シテ、古ニ復サンコト有ラマホシキ也、公家ハ今モ樣トイフ稱呼ヲ用ヒズ、古ヲ存シテイミジキ事也

一　凡民ハ、農工商賈ノ正業ヲナスヲ良民トイフ、其他ヲ雜戶トイフ、既ニ上ニ見エタリ、然ルニ二人ノ性ニ正業ヲ好ム者アリ、正業ヲ好マズシテ、雜戶不正ノ業ヲ好ム者アリ、不正ノ業ヲ好ムハ、皆無賴ノ徒也、此無賴ノ徒ヲ教化シテ良民トナスコトハ、堯舜モ及ビ玉ハズ、サレバ帝都王城ニハ種々ノ雜戶ヲ立置テ、彼無賴ノ徒ノ生產トス、戲場、娼家、粉頭店、私科子等ノ如キ是也、都城ノ大小、人民ノ衆寡ニ隨テ、其數ヲ多クモ少クモスル也、今日本ノ都城ハ、江戶、京、大坂也、大坂ハ江戶ヨリ狹ク、京都ハ大坂ヨリ狹ケレドモ、戲場、粉頭等ノ多キコト江戶ニ數倍セリ、江戶ハ海內第一ノ都會ニテ、士大夫以下人民ノ數百萬トイフコトヲ知ラズ、然ルニ吉原ノ娼家、堺町ノ戲場ノ外ニ、戲場モ粉頭店モ絕テナシ、近キ頃迄都下處々ニ在シヲ正德享保ノ間ニ悉止ラレタレタリ、從來不正ノ業ニテ、生業ヲ營シ無賴ノ徒、一旦ニ其業ヲ失テ、飢寒ニ及ブ者幾千萬トイフ數ヲ不レ知、本ヨリ遊惰無賴ノ性ナレバ、正業ヲ習テ良民ト成ルコトモ能ハズ、遊惰ノマヽニテ身命ヲ養ントスルニ、然ルベキコト

モナキ故ニ自ラ博徒トナリ、其卒ハ困窮シテ盜賊放火ノ兇徒トナル、是自然ノ理也、已コトヲ得ザル勢也、サレバ凡帝都王城ニハ、戲場、娼家等ノ遊樂ノ所ヲ多ク立置クベキコト、治道ノ一端也、是ニ三ツノ利アリ、一ツニハ此遊樂ニ因テ都下繁華也、繁華ハ太平ノ象也、是ナケレバ都下冷靜也、冷靜ハ衰微ノ兆也、二ツニハ天性無賴ノ徒、是ヲ以テ生產ヲ營テ、盜賊放火等ノ惡事ヲナサズ、定テ刑ニ處スベキヲ知ツツ惡事ヲナスコト、本其好ム所ニハ非ズ、困窮シテ已ムコトヲ得ザルヨリ起ルナリ、三ツニハ凡世間ノ金銀ハ、流行シテ滯ラザルヲ善シトス、彼遊樂ノ所多ケレバ、民間富家ノ金錢、散出シテ世ニ流行ス、遊樂ノ所ナケレバ、富家ノ金銀出ベキコトナクシテ、久シク府庫ニ藏マル故ニ、世間流行ノ金錢少クナル、此三ツハ皆國家ノ利害也、ケ條ノ利害ヲ察セズシテ、一概ニ禁制シ玉フハ、治道ヲ知ラザル有司ノ政也、願クハ此類ノ禁ヲ除キ玉フベシ、扨民間ニ禁ゼラルベキコト二ツアリ、一ツニハ僧ハ寺院ノ內ニテ說法スベキコトナルニ、今ハ市鄽ニテ、愚民ヲ集テ說法ス、或ハ俗人ノ身ニテ說法スル者アリ、是佛法ニモ國法ニモ違ヘルコトナリ、二ツニハ日本古代ハ神道トイフ道ナシ、今ノ世ノ神道トイフハ、卜部兼俱ガ創タルコトニテ、巫祝ノ鬼神ニ事ル道也、國家ヲ治メ、身ヲ修ムル道ニハ非ズ、常ノ人是ヲ學デハ他ノ益モナク、却テ害ヲ生ズル也、若此道ヲ講ゼンニハ、只巫祝ノ家ニテ巫祝ヲ集テ講ズベシ、常ノ人ニ聞シムベカラズ、然ルニ今ハ巫祝ニモ非ザル者此道ヲ學デ、市鄽ニテ愚民ヲ集テ講說シ、往來ノ路人迄ニ是ヲ聞シム、此二ツハ皆大ニ政治ヲ害スルナリ、願

クハ嚴ニ禁ゼラルベキ也、凡國家ニ禁ズベキコトヲ禁ゼズシテ、禁ズマジキ事ヲ禁ズルハ、政ノ大體ヲ知ラザル有司ノ爲也

一　今ノ諸侯、東都ノ旅邸ニ留守ヲ置テ、國家日々ノ朝政ヲ聞シメ、同列ノ諸侯ノ吉凶事變ヲ聞シム、是ヲ留守トイフ、又ハ聞役トイフ、此事國初ニハ無カリシニ、イツノ頃ヨリカ始マリテ、今ノ世ニハ諸侯ノ處ニテ、是ヲ緊要ノ役トス、凡諸侯ノ職貢ハ、本來其法有リテ、當代國家ノ制度既ニ定マレリ、同列ノ中ヲ尋聞テ、變改增損スベキニ非ズ、平日ノ朝參奉公ハ、其主ノ心ニアレバ、他ヲ顧望スベカラズ、時ニ臨ミ變ニ當テハ、又其主ノ智慧決斷ニテ處置スベケレバ、是又他ヲ顧望スルニ暇アルマジ、昔ノ諸侯ハ公私ノコト、何事モ一己ノ處置ナリシ故ニ、智愚、賢不肖、忠不忠、分明ニ見エタリ、今ハ聞役ヲ以テ同列ノ並ヲ尋聞テ、萬事ヲ同樣ニシテ、少モ其中ヲ擢ンズルコトナキ故ニ、少分ノ氣概アル人モ、他ニ殊ナル忠ヲナスコト能ハズ、庸劣ナル君モ、奉公スルコト人ニ後レズ、是所謂旅進旅退トイフ者ナリ、旅進旅退トハ、同列一齊ニ進退スル也、是諸侯ノ賢愚混亂スル道也、サレバ今ノ諸侯ハ、一己ノ決斷ヲ以テ奉公スルコト能ハズ、一向ニ聞役ヲ恃トシテ奉公ノ務ヲナス也、是ニ因テ聞役ノ者、公事ニ託シテ權ヲ其邸ニ執ル、主君モ大夫モ皆是ヲ畏テ、萬事ヲ彼等ガ意ニ任ズ、聞役ハ此勢ニ乘テ其所レ欲ヲ恣ニス、又聞役ハ他ノ諸侯ノ聞役ト黨ヲ結デ、毎事其君ヲ要ス、人臣無ニ外交一トイフハ、士タル者ノ道也、今ノ聞役ハ、皆外交ヲ重ンジテ己ガ君ヲ蔑ニス、是皆人臣ノ道ニ背ケリ、諸侯

ノ風ノ弊ル丶コト是ヨリ起レリ、縣官ノ海内ヲ統御シ玉フ道ニ於テ、是大ナル害也、願クバ向後是ヲ停止シテ、昔ノ如ク随意ニ奉公セシメラルベシ、縦ヒ上ヨリ停止ナクトモ、諸侯ノ中ニテ英雄ノ君ハ、是ヲ止ンニ何ノ憚ルコトカ有ン、職貢ハ既ニ定法アリ、朝廷日々ノ政事ハ、朝士ヲ憑テ是ヲ聞ベシ、同列ノ吉凶ノ事變ハ、親キ間ニテハ告知ラスベシ、告知ラスルニ不レ及程ノ疎キハ、遅ク聞ベシ、縦聞ズトモ、何ノ苦シキコトカ有ン、此外時ニ臨デノ奉公、又ハ世間ノ慶弔問遺ハ、一己ノ處置ニテ、如何樣ニモ事ヲ行フベシ、如レ此ナレバ、閑役ナクテ事ノ闕ルコト有ルベカラズ、今ノ諸侯ニ英傑ノ君ナキ故ニ、國家ノ命令ニモ非ズシテ、流俗ニ牽レテケ樣ノ役人ヲ設テ、君ハ君ノ威ヲ失ヒ、臣ハ臣ノ節ヲ失ハシム、末世ノ風歎カシキコト也

一 凡人主ノ左右近習ノ臣ニハ、外人士民ト交通スルコトヲ許サズ、是古實也、徒ニ人主ノ密事ヲ泄スマジキ爲ノミニ非ズ、近習ノ臣外ニ出テハ、威勢ヲ賣テ一己ノ利ヲ要シ、士民ハ是ヲ攀縁シテ、利達ヲ干求スル類ノ好カラザルコト有リ易シ、是ヨリシテ、政ノ害生ズルコト尤多シ、サレバ昔ヨリ近習ノ臣ニ、外人ノ交ヲ禁ズルハ謂レ有ル事也、是人主ノ心ヲ注玉フベキ事也

一 國家ノ治メハ、士民ヲ土著ニスルヲ本トス、上ニ云ルガ如シ、然ル故ニ、諸侯ハ一タビ國ヲ建テヨリ、其地ヲ去ラズシテ久住スルヲ以テ、磐石ノ固メヲナス者也、然ルニ上ヨリ諸侯ヲ動シテ、屢々其封地ヲ移易スルハ、國家衰微ノ本也、治世ニハ其家困窮シ、亂世ニハ武備ノ用心闕ル事有テ、敗亡

ヲ取リ易シ、サレバ天下ノ治メニハ、諸侯ヲ移動セザルヲ長策トス、當代ニ所替トイフ事有テ、譜代昵近ノ諸侯ヲバ、頻々其封ヲ移易セラルヽ事アリ、其諸侯一世ノ內ニ、所替數度ニ及ブ者アリ、諸侯ヲ困シメ、士民ヲ疲カシ、仁政ニ背キ、武備ヲ忽ニスル道也、願クハ所替トイフコトヲ止テ、永久ニ其國ヲ領セシメラレバ、海內安寧ノ道ニテ、聖人ノ政ニ叶フベシ

經濟錄卷第九終

經濟錄卷第十

無爲

一凡經濟ノ道ハ、國初ノ時ニ、明君賢佐アリテ百官ヲ立、制度ヲ定メ、法令ヲ嚴ニシテ、百世不易ノ政ヲ行フ、是最上ノ經濟也、其次ハ中世ニ及デ、英雄ノ君出デ、賢臣ヲ用テ舊弊ヲ改メ、風俗ヲ正クシ、黜陟ヲ行ヒ、賞罰ヲ信ニシ、先王先君ノ政ヲ修ジテ、故キ家宅ヲ繕フ如ク、病ツキタル身ヲ療養スル如ク、衰ヘタル國家ヲ興シテ、福祚ヲ長クスル、是ヲ中興ト云フ、此二ツハ君モ臣モ、治道ニ達シテ古ヲ稽ヘ、時ヲ知テ行フニアラザレバ成就セズ、然ルニ明君賢相古ヨリアヒ難ク、君臣合體スルコト甚稀ナル故ニ、異國モ此國モ、經濟ノ成就スルコト極テ難シ、サレバ眞ノ經濟ニ非ズシテ、舊政ヲ改メ、眼前小々ノ利害ヲ見テ、一時ノ便宜ヲ計ルハ、人民ヲ擾亂スル道ニテ、國家ノ大害也、末世ノ人主ハ、一世一世ニ、少宛先君ノ政ヲ變ジテ、一己ノ好ミニ合スルコト多シ、譬ヘバ吾人ノ家ノ内ノ住居ヲスルガ如シ、父ノ作タル室ハ、子ノ心ニ不便利ニ思テ、此彼ヲ改テ已ガ好ミニ合セテ、父ノ住居ヨリ勝レリト思フ、孫ニ至テ、又其住居ヲ不便利ナリト思テ是ヲ改ム、如レ此一代一代ニ住居

ヲ替レバ、其一代ハ父ノ住居ニ勝テ便利ナル樣ニ思ヘドモ、外人ヨリ觀レバ、皆一得一失ニテ、殊ナル利害ナシ、且己ガ作ラザル室ナレバ、此ヲ善クスレバ彼ニ礙リ、彼ヲ善クスレバ又他ノ害アリ、畢竟十分ノ善キ住居ニハナラズ、代々ニ住居ヲ替レバ、其度ゴトニ柱ヲ斷リ梁ヲサリ、此屋ヲ穿チ、彼ノ窻ヲ塞ギ、一ツノ室ヲ種々ニサイナム故ニ、畢竟其室ヲ弱クシテ、後ニハ先祖ノ造タル室ノ形ハ悉無クナリテ、只此彼ヲサイナミタル故キ敝室ト見ユル也、國ヲ治ル道モ、人主ノ一代一代ノ物好ニテ、先君ノ政ヲ替ルハ、治ムルニハ非ズシテ、亂ヲ速ク道也、然レバ英雄ノ君ニ豪傑ノ臣アリテ、眞ノ經濟ヲ行ハンニハ、末世迚モ不可ナルコトナシ、初ヨリ正シキ制度モナク、堅キ法令モナク、古ヲ稽タル政モナク、只姑息苟且ノ政ヲ行テ、數百年ヲ經テ、士大夫ハ世祿ニテ驕奢淫佚ノ行ヲナシ、民ハ本業ヲ棄テ末利ヲ事トシ、風俗頽敗シ、上下困窮シタル時節ニ、眞ノ經濟ニ非ズシテ、彼此ト舊政ヲ變ズルハ大ニ不可ナルコト也、此時ニ當テハ、大槩國ヲ治ムル政事ヲ止テ、只無爲ノ道ヲ行フニシクハナシ、無爲トイフハ、何事モナサヾル也、無爲ニ二ツアリ、聖人ノ無爲アリ、老子ノ無爲アリ、論語ニ孔子ノ「無爲而治者其舜也與」ト曰ヘルハ、聖人ノ無爲也、舜ノ天下ヲ治メ玉ヒシハ、官職ヲ定テ、大禹、稷契、皐陶、伯益、夔龍、伯夷等ノ聖賢ナル人ヲ用テ、夫々ノ官人トナシ、萬機ノ務ヲ群臣ニ任テ、君ハ只上ニ在リ何事ヲモナサズ、日月ノ國土ヲ照ス如ク、臣下ノ勤惰忠不忠ヲ察シ、天下ノ治マルカ不レ治カ、兆民ノ安キカ安カラザルカヲ觀玉フノミ也、尙書ニ、「垂拱而天下治」トイヒ、中庸ニ、「篤恭而

天下平」トイフ、皆此無爲ヲサシテ云ヘルナリ、聖人ノ無爲ハ、上モ下モ、一向ニ作爲スルコトナキヲイフニハアラズ、百官皆ソレ〳〵ノ人才ヲ得テ、政事ヲ任テ君ハ上ニ安ク、民ハ下ニ安ク、四海ノ内ニ、一人モ其所ヲ得ザル者ナキヲ無爲トイフ、老子ノ無爲ハ、上モ下モ、一向ニ作爲スルコトナク、天地自然ノ勢ニ任テ、天下ノ事ニ少モ手ヲツケズ、其成行儘ニシテ捨置ク義也、儒者ヨリ觀レバ、不仁ナル様ニ思ヘドモ、不仁ニハ非ズ、此道ハ衰世ニ宜キ道也、老聃ハ周ノ代衰タル時ノ人ニテ、其時ノ天下ノ治メヲ觀ルニ、先王ノ首ト稱スレドモ、多クハ其本ヲ失ヒ、君モ臣モ、其人ニ非ズシテ國家ヲ治ントスル故ニ、行フ程ノコト、皆民ノ疾トナリ、國家ノ害ト成テ、日ニ危亂ニ趣ク、老子之ヲ難テ、書ヲ著シテ無爲自然ノ道ヲ說リ、聖人ノ無爲ト、名ハ同クシテ意ハ別也、老子ノ無爲ハ、專ニ衰世ヲ治ムル道也、「治㆓大國㆒者若㆑烹㆓小鮮㆒」ト書レシハ、至極ノ論也、此喩ハ、小鮮トハ、小キ鮮魚也、鮮トハ、今ノ俗ニイフ無鹽也、凡無鹽ノ魚ハ肉脆シ、マシテ小魚ナレバ、殊ニ壞レヤスシ、無鹽ノ小魚ヲ烹ルニハ、鍋ニ入ル丶ヨリ熟スル迄、手ヲ着ズ搖カサズ、熟スレバ取出シテ食フノミ也、然ルヲ鍋ニ在ル間ニ、熟セルカ、未シキカトテ匕箸デ以テ攪擾スレバ、骨モ肉モ壞レテ、魚ノ體ヲナクスル也、大國ヲ治ムルコト是ト同ジ、治メントテ種々ノ政令ヲ出セバ、小民等此政令ニ攪擾セラレテ安堵セズ、困窮流離スル者多シ、是治ムルハ、却テ治メザルヨリモ害アリ、凡人心ハ習ニ安ンズル者ナレバ、只從來ノ儘ニテ捨置ケバ、騷動スルコトナク、其ナリニテ治リユク者也、是治メザルガ却テ治ム

ルニ當ル、是ヲ不治之治トイフ、老子ノ無爲ハ此意也、衰世ヲ御スル道ハ、是ニ勝ルコトナシ、譬ヘバ一人ノ病人アリ、年五十以上ニテ、其病ハ熱症、冷症、虛症、實症、種々ノ症アリ、身ノ内ニ痰アリ、瘀血アリ、積聚アリ、症氣アリ、一人ノ身ニ種々ノ病ヲ兼テ苦ムコト甚シ、醫者是ヲ治セントテ、補劑ニテ虛ヲ補ヘバ、拒デ受ズ、瀉藥ニテ吐下ヲ行ヘバ、元氣ヲ傷ル、冷症ヲ見テ溫藥ヲ與レバ、熱ヲ發ス、熱症ヲ見テ凉劑ヲ用レバ、又冷症ヲアラハス、灸スレバ火ヲ動カス、針スレバ痞積ヲ動カス、種々ノ病混雜シテ治シ難キヲ、醫者其本ヲ知ラズシテ、現症ニ隨テ其標ヲ治ス、治方藥劑混雜シテ、ハカバカシキ効モナク、一病除ケバ又一病起リ、彼此トシテ歲月ヲ經ル間ニ、元氣漸々ニ衰ヘ飮食減少シ、身體羸憊シテ、サスガ死モヤラズ、息ノ通フ許ニテ床ノ上ニアリ、數十人ノ醫者術盡キ、手ヲ束テ去タルヲ、一人ノ良醫有リテ是ヲ治ス、其治方ハ藥ヲ用ルコトヲ止メ、其人ノ口、腹ニ宜キ食物ヲ與ヘ、寒暖ニ適ヘテ衣ヲ衣セ、風寒暑濕ノ外邪ヲ避シテ、小々四體ヲ運動セシメ、時節ニ隨テ消息シ、食物ニテ徐々ニ脾胃ヲ調ヘ、元氣ヲ養ナハシム、如レ此スル事半年一年ニシテ、元氣稍復リ、飮食稍略進ム樣ナレバ、心モ次第ニ靈ヤカニナリ、身モ少宛マメニナリ、從來ノ病モサノミ苦ニナラズ、柳ノ枝ノ如ク、荏苒トシテ歲月ヲ經ル内ニ、病症モ十ニ五六程愈テ、病マザル已前ノ如クニハアラテドモ、大ニ苦痛スルコトモナクテ、又五年十年モ、生延テ終ル人アリ、凡人壯年ニテモ、難治ノ病ヲ得テ歲月ヲ經タルヲ、醫者是ヲ治セントテ、種々ノ方藥ヲ施セバ、病ハ不レ去シテ、治スレバ

治スルホド病重ル、是ヲ醫書ニハ、壞症トモ壞病トモ云フ、壞病トハ、コヂレヤマヒト云フコトナリ、病壞症ニナレバ、愈ルコトハナクテ、却テ死ヲ速ニスル也、殊ニ中年ヲモ過タル人ハ、本分ノ元氣衰ル故ニ、一身ノ中ニ不足ナル處多シ、此時ニ於テ、治シガタキ病ヲ治セントスレバ、病ハ愈ズシテ脾胃ヲ傷ヒ、元氣ヲ伐テ死ヲ速ニスルコト必定也、今ノ喩ニ云ヘル良醫ノ療治ハ、不治ノ治トイフ者也、治セザルヲ以テ治スルナリ、是則老子ノ無爲ノ道也、國家ヲ治ルモ是ト同然ナリ、其本ヲ善クセズ、世ノ移リ行クニ任テ、惡クナリコヂレタル國家ヲ、一旦ニ治テ善クセントスルハ、彼庸醫ノ難病ヲ治スルナリ、政令ヲ出セバ出ス程、民情ニ逆ラヒテ治マラズ、却テ亂ヲ速ク者也、其時ニ無爲ノ道ヲ知タル者ハ、手ヲ著ズ、治メズ、只民ノ元氣ヲ養テ、ユガミ成ニモ、國運ヲ少モ長クスルコトヲ討ル、是ヲ善治トイヒ、是ヲ不治ノ治トイフ、サレバ國運ヲ國脈トイフハ、人ノ命脈ニ似タル故也、昔漢ノ高祖ノ天下ヲ取玉ヒシ初ニハ、蕭何ヲ相國トシテ、政ヲナサシメ玉ヘリ、其時曹參ハ齊王ノ相ニテ、齊國ニ在シガ、蓋公トイフ道人ヲ師トシテ、黃老ノ術ヲ學ベリ、黃老トハ、黃帝老子ナリ、黃老ノ術トイフハ、無爲ノ道也、曹參是道ヲ用テ齊國ヲ治テ治マレリ、後ニ蕭何死シテ、曹參相國トナル、私第ニ在テハ、人ヲ集テ日夜ニ酒ヲ飲ム、醉テ朝參スル故ニ、朝廷ニテモ政事ヲ聽カズ、退朝シテハ、又飲ム、官人ノ中ニ公事アル者、相國ニ其事ヲ告ントテ、曹參ガ第ニ往ケバ、酒宴ノ中ナルニ、曹參其官人ヲ席上ニ召出シテ、何トモ言セズ、先酒ヲ飲シム、相國ノ命ナレバ、辭スルコト能ハズ、受テ飲

ム、飲タル上ニテ、間ヲ伺テ言ヲ出サントスレバ、曹參其氣色ヲ見テ、只飲メトイヒテ又飲シム、然スル内ニ、卒ニハ其官人モ沈醉シテ、公事ヲ談ズベキ心モナクナリテ、歡樂ヲ極テ去シト漢書ニ見エタリ、是則曹參ガ無爲ノ治メ也、曹參一世如レ此シテ天下ヲ治シニ、天下大ニ治マレリ、其後文帝景帝二代ノ君、皆黄老ノ術ヲ用テ、無爲ヲ以テ天下ヲ治玉ヒシニ、國家富饒ニシテ人民安樂也、武帝ハ儒術ヲ崇敬シテ、黄老ヲ用タマハズ、然レドモ天性奢侈ヲ好ミ土木ヲ興シ、神仙ヲ求メ夷狄ヲ伐チ、畋獵ヲ樂ミ聲色ニ耽リ、種々ノコトヲナシ玉ヒシ故ニ、海内虚耗シ、百姓困窮シテ、漢ノ天下是ヨリ衰微セリ、譬ヘバ人ノ中年ニ大病ヲ病デ、愈タル後ニ元氣衰テ、壯年ノトキニ不レ及、夫ヨリ漸々ニ老衰ニ趣クガ如シ、武帝ノ黄老ヲ好ズシテ、儒學ヲ興シ玉ヒシハ善事ナレドモ、先王ノ道ニ達セズシテ、其名ヲ假テ一己ノ慾ヲ遂ントシ玉ヒシ故ニ、却テ天下ノ害トナリ、文景二帝ノ黄老無爲ノ道ニテ治タマヒシニシカズ、是儒學ノ咎ニハ非ズ、先生ノ道ニ遵ハザリシ故也、武帝ハ實ニ非常ノ君ナリシダニ、惡ク治レバ不レ治、況ヤ武帝ニ及バザルホドノ庸君ハ、惡ナル治ヲナシテハ、大ニ人民ヲ害シ、國家ヲ壞ル也、只無爲ノ道ヲ行テ、不治ノ治ヲナスヨリ勝レルコトハナシ、凡後世ノ儒者善ク學問セズシテ、老子ノ道ハ、イカナル道トイフコトヲ明メズ、一槩ニ異端邪說トナシテ、是ヲ排擯スルハ不智也、聖人ノ道ハ、譬ヘバ五穀也、五穀ハ人ノ恒ニ食テ、身ヲ養ヒ命ヲ續ク物ナレドモ、惡ク食ヒ多ク食ヘバ、脾胃ヲ傷リテ痞滿、腹痛、泄瀉等ノ病ヲ起ス、聖人ノ道モ、惡ク行ヘバ天下國家ヲ亂ル事、

五穀ヲ食テ停食傷食ノ患有ルガ如シ、老子以下ノ諸子ノ道ハ、譬ヘバ藥ノ如シ、藥ハ病ヲ治スル者ナレバ、五穀ニテモ人ノ腹中ニ停滯シテ病ト成タルニハ、藥ニテ治セザレバ叶ハズ、凡藥物ハ氣ノ偏ナル者ニテ、大黄、石膏ハ大寒、附子、乾薑ハ大熱トイフ類、諸藥皆然也、サレバ藥ニハ必毒アリ、毒アル故ニ能ク病ヲ治ス、毒ニ大毒小毒ノ不同有レドモ、毒ナキハナシ、醫ヨク用レバ、諸藥皆病ヲ治ス、惡ク用レバ、人參白朮モ人ヲ害ス、病ヲ治スルニ及デハ、如何ナル大毒ノ藥ヲモ用レドモ、病ナキ時ハ、小毒無毒ノ藥モ無用也、是諸ノ藥物ハ、平日ニ食フベキ者ニハアラ子ドモ、病ヲ治スル功ハ、五穀モ不レ及所アル故ニ、醫者是ヲ用ル也、老子等ノ道モ是ニ似タリ、天下國家ヲ治ムル常道ニハアラ子ドモ、世ノ末ニナリテ、國家ニ種々ノ病患生ジタル時節ニハ、老子ノ無爲、墨翟ガ兼愛、申不害、韓非ガ刑名法術ニ至ル迄、諸子ノ説ル道、皆夫々ニ所用アリ、善ク用レバ、皆良藥ニテ、國ノ病ヲ治セズトイフコトナシ、如レ是諸子ヲ見ルヲ、善ク學問シタル者トイフ、諸子ノ中ニテモ、老子ノ無爲ハ、殊ニ平々ナル道ナレバ、衰世ノツカレタル民ヲ御スルニハ甚宜キ道也、當代モ元祿以來、海内ノ士民困窮シテ、國家ノ元氣衰タレバ、只今ノ世ハ萬事ヲ止テ、偏ニ無爲ヲ行フベキ時節也

易道

一 凡天下國家ヲ治ムル人ハ、易道ヲ不レ知バ有ルベカラズ、易經ヲ學ブコトハ容易ナラ子ドモ、易道ノ

大意ヲ知ルコトハ、サノミ難事ニモアラズ、易道ノ大綱三ツアリ、一ツニハ時ナリ、二ツニハ數ナリ、三ツニハ陰陽也、此三ツヲ知レルハ、易道ヲ知タル也、一ツニ時トハ、易ニハ六十四卦アリ、一卦ニ六爻ノ位アリ、六十四卦ニ三百八十四爻有リ、六十四卦三百八十四爻ハ、皆時ヲ明セル也、凡天下ノ人事ニハ種々ノ變アリ、變ハ皆時也、國家ヲ經營シ、民ニ蒞ミ事ヲ治ル者ハ、時ヲ知テ變ニ應ズルヲ智トス、世ニ盛衰アリ、國ニ治亂アリ、家ニ安危アリ、人主ニ明暗アリ、事務ニ可不可アリ、此等ノ類ヲ時トイフ、國家ヲ治ムル者ハ、只今ハイカナル時ゾトイフコトヲ分別シテ、其時ニ宜キ政ヲ行フベシ、若時ヲ不レ知シテ政ヲ施セバ、縱堯舜三王ノ道ニテモ、時ト齟齬シテハ、決シテ行ハレズ、易ノ六十四卦三百八十四爻ハ、是ヲ人ニ知ラシムル教也、時ノ一字ヲ易經ノ眼目トスルハ、此義也、易經ヲ學ベバ、此義ヲバ知ルコトナレドモ、易經ヲ學バズトモ、時ヲ觀ズル意有リテ、時ニ宜キト不レ宜トヲ考テ政ヲ施サバ、中ラズトイフトモ遠カルマジキ也、此義ハ既ニ總論ノ中ニモ略論セリ、二ツニ數トハ、易ハ本數ヨリ起レリ、天一地二、天三地四、天五地六、天七地八、天九地十ハ河圖ノ數也、易ハ河圖ノ數ニ因テ起レル者也、一三五七九ハ天ノ數ナリ、二四六八十ハ地ノ數也、一三五七九ヲ積テ二十五也、二四六八十ヲ積テ三十也、天地ノ數ヲ合セテ五十五也、伏羲此數ニ因テ八卦ヲ作リ、八卦ヲ重テ六十四卦トナシテ、天地萬物ノ理ヲ盡シタマヘリ、凡天地萬物、何ニテモ數ナキ者ハナシ、人ノ上ニテ言ヘバ、生ルヽヨリ死スル迠、禍福升沈皆數アリ、萬物ヲ言ヘバ、鳥獸魚鼈ノ生死、

草木ノ榮枯皆數アリ、且一ツノ器物ノ上ニテ言フニ、陶家ノ陶シテ諸ノ陶器ヲ作ルニ、一種ノ土ニテ同形ノ器ヲ數多作ル、其陶器ノ成就スルニ及デ、多キ中ニ自然ニ好キト惡キトアリ、成就シテ間モナク毀ル有リ、人ニ賣テ人ノ處ニテ毀ルヽアリ、一年二年五年十年ニテ毀ルヽアリ、數十百年恙ナキアリ、火ニ焚ルアリ、水ニ沈ムアリ、是則同時ニ作リ、同時ニ成就シタル物ナレドモ、數多ノ中ニテ、一物一物ニ、成ルト敗ルトニ皆定數アリ、陶家モ是ヲ不レ知、賣ル者モ買フ者モ是ヲ知ラズ、是一物ノ上ニ具ハレル數ニテ、天地萬物自然ノ數也、此數ハ神聖ノ力ニテモ移變スルコト能ハズ、命ノ上ヲ言フニ、武士ノ戰場ニ出ルハ、危キコトノ至極ナルニ、亂世ノ武士軍陣ニ臨デ、危難ヲ經歷スルコト數度ニ及デモ、其時死セズシテ、年老ル迄存命シテ、老後ニ病死スル者アリ、漢ノ曹參ガ身ニ七十ノ創ヲ被リタレドモ、軍陣ニテ死セズシテ、天下治リテ、老後ニ蓐ノ上ニテ死セルヲ見ルベシ、或ハ平日無事ナルトキニ、料ラザル禍ニ遭テ死スル者アリ、或ハ大病ヲ受テ死セントスル程ノ危キコトアリテモ、其時ハ死セズシテ、水ニ溺レ馬ヨリ墮ル類ノコトニテ死スル者アリ、水火等ノ難ニ、數百千人モ一同ニ死スル中ニ、百人ニ一人モ免ルル者アリ、又數十人皆難ヲ免ルル中ニ、一人二人死スル者アリ、此等ノコトハ、皆其人ノ命數也、數ノ盡レバ死ス、數ノ盡ザル內ハ、如何ナルコトニテモ不レ死、數ノ盡タル者ハ、神醫モ活スコト能ハズ、數ノ盡ザル者ハ、酷吏モ殺スコト能ハズ、是ヲ以テ推テ知ベシ、天下ノ萬事皆如レ此、國家ノ治亂興廢存亡、皆本自然ノ數アリ、人力ノナス所ニ非ズ、治マラント

スル國ハ、誰治メズトモ治ル、亂レントスル國ハ、聖賢有リテモ、是ヲ治テ亂レザラシムルコト能ハズ、佛家ニ生老病死トイフ事有ルハ、人ノ一生ノ始終ヲ四ツニ分テ、其次序ヲ知ラシメタルニテ、甚好キ名目也、天下國家ニモ生老病死アリ、國家ノ始テ建ツハ生也、中世ヲ過テ末世ニ向フハ老也、人主早世シテ幼主立チ、或ハ女主立チ、或ハ女主朝ニ臨ミ、或ハ人主ニ繼嗣ナク、或ハ人主不明ニシテ姦邪ノ臣用ラレ、或ハ人主暴虐ニシテ人民ヲ傷害シ、或ハ人主驕奢淫佚シテ百姓ヲ勞苦セシメ、或ハ天災、或ハ人禍有リテ人民騷動シ、國內困窮スル類ノ事、末世ニ必有ルコトニテ亂ノ端ナリ、是則病也、滅亡スルハ死也、上古ハ姑置テ、夏殷周三代ハ、皆聖人ノ創業シ玉ヘル國家ナレドモ、生老病死ナキニ非ズ、漢ヨリ以後ハ、其創業ノ君、二帝三王ノ如ク聖人ニ非レドモ、天命ヲ受テ國ヲ開キ、子孫是ヲ保ツコト、或ハ二百年、或ハ三四百年ナリ、其世ニモ又皆生老病死アリ、三代ノ天下モ一タビハ不レ亡トイフ事ナシ、世ニ不死ノ人ナキガ如シ、只三代ハ聖人ノ國家ナル故ニ、世ヲ傳フル事久シク、後代ハ德劣レル故ニ、世ヲ傳ル事三代ニ及バザル、是其異ナリ、凡此生老病死ハ數ナリ、一定シテ變ゼザル者也、老病ノ時ヲ本ニ返シテ生ノ時トナシ、死ヲ變ジテ不死トナス事ハ、聖神ノ神智ニモ及ビ玉ハズ、若此數ヲ不レ知シテ、時ニ背ケル政ヲ出セバ、行ハレザルノミナラズ、却テ害ヲ生ズル也、此理ヲ明メタル人ヲ、易道ニ達セル者トイフ、易ノ六十四卦三百八十四爻ハ、皆此數ヲ明セル者也、三ツニ陰陽トハ、繫辭傳ニ、「易有二太極一、是生二兩儀一」トアリ、兩儀ハ、陰陽也、太極分レテ兩儀トナリ、兩儀別レテ

四象トナル、四象ハ、太陽、少陰、少陽、太陰也、太陽ハ夏、少陰ハ秋、少陽ハ春、太陰ハ冬也、四象ハ四時也、四象分レテ八卦トナリ、八卦分レテ六十四卦トナリテ、易道成就セリ、然レバ易道ハ陰陽也、易經ハ、八千言萬語、只陰陽ノ理ヲ說ル者也、莊子ガ「易以ニ陰陽ヿ」ト云ルハ、眞ニ易ヲ知レル者也、天地ハ萬物ノ父母ナリ、天ハ陽ナリ、地ハ陰ナリ、萬物ハ天地陰陽ノ二氣ヨリ生ズル故ニ、一物ニ必陰陽ノ氣ヲ具ス、人生レテ身ニ父母ノ氣ヲ具スルガ如シ、扨天ハ陽、地ハ陰ト云フハ、大ニ分タル者也、細ニ分レバ、陰陽ニ又各陰陽アリ、二ツニ分レバ八ツニ分レ、百千萬ニ分レテモ、其理窮盡スルコトナシ、易ノ兩儀、四象、八卦ハ、此理ヲ見ハシタル者也、大略ヲ言フニ、寒暑晝夜ハ天ノ陰陽也、南北明晤ハ地ノ陰陽也、男女生死ハ人ノ陰陽也、鳥獸ニハ雌雄牝牡有リ、草木ニハ榮枯アリ、土石ニハ燥濕冷熱アリ、凡天地ノ間ニアラユル物、一物モ陰陽ナキハ非ズ、又一物一事ノ上ニテ言ヘバ、消息盈虛アリ、是陰陽也、消息トハ、消ハキユル也、物ノ消亡スル也、息ハ生ズル也、譬ヘバ人生レテヨリ中年迄ハ、氣血筋骨皆增長スル、是息也、五十以後ハ氣血筋骨皆衰滅スル、是消ナリ、草木ナドハ、一歲ノ內ニ消息アリ、盈虛トハ、盈ハ滿ル也、虛ハ虧ル也、月ノ盈虛、海水ノ盈虛ノ如キ是也、又陽物ト陰物ト二物相對スル上ニテイヘバ、消長アリ、消ハ衰ル也、長ハ盛ニナル也、ソダツ義ナリ、陰長ズレバ陽消シ、陽長ズレバ陰ハ消ス、一歲ノ內寒暑往來スルガ如キ、是陰陽ノ消長也、又天下國家ニテ言ヘバ、君子ノ道盛ナレバ、小人ノ道衰ヘ、小人ノ道盛ナレバ、君子ノ道衰フ、是君子小人ノ

消長也、陰陽ハ本來消長スル者ナル故ニ、イツモ等分ニ牛角ノ如ク相對スルコトハナシ、凡天下ノコトニ、何ニテモ消長盈虛ナキハナシ、是則陰陽ノ消長也、國家ニ治亂興亡有ルハ、國家ノ消息盈虛也、一人ノ身ニ吉凶禍福消沈榮辱有ルハ、一身ノ消息盈虛也、又人ノ一生ノ內ヲ以テ言ヘバ、初富貴ニテ後ニ貧賤ナル者アリ、初貧賤ニテ後ニ富貴ナル者アリ、數年ノ內ヲ言ヘバ、吉事多キ年アリ、凶事多キ年アリ、一年ノ內ヲ言ヘバ、吉ナル月アリ、凶ナル月アリ、一月ノ內ヲ言ヘバ、樂ム日アリ、苦ム日アリ、喜ブ日アリ、悲ム日アリ、一日ノ內ニモ、朝ハ吉ニ暮ハ凶ナル日アリ、朝ニハ苦ミ暮ニハ樂ム日アリ、是人間ノ消息盈虛也、又一國一郡ノ內ニ、東方蕃昌スレバ西方衰微シ、南方蕃昌スレバ、北方衰微スルコトアリ、是一國一郡ノ內ノ消長也、凡天地ノ間ニアラユル萬物萬事、皆陰陽ヲ具スル故ニ、消息盈虛アラズトイフコトナシ、是ト彼ト二物兩事ハ、更ニ消長セズトイフコトナシ、是則陰陽ノ交代ナリ、然ルニ其交代スル所ハ、極マラザレバ變ゼズ、終ハラザレバ始マラズ、故ニ消スルコト終レバ、息スルコト始マリ、息スルコト終レバ、消スルコト始マル、盈窮レバ虛シ、虛窮レバ盈ス、消長モ亦然ナリ、天下ノ治亂モ、治窮レバ亂レ、亂窮マレバ治マル、凡消息盈虛ニ大小アリ、天下ノ治亂、人民ノ增減ノ如キハ、大消息大盈虛也、一年一月ノ內ノ吉凶禍福ハ、小消息小盈虛也、又國家ノ上ニテ、其君上一代ハ慈仁ニテ、一代ハ暴虐ニ、一代ハ驕奢ヲ好デ、一代ハ恭儉ヲ好ムガ如キ、是亦消息盈虛ノ類ニテ、陰陽ノ交代也、陰陽ノ交代ハ、寒暑晝夜ヨリ明ナルハナシ、陰陽ノ理ヲ

知レル者ハ、萬事ノ消息盈虚ヲミルコト、皆寒暑晝夜ノ如シ、夏ヲ寒クシ、冬ヲ暑クシ、晝ヲ夜トナシ、夜ヲ晝トナスコトハ、神聖ノ力ニモ能ハズ、只智者ハ夏日ニ冬ノ寒カルベキコトヲ知リ、君子ハ冬月ニ夏ノ暑カリシコトヲ忘レズ、晝夜ニ於テモ亦如レ此、寒暑晝夜ノ往來アルコトヲ知ル如ク、身上ノ榮辱、升沈、苦樂、憂喜ニ於テモ、亦往來アルコトヲ知ル、サレバ君子ハ安樂ノ時ニ、憂患ヲ忘レズシテ、身ヲ愼ミ、憂患ノトキハ、又安樂ヲ得ベキコトヲ知テ、泰然トシテ其心ヲ動カサズ、身上ノ榮辱、升沈、苦樂、憂喜ノ往來アルコトヲ知ル如ク、國家ノ治亂興亡ニ於テ、亦往來有ルコトヲ知ル、サレバ賢者ハ治マレル世ニ亂ルヽコトヲ忘レズ、亂タル世ニハ、亂極マラザレバ、治ニ反ラザルコトヲ知テ、當前ノ事務ヲ思惟ス、興ル者アレバ亡ル者アリ、亡ル者アレバ興ル者アルコトヲ知テ、其身ヲ進退シテ、變ニ應ジ務ヲ勤ム、如レ是ナルヲ陰陽消息ノ理ヲ知レルトイフ、愚者ハ此理ヲ不レ知、故ニ安樂ノ時ニハ、イツ迄モ安樂ナルベシト思テ、憂患ノ來ルベキヲ慮ラズ、終ニ憂患ニ値ヘバ、即時ニ身命モ滅スル樣ニ思テ、守ヲ失ヒ志ヲ喪フ、不虞ノ備ヲナサズシテ、事ニ行當リテ迷惑スルノミ也、凡陰陽消息ノ道ハ、極マレバ必變ズ、極マラザレバ變ゼズ、極マリテ變ゼザルコトモナク、極マラズシテ變ズルコトモナシ、天下ノ事、何ニテモ消息盈虚ナキハナシ、其中ニ月ノ盈虚、海水ノ潮汐ノ如キハ、其證明白ナル故ニ、愚者モ能ク是ヲ知ル、人事ノ消息盈虚ハ、其理微妙ナル故ニ、智者ニ非レバ知ル事能ハズ、若能ク此理ニ達スレバ、事ヲ行フニ過少シ、一身ヲ修ルダモ、是ヲ知ラズバ

有ルベカラズ、況ヤ天下國家ヲ治ル人、是ヲ不レ知シテ可ナランヤ、孔子ノ「五十以學レ易、可ニ以無ニ大過ニ矣」ト曰ヘルハ此義也、然レドモ、易道ハ廣大也、儒ヲ業トスル者モ、是ヲ窮ル事難シ、況ヤ世ノ士大夫ノ跂及ブ所ニ非ズ、只時ト數ト陰陽ト、此三ツハ易道ノ大綱ニテ、是ヲ知ル事ハ深ク學問セザル人モ及ブベキコト也、國家ニ臨ミ政ヲ行フ人、此三ツノ義ヲ知ラバ、誠ニ大ナル過失ヲ免カルベシ

一　先王ノ道ハ悉六經ニアリ、六經トハ、詩、書、禮、樂、易、春秋也、先王ノ道ハ天下ヲ治ル道也、六經ハ天下ヲ治ル道具也、詩經ハ天下ノ人情ヲ盡シタル者也、天下ヲ治ルニ人情ヲ知ザレバ、政令ヲ出シテモ下ニ行ハレズ、人情ト齟齬スル故也、詩經ヲ用テ天下ノ人情ニ通ジ、政事ノ得失、風俗ノ美惡ヲ知ル、是治道ノ要務也、書經ハ二帝三王ノ天下ヲ治タマヘル道ト事蹟トヲ記セル者ナリ、政ヲナスニハ二帝三王ノ道ヲ本トシテ、當世ノ事務ヲ考ル是第一ノ用心也、先王ノ道ハ萬世ノ常道ナル故ニ、是ニ過テ過テル者ハナシ、又詩書ノ二經ハ、天下ノ義理ヲ盡シタル者ナレバ、是ヲ學デ義理ニ達スレバ、心モ明ニナリ、智モ開クル也、禮ハ國家ノ定法也、人事ノ儀式也、此儀式ハ聖人ノ定置玉ヘル者ニテ、是ニ違ヘバ禽獸ノ行ヒニ同ジ、禮ハ天地ノ常經ナル故ニ、聖人ノ道ニハ是ヲ重ンズル也、樂ハ和樂ノ道ニテ、禮ノ嚴ナル所ヲ樂ニテ和スル也、禮ト樂トハ、車ノ兩輪ノ如ク、人ノ兩手ノ如ク相離レザル物也、禮經ハ今モ其書存セリ、樂經ハ全クハ存セザレドモ、古書ノ中ニ散見セリ、禮樂ノ義

ハ、既ニ前篇ニ見エタリ、春秋ハ賞罰ノ道也、賞罰ハ國家ヲ治ル要務ニテ、勸善懲惡ノ術也、以上ノ五經ハ、國家ヲ治ル當用ノ道也、此五ツヲ以テ政ヲ行ハヾ、事足ヌベキニ、易經ヲ加テ六經ト稱スルハ、何故ゾヤ、已上ノ五經ハ、先王ノ天下ヲ治メ玉ヘル常道ナレバ、是ヲ用テ國家ヲ治メバ、百世ノ末迄モ政ニ弊ナク、國ノ危ク亂ルヽコトモナカルベキ道理ナルニ、先王ノ天下モ、末世ニ及デハ政ニ弊生ジ、人間ニ亂臣賊子モ出デ、國家危フシテ、卒ニハ禍亂起リテ滅亡スルニ至ル、是則陰陽消長ノ理ニテ、物極リテハ變ズル天地ノ常數アル故也、是則易道也、此理ハ、易ヲ不レ學バ知ルコト能ハズ、易經ハ、此理ヲ盡シタル者也、國家ヲ治ムル人此理ヲ知ラザレバ、事ニ臨テ疑惑起リ、大ナル過失モアル故ニ、聖人是ヲ易經ニ書シテ、後ノ人ニ示シ玉ヘル也、サレバ上ノ五經ニ、易經ヲ加テ六經トナシテ、天下國家ヲ治ル道少モノコスコトナシ、是等ノ義ヲ明メテ、易道ハ知ズシテハ不レ叶コトヽ知タル人ハ、易道ヲ知レル也

經濟錄卷第十

大尾

經濟錄拾遺

太宰純著

經濟錄拾遺

太宰純著

問　近來諸侯大小となく、國用不足にして貧困する事甚し、家臣の俸祿を借る事、少きは十分の一（一本一ノ下ニ、二ノ字アリ）多きは十分の五六なり、それにて足らざれば、國民より金を出さしめて急を救ふ、猶足らざれば、江戸、京、大坂の富商大賈の金を借る事、年々に已まず、借るのみにて返すこと罕なれば、子亦子を生みて、宿債增多すること幾倍といふことを知らず、昔熊澤了介が海內諸侯の借金の數は、日本に在らゆる金の數に百倍なるべしといへるは、寬文延寶の年の事なり、其れより七十年を經ぬれば、今は千倍なるべし、今諸侯の借金を數の如く償はんとせば、有名無實の金何れの處より出んや、然れば只如何にもして、當前の急を救ひて、其の日その時を過すより外の計なし、諸侯の臣の中に、是を憂ふるものありて、隨分の智術を用ひて、（一本籌ニ作ル）筭策を運らせども、或は短慮にしてその志を遂げず、或は群小に惱られて、其事中ごろに敗れ、或は貴人大臣に逆ひて、罪を獲て退き、或は國民を暴斂して亂暴を致し、或は君上の奢侈止まずして、其臣の計行はれず、或は其君自用ひることを好みて、其臣に委任せず、（此字ノ下一本等ノ字アリ）此の故障一ツもあれば、管仲晏子が才ありても、比干子胥が忠にても、其功を成すこと能はず、儻し事を未然に察して、良策を献ずる者ありても、無事の時は君も大夫も聽容れず、事の急迫なるに

及びて、才辯なる者ありて、商賈を語らひ、子錢家を欺きて、金穀を借りて、一時の急を救へば、君も大夫も此の士の功勞を稱美して、即時に賞を行ひ、祿を增し、位を進む、例へば昔或る人の家に、竈の突を直にして、其側に薪を積み置きたるを、一人見て突を曲げて、薪を他處に移すべし、然らずば失火あらんと云へるを聽かず、其儘にて打ち過ぎけるほどに、忽一夕失火して、燒け出けるに、近隣走り集り、之を救ひて、火鎭りけり、其の主人大に喜びて、牛酒を買ひ、宴を開きて、彼の火を救ひたる者に謝禮しけると云へり、前の一人の敎に從ひて、曲突を作り、薪を他所に移さば、失火の禍もなく、牛酒の費もあるまじきに、善き敎を用ひずして、（火ノ上一本此間ニ「失火シテ」ノ四字アリ）火を救ひたる者を功とせるが如し、其本を治めず、計策に拙なくして、一旦急迫の時に臨みて、千金萬金を借るといへども、僅に暫く當前の用を辨ずるのみにて、全體に補益なければ、唯焦石に沃ぐが如くにて、其の時を過ぐれば、貧乏前よりも甚し、了介が諸侯の國用位つめなるべしと云へる、正しく今の時なるべし、如何なる術にても、救ひ得べしとは思はれず、抑是を救ふにも、亦術なからんや、否や

答　凡經濟の術は、醫の病を治するが如し、病を治するに、其本を求むると云ふは、大法なれ共、急なれば其の標を治すといふとあり、經濟も亦然り、國家に制度を立つるは本なり、制度なくして、風俗敗れ、國用足らざるを、此まゝにて當前の急を救はんとするは末なり、然れ共天下の制度を改むることは、一國の力の及ぶ所にあらず、天下の制度改らずしては、善き經濟は行はれず、されぱとて、

一國は一國の經濟にて、如何樣にもなるべき事を、一向に棄置きて位つめにするは、智術なきなり、醫家に急なれば其の標を治すと云る如く、今の病の急なる處を見て、是を救ふべきなり、昔は日本に金銀少なく、錢を鑄ることも無かりし故に、上より下まで、金銀を使ふこと稀なり、錢も異國の錢ばかりを使て用足れりしに、(三)慶長年中より金銀豐饒になり、寛永錢を鑄てより、大事には金銀にて用を足し、小事には錢にて用を足す、又當代は天下の人、貴賤となく、皆江戸に集りて、旅客なる故に、金銀にて萬事用を足すこと習俗になりて、旅客にあらざる者も、旅客の如く、米穀布帛を寶とせず、金銀を寶として、野にても山にても、金銀さへあれば、米穀布帛を得易しと思へり、然れば今の世は、只金銀の世界にて、米穀は朝夕の飯食に充るまでにて足り、布帛は衣服に充つる迄にて足れりとす、其餘は皆金銀にて、大事も小事も、用度一事に辨ずる故に、天下の人、金銀を貴ぶこと、昔に百倍せり、されば今の世は、米穀布帛ありても、金銀乏しければ、世に立ち難し、小民の賤しき者のみに非ず、士大夫以上、諸侯國君も皆然なり、然れば今の世は、祿ある士大夫も、國君も皆商賈の如く、偏に金銀にて、萬事用を足す故に、如何にもして金銀を手に入るゝ計を爲す、是今の急務と見ゆるなり、金銀を手に入るゝ術は、賣買より近きことなし、當代にも、昔より賣買にて國用を足し、祿食に代ふる國あり、對馬侯は小國を領して、僅に二萬餘石の祿なるが、朝鮮人參、其の他諸の貨物を、甚だ賤く買入れ、一國にて占めて、甚だ貴く賣り出す故に、二十萬石の諸侯に比して猶餘裕あり、松

前君は松前を領して、七千石の祿なるが、國の土產と、蝦夷の貨物を占て、貴く賣る故に、五萬石の諸侯も及ばざる程の富なり、石州の津和野侯は、四萬石餘の祿なるが、板紙を製出して、是を占めて賣る故に、十五萬石の祿に比す、同州濱田侯も、津和野侯に傚ひて、板紙を造り出す故に、五萬石の祿にて、十萬石餘の富をなすと云り、薩摩は本より大國なれども、琉球の貨物を占めて賣り出す故に、其の富有海内に勝れたり、中華の貨物も、琉球に傳へて、薩摩に來り、薩摩より此方の諸國に流布すること多し、對馬、薩摩、松前は皆外國の貨物を占めて、一國より賣り出せば、他の諸侯の比類する所に非ず、津和野、濱田の如きは、其土地の產物を占めて、各一國より賣出して、國用豐饒なり、新宮侯は紀侯の上鄕にて、三萬石の祿なるが、熊野の山海物產を占めて賣り出して、富十萬石に比すと云ふ、此等の經濟に傚て、計策を用ひば、大小諸侯の國に、何と云ふことなく、土產なきは非ず、土產の出づるに多きあり、寡きあり、土產少き所は、其民を敎導し、督責して、土地の宜に從ひて、百穀の外、木にても草にても、用に立つべきものを植ゑて、土物の多く出るやうにすべし、又國民に宜しき細工を敎て、農業のひまに、何にても人間の用に立つべきものを作り出さしめて、他國と交易して、國用を足すべし、是國を富ます術なり、凡諸侯の國にて、米穀には定りたる、租稅あり、(山ノ上一本ニノ字アリ)其外山海より出づる諸物、民家より出る布、帛、絲、綿、簟、席、蓑、笠の類、諸の細工物は、(一本「ノ」みな貨物なれば、民より賣り出す時に、必ず征稅とて、上に貢する所、或は二三十分ノ一、或は五十分ノ

（一ノ二字ナシ）一百分ノ一を其貨物にて出すもあり、錢にて出すもあり、日本の俗に是を運上と云ふ、此征稅を出しつれば、其餘は皆民の私貨にて、商賈に賣り渡して、其直金は悉く民の所得となる、是古法なり、然れども今の世には、諸侯の國に征稅なき所も多し、其故は古は農兵とて、軍役の人馬を民より出せる故に、田租を取ること什一とて、十分ノ一なり、例へば高百石の田より、十石の粟を取るなり、軍役の人馬を常に養ひ置くことなき故に、什一の稅にて國用足れり、今は府兵とて、軍役の人馬を、地頭の所に平日養ひ置く故、田租を取ること十分ノ四を常とす、高百石の田より四十石を取るなり、此の如く田租を多く取る上に、又山海の物產或は其の他の貨物より征稅を出さしむれば、民苦しむ故に、大方は征稅なきなり、近世諸侯の國にて、用度不足なるを苦しみて、昔より征稅なき所に、新に諸物の征稅を始めて、民背き騷動に及べること多し、愼まずばあるべからず、然れば今の經濟には、領主より金を出して、國の產物、諸の貨物を、悉く買ひ取りて、其所にて買ふものあらば賣るべし、然らずば、船に載せ馬に馱して、江戶、京、大坂に運びて賣るべし、凡諸國の土產は、其民齎持して他所に賣るに、多少の路費あり、船には船費あり、（一本賃ニ作ル）馬には馱費あり、（一本賃ニ作ル）他所に往きて其貨物を賣るに行家（トイヤ）あり、牙儈（スアイ）あり、行家に止宿するに飯錢を出す、買人に賣渡すに及びて、行家に貢錢あり、牙儈に牙錢（セリヤキチン）あり、行家の神に燈錢あり、賣買訖りて行家に謝する酒錢あり、此の如く諸般の費用あり、貨物の直金の中にて、此諸の費用を除きて、其餘すなはち貨主の所得なれば、其利多からず、又他國の商人來

りて、諸所の土產を買ひ集てめ、他所の行家に就て販ることあり、（一本賣ニ作ル）其商人往來に多少の路費あり、貨物の出づる所に、數日止宿すれば、飯錢を費す、是等の費用を除きて、其貨物を買取りて、船賃駄賃を費して、其貨物を他所に齎往て、買人に賣渡して、隨分の利を取らんとする故に、本にて其貨物を買取るとき、必賤く買ふ、本の貨主旅行せざる故に、勞も費もなけれども、本價を賤く賣る故に、是亦其利多からず、今若し其國主より金を出して、其國の土產貨物を悉く買取らんに、民に坐ら他所の商人に賣ると、他所に旅行して、行家に就きて賣ると、兩樣の價を斟辨して、其價より少し貴く買取るも、多くの貨物を一所に集めて、江戶大坂の如き都會に送りて、府庫に藏し置きて、時價の貴き時に賣り出さば、國民の私に賣るよりも、其利多かるべし、國民は旅行の勞もなく、前に云へる所の諸般の費もなくて、商人に賣るより、利多きを喜ぶべければ、有る程の貨物を隱さずして悉く出すべし、然れども一奸吏ありて、國民の私に賣るよりも、價を賤く買はんとせば、民悅ばずして、貨物を匿し、潛に私齎すべし、さもあらば、上より法を立てゝ、之を禁ぜんとせんに犯罪のもの多く出來て、民の騷動となるべし、凡諸國にて運上ある程の貨物は、民の心に、領主には定りたる祿秩ありて、租稅を取るは勿論なるに、其外に民間より出づる土產貨物に、又征稅を出すは、非理なることのやうに思ひて、或は運上を難澁し、或は其物產の中にて、惡しき品を運上に出して、良き品をば他所の商人に賣ることあり、其事發覺すれば、有司之を責めて、其姦を禁ぜんとする故に、罪人出來て、

是亦民の愁苦となる、運上にはヶ樣の弊あり、澆季の風俗にて、淳(スナヲ)ならぬ民を、姦猾の吏人、之を主る故に、種々の弊政出來るなり、今若し領主より金を出して、國內の物產を買ひ取り、民の從來私に(賣ノ上一本「他處の商人に」六字アリ)賣るよりも利多きやうにせば、民必ず之を便利と思ひて喜ぶべし、貨物を悉く買取りて、近傍の國と交易すべき物をば、交易もすべし、大方は江戶、大坂の兩所に送りて、府庫に納め置き、國民の中にて、良賈一人を選びて、江戶、大坂に居住せしめ、之を藏主として、他の商賈より舌標(チウヒヤウ/イレフダ)を取りて貴き價に賣るべし、有祿の士の中にて、淸廉なるもの一兩人を擇びて、其事を監せしむべし、今東國西國の諸侯、糶米を大坂に賣る、大抵此法なり、石州の板紙皆二侯の藏より出づる故に、俗に藏板紙といふにて知るべし、凡そ今の諸侯は、金なくては國用足らず、職貢もなりがたければ、唯如何にもして金を豐饒にする計を行ふべし、金を豐饒にする術は、市賈の利より近きはなし、諸侯として市價の利を求むるは、國家を治むる上策にはあらねども、當時の急を救ふ一術なり、昔管仲が齊國を治めしにも、之に似たることあり、漢の世に桑弘羊が、均朱(一本輸ニ作ル)といふ法ありしを、其世にも誹り、後世の經濟家も多く譏れども、國家に便利にて、民にも害なし、必しも弘羊をもとがむべからずと、明の焦弱侯云へり、弘羊は本商人にて、均朱は賣買の法なり、彼も已むことを得ずして、時を救ひしものなり、今澆季の世を、昔の如く金銀も、錢も少くして、國用足り、士民不便ならぬやうにせんには、大善なれども、天下の制度を改め、人民の風俗を易へずしては及び難し、然れば只一國の計策にては、金銀を豐

饒にするより外の事なし、金銀を豐饒にする術は、市買より近きことなし、世に管仲が如くなる賢者ありて、桓公の如くなる君に用ひられば、必ず此術を行ふべし、三年五年の中には、必ず其國を富ますべし、今縣官長崎にて、海泊の貨物を買取りて、海內に賣り出さるゝは、正しく市買なり、諸侯其國の土産を以て、他所に市買せんに、何の憚る所あらんや

右食貨

問　今の諸侯、男子一人もなければ、男子無きを憂とす、多ければ、又次男以下の處置に迷ひて、（一本惑ニ作ル）男子多きを憂とす、京師の鄙しき諺に、死なぬ一人、（一本一ノ上子ノ字アリ）耗らぬ銀十兩（一本千ニ作ル）持ちたきものと云へるは、至極のよき願にて、誰も同じ人情なれども、天命ありて如何にも叶はぬ事なり、されば男子一人も無きは、其國其君の不幸にて、如何にもすべきやうなし、幸にして男子多きは、實に其國其君の福なり、此福を受けて、之を全くすることを知らず、次男以下の所領の中を分くれば、其祿秩減じて、祖宗より傳へたる國を小くする憂あり、公子として養へば、其養に許多の費用あり、大國にて餘地餘祿多きは、其養を辨じ兼ぬる程のことも無けれども、十萬石の左右より以下は、餘地餘力も多からねば、必ず公子の處置にあぐむ故に、同姓異姓を問はず、他の諸侯の子無き處を尋ねて、人の求めに應じて、過房せしめて養子となす、同姓の中はなほ然るべき道理もあれども、異姓に過房せしめて、他人の祿を利として、自家の累を除くは、當時便なる事なれども、次男以下を二人も三人も、養子に遣りたる後に、其

餘の男子不幸にして早世し、又其後に長子不幸にして死し、或は不肖、或は癈疾にて立ち難き時に、他家に過房したる子を取り返すことも叶はず、同姓の中にも養ふべき子も無ければ、又異姓の他人の子を乞ひ養ひて、自家を繼がしむ、近くは今の高田侯の如き是なり、都て長子の外は、皆無用の家累と思ひて、人の求むるに從ひて過房せしむる、是近世の弊俗なり、士民の貧賤なるものは、猶然るべき道理もあらんが、諸侯には決してあるまじき事なり、今是を止めんとせんに、諸侯の次男以下を如何處置せんや

答　之を處置せんことはいと易し、凡そ諸侯の長子を世子といふ、古は太子とも云ふ、後世は太子と云はず、次男以下を公子と云ふ、世子は君の副貳なり、公子は皆臣なり、妾の子は云ふに及ばず、君夫人の子にても、世子の外、皆生れ落るより臣なり、國君の子なる故に、公子と稱するまでなり、公子の子を公孫と稱す、公孫の子に至て、君より族を賜はると云ふことあり、族は氏族なり、今の世に云ふ苗字なり、凡古の諸侯は姓のみありて、氏族なし、齊の君は姜姓、魯の君は姬姓、宋の君は子姓、陳の君は嬀姓といふ類なり、姓は子孫を統ぶるものなり、日本にては源、平、藤、橘の類是なり、氏族は子孫の分るゝより、其家筋を辨別せん爲めに、稱號を施すなり、日本にては新田、足利、三浦、北條といふが如き是なり、昔諸侯の國にて、公孫の子に族を賜ふといふは、公子公孫と稱する者多ければ、混亂する故に、君より新に苗字を賜はるなり、公孫の子は公子の孫なる故に、王父の字を以て氏

とす、王父は祖父なり、祖父の字を氏とするは、祖父は公子なる故に、其公子の家筋を知らすべき爲なり、魯の子展が孫、展氏と爲り、宋の華父が孫、華氏となりたる類なり、昔は諸侯に氏族なき故に、新に氏族を命ずるなり、今の諸侯は各氏族あれば、其氏族を稱すべきは勿論なり、只恨らくは、公子を臣とする古法を知らず、君夫人の子は云ふに及ばず、妾の子にても、生れ落るより、君の子といふ名目にて、上より是を重く接待し、世子に亞ぐ程にする故に、大夫以下群臣、皆此子を世子に比するやうに思ふ、それより奉養愈厚くなり、輿馬僕從奢華を極むる故に、公子の心も彌驕泰になりて、薄祿を足れりとすること能はず、過分の分地を望む、君之を愛して、其望を滿てんとすれば、土地に限りあり、祖宗の國家を小くする憂あり、是に至りて、他の諸侯に子なきを尋ねて、過房せしめて、人の所領を取るを上策とす、力を勞せず、財を費ずして、人の國を取るは、上策に似たれども、終には又我國を他人に取らる、極めて惜しき事なり、今若し古法を用ひて、公子を悉く臣とせば、國家の便利ならん、其法は君夫人の子にでも、次男以下は、生れ落るより君の子と云はず、最初より接待を輕くし、奉養を薄くし、大夫の子を養ふが如く、世子の前にても、君臣の禮を正しくすべし、幼稚の時より、人臣たる道を敎へて、驕奢淫佚を防ぐべし、成長するに從ひて、彌君臣の禮を嚴にすべし、年二十にもならば、祿を與へて、臣下の列に入るべし、祿を重くすべからず、大抵其君萬石以上、三萬石餘までの祿ならば、公子に二百石を賜ふべし、四五萬石より、八九萬石迄は、三百石を賜

ふべし、十萬石以上は、五百石を賜ふべし、二十萬石以上は、千石を賜ふべし、三十萬石以上は、千五百石を賜ふべし、五十萬石以上は、二千石を賜ふべし、大小の諸侯（侯ノ下一本國の二字アリ）貧富均しからねば、必しも是を定法となすべきに非ず、姑く大約を云ふなり、公子の位は、大夫の下なるべし、平日は無役にして、政事に與らしめず、朝聘等の如き重き使に遣すべし、軍役の事あらば、大夫の列に從はしむべし、若し其人才畧あらば、其才を試みて、吏卒（一本事ニ作ル）に用ひることもあるべし、德器あらば、大夫として政事を執らしむることもあるべし、今も大國の諸侯には、公子公孫を臣として大夫に列し、政事に預らしむること多し、小諸侯には多く聞かず、然れども罕には公子公孫を、上中の士に列して、吏役に充つることもあり、好き事なり、其人後に立ちて君たるもあり、公子公孫を臣として、數世を經たりとも、若くは吏役に充てたりとも、其君に嫡子なく、世を繼ぐべきものなくば、立てゝ君とするに妨あるべからず、同族の中に後なきものあらば、遣して其家を嗣しむべし、上に云へる如く、公子に祿を與へて臣としては、其子孫其祿を繼ぐべきは勿論なり、然れども代々其子を立てゝ、其祿を襲がしむべし、嫡子なくば庶子を立つべし、若し不幸にして、嗣ぐべき子一人もなくば、其家より別れたる族人の中にて、宜しきものを選びて後となすべし、若しそれもなくば、其家を除くべし、除とは、つぶすなり、他の公子公孫を養子として、其家を繼がしむることあるべからず、是古法なり、此古法に違ひて、他の公子公孫を養子とし、或は他人異姓の者を養子として、其祿を襲がしむる故に、公孫の家數多くな

り、田祿の出づる所も多くなりて、後は公室衰微するなり、今の法に、諸侯十七歳以上にして子無ければ、萬一の時の爲めに、權に族人の中にて、繼嗣とすべき者を定め置く、俗に權養子と謂ふ、公子公孫を外に出さずして、國內に養ひ置けば、權養子を外に求むるにも及ぶべからず、斯の如くならば、祖宗の國を他人に取らるゝこと有るべからず、若し不幸にして時の君に子無く、國に公子公孫一人も無くして、斷絕するは、是天より亡すなり、怨る所あるべからず、今の諸侯、若し公子公孫を臣とする意あらば、必ず其子の生れざる前に、豫め其事を議定して、生れ落ちたる最初より、其子を臣下の子に比して養ひ立つべし、若し舊制に因循して、最初に其子を尊敬して、後日に俄に引下げば、怨望せざるものあるべからず、是國家の亂るゝ端也、されば公子公孫を處置する宜、（一本道ニ作ル）古法に遵ふに如く事なし、今の風俗にて、君の子といふ名を用ひては、前に云へる祿を、五倍しても養ひがたかるべし

右制度

經濟錄拾遺 終

右經濟錄拾遺借₂春臺先生眞本₁而寫₂之延享元年云々

速水恒則識

春臺上書

太宰純著

春臺上書

太宰純著

乍レ恐以二封事一言上仕候

草茅之太宰純誠惶誠恐頓首々々死罪々々謹言

執政拾遺丹治公閣下

臣謹で考候に、古より和漢ともに國家久しく治り候へば、治世に生れ給ふ人主は、亂世の事を知しめさず、殊に太平の世には敵國外患と申もの無レ之故、人主もいつとなく御心緩み、下には姦邪の臣阿諛逢迎の徒多く出來て、日々に人主の慾を導き、祖宗の法を破て種々の新法を始候、是より政に弊出來て、國家亂亡の端と成候、古より久しく治り候國家の亂亡に赴候は、さのみ手間取候事にて無レ之候、一旦思ひよらざる事より禍亂起りて、遂に大亂に至り候、但其前にて天災屢降候て、人主を戒候事有レ之候、凡天下の君は天下何にても畏れ給ふもの無レ之、只天を畏れ給ふのみにて御座候、其故は天下のあらゆる神も佛も、天より上に出候事あたわず、神といふ神、佛といふ佛に、天より尊き神も佛も無二御座一候、されば天子より庶人に至る迄、天の咎を得候ては、如何なる佛神を禱候ても、其罪を遁れ候こと叶はず候、孔子の言に「獲二罪於天一、無レ所レ禱也」と有レ之候は、此義にて御座候、然るゆへに、

國家に種々天災降り候は、下民の爲めにては無之、皆々人主の御爲にて、人主の御身を戒んとて、天より其責を降し給ふにて御座候、されば太平の君は天災の降り候時に、必ず御心を付たまひ、我何の罪あつて天の責を得たるぞと、御身を省察し給ふを賢君と申、若人主御心付たまわはぬ時は、臣下の中より時々に災異の說をすゝめて人主を驚かし奉る、是故實にて御座候、災異とは其災にて御座候、異は常に異なる怪しき事の出來るにて御座候、甘露降り穀實を雨し候が如きこと異と申候、されば春秋は聖人の作にて御座候に經中に種々の災異を記し置れ候は、人主を戒ん爲にて御座候、昔漢朝の天子は大小によらず、何にても災異起り候へば、日食にも驚給ひて、必天下に詔を下し、賢良、方正、直言、極諫の士を召て政事の得失を申さしめ給ふ、後に及ては此事格式と成り候て、賢良、方正、直言、極諫の士を召といへども、さのみ其申事を用ひ給ひ候にあらず、虛文と申物になり候、漢の末に弘恭石顯といふ姦邪の臣を寵し給ひて、政造亂れしゆへに、種々の天災降り候を、誰も言上する者もなかりし時、劉向封事を奉り、身を捐て忠言を進め候事漢書の傳に見へ候、凡災異の說は人主の聞しめさずして叶はざる事に御座候へども、是を申出候へば、必人主の悅び給はぬ事にて御座候ゆへ、大臣も小臣も口を閉てこれを申さず、若人主御心付給ひて如何と御尋ある事に候へば、災異は苦しからぬこと、畏るるに足らずと取返し、一向に萬歲のことぶきを述るばかりにて、少しも人主の御愼之便になる御事をば不申、ケ樣の類を阿諛逢迎の徒と申候、今の御代にも、漢朝の如くに賢良、方正、直言、極諫の士

を召れ候事有レ之候はゞ、純が如きものは賢良方正の士と申には及がたく候、直言極諫の士と名乘候て罷出、一命を惜まず言上仕候事は可レ仕候へども、日本には左樣の事無レ之候間、無二是非一默して罷在候、昔嚴有院殿の御世に、稻葉美濃守殿の儒臣谷三助と申者、江戸遷都の事を言上仕候由傳承候、其事御用には不レ立候へども、言上の趣は實に見識ある者にて御座候、純今日幸に閣下の御扶助を忝く仕候間、昔の谷三助に倣候て愚言を言上仕候、愚意は、漢の劉向に倣て專災異の說を申上候、抑臣は延寶の年に生れ候ゆへ、其以前の事は不レ存候、亡父又は故老の者どもの物語承る迄にて、直に見聞不レ仕候間不二申上一候、常憲院殿延寶八年に登極なされ候、其年の秋深川海濱にて人民溺死仕候、天和二年壬戌十二月二十八日都下大火にて、筋違橋、淺草橋、兩郭門炎上仕候、其後元祿年中大火度々に及候へども、武家の第宅以下燒亡仕候迄に御座候、元祿十一年戊寅九月六日大火にて、東叡山嚴有院殿の御廟炎上仕候、十六年癸未十一月二十三日江戸大地震にて、御城郭大破仕候、同時房州海濱にて人民溺死仕候、寶永元年甲申七月三日猿勝の堤壞れ、本所大水にて人家多く流れ、溺死も多く御座候、四年丁亥十月二十三日富士山燒出關東諸國灰砂を雨し人民困苦仕候、地震と富士の火とは誠に奇異の大災にて御座候、此外大風大雨等の天災は數度に及び候間、一々には難二申一候、文照院殿、有章院殿兩御世は、御在世も短く候て天災と申ほどの事無レ之候、當御世に至り、享保二年正月二十二日大火にて、神田橋、常磐橋兩城門炎上仕候、御本城も危く御座候、其翌年四月大火にて、東叡山大猷院殿の御廟

炎上仕候、其後又芝口郭門炎上仕候、十三年戊申九月二日江戸川小石川大水、開國以來未聞の大災にて御座候、十六年辛亥四月五日大火にて、虎門、幸橋兩城門炎上仕候、數十の諸大名百年以來の第宅一時に燒失仕候、其翌日西丸失火候、無風の夜大宅燒亡仕候、希有の事に御座候、十七年壬子十一月二十八日數ヶ所同時に火起り、大火に成り、西丸城樓炎上仕候、先年以來大火度々有ㇾ之候へども、ヶ樣の火災は未曾有に御座候、同年秋山陰、山陽、南海、西海の蝗災、是又數百年來未聞大災にて御座候、今年春西丸下失火にて、無風夜大宅燒亡仕候、其後海內の疫癘、是又數百年來未聞の大災にて、品品此外大風大雨等數度有ㇾ之候へども不ㇾ及ㇾ申候、惣じて當地の天災は火災を第一と仕候、常憲院殿御治世三十年の間に、先廟の炎上壹ッ、城門貳ッにて御座候、大地震にて城樓城門破損仕候は各別の事にて御座候、享保元年以來去年迄十七年の間に、先廟の炎上壹ッ、城樓壹ッ、城門五ッにて御座候、先廟に較候へば頗多しと可ㇾ申候、是にて天災の多きを御覽有べく候、殊に江戸川小石川の水災、西國の蝗災、海內の疫癘は前代未聞の大災にて御座候、嚴有院殿の御世明曆三年丁酉正月大災にて、御本城炎上仕候得共、其時は國家元氣盛にて、諸大名も身上富有に御座候ゆへ、再造の事速に成就仕、只今は國家の元氣衰へ、諸大名も貧窮仕候處に、若また奇異の大災降り候はゞ、昔の痛に百倍可ㇾ仕候、此時に於て君上天災を畏れさせ給ふ御心もなく、天災を懼る御僉議も無ㇾ之候は、乍ㇾ恐御怠慢と奉ㇾ存候、食祿の臣此事を言上仕らず候は、忠臣にあらず候、凡天災はかならず、人主の御爲に降

り、天より人主を戒め給ふ事にて候へども、天災候ても其痛を受候ものは人民にて、君上にはさのみ御痛無ゝ之ゆへ、細に御心を付玉はず候ては、御油斷に成り候て、畢竟天を畏れさせたまはぬと申にて御座候、皇天震怒と申事有ゝ之、上帝怒り玉ひ給へば、人主其責を遁たまふ事叶がたく候、扨て天災を弭る道は、佛法にても神道にても、如何なる名僧阿闍梨の加持にても、いかなる神佛に禱候ても叶候事無ゝ之候、政を信じ仁を施し、人主の御身を愼たまふ、是根本第一の道にて御座候、只今御沙汰無ゝ之候はゞ、此後又如何なる大災降り、天下の元氣を消し、萬民の命根を斷申べきか、天心測りがたく候、凡天心は人の智を以て測がたきものにて候間、天災の降候も何事の責と申事、定ては申がたく候へども、人主の御身に德の闕ヶ候處有ゝ之、政弊有ゝ之故と申事は必定にて御座候間、其所を深く考へ候へば、大抵明し見へ候ものに御座候、享保以來の御政奢侈を惡み儉素を好ませ給ひ、女を遠ざけ萬民を憐ませ給ふ事、都て御政務に御心を盡され候所、先朝にも越させ給ひ、目出度御仁德にて御座候、然るに登極の初より、天災屢降り、萬民安心仕らず候は、如何なる事ぞと伏て考へ候に、只一ッ利を好ませ玉ふ御心、是第一の病根にて御座候、凡利は天下の人の同じく好み候事ゆへ、誰にても一人是を好み候へば、人の怨み天の憎を受候、周厲王の時榮夷公と申人、六卿の中にて利を好み候を、厲王是を寵したまひ、何事も榮夷公の申事を用給ひ、芮良夫といふ人 厲王を諫て利を好む人をば近づけ給ふべからずといふことを直言仕候へども、厲王用ひ給はず、おとるゝ周室亂れ候て、民厲王

に叛き、厲王を彘といふ所へ流し、周室一たび滅亡仕候事國語史記に見へ候、論語に「放二於利一而行則多レ怨」と有レ之候、放は依なりと注し候て、依の字は違の度にて御座候、違は違離と續き候故、依と申は違離せぬ義にて御座候、凡君子の道は、何事も利を離れ是行候へば、能行はれ候て人も怨を起さず候、若利を離れぬ心にて行ひ候へば、いかなる吉事を行候とも、人悅ばず却て怨を起し候、商賣は利を本とする者にて御座候へども、一向に利を求候て、己が身に少も損失なく、厚利を取んともがき候者は、一旦富を得候へども、幾ほどなく滅亡仕候、厚利を取らず、時には損をも仕り候て、人と利を分候やうに仕候者は末久しく榮へ候、況や君には何事も利を離候て損失を顧みず、義を正しく行候を有道の人と申候、東照宮は利を好ませ給はず候故に、天下御手に入、百年の太平を開かせ給ひ候、台德院殿より有章院殿迄六代の君、利を好ませたまひ候事をば未レ承候、上に利を好ませたまへば、下に興利の臣出來り、損下益上の政を行ひ民と利を爭ひ候、是天下の人の上を怨候愁言仕本にて、天災の屢降り候所にて御座候、興利の臣の謀るところは、國運の衰候をも知らず、天下の萬民を憂候心も無レ之、政事の敗れをも顧ず、只當分に上意に合せ、己が立身榮耀の計を仕のみにて、天下國家の御爲をば少しも心に懸ず候、これ國賊と申者にて御座候、此徒徘徊仕候へば其下に數多の姦人起りて附從ひ、日夜に興利の事のみを工夫仕候者共其數を知らず候へども、彼等は皆卑賤の輩にて不レ及レ申候、今天下の萬民上を怨み奉る事讐敵の如くに御座候、されば此時節いかほどの仁政を出され、山

のごとく海の如くの恩澤を施され候とも、公邊にては難レ有奉レ存候由御禮可ニ申上一候へども、退て內心は毛頭も悦申さず、私に相集候ては互につぶやき、上を誹謗し奉り、とかくに油斷仕まじき旨申合せ、己が利を失はざる計を仕る外無ニ御座一候、凡民は愚なる樣に候ても、利には賢き者にて御座候ゆへ、上の人民と利を爭ひ候ては、いつとても民に勝候ことあたはず、却て民の怨心を引起し候、「放ニ於利一而行則多レ怨」と申す孔子の聖言は、誠に萬世の龜鑑にて御座候、近年來天災屢降り候事、只この故と奉レ存候、然れば只今天下萬民の怨を解き、天災を弭らるべき上計は、興利の徒を悉く逐退られ、此後一切に興利の政を禁とせらる新田開發の沙汰を止られ、諸國の寶錢を止られ候はゞ、天下の人民少怨を解き可レ申候、其上に君上の御身を殊更に愼ませたまひ、又其上に諸大名以下の所替、宅替、諸町人の宅替を停止せられ、山王、神田以下諸社の神事を先規のごとく執行せしめ、遊女丁、見世物場を故のごとく許され、都て繁雜なる政令を一切に停止せられ候はゞ、天下靜謐になり、萬民欣喜仕、各別に恩澤を施されず候とも、民心歸服可レ仕候、孔子の言に、惠て不レ費と申もヶ樣の政にて御座候、右の趣は天下の人民の願にて御座候間、此願滿足仕らざるあいだ、如何なる莫大の恩澤を施され候とも、只怨を增すのみにて毫髮ほども悦仕まじく候、天心は民心と一ッなる物にて御座候ゆへ、民心怨み怒り候へば、天心是に順て種々の災異を降し人主を責たまひ候、書經に「可レ畏非レ民」とこれ有、人主の畏れ給ふ者、天と民との二ッにて御座候、古より君をば舟に譬へ、民をば水に譬へ候、右は舟を

浮べ候とも、水動き候へば舟を覆し候、民は水のごとくなるものにて御座候ゆへ、明君はかならず民を畏れたまひ候、純此度一命を捐て直言を進め奉り候は愚蒙の至り、千萬一ッも御信用を可レ奉レ得とは不レ存候、只天下萬民の怨苦の狀を言上仕り、若冥加に叶ひ候て照覽を瀆し奉り候はゞ、今生の大幸と覺悟仕る迄に御座候、臣閣下莫大の御恩を荷候上に、幸に閣下當時執政の御職位に列せられ候間、昔の谷三助が稻葉に建白仕候例を以て言上仕候、仰願くば愚誠を諒察したまはんことを、臣純恐惶再拜

享保十八年癸丑八月日　　臣太宰純誠惶誠恐頓首々々死罪々々謹言

戊辰九月十三　　與二荷堂中村氏一校二于復原樓一恭記

春臺上書　終

產語

太宰純著

産語序

王弇州嘗作左逸短長也、而曰獲之嶧陽與齊之野、豈以其修辭立說、擬議成章、錯諸戰國秦漢之間、不可聞疑乎、亦唯自信之篤如是、夫春臺先生著産語十二篇、蓋亦弇州之爲哉、唯是弇州作左逸短長也、於戰國秦漢之間、縱橫立說、怪譎戲謔、足以供閒燕談論矣已、安在其有益於人也、夫治生之爲急於人也、自王公至庶人、孰不由是、卽古先聖王之道、未嘗不自治生始、仲尼曰、足食、安可誣哉、先生豈不曰假令我當路於齊、管仲晏子之功、何不可者、自孟子不慊於管仲、後世動輒忽之、富國强兵、置而無能論焉、則禮樂之治雖美、皮之不存、毛將安傅、夫倉廩實而知禮節、衣食足而知榮辱、使天下之人貧而樂道雖堯舜不能也、嘗著經濟錄、頗備一代之治、其書秘而藏之、乃如此書、亦其緒餘、非徒以修辭立說、弇州之爲而已、而託諸古之人、亦唯自信之篤、必以其擬議成章、錯諸戰國秦漢之間、不可聞疑也、豈可不謂彬彬乎盛矣哉、王公大夫、苟能讀之、而反求諸其身、於治國家乎何有、亦唯白義綠耳、御非其人、猶之駑蹇耳、先生不欲輒示人、門人小子或授之者、不啻蔡伯喈於論衡也、先生沒後、請刊以傳世者多、於是乎孤定保、使余題卷首云

寬延二年己巳夏四月　　郡山　宮田明謹序

產語目錄

上卷

下卷

產語目錄終

産語卷上

太宰純著

鳥獸第一

鳥之爲獸也、有待乎母之哺、馬牛之爲駒犢也、有待乎母之乳、及其能飲啄茹芻也、莫不知求食之方、唯人子乎、生而在父母之懷三年、父母之於子也、乳哺撫毓、勞莫甚焉、人子受之、得以爲人、則可以知止焉、然而三年之外、猶且食父母之食、衣父母之衣、而處父母之室、及其長也、目有見、耳有聞、手能把握、足能行立、口能言語、肩能擔、背能負、一身百體無不成、無不若人、大哉父母之德也、人子於是乎可以知求自生之方也、猶且食父母之食、衣父母之衣、處父母之室、曠日彌久、不能自養厥身、而仰給父兄、豈不悲夫、何鳥獸之智、而人之不智也、是誠可怍也、人之於食也、得之則生、不得則死、是食者、人之所以生也、然得食之道、亦非一端也、或以力、或以事、或以功、或以德、或以蔭、或以惠、此數者、得食之道也、恩澤被及之謂蔭、賑窮恤孤之謂惠、蔭由先德、惠由上仁、之二食者、非由己也、天也、其它無不由己求之者也、人非盡蔭子、求之而得食、不求則不得食、今夫一身百體無不成、無不若

人、然且四體不勤、餬口游食、甑叢愒日、非鰥寡孤獨癈疾、而與乞人同其行者、曾何鳥獸之若哉、此其可恥也孰大焉、故夫人不可以不求食、而求之有道也、得之與不得、固有命焉、乃若不求而得之者、幸也、幸非福也、食也者、人之所以生也、苟有以生、不知所以食而可乎、自天子以至於庶人、靡不有所以食焉、故不知所以食而食焉、謂之素餐、素餐者、君子所惡也、詩云、彼君子兮、不素餐兮、小人而素餐、獲罪於君子、君子而素餐、獲罪於天、仲尼曰、獲罪於天、無所禱也、其可不畏乎、稷丘丈人、語其子曰、不掬糞水、不能成善農、不斷筋脈、不能成善工、不傷肩背、不能成善賈、不蹈死地、不能成善士、夫勞者卄其食、有事者安其居、人必饑而後知求食、寒而後知求衣、窮而後知治生、困而後知修身、雖有賢智者、未嘗饑寒窮困、莫知所以治生、是故饑寒窮困者、人之所以善其身也、何爲惡之邪、夫人必知饑寒窮困之爲可惡、而後能知饑寒窮困之不可惡者也、未知饑寒窮困之不可惡者、雖未嘗饑寒窮困、卒必饑寒窮困、然後知其可惡、則已暮矣、故患至而救之、不若豫防之裕、人之所患、莫近於饑寒、故人之所須、莫先於衣食、一日不治生、雖未見其損、積之則必有一日饑寒、若知一日饑寒之不可忍、何可以一日不治生乎、是故天子以萬機治生、諸侯以一國政事治生、大夫以其官職治生、自士以下、各以其事治生、庶人之業、農工商賈、皆所以治生也、至若入山而樵、入水而漁、羅雉罝兎、豢豕牧羊、

居狗解牛、吹竽鼓瑟、擊劍弄丸、爲巫爲醫、賣卜占星、滑稽俳優、譚笑擅場、游說諸侯、或起爲王者師、或教童子書計、其事雖殊、其所以爲生一也、是知自天子以至於庶人、未有不以治生爲事者也、故人事至於治生、斯足貴矣、若作事而不能爲生、非事之罪也、作者之不勤也已、若曹生爲人矣、有父有母、有兄弟、有親戚、耳目鼻口四體具、而無不如人者、盍思所以爲生乎、豈欲無事而食、與鰥寡孤獨癈疾者爲伍與、丈夫之恥、莫大乎游食、男子之事、莫先乎治生、若曹勉哉、段干子聞之曰、善哉敎子也、夫鳥之爲鷇也、母哺之、馬牛之爲駒犢也、母乳之、及其能自求食也、其母不復乳哺之、而其子亦能不饑、唯人之於子也、其養之不限、其子亦受之不辭、至於丁年、猶不知畜、一旦失其所依、而至窮餓者有之矣、若然者、非特其子之罪、亦父母之過也、由此觀之、稷丘丈人之言、可謂慈矣、東門毀者、邯鄲大賈也、家僮千人、豪奢無比、東門毀好色愛姬妾、嗜酒爲長夜飲、使女數十人、日夜作歌舞、俳優侏儒不離側、東門毀與之處、沈湎終歲、莫問家事、年五十無子、暴噎血數斗而死、妻妾爭財、倶繫獄、僮僕離散、東門氏遂亡、張穀者、晉陽富室也、家世勤農、田園徧國、貲累鉅萬、牛馬不知數、出則連騎、入則列鼎而食、賓客常塡門、張穀少也好學、博覽墳籍、文辭宏麗、兼善雜伎、甚口便捷、薦紳大夫、莫不爲之斂襟、年三十不知耕、妻范氏亦富家之女也、不明紡績、日鼓瑟而歌、子弟博弈、奴婢竊盜、張穀父死且十年、親戚離、家

人咋、卒鬻田宅、而與其妻借寄食于其客董毓氏云、弦子曰、東門般淫于酒色以絕其世、張毅淫于文藝以喪其家、所由雖異道、而其爲愚則同也、鄕黨父老、以是日戒其子弟、而人猶矜張毅、何也、有二人爲其主守暴魚於庭者、其一人沈醉而睡、一人俯而讀書、於是有貓自東家來、銜其魚而走、須臾又有鳶飛來、攫其魚而去、睡者不覺、讀書者驚、釋卷而起、睨而切齒、無益也、是二人者、其行不同、而失其守、無以異也、雖以學焉免於戾、甘轍問爲生於計倪、計倪曰、民生在勤、家道在儉、請益、曰、毋改乃業、甘轍悅而誦之、其人曰、何謂也、甘轍曰、勤者所以生財也、儉者所以足財也、而勤不儉、財有不足、而儉不勤、財無其原、二者皆不給之道也、克勤克儉、以守吾業、何生之不治哉、若甘轍者、可謂敏矣、諺曰、父甘糟糠、子飽膏粱、孫拾遺穗、言得諸憂勤、喪諸佚樂也、天之於萬物也、不直生之、必有以養之、惟天不親養之、而屬諸地、地亦不親養之、俾物資給焉、是以鳥獸魚鼈昆蟲之微、無不得其養者、況於人乎、天地之養人也、將無厚乎、特人自薄之耳、豈特薄之而已哉、將且絕之、人有不克爲生、自底凍餒、而曰天地不我養者、是謂誣天地、罪莫大焉、夫天地、猶父母也、父母之心、莫敢不愛其子、然其子之遂生也與不、父母不能必之、故瞽瞍欲殺舜、而舜立爲天子、范中行氏、卿相晉國、而其子孫耕於齊、此二者、皆非其父母之願也、故人能奉父母之德、而蚤辭其養者、丈夫也、能奉天地之德、而資養焉以終其生者、天地之孝子也、子貢問於孔子曰、賜

倦於學、困於道矣、願息而事君、可乎、孔子曰、詩云、溫恭朝夕、執事有恪、事君之難也、焉可以息哉、曰、然則賜願息而事親、孔子曰、詩云、孝子不匱、永錫爾類、事親之難也、焉可以息哉、曰、然則賜願息於妻子、孔子曰、詩云、刑于寡妻、至于兄弟、以御于家邦、妻子之難也、焉可以息哉、曰、然則賜願息於朋友、孔子曰、詩云、朋友攸攝、攝以威儀、朋友之難也、焉可以息哉、曰、然則賜願息於耕、孔子曰、詩云、晝爾于茅、宵爾索綯、亟其乘屋、其始播百穀、耕之難也、焉可以息哉、曰、然則賜將無所息與、孔子曰、有焉耳、望其壙則睪如也、視其家則塡如也、察其從則鬲如也、此其所以息也、由是觀之、困倦而願息者、君子所弗與也、易曰、天行健、君子以自彊不息、夫自彊不息者、君子之所以則天而行也、民生亦無息者也、生而無息、則治生者亦豈可以有息乎、夫天行健而不息、是以能生萬物、君子自彊不息、是以能成其德、民勤動不息、是以能濟其事、故治生而治者、必勤而不息者也、若夫治生者、輟息則失其利、久息則貧、而饑寒並至、饑寒並至、則其生泯焉、欲無死得乎、然則人其不可以有息者與、秦后子鍼恃寵驕泰、奢侈無度、甞寢疾、夢一人鹿裘帶索、被髮而立、偓促曤腹。面黑、貌甚醜、后子鍼惡之、旦日召醫和而問焉曰、是何厲也、醫和對曰若和所聞、是所謂[illegible]者也、上古北鄙有富人曰戚䁯偓促曤腹、面黑、貌甚醜、常衣鹿裘帶索、被髮而居、性尤吝嗇、家貲鉅萬、儲蓄弗出、年老無子、疾弗肯求醫、死不葬、家人惡之、穢其尸、舉而棄諸壑、其尸化爲[illegible]、入守其藏、

隣里因縱火焚其藏、而廼亦死、遂爲厲、名爲魍魎、往往人睹之、則如公子所夢、有人負債而不償者、若夢若覺、必見是鬼、是鬼也、歳時佳節、必先期造其家、見是鬼者、邦君失其尊、策士失其智、譚士失其辯、壯夫失其勇、賢人失其德、飲酒不醉、食旨不甘、服煖不安、聞樂不樂、雖吉日良辰、不克燕喜、受是鬼責、而輕者拘、重者亡、有病而死者焉、有失心顚狂者焉、甚至殺人及自殺也、魍魎之爲厲如是、今公子夢見之、毋亦假而不還、貰而不償、以致鬼責乎、卽不悔過責己、遄悛其行、務崇儉德、將恐有魍魎實爲祟、寧徒夢見之哉

樂施第二

仁者樂施、儉者重予、施而無節、必傷財、傷財必至匱乏、一至匱乏、則雖有仁義、不能行之、重予則貨殖、貨殖則用足、苟用足、則仁義唯其所行、故諺曰、四鄰稱惠、一家則貧、三歲狗旋、百年爲人、夫施者財有不給、受施者無饜、以不給之財、待無饜之望、能不窮者鮮矣、管子曰、倉廩實、乃知禮節、衣食足、乃知榮辱、孟子曰、人無恆產、因無恆心、不其然乎、故人不可以無恆產、夫既有恆產矣、不可以不知所以保其產也、何以保產、曰、節用而已矣、節也者、爲之限也、竹有節而不可越、木有節而不可析、節也者、止焉而不得過之謂也、是故有國有家者、必知節用、而後可以行仁義也、易曰、天地節而四時成、節以制度、不傷財、

不害民、節之義大矣哉、齊景公飲酒、陳桓子侍、望見晏子、而復於公曰、請浮晏子也、公曰、何故也、陳桓子對曰、晏子衣緇布之衣、麋鹿之裘、而棧軫之車駕駑馬以朝、是隱君之賜也、公曰、諾、晏子坐、酌者奉觴進之、曰、君命浮子、晏子曰、何故也、陳桓子曰、君賜之卿位、以尊其身、寵之百萬、以富其家、群臣之爵莫尊於子、祿莫重於子、今子衣緇布之衣、麋鹿之裘、而棧軫之車駕駑馬以朝、是則隱君之賜也、故浮子、晏子避席曰、請飲而後辭乎、其辭而後飲乎、公曰、辭而後飲、晏子曰、君之賜（之賜一作賜之）卿位、以尊其身、嬰非敢為顯受也、為行君令也、寵以百萬、以富其家、嬰非敢為富受也、為通君賜也、臣聞古之賢君、其臣下有受厚賜而不顧其國族、則過之、臨事守職、不勝其任則過之、君之內隸、臣之父兄、若有離散在於野鄙、此臣之罪也、君之內隸、臣之所職、若有播之（播之一作播亡是）在于四方、此臣之罪也、兵革之不完、舟車之不修、此臣之罪也、若夫敝車駑馬以朝、意者非臣之罪乎、且臣以君之賜、父之黨無不乘車者、母之黨無不足于衣食者、妻之黨無凍餒者、國之閒士待臣而舉火者數百家、如此者、為彰君賜乎、為隱君賜乎、公曰、善、為我浮陳子、如晏子者、可謂知務矣、景公可謂能聽人之言矣、禽滑釐少家貧、落魄而行窮于塗、憩于樹下、有野老荷犂牽牛而行者、亦憩于樹下、與語、野老曰、孺子何為者也、對曰、我禽滑釐者也、野老曰、何為而窮也、滑釐曰、吾父仕於周為元士、性好施、及沒室無餘財、而頗有負債、鬻衣服器皿以償之、吾父所施惠者、莫我肯顧、觀之則避、從之則閉、我無以為

依、家人離散之四方、我無以爲家、因出宦學、是以備也、野老曰、子先君子、其世所謂仁者也與、吾聞之、大仁不仁、爲仁而近名、其爲仁也小、是故近名之仁、不足以悅人、無義之施、不足以見德、意者子先君子、無亦好小仁、而好繼富乎、何以知之、夫我農夫也、無知也、唯知耕作、吾嘗以耜耕終日、不過數畝、嘗以犂耕、一日終數頃、而有餘力、此小大之說也、培苗先其瘠者、漑禾先其病者、此緩急之義也、我是用知之、滑釐曰、然、有之、我今猶有負郭之田二十頃、及先人敝廬、吾欲以之爲生、竭手足之力、而不足以養母、我夫妻不飽糟糠、夙債如山、索者塡門、我小子何以堪之、是以寧釋是去、求爲生之捷徑、弗忍瑣瑣焉久守旦夕之業也、丈人有意、幸以教我、野老曰、吾聞之、天雖能生、弗能產不樹之桑、地雖能養、弗能長不培之粱、人雖能作、弗能充不闔之倉、釋其所有、而求其所無、不亦難乎、子幸有田廬在、盍趣歸爲生、於乃家、誠能夙夜勤勞、以修先人之業、何患不興、轉敗爲功、可不勉乎、今子徒希不幾之近功、而忘克家之良圖、吾爲子過之、於是禽滑釐赧然汗流沾衣、再拜而謝曰、我過矣、我過矣、敬受教矣、敢不奉行、請從此辭、遂還歸家、躬耕于野、妻織于內、矢絕外慕、專攻厥業、未幾生產復故、十年富冠州里、後師事墨翟、而學節用之道焉、遂以是游于諸侯、子貢謂禽滑釐曰、賜聞諸仲尼曰、人有生而知之者、有學而知之者、有困而知之者、子之於治生也、其困而知之者與、滑釐曰、唯然、至於先生可謂生而知之矣、子貢曰、何爲其然也、我學而知之者也、曰、先生惡乎學

也、曰、學二於仲尼一、曰、仲尼之教奚若、子貢曰、昔賜問二政於夫子一、曰、足レ食足レ兵、民信レ之矣、吾是以知二政自レ足レ食始一也、夫子嘗言レ道レ國曰、節レ用而愛レ人、齊景公問二政於夫子一、曰、政在レ節レ財、夫子嘗語二曾子諸侯之孝一曰、制レ節謹レ度、滿而不レ溢、其言二庶人之孝一則曰、謹レ身節レ用、以養二父-母一、吾是以知二節之爲一レ道、其利博也、夫子適レ周、觀二于后-稷之廟一、有二金-人一焉、銘二其背一、使二弟子識一レ之、銘之言曰、無レ多レ事、多レ事多レ患、吾是以知二多レ事之爲一レ患也、公西華爲二夫子一使二於齊一、冉有爲二其母一請レ粟、再請而夫子益レ之不レ過レ庾、且曰、君子周レ急不レ繼レ富、吾是以知二用レ財之有一レ道也、諸若レ此類、吾盡識レ之、旦-暮從レ事、莫二敢忽一レ諸、夫自レ治レ家以-上、至三於治二天下一、未レ有下不レ由二斯道一者上也、仲尼之教如レ此、賜豈不レ學而知レ之哉、若二夫聞而不レ知、知而不レ行者一、其所レ用二其心一、與レ我異耳、困而知レ之者困其福也、子其勉レ之、諺曰、遺レ金無レ利、破レ家與レ嗣、斯之謂也、衛公孫克問二於子貢一曰、何以爲レ國、子貢曰、足レ財、曰、何以足レ財、曰、節レ用、曰、何-以節レ用、曰、省レ事、公孫克曰、請問省レ事如二之何一、子貢曰、事之在二國-家一、猶二草之滋-生一也、不レ芟二其蕃一、將二蕪-穢不一レ可レ爲也、故善治レ事者、務レ時省レ之、省レ事者、陳二衆事一而視レ之、然後省二其冗一者也、五年一小省、十年一大省、則無二多レ事之患一矣、公孫克曰、敢問省二其小者一、謂二之小省一、省二其大者一謂二之大省一乎、子貢曰、否、不レ然、凡省レ事省二其冗者一、然事之冗-者、亦有二顯-微一焉、冗而顯者、衆皆睹レ之、故易レ除也、至二於冗而微-者一、唯智者知レ之、衆人不レ能レ知也、故難レ除也、所謂五年一小省者、除二其易レ除者一也、十年一大省者、除二

其難除者也、夫君子惡多事、時視而省之、譬如淘沙、譬如揀菜、大者裁而小之、多者省而寡之、非果斷之至、其孰能與於此、是故苟欲節用而不省事、猶欲湯滄而加之薪也、此謂不知本、瞽蛇躄衍聾兒三人相與友、鄉人矜其不成人也、更來飲食之、一人得酒食、則三人必共之、既食且飲、欣然樂而喪其不成人、醉則躄衍歌、瞽蛇嘯聾兒舞、律呂相和、靡不中節、俄而鄰家失火、三人遽將避之而不能、且恐相失莫知所出、有人敎之曰、瞽者負躄者、而聾者相之、則可以行矣、於是三人從之、遂免難焉、智哉是人、此以有餘補不足之術也、夫以瞽與聾行、聾與躄視、躄與瞽聽、合而用之、雖行千里可矣、況甄避難乎、所不足者、三之一已、何患之有焉、是故能以有餘補不足、則天下可均也、不能以有餘補不足、則不可以齊家也、況於損不足益有餘乎、蚿謂蘷曰、子亦能行乎、蘷曰、子自多其百足與、子以百足行、吾以一足跉踔而行、子不速乎予、予不遲乎子、予與子偕行、子之所至、吾亦至焉、未嘗後也、子何得以而多足笑吾寡足乎、以吾觀子、子之九十九足、豈非長物與、子必盡用之以行、不亦煩乎、蛇在側、曰、蘷爾亦足其一足、而煩夫多足、予以無足委蛇而行、予與子偕行、子徐亦徐、子疾亦疾、子之所至、吾亦至焉、未嘗後也、涉水則涉、緣木則緣、無所不足、無不能而止、由吾觀之、子之一足、亦徒長物也已、造物聞之曰、善哉、知無之用也、夫多少有無、亦物之自然也、我與焉、是故有而樂其有、則益之以天下之有、亦有所不足焉、無而樂其無、則無所適

不足也、其足與不足、吾將如之何、若夫無而不能樂其無者、其盜賊之機與、

有士第三

有士之君、財用不足、則不免仰給乎市井之人、賢智之士、衣食不足、則不免乞貸乎庸俗之人、夫有士之君、尊位也、今廼屈其尊、而低頭於市井之人、賢智之士、人之所敬也、今廼屈其節、而折腰於庸俗之人、此其故何也、以己不足、就彼有餘也、人而若是、豈不亦可恥乎、恥之奈何、足財而已矣、夫天不徒生、必有以養之、孝經曰、因天之時、就地之利、謹身節用、以養父母、庶人之孝也、詩云、孝子不匱、是故人道莫先於治生、爲政莫先於足財、夫人雖孝、而衣食不足、則弗能安父母、君雖仁、而財用不足、則弗能安百姓、人有天祿、治生之謂也、民之治生也、農工商賈、所業不同、苟能攻其業、則皆仰可以事父母、俯可以畜妻孥、此民之天祿也、仕宦而穀、凶年不饑、父母有甘脆之儲焉、家人無離畔之變焉、衣服時備、祭祀無廢、此士之天祿也、爲家而齊、有宰食力、祭器衣服不假、車甲時修、養親有常珍、宗廟不絕血食、此卿大夫之天祿也、庶官必備、百姓樂業、倉廩實、府庫充、牛馬在牧、麋鹿在囿、財用無匱、社稷不絕血食、此諸侯之天祿也、三公崇德、六卿分職、朝無廢政、外戶不閉、四海會同、遐夷貢獻、無求不得、無作不成、祭祀不後時、庶類無不得所、此天子之天祿也、人有是天祿、而不能

立于世者、皆不能治其生者也、若然者、不能保其天祿、天祿必將去其身、天祿一去、求爲匹夫、且不可得也、豈不悲乎、故人守其分、斯治其生、治其生、斯保其天祿矣、天子曰兆民、諸侯曰萬民、皆君之所畜也、大夫以下、至於庶民、皆有所畜、不知所以畜而可乎、故人苟有天祿、而弗能畜人、亦弗能自養、斯之謂竊天祿、竊天祿者、（一本天誅上有必有二字）天誅不可逭也、堯舜之讓曰、四海困窮、天祿永終、薛君田、獲大狙如人焉、試食之栗、盡大如拳者三十枚而未饜、益之大柹二十枚、然後略飽、薛君曰、偉哉狙、此物而敎之舞蹈、豈不可觀乎、於是召狙公、使其視之、狙公曰、此老狙也、不可敎也、薛君曰、敎狙何如、對曰、臣之敎狙也、常迨其穉小、取其生數月、斷乳能食者、而勞其筋、苦其骨、饑其腹、道之以手、誨之以言、弗惠則箠之、夫既受敎則與之食、紓其箠楚、由是習慣、日就月將、然後應臣命如響、隨臣指麾如景、若斯者、豈一朝一夕所能致也哉、發其天機、見其天性、非少成不可、若夫老者、體習安便、心染嗜慾、弗能受敎誡、笞之至死、不可變也、兀然多食、坦腹而坐、又何伎之能、薛君曰、善、遂罷之、魏文問於李悝曰、寡人聞之、古者三年耕、必有一年之食、何謂也、李悝對曰、君以必耕三年、然後得一年之食與、斯言也非斯之謂也、凡制國用、四分一歲之入、而食其三、餘其一、積三年所餘、得一年之食、以爲蓄積、是謂三年耕必有一年之食也、文侯曰、四分一歲之入、而餘其一、所餘不已多乎、李悝曰、君何以爲多、夫大風淫雨火災、霜雹傷禾、旱蝗饑饉、自天者也、地震山崩、河決

水溢、自地者也、寇盜亂賊、自人者也、此數者、皆國家不虞之患也、雖不必歲有、而三歲五歲一作、當其時也、事之大者、盡三年之食而不足、小者亦有用一年之食、若有幸而久無數者患、然軍旅征役、國家時有、苟非倉有餘粟、府有餘財、何以供其費用、若臨事無以供其費用、則弗能不取諸民、暴斂自是始也、暴斂而不足、則弗能不仰援於人、假貸自是始也、夫假粟布者、歲時納子於其主、不能納者負之、於是子又生子、如鼠生子、蕃息無窮、至積之久也、有以數歲之入而不能償者焉、從是以往、有士民而不能畜、有仁義而不能行、有邦家而不能保、有城郭而不能守、夫如此則封君諸侯有富名而無其實者也、何以能久哉、故曰、國無九年之蓄曰不足、無六年之蓄曰急、無三年之蓄、曰國非其國也、豈不殆哉、古之人其有見於斯、故爲之法制曰、三年耕、必有一年之食、此其深謀遠慮、非後人所能及者也、今也天下擾亂、國家多故、雖四分歲入而餘其一、猶恐不能支軍國之用也、況所餘不及四之一乎、而況初無所餘乎、是豈不岌岌其殆乎、臣以古法於今猶少也、君以爲已多乎、文侯曰、善、謹受教、李悝言於文侯曰、臣少之時、宦於中山、舍逆旅、遇異人、語臣以盡地力之說、其言甚有條理、可聽也、臣心悅之、因再拜執几杖而進、曰、僕梁西鄙人也、游宦到于此、今者假眞緣、得見先生焉、幸甚、鄉也聞先生之言、僕所未嘗聞也、僕大奇之、願遂學之、死且不朽、惟先生勿吝慈教、爲僕卒其說、僕雖不敏、請嘗試之、異人曰、善哉孺子可教也、古者

有神農氏之教、唐虞之際、棄得之爲后稷、教民樹藝、澤流天下後世、棄之曾孫公劉、克修后稷之業、勤恤愛民、民爭歸之、國以殷富、至於文武、奄有天下、是周王業、起自地利也、地利之說、所從來遠矣、周之方興也、呂尚往歸之、聞地利之說於周人、及封於營丘、遂用之其國、闢草萊、利魚鹽、勸女功、極伎巧、民多歸之、齊由是爲大國、厥後管仲得其遺法、及相桓公、執國政、大任土地、益便魚鹽之利、由是國富兵彊、諸侯畏之、桓公九合諸侯、一匡天下、實管仲之力也、自管仲死、而其教不復存乎人、僅有其遺書而已、當是之時、周亦衰矣、地利之說、隱于田野處士之家、莫能擧而行之者、后稷公劉之教、幾乎亡矣、降至近世、越有大夫種范蠡之二人者、實能奉先聖之遺教、以相其君、而任其國政、勾踐之滅彊吳、遂覇諸侯者、用是二人也、方今之世、海內擾亂、諸侯力爭、雖有至道、人不暇學、雖有善教、上無肯行、雖有智術之士、不遇桓公勾踐之君、何所展其力哉、余少也志于濟民、嘗從周人、受后稷公劉之道教焉、遇時之艱難也、不得施行、既云老矣、不復能有爲矣、齎志以死而已、我有一編書、今見子之篤信、將以授子、乃出其書以授臣、臣再拜受書、其人因又語臣以其要、臣悉識之、問難論議、終夜未已、到于天明、異人將行、臣攬其袪而固請從、弗聽、因問姓名、弗告而去、莫知其爲何人也、臣既受書朝讀暮誦、十有餘年、未嘗廢業、今已通大義、書之言、乃所謂盡地力之說也、臣願欲爲君一試之、惟君圖之、文侯曰、盡地力之說若何、李悝曰、所謂盡地力者、使地無

遺利之謂也、夫地者、五土之大名也、何謂五土、一曰山林、二曰川澤、三曰丘陵、四曰墳衍、五曰原隰、天下無不生物之地、地之所生、唯穀與桑麻、爲民用之急、故天下土地、必先樹之、雖然、水土所生、風氣所毓、物性各殊、且也南方所有、而北方無之、北方所有、而南方無之、東土者燩、而西土者惡、西土者燩、而東土者惡、非人力所均之也、故知盡地力者、率其土性、不害所生、不彊所無、務贍民之衣食、利國之財用、然後有與無交易、饒與乏均分、彼此皆得其利、無有憾者、夫如斯、則地無遺利、而方寸之地、無不爲實者也、不知盡地力者反是、不審土性、不察土宜、唯穀與桑麻是求、爲田不可、則棄之、曰、我土墝埆也、曰、我土瀉鹵也、曰、我地不善、不可以爲國也、豈不悖哉、夫地出萬物、無非所以利民也、設使天下土地、唯生五穀桑麻、不生它物、則民且憾焉、爲其用不利也、是故五土所生、無非所以利民、五方所産、物性雖殊、無不養厥民、夫雍冀之黍稷、荊揚之稻、洞庭之鱒、東海之鯿、雲夢之芹、具區之菁、燕秦之栗、江南之橘、暨我安邑之棗、此皆天下所謂燩味者也、至若蜀有蹲鴟、而厥民不饑、越人果隋蠃蛤、而厥食無匱、雖無海鹽、則有鹹池、雖非麻油、則然魚膏、又有土石以代柴、毛羽以代帛者、是天地之養人、何所不至哉、故能取地利者、因其所有、以致之用、不能取地利者、不識其所有而遺之、故不得和氏、則荊璞徒爲庸石、不遇太公、則齊永爲瀉鹵不食之地、是地利亦豈易取哉、實有待于識者也、夫地者、(夫地者一本無者字是)萬物之府藏也、貨財出焉、羣

生資養、惟人之資二於地一也、於レ物爲レ厚、苟資焉厚、則如レ之何得レ不レ勞乎、是故欲レ盡二地力一者、必盡二人力一、如徒知レ取二地利一、而不レ盡二人力一、未レ有二能得レ之者一也、所謂盡二人力一者非二徒勤レ民之謂一也、上之人亦躬親二其勞一也、若二禹之股無レ胈、脛無レ毛、后稷劉公之手足胼胝一、不二其然一乎、古之人皆用二是道一、以成二大業一矣、雖下今之人一、誠有下盡二人力一以能盡二地力一者上、雖二小國一、尚可三以致二富彊一也、而況大國乎、臣所レ聞二於師一如レ此、竊願爲レ君一試二諸魏國一也、臣觀二魏之爲レ國也、絕レ長以補レ短、方數百里、不レ可レ謂二小國一也、然君之治レ地者、不レ竭二其智力一、民罷二于軍役一、不レ得レ盡二力於農畝一、是以田野不レ加レ闢、五土多二遺利一、斯之不レ察、而唯戰爭是務、非レ所三以守二社稷一也、竊爲レ君不レ取也、文侯曰、寡人不肖、未レ聞二社稷之長利一也、今先生言レ之、予甚欲レ行レ之、如何則可、李悝曰、君若聽レ臣、卽命レ臣以二土地事一、委任勿レ貳、臣請竭二股肱之力一以上報、十年底レ績、二十年俾下君之國一、富彊倍中今日上、若臣言不レ效則重戮レ臣以二欺レ君之罪一、臣請受二鈇鉞之誅一弗レ辭、文侯悅曰、善哉、惟先生良圖焉、於レ是李悝乃行下盡二地力一之道於國中上、前後二十年、民物蕃庶、財用豐足、國以治彊、文侯卒、武侯立、益修二其政一、魏遂成二大國一、李子之力也

琴乙第四

琴乙家貧、力二作于梁一、年三十而未レ室、聞下三川賓叔、起二酒家保一家貲累二鉅萬一、富埒中封君上、欲二往問一焉、裹

糧以行、未至數里、望見高門如丘、厦屋如陵、炊煙如雲、旣入其閭、則車馬塞路、造其門、則賓客雜還、男女出入者、駢肩接踵、琴乙徬徨躑躅不敢入、歛容而立于門外、三日三夜、於是門者訝之、曰、客何爲者也、琴乙曰、僕大梁琴乙者也、聞賓君善治生以致富、願得借階下盈尺之地、一仰顏色、而無因爾、丈人有意憐我其肯爲僕入請於賓君乎否、門者熟視琴乙曰、諾、遂入、因內人以告賓叔、賓叔乃命家僮延客於西序、琴乙執一鶩雛以入就位、有頃賓叔出見琴乙、琴乙前委贄、卻復位再拜、賓叔答拜、琴乙鞠躬而立、賓叔言曰、善哉子之遠來也、其將何以見敎、琴乙對曰、僕大梁鄙人也、不幸蚤喪父母、孤貧無以爲家、力作以給食、苟無疾病、尚可以終年也、夫壽夭者、命也、雖以若僕之貧、朝不及夕、焉知其不有天壽乎、僕惟以若斯生、終若斯年、徒塡溝壑耳、其與犬馬之死、何以異乎、是則可悲也、詩云、鮮民之生、不如死之久矣、此之謂矣、故僕嘗謂不富非人也、諺曰、千金之子、不死於市、此言信然、夫有土之君、世卿之家、尙猶患貧、而況匹夫編戶之民乎、僕嘗觀編戶之民、富相什則卑下之、佰則畏憚之、千則役焉、萬則僕焉、夫天之生民也、均斯人也、今乃富則役人、貧則役於人、是何富之可尙、而貧之可愍也、由是觀之、人而長貧賤、亦足羞也、僕聞人之言曰、弗求胡得、僕厭貧而欲求富、顧無立錐之地、尺寸之布、僕之求富、猶之不播種而望秋成也、僕固知其不可也、仄聞主君有致千金之術、是以不辭遠道、百舍重趼而來願見、今者主君不卻不肖、辱賜容接、

幸甚、乙聞之也、至道難聞、善教難遭、乙今得見主君、是天賜之時也、乙不以此時伸下情、將終身弗得焉、故願有請、敢問何如斯可以治生矣、竇叔曰、善哉問、居吾語子、夫富無經業、貨無常主、聚之則聚、散之則散、能者輻湊、不能者瓦解、貨不苟聚、必從其類、貨爲難養、動之則耗、貨爲難保、役之則呰、貨爲難長、玩之則消、貨爲難守、慢之則亡、貨爲難使、勸之則逃、是故聚貨有道、方其獲之也、待之如賓、既收之則尊之如父、親之如母、事之如君、敬之如兄、愛之如弟、畜之如子、信之如友、夫如是、則貨之聚、猶鳥之歸林、獸之走澤也、夫既聚矣、則視之如傷、莫之敢褻、謹其閉藏、固其管鑰、及其使之也、如不得已、有故捐之、則小者如拔毛、如刺血、大者如斷指、如解四體、夫貨者、（夫貨者一本無者字是）有盡之物也、人之用貨也、其心無涯、以有盡之貨、隨無涯之心、云何不窮乎、故苟志于富、而不忍其情、不窒其慾、未有能富者也、夫富之難得也尙矣、富之難保也甚矣、保富有道、勿耽聲色、勿燩衣食、勿飾宮室、勿樂佚遊、勿近玩好、勿觀博弈、勿嗜酒、勿招客、勿妄予、勿妄貸、勿聞禮義之譚、勿悅仁人之言、夫然後可以保其富也、如徒知致富、而不知所以保之則右手得之、而左手喪之、長乎前、而消乎後、所得不補所喪、所長不及所消、卒歸盡耳、若夫聚之以年歲、而一朝亡之者、又胡足道也、子往懋哉、吾無隱乎爾、致富之道、如斯而已矣、琴乙悵然頓之、曰、異哉主君之語富也、非乙所求也、夫人之求富、爲遂其欲也、所

貴於貨、其濟用也、有貨而弗用、藏而弗出、則如無貨、必若主君之云、則是富之與貧、無以異也、若僕之貧也、力作勤苦、僅免凍餒、上無以奉先祀、下無以畜妻子、是以親者日疏、交遊日薄、僕每爲是太息、以爲人而貧賤、不可以爲人也、故冒艱險來見主君、今主君命僕、勿聞仁厚禮義之言、始僕之問於主君也、以求成人也、及聞主君之言也、殆且害人者也、僕不敢從、若乙也者、貧則貧矣、雖然、日出而作、日入而息、其作也、唯力所勝、不傷筋骶、一日動、得粟二斗、錢九十、以爲衣食、日夕、則洗足坐臥房中、斗酒自勞、酒後耳熱、拊髀浩歌、遂以醉瞑、不須衾枕、夢寐晏如、勞而後休、故身安蘧廬、饑而後食、故口甘藜藿、不逞佚樂、故血脈無壅滯之患、不近美色、故精氣無鄖喪之慮、器用不具、囊橐無裝、故外內無盜賊之虞、弗敢犯國之法禁、故無以觸刑辟、誠若是、則雖終身焉可矣、人生儵忽、如驥過隙、從主君之道、縱幸得富、徒爲人守藏耳、君子之言曰、富貴在天、豈不信哉、予與其慕主君歉然之富、寧守吾自足之貧焉、請從此辭

有人第五

有人爲士處則無產、出仕、則不獲乎君、學、則不得卒業、爲農耕、則饑饉薦臻、爲工賫裘、則歲暄、賫蓋、則歲大旱、爲商居穀、則國有年、於是聞它邦有饑、舟輸其粟、則隣糶先

至、若然者、智非不足也、時非不利也、乃事拂其所爲、而進止皆不可、此何故也、乃窮之爲祟也、昔者驩兜氏有子、不才、舜既放驩兜于崇山、於是其子流離、餬口於四方、卒餓於萊莊之塗、死而爲厲、居槐江之東、恒山之西、其名曰窮、窮之所至、使人貧乏、窮之屬萬有一千五百二十、所司不同、人一遇之、未有不爲所困者也、雖聖人且不能免焉、況庸人乎、寬父笑曰、天地之道、陰陽而已矣、消與息相代、虛與盈相推、何常之有、寒極而暑、暑極而寒、是晝夜之道也、是故尺蠖屈而後伸、龍蛇蟄以存身、物既然矣、人獨不然邪、老聃曰、禍兮福所倚、福兮禍所伏、其相薄也、憂喜聚門、吉凶同域、惚焉恍焉、莫知其所以然、窮乎吾知爾不終困人夫、子路問於孔子曰、君子亦有窮乎、孔子曰、君子固窮、小人窮斯濫矣、至哉言也、夫人有窮達、道有通塞、窮達者、命也、通塞者、時也、時亦命也、命亦時也、知命隨時、君子也哉、君子唯道莫重焉、時行則行、時止則止、興也與命也、廢也與命也、吾何敢揣之、古之君子、忘窮忘達忘通忘塞、忘忘窮達通塞、忘忘其忘、止焉者、幷與君子之道忘之、渾渾然與天同運、與地同處、與萬物偕化、盛哉德乎、寔亦至矣、詩云、惟其有之、是以似之、非知道者、其孰能識之、荀卿曰、良農不爲水旱不耕、良賈不爲折閱不市、士君子不爲貧窮怠乎道、趙武靈王胡服招騎射、不喜寶玩、大夫以下效之、國中化之、皆斥賣珠玉珍器、於是邯鄲賈人有公乘紇者、捐千金、盡買國人所斥賣珠玉珍器、人笑其迂也、公乘紇曰、夫焉知余所爲、武靈王卒、子惠文王

立、好珠玉而不悅女色、命宮人皆去其首飾、及斁衣裳、國中又化之、大夫以下、皆斥賣其婦女首飾、及錦繡綵段、而爭買珠玉珍玩、公乘紇乃鬻其所居珠玉珍玩、而又買婦女首飾、及錦繡綵段、人乃不復笑其迂、及惠文王卒、子孝成王立、好女色、宮人首飾衣被、直數十百萬、國人化之、婦女皆競[illegible]其服、公乘紇乃又出其所居婦女首飾、及錦繡綵段而鬻之、於是乎公乘氏之業、其利不訾、前笑者皆服其智云、文子曰、人之所貴而居其貨、人之所賤而廢其貨者、非良賈也、所謂良賈者、夏則資皮、冬則資絺、旱則資舟、水則資車、白子曰、善治生者觀時變、故人棄我取、人取我予、夫歲熟取穀、予之絲漆、繭出取帛絮、予之食、欲長錢取下穀、長石斗取上種、能薄飲食、忍嗜欲、節衣服、與用事僮僕同苦樂、趨時若猛獸摯鳥之發、吾治生產、猶伊尹呂尚之謀孫吳用兵、商鞅行法、是也、是故其智不足與權變、勇不足以決斷、仁不能以取予、彊不能有所守、雖欲學吾術、終不告之矣、韓子曰、長袖善舞、多錢善賈、信哉、文摯見衛君、衛君曰、吾聞子良醫也、寡人有不治之疾、子豈能治之乎、文摯對曰、何哉、君所謂不治者、臣聞之扁鵲曰、病有六不治、驕恣不論於理、一不治也、輕身重財、二不治也、衣食不能適、三不治也、陰陽幷、臟氣不定、四不治也、形羸不能服藥、五不治也、信巫不信醫、六不治也、此六者與死病者、固醫所不治也、其它無不可治者也、故曰、疾可治也、死不可生也、今君生于深宮、而長于婦人之手、居則夏屋幽房、食則甘脆肥醲、衣則狐貉綈帛、輕煖燀爍、出輿入

華、皓齒蛾眉、不レ離二左右一、綏帶而坐、厚被而寢、雖レ有二金石之質一、猶レ將二銷鑠而盡一焉、臣觀二君
之肌膚白皙、筋骨挺解、四體惰窳、起居孱弱、譬如下鄭女曼姬、嫻娜綽約、不レ勝二羅綺一者上、
意者君疾得レ非二燕安過レ度、放レ情縱レ欲、以致一レ爾乎、今世貴人、誰獨不レ然、雖三令二醫治一レ之、以レ藥、
則不レ堪二其瞑眩一、以二砭灸一、則不レ能レ忍二其痛一、飲食則不レ能レ絕二其嗜一、居處則不レ能レ適二其宜一、而徒責二效
於醫一、不レ效、則罵以爲二下工一、夫若レ是者、雖レ更二百醫一、不レ能レ得レ效焉、雖二君之疾一乎、苟信二醫言一者、
尙幸可レ安也、不則固將レ在二所謂不レ治之數一矣、衞君曰、然、余固有レ之、雖レ然、寡人非二玆之言一也、寡
人病レ貧、寡人固多レ病、而莫レ疢二於貧之爲一レ病也、寡人嘗訪二羣臣一、莫二之能爲者一也、余是以云、文摯
曰、摯賤工也、知レ治レ病而已、何能治レ貧、雖レ然、以二臣事一觀レ之、治レ貧亦猶レ治レ病、無二以異一耳、
醫法、虛者補二其母一、實者瀉二其子一、虛者、正氣虛也、實者、邪氣實也、人身邪氣實、則正氣爲二之
虛一、醫者瀉二其實一、補二其虛一、邪氣去、正氣復、其人乃安、此臣所レ聞二於師一也、今夫食者、民之所レ天也、
穀粟貨財者、（穀粟貨財者一本無二者字一是）國之正氣也、穀粟貨財匱二于國一、是正氣虛也、穀粟貨財之所三以匱二于國一者、其君
縱レ欲、而諛臣濟レ之也、夫君縱レ欲、而諛臣濟レ之、是國之邪氣也、至下於廣二苑囿汚池一、高二臺榭一、畜二
禽獸一、飾二輿馬一、峻レ宇雕レ牆、姬妾數百、雜二還後庭一、倡優侏儒、出入追隨上、是邪氣實也、善
レ國者、卑二其宮室一、斥二其姬妾一、罷二其倡優侏儒、苑囿汚池臺榭之樂一、禽獸之利必與レ民共、而屛二
其諛臣一、是爲レ瀉二其子一、愛二其民一、而使レ之以レ時、不レ妨二農務一、來二百工一、而使三各盡二力於其事一、哀二鰥寡一、

恤孤獨、救患難、賑貧窮、是爲補其母、夫人有疾、則急於除其疾、疾去、則務任調理、治
國家者、亦宜然也、故既瀉其所瀉、補其所補、然後任賢使能、事尚儉素、崇孝弟、興禮樂、
是乃調理國家也、夫如是、而國不富、君不安者、臣未之聞也、夫醫方自黃帝始、黃帝者、
古之聖天子也、彼其治國家也、豈異於治人身哉、人身有元氣、國家亦有元氣、能保其元
氣、所以長久也、臣竊謂治國家、猶治人身也、所治小大之異耳、故曰、上醫醫國、豈虛語也
哉、雖然、摯也賤工、未學醫國也、今君辱下問、臣不敢不對、惟君察諸、衛君曰、善哉、良
醫也、重賄之、夫文摯之言至矣、何世主之察不及此也、是故天下之人、未有不治生産而能
有立者也、故庶民而不治生産、其誅至死亡、士大夫而貧、是竊其俸也、邦君而不能畜其
臣妾、假而不歸、雇而不償其直、是竊天祿也、天子而好聚斂、與民爭利、使百姓不得其
所、是竊天位也、竊人之財、謂之盜、苟有其祿、而不能畜其人、有其位、而不能惠其下、是
之謂在位之盜、小人之爲盜也、人固惡之、君子而爲盜、其謂之何哉、莊子曰、力不足則僞、智
不足則欺、財不足則盜、君子之盜、亦豈不由財之不足邪、故人足所履、不過方尺、然行獨
梁者、股戰難進、爲其旁無餘地也、今夫人之所食、不過乎一日粟五升也、所衣不過乎
冬縕袍一、夏葛衣一也、所居不過乎環堵之室、可以容膝也、過此以外、皆爲無用之物
也、雖然、盤無餕餘、不足以取飽也、寢衣不長一身有半、不足以取煖也、堂無東西序、

不レ足ニ以取一レ安也、由レ此觀レ之、無用之爲レ用也、不ニ亦大一乎、故人知ニ無用之用一、然後可三與言ニ治生一也、夫知ニ治生一者、能取ニ無用於有用之餘一、存ニ有事於無事之中一者也、人不レ可ニ以一日無ニ衣食一、亦不レ可ニ以無ニ宮室一、此衆所レ知也、善治レ生者、於ニ衣食宮室之中一、常存ニ其無用一、以待ニ有用一、所ニ以臨レ事亡一レ匱也、是故勤動趨レ事、治レ生之大本也、量レ入以爲レ出、守レ產之大經也、存ニ贏餘一以備ニ不虞一、通レ變之道也、若夫縱ニ其欲一、極ニ其樂一、侈ニ其用一、以傷ニ其財一、卒至ニ乏困一者、滔滔焉天下皆是、猶且曰、吾不レ知ニ計算一也、吾不レ事ニ生產一也、所レ行者仁義而已矣、焉知ニ其它一、噫、亦愚矣哉、夫及ニ其用不一レ足也、弗レ能レ不ニ乞貸以爲一レ給、國家聚斂之作、不ニ亦職此之由一乎、若レ然者、惡在三其行ニ仁義一也、世之君子、何其易レ言ニ仁義一也、可レ謂レ不レ知レ恥也已、如恥レ之則奈レ何、制レ節謹レ度而已矣、易云、天地節、而四時成、節以制レ度、不レ傷レ財、不レ害レ民、此之謂也、愼到隣人有ニ鑿レ井者一、以ニ豚肩巵酒一祭レ之、祝曰、鑿レ井不レ深、八尺維尋、何必取レ水、泥沙皆金、愼子聞レ之、曰、是不祥之祝也、客曰、何哉、愼子曰、鑿レ井、以レ求レ水也、若不レ得レ水而獲レ金、是不祥之獲也、客曰、天地之間、金少水多、故人之求レ之也、水尤易レ得、而金尤難レ得、是以金甚貴、而水甚賤、金之爲レ寶也、（尙上道）尚矣、鑿レ井而獲レ金、何以爲ニ不祥一、愼子曰、不レ然、夫水能養レ人、金能養レ人乎、是故人家無レ金、未レ害ニ於生道一也、一日無レ水、則不レ能レ保レ生、是水之爲レ寶、顧不レ重乎、夫人之所レ患、莫レ大ニ於饑渴一、是故食以療レ饑、飲以救レ渴、所ニ以爲一レ智也、耕レ田、以謀レ食也、鑿レ井、以謀レ飲也、設令ニ天

下之田不生禾而生玉、天下之井不出水而出金、則是死天下之人也、不祥孰大焉、夫衣食宮室之於民生也、所關寔大矣、然匪止斯、几席之安體、杖之扶老、耒耜之耕、鎒之耘、舟車之攬載以致遠、弧矢之威天下、規矩準繩之爲方圓平直、釜甑之爨、燧之取火、觿之解結、刀之斷、諸若此者、不得是器、未有能濟其事者也、是故天下之物、誠得其用、則纖芥之微、可以直金璧矣、語曰、中河失船、一壺千金、貴賤無常、時使物然、豈不信哉、夫一壺之輕、千金不若者、時也、中用也、是故物無定價、貨無常貴、用之當、則天下無非寶之物、奚獨金璧之爲貴邪、然物固不齊、物之與物、弗能通其用、故得其用、則有功而貴焉、不得其用、則廢焉、若乃未明物之用、焉知纖芥重於金璧邪、卜尹曰、尺有所短、寸有所長、斯之謂也

皐賓第六

魏有弄丸者曰皐賓、自秦來、弄丸於安邑之市、觀者如堵牆、皐賓之弄丸也、初以一手弄一丸、尋益一丸、而兩手弄之、一丸常在空中、尋又益一丸、則二丸常在空中、又益一丸、三丸常在空中、既又弄二大丸、與二小丸、又以一鵝卵、一雀卵、一鉄一鍥一粒菽同弄、或以盤盂廁之、或以杯水同弄、而承之以長竿、使巧百出、不可具狀、弄之移日、未嘗有失焉、弄畢、衆皆稱善、有一人進謂皐賓曰、來爾皐子、吾與子言、吾觀子之伎也、巧哉神乎、子惡

乎得之、雖天下之伎、其誰與子爭能也、余意以子之伎巧也、施諸它事、豈不亦善乎。乃若是屑屑焉、何哉、吾觀子之狀貌、似不甚富者、竊爲子惜已、意者子亦蹶弛偷安與、何不自振乃爾、僕生不才、長不滿七尺、力不足以供一夫役、智不能辨物、書纔記姓名、凡百伎藝、一無所能、貧無置錐之地、年且三十、爲人賃舂、得錢三百、以買糶於大梁之市、夙夜勤苦、十有餘年、幸貨殖、至有家僮百人、是僕之生產、不亦進乎、然此豈僕以才能致之也哉、乃其所爲近於利耳、今子以若伎術、而不能富者、豈才不足也哉、乃其所爲迂耳、子盡思諸、卓賓莞爾而笑、曰、子誠市井之人唯知商賈之利而已、焉知其它、予請明告子、天下之人、無不有業、豈唯民哉、冕服殺牲以郊、衣冠以日視朝、愼萬機、牧兆民使天下之人、各得其所、此天子之業也、奉社稷安百姓、修其職貢、以事一人、此諸侯之業也、進則事君以忠、退則治家有法、達政事而正國經、保私邑而守宗廟、此卿大夫之業也、學以成其身、定志執德、砥厲廉隅、立於朝有不可犯之色、使於四方、不辱君命、保其祿位、而守其祭祀、此士之業也、夙興夜寐、孳孳從事、勤動匪懈、檢束節用、以養父母、畏法禁、懼刑辟、保其家產、而和其室人、此庶人之業也、故自天子以下至庶人、業各不同、所勞亦殊、有勞心者焉、有勞力者焉、勞心者爲君子、勞力者爲小人、是其所勞雖殊、自予觀之、皆所以治生也、是故治生之事、夫人可爲也、曷爲擇乎、且人心不同、所向殊方、故有登山而獵者、有入水而斂者、有

夏日陶冶而流汗者、有冬月洴澼絖而龜手者、此果孰是孰非、孰難孰易、孰勞孰佚乎、且夫夏葛冬裘者、人之常也、而優者厚衣以戲于盛暑、方士赤體以立于風霜、人不一日三餐則餒、而安期羨門之徒、乃辟穀絶粒終身、人情靡不親父母、愛妻子、而修眞之流、有離父母、屏妻子而獨與麋鹿處者、酒肉茹葷、男女宴樂、人之所欲也、而巫祝乃不飲酒食肉茹葷、遠男女而狎鬼神、人靡不惡死、而仁人義士、乃殺身以成其行、諸若此類、自予觀之、亦皆所以治生也已、且人各有能有不能、弄丸者、吾所能也、賈術以爭錐刀之利者、吾所不能也、今子以而所能、責我以所不能、賓也小人、雖死弗能受命、東郭先生聞之、曰、善哉言乎、吾亦將云、人皆有生、生不可不治、人必有事、事也者、所以治生也、故天下之財、有與無交易、天下之事、能與不能交易、夫如是、然後天下治也、人身安所習、苦樂得失、易處皆然、奚得自外議之、昔市南宜僚弄丸、而兩家之難解矣、寧末伎之云乎哉、皁子其達乎、且其言進於伎、詩曰、詢于芻蕘、猶信夫、是故古之善爲國者、俾四民各殊其處、以絶夫外慕之心、使其不見異物而遷焉、則管仲之治齊是已、心壹則其業就、心貳則其業不就、此四民之所同也、計子曰、賈多端則貧、工多端則窮、故苟有外慕之心、而亟遷其業者、未有能成者也、且消息盈虛者、(且消息盈虛者一本無者字)天地之常也、無消不息、無虛不盈、消者、息之胚胎、虛者、盈之根荄、消之與息、虛之與盈、往來不已、莫知其極、此太易之道也、又何疑之有、雖然、此有餘而彼不足、彼有餘而此不足、

凡物之不齊、亦物之情也、若乃蘷嗤蚿、蛇嗤蘷、是多乎寡、而煩人之多、有乎無、而害人之有、物亦有然者也、然則鶴脛脩、與鳧脛短、其果孰得而孰失、鶴不厭其脛脩、鳧不患其脛短、所以脩者不可斷、短者不可續、物之定分也、世乃有欲斷鶴脛而短之、續鳧脛脩之者、何邪、若然則其害不可勝言也、故曰、物之不齊、物之情也、若欲齊之、將矯其情、矯其情、則是害物之甚者也、聖人豈爲之哉、夫萬物之錯于兩間也、森森焉、擾擾焉、我究其情、長短曲直大小高下精麤美惡、奚翅萬而萬之、自非明智之人、孰能盡之、是故聖人之治天下也、能令萬物各得其所、萬物各得其所、然後各盡其材、萬物各盡其材、而民用足焉、夫物既然、人獨不然邪、是以賢愚壽夭貴賤貧富、自然而然者、皆有定分、亦孰能齊之、曰齊之云爾、何也、以有餘補不足之謂也、非謂損彼益此之謂也、不曰平均天下乎、曰、然、所謂賢愚壽夭貴賤貧富、自然而然者、皆盡其性、則是人人安其分、而上下不亂、此謂平均、若乃損有餘以益不足、然後謂之平均、是則所謂斷鶴脛續鳧脛之道也、君子豈爲之哉、君子不充詘於富貴、不隕穫於貧賤、黽俛盡其道、從容極其數、優游以俟天命、詩云、優哉游哉、聊以卒歲、尙矣哉、梁人有畜貓者、命曰家虎、客問其故、對曰、吾貓善捕鼠、捷如掣電、未嘗失之、物莫猛於虎、故以命之也、客曰、虎則猛矣、孰與龍之神也、曰、不若、因更名神龍、又有一人問其故、主人答以所以更名、客曰龍雖神矣、不得雲、則弗能升降于天淵、是龍之所以神者、雲也、不若

命之曰騰雲、主人曰、諾、又一人聞之、告主人曰、雲固能令龍升降于天淵也、然烈風一掃之、則散而失所、是雲之靈、不及風之力也、盍命之曰烈風、主人曰、諾、又一人謂之曰、風之力多矣、且能行矣、然有高牆障之、則止、是牆之力多於風也、請更名曰高牆、主人曰、善、又一人曰、牆誠風之所不能過也、然有羣鼠穴之、則毀、是鼠者、牆之所畏也、故不若更名曰羣鼠、於是主人笑曰、止、無復言、吾固知之、捕鼠者、貓也、羣鼠何能勝貓。吾所以命之過矣、鄉也客之言、徒調我耳、吾其直以貓呼貓、故世之不知足以踰其分者、皆梁人之命貓也、夫自虎轉更至於鼠、則其不及貓明矣、於是乃知以貓呼貓之爲當、亦既晏矣、夫人欲罔極、而分有涯、苟極其欲、以踰其分、不智之甚者也、夫欲豈可得而極乎、分豈可得而踰乎、詩云縞衣綦巾、聊樂我云、不極欲之謂也、折柳樊圃、狂夫瞿瞿、不踰分之謂也、昔人有患瘤于項者、取材于山、還而日暮、投空舍宿焉、夜有羣鬼宴于舍、見瘤者曰、客何爲者也、對曰、山下邑人、取材于山、日暮不可行也、故借宿於此、非異人也、鬼曰、子欲食乎、曰、不欲也、欲飲乎、曰、唯欲酒、不欲它飲也、鬼曰、善、因飲之、宴酣、鬼謂瘤者曰、能歌乎、對曰、里巷下曲、恐不足聽已、鬼曰、第歌、瘤者擊節而歌、羣鬼咸稱善、又曰、子能舞乎、對曰、下節、恐不足觀已、鬼曰、第舞、瘤者起舞、羣鬼咸悅、曰、善、於是歡甚、至曉鬼將去、謂瘤者曰、吾曹夜必集于此、子豈能復來會乎、瘤者曰、諾、鬼曰、雖然、子能無食言哉、請必以物爲質、瘤者曰、我樵夫、唯有

一‐斧一、它無レ所レ有、請以レ斧爲レ質、鬼曰、唉、是何足二以爲一レ質、觀二子項有一レ瘤、可二以爲一レ質、因取二其瘤一、不レ痛且不レ見レ血、鬼既去、黎明、瘤‐者走歸レ家、家人覩二其亡一レ瘤、因問レ之、告二之故一、里人有下患二瘤于頸一者上、聞レ之、就二其家一而謁曰、子且二復往一乎、對曰、未レ必也、曰、余願攝二子‐事一、幸可三以去二吾瘤一也、曰、可也、里人遂往、夜鬼至、見二里人一曰、惡、是何非二昔者所一レ見也、里人曰、疇昔瘤者、不幸疾作、故使三予來謝二諸君一也、鬼曰、子亦好レ酒乎、曰、否、能歌舞乎、曰。略能、令三之歌‐舞一、不レ善、羣‐鬼不レ悅、曰、子歌舞不レ善、吾曹無二以爲一レ歡、可二趨歸一、昔者所レ質、煩レ爾致二之前‐人一、因以二昔者所レ取之瘤一、著二里人項一、遂遣歸、舊瘤未レ除、更負二新瘤一而歸。唯不二自量一而徒羨レ人之禍也

產語卷上　終

産語卷下

冷無疆第七

冷無疆袨服以見北宮佗、北宮佗布衣敝垢、鹿裘尨茸、抵掌而譚、色無恥者、冷無疆曰、夫子衣裘、曷為黑爾、豈為祿薄邪、無乃太儉乎、北宮佗曰、子冠若是其華、衣若是其徽、是豈子所自為也與、抑取諸人與、冷無疆曰、令工人為之也、曰、令工人為之、子而償其直乎、曰、未也、子之狐裘徽甚、惡乎得之、曰、得諸賈人、償其直乎、曰、未償者半、北宮佗笑曰、然則子之所冠非子之冠、所衣非子之衣也、雖子之裘、其半未為子之府庫中物也、子今袨服、徒貸諸工與賈以來夸耀人、是子之欺人也、君子而如是乎、吾衣裘雖敝惡哉、是吾府庫中物、非假諸人也、子何著人之徽服、以醜吾不假之惡衣乎、冷無疆大慙、王孫賈仕於齊、其母戒之曰、事君勿不忠、涖官勿不敬、居處勿不恭、戰陣勿不勇、勿假車馬衣服、王孫賈起而對曰、忠敬恭勇、敬聞命矣、敢不奉教、君不知賈不肖、使賈從大夫之後、祿以千室之邑、賈也雖末、亦敝賦百乘、不可謂不富也、今而命之曰、勿假車馬衣服、抑賈何所不足、而且假車馬衣服乎、母曰、吾豈

謂爾假人車馬衣服乎、女不見乎、今士大夫居家、自車馬衣服、以至凡百器用、或命工人作之、或取諸商賈、未還其直、而先服用之、是其所服用、非其家財、乃商賈工人之財也、夫非其家財而服用之、非假而何、王孫賈曰、敬聞命矣、敢不奉教、自是厥後、毎置車馬衣服、未還其直、弗敢卽乘服也、若王孫賈者、可謂能奉教矣。楚囊瓦爲令尹奢侈、諸大夫效之、競爛其服、飾輿馬盛騶從、伍奢使於齊而歸、見囊瓦、囊瓦問曰、齊大夫之富、孰與楚大夫、伍奢對曰、楚大夫特行路之富耳、曷若齊大夫之富、囊瓦曰、何謂也、伍奢曰、楚大夫競爛其服飾輿馬、盛騶從、是以行路之間、觀者爲之留連、莫不歆羨其富貴、然奢嘗竊觀其在家也、倉廩無來歳之儲、府庫無重器之藏、舊債未償、而新債日加。旦暮所需、水火之外、無非假諸人、歳時責者盈門、於是乎諸尹縣公之貴、而諂屈商賈、斂襟謝不償之罪焉、是惡在其爲富貴也、齊大夫則不然、夫齊有晏平仲、其處己也恭。其治家也儉、衣敝衣、乘樸車以朝、然齊貧士。待晏子而擧火者。百有餘家、國人以爲讚譚、諸大夫效之擧崇儉德、輿馬不飾。騶從不盛。是以齊大夫。人見諸道路、則或嗤其儉素、然問其居家也。則倉有餘粟、府有餘財、費用無匱。內外飽德、此所謂大夫在家之富也、由是觀之、楚大夫殆乎不若、囊瓦憮然有愧色、是故天子之富在百姓、國君之富在軍旅、卿大夫之富在門庭、士之富在室家、庶人之富在衣食、故富之所在、君子所用力也、富非其所者、君子醜之、夫人靡不欲富、而得之有命、致之有道、用之有義、夫外內皆富者、蔑以加

焉、若不然、與其外富而内不富也、寧外不富而内富、何謂外不當而内當、若晏子是已、仁人之德、廉士之義、非內富無以行之、其可不務乎、若夫忘其内、而外用其富者、徒以其身供人之觀也、富亦豈終爲其用乎、晏子朝乘敝車、駕駑馬、景公見之曰、嘻、夫子之祿寡邪、何乘不任之甚也、晏子對曰、賴君之賜也、得以壽三族、及國游士、皆得生焉、臣得煖衣飽食、敝車駑馬以奉其身、於臣足矣、晏子出、景公使梁丘據遺之路車乘馬、三反弗受、景公不悅、趣召晏子、晏子至、景公曰、夫子弗受、寡人亦弗乘、晏子曰、君使臣臨百官、臣節其衣服飲食之養、以先國人、猶恐其侈靡而不顧其行也、今路車乘馬、君乘之上、而臣亦乘之下、民之無義、侈其衣服飲食、而不顧其行者、臣無以禁之、遂辭弗受、景公問於晏子曰、吾欲觀於轉附朝儛、循海而南、放於琅邪、吾何修而可以比於先王觀也、晏子對曰、善哉問也、天子適諸侯曰巡狩、巡狩者、巡所守也、諸侯朝於天子曰述職、述職者述所職也、無非事者、春省耕而補不足、秋省斂而助不給、夏諺曰、吾王不遊、吾何以休、吾王不豫、吾何以助、一遊一豫、爲諸侯度、今則不然、師行而糧食、饑者弗食、勞者弗息、睊睊胥讒、民乃作慝、方命虐民、飲食若流、流連荒亡、爲諸侯憂、從流下而忘反、謂之流、從流上而忘反、謂之連、從獸無厭、謂之荒、樂酒無厭、謂之亡、先王無流連之樂、荒亡之行、唯君所行、景公悅、大戒於國、出舍於郊、於是始興發、補不足、召太師曰、爲我作君臣相悅之樂、蓋徵招角招是也、其詩云、畜君何尤、畜君者、好君

也、景公問於晏子曰、昔者管仲鏤簋朱紘、山節藻梲、家有三歸之臺、堂有反坫、官事不攝、非奢也與、晏子對曰、管仲舉於囚虜、相桓公、執國政、遵太公遺法、任五士、處四民、使魚鹽、而民賴其利、國以之富、兵以之彊、諸侯畏之、卒使桓公九合諸侯、一匡天下、上故桓公尊之、號曰仲父、一曰仲父、二曰仲父、諸大夫自高國以下、尚不敢以爲猜、而況民乎、夫管仲以不世之功也、君尊之於上、民親之於下、是以尊官厚祿、不爲仲父之累也、齊國之民、仰之如日月、畏之如鬼神、愛之如父母、彼雖其富且貴、然民猶恐奉養不至、而不能令其心樂也、管子豈好奢哉、誠不得已也、君以爲奢乎、鄭詩云、知子之來之、雜佩以贈之、知子之順之、雜佩以問之、知子之好之、雜佩以報之、管子曰、蒞民如父母、則民親愛之、道之純厚、遇之有實、雖不言曰吾親民、而民親矣、蒞民如仇讐、則民疏之、道之不厚、遇之無實、詐僞並起、雖言曰吾親民、而民不親也、夫齊人之事管仲父、猶子之事父母也、致其歡樂而已矣、然則管仲之奢、不亦宜乎、景公曰、善、陳軫見楚頃襄王、王曰、寡人聞有國者、務在憂民、有諸、陳軫對曰、然、王曰、以先生所睹若所聞也、今之諸侯、孰爲憂民、陳軫曰、臣以羇旅、游于諸侯之國有年矣、願欲得一憂民之君而事之、徧海內未之有聞也、其焉睹之乎、王曰、然則先生謂今之諸侯奚若、陳軫曰、臣觀今之人主、有溺於女色者、有耽於飲酒者、有淫於聲樂者、有嗜味者、有好游獵馳騁者、有好博弈者、有好宮室苑囿者、有好侏儒俳優角觝扛鼎之戲者、

有好擊劍者、有好僊者、好祀者、好歌、好舞、好誦讀、好戰鬪、好殺戮者、靡不有好、臣未見一有益於其國家者、在昔文王之爲君也、書云、自朝至于日中昃、不遑暇食、用咸和萬民、故詩人稱之曰、亹亹文王、今之人主、務在逞其嗜好、日夜孳孳、唯恐不及、何暇憂民乎、臣謂今之人主、皆亡國之君也、王曰、先生謂寡人奚若、陳軫曰、大王、閑雅之君也、王曰、何謂也、陳軫曰、大王少嗜文學、長惇詩書、又好辭賦、而悅景瑳宋玉滕勒、夫三子者、閑雅之士也、大王悅之也、使其出入侍從、是大王閑雅之君也、雖然、臣竊謂大王亦特用是消日而已、其豈憂民哉、大王若不憂民、苟以消日而已、則與世之人主、於內、於外、逞其嗜好者、何以異乎、雖事有媺惡、其無益於國家、以致危亡、則一也已、臣願大王之熟慮之也、王曰、善

馮驩第八

馮驩客食于孟嘗君、孟嘗君家、食客三千人、邑入不足以奉客、使人出息錢於薛、歲餘不入貸錢者多不能與其息、客奉且不給、孟嘗君憂之、謂馮驩曰、賓客不知文不肖、幸來臨文者三千餘人、邑入不足以奉賓客、故出息錢於薛、薛歲不入、民頗不與其息、今客食恐不給、願煩先生責之、馮驩曰、敬諾、辭行、至薛、召貸孟嘗君錢者咸會、得息錢十萬、乃多釀酒買牛、召諸貸錢者、皆來、不能與息者亦來、皆執貸錢之券書合之、齊爲會日、殺牛置酒、酒酣乃執

券如前合之、能與息者、與之爲期、貧不能與息者、取其券而燒之、曰、孟嘗君所以貸錢者、爲民之無者以爲本業也、所以求息者、爲無以奉客也、今富給者以要期、貧窮者、爲燒券書以捐之、諸君彊飲食、有君若此、豈可負哉、坐者皆起再拜、孟嘗君聞之、怒、趣使使召馮驩、馮驩至、孟嘗君曰、文食客三千人、故貸錢於薛、文奉邑少、而民尚多不以時與其息、客食恐不給、故請先生收責之、今聞先生得錢、即以多具牛酒而燒券書、何也、馮驩曰、然、不多具牛酒、則不能畢會、無以知其有餘不足、夫有餘者爲要期、其不足者、雖守而責之十年、息愈多、急則以逃亡自捐之、若急終無以償、上則爲君好利、不愛士民、下則有離上抵負之名、非所以厲士民彰君聲也、焚無用虛債之券、捐不可得之虛計、令薛民親君、而彰君之善聲也、君何疑焉、孟嘗君乃拊手而謝之曰、吾過矣、吾過矣、先生之爲文也大矣、閻奚恤者、彭城富人也、家貲鉅萬、鄉黨無比、見窮之者必賑之、有人就假錢者、不問多少、即貸之、貸者及期還其息、則收之、其貧不能還息者、不敢索之、爲折其券者歲十數、不復責其息也、人或謂之曰、凡貸人錢者、必取什一之息、所以爲產也、子乃不索其息、而歲折其券者十數、何也、閻奚恤曰、天之生物也、或有餘、或不足、天則俾有餘者補不足、人何不然、人之所以爲生、亦必以有餘補不足、所以則天也、我獨何不然、今我幸而有餘、不可以不補人之不足也、故人就我假者、吾即貸之、夫能還其息、則吾固收之、若夫貧不能還息者、吾而敢索之、是不矜人窮也、烏

在二其以レ有レ餘補一レ不レ足也、且貧而假レ錢、豈人之所レ欲哉、假而不レ還、亦豈人之所レ安哉、其所二能還一而弗レ還者、匪レ人也、苟匪レ人者、吾何責焉、其不レ能レ還者、雖二守而責一レ之、終弗レ能レ還耳、於レ我何益之有焉、非二徒無一レ益、所二以樹一レ怨也、縱余不レ能レ德レ人、豈欲レ樹レ怨乎、古人有レ言曰、一年之計樹レ穀、十年之計樹レ木、百年之計樹レ德、吾亦欲下爲二子孫一樹上レ德爾、夫人德レ人、而其人不レ思レ報レ之者鮮矣、即人不レ報、天將レ報レ之、即不レ在二其身一、將レ在二其後世一、非二惟德有一レ報、怨亦有レ報、怨之報、速二於德一、可レ畏也、余不肖、非二敢望二德之報一也、特懼二怨之報一耳、詩云、無二言不一レ讎、無二德不一レ報、此之謂也、龍子曰、勞者佚、佚者勞、予爲レ取、取爲レ予、失二於前一、則得二於後一、得二於此一、則失於彼一、是故言悖而出者、亦悖而入、貨悖而入者、亦悖而出、老聃曰、多藏必厚亡、豈不レ誠哉、夫貨者、所二以利一レ用、非レ所二以安一レ身也、何則懷二南金一者、行避二姦途一、守二龜玉一者、寢不レ高レ枕、近二於害一也、是以犀死二于角一、象死二于牙一、虎死二于皮一、熊死二于膽一、麝死二于臍一、翬死二于尾一、此其爲レ物也、雖二大小不一レ同、然其所二以死一者一也、是故天子出入警蹕、請レ道而後行、諸侯行辟レ人、豈特自尊而已哉、亦以レ遠レ害也、夫國家者、人君之所レ藏レ身也、富貴者、人君之所レ寶也、有二國家一而藏レ身焉、可レ謂レ固矣、然富貴之寶、盜之所二覬覦一也、是以有レ時乎遺レ害、欲レ無レ畏、其可レ得乎、故聚レ貨者、怨之府也、施レ惠者、德之基也、君子積而能散、施而不レ德、不レ專二其富一、必與レ人共、不下獨享二其福一上、必遺二子孫一、詩云、貽二厥孫謀一、以燕二翼子一、此之謂也、趙簡子使二尹鐸爲二晉陽一、尹鐸請曰、以爲二繭絲一乎、抑爲二保鄣一乎、簡子曰、保鄣哉、尹鐸損二其戶數一、簡子

將死、誠襄子曰、晉國有難、而毋以尹鐸爲少、毋以晉陽爲遠、必以爲歸、知氏之難、襄子出、曰、吾焉走乎、從者曰、長子近、且城厚完、襄子曰、罷民力以完之、又斃以守之、其誰與我、從者曰、邯鄲之倉庫實、襄子曰、濟民之膏澤以實之、又因而殺之、其誰與我、其晉陽乎、先主之所屬也、尹鐸之所寛也、民必和矣、乃走晉陽、知伯與韓魏圍而灌之、城不浸者三版、沈竈産鼃人馬相食、而民無畔意、孟子曰、天時不如地利、地利不如人和、三里之城七里之郭、環而攻之而不勝、夫環而攻之、必有得天時者矣、然而不勝者、是天時不如地利也、城非不高也、池非不深也、兵革非不堅利也、粟米非不多也、委而去之、是地利不如人和也、故曰、域民不以封疆之界、固國不以山谿之險、威天下不以兵革之利、得道者多助、失道者寡助、寡助之至、親戚畔之、多助之至、天下順之、以天下之所順、攻親戚之所畔、故君子有不戰、戰必勝矣、所謂道者何、仁是也、故曰、仁者無敵、豈虛語也哉、管子曰、凡治國之道、必先富民、民富、則易治也、民貧、則難治也、奚以知其然也。民富、則安鄕重家、安鄕重家、則敬上畏罪、敬上畏罪則易治也、民貧、則危鄕輕家。危鄕輕家則敢陵上犯禁、陵上犯禁、則難治也、故治國常富、亂國常貧、是以善爲國者。必先富民、然後治之、昔年七十九代之君、法制不一、號令不同、然俱王天下者、何也、必國富而粟多也、夫國富粟多生於農、故先王貴之、凡爲國之急者、必先禁末作文巧、末作文巧禁、則民無所游食、民無所游食、則必事農、民事農則田墾、田墾則粟多、粟多則國

富、國富者兵彊、兵彊者戰勝、戰勝者地廣、是以先王知衆民彊兵廣地富國之必生於粟也、故禁末作、止奇巧、而利農事、今爲末作奇巧者、一日作、而五日食、農夫終歲之作、不足以自食也、然則民舍本事、而事末作、舍本事而事末作、則田荒而國貧矣、凡農者、月不足而歲有餘者也、而上徵暴急無時、則民倍貸以給上之徵矣、耕耨者有時、而澤不必足、則民倍貸以取庸矣、秋糴以五、春糶以束、是又倍貸也、故以上之徵而倍取於民者四、關市之租、府庫之徵、粟什一、廝輿之事、此四時亦當一倍貸矣、夫以一民養四主、故逃徙者刑、而上不能止者、粟少而民無積也、常山之東、河汝之間、蚤生而晚殺、五穀之所蕃熟也、四種而五穫中年畝二石、一夫爲粟二百石、今也倉廩虛、而民無積、農夫以鬻子者、上無術以均之也、故先王使農士商工四民、交能易作、終歲之利、無道相過也、是以民作一而得均、民作一、則田墾、姦巧不生、田墾則粟多、粟多則國富、姦巧不生、則民治、富而治、此王之道也、不生粟之國亡、粟生而死者霸、粟生而不死者王、粟也者、民之所歸也、粟也者、財之所歸也、粟也者、地之所歸也、粟多、則天下之物盡至矣、故舜一徙成邑、二徙成都、三徙成國、舜非嚴刑罰、重禁令而民歸之也、去者必害、從者必利也、先王善爲民除害興利、故天下之民歸之、所謂興利者、利農事也、所謂除害者、禁害農事也、農事勝、則入粟多、入粟多、則國富、國富、則安鄉重家、安鄉重家、則雖變俗易習、敺衆移民、至於殺之、而民不惡也、此務粟之功也、上不利農則粟少、粟少則人貧、人貧則輕家、輕家則易去、易去、

則上令不レ能二必行一、上令不レ能二必行一、則禁不レ能二必止一、禁不レ能二必止一、則戰不二必勝一、守不二必固一矣、夫令不二必行一、禁不二必止一、戰不二必勝一、守不二必固一、命レ之曰二寄生之君一、此由二不レ利レ農少レ粟之害一也、粟者、王之本事也、人主之大務、有レ人之塗、治レ國之道也、荀子曰、下貧則上貧、下富則上富、故田野縣鄙者、財之本也、垣窌倉廩者、財之末也、百姓時和、事レ業得レ敍者、貨之源也、等二賦府庫一者、貨之流也、故明主必謹養二其和一、節二其流一、開二其源一、而時斟酌焉、善哉

四民第九

天下有二四民一焉、一曰二士民一、二曰二農民一、三曰二工民一、四曰二商民一、知二禮義一者爲二士民一、務二稼穡一者爲二農民一、利二器用一者爲二工民一、通二貨財一者爲二商民一、士出二於農一、學二知禮義一、身有二君子之行一、仕二於國一而受二祿於君一者也、故爲二四民之上一、農、食二於土一者也、故其位次レ士、工、執二藝事一而食二其力一者也、故其位次レ農、行者爲レ商、坐者爲レ賈、商賈食二貨物一者也、故爲二四民之下一、士者、事也、執レ事而食二於君一、不レ求二餘利一、淸之至也。故在二四民一最貴也、農之爲レ事也、耕耘樹藝、不レ避二寒暑一、終歲勤勞、莫二敢怠慢一、及二秋成之日一、出二什一一以奉レ上、而食二其餘利一、用レ力多、而得レ利少、故次レ貴、工之用レ力少二於農一而得レ利多焉、平時猶然、及下其遇レ時乘上レ急也、則其利不レ訾、所二以賤一也、商賈、壹以レ智射二機利一者也、故一日或得二數倍之利一、不三必用二力、而得レ利常多、所二以最賤一也、是故得レ利之難而少者貴、得レ利之易而

多者賤、自然之勢也、得之難者、喪之亦難、得之易者、喪之亦易、必然之理也、夫農有凶災、賈有折閱、皆有以失利而貧焉、惟農雖貧窮、未卽至破家也、賈則有一敗塗地者也、此亦難易之驗也、然民性急爭欲富、是以舍本業而趨末作者多矣、若是者、國之害也、不可不禁也、故善治國者、必禁民之末作、所以重本也、必賤貨、所以貴穀也、夫農者、民之本也、豈惟民之本哉、古者君子、進則爲士、爲大夫、退則執耒耜以老于隴畝、豈不尙矣哉、臨國者、以此道民、民尙好末利、趨之如流、殆不可禁、是亦臨國者之患也、是故古先聖王之所以道民者、先務於農民、農非徒爲地利也、貴其志也、民農則樸、樸則易用、易用、則邊境安、主位尊、民農則重、重則少私義、少私義、則公法立、力專壹、民農、則其產復、其產復、則重徙、重徙、則死其處而無貳慮、民舍本而事末、則不令、不令則不可以守、不可以戰、民舍本而事末、則其產約、其產約、則輕遷徙、輕遷徙、則國家有患、皆有遐志、莫有居心、民舍本而事末、則好智、好智則多詐、多詐則巧法令、以是爲非、以非爲是、后稷曰、所以務耕織者、以爲本敎也、是故天子親率諸侯耕帝藉田、大夫士皆有功業、是故當時之務、農不見于國、以敎民尊地產也、后妃率九嬪蠶於郊、桑於公田、是以春秋冬夏、皆有麻枲絲繭之功、以力婦敎也、是故大夫不織而衣、婦人不耕而食、男女貿功以長生、此聖人之制也、故敬時愛日、非老弗休、非疾弗息非死弗舍、上田夫食九人、下田夫食五人、可以益、不可以損、一人治之、十人食之、六畜皆在其中矣、此大任地

之道也、故當時之務、不興土功、不作師徒、庶人不冠弁娶妻嫁女享祀、不酒醴聚衆、農不上聞、不敢私籍於庸、爲害於時也、然後制野禁、苟非同姓、農不出御、女不外嫁、以安農也、野禁有五、地未闢易、不操麻、不出糞、齒年未長、不敢爲園囿、量力不足、不敢渠地而耕、農不敢行賈、不敢爲異事、爲害於時也、然後制四時之禁、山不敢伐材下木、澤人不敢灰僇、繯網罝罦不敢出於門、罛罟不敢入於淵澤、非舟虞不敢緣名、爲害其時也、若民不力田墨、乃家畜、國家難治、三疑乃極、是謂背本反則失毀其國、凡民自七尺以上、屬諸三宮、農攻粟、工攻器、賈攻貨、時事不供、是謂大凶、奪之以土攻、是謂稽不絕憂唯必喪其粃、奪之以水事、是謂籥喪以繼樂四鄰來虛、奪之以兵事、是謂厲禍因胥歲不舉銍艾、數奪民時、大饑乃來、野有寢耒、或譚或歌、旦則有昏、喪粟甚多、皆知其末、莫知其本眞、管子曰、一農不耕、民或爲之饑、一女不織、民或爲之寒、故事再其本、則無賣其子者、事三其本、則衣食足、事四其本、則正籍給、事五其本、則遠近通、死得藏、今事不能再其本、而上之求焉無止、是使姦塗不可獨行、遺財不可包止、隨之以法、則是下艾民、食三升、則鄉有正食而盜、食二升、則里有正食而盜、一升、（一升上脫食字）則家有正食而盜、今操不反之事、而食四十倍之粟、而求民之毋失、不可得矣、夫民之所生、衣與食也、食之所生、水與土也、所以富民有要、食民有率、率三十畝、而足於卒歲、歲兼微惡、畝取一石、則人有三十石、果蓏素食當十石、糠粃六畜當十石、則人有五十石、布帛麻絲、旁入奇

利、未在其中也、故國有餘藏、民有餘食也、齊景公好戲、愛優發、予之田如上士之祿、晏子諫曰、夫農者、人之本而民之上也、人臣之貴者爲卿・其次爲大夫、而大夫出於士、士出於農、故農爲人之本也、民以食爲天、而食出於農、自工商賈皆取焉、故農爲民之上也、夫農者受田於君、修耒耨以耕之、終歲勤苦、尙或不饜糟糠、出其什一以奉上、上斂其稅、以供祭祀、食百官子女、畜馬牛、故上之人好奢靡、而用不足、則必索諸民、是謂潛民之膏血、夫優者、百工之下也、人君所玩弄、莫賤焉、潛民之膏血、以供玩弄、尙爲不仁、況使民之上者奉賤工乎、夫田者、農之所事也、故雖大夫有田祿、士受穀而已、士且不得有田、賤工而可以有田乎、今君賜優發以田、是使農戴賤工也、夫屨雖新而不加諸首、若君之所爲、是謂冠履倒置、嬰竊爲君不取也、夫先王之世、朝無幸官、野無幸民、今也賤工而有田祿、是幸民也、國之蠹也、君如不除之、將恐卒爲衛懿公、君盍省諸、景公弗聽、其後景公與魯君會于夾谷、齊令俳優侏儒戲于前、仲尼相魯君、於是趨進、歷階而上、不盡一等、曰、匹夫熒侮諸侯者、罪應誅、請右司馬速加刑焉、乃斬侏儒、首足異處、景公懼有慙色、退會、終身悔其不用晏子之言、白圭謂齊王曰、民、國之本也、不可不愛也、農、民之本也、最不可不愛也、臣竊觀大王之於民也、但愛商賈、而不愛農、非所以固國也、竊爲大王不取也、王曰、先生之言何謂也、寡人雖不肖、亦嘗受師傅之訓、幸不爲天所廢、纘祖宗之緒、踐阼而臨百姓、日夜思視民如傷、愛之如子、寡人以爲愛民一而已、豈有差等哉、故寡人

之於レ民也、農乎愛レ之、工乎愛レ之、商賈乎愛レ之、一視同仁、無レ所二厚薄一、今先生謂下寡人但愛二商賈一
而不上レ愛レ農、豈有レ說乎、白圭對曰、大王誠有二愛レ民之心一、而愛レ民之政、未レ徧二於邦內一、是以百里之外、
愁苦之聲未レ絕、臣請爲二大王一言レ之、願大王無レ怒、而使二臣得下盡レ言幸甚、夫民莫レ勞二於農一、莫レ利二於商
賈一、農人以レ田爲レ生、竭レ力耕作、年穀熟、則得レ食、年穀不レ熟、則不レ得レ食、糴貴則得レ利、糴賤則
失レ利、是食與レ利、二者得失、一懸二于天一、一懸二于政一、雖レ有二智者一、不レ能レ取二必於己一也、商賈以レ貨爲
レ生、盡二心廢居一、與レ農代食、糴賤、則凋易二於生一、糴貴、則貴二其貨一、可二以敵下穀、是其爲レ生也、樂歲則
固飽、凶年亦不レ饑、矧乎商賈好用レ智、儲蓄以待レ乏、乘レ急而增レ價、上之人發レ政以制レ之、則逃亡隱
匿、以避二其害一、機變百出、無レ有二端倪一、欲レ誅レ之、則不レ可二勝誅一也、酷吏不レ能レ禁レ之、仁人不レ能
レ懷レ之、故商賈之於レ利也、豐年亦得、凶年亦得、治亦得、亂亦得、神禹所レ不レ能二與鬭一レ智、計然所
レ不レ能二與爭下利也、是以商賈不レ待二上之人利下レ之、而無レ不レ利、若二夫農一則不レ然也、年凶則食不レ足、
糴賤則用不レ足、治則役、亂則役、國家有レ事、而農無レ不レ役焉、且虐政所レ行、暴斂所レ加、必先於レ農、
豈不レ哀哉、夫民之事、莫レ艱二乎農一、利莫レ薄二乎農一、故明君之愛レ民也、必先利レ農、於二商賈一則平二其政一
而已矣、今大王之愛レ民也、特慢二法令一、輕二刑罰一、時施二小惠一、以取二其悅一耳、夫呿レ口而呴、不レ若レ向二
太陽一、抱レ甕而溉、不レ若レ遇二時雨一、故小惠、非二王者所一レ行也、今齊國之民、悅二大王之政一者十二三、而
不レ悅者十七八、以三其居遠二國都一也、有司不二聞知一、王亦不レ恤也已、臣是以云、王曰、先生謂吾於レ士

奚若、白圭對曰、亦猶於農也、夫士、食君粟者也、飲食之餘、以易貨財、所以足用也、故糴貴則饒於用、糴賤則乏於用、故善治國者、執輕重之權、以平糶糴、貴不至害工賈、賤不至害士農、今齊國糴賤非一歲、士之奔走於職事過甚時、然而大王曾不恤之、此怨望之所由生也、臣恐一旦有故、羣士解體、竊爲大王殆之、王曰、善

文侯問第十

文侯問於李悝曰、夫子嘗言治生、寡人未聞其說、敢問治生何道之以、如寡人者、亦可以治生乎、李悝對曰、然、有是言也、自天子以至於庶人、未有不治生者也、夫匹夫之治生也、止俾其身無饑寒之患而已、衆人之治生也、不過使父母妻子、無饑寒之患耳、士之治生也、必使家人奴婢皆有常衣食、各服役其事、然後可以奉其祭祀也、而養父母、畜妻子、不足道也、卿大夫之治生也、車馬僕從器械備、以承國事、以保其田邑、以守其宗廟、則畜家人奴婢、不足道也、諸侯之治生也、愛養百姓、令士民各得其所、然後修其職貢、以事天子、犧牲肥腯、粢盛豐潔、以承祭祀、固其封疆、以守社稷、而卿大夫之事、不足道也、天子之治生也、正百官、修禮樂、令萬物各遂其生、兆民各得其所、然後威德並行、四夷不侵、海内乂安、而諸侯之事、不足道也、夫生一也、治之之道、大小不同耳、君獨如何得不治生乎、文侯曰、大哉言、願聞其詳、李悝曰、夫

布價貴於粟、帛價貴於布、金價貴於帛、玉價貴於金、故以價言之、則金玉與布帛、與粟米、其貴賤不敵、固非可同日而論也、是以天下之人、知金玉之爲貴而已、夫人之患、莫急於饑寒、寒之於衣、不待輕煖、饑之於食、不待甘旨、饑寒至身、不顧廉耻、人一日不再食、則饑、終歲不爲衣、則寒、夫饑不得食、寒不得衣、則雖慈母、不能保其子、君安能以有其民哉、夫金玉者、饑不可食、寒不可衣、爲物雖貴、無用於饑寒、是何足貴哉、然而衆貴之者、以上之人好用之故也、其爲物也、輕微易藏、在於把握、可以周海內而無饑寒之患、此令臣輕背其主、而民易去其鄉、盜賊有所勸、亡逃者得輕資也、粟米布帛、生于地、長于時、聚于力、非可一日成也、數石之重、中人弗勝、不爲姦盜所利、一日不得、而饑寒至、是以明君貴五穀、而賤金玉也、故金玉者、賢聖所賤、而愚人所貴也、愚人不達物情、以爲有金玉可以得衣食、殊不知有金玉可以得衣食者、語常者也、即有凶年、五穀不登、布帛不成、及天下擾亂、諸侯力爭、商旅不通、鄰國閉糴、則雖有金玉、焉所得衣食乎、當其時、雖累鉅萬、何益於饑寒哉、是金玉果寶邪、非邪、雖人民所同貴、曷若布帛之冒寒、粟米之療饑乎、然則莅國長民者、不可不審取舍之機也、夫民之好惡、從上之好惡、民無智愚、靡不惡饑寒、而不知貴粟、不察乎金玉之饑不可食、寒不可衣、舍此取彼、豈惟吒之愚哉、上之所好尚、而下民效之爾、故賢聖之君、必貴五穀、而賤金玉、貴五穀在尊農夫、賤金玉在卑商人、夫民農爲上、商賈爲下、今

肖之君、賤穀而貴貨、貴貨、故商人兼幷農人、賤穀、故農人流亡、此危亂之由也、農何君之讎、商何君之親、是謂惡其所愛、愛其所惡、夫士、受穀於君者也、農、出粟於田者也、方今不肖之君、賤穀而貴貨、是以穀皆入於商賈之藏、君之倉廩、尙不蓄粟、況士人乎 而況農人乎、夫如是、而一旦有變故、將何以守國乎、神農之教曰、有石城十仞、湯池百歩、帶甲百萬、而無粟弗能守也、是故國無九年之蓄曰不足、無六年之蓄曰急、無三年之蓄曰國非其國也、由此觀之、有國家者、何可以無蓄粟乎、故守國之要、在於蓄粟、蓄粟在於貴穀、穀貴而農尊、穀貴而人歸農、穀貴而士富、穀貴而貨賤、穀貴而倉廩實、穀貴而國用足、夫貴穀之利如此、有土之君、何不務諸、今者自邦君以下、貴貨而賤穀、民視粟如土芥、舍旦暮所食、其餘盡以易貨、擧國之粟、藏在商家、商人逐利、豈爲國家計哉、舟車所通、苟可以牟利、則莫不傾藏轉漕、以糴于他邦、當斯之時、有土之君、欲有一年之蓄、且尙不可得也、又焉有三年六年之蓄乎、此乃危之道也、臣故曰、王侯之治生、在於蓄粟、而蓄粟在於貴穀、願君少留意焉、文侯曰、善哉、然則如之何、李悝曰、臣所謂貴之者、非貴其價之謂也、夫穀價太貴、則害工商、太賤、則害士農、貴不害工商、賤不害士農、是爲平價、價平而四民安、然必上下知貴穀、而後其價可得而平也、不則其價日賤、一日、何以平乎、故平糴、所以利四民、而所以保國家也、文侯曰、善哉、桓公問於管子曰、糴賤、寡人恐五穀之歸於諸侯、寡人欲爲百姓萬民藏之、爲此有道乎、管子對曰、乃者夷吾過市、

有新成囷京者二家、君請式璧而聘之、桓公曰、諾、行令半歲、萬民聞之、舍其作業而爲囷京以藏菽粟五穀者過半、桓公問曰、此其何故也、管子曰、成囷京者二家、君式璧而聘之、名顯於國中、國中莫不聞、是民上則無功顯名於百姓也、功立而名成、下則實其囷京、上以給上爲君、一舉而名實俱在也、民何爲也、管子遂言曰、滕魯之粟釜百、則使吾國之粟釜千、滕魯之粟、四流而歸我、若下深谷者、非歲凶而民饑也、辟之以號令、引之以徐疾施平、其歸我若流水、夫五穀者、萬物之主也、穀貴則萬物必賤、穀賤則萬物必貴、兩者爲敵、則不俱平、故人君御穀物之秩、相勝而操事於其不平之間、故萬民無籍、而國利歸於君也、夫以室廡籍、謂之毀成、以六畜籍、謂之止生、以田畝籍、謂之禁耕、以正人籍、謂之離情、以正戶籍、謂之養贏、五者不可畢用、故王者徧行而不盡也、故天子籍於幣、諸侯籍於食、中歲之穀、糶石十錢、大男食四石、月有四十之籍、大女食三石、月有三十之籍、吾子食二石、月有二十之籍、歲凶穀貴、糶石二十錢、則大男有八十之籍、大女有六十之籍、吾子有四十之籍、是人君非發號令收嗇而戶籍也、彼人君守其本委謹而男女諸君吾子無不服籍者也、一人廩食、十人得餘、十人廩食、百人得餘、百人廩食、千人得餘、夫物多則賤、寡則貴、散則輕、聚則重、人君知其然、故視國之羨不足、而御其財物、穀賤則以幣予食、布帛賤、則以幣予衣、視物之輕重、而御之以準、故貴賤可調、而君得其利也、夫所謂君之利者、非上擅其利之謂也、以民利爲利之謂也、夫君者、父母也、民者、子也、未有子富而父母貧者也、且

利、人之所同欲也、小人之好利、甚於君子、如不先利民、而上之人務自利、則民怨其上如讎敵、君焉得獨享其利乎、是故利國莫若利民、利民必自農始、古之道也、管子曰、一農不耕、未見其損、而民或爲之饑、一女不織、亦未見其損、而民或爲之寒、故事再其本、則無賣其子者、事三其本、則衣食足、事四其本、則正籍給、事五其本、則遠近通、死得藏、今事不能再其本、而上之求焉無止、是使姦塗不可獨行、遺財不可包止、隨之以法、則是下艾民、食三升、則鄉有正食而盜、食二升、則里有正食而盜、食一升、則家有正食而盜、今操不反之事、而食四十倍之粟、而求民之毋失、不可得矣、且君朝令而求夕具、有者出其財、無有者賣其衣屨、農夫糶其五穀、三分價而去、是君朝令一怒、布帛流越而之天下、君求焉而無止、民無以待之、走亡而棲山阜、持戈之士、顧不見親家、族失而不分、民走於中、而士遁於外、此不待戰而內敗

物價第十一

天下之物、有定價邪、無有邪、今夫南方之人、飯稻粱如辨麥、恒代部人得之、以療腹疾、北地之人、視氈罽如布帛、荊揚富人得之、以飾車馬、南人所輕視、而北人重之、北人所輕視、而南人重之、凡物皆然、賤於此、則貴於彼、賤於彼、則貴於此、物土之宜、民性之殊也、寡則貴、多則賤、物之饒乏、人情之變也、上之所好、民亦好之、上之所惡、民亦惡之、好之者多則貴、惡之者多則

賤、故齊桓公衣紫衣、而國中紫貴、惡紫臭、而國中紫賤、景公之時、國多刖者、而踊價貴於屨、楚國大疫、而棺價三倍、凡民俗所好、其物必騰躍、由是觀之、物爲有定價乎、上之人苟爲之輕重、以低昂之、則物之貴賤、在其掌握而已、又何利害之足道乎、夫商賈者、以利爲生者也、商賈之於國、不可無者也、萬貨不自行、待商賈而行、商賈之行貨也、乘時射利、其智如神、買賤賣貴、不必厚利、錐刀之末、必審得失、寧留不售、毋折其本、商賈之趨利也、速乎飛矢、商賈之爭利也、父不能止子、子不遑顧父、其用智也、道術之士、且不能及焉、其行險而弗懼也、雖賁育、且不能過之、夫商賈之從事於貨利如此、其用心如此、若之何可與爭乎、是故上之人與商賈爭利、而能勝之者、自古以來、未之有聞也、設之峻法、錯之嚴刑、以防其姦、而終莫之能懲、徒以速其亂耳、故上之人與商賈爭利、則天下之利、盡歸商賈、國用之所以不足、朝士之所以貧窮、職此之由、不可不知也、然則如之何、可以令商賈無擅其利乎、曰、上之人絕其利心而已矣、上無利心、則利權歸上、此自然之勢也、何謂利權、輕重貨物、而低昂其價、謂之利權、利權在上、則物之輕重、唯上所爲、商賈末如之何、利權在下、則商賈競牟其利、上亦末如之何、是故昔者管仲之治齊國也、無與民爭利、視貨物之輕重、而低昂其價、賤則增價買之、貴則減價賣之、務平其價而已、當是時也、雖有富商大賈、不得占其利、朝士農工、無失其利、豈不善哉、處子曰、輕重者、治國之大權也、人主之所秉也、爲政而無權、雖小國、且猶不

可治、況大國乎、凡君、執生殺之權者也、苟手斯權以莅民、何賞罰之不可行哉、雖今之治
國者、豈獨不能行賞罰於民哉、夫其爲政、靡不患物價之不平、靡不嫉商賈之擅利、而莫
能治之令平者與民爭利也、所謂與民爭利者、豈欲奪而取之哉、特恐有損於己耳、夫利、百
物之所生也、天地之所載也、人民之所同欲也、今欲禁商賈之擅利、而求無損於己、豈可得
與、若此者、其求利無以異於商賈、斯之謂與民爭利、夫人靡不好利、而民之爲甚、民之於
利也、如饑之從食、如渴之從飮、前不避水火、後不顧刀鋸、廉耻禮讓、不在厥心、君子若之
何可與爭乎、夫殺生予奪、政之柄也、人君所執也、今欲禁民之牟利、而奪之以自予、是虐民
也、利不可勝奪、而及國家、不亦痛乎、故善爲政者、欲禁民之牟利、必先自損、上自損則、下無
間言、然後殺生予奪、唯上之所行、雖有狡猾之吡、不得運其籌筴、此謂利權在上、夫上之人執利
權以御下、則萬貨唯其所輕重、何患物價之不平哉、此管仲之所以治齊國、而輕重之術所由設也、
君子曰、國不以利爲利、以義爲利、易云、利者、義之和也、故明君以百姓之利爲國之利、不患
不利、而利歸于上、不明之君、圖國之利、而不恤百姓之病、雖得利乎、禍亦隨至、若然者、其與
商賈、何別乎、可謂愚矣、夫百貨生于土地、行于商賈、而輕重由人、今也上失其政、而輕重之權在
下、是以諸物之價、乍貴乍賤、低昂無常、損益反掌、於斯之時、唯商賈占其利、而它多被害、此豈
非當路之恥與、凡民必有黨、而工商最能相結、所以占利也、今之爲政、不能破民黨、而欲禁

其占レ利、是猶下卻步而欲上求三及二前人一也、不レ可レ得已、故爲レ政而欲レ平二物價一者、利權在レ己、又用二其威一以破二民黨一、夫既執二利權一、又能破二民黨一、然後物價可二得而平一矣、苟不レ達二斯術一、徒患二物價不一レ平者、雖下日出二號令一、月戮中其弗レ從者上、則貴者彌貴、賤者彌賤、百姓愁苦、國用匱乏、而天下之利、畢歸二商賈一、此商賈之所二以致一レ富也、夫涖レ國者、豈仁二於商賈一、而不レ仁二於其它一哉、惟其爲レ政無レ術、是以國家不レ均爾、由レ此觀レ之、輕重之術、不レ可レ不レ學也、桓公問曰、輕重有レ數乎、管子對曰、輕重無レ數、物發而應レ之、聞レ聲而乘レ之、故爲レ國不レ能下來二天下之財一、致中天下之民上、則國不レ可レ成也、桓公曰、今傳載十萬、薪菜之靡、日虛二十里之衍一、頓戟一譟、而靡幣之用、日去二千金之積一、久レ之且何以待レ之、管子對曰、粟價釜四十、則金價四千、粟價釜四十、(豆四升爲レ豆)(釜左傳、豆區釜鐘注四升爲レ豆、各自其四以登於レ釜)則鍾四百也、十鍾四千也、二十鍾者爲二八千一也、金價四千、則二金中二八千一也、然則一農之事、終歲耕二百畝一、百畝之收、不レ過二二十鍾一、一農之事、乃中二二金之財一耳、故粟重而黃金輕、黃金重而粟輕、兩者不二衡立一、故善者重二粟之價一、釜四百、則是鍾四千也、十鍾四萬、二十鍾者爲二八萬一、金價四千、則是十金四萬也、二十金者爲二八萬一、故發レ號出レ令曰、一農之事、有二二十金之筴一、然則地非レ有二廣狹一、國非レ有二貧富一也、通二於發レ號出一レ令、審二於輕重之數一然、桓公憂二北郭民之貧一、召二管子一而問曰、北郭者、盡屨縷之甿也、以二唐園一爲二本利一、爲レ此有レ道乎、管子對曰、請以令レ禁下百鍾之家、不レ得レ事レ鷸、千鍾之家、不レ得レ爲二唐園一、去レ布三百步者、不上レ得レ樹二葵菜一、若レ此、則空間有二以相給資一、則北郭之甿、有レ所レ讐二其手搔之功一、唐園之利一、故有二十倍之利一、桓公曰、齊西水

潦而民饑、齊東豐庸而糶賤、欲下以二東之賤一被中西之貴上、爲レ之有レ道乎、管子對曰、今齊西之粟釜百泉、則鏂二十也、齊東之粟釜十泉、則鏂二泉也、請以令下籍人三十泉得中以二五穀菽粟一決中其籍上、若レ此、則齊西出二三斗一而決二其籍一、齊東出二三釜一而決二其籍一、然則釜十之粟、皆實二於倉廩一、西之民、饑者得レ食、寒者得レ衣、無レ本者、予二之陳一、無レ種者、予二之新一、若レ此、則東西之相被、遠近之準平矣、管子曰、五穀食米、民之司命也、黃金刀幣、民之通施也、故善者執二其通施一、以御二其司命一、故民力可二得而盡一也、善正商任一者省二有肆一、省二有肆一、則市朝閑、市朝閑、則田野充、田野充、則民財足、民財足、則君賦斂焉不レ窮、今則不レ然、民重而君重、重而不レ能レ輕、民輕而君輕、輕而不レ能レ重、天下善者不レ然、民重則君輕、民輕則君重、此乃財餘以滿二不足一之數也、故凡不レ能レ調二民利一者、不レ可三以爲二大治一、不レ察二於終始一、不レ可二以爲一至矣、

良卜第十二

良卜不二必多福一、良醫不二必康健一、儒師不二必篤行一、若二此類一者、皆知レ爲レ人、而忘レ修レ己者也、豈不レ悲哉、屠者羹藿、爲レ車者步行、陶者用二缺盆一、匠人處二狹廬一、爲者不レ得レ用、用者弗二肯爲一也、客有乙爲二燕王一言下爲二不死一之方上者甲、王使二人從而學一レ之、未レ卒レ業而客死、王恨三其不二蚤聞一レ之、夫人所レ急、無レ如二其身一、不レ能下自使中其身一無上レ死、焉能使二王長生一哉、燕王不レ知二客之欺一レ己、而恨二聞之晚一、不二亦愚一乎、宋

有居士魚輒者、以富國之術干景公、景公召見而問之曰、子有田園乎、對曰、無有、然則子何業、曰、教授以給衣食、景公曰、子家人幾口、曰、一母一妻三子、與臣六口、景公曰、子能衣食之、俾其無匱乎、曰、未能也、景公曰、寡人聞之、天下之本在國、國之本在家、今子未能爲家、而爲寡人言富國、不亦末乎、魚輒曰、不然、凡人智有小大、才有短長、臣之不能爲家、才之所短也、能富國、才之所長也、君亦安知臣之智、非不可小事而可大事邪、昔者伊尹、耕夫也、相湯王天下、傅說、胥徒也、相高宗爲政於天下、太公、漁者也、遂師文武興王業、管夷吾、貧士也、相桓公富國彊兵、爲五霸之首、百里奚、養牛卒也、相穆公霸西戎、此五賢者、其智皆不可小事、而可大事也、君盡察諸、且君獨不見夫弈者乎、當局者迷、旁觀者明、士雖賢、而或不能自行者、爲私所牽也、其苟以大心行公事、安所用其私與、此賢士所以能濟大事也、君奚謂之末乎、君又不見夫爲醫者乎、雖弗能自已其疾、而能治人疾、是其有所見而然也、臣生長于君國、而觀君國事、非一日也、政之得失、民之利病、臣悉知之、夫醫者診察以知人身五臟之癥結、故難事也、醫尚能之、賢者觀政而知其得失、豈難事哉、臣雖不賢、亦知宋國之所以貧、與所以富之之術也、是以云、願君少留意焉、景公曰、善、吾平公之時、藏寶之臺燒、士大夫聞者、驅車馳馬救火、三日三夜、乃勝之、公子晏獨束帛而賀曰、甚善、平公勃然作色、曰、金玉之所藏也、國之重寶也、而天火之、士大夫皆驅車馳馬而救之、子獨束帛而賀、何也、有說則生、

無說則死、公子晏曰、何敢無說、臣聞之、王者藏於天下、諸侯藏於百姓、商賈藏於篋櫃、今百姓褔褐不蔽形、糟糠不充口、虛耗而賦斂無已、君收大半、而藏諸臺、是以天火之、且臣聞之、昔者桀紂殘賊海內、賦斂無度、萬民甚苦、是故湯誅之、爲天下戮、今天降災於藏臺、是君之福也、而不自知變悟、臣恐君之爲鄰國笑矣、平公曰、善、自今以往、請藏於百姓之間、荀子曰、王者富民、霸者富士、僅存之國富大夫、亡國富筐篋、實府庫、公子晏其達於斯乎、天下之人、靡不欲富貴、常人見富貴者必羨之、而不知求所以富貴、愚哉、夫臨河而羨魚、不如歸家結網、徒羨無益耳、夫求富莫善於治生、求貴莫善於修德、生者、天祿也、德者、天爵也、二者求之則得之、不求則不得、梁丘據謂晏子曰、吾至死不及夫子矣、晏子曰、嬰聞之、爲者常成、行者常至、嬰非有異於人也、常爲而不置、常行而不休者、故難及也、晏子誠力行者哉、夫錙銖雖微、積之至於數石、將折衡、如以錙銖爲微、而輕之者、不能治生、以小善爲不足行者、不能成德、荀卿曰、蹞步不止、跛鼈千里、累土不輟、丘山崇成、適燕者北向、適越者南向、擧趾啓行、取路不多、一日進一日、雖有遲速、皆能極焉、進而不息者如是、愚者初不知治生、怠惰安佚、費用無節、及其窮乏也、奔走乞貸、幾死求活、譬如渴而鑿井、饑而種粟、不亦晚乎、非唯匹夫爲然、雖有國家者亦然、詩云、我有旨蓄、亦以禦冬、婦人在室、尚能爲禦冬之儲、君子而不知禦窮、可謂智乎、昔者明王以天下爲一家、視百姓如子、視羣臣如手

足、有一夫不得其所、則君、爲之弗豫、百姓有愁苦者、憂之如憂子疾、臣下有乏困者、皆知其痛、荀卿曰、君者、何也、能羣也、能羣也者、何也、善生養人者也、善班治人者也、善顯設人者也、善藩飾人者也、是故明王、以百姓之憂爲憂、百姓之樂爲樂、豈唯王者哉、古之賢相亦然、伊尹之相殷是已、伊尹既爲阿衡、思天下之民、匹夫匹婦、有不被堯舜之澤者、若己推而內之溝瀆、天下有饑者、猶己饑之也、有凍者、猶己凍之也、豈唯伊尹哉、禹稷而下、誰獨不然、今有滿堂飲酒歡者、有一人獨索然向隅而泣、則一坐爲之不樂矣、若一家之長、見其家人有疾苦者、不爲傷心、非人也、夫一家之長、見其家人有疾苦者也、莫不爲傷心者、近而親睹之也、人主而不知百姓之疾苦者、遠而不親睹之也、夫一家之長、非必仁者、世主非必不仁者、然而其中情不同、如是者無它、親睹之與不耳、是故昔者先王、巡狩以省方、陳詩以觀風、納賈以觀民之所好惡、因以行黜陟之政焉、猶以爲未足也、時復遣使者、問民所疾苦、務爲民興利除害、當斯之時、朝無諛言、民無飾政、天下熙熙、如春登臺、安有不得其所者哉、後世則不然、百姓困窮、愁苦之聲振野、而君不欲聞之、有司知之、而弗敢以聞、諛言盈朝、動輒呼萬歲、災妖見於天地而弗驚、盜賊充斥、而弗以爲患、君耽樂於上、臣偸安於下、苟利目前、而不慮國家之難、三季之世是已、當斯之時、雖使聖人治之、亦未如之何、至於滅亡而後已、豈不哀哉、詩曰、如彼泉流、無淪胥以敗、此之謂也、昔者明君制民之產、使其仰足以養父母、俯足以畜妻子、制士

大夫之祿、使其公足以奉宮職、私足以守祭祀、外足以治隣里鄉黨、內足以得家人歡心、當是時也、百姓和睦、四民樂業、家給人足、上下無怨、倉有餘粟、府有餘財、物有定價、器有定制、姦宄不作、盜賊屛迹、荀子曰、足國之道、節用裕民、而善藏其餘、此明君之善治生也、夫然、故人主日享太牢、舉以樂、而民不以爲泰、相與稱願焉曰、吾後庶幾無疾病與、何以能燕樂也、其詩曰、樂只君子、遐不黃耇、樂只君子、保艾爾後、不肖之君反是、民怨之如仇讐、相與祝詛不已、書曰、時日曷喪、予及女偕亡、此夏人所以詛桀之辭也、夫天不親命、俾民言之、民之所畔、天之所棄也、可畏也、故王者以民爲天、易云、天地之大德曰生、生其可不治乎、人而不治生、是謂悖天地之德、故匹夫不治生、則饑寒俄至、士不治生、則廢其事、而獲罪於君、卿大夫不治生、則不能保其家、國君不治生、則不能安社稷、天子不治生、則不能安四海、大哉生乎、生之爲大也、天下莫能當之人之所從事、孰非爲生、出乎爲生、入乎爲生、往乎爲生、來乎爲生、自天子以至於庶人、豈唯人哉、獸之走、鳥之飛、魚之游、蟲之行、亦唯爲生、夫生物未有不治生者也、唯人乎或拙於治生、或惰於治生、唯拙與惰、人之所以困於生也、故物鮮有不得食而餓者、人乃有不得食而餓者、是人不若物也、悲夫、昔者禹平水土、濟民、立功於天下、而天下歸心焉、身爲天子、子孫相承、數百年矣、契爲司徒、布五教於天下、開國於商、積德數百年、至湯代夏有天下、子孫保之、亦數百年矣、后稷教民稼穡、樹藝五穀、民始粒食、開國於邰、

積德千有餘歲、至文武代殷有天下、子孫保之、亦數百年矣、此三聖者、其治生也、可謂大矣、故治生之大者、其效不在近焉、三王之治生也、其立本豈不遠乎、故小治生者、其效近、大治生者、其效遠、不可不知也、若夫治生而索旦夕之利者、小人也已、君子務本、不圖近功、子夏問政、孔子曰、無欲速、無見小利、君子豈不欲速且利哉、蓋得之於旦夕者、失之亦於旦夕、得之於遠時者、失之亦於遠時、不能無失、君子特惡其失諸旦夕耳、夫王業大事也、固以久遠而成、雖庶民之業、豈獨不然哉、今夫樹穀者、見利於一歲之內、樹木者、見利於十年之外、至於樹德者、見利於數十年之後、亦王業之似爾、易云、自天佑之、吉無不利、其斯之謂與、

衛君觀于蒲之野、見有一老父多栽苗松者、喘息拮据、衛君從而問之曰、老父罷乎、女奚以栽苗松爲、對曰、將以爲棟梁、衛君曰、老父年幾何、曰、八十有五、衛君笑曰、此松可成材、而老父能用之乎、老父輟栽、仰視衛君曰、樹木者、待用於百年之後也、君以爲必於其世用之邪、噫、君之言何不似有國者甚也、小人雖老耄幾死、獨不爲子孫計乎、衛君大慙、謝曰、寡人過矣、請師善言、因勞之以酒食、詩云、貽厥孫謀、以燕翼子、老父有焉、

産語卷下 終

產語跋

產語十二篇、不レ題ニ撰者姓名一、傳言出ニ於寧樂佛寺之古藏一、予則獲ニ浪華之市一レ、考自レ漢以來、歷代藝文經籍志、皆不レ載、書中所レ言、皆治レ生之事、而多錄ニ管晏李悝白圭等語一、儒家邪、抑法家邪、予不レ能レ定ニ其所一レ屬也、夫古書之逸ニ于中夏一、而存ニ于我日本一者頗多、如ニ古文尙書孝經一、其昭昭者已、誰知下此書非中管晏李白之徒所レ著、亦逸ニ于中夏一、而存ニ于我日本一者上乎、予特愛下其言レ治レ生之甚詳、而論ニ及國家之治一、有上益ニ於天下之人一也、於レ是手挍繕寫、藏ニ諸巾笥一、以爲ニ帷中之珍一云レ爾

日本　信陽　太宰純謹跋

太宰彌右衛門撰

寛延二年己巳秋九月

江都書肆文刻堂藏板

大坂心齋橋順慶町　澁川清右衛門

京堀川錦上ル町　西村市郎右衛門

江戸本町三丁目　西村源六

民家生要記

源　卯著

民家生要記叙

家貲充盈稱素封者、往々飾蹷痿之機、招寒熱之媒、設伐性之斧、用腐腸之藥、否者則守錢虜耳、此皆富而無仁義之行、圈中之鹿、欄中之牛亦奚擇焉、室如懸磬者、多冒至危以僥倖、遂至乎壞亂規度、否者則不免自縊溝瀆、此皆貧而無仁義之行、習習籠鳥、舉翮徒觸四隅也、然則貧富雖異、無仁義之行、則不能保其生也均矣、即使子孫無仁義之行、雖積金如山、亦將蕩然不能保矣、父訓以義方、師導以倫理、基本既建、然後繼業營產、儉而不嗇、朴而不鄙、勤而不惰、直而不欺、如此而不保其身者未之有也、齡既長、好兀坐讀書學詞藻、惡營家產者、與纖嗇射利、專志貨殖、蔑棄仁義者、並非舜之徒也、產語所述、固足以砭懶惰無賴之人也、而有矯枉過直、非聖賢指導之歸趣者、因發其端倪以爲叙

東海釣徒源卯題

民家生要記 卷之一

通俗鳥鷇篇

源　卯　著

天地萬物を生ず、非情あり、有情あり、非情を下とし、有情を上とす、有情の内にも昆蟲を下とし、鳥獸を次とし、人を上とす、人は萬物の靈にして、人より尊きはなし、今鳥の巣にあるをみるに、母に食を哺られて生長し、漸羽翼を生じ、巣起してより後は、自飲啄して、母の哺を待ことなし、牛馬の駒犢たる內は、母の乳を得て生長すれ共、其能自茹粥に至ては、母の養を得ざれ共、皆各食を求るの方を知らざる事なし、唯人の子たるや、生れて父母の懷にある事三年、父母の子に於るや、乳哺撫育の苦勞、人より甚しきはなし、人の子たる者、これを父母に受て、生長することを得るなり、其上三年の外も猶且父母の食を食、父母の衣を衣、父母の家に處、段々成人するに及て目見る事あり、耳聞ことあり、手能ものを把握、足能步行、口能言語、肩能擔、背能負、一身百體成ざることなし、何處一ツ、人に劣ず、生立と云は、父母の恩大ならずや、ヶ樣に人に仕立られたるからは、人の子たるもの、我身の業は、自ら心がくべき事なり、然るに猶且父母の食を食ひ、父母の衣を衣、父母の家に

處、大切なる口を曠く暮し、自ら我身を養ふことあたはず、仰て父兄に養るゝと云は、豈悲からずや、何ぞ鳥獸は智あつて、人は却て不智なるぞや、是まことに怍べき事也、人の食物に於る、是を得れば生、これを得ざれば死す、業は人の生る處のもの也、人の業亦一色ならず、或は力を以てし、或は事を以し、或は功を以し、或は德行を以し、或は先祖の家督を以し、或は主人有て、知行扶持を以てす、此六のもの食を得るの道なり、其内にも先祖の家督有て口を餬すと、位牌知行を守て渡世するとの二ツのものは、己が器量と云ものにあらず、幸に天の祐と云ものなり、其外は皆我これを求るに非ざることなし、人悉く先祖の家督知行あるものにあらず、其外は銘々何なり共其爲處の業をなせば、食を得、爲ざれば食を得ず、今夫一身百體滿足に父母に產付られて、人に劣る事もなき身を持て居ながら、手足の勤を爲さず、野郎〳〵と暮し、人に養れて、年月を送ると云は、有まじきことなり、自分勤の成がたきものを、鰥寡孤獨癈疾の者と云、老て妻なきを鰥と云、老て夫なきを寡と云、幼少にして父なきを孤と云、老て子なきを獨と云、手足の立ぬ病人を癈疾と云、苟に鰥寡孤獨癈疾のものに非ずして、乞人と其行を同すと云事は。口惜きことにあらずや、鳥獸も自ら食を求る事を知るに、萬物の靈たる人に生れながら、鳥獸に劣と云は、怍しきことにあらずや、故に自口を餬ことを知ぬと云は、これより大なる恥はなきなり、求ても得ることあたはずと云は。千萬人の一人にして、天命なれば是非に及ばず、若求ずして口すぎの有と云は、こぼれ福と云ものにて、誠の福にあらず、凡天下に生れ人

民食する道を爲ずして可べきや、是故に上天子より、下庶人に至る迄、業無ば有べからず、故に業なくして食を素餐と云、素餐は君子の惡む所也、故に詩に彼君子素餐せずといへり、小人にして素餐すれば、罪を君子に得、君子にして素餐すれば、罪を天に得るなり、孔子の言に曰、罪を天に得れば禱る所なしと、其畏ざるべけんや、稷丘丈人其子に敎るは、手にて糞水を受るにあらずんば、善農人とは成られず、筋脈を斷切ほどに無れば、善細工人とは成られず、肩や背をすりむく程になければ、善賈人にはなられず、死地を蹈程の動をせずんば、善士にはなられずといへり、夫勞すれば其食を甘じ、事有れば其居を安ず、故に人必饑て後食を求ることを知り、寒して衣を求むることを知り、困窮して後業の大切など云ことを知り、艱難を經て後身を修ることを知る、大底賢智の者と雖ども、饑寒困窮をせぬさきには、業の大切など云ことを知る者鮮し、故に饑寒困窮は人の身を善する所のものなり、貧賤憂苦は汝を成に玉にすとは此を謂なり、夫貧賤憂苦の惡むべきを知而後、能貧賤憂苦の惡むべからざることを知べし、貧賤憂苦は如何なる物と知ざる者は、當時貧賤憂苦せずと雖、終には必貧賤憂苦の惡むべきことを知時は、最早既に暮矣、故に患至てこれを救は、患の至ぬ前にこれを防の裕なるに如ず、人の患色々ある中にも、饑寒ほど身に切なるものはなし、故に人の第一に思覺すべき事は、業より先なるはなし、一日業を怠れば、その損目にはみえねども、これを積れば必一日の饑寒あり、若一日饑寒の忍られぬことを知ば、何ぞ一日も業を怠るべけんや、是故に天子は、萬機の政を以

て業とし、諸侯は一國の政を以て業とし、大夫は其官職を以て業とし、諸士より以下、農工商賈巫醫樂師百行の人、何れによらず、其業をなさては叶はぬものなり、若業をなせども、それで渡世のならぬと云は業の罪にあらず、作者の不勤不勢なる故耳。然れども人と生て、父あり母あり、兄弟あり、親戚有、耳目鼻口手足具り、一ッとして人に劣ぬ樣に產付られながら、成すべき業をなさず、鰥寡孤獨癈疾のものと同前に、人の養を受と云は口惜きことに非や、曹儕勉むべしと稷丘丈人の子に敎られたるを、段干子と云人の聞れて、言るゝ樣は、さて〳〵善も敎へらるゝもの哉、夫鳥の雛の時、母これに食をあたへ、牛馬の駒犢たるとき、母これに乳をあたゆれ共、其能自ら食を求むるに及ては、其母復此に乳哺せず、され共其子自分に食を求て饑る事無し、唯人の子に於るや、いつまで父母の養を受ると云かぎりもなく、年三十に成ても自覺悟する事もなくて、浮々と暮す內に、其賴所の父母死するときは、遂にすべき業も知ぬ故に困窮に至る、これ一槩に子の罪耳に非ず、亦父母の過辭すべからず、邯鄲に東門般と云る大賈有、家僮千人余もつかひ、榮花比類なし、姬妾數多召抱へ、長夜の飲をなし、舞妓數十人、日夜歌舞をなし、藝者牽頭の類側を離れず、酒宴遊興にて年中を暮しけるが、年五十にして子もなかりしが、腎虛內傷の故にや、俄に吐血數升にして死す、其跡妻妾財寶を爭、公事に成、僮僕も離散て遂に滅亡に及たり、其頃晉陽と云處に、張穀と云富家あり、世大百姓にして、田畑國中に徧く、財寶充滿て、何萬と云を重ね、牛馬は何程有と云數も知れぬほど也、外へ出れば騎馬をな

らべ、入ては則鐘をならし鼎を列て食、一藝に名ある者、聚らずと云こと無し、張穀幼少より專ら文學を好み、博識にして詩を善作り、文章を巧にかき、諸藝其妙を極む、其上辯舌もよかりければ、如何なる貴人高家にても、此者に逢給ふ時は、これが爲に容儀をとゝのへ、禮を述べ給ふほどなり、年三十になれ共、耕作の道を知らず、其妻范氏亦富家の女なり、紡績をしらず、日夜琴を鼓て歌ひ樂む、張穀が父死て未十年も立ぬ內、家內亂れ、家僮奴婢の輩互に竊盜、多くの田畑も賣拂ひ、遂には其妻と偕に前方出入したる、故人の處に養はれて一生を送れり、東門般は酒色に淫て其世を絕、張穀は文藝に淫れて以て其家を喪ふ、其由る處同じからずといへども、其愚人たることは同じ。鄕黨老父是を以て其子弟をいましむ、然るに世人東門般をのけものにして、張穀をあわれむは何事ぞや、譬ば爰に人あり、家僮二人に命じて庭の暴魚を守らしむ、其一人は酒に沈湎して居眠り、又一人は俯て書を讀む、忽に隣家の猫來て其魚を銜て走る、又暫くして鳶來て其魚を攫て去る、沈醉の者覺ず、書を讀者驚て、周章卷を釋て起、睨て齒を切ると雖益なし、此二人其爲處は同からねども、其役目を失ふことは異なることなきが如し、計倪曰、生計は勤に有、家道は儉に有、勤は財を生ずる所以也、この儉は財を足所以なり、直に勤て儉せざれば財足ざることあり、直に儉して勤ざれば財共原なし、この二ツのもの片闕べからず、克勤克儉ならば、何れの業としてか治ざらん、諺に父糟糠を甘じ、子は膏粱に飽、孫は遺糧を拾ふと云へり、これ乃ち父憂勤して立身し、子は遊樂をなして身上を失ふことを

云なり、凡天の萬物を生ずるや、直に生じたるばかりでなし、必これを養ふことなければ成らぬものなり、唯天親養はず必是を地に屬、地も亦これを親養はず、物をして養はしむ、故に鳥獸魚鼈昆蟲の類迄、其養を得ざるものなし、況や人に於てをや、故に天地の人を養ふことも、萬物にすぐれてあつし、然れども人自これを薄するのみ、自ら薄する計に非ず、自ら天にそむかんとす、人自ら業を治めずして、饑寒困窮に至る時は、天地を咎めて、天地我を養はずと云、これ天地を謾すと云ものなり、天地を謾すと云より大なる罪はあるべからず、天地は父母の如し、父母の心敢て子を愛せざらんや、然れども其子の生を遂ると遂ざるとは、子に有て父母にあらず、范中行氏は、世晉の卿相たり、其子孫齊の國へ來りて百姓となれり、此豈に父母の願ならんや、故に能父母の德を奉じて、早く業を自とるものは丈夫なり、能天地の德を奉じて、自養を資ものは天地の孝子也、易に曰、「天行健、君子以自彊不レ息、」君子天に則て行ふ所以也、夫天行健而息ず、是以能萬物を生ず、君子自彊てやまず、是以能其德を成す、民勤動息まず、是以能其事を成す、故に業を勤めて立身するものは、必勤めをおこたらぬからなり、暫勤めて怠るものは其利を失ふ、勤ざる者は饑寒並至、曹儕心得べきことにこそ

民家生要記　卷之一　終

民家生要記 卷之二

通俗琴乙傳

梁に琴乙と云貧民有り、年三十になれども未だ妻を娶ることもあたはず、そこはかとなく暮しけるが、常に思やうは、適人間に生れながら、ヶ樣に貧しき渡世にて、人らしき事もならぬと云は、口惜しき事なり、何卒富を得て心易く暮さばやと思ふ處に、其頃三川と云所に、賓叔と云大福長者有り、此者本は酒肆の杜氏なりしが、いかなる運命にや、段々次第に立身して、夥敷金銀を積蓄へ、內々のくらしは高家大名にも埒有さまなりと、何國の人も聞及ぶほどなれば、琴乙心に思ふやうは、吾も人也、爲事有る者は皆是有べし、富を求るには、何とぞ仕方の有べき事也、往きて尋ねばやと心付、僅の路金を用意し、遙々と賓叔が住居する里へ往けるに、最早彼が里へ程も近くなりて、遙に賓叔が館を見れば、高門岡の如に立並たる居宅は、大名高家の屋形の如く、朝炊の煙の立昇るは雲の如く霧に似たり、既に其閭に入れば、馬車引集ひ、其門に造れば、賓客貴賤男女の出入る者、肩を駢べ踵を接て、中々卒忽に言入べき事もならねば、彼が門前を徬徨踟躕すれども、敢て入ことも叶はず、容を斂め手を拱て、

門前に立つ事三日三夜なりしかば、門番の者怪み訝て云やうは、客何爲者也にてましますぞやと尋ねければ、琴乙答て云やうは、某は大梁の琴乙と云者なり、御主人賓君は世の營に御功者にて、斯御身柄にも成たまふと承り傳へ侍れば、何とぞ一度御目にかゝり、御示をも承け申さんと、遙々の處を來たれ共、宜しき傳もなく侍れば、御門前に彳待こと三日三夜なり、御自分達何とぞ吾が志をあわれみ、此由を賓君に傳へ給りてむやと、わりなくも頼ければ、門番も輕忽なる事とは思へども、彼が志の切なるに感じて、成程其由申入むとて、取次を以て此由を賓叔に告げれば、賓叔不思議の事に思ひ、家童に命じて西廂に誘ひける、琴乙風呂敷より小鴨一羽取出し進物となし、玄關に跪づき侯居たりしに、暫くして賓叔出ぬれば、琴乙早速禮儀をのべて愼み居たり、賓叔も答禮して云樣は、足下遠方より善哉(よくぞや)御出候もの哉、何と思しよりての儀にやと問ふ、琴乙對て云やうは、某は大梁の鄙人にて侍ふが、不幸にしく蚤く父母を喪ひ、孤にして貧なれば、營むべき家業も侍ず、其日動(はたらき)にて口を餬候ふ、隨分無病に勤むれば、兎や角年を送候也、人の老少不定は天命なれば、短かしとても格別悔むべき事とも存ぜず候ふが、某存るには、適此世に生れ、某底の困窮なる渡世にて一生を終んよりは、淵川へ身を捨べきかと存じ候ふ、人と生れながら牛馬の行き倒れたるにかはる事なきと云は、悲むべき事にあらずや、民の生鮮死にしかざる久しと詩にも賦候ふによりて、某常々富ざれば人に非らずと存じ候ふ、如何なる國取大名にても尚貧を患へたまふ、況むや町人百姓にをいてをや、某常に町人百姓を觀

るに、富吾に十倍なればこれを敬ひ、百倍なれば畏れ憚り、千倍なれば下人同前に從ひ候ふ、夫天の人を生ずるや同く斯人なれば、吾何ぞ彼に劣るべきにはあらねども、今乃ち富めば則人を役し、貧ければ人に役使ふ、是何ぞ富の尙ぶべく貧の愍べきぞや、是に由て是を見れば人として長く貧賤ならば亦羞に足れり、然しながら物は求むるによつて聚るなれば、求ずしては得べき道理のなきはづ也、某貧を厭富を求めんと欲すれども、吾に一坪の田地もなく、一尺の布とても有ねば、我空手にて富を求めんと存ずるは、種を播ずして秋實を望むが如く、無益なる事とは固より存じて罷有れ共、貴公御立身の様子を承り候ふ故、是を以て遠路を辭せず、旅宿を重ねて來り、一たび御目にかゝり度願ひ候ふなり、今貴公某が不肖をきらはず逢たまへり、某が身にとり幸の甚しき此上もなき事なり、善き道は聞がたく、善き敎には逢難しと、兼々承り候ふ處に、此度不思儀の御緣にて、某御目にかゝり候は是天の時を得たりと云もの也、某此時を以て愚意を伸ずんば、身を終るまで亦ヶ様なる時節は有難きと存る故に、心底を殘さず申上候也、如何いたしたらば立身を仕るべきや、願くは敎へ給へ、賓叔が曰、善哉尋ねたもふ者哉、成程我等が存ずる所殘らず語り候ふべし、夫富を求るに何を家業にしたらば、立身すると極めたる仕方はこれなき者にて侍ふなり、貨は誰が持筈と定りたる主もなし、これを散せば則散る、功者なる者は聚め、不功者なる者は聚る事あたはず、然ながら貨と云もの、かりそめには聚まらず、聚まる時に至ては貨が貨を聚る者にて、必類從のするものにて候也、されども貨は養ひ難し、是を動

かすれば則耗、貨は保ちがたし、是を役ば則畔く、貨は長じ難し、是を玩べば則消、貨は守り難し、是を慢れば則亡、是故に貨を聚むるに道あり、貨を得ては是を馳走する事稀なる客を得たるが如く、是を尊ぶ事父の如く、是を親むこと母の如く、是に事ること君の如く、是を敬ふ事兄の如く、是を愛する事弟の如く、是を畜ふ事子の如く、是を信ずること友の如し、夫斯の如くすれば、貨の聚る事鳥の林に來り、獸の山にかへるが如し、夫既に聚まれば是を視る事、腫物にさはるが如し、あへて是をあらく役ふことなかるべし、隨分大切に藏置管鑰をば固くし、其これを用ゆるとき已む事を得ざるが如く、故有てつかふとき、少き事は毛をぬくやうに思ひ、針で血を取樣に思ふべし、大分つかふときは手足の指を斷るゝ如く思ふべし、夫貨は盡る事有物也、人の貨を用ゆるは其心涯なし、盡る事有貨を以て、涯なき心に隨ふ時は、何ぞ困窮せざるべけんや、故に苟に富に志ある者は、爲度事をなさず、爲ともなき事を爲ずんば、未だ能富者有べからず、夫富の得難きや尙し、富の保難きや甚し、富を保つに道あり、好色に耽事なかれ、美服を好む事なかれ、居宅を飾る事勿れ、酒宴遊興を好む事勿れ、博奕を觀る事勿れ、客を招く事勿れ、妄に人に予ること勿れ、妄に人に貸す事勿れ、禮儀作法を閒事勿れ、仁者のことを悅ぶ事なかれ、夫然して後以て富を保つべし、若富を求むる事を知ても、是を保つ事を知ねば、右の手に得て、左の手に是を喪ひ、前に長じて後に消へ、得る處喪ふ所を補はず、長所消所に及ばず、卒に盡るに歸せん而已、此上はこれなく候ふ、足下御歸候へ、吾足下に隱す事無し、富

を求の道斯の通也、琴乙是を聞て、悵然として頃レ之曰、異哉貴公の富を語るや、我が本意にあらず、夫人の富を求るや、其欲する處をとげんが爲也、貨を貴ぶは其用を遂せんが爲也、貨ありても用ひず、藏にをさめて出さずんば、貨無きも同じきなり、必貴公の言の如んば、富も貧もかはる事なし、某貧なれ共勤め動き、僅に餒凍をせぬ迄なり、第一先祖の祭祀もすることならず、亦妻子を畜ふ事あたはず、貧なる故に親き者も日に疎くなり、朋友の交會も日にうすく成故に、是を以て大息して、吾常に思ふは、さても〳〵口惜き事かな、人に生れて貧賤なるは、人と云ものにあらず、何とぞ立身して人成世を渡りたしと存ず、かくして遠方艱難苦勞して來り、貴公の教を請むと思ひし也、今貴公某に禮儀作法慈悲の心を持なと有言を聞ては、大いに人道に害あり、某敢て從はず、我等貧き事は貧けれ共、日出て作き日入て息む、其作や唯我力の勝所程につとむる也、一日動けば米一斗錢五十は慥に得なり、是にて衣食を營、日暮には洗足して、心安く茅屋に坐臥し、酒を煖二三盃連飲、酒後耳熱腹を拊て高く歌ひ、遂直に居眠りて、衾も枕もいらず、夢寐の安如勞て後休む、故に身茅屋を安むじ、饑て後食ふ、故に口菜大根を甘じ、佚樂に遑あらず、故に血脉壅滯の患なく、美色に近かず、故に陰虛火動のやまひなし、器物用ひず、金銀畜へなし、故に內外盜賊の虞もいらず、敢て國法を犯さゞれば刑にふるゝ事なし、誠に如レ斯なれば是にても足矣、日月の過やすき、窻の外行く馬の如し、貴公の教に從ひ幸に富を得るとも、徒に人の爲に藏を守而巳、君子の言に曰、富貴天に在と、信哉、某貴

公の富を慕はんよりは、寧吾貧きを守らん、さらば御暇申さむとて歸けり

荊山子評曰、竇叔之言於レ致レ富、則至矣盡矣、不レ可三復有二餘蘊一、諺所謂三歲狗𤹪、百年爲レ人之謂也、然至レ謂レ勿レ聞二仁厚禮義之譚一、未三嘗不二レ蹙レ額也、惜哉言也、夫醫療レ癰也、腐肉可レ去、而淸肉不レ可レ削、腐肉不レ去則、其病不レ愈、淸肉削則其人死矣、其可レ不レ畏哉、聲色、黴服、飾室、佚樂、玩好、博弈、嗜酒者是腐肉也、不レ可レ不レ去、禮義之譚、仁人之言者、實淸肉也、削レ之則非レ人也、苟非レ人則不レ如二死之愈一也、夫病與レ死何勝、是乃所謂歉然之富、而琴乙之所二以不一レ慕也、琴乙之言、可レ謂淸矣、然不レ重レ財則必傷レ財、傷レ財則必至二貧窮一、一至二貧窮一、雖レ有二仁義一、不レ能レ行レ之、是琴乙之所下以悲而欲上レ塡二溝壑一也、重レ財則必財聚、財聚則用足、苟用足則仁義唯其所レ行、管子曰、衣食足乃知二榮辱一、孟子曰、無二恒產一因無二恒心一、不二其然一乎、爲レ之如何、節レ用而已矣、節也者不レ得レ過之謂也、是故知レ節レ用而後可三以行二仁義一也、招レ客與二予貸一有レ腐有レ正、不レ可二槩論一削二其腐一存二其正一而可也、琴乙之言、恐レ傷二正肉一而存二腐爛一者也、其病遂不レ可レ治、不レ俟二於二子之言一各有レ辭、故加二一言後一

民家生要記　卷之二　終

民家生要記 卷之三

通俗孫謀篇

楚國の囊瓦と云者、令尹と爲て奢侈れり、諸大夫皆これを見倣ひ、競て其衣服を美くし、馬輿を飾り、騶從を盛にし、諸事さらをみがけり、其頃楚國の臣伍奢と云人、齊に使して歸れり、囊瓦問て曰、齊の大夫の富、楚國の大夫と孰かまさる、伍奢對て曰、楚の大夫は行路の富のみ、曷ぞ齊の大夫に若む、囊瓦の曰、何謂、伍奢の曰、楚の大夫は競て衣服を美くし、馬輿を飾り、騶從を盛にす、是を以て行路の間、観る者これが爲に留り連ひ、其富貴を歆羨ざる者なし、然れ共其家に在を観に、倉廩に來年の儲無く、府庫に金銀を藏ることゝあたはず、舊債未償はざるに、新債日に加はり、朝夕需むる所、水火の外これを人に借用せざるものなし、五節句前には責者門に盈てり、是に於諸尹縣公の貴、却て商賈に諂屈、斂襟して償ざるの謝罪す、これ則途中にて観たる、意氣揚々とは格別の違なり、これ悪其富貴たるにあらんや、齊の大夫は則然らず、齊に晏平仲と云る大夫あり、其處己恭しく、其家を治るや儉素にして、敝衣を衣、撲車に乗て朝す、然れども齊の貧士晏子の扶持するを以て、炊烟を立るもの百

有餘家あり、國人以て美談とす、諸大夫皆晏子の風を見倣ひ、儉德を崇、輿馬飾らず、騶從盛ならず、是を以て齊の大夫を道路にて見れば、人或は其儉素を嗤者あれども、其家に居るを問ば、倉に來歲の飯料あり、費用匱しきことなし、內外德に飽、此所謂大夫在家の富也、是に由てこれを觀れば、楚の大夫は、齊の大夫に及ばざるにやと云へり、又其頃彭城と云所に、閻奚恤と云人あり、此人はかくれもなき分限者にて、數萬金を畜へ、近國に比類なかりけり、此人常に貧窮なる者を見れば必賑惠む、人閻奚恤に金銀を借用したき由を謂へば、其人相應の事にて、筋立たることにてさへあれば、多少にかぎらず貸けり、借者其約束の期に及て、其息を出ときは息を收、借者不幸にして其息を出ことあたはざれば、亦必しもこれを求めず、凡一年の內貸銀の劵文を折る事十五六枚にも及べり、又責促らず、或閻奚恤に向て云やうは、凡貸銀に年中什一の利は定りたることなり、皆人此息を取て家產とするなり、足下人に金銀を貸して息を求めず、剩劵文を折り給ふは、餘り容赦すぎたるにあらずやと尋ねければ、閻奚恤の云やうは、さればとよ、我儕少々存ずる子細ありてのこと也、夫天の物を生ずるを觀に餘有もあり、足ぬもあり、有餘を以て不足を補ずんばあらず、人の生を爲も、亦必有餘を以て不足を補ふべし、人は天に則るべき者也、今我幸に餘あり、人の不足を補はずんばあらず、故に人我に賴むて貸んことを索れば、我これに貸すなり、人息を加へてかへす時は、勿論これを受收るなり、若し人不幸にして我に息を出すことあたはざるものは、彼者本意とは思ふまじけれども、貧なる故に止む

ことを得ざるなるべし、吾何ぞこれを索めんや、若これを強て責るときは、貧窮を悪むと云ものにあらず、且貧にして金銀を人に借と云は、好むべきことならんや、借てもどさぬと謂は、人の本望に思ふべきことならず、若亦我にかへすべき力ありながら、かへさぬなれば、人非人と云ものなり、人非人ならば、我何ぞ彼を相手にすべきや、左様なる者は、責促とも終に埒あかぬのみならず、畢竟無益なることなり、無益なるのみならず、却て怨を結ぶ様に成なり、縦我人に徳することあたはずとも、豈怨を結ぶことを欲せんや、古人一年の計は穀を樹るに有、十年の計は木を樹にあり、百年の計は徳を樹に有と云へれ、吾亦子孫の為に徳を樹むと思ふが故なり、凡人の恩を受る者、其恩を報ぜんと思ざる者鮮矣、若人報ぜざれば、天これに代て必報じたまふなり、即其身にあらざれば其子孫に在り、只徳の報あるのみならず、怨も亦必報あり、怨の報は徳の報よりは甚速なり、畏れざるべけんや、我儕如き不肖のもの、敢て徳の報を望んや、特（とかく）怨の報を懼までのことなり、龍子の曰、労する者は佚、佚ずる者は労す、予るを取とし、取を予とす、前に失へば則後に得、此に得れば彼に失ふ、是故に「言悖而出者亦悖而入、貨悖而入者亦悖而出」、老子曰「多藏必厚亡」、豈誠ならずや、夫れ貨者用を達する所以なり、身を安むずる所以に非ず、何則金銀を懐にする者、道を行にも姦盗を避也、亀玉を守る者は、寢て枕を高くせず、害に近故なり、是を以て犀は角に死し、虎は皮に死し、熊は膽に死し、麝は臍に死し、孔雀は羽毛に死す、此其物たるや、大小同からねども、其死を取る所以の者は一ッなり、

夫富貴は人君の寶とする所なり、然れども富貴の資は、盗の覬覦所也、是を以て時有て害に遭、畏るべからざらんや、故に貨を聚むるは怨の府を作るなり、施惠は德の基を建也、君子積而能散ず、施て恩とせず、其富を專にせず、必人と同くす、我身獨り其福を享ず、必子孫に遺、天下の人富貴を欲せざるはなし、凡そ富貴なる者を見れば必これを羨む、然れ共富貴に成りやうをしらず、愚なる哉、夫れ河に臨で魚を羨むよりは、家にかへつて網を結にはしかず、徒に羨むと云は益なきことなり、富を求めんと欲せば、己が生業を大切に治むるより善はなし、貴を求めんと欲ば、德行を修るより善はなし、生業を大切につとむれば、自然と祿を天よりあたへたまふなり、德行を修むれば、自然と天より爵をあたへ給ふ、是を天祿天爵と云なり、この二ツの者求ればこれを得、求めざればこれを得ず、梁丘據と云ふ者、晏子に謂やうは、我常に先生の行給ふことをよろこび學べども、とても一生の內先生に及ぶことは成まじきと思ふなりと云ければ、晏子の謂れやうは、爲者は常に成り、行者常に至る、我足下に異ことなし、我は常に爲て怠ず、常に行て休まず、故に及び難しといへり、晏子誠に力行人なる哉、夫れ一合一勺は微きといへども、これを積れば數石に至る、一合一勺を輕しとする者は、生業を知らざる者なり、小善行を以て行ふに足らずとする者は、一生德行を成すことあたはざる者なり、荀子に跬歩で止ざる者、終に千里の遠きに至る、土を累て止らざれば、丘山崇成と云へり、譬へば關東に適と欲する者は東に向ひ、九州に至んと欲する者は西に向ひ、趾を舉て、一歩〳〵行

ば、路を行くこと多からず、一日歩行ば一日進み、遅きと速きとはあれ共、終に至らずと云ことなし、進て息ざる者皆是の如し、愚者は生を治ることを知らず、不肖者は德行を修むることを知らず、怠惰安佚費用分に過、貧窮に及むて遽に後悔すれども益なし、口渇て井を鑿、饑て後五穀を種の類、豈に晩からずや、易に云く、天地之大德を生と云、生ニ育萬物ニなり、人に在ては即生はすぎはひ也、生其れ治めざる可むや、人而生を治めざる、是を天地の德に悖と云、故に庶人にして生を治めざれば、則饑寒俄に至る、士にして生を治めざれば、則罪を君に得、卿大夫にして生を治めざれば、其家を保つことあたはず、國君にして生を治めざれば、社稷を保つことあたはず、天子にして生を治めざれば、四海を保つことあたはず、生業それ大ならずや、凡天下の人從ひ事とする所、何れか生業を爲にあらざるや、出るも生業なり、入るも生業なり、往も生業なり、來るも生業なり、上天子より下庶人に至る迄壹に是生業にあらざることなし、豈惟人のみ成や、鳥の飛、獸の走、魚の游、蟲の行、亦唯生業を爲なり、凡そ生とし活る者、生業を治めざるものなし、然るに萬物の靈たる人とありながら、生業の惰まじきことを知らずして貧乏に至る、鳥獸蟲魚の類は、自分の食物と極りたるなけれ共、皆能く自分に食を求めて饑ることなし、却て人は先祖より、受得たる持分の產業(かしよく)を失ふもの有、是人にして鳥獸蟲魚にも劣ると云は悲からずや、昔禹王水土を平げて、民を濟ひ功を天下に立つ、故に天下の民禹王に歸依して禹王を親み思ふ事、驚く鳥の天に揚るが如し、其身天子と爲り、子孫相承ること

數百年に及べり、又契と云人司徒の官となり、五教を天下に布、國を商と云處に開き、德を積むこと數百年にして、其子孫湯王に至て、夏に代て天下を有つ、其子孫これを保ことも亦數百年に及べり、后稷民に稼穡を敎へ、五穀を樹、民始めてこれより粒食することを知れり、國を邰と云處に開き、德を積むこと千有餘年、其子孫文王武王に至つて、殷に代て天下を保つ、其子孫これを保つこと、亦數百年に及べり、此三聖人其生業を治ること大なりと云べし、故に生業を治る事遠大なる者は、其效も亦近小ならず、三王其本を立ること豈遠大ならずや、故に小く生業を治る者は、其效近し、大に生業を治る者は其效も亦遠し、知ずんば有べからず、若夫れ生を治めて其效を旦夕に索る者は小人なり、君子は本を務めて近功を圖らず、子夏政を孔子に問ふ、孔子曰、速にすることなかれ、小利を見ること勿れと、君子豈迂遠ことを好み、速にして且つ利なることを欲せざらむや、蓋しこれ旦夕に得る者はこれを失ふことも亦旦夕にあり、是を遠きに得る者は、此を失ふ事も遠きに有り、聖人と雖常住不變と云ことはなき也、故に天に曆數あり、德に厚薄あり、自然の勢なり、君子は特に其これを旦夕に失ふことを惡むのみ、夫王業は大事なり、固に以て久遠にして成る、士庶人の業と雖豈獨り然らざらむや、今夫穀を樹者は、利を一年の內に見る、木を樹者は利を十年の外に見る、德を樹に至ては利を數十年の後に見る、亦王業に似たることあり、易に曰、「自レ天祐レ之、吉無レ不レ利」とは其斯の謂なり、昔衛の君野に遊べり、一老父多く松の苗を栽る者あり、息喘て其勞にたへず、衛の君これを見て、老父松苗を栽て何にするや

と問ふ、老父對て曰、此松苗を栽て棟梁に爲と欲すと、老父年幾何ぞと問ふ、八十五なりと答ふ、衛の君笑て曰、此松苗の材木と成迄、存命にて老父能是れを用に立べきと思ふやと云へり、老父松苗を栽畢て、仰て衛の君を視て曰、木を樹る者は用を百年の後に待つなり、君必しも我が世にこれを用むと思ひたまへる歟、噫君の言葉何ぞ國家を有つ者の言に似ざるや、我小人老耄幾ど死むとす、獨り子孫の爲を計ざらむやと言へり、衛の君大に慙謝曰、寡人過矣、詩に「貽二厥孫謀一以燕二翼子一」といへり、老父これ有哉

荊山子曰、右撮二括産語數篇一爲二一篇一、題曰二孫謀篇一、取二諸詩貽二厥孫謀一、蓋此其主意所レ在也、不佞嘗有レ言、偶讀二孟子一、至二不レ嗜レ殺レ人者能一レ之之章一、忽然知二寡欲卽生レ財大道一、其說云、與二甲兵一危二士臣一、搆二怨於諸侯一、雖二狠戾之君一不レ爲二樂事一焉、爭二錙銖一逐二毫末一、紾二兄之臂一、爪二其肩背一、而奪二其貨一、雖二賤丈夫一焉爲二快意一乎、而爲レ之者在レ利二己身一已矣、夫秦尙二首級一而得二天下一、安在二不レ嗜レ殺レ人者能一レ之耶、然則孟子之言、果迂耶、愚耶、豈待レ問乎、而秦之得二天下一者、猶レ不レ得也、不レ竟二二世一卽移、與二涸轍魚之餘喘一奚擇焉、夫禹湯武三代之有、通計一千有八百、皆非三以不レ嗜レ殺レ人而致一レ之乎、秦晉及隋、力能合而卽復分、遂幷二其前有一而失焉、由レ此觀レ之、孟子之言、果不レ迂不レ愚者彰々焉、自レ古言、豪富不レ世二豪富一、猶二秦之無二二世一乎、富術亦不レ可レ不レ知、吁也

民家生要記　卷之三　大尾

跋

余嘗讀二古史一楚有二井鹽官氏者一、爲二楚王一給二國用一、初大夫謂二井鹽官一曰、國用不レ足、今方爾爾、子請致レ力焉、井鹽官抗言曰、噫、千乘之國奚憂下用不上レ足邪、僕嘗遊レ於二荒陵廟一、廟前有レ沼、魚鼈喁喁然游焉、不レ懼二足音之跫然一、有二童子一鬻二孛妻於石梁上一、謂レ余曰、臨レ沼拍レ掌、魚鼈乃應レ聲而浮來、因投二孛妻於池中一、魚鼈爭二其餌一、如二賈人赴一レ市、余試レ之、果然、夫子亦嘗觀レ之乎、曰、然、井鹽官曰、此事雖レ小、可下以譬上レ大、相傳、此沼有レ禁、不レ許二釣漁一也尚矣、魚鼈蕃息可二俯拾一也、而不レ知下釣徒漁人之可上レ畏也、洋洋然、悠悠然、惟恐レ無二來拍レ掌者一、苟君大夫寬仁忠孝、不レ失レ信則百姓以二君府庫一爲二己府庫一、常待二其招一、悅出二其貨一以給二國用一、如下魚鼈之待二其招一利中孛妻上也、其信二於豚魚一、而不レ信二於人一者、實係二于君大夫誠信之有無一、自レ古皆有レ死、人無レ信不レ立、大夫曰、善、吾其試レ之、乃拖二拍掌之術於閭境一、井鹽官亦與二其謀議一、至當歸一、給二國用一許多、大夫陰有二機心一焉、魚鼈見レ機而避、更餌二國民一以レ利、餌中有レ鉤、招彌急而避彌遠、於レ是乎、上怒下怨、殆不レ知レ所レ措、井鹽官奉レ命、破レ產以通塞二其責一、幾二乎亡一レ家、因自嘆曰、愚拙不二自量一、獻二拍手聚魚之說一、今卽是自拍手聚災乎、招レ仇致レ侮、此湖海之魚一、學二廟池之魚一、爲二漁人所一レ捕也、進無レ所レ捕、退不レ獲レ志、負愧周行、無二面復見二江東父老一

矣、或曰、勿悔、是自取也、諺曰、纔學撃劍、反得大疵、子之謂哉、相共論今是昨非之情、久之、傍有一老翁、啞然笑曰、子技如是而已乎、即袖手竦肩、倚北牆坐、井鹽官蹶然起拜曰、僕孤陋如荅耳、伏請明誨、翁曰、汝所患者、反是汝福也、非禍也、古昔、晋平公藏寶臺火、士大夫或驅救之、公子晏獨賀曰、王者藏于天下、諸侯藏于百姓、商賈藏于篋櫝、今百姓裋褐不蔽形、君收大半而藏諸臺、是以天火之、是君之福也、而不自知變悟、臣恐爲鄰國笑矣、老聃曰、多藏必厚亡、由是觀之、災汝者天也、不在人、假令子得志其君而益其富、若以爲曲居粉黛之料、蒭豢服御之用、子之子孫無復孑遺矣、汝幸出於怨府、諺曰、遺金無利、破屋興嗣、而今而後、知其變悟、愼崇儉德、則轉敗爲功矣、於艱難之中專樹德、以爲子孫之計乎、後世必有復興者、苟得其猥、無物不長、是故勤苦而後成、積累而後大者、事之常態也、知者能知之、而積小、能者能苦之、而期成、子夫懋哉、嚮所謂福者非耶、井鹽官謝曰、敬受教矣、余故人踏楚人之舊轍者有焉、常怪相似之甚、屬書肆其齋産語十二篇來求售、余閲之、書中所言皆治生之事也、余特愛其言、取篇中治生緊要者三、則以國字演義、蓋以楚人事與故人事相類、而故人事與此書相類、述其梗槩以爲跋

寛延辛未仲夏　　　文荊山人書於江戸客舍

寶暦三癸酉歳正月吉日

書肆

京堀川錦上ル町
西村市郎右衛門

大坂心斎橋順慶町
柏原屋清右衛門

江戸本町三丁目
西村源六

板行

燕居偶筆

大月履齋著

燕居偶筆卷之上

大月履齋著

吾邦政の字を訓じて「まつりごと」と讀、そも〳〵吾邦は神明開闢の國にして、祭を以國の大事とせり、されば國の大事政にしくはなし、是を以政の字をまつりごとゝ訓ぜり、誠に有レ故こと也、さて俗稱には是を仕置と云、子細は此事一朝一夕當座〳〵の事に非ず、豫め評議し善惡是非を兼て內々に吟味して、法を建ことを決することなれば、「しをく」と云意を以云り、尤至極の意也、大概諸國の政を見聞に、尤開基よりの定法なきにしもあらねど、皆當座〳〵一年切の量簡より出て、一方はよきやうなれども、一方にはあしきことのみにて、後世の規矩ともなること寡し、それゆへに每度法を改るゆへ、國民不服、上を疑ひ、或は恨み、或はそしる者多し、予常に是を愁とす、偶々思ふ事をあとさきもなく書記し、仕置と名くる旨を明して、子孫に知せたきまで也

或問、政の要領は何を以要領とすべきや、曰、人君なり、又問、人君は位高威重して、下々偶々のことを知るものに非ず、只大樣にして全體のおもりとなれば事濟ものなり、家老によき人有て下情をよく知り、上と下との一致する樣にすること第一なれば、家老こそ政の要領とすべきこと也、曰、家老

第一と云は勿論の義也、されど家老を頼にして仕置する人、さりとは心元なし、尤人主の明と不明と家老の忠と不忠とにはよるべけれども、多は人主を人形にして、家老權を取仕置を我儘にする故に、家の士も彼に諂ひ立身を求め、不レ諂者は奉公如在なくても、賞は輕、罰は重、一代埋れて老死する者多、然ば其家へ奉公して、人主への忠自然となきやうになるものなり、王孫賈當時の諺を以、孔子へ諷問せるも此こと也、さればこそ洪範九疇にも皇極を以中とし、大學序文にも伏羲神農黄帝堯舜を以表章して、人道の根本とせり、吾邦といへども日神天が下をしろしめし給ふよりして、今に至て其教萬世に遺て諸書にも多く見へたり、後世の人主は政は家老にうち任て、位を貪り榮耀にほこり、固より無學なれば、人主は政の樞紐たることを不レ知、大名は樂をする者と覺られしより、儲君世子も幼少より結構一邊にし、下の事は少も不レ知、代々榮華を業とすること淺ましきことなり、今天下太平にして關東の御下知をうけて、どこに心掛もなきゆへに、家老まかせにしても濟ことあらん、亂世の時家老まかせにして榮華を業とする人主、一日もたまるべき者に非ず、古より賢君明主和漢ともに、家老まかせにして仕置する人もなし、紂、桀、始皇さては平清盛、北條高時の如き惡主すら、人主の權は失はざりしぞかし、されども暴惡其身に歸し亡たるは理りなり、人主たる人此本を知て、政の善惡は皆我身にあることを知し召さば、末々までも行屆、國家安全民豐饒なるべし、家老ばかりの故に非ず

人主たるは幼少より學文を第一とすべし、所謂學文と云は、詩歌、連諸風流のことにあらず、四書六經の義理に達し、古今の君臣たる人の善惡を知り、善を見ては吾も此意得あるやなきや、惡を見ては吾これに似よりたること無きかと自己の心地をさがし求、諸史に至ては其世其時の風儀を推、政の成敗を考へ、今の世と引くらべ、的當の道理に由て行ふ、是學文の義也、たま〳〵に器量才發の人主もあれど、自己の智惠を自慢して古人の成法を知ぬゆへ、仕置と云旨を不レ知、當座〳〵の理屈にて事を扮き大道より出る政なし、智有は尙以すべき學文、不智ならば尙以すべき學文にして、學術より不レ出仕置は、いかなる名譽ありとも見るにたらず、只形相應にへそをまきと云ふことわざの通りにて、萬事にわたることなきもの也、何ほど發明にても、古人の成法に暗ければ、善惡是非の別ちなし、善と思ことも善に非ず、惡と思ことも惡に非ず、吾得方になきことは是も非とし、得方には非も是とす、或は心に是を知べけれども、人欲の私に惑ひ、果は善惡黑白も違ふやうに成ものぞ、是を以人主は窮理致知を旨とし、古人の成法に明にして、善惡是非の惑なきを明君と云、是皆四書六經の學文の力に非ずや、必書物ずきを詩文ずきと云に非ず

凡君たるの職分は下をあわれみ給ふ心を根とし、臣下の善惡の人々の眞性を明に見すへて、それ〳〵に人をすてぬやうに用給ふこと第一の職分也、忠良を用る時は國富家榮へ、讒邪を任用せらるれば國喪び家を失身を殺し、先祖を耻かしめし例、世々和漢ともに諸書にも書きのせたり、讒邪に惑る君をみる

に、善惡黑白の辨なる君にも非ず、頗智才發の君も多かりしなり、是は前にも云如く、自己の得方に迷ひ、うはべ計りの差引利口を賞翫して、全體の素性に暗きゆへ也、忠良の臣は上に諂なく、物毎正直にするゆへ、多くは上に逆ふに付、いつとなく遠ざかり易きものなり、讒邪の臣は君の好み給ふことを伺ひ探り、何ごとも君の心に叶ふ故、いつとなく親み、君も能き者と惑給ふより大任を與へ、それよりよろづの惡長じ、彼に諂ふ者は故なきに立身加增を得、忠義の者は却て惡く取なされて罪を得、遂には黑白も違ふ世の風になるものなり、最初より讒邪と知り給はゞ、何ぞ任用せらるべき、世々の君如レ此、上には正直にましませども、讒臣一度權を取れば、浮雲の日月を蔽へるが如く、上の明下へとゞかず、諸人自然と上をうらみ謗り、君臣の情はたゞになるもの也、中にも心ある者は君を怨むべきことに非ず、かく惡き取成に出合たるは、時の不幸也と其心得尤なること也、人主を以て云はゞ君一人の非なり、心得あるべきの第一也、左云へばとて物ごと揃たる人は希なり、只正道なるものはさせる働なくとも重んじ親み給へば、讒佞は遠かるもの也、律儀一遍にして家臣の云ふことを眞に受て、何の吟味にも及ばざるは、只正直の備へものにして、君たるの職分何所にかあるや、弱年未熟なる人主にてはそこに心付てよく〳〵吟味ありて賞罰あれば、雖レ不レ中不レ遠、家臣もむざと依怙の沙汰は申出難きものなり、孟子にも左右皆賢なりと云ふとも聽ことなかれ、諸大夫皆賢なりと云とも聽ことなかれ、國人皆賢なりと云て、後に其賢なることを能々吟味して用ひよと仰られたり、家老の云ふこと

にもせよ、たとひ目附の云ふことにもせよ、能々吟味し氣を付ずば、使ふ事難かるべし

君は貴レ明不レ貴レ察とあれば、大臣小臣にもかくし目附を付て油斷させず、一事〳〵申事を疑ひ探るは明と云ものに非ず、秦始皇、唐德宗など家臣は盜人半分のやうに覺へて、常に疑ひ探りて罪なきをも罪に陷る、其違目を便として讒臣多く出て、賢人君子も影を隱すやうになりて、大亂の基となりたり、然ればいかやうにすべきなれば、人君德正しく理明なれば、をのづから上を欺くもの無ものなり、この明と云に子細あること也、自ら明と思給はゞ、却て暗きの至り也、自己の暗きゆへ、末々へ明屆かざることを日夜に憂ひ苦勞し給はゞ、自然と下々へもとゞくべし、世々の人主自己の見たる所明なると思ふより、其私におほはれ立歸り給はぬゆへ、さま〳〵の仕損じも多きこと也、よく〳〵吟味せんさく有て一ぺんの理に泥むべからず

日本の備へに「車掛り」と云ふことあり、車がゝりと名付たる義理、軍家にさま〳〵の說あり、其一說に此備へ大將の剛勇なるを本とす、譬へば車の雙輪をめぐらすが如し、車の心木剛にして輪輻いづれにひまな道具もなく上下一致に推行を車掛りとは云、大將は車の心木の如し、心木くぢけ倒れては驅引なりがたしと云へり、大將は車の心木と云は、車懸りに限るべからず、何の備にても大將弱くして不レ苦と云理あらば、其義までもあるまじけれど、車の心木の如しと云ふ理は尤成ること也、何程賢才の人出たりとも、人主怠弱にして人任せなる人なれば、諸役一致せず、衆議まち〳〵にして面々に權を

爭ひ、賢才の言をも云消して、治世亂世ともに事の行はれざる事古今一轍也、いかに武略の名士あり諫ても用に不ㇾ立、何分にも人主は學不學は其上の詮議、まづ器量丈夫にして人に權を奪はれざる下地なければ、心木にてはなかるべし、心木丈夫なれば諸士一致す、是第一の木也、諸士一致せざれば法令は行はれざる者也

人主の丈夫なると云を惡く心得て、我を立家臣の諫を防ぎ、むざと權威を振ひ下を追回はすをよきと思ふべからず、秦始皇、平相國など惡く心得たるものにして、義理の合點もなく、兎角下は首を上げさせぬやうに逐付踏付て、息もさせぬやうにすれば亂は起らぬものと思ふ、淺ましきこと也、丈夫と云は心剛直にして物に不ㇾ屈、筋目明らかに義理を守るゆへ、讒を不ㇾ用諂をきらい、直なる者を好み、よく家臣の諫を納れ、我が非と人の是を知て、少も我を立ることなく、過れることは卽ち座に改る人を丈夫とは云へり、我慢にして我を張り、短慮を威勢と覺へたる人君は大なる瑕なり、其害量るべからず

唐には上代左史右史とて常に人主の左右に有て、言行の善惡をありのまゝに書記して、後々に迄へ遺すやうにする、人主も是を制することあたはず、役人も是を曲ることあたわず、中古は諫議大夫など云役人を立置、人主の身持にあづかること、政務善惡まで能々見屆調て、急度諫言を申し過惡に陷れぬやうにする、孟子に有ㇾ言責ㇾ者と云へるは此役人なり、されば諫行はれず言聞れざれば、何時にも

辭して去る、至て大役にして大方の人つとむべきことにあらず、今時には此役人を不レ立、何事も人主の指圖せらるゝこと心得ぬこと也、世俗に主人に仕付はならぬといへども主人ほど仕付の入ものはなし、然れば幼君若年の人は勿論、年老の人主たりとも、剛直賢明にして師表ともなるべき人を撰み、二人ほど此職を立て、大目付兼役ほどにせられたらば、朝廷正しく諸士風俗も立なほるべし近習に召仕はるゝもの、惣じて役人に撰ばるゝ者、皆正直潔白にして追從輕薄なく、篤實丁寧にして事を損はぬ者を撰び用らるゝときは、自ら士の風正くなりて、善諂面諛の者遠ざかる也

人主まゝ學文せらる方もあれど、皆名聞學問にして學問の益一ッも見へず、うわのそらに聞ては經書も用に立たず、儒臣も今時の間に不レ合とて底意に信用なきゆへ、儒者も眞實の意味を述べず、物毎に遠慮がちにて上へさはり、人の耳へかゝることは避けて不レ云やうにするゆへ、畢竟御伽ばなしするも同じことなり、昔或御大名惺窩を御信仰にて、毎々御屋形へ御召なされ、講談御聞きなされたり、或時講の半ばにゆら〳〵と御眠なされたれば、惺窩書を收めて御次へ罷出でられたり、是れに御目覺させ給ひて、二たたび惺窩を召出され、殊更の御ことわり有ければ、惺窩申されけるは、御慰一通のことに候はゞ御無用に奉レ存とありければ、殊の外御迷惑の樣子に見へさせ給ふと申傳る、當時惺窩のごとき儒臣は一人も見へず、昔衞靈公孔子と相對して問答の間、そらをば雁の飛しを靈公仰て是を見られければ、孔子其翌日衞を去り給へり、如レ是うはのそらなる聞樣にては、心ある儒臣は何ぞ以本望と存

べきや、前にも云如く只自己の心地と引合せかへりみて、賢聖の言行を聞ときは、我と雲泥高下あることをお恥慕ひ、邪惡の言行を聞ては懼れ敬み、善を見惡を見る每に皆自己の言行に引くらべてみること、是眞の學問なるべし、今時大名學問大名講釋と申習して、系圖一通にする事可ゝ笑ことどもなり、人主威高なるは勿論のことなれども、治世打つゞくゆへ、但何となく事重くなりて下へ尋らるゝことも、二段三段の取次を以て申さるゝゆへ、下より返答も通じがたく、間にてよい加減に了簡して申上るゆへ、直なるものありても心のたけは上へ聞へず、足輕中間ならば不ゝ知、侍と名の付ほどの者ならば、吟味すべきことは直に君の前へ召出して、其者の申分をとくと直に聞屆らるべきこと也、近年左樣の風なきゆへに、偶に君の前へ召出して尋らるゝことあれば、其の役人もちゞけて申達又は不調法も多し、上と下と近き風になれば、度々出つけて事になるゝゆへ、誰とても心一杯は申上べきこと也、別して代官役などは直に召出して鄉中の吟味詮議せられれば、下情よく上へ通じ、をのづから君も事になれ、百姓前のことも功者になるべきこと也、五六十年以前までは當座〳〵の小盜人さへ、直に見聞ありて其虛實を正されし、況や公事の沙汰は申に不ゝ及、諸國其風也、次第に威高くなりて、人主は近習小姓の外へは假にも物云ぬものゝ樣に覺へ、外樣の者へに大臣とても言葉かゝらず、名をも呼れず、遠くして家來の人柄働も有られぬ故、役人を撰も、法令を出すも、兎角家老まかせに成て、直の目鑑にて申付らるゝことは更に見へず、如ゝ此うと〳〵しきこと故、上へ遠き者は器量ある者も埋れ、

忠義を懷く者も志を失ふやうになりて奉公に身入ず、忝と思ひ恩に感ずることもなし、諂ひ多き者は役人へ賂ひ、心安く出入して不意の仕合をする者多し、可レ歎ことゞもなり

諸國のやうすを見るに、役人一人缺あれば家中寄合、茶呑咄にも誰彼と可レ成人を指すに、十が九ツまではほはづれぬやうなる國風は、是一統の望に叶ふ樣に見へて、氣を付て聞けば全く左樣にてはなし、皆人主御前能き者、其時の權臣へ釣のある者、贔負ある者を撰みて其人の器量の目きゝにては更になし、是何故なれば彼心木になる人不丈夫にして、總體をまわすことのならぬゆへ也、諸士の評判も器量を以指すやうならば、法の正しき國と云べし

內證外樣とて、いづれの國にても二ツに立ること尤かくあるべきことなり、如レ此ならざれば國務不レ治、家事難レ齊、內證は君に近きゆへ親みも有べきことなれども、程を過ぬれば上下の禮亂れ易し、外樣者は遠ければ繼子あしらいになりて、上下の恩義も疎く、常々不足を懷き、奉公も粗末になる物なり、孔明出師の表に、宮中府中は倶に爲二一體一と申されしは、宮中は內證、府中は外樣なり、內證ものも外樣ものも皆君の一體にて、たとへば子共は十人有ても皆不便也、其內嫡子二男それ〴〵のあしらいは相應あれど、親愛の心は皆一ツなれば、恨も不足もなきものなり、內證近習へは君もなじみあり、ひたと目にかゝれば入魂もあり、恩顧各別なり、外樣は君へ遠きゆへ目にもかゝらず、忠節ありても誰も取成申す人もなければ、影の舞と覺へて、奉公無情にして骨をおらぬを手柄とする者多し、

同じ家頼にかく思はれ給ふは、人主のあしらいの悪しきゆへなり、近習へは物毎急度行儀つよくして、上へあまくれなれざるやうにして、あしきことは嚴に可ㇾ正、外様へは一段ねんごろに少々のことは不ㇾ咎大様に見なされ、賞は末々までも行はるゝ様にあらば、一體の詮も外様の怨不足なかるべし、後世の仕形は皆かへさまになる故、外様近習と心いきまで替るやうになること、甚悪しき風俗なり作法正しきことをするとて、仕置所役人の仕様あまり作法嚴し過たるはあしゝ、聖人の仕置は随分事を省き、いや念なく手短に埒明やうにしたるもの也、治世うちつゞきて人主役人どもに次第に威高く位貴くなりて、かりそめのことも段々取次多く持て廻るゆへ、次第に役数多なりて却て事も大につれ不ㇾ埒明ㇾこと多し、たとへば口上にて濟たる事も口上書になり、口上書て濟たることも急度證文加印など云様になる故、急ぐことは間に不ㇾ合ゆへに次第〳〵にふえたるものなり、夫に付ては無用の費も多からん、昔役所に硯一ッあれば濟たることに、今は一人〳〵硯をひかへ、紙筆も大分費へ、かりそめのことも帳面〳〵と云て、役人もましながら昔の十倍も用多し、直に上へうかゞふて濟たることも、念を入るゝとて方々へ問尋ね、無益の足を運び事滯て下の滯と成る、それ故大方の事は先其分にして、下より願ふとも取上ぬゆへ、下情日々にふさがるなり、如何様官府は作法あるべきことなれど、さまで作法こまか過て、少の事にも法律を立るゆへ、役も厭ひ勞して間々しそこない多し、孔子も從ㇾ先進ㇾと仰せられしは、周の末あまりに文にすぎて塵ほどのことにも作法〳〵と云ゆへ、無益の費多く、反て事の

埒明ぬゆへなり、朱子の浙東飢饉をすくへとおほせられし時、官府の米を直に受取たき願をなされしに、彼例の役人のいや念にして先饑饉人を見聞させて帳面にいたし、吟味の上にて米もあそこ爰へ寛ありて上聞に達し、それより段々の役人を歴て手形の裏判のと云ふうちに、五日も十日もかゝるゆへ、青ばれになりたる百姓も多くかたはしよりころり〳〵と死亡せり、饑人をすくふとて死の急なるには心付かで、面々念を云まわりて民の死亡は脇に成たり、今もヶ様の事ども多くありて迷惑かぞへて云がたし、是何故なれば上よりあまりに作法〳〵と云て、役人数多になりていりほかに念ヶ入る故なり、仕置所はなるべき程は役人少にして随分事を省き、少も手短に埒のあくやうにすべし、誠に道行に日の暮ると云ものなり、事を精くすると云はよく〳〵其理のつまり、後々のよしあしを合點して、只一言只一事にて埒の明やうにするを精と云べし、かく事むつかしくなるも人主役人の無學文盲にて、義理に暗きゆへ也、よく〳〵平素に學問可ㇾ有二心掛一事也

後世諸國の仕置を見聞くに、役人は增ながら事を役人にまかせぬゆへ、只取次役をするまでにて、其役々に心をとめて善惡の考もなく、役人たる詮一ッも不ㇾ立、是何故なれば上に立執柄の人己が一分別を以治めんとする故、人に任ずると云すべを不ㇾ知に由れり、昔より役には任ずるとこそ云へり、町方の事は町奉行其器にあたりたる者にまかせられば、晝夜町方の事に心をくばり精く吟味をして、上の御爲下の爲になるべき分別を出す筈なり、百姓前の事ならば、奉行、郡代、代官、莊屋に至るまで各うけと

りの役は其者の存念に任せば、少も上の御爲よろしきことを考へ出して少もつゝむ心なく、才智の人も段々に進み出べし、國家の事は夥しき仕事なれば、一人二人して可レ治ことにあらず、其手〳〵の役役に任せて存分一杯をさせるやうにすべきこと也、今時代官は己一分の首尾を大事にして了簡にてすむべきことも、後日の害を畏れて直に郡代に伺ふて指圖をえるやうにする、其故よき分別ありても押へつゝみて申て不レ出、又郡代たる者も上の風にならふて代官に不レ任、少の事も此方へうかゞふ仕掛なり、是より上の役人も段々此格ゆへ、御爲になるべきこととみす〳〵見ても、とても上に立人用ひぬと見たる故、おろそかになりて只表向に承るまでなれば、才智の顯るべき樣なし、然ればいくらの役人ありても、善惡をも考へ衆議合一することはいつまでもなし、かくなり行さまを見るに、權を取人は二人か三人ありて威勢にほこり、諸役人は何の威光もなく、下よりも是を知りて奉行顏しられでもぬしの分別にはゆくまじと、下た心には侮りて、實には云付も不レ守、不禮なることも多し、さて其二人三人の權を取役所を見れば、晝夜事の重ること海山の如く、一年か二年かこそ心氣もつゞけ、後には疲勞し事のもつれ仕損じも數々のことにて、世間よりもさま〴〵と評判を云やうに成もの也、秦始皇役人を盜人のやうに思ふて、何事も自分一人の權にせんとするゆへに、天下より訴状山の如くにつもりて、一日に秤にかけて何百目と云て扮たると云可レ笑事ども也、要樞の役所と云は、仕置の要樞の事をこそ扮き出すべきことゝなるに、ちりほこりほどのことにまで關係るやうにするゆへ、諸方の役人より

段々と次第おくりに持せかくれば、おちこむ所は爰一所に集るゆへ、後にはあぐみ切て事の埒いよいよ明かず、迷惑民にとどめたり、秤にかける仕置は笑はれぬなり

右の咄を或人傍より難じけるは、いかにも一通りきこへたれども、其手〳〵へ任すと役人我がまゝになりて、己が勝手よきやうにして上下の爲にならず、のちには役方の物を引負、下の賂をとり私欲をする族多し、それゆへさやうにむざとゆるしはならぬもの也と云、予答曰いよ〳〵きこえぬ申分也、其爲に役所〳〵は目付横目吟味するものあれば、我まゝの仕形私欲の筋、不届のことあらば、執柄の人より責正して役をあぐるか、浪人さするにて有べし、そのやうになるべきとて侍と云はれて役儀をもするものを、事の顯れぬ先よりきたなきあしらいして、役儀を其人にまかせずば役人と云詮なし、それは彼始皇が役人を盗人のやうに思ふとひとしかるべし、其上役人を撰むには、最初に其素姓〳〵を知つてそれ〳〵に用られば、諸役人中々左樣なる風にはならぬ者にて、面々に忠志を盡し、上下のふさがり少も無き者也、かりそめのことにも神文〳〵と云と反て手よわき仕形也、昔は目付役の外神文と云ことなし、さやうに人を疑ひきたなきあしらいするゆへ、けつく神文を破るものあり、上よりおとなしくあしらへば人々たしなみて侫ものすくなし、又疑ひあるものは七枚起請でも用に立ものにてなし、神文をたのみにして是を固まると思ふは手よわき仕置也、人は誠にてあしらへば、又誠を以答るものなり、神文とて血判などはせぬこと也、神道の法にも決してなきことなり、都て手形證文に無用

の事書の長き、是は正眞の大法と云もの也、破る段に至ては一ツも用に不ㇾ立、其内の肝要の一言二言書てよし、上古は繩を結んで信とす、此國にては指形を付信とす、此の故に手形と申し習すなり

予東國往來の時分、道中の宿にて諸大名の宿入を見るに、間々立派を好まるゝ方々嵩なる道具を數々持せ、釣提やつこ旁若無人にふらせ、尤供廻り花美まばゆきほどなり、是いかなる了簡ぞや、大名は國家をこそおさむべき人なるに、花美だてを大名の餘勢と覺へられ、人もなげなるふるまい見ても恥かしく、是を十分自慢に思はるゝ主人の心こそ淺ましく、若輩に思ひやられて、范魯公云へる市童の憐を得ると云へども、却て識者の鄙みとなると書たる如く、市中女童こそ神事のねり物見る如く、つどひ集りほめそやしなどすれ、心有者は淺ましく思わぬはなし、先は無用名聞に大分の費る也、其武用の役にも立ず、嵩かなる見物道具ゆへ、一人しては持行ことならねば、無用の手明人も多く入ること也、いかにも大名はこうとうにして無用の道具を省き、身上相應の馬人も召連るこそ奥深く見ゆべし、去る老人の咄に、井伊掃部頭樣江州彥根へ江戶より初入の時、御供廻りの武士へ木綿道服一ツ宛下され、道中寒氣を防ぐべしと仰出され、則彥根御城入の時もかの木綿道服にてありしと也、古も今もこれをこそ名將とも申べけれ、伊達を好まるゝ人主は面目もなきこと也、今天下古の風儀に立歸り、武用のみを詮にして無益の費を省かれなば、大名の身體は十年の内に建直るべし、上代の大名は一人も町人に仕送たのむ人なく、金銭は大名こそ持ものなりと云し、その時代までのあたり近きことなり、大

名のくらし方次第〳〵につのりて花美類絶たることなれば、身上こと〴〵くすり切て、諸家中町々百姓までもせたげあげるにより、年々に困窮に及び、國家日々に衰微せり、家々に諫爭の臣あらば、第一諫言を奉るべきこと也、こゝをゆるがせにしては外に法度仕置と云ことなかるべし、家々の執柄たる人も自分に器量なく、吾首尾を大事にして君に忠義なきゆへ、主人へかやうなる强異見はすることならず、少々申しても見れども、主人機嫌あしきゆへ、其威にをそれて主人の身上の事はやはり本の通りにして、只下々にせこを入て小猿の臉をおす仕形なるゆへ、下々のみ迷惑して少も簡略のこたゆる驗見へず、簡略と云は、主君の奥向より膳部手道具何事も省略して、奢りらしきことを休めにする時は、役所〳〵家中〳〵末々まで簡略の云付なくても、皆々守りて一年の内にも出目大分あるもの也、先祖はいづれも微賤より起て大名の身上に取立らるれば、武器人馬大分の物入其身を奢りてなるべきことにや、今は家中も多くふへたりといへども、先祖の時潑々と大知を出してよき人をかゝへしゆへいづれの國にも大臣多し、武具武用先祖の家來勿論のことなり、兵糧用金まで大分たくわへて、中々町人に身上たのむなどのことはなし、其子孫として跡を受ながら、奢をきわめ花美を好で身上すり切ること、先祖へ對して面目もなし、されば近頃まで世の習につるゝこともあれば、器量なき若年なる人は、世間風にうつりてすり切たることも是非なし、幸に當時江戸の御政質素を御好み、花美を御きらいなされ、是を諸國へも及したく思召るゝにや、天下の金銀を吹替られ、諸人に是を大切に存じ

て、むざと不レ遣、身上も四分一の規矩にあたるやうに御仕向けあそばさるゝこと憚多けれども、さてさて至極の賢慮、太平長久の御政なるべし、如レ此なる時節こそ有難けれど、大名は勿論下々まで身上仕直すべき時節と可レ知、昔鄭の子產政を始て司られし時、國民讎敵の如くに云しが、後には子產は我々が父母也と云へり、いかさまおごり付たる風俗俄にたちなほりがたければ、當分は手づまりて不自由に思べけれども、七八年も過なば、無理こらへにこらへ驗しも見えて、諸色下直になり、金銀米錢諸色釣合よくなりて、諸民安堵すべきこと必定也、大名も下々も只今の內を皮切と思ひて、諸事簡便を可レ用時代也

人主は雜藝に耽り給ふは猶以てあしきこと也、折々のなぐさみ欝散には何にてもしかるべし、射御書數は六藝の內なれども、あながち一藝を弄び給ふ時は、家中も亦それをのみ專にするもの也、游藝を好む時は游藝を好み、武藝はすべてをそろそかになり、氣象も放情弱になる者なり、況んや大名の自身能囃子など甚以奇異のこと也、國家を治る者猿樂役者同前に舞臺を踏むこと、さりとは有まじきこと也、大名は彼れにまわさせてこそ見物すべきに、舞て人に見物せらるゝこと、世上の評判もいかゞなり、自身能を好るれば、大分の金銀を費し裝束を調へ、役者の名人を抱て武士にもくれかたき知行を充行、身上すり切りたる人數多也、能役者も武役の一ッにして抱べき備と云へど、それは家來の中に上手にてなくとも、大形にする者あらば、をり／＼の慰に事輕くして見物あるべし、又一門中などより合

に養生の爲ながら、仕舞などさらりと有べきほどにて、不入上手になりたがること大名には似合ぬことども也、あながちに上の數寄と云と、家中の風あしくなること目前也、役者ばかり上手を持たりとも、武邊の用には少もならぬもの也、兎角かたむきてよきは道義の學問也、歳月を重るほど其内より色々のよき政は出ること必定ならん、鷹狩も人主の弄ぶべきこと、昔より聖主も轡になされしこと數々例あれど、それは今數寄慰の筋にあらず、野外に出て士卒の掛引を見、士民のいやしき業年々世の治亂のさくなどを見補ん爲に、狩に事をよせて下々の風をよく知べき爲也、今はさはなくて士民の農業をさまたげ、耕作を蹈散らし、下民の憂となることをあげてかぞへがたし、天理と人欲と行は同じけれどゝ、情を異にすと云る如く、昔の鷹狩は仁政の一ッにありし、今は惡政の一ッ成こと歎かはしきこと也、又は花木を翫び鳥獸を集め、大分の金銀を費やし、もし是をきらひ是をそこなへば罪咎にも行はれ、人民の苦み國家の費はかりがたし、かりそめの小細工小藝にても人主たる人の上手に成たがることに大きにあしきこと也、大名のすることは平人のする二百倍も費かゝるもの也、それを日夜に好み耽り給へば、其費云べからず、下も又それを見習ひ分相應に費すゆへ、果ては國家の衰微となる、小より大に至る殃と云べし、愼あるべきこと也

諸國ともに時めく役人の果て口を見るに、無事に仕舞たる人希也、是皆人主不知不仁なるによれり、其時に用られ時めくほどの者なれば、多くは不才にてはならず、一器量用にも立つべく仕置の柱とも

ならん、其人の忠不忠善不善は知らねども、いかにも數々の役儀を歷てさま〳〵の事につかはれ、若年より年老まで大分の骨折、それより立身して高位に上り權を握り、餘人の眞似のならぬことなれば、たとひ末になりて不レ宜ことありとも、首尾好役赦免有て、子孫の家督も親の功を以て宜申付られば、跡々より廻り出る者もいよ〳〵用ひらるゝことを喜て、人々忠義を勵むべし、一代骨折て赦さるる時は、何ぞ仕損を云立にして家督も減じ、隱居して世間へ顏出しもならぬ人多し、いかさまあしきことのあればこそ、かやうにもなるべけれども、それは今まで用ひて權を取らせたるが大なる目ちがい也、是人主の不知をあらはすに非ずや、いかにあしきことのあるにもせよ、大それたる罪さへなくば、ほどよく赦して骨折を慰んで、隱居までねんごろにあしらはるべきこそ人主の仁愛とも云べきに、山の崩るゝ如く俄に首尾そこねて散々の仕合、神にそなへたる牲の如く、始めはうやまわれて後には俎にのせらるゝと等しき仕形は、是不仁と云者に非ずや、其始終を見るに外に其人の才智にをよぶ者なく、此人家の重寶になる内は、其者まゝあしき仕形依怙荷擔もあれども、此者のなき時は上にも事缺になるゆへ、人主もきかぬ顏、目附も見ぬ貌にて誰も叱る者なし、さてそろ〳〵と外に其代になるべき人出來ると、何となく右の時めく人少づつ威勢衰へて、するほどのこと左り前に見ゆる、其時は人主の目遣ひも惡く、目附も弱みを見て日頃のあしきとを言立るゆへ、果口はさん〳〵になりて人に權を奪はれ、有か無かのやうになるなり、用に立內は重寶して、事缺なき時は取つぶす仕形、諺に大

津馬の追からしと云にひとし、さて〳〵家の風儀薄くたのもしげなき仕形なり、賢者ありとも行を隱して用ひらるることを不ㇾ欲、しかれば賢のすゝむ道も絶果ぬべし、是皆人主丈夫なく、人の云まゝに人を用ひて眞眼明らかならざるゆへ、人がよきと云へばむざと高位にのぼせ、あしきと云へば俄に鼻をつく、悉くみな人任せなる仕置と云べし、それゆへ仕置の風色々にかわりて、とかく權を取る人の心次第のやうになりて、人主一代の內用る人によりて法令不ㇾ一、かの君は、備へ物と覺へし人も理りなきに非ず、又權を取る人もいつまでも威勢ありと思ふは大なる分別違なり、功成名遂て身退といふ古語は、人々もよく覺たること也、我に代るべき人も出なば、早く其機を見て身退くべきことぞ、又至忠の志ありてそれも合點なれど、此方より引べき道なし、我千萬年も生きて君に仕つべきにもあらず、我なくとも御家は立べきなれば、果は切腹と思つめたるは忠義の士と云つべし、然し如ㇾ此なるは希ならん、是を眞似る非、非を眞似る是と云ことあり、人主たる人はよく〳〵眞眼明かならずんば、夫々の素性を見すへ給ふことは難かるべし

古今人主のかはりめを見るに、部屋住の內は身持よく質素を守て、物每親への遠慮ありて、我儘のふるまいもなく、手前隙なれば親の仕置をつら〳〵見て、我身不自由なるより志もかたく、親の非分の仕置するものゝ私もよく〳〵見ゆる者也、それゆへに部屋住の內には天晴家督になりたらば、わつと云程の仕置すべき者と思ふものなり、果して家督を取り志を行ふになりて、日比ためすかめて見届る

ゆがみなれば一々改、親の時權を取て家中をそしりたる者を追込る故、一際仕置を改る樣になりて、家中も其威におそれたのもしう思ふたれども、家督をしめるとはや部屋住の時と違ひて、家臣もをそれうやまい諸事自由になるゆへ、部屋住の時より我が氣に入たる者に權を取せ、新知加恩を行ひ、くらし方榮耀我儘に成て、色々物ずき始り、色に耽り政をおろそかにし、程なく諸方とをゆるまりて、家中もそろ／＼とうとみ、先代を慕ふ樣に成りて、うしと見し世ぞと家中にてもつぶやく樣に成る者也、中古上方に町御奉行かはりて、今度の新奉行町の評判をきかんと思ふて、輕き侍の體にて一僕召連、方々と遊行して草臥ければ、辻籠に乘り籠舁へほつ／＼と咄を仕掛て、何と此度の御奉行は町方にては何と申と問ければ、あと肩の者口利たる奴にて、さまざまの咄をして今度の御奉行樣ほどよきはなし、皆悦びますと云ければ、先肩の者すねこき奴にて何を云ふぞ、尻があたゝまると知れぬぞや、何れの奉行衆も初の程はよけれども、四五年の内には賂を取、後には我儘なる仕置をするゆへ、果口のよき衆は無と只一口に云ば、此一言を聞と等く胸に釘打るゝ樣に覺へられ、甚感心ありて約束の所にて籠より下り籠代を拂はせて、かの惡口云し先肩の奴に金子一切取出して、思ふ子細あれば取らするとて投すてゝ歸り給へると也、人主も尻があたゝまらねば善惡も申されぬぞ、籠舁の云分さりとは名言也

頃世間には取はやす江戶にて山下菜と云へる浪人、諫狀を上げしとて一卷あり、實不實は知らねど、

人のもてはやすによりて取上みれば、志はけなげにしていかにも器量有て見ゆ、如何さま軍者などと見へて軍學一通りのちからにて、多くは當分の理屈にて皆たる者也、間々可レ評事有れど上へ憚あれば可レ云に非ず、其内さはりなきことを一二事可レ論、人形遊道具に金箔を遣ふこと御停止、天下にはせまき御下知也、當座は費とみゆれど、後にはちりほこりと成て金は土に歸すると云、さりとは持て廻りたる評判なり、ちりほこりになりて土に歸するを待んより、初よりちりほこりにならぬ様にするがよし、其上富貴なる人蓄へたる金銀を遣はせ、輕き細工人どもの産業なれば、なるべきほどけつからなる遊道具をこしらへさせて、金銀を滯らぬ様にするがよしと云、是素人理屈と云ものにて、君子の大道をしりたるには非ず、聖人の政には既に奇技淫巧は不レ鬻レ市とありて、むざと金銀を費したる道具は實用の物にても禁制あれば、況や小兒の翫び人形遊道具の類猶以のこと也、たとへ金箔の費を不厭とも、實用にもなき世の風俗をそこなへる様なる商賈は、急度停止する者也、富人の金銀出させる謀といへども、外の奢は止て遊道具の類ばかりをけつからうにせよと云仕置は、和漢其未レ聞こと也、昔殷紂王天下を知りたる時、初は左様に悪人にてはなかりしが、酒燕を好むよりして象牙の箸をこしらへしを、箕子是を見て甚歎じて申せしは、さて／＼苦々敷こと也、象牙の箸はかるき様なれども、其上には玉の杯を作り給ふべし、それからしては様々の物數奇長じて天下の傾となり、國家喪亡のきざしと憂給へり、聖賢の氣の付様は各別のことと思ふべし、果して後には酒池肉林の游も、纔かの象牙

の箸より起りたるに非や、天下を取る身なれば象牙の箸はさて置、金銀を用らるゝことも強て奢と云べきにはあらねども、國家を失ふきざし初は至てわづかの事より起れり、其上ヶ様に花美なる道具、風流なる物を世間の流とすれば風俗くづれ、後には家居も衣服も法度皆やぶれて、上古質素の風にかへさるべき智慮もいたづらになり、末はをのれとたをるゝより外なかるべし、然れば金箔の費を厭ふと云ふ末のことにて、それより根本にやめたき所あればなり、小學にのせられたる王相國などが言抔考へ知べし、大名富人の金銀は又何ぞ用に立所にて遣ひ様あるべし、天下より御法度あれば金箔人形には不ㇾ限、無用の費がましき道具も是よりしてそろ〳〵やみ、買手もなきやうになれば、それこそは珍重なること也、夫をする細工人當分金銀設ることもなければ、迷惑にも思べけれど、土人形でもこしらへ、米を食ずして麥を食へば、渡世のなきにもあらず、貧民の爲とて風俗のそこねになることをさしゆるすべき道理なし、さて又當時天下樣は神佛を粗末になさるゝと云こと甚以いわれなし、近世神社佛閣むざと結構に成て、國土の費となること不ㇾ少、神社は日本古代より子細あつて祭をきたる物なれば、是もよき程にしてをき、崩れぬまでなれば事すむ事也、近年人主たる人我生土、又は氏の神なりとてむざと結構にしたがるも、己が私にくらべて鬼神へ諂ふなるべし、鬼神何ぞ喜給はんや、「敬鬼神而遠ㇾ之」と云聖語、古今の定木と可ㇾ知、伊勢は日本天下の宗廟なれども、茅ぶき野づら石にて、返て神威他に超たり、質朴を示さるゝ神道のありがたき教なり、球玉をちりばむるやうならば、神道も

佛道も衰と知るべし、心ある者は今さへ奢をきらへるに、正道の鬼神何ぞ大名町人の寄進奉加をして、金銀を集取て滿足し給はんや、佛閣僧舍は尙以のこと也、近世わけもなく結構になりて、民鄕をむさぼりて手柄次第に取込を佛法繁昌と覺へし、佛法は元天竺國の法なれば、水戸黄門公、備前の少將などは悉く破却なされしこともあれど、今の事體にては急々は左樣もなるまじ、少しもちゞめほそめて、僧居も草庵柴扉にてこそまだ尤らしきと見ゆべし、王法にさへ背かねば佛法の害今更辨ずるに及ばねど、中にも悲しきことは火葬なり、釋の道照寂して己が尸を火葬にせしより事行はれて、世々の天子をさへ火に入し世もあり、申も勿體なし、されども人心自然の善末世とても絕べきにあらねば、何となく淺ましきことに思はれけるにや、中古より天子火葬はやみぬ、それより以下は今に盛に行はれて風にもあてがたき君父の體を猛火の中へ入れて灰土とすること、臣子たる者いかに佛の道に迷へばとて、本心是をこゝろよしと思はんや、況や大名高家萬人の上に立たる人を穢多おんぼうの手へ渡して尊體を燒崩す、希有とも無道とも悲にも泣れざる悲なり、暗主愚臣は佛法に惑され如ㇾ此することと覺へたる者もあり、少しはいかゞと思へるもあれど、御遺言なれば不ㇾ及二是非一など云へる、是大き成る僻言なり、何ほど遺命なればとて君父の非命は不ㇾ守ものと云ことを不ㇾ知、陳乾昔と云者死する時其子に遺命して、我死なば妾を殺して一ッ棺へ入て可ㇾ葬と云し、是非命なれば其子是を不ㇾ用は反て孝に非ずや、喪祭論と云假名書に、或人死して其子に火葬にせよと云置しに、其子棺を制て土葬に

せしに、一門旦那坊主寄集つて是いかなることぞや、子として父の遺言にそむくとて、中々不許容事爭論に及べり、其時其子吾子十四五に成童子を呼で大肌脱となり、汝其刀にて吾首を可打とにらみ付ければ、童子號て其儘逃去れり、其時申樣あれ御覽候へ、是程父がたしかに申付ることさへ、親の非命は守らず、何の差別もなき子供にてさへ、父が首は打に忍びず、いかに亡父の遺命なればとて、親の身體を火破りに可仕やを淚を流して申ければ、皆此義に感じて尤と同じたると也、予先年家禮を講じ門人其外へも是をきかせしは、第一此義を知せたきゆへ也、日本は上古より神道を以治め給ふ掟なれば、ケ樣のけがらはしき敎へをする者急度停止あるべきこと也、それほどにこそなくとも、國々にせめて國中に火葬を禁ぜられば、儒法までもなく日本神明の遺德とも申べし、されば今にても伊勢一國には堅き御法度なりし、神道の遺風少は殘れり、かやうなることも人主たる人知し召さば、國中に觸をなし、火葬を堅く禁じ給はゞ、人倫忠孝のはしとも成べし、彼諫議大夫はいづこにかあるや、かゝる日本の敎をそこなへる道を、天下より崇敬なされざるは僻言と云へる浪人も、罪科一同たらん、世間にはやる今川と云敍目に、「出家沙門可崇敬事」と云一條にて、今川一代の相撲も見へたり、此浪人の見識も辨ぜずして推はかり給ふべし、とかく前より云如く學術より出ざる仕置は、少々よきことを有ても五十步百步を笑にて不足見

或人右の論を聞て申けるは、心學者の書に日本は土地せまきゆへ、火葬さしても大事なしと云へり、

いかさま他國旅亭にて死たる人、何とも末々まて墓所のかまいもなく、後には人のふみ草になるゆへ、火葬にして骨を本國へ下し、又は國中國替抔あれば、火葬にして壺に入埋をけば、何國へ改葬さするとても勝手よし、亦地前にても當時寺へ葬むることなれば、火葬にしてさへ寺内せまく寸地もあき間なければ、骨にて葬むること簡易なりと云、予曰、其心學者の昔に土地せましを云こと、先は天下へ對して大狼藉なる申分なり、いかに日本小國なりとて墓を築く土地なかるべきや、今公儀より火葬を禁ぜられて皆土葬にせば、無用の寺地一軒つぶしても五十や百や葬るべし、左なくとも無用の野山は何國にも多きものなり、我旦那寺のせまきを天下一統のかねにするは、針の目より天を窺ふに似たり、たとひ土地せまく埋むに地なく、我屋敷のうち畑の中に納むとも、現在親の身を火に入るには增なるべし、旅他國にて葬るとも同前也、輕き者は末々の付屆ならず、人の踏草となるとも火中に入るゝにはまさるならん、其上非人乞食の墓にても、左樣にむざとほりすつるものにあらず、古人是に處したるも、名あれば跡もくちざりし例數々あり、其事家禮講習の時分委曲述たれども、事長きゆへ爰に略す、ヶ樣なることは金銀損徳の構ひにもならねば、地頭より世話やかぬ事に思は、皆俗政と云て聖賢の政にあらず、土州野中氏執柄たる時、國中の火葬を禁じ、町方に棺槨の細工人を立置て、粗相なりとも箱にせよと申付たり、其餘風今に遺て火葬にはせぬものと覺へ、かりにも桶に入ることをせず、四國遍路する者申けるは、土州山邊を通りしに、遍路一人行倒あり、役人見分すみてをさめよと有

しかば、百姓其箱を持來て死人をうづめたり、それを見るに付てさて〳〵丁寧なることと申ければ、百姓云けるは、何んとそちの國にてはなんとかすると云へば、いやとよ我國にては後生桶とて、うすき桶に入て埋むと云ければ、それはかはりたることとて笑ひけりとぞ、物の風俗となるはヶ樣なる物にてあり有難きこと也、さてこそ前にも云、時めく人は衆に勝れたる器量もあるものぞかし、仕置は是に限らず、如ㇾ此末代の風俗になる樣に心を付ねば、大學新民の政に非ず、當座〳〵の損徳ばかりに目をかくるは、かの例の仕置と云義にくわしからざればなり

燕居偶筆卷之上終

燕居偶筆卷之下

人主へ總じて世の中のよきこと、下々の安樂なることを不ㇾ申、只下の常に難儀困窮のことのみ申べ

し、唐の陸宣公は唐朝なべての賢臣成が、奏議とて上へ奏せられたる奏状數々有、政務に志ある者は可㆑見書也、其内を見るに、兎角下の難儀をのみ申立られて、下々安堵して上を難㆑有存ると云やうなることは一言もなし、後世の仕置者はうらはらにて、兎角下々は安堵して上をうやまい尊むことばかりを申て、困窮のことは少も云ず、主人の御身上も潤澤なる樣に申しなす、其次第をみるに、莊屋は百姓の難儀を代官へあからさまに云はず、首尾を第一にして上の威をかりて、下をきびしくきめて多く取るを手柄とし、代官への働とする、代官も此格にて下々困窮難儀を上へ達せず、内々にてきびしく取立て、早く皆濟するを手柄として後々の難儀をかまわず、只我首尾を第一とつくろひ上に立人の悦ぶ樣にする、夫より段々上に立人順おくりに此格故、主人の耳へは年貢も只石砂を集るより安き樣にきこへ、下の困窮、血の涙を流して妻子にも離れ、道具家居も賣物にすることを知らず、上に立役人は是も己が首尾のみを思て、君は民を治る職分なることは露塵も心がけぬ故、間々代官莊屋の内にも、下の難儀未進借錢のなげきを云へば、百姓續負にて上の御爲を不㆑存とて首尾あしく、多くは役儀を取上げ、又潰しても一番に皆濟したる者は、首尾よく褒美を與へ、是をよき代官とする、ヶ樣なることにては中々百姓安堵して君民一體となることはいつまでもなし、右の如く段々下は豐饒なる樣に申上る故、主君はいつもよきやうに覺て、さま〴〵物數寄のみ長じて、百姓の血の涙を日々榮耀ことに濺き捨るなれば、身のくるしさに上を恨、上下離れ〴〵になつて末は一揆徒黨をなし、殃國君の身に迫

ることと目前ならん、是邪欲の臣を任用し、下民をせたげ取るを重寶がり、初は德の付樣なれども、果は上一人に報い、其臣も身の爲を謀といへども、遂には同く災に逢ふ、草木を食ふ蟲の如し、鑑みざるべけんや、或國の代官の主君領內を廻り給ふ時、道筋の明家に大きなる角とり紙を竿に付て立て置方々に見せ、旗の如くにわざと目に留る樣に拵へ置たり、主君駕籠の內より御覽あり、あれはいかにと代官へ御尋ありしかば、あれは明家なりと申す、夫より先へ御通りありて又此の如くなれば、あれはいかにと重て御尋ありければ、又是も明家也と申す、そこにて主君御不審ありて何とてかやうに明家多きぞ、代官申けるは、鄕中近年困窮いたし未進多き故、田地家督を借方へとり上られ、或は家地をうり拂ひ、流浪仕て如レ此明家多く候と答へければ、御宿りへ其代官を召し、段々困窮の御穿鑿ありて、よくもヶ樣の儀を申上たり、左なくば下の困窮上には御存じ有まじきとて御褒美にあづかり、其所の未進をすきと即坐に免じ給へり、今ヶ樣なる代官あらば、よきと云べきや、あしきと云べきや、代官する者の心に覺あるべし、又或國の主君家督取て初めて入國あり、家臣にだまされて何もかも澤山に覺られて、新知加恩夫々行はれて、祝儀褒美數々の事にて國中どよみあへり、參勤の時節に成て大坂屋敷へ立よられ、留守居を召て何とかはりたることもなきか、申べきことあらば可レ聞とありし時、留守居申けるは、外に替りたることもなく候へども、上方御借銀大分增益いたし、御藏元の者もあやぶみ、末々御ふり向も合點不レ參候、則御借銀高如レ此に候と、一ッの帳面を取出して御目にかけゝ

れば、人主大きにあきれ給ひて、是はいかなることぞや、我ヶ様のことは夢にも不レ知、家臣どもへ尋ぬれば難儀なることは少も是なしと云へるにより、新知加恩も心一杯につかわし、其外內々望なる物をも多く調たり、ヶ様のことならば江戸の暮しも心得ありと仰せられて、大きに憂へあぐみたる顔色なり、此事國元へきこへて家臣仕置者大きに怒りて、さて〳〵奇怪なる留守居が働かなとて、やがて呼び下し役儀を取上げ、わけもなきものにして逐こまれたり、是留守居が忠か不忠か、事を執る役人は心に覺有るべし、又或國に夥敷水損有て田地大分流れ、溺死の者多く、死を免れたる者は非人と成て餓死する者數多也、內々水旱を防ぐ儲へも無ければ、救ん手立もなく、漸く一日に麥一合鹽一合ほどの割方なれば、ごろり〳〵と死ければども、何ともすべき樣なきにてありし故、寺々さては町人等施行をなし、粥など食せけるとなり、其翌年國主歸城あつて、家臣どもへ去年は莫大の水損、百姓どもはいかがいたしけるぞや、さぞ困窮しつらめと御尋ありければ、かの例のつくろひくせ出て、いや左樣に無二御座一候、なるほど百姓共少々いたみ候へども、中々難儀には及不レ申と答へければ、それは存外の僥也と仰給へり、夫より菩提所へ御參詣ありて住持へ對面有し時、住持申けるは、去年は御領內夥敷水損、百姓共飢に及び、乞食非人に出申す故、我等も朝夕雜炊をたべ、施行いたし救ひみ候へども、久々かつへたる者どもなれば、其場へ來ることさへならで死し亡びたる者多く候、あはれはとかう申し難しと、心入はしらねど有の儘に咄し有ければ、國主大きに驚き給ひて、御屋形へ歸給ひて、家臣

仕置者共を召甚御叱りありければ、可﹅申詞なく、彼住持こそ卒忽者に成て濟みけり、ヶ樣に主人をだましたぶらかして、律義正道なる君德をかすめ暗まし、畢竟主君を賣り我身の富を求るにひとし、奸佞、邪曲、賊臣、陸宣公にきかせたらば淚を流し齒をかみきしるべし、是も亦人主の不明故とは云ながら、「在﹅官不﹅奏﹂祥瑞﹁」と古人の申されし格言もあれば、役人たる者は目出度事を不﹅申して、常々下の困をのみ申上れば、人主も心付て無用の奢をやめ、下を可﹅救仕置ありて、下の情上に通じ、君民一體の政も可﹂庶幾﹁ことゝこそ思ほゆれ

或曰、今の諸大名の體を見るに、多くはすり切て、要脚たらず、蓄と云ふことも無れば、儀儻とて中中民を救ふ樣なることもならず、年々不足して年貢を貪より外の分別なし、如何、予曰、論語に哀公の有若へ問へるは其事にて、古今夫をやむより外なし、「有若對曰、百姓足、君孰與不﹅足、百姓不﹅足、君孰與足」と云古今の格言仁政の大根元也、先づ君は民の父母と云へば皆吾子也、君は至て尊く民は至て卑き者なれども、君と民とは天と地と、父母と子との如し、それ故君民一體と云道理を以て云ても、實事を以て云ても、いやと云れぬ事也、君の身上と民の身上と釣合たる者なれば、百姓困窮して君富ると云理なし、百姓豐饒して君貧しといふ理もなし、道理を以云へば、君は民の父母と成て民の難儀を何とて見捨給ふべきや、親の子を思ふに比すれば、身にかへても民は困しめまじと思こそ、人君の本心政の要樞也、さて事實を以て云ても、根本釣合の身上なれば、百姓を取からして上に德を付

る道理なし、今有若の心を略述して云はゞ、兎角仕置する人君の御爲を實に思はゞ、下をくつろげる分別をすべし、それでは君の要用不足と云とも、それはとんとのけにして、無二無三に下をくつろげにかゝるべし、下くつろがねば、永代上の身上のなをると云こと決してなきこと也、有若の答に盍レ徹乎と云るは、哀公の問にはうらはらの答也、徹の法なれば今までの年貢よりは安くする仕樣なれば、取てもたらぬと云に、なぜらつと取られなんだと云は聞へぬ返答の樣なれども、そこが有若の大賢たる對也、山崎先生の門人に去る國に仕宦せし牧某と云人あり、身上二百石にて其家の郡代を勤て、百姓前のこと至て功者也、先生の門人なれば、孟子の仁政有若の旨を能々吟味して深く爰に感通せり、其比御主人殊の外すり切給ひて何ともの身上ゆかぬことに成て、家中の仕置者相談有て大元占を撰み、御身上可ニ取續一役人を可レ立とて、家中其々うつはを撰みけるに、何れも此牧某こそ可レ致才也と呼出され、右の趣被ニ申渡一ける時、牧申けるは、尤畏て候へども、中々私の分にて御身上なをるべき存寄なしとさまぐ\断申けれども、許容無レ之故、重て申けるは、左樣に候はゞ殿樣より打立、各樣下々は勿論の儀、私一人の法度を御守りなされ、是非の御さつと一言もなく候はゞ、五年の內致しみ申べく候、第一殿樣の御身持に大分の法度有レ之候間、恐ながら御居間へ掟の條目を壁書可レ致候、推參と思召ば餘人へ仰付らるべし、何分にも御受成難き由達て申故、是非なくありていを主人へ申し上し時、主人其才器にや感じ給ひけん、何より以て易きこと也、掟書を可レ出、我等より掟を可レ守と仰出されければ、

牧不ㇾ斜悦び、一通の掟書を指上、御居間へ壁書せられ、夫より江戸奥方への掟書一通江戸へ遣し、家中の如きは勿論のこと也、其むねは大要第一奢無益の入用を省いて儉約を專する趣也、さて領内の莊屋共を呼集め申渡しけるは、此度殿樣御身上御不如意により、當年の年貢二分通り御免可ㇾ被ㇾ成と申ければ、何れもあされて罷立、所々へ歸りてさて／＼心得ぬこと也、此度の御召は定て年貢二三分も益すべしとこそ思しに、御不如意故年貢を免すとは人をなぶる樣也とて、或は疑ひ、或はまわし事かと思ふ者ども多し、夫よりして牧只一人駕籠にて一僕連、毎日郷中へ出、莊屋長百姓と心安く致し、そろそろと野合ひを連立ありきて、さま／＼農業の事を尋ね、民の憂を聞出し、日比農業に油斷したる者をかたはしひしぎ、足駄雪駄にてあるきしやつをも田の中へ追込み、女は布木綿のせこをいれ、子供までも一人もたゞ居かず、晝夜農業の外無ニ他事、田の畝畑のふちまでも寸の間なく作らせ、をひ立／＼百姓に息をさせず、精出す者には賞を行ひ、不精者には罰をあて、男女どもに晝夜のかせぎを仕置の第一として、とかく百姓の身上からさきへ仕直す分別也、さて主君の御暮しは堅き掟を立ければ、一錢のことにも牧がゆるしなければ御意にても渡さず、公儀の勤の外は大名の業をすてになされて、ある程のことを略して役所／＼をきびしく申付ければ、諸人あし／＼と云けれど、主君を始め動さぬ樣に致せし故、一年の出目莫太のこと也、百姓は晝夜のかせぎ強く、家々の暮し方は公儀よりあてがいの如くして、無益の錢一文も遣せぬ故、一年の間に內證致よく成て、牧が功餘程しるし見へたり、それよ

り打續御儉約掟の通り五ヶ年を經ければ、主君の借錢すきとぬけて蓄へ出來、百姓も勝手仕直し、君民困窮の苦なし、此時牧御斷を申して是程に致し直したり、もはや此上は御仕置を上へ御返し申也、又外の者へ被仰付候へとて辭し退けり、山崎先生も此仁のことを數々感稱せり、是皆有若の本意を能く知れる者也、下をくつろげる時は、上は獨でにくつろぐと云鈞合をよく可知、今はさはなくて、上が不自由になる程下をせたげる分別、それは先不仁にして民の父母ともいはれず、其上事實を以ても見よ、民は國の本也、本を槁して上のさかへる理なし、今も人才有て此旨を知れる人仕置せば、大名の身上年貢を增さずとも忽直るべし、されども後世の君の惰弱淫佚にては、人才ありとも如此任じて、君も其者の掟を守る樣の人あるまじ、其上そばよりさつ度の云手多く、細工の仕あげもせぬ内にもはやもみ崩さるゝは必定也、牧が如の人在ても掟を守る君なくんば、何とて牧も功を成べき、前にも云、君はヶ樣なるを丈夫と云、君一人丈夫なる故、外より一人もさゝへを云者なし、君も君、臣も臣也、後世の君是を鑑給へ

或人曰、近年諸國共に水損度々にて、人民の患打續て大名下々まで何ともすべき樣なし、功者なる者云るは、諸國ともに用度多く手づまりになる故、領内の山をうけさせ悉く切盡、山に木茅なければ雨のたまり多く、山に大分水をふくむ故潰れ崩れ、其上へ百姓困窮し、其株を悉くほりとる故、年々土砂川へ流込故、川とこ大分高く成て、少し降ても水溢れ易し、夫故洪水すれば、いつとても岸をこし

土手を崩す故、田畑是が爲にそこなはれ、人家を押流し、非命の死をする者多し、度々の洪水は此理にても有べしと云、予曰、いか樣左樣の子細も有べけれども、山をあらし株をほることなべてするにも有まじ、たとひ木を不レ切株をほらずとも、世を歴るに隨ひ川は次第に淺くなる也、海とても同じことにて、次第に濱は廣くなるもの也、然れば川は尙以うづもれ易きはづ也、夫故諸國ともに上代は水所川除には必川料を付置、年々修理をよくする故、大水出ること希也、水旱は天地の常にして不レ珍、いつとても滿作なることすくなきものなれば、よき仕置は豐年を心あてにせず、毎年水損あると心得、川料を兼て備て、旱の年も常に修理を加へ、瀨掘をさせて其心得有べきこと也、然るに近年は上の用度次第に多くなる故、ケ樣に先祖より付置たる川料もさせることもなきに、修理を加るは費とて引上、一度引上たれば是なればとてかまはぬ仕樣なれば、次第に埋れ大事を仕出は怪むべきことに非ず、或人曰、いかにも左樣あるべけれど、今何とも仕樣なければ國々其領內に人夫をかけ中々夥敷物入なれども、地形よりするは又大造なれば、當座の防ぎをしたるまで也、是故に來年洪水すれば又本の如くながるゝ、是にて上も下も困窮し、百姓の家居からして所も無き樣に成る、何として宜き仕樣やある、予曰、大要切の間也、只そこねたる時に直すばかりでは、いつまでも慥には成らぬこと也、いかにも常にそこねぬ樣の計を廻すべし、今時仕置する人は川計のことに就ても、中々永代川を成就することあるまじ、前にも云通り、上の暮し方諸事の物入を減じて、永代の川料を付置べし、天下には今とて

も大橋には一萬石も領を付置れ、水所川除勿論のこと也、川の大小廣狹地頭の大身もあれども、先一ツ十萬石位の身上にして、大要の仕形を可レ云、十萬石の身上ならば、隨分上の用度を減じて五千俵を川領として除置べじ、是を何とすべきなれば、屈竟の中間三百人を可レ抱、一人に付扶持給共に十五六俵の積りにして、五千俵あれば澤山也、是を二組三組にわかちて、各頭を其惡所川と云川筋要樞の所へ賦りて指置、川の掘方水はき等のことも普請奉行の指圖に任て、此三百人の者一人も外の事には不レ使、毎日〱降ても旱ても三百六十日此川へかけ置べし、然れば一年二十萬人役はたしかに致すべし、如レ此此永代不斷にかゝりて、常に十手を築、竹木をうへ、木を切枝をうち、棄石蛇籠を伏せ、年々に岸を高くし、川が埋る時はいつを仕舞と云ふこともなく瀬掘をいたさば、いかなる洪水ありとも、何とて近年の如く人民の煩とはなるべきや、最初一年は國中へかけて荒防もせねば、當時何ともならぬ故尤にてもあれども、夫を仕廻とそれ切のことにては、少の洪水にもそこね、又してもそこね〱、永代國中の病度々の入用積り上て見れば、莫大の費となる、兎角當座の分別にてはならぬことと可レ知、或人曰、尤それなれども左樣に大分物を入ば誰もなすべし、今此困窮に五千俵の米を出せと云ふは、今にありてはならぬことを申さうにて有べし、予曰、朱子浙東の饑饉を救ふべき命を受られ、度々上へ米を願し時、米をば出さで只救へ〱と催促なるにより、朱子申上らるゝは、無麪傳飩は作るべからずと、是意は米の粉もあてがはずして團子をして出せと云にひとし、上の云付大の無理也、然れば此

川普請も多く物入なく、無﹅患樣には聖賢の才にてもならぬことなれば、只今いかなる名人出たりともいかゞ可﹅致や、去るに依てこそ前にも云通り、仕置と云は、永代の慮をすることそ仕置とも云へ、當座の入用をせりて永代の患を遺すは、俗に云小利大損也、旱の年は此普請は費と見ゆれど、其費をして置故、洪水の時取かへすなり、ヶ樣なることは大名の身上にあづかることとなれば、小智にして成がたし、見﹅小利﹅則大事不﹅成と、是亦仕置の大事也

土州にて野中氏仕置をせし時、一の沼川あり、石一ッもなし、是により魚寄ることなし、其奧山より月々柴船の來るに申付て、下る度每に手ごろの石を四ッでも五ッでも、勝手次第に船のはしへ入て此川へ棄つべしと云付たり、別て太儀なることなければ、日々柴船の往來するに如﹅此したり、當分の何の益も見へねど、今は此川石川に成て、香魚大分上りて上の重寶となると云へり、此等のことは小事也と云ども、是以野中が仕置の心入を可﹅見、世間の人皆己一代にしるしを付んと思ふ故、外の難儀なること多し、國家は長久のものなれば、永代どこもかも能き樣にすることそ仕置とも可﹅申、夫に付近年諸國の百姓の體を見るに、不作は未進すれば、其村の年貢米を町人莊屋百姓の勝手よき者に奉行より裏判してうけ合せ、公儀は夫にてすめども、利にくゝられて百姓の不益大分のこと也、米借し金借しするものも慥かなる借しもの故、鄕方〳〵へと通手を以て借したがる故、百姓借りと云へば自由になりてよきに似たれども、積り〳〵ては上げも下ろしもならぬ樣になる故、そこでは横にねるより外の

ことなれば、かの借し方の者は堅き約束にて借したれば、其代りに田地家財にても取立んといへども、元より地頭への年貢に借りたれば、自分の借りにも非ざるは、とやかく引する故、果は京大坂の御奉行所の公事評定へ出る様になりて主君の名を汚し、仕置の不ㇾ宜事も公邊までも露顯し、苦々敷事へとなること國の守護とも可ㇾ申や、地頭よりも捨置れぬことゆへ、扱人などとて借主へ詫言にて、少少の金を出し其餘は借し方の損になりて、漸々百姓は借錢なしとなりたる様なれども、又借らねば事不ㇾ濟其あげくは借し借り不自由になりて、田地を賣流浪する者多し、詰る所は人主の痛となること歴然也、宋の王荊公が青苗の法を行ひしより、民悉く痛んで天下衰微の本となれり、是は公儀よりの仕置なれども、其告程朱常に是を辨ぜられたり、何と考ても大名は上方町人の仕送を賴みにし、百姓富人の仕送を賴みにする様にては、全く君民安堵すること思もよらず、漸々に困窮より外なかるべし、只一年に事を濟す分別にては、國民を治むる事覺束なし、當時貸てさへあれば、いくらもかり込合點にては、いづれの世帶とても頭の上ることはなきに、百姓は國の本なれば尙以のこと也、夫故堯舜の時は天下九年の儲あり、之を上とし、六年の儲を中とし、三年の儲を下とす、只一年の儲あれば國危しと云へり、今は一年の儲さへなくて、其年の物にて其年を仕舞ことならず、人の物をかりて償ふことなれば、不意に少々物入こと出來ると、一番に金を借る支度也、世につるゝ風俗にて過分になる習なれば、無二是非一ことなれども、仕置者は爰にこそ思案あるべきこと也、堯舜の時は世も質素にし

て天下に物入と云こともなく、御殿も茅ぶきにてすみたる世の中なれば、九年の儲もあるべし、夫は今の世のふみ廣げたる風にては成難し、其時分下と云る三年の儲あらば、後世にては上の仕置也、今天下泰平なればこそ事ずみもすれ、萬一兵事もあらば何を以て兵糧とすべきや、其時は家中に妻子を饑さす者多るべし、水損饑饉にあへば、家中の知行を引取と云こと土地になきものなれば、無理とも云れねども、是以儲なき故也、周禮に荒政とてけ樣の時の仕置段々あること也、家中の士たる者は上にも難義を蒙り給へば、下も同前の難義をすべきことぞと全く上を怨る心はあるまじけれど、夫は人主の心とする所に非ず、地になきものなれば是非なし、少し取れと云はきこへた樣なれども、諸人を養ふ人の云べきに非ず、當分の扮にしてケ樣の大變を可レ救備はせぬと、堯舜はてきと申さるべき、七年の病に三年の艾を求るなれば、遲くとも人主は此心得あるべし、變は天地の常にして、必五年三年には有物なれば、其大變を防ぎ鎭るこそ守護人とも人牧とも云べけれ、せうことなしと云て捨置は、人の司たるの道にてはなし、朱子所々の奉行に被レ成時、公儀へ拜借願ふて村々に社倉と云ものを付置れたり、此社倉と云はさま〳〵處し樣あれども、大要村方浮米の仕樣也、譬ば其處相應につもりて公米を利なしに十年の元居に借りて、世間なみの利足をかけて其村の未進方入用に借す、十年すれば倍々するもの故、元米を公儀へ返濟して、餘りを其村の中間米とし、嚴敷制法を立、いかなる入用にも公儀へ不レ渡、尤役人の自由にならぬ藏をこしらへ、年々取立て、後には世間の利足よりも安くして

其村の百姓ばかりに借して、一粒も外へは不レ貸、村の諸入用褒美米なども此内より出る様にしたる者也、然れば百姓吾物を借りて利を出せば、我物ふゆると云ものにて、外々へ利足を取らるゝことなし、年々を歴て大分になれば、貧民を取立公用の便りともなりて、公儀より世話せねども百姓難義せぬやうになる者也、其作法を社倉の法とて、今に有て山崎氏板行して世に行る、諸國學術より政の出ることを知ねば、誰れ取上て重法する沙汰もなし、重て賢君起り給はゞ、朱子山崎氏の功も顯るべき時あらんや、會津の源中將樣山崎氏を用ひられて、誠に少々なして御覽ありしが、殊の外良法なりと見へたれども、先公儀より米を貸すと云に役人氣をこむ故、中將樣御隱居以後のことなれば、御遠慮もありたるか廣くは行はれずと也、是も社倉と云ずとも、郡代代官たる者己勤る內ばかりとするくせをやめ、役義は永代のことなれば、上の爲下の爲に何とぞ郡々浮米を出來す謀をなど爲ざるや、五年七年の內には目には見へねど、年々積りては借りせたげられずとも、年貢は滯ふりあるまじ、とかく長久の謀ごとなきこと可レ悲、郡賴母子などと云も仕樣にてなる程可レ宜

さて又聖賢仕置に常平法と云ことあり、是は米穀の平均の直段也、天下は云に不及、一國〳〵も海邊は出船入津心の儘成る故尙以成ること也、譬へば一石に付六十目なれば國中の爲宜し、上下押なべて平均と定て、豐年には米段々下る時は、公儀より所の米を段々買込故次第に上る、六十目になるまで買込む、又凶年にて米少く段々上る時は、此米を出して段々に賣出す故、あつらへの直段に下る、一

分〳〵をきざみて直段公儀の心儘なり、差當り公儀の損の樣に見ゆれど、易き米を買込高き時分賣出す故、雙方のもめ合にて損はゆかぬこと也、根本下の片落なき爲にて利倍にはせぬ故、損さへなければ公儀は堪忍する合點也、如此に直段を公儀の權にする故、町人買置しめ賣することとならねば、各人を取出す詮議にも不ㇾ及、獨買置はならぬこと也、左樣にては中買相場商の爲あしきと云へど、其者の爲とて國中のなんぎに易へべき道理なし、今の如くにては相場は下の權になる故、米買共身上百倍の米も買込、直段をいどみ合、大博奕よりはるか上なる强欲を働き、虛說變事を云はやらし、一日の內も直段を高下し、さま〴〵もみ立る故、諸式米につるゝ直段なれば、彼につき是につき米の直段は第一仕置の要にて、あまり易くても高くても人の迷惑は同然の物なり、聖賢はいつでも上の權にする、此常平法と云こと、公儀にも夫程の金銀の餘計なければならず、一年切の仕置にてはとてもならぬこと也、社倉常平は古今の良法なることとなるを知て、常に其類を推て國所に從ひよき仕方も有べきか、心掛べきこと也、近頃亦一國の制法に米の直段を極め、出船入津をきびしくする所もあれど、夫は只領主賣米の爲よき樣にして、人のなんぎをかまわず、それは一國成敗とて、大私の仕置にて似よらぬこと也

近年上方にては、神社佛閣人の聚る所にて必游女町を建、並田舍大鄕には市をなし遊女を集め、天狗、賴母子、芝居、博奕所々の溢れ者夥く寄集りて所のにぎわいする、是いかなる義ぞや、聖賢の政に不

レ承こと也、孔子の顔回へ邦を治るの問答に、放ニ鄭聲一遠ニ佞人一と仰られし、芝居、游女國家を治るの砒霜石と云ことを可レ知、上方風俗の怠弱にして、男女とも淫亂の風俗、不義不作法を何とも思はぬ様になりたるは、全く此害によれり、黄檗の隱元禪師此國へ初て渡り、上方遊山所を一見して畜生國也と云へり、さりとは狼藉なる申分、日本人にしては聞て居られぬ無念のことなれども、大唐廣き處にても如レ此場はれたる不作法はなきと見へたり、初て見てはいかさま畜生國と云るは尤なることにや、昔はまだも田舍は風俗堅くして、所々の國主は嚴しく法度して猿牽手狂坊さへ游民とて住居を不レ許、國境より追歸したり、いづれか今は上方の淫風移りて男女いたづらになりたる、仕置者夫に心はつかて上方の風儀をよきと覺へ、人多く聚まれば所の繁昌と思ふこと、さて〳〵大なる了簡違也、淫聲美色は政の大毒、大概人も存たることなれば、長々云に不レ及、淫聲美色の至極、遊女野郎芝居より外になし、人君として萬人の上に立つ人耽り玩給ふは、さりとは苦々敷こととも云ふに辭もなし、箇様の心にて政務を執り行ふと云ては、誰か是を可レ信や、孔子魯國に用られし時、齊の國より女樂を送りたるを魯君三家是を受て三日見物ありし、夫より孔子暇を取捨にして他國へ立退き給へり、孔子何故に如レ此芝居をきらひ給へるや、人の風俗をそこなうこと是より甚敷はなし、譬ば草木の心に蟲入たる如く、當分は別て左様にも見へねど、次第〳〵に食からし、己れと倒るゝこと必定也、近年天下の淫風怠弱になりたること、淨瑠理、小歌、繪草紙等にても氣を付て見るべし、如レ是ならねば世間にはやら

ぬをしりて、或傾城遊女のことのみを作り出す、又上代は風俗堅く武器も有ゆへ役に立ぬことくるみに公平ことにてもすれば、少は皮もかゝれり、いかなる堅き仕置も是より風俗崩るゝ物故、段々と顔子へ仕置前を云聞せて、一の仕舞に是を甚放ち捨よと仰られしは、此處第一要とする故なれば也、魯國に孔子を用ひて政をしても、女樂を受たるよりばた／＼と崩たるに非ずや、然れば人主などはゆめゆめ淨瑠理、三味線、小歌にてもきゝ給ふものには非ず、況や役者、畜生共を可ㇾ翫や、日本の人皆畜生と云に非ず、畜生を寵愛して賞翫するならば、われも又畜生の中間たるべし、風俗をそこなへる大毒をしらで、今まで無處に是を呼集めて人々を惑し、多くの武士又は町人百姓の世倅どもも、たはけを盡し浪人の身になり、又は親兄弟の勘當を得、輕きものは身上みだんにして逐電する、年々やむことなし、或曰、いかにも聖賢の政には左樣もあるべし、なれど今日の俗政は左樣にかたく云てもならず、先金銀設ことなれば世間並にゆるさねばならず、已むことを得ざることも有べし、子曰、金銀山の如く其處へ設るとても、人たる者不義なることをして金銀を設ることは、人たる者の本意にあらず、何にても義理のかまいなく設ることあらば、許すべしと云はゞ、も一拍子にては盗をして只取るより外のことなかるべし、そのうへこれを所の賑いと云こと全く不吟味也、處々の役人己々が數奇に任せて何の考もなく公儀へ願を申を、信に受て許せるは至て拙き政に非ずや、夫昔より市を立ると云へるは、いやでも人の會ひあつまる所、さては日本にきこへ渡る神社佛閣の地、諸方の津を考へて市

を許す、豐後の濱の市、藝州宮島、備後の鞆など方々の寄合處ゆへ、大分米穀さま〴〵の家財を持より、諸方の通船をかなへたるものなれば、呼あつめずとも芝居遊女なくても人は寄來ること也、慰一邊金遣に往者は百分一もなし、其眞似をして處々の津にて濱邊在中などに市をするゆへ、他所より來るものは十人にして一人、九は皆所の人也、同じ國同じ人の内にて執行すること故、第一市も不足、商賣ごとは少もなくても、家財を買にことかきなければ、誰もうりかいの望にてはゆかず、それゆへ芝居、遊女、天狗、賴母子あるとあらゆる惡黨をよせて國中の人を誑す、常には一夜の宿りさへさせぬ惡黨を、十日も廿日も各別にして許すと云仕置いかなることぞや、さて所のありさまをきけば、一門一家方々一日知人まで尋來りて滯留し食立られ、家々すぎはいをやめ、妻子家來まうは〳〵として二度も三度も見物にゆき、其費入用大抵のことにてとまらず、芝居を取立る入用、其内の造作、役人の飲食、旁々算用すれば市を仕舞軒割にして、今配する所五十日なれば、費す所は三百日もあり、すれば五十日設て二百五十日の損には非や、只役人ども世話して妻子どものなぐさみを企るより外のことなし、鄕方にて農業いそがしき時分にても、一度は見物せではと其日暮しの者まで錢を費し、年々あしき風を見習ふ故、下男までも髻に伽羅の油を付、ちと身を持たる百姓は、市の晴とて絹裏の羽織を拵へ、何となくなまかは者に成て、つまりは田地をうるより外のことなかるべし、すれば所の繁昌にてはなくて、是より衰微の始りと知るべし、仕置する人第一仕置前の義理を不ㇾ知、其土其土地の吟

味をせずに、さしあたり人の云まゝにゆるすは不明の至極に非や、金銀設てさへ不義なることを、況や其處の衰微に成ることをうか／＼と許すは苦々敷ことども也、さて又夫さへ可ㇾ有に、他の領内の境へ持て行て是を興行し、他國の金錢を吸取はかりごと是いかなることぞや、隣國は互に申合て吾人よき樣にこそすべきに、隣國の患をかまはぬこと、白圭が水を治ること、孟子以ニ隣國ㇾ爲ㇾ壑と譏られたるは、同く此事に非や、其上他國の金銀を取るとて己が領の金銀を失ふ、諺曰、土佛の水狂ひに均しかるべし、或又曰、尤しごくのことなれども、近年仕置する人是を知らぬにてもなけれども、所いたみて上への年貢とゞこほり、未進有を申立るゆへ、無ニ是非ㇾ許すと云、予曰、それは沙汰の限り也、公儀へ納る年貢米は神明へ奉るにひとし、搗るさへ不淨なる手にはかけさせぬ筈なるに、遊女芝居の代物を貢米に奉ること勿體なきこと也、箇樣の事申出さば、急度曲事にこそ申付べけれ、つら／＼世間の仕置者を見るに、器量ある人ほど是を許す、其心をきけば、今まで小器ある人是を許せば、必喧嘩躁動の出來ることを嫌ひ、何のわかちもなく無用／＼と云、奉行は其騷動のしづめ、扮くべき物なれば、それがやかましきとて所のものゝ願ふことを許さねば、不器量なることと云、いかにもして器量有て手廣き扮きとは見へて、全く仕置の義理又は土地の吟味を不ㇾ知に非ずや、

政は風俗を本とすることを可ㇾ知、風俗そこぬるは天下の亂兆也、とかくに風俗に氣を付ぬ仕置は、なにほどよくても俗政なり、大學新民の政はこゝを肝要とする、されば忠孝學術も風俗に立てばやがて

剣げる物なり、風俗になればこそそけてもをちず、聖賢の政は此二字を大根本としたる者也、孔子魯へ用ひられしとき、少正卯を一番に成敗せられしは、此者盗人にもあらねど、士たる者の風をそこなへる者ゆへなり、俗政は是を知らで當分の損徳ばかりに目を付る、淺ましきことどもなり

聖人の惡むところは游民と豪民となり、游民は四民の所作をばなさで、國土の米をくらいつぶす者を云、豪民は金銀多く持て利借しをする者、豪民をきらへるは小民皆これに吸取らるゝゆへ也、莊屋などに勝手よき者あれば、所の貧民は皆取稿さるゝ者なり、その上よきをば好む人情なれば、自然と奢を見習ひ、村がら惰横になる者也、豪民あれば未進をうけ合公儀の用事をきゝ、所のかざりにも成と覺ゆれども、仕置前はかやうに民の身上を偏よることをきらへり、身上平均する時は品をこゆる者なく、農業にのみ專なれば民の風そこなへることなし、さればとて富人を取つぶし、無理に得濟を行ふて損さすべきには非ず、上古聖人井田を行ひ民の身上を平等にせられしは、根深き政と可レ知

軍家に老將は可レ用、若卒若將は可レ用二老卒一と云、是人を用ゆるつり合なり、老人分別はねばきものゆへ、年若のさらりとしたる分別を可二取用一、若き人はさくきもの故年老のねばき分別を可二取用一と、軍事のみに非ず、仕置前も此心なり、さて役人には大器なるも小器なるも、各使ひ處有て入用也、仕置者は其二ッを兼たる者なり、小器なるものは世帯方の役に付てちりほこりを集さすべし、塵ほこり

をあつめざれはつもつて大穴あくものなり、大器なる者は公儀前のこと、又は大變の時などには一分別もあるものなり、國天下の事なればとてすべて大扮さばかりをよきと思ひて、ちりほこりに氣を付ずは大成るさはきも出來ぬ也、米一撮をあつめて山とする道理をよく考へ可レ知

役人をつかふに、いかにも其者の存寄存分を伏藏なく申す樣に可二仕掛一、その上にて是非を考へ、用る不レ用は吾に有り、事を問掛て其意御尤と受るものは用に立ぬ者と見、少しも其威に恐れず其事を云明かし、道理のある者を用に立者と見て、是に以後目みせよく能く役に轉じてこれを用ゆ、是により諸役人勵みをのれが存念をのこさず、只座に列なりいつも默々するは己と恥るやう成れば、下情よく通じ、役儀〳〵の手筋盡く知れべし、世間は大方さはなくて上に立人へ理屈を言ば、推參者にして必罰をあてる、是によりて役人縮みて何を云れても御尤〳〵と云てすますゆへ、前にも云只取次役のみにて上下情不レ通、相互に私曲のみ出來ること必定也、上の威光をかりて下役を權づよくあしらい、己一分をたのみにするときは、諸人の智惠を防ぎすつるなり、人才よりつかねば、只日々諂もの多く成て、それをのせ物にしてつまりは依怙私曲も吾不レ知出來る故、果口は散々になりて淺ましく成はつる、范魯公所レ謂不レ知三以レ汝爲二翫戲一、皆諂ひ者どもの持遊びになりて身上打果すもの多し、理發なる仕置者ほど必權づよく依怙ありて、己が氣にいりたる者、吾に筋目ある者を取立るゆへ、諸家中諂ものは飛廻り、心ある者は引込む風儀となる、仕置もの能可レ考事也

仕置者は第一依怙を可レ嗜、依怙あると諸士奉公を麤末にすること目前なり、又依怙をせぬとて、餘り嚴しく少のことも了簡せざるは不仁也、孔子政を問る答に、赦二小過一とおほせられし、如在なき無調法は了簡して人をそこなわぬやうにすべし、此レ如ならざれば人上に懐かず

仕置者依怙なき人もあれどね、必不理發にして毎物埒明かず、間々よき人ありても取出すこともならず、善をも賞せず、惡をも罰せず結構一邊の人あり、諺云、毒にも藥にもならぬと云なるべし、是亦諸士のはげみなきものなり、されど發明にして依怙つよきよりは優れり、兎角いづれも學術なきゆへ、國家は政の大事永代の仕置にて、當座量簡一人量簡にはならぬと云ことを不レ知、御名代をして輔佐となるべき人、學文なくしてなるべきことに非ず

近年役人の風を見るに、不考にして云損ひ仕損ひたることありて、先方より咎めきたれば、非をかざり理を付て一分をまけず強ひ辨ずるものあり、それ故何ぞでは必あてつけらるゝ、是いかなることぞや、彼所より云出せること二篇にては役人の威光なしと云、是大私也、役人又は目附役などは別して、正直にして、たま／＼云損ひたることは先より咎めずとも、此方より其通を云あらはし斷を可レ云、これ役人の正直にて人の非を正すべき本なればなり、さはなくて己が情をはり人を言ふせるものを器あるよき役人とし、それに張合ふものをあてつけ取倒し、とかく頭から毀さする仕形也、是が役人目附は人の非をたゞすと云の心術にてあるべきや、昔孔明政を專にせし時、吾仕損ひある時は上へ願を云て位

を下り、己と過失を書り諸役所へ是を觸知されたり、夫とて諸人吾不調法を觸あるくとて笑たる人一人もなく、其正直を感じいよ〳〵德になづきて、人々吾非をかざらず、これこそ天をも不レ欺、人をも不レ欺大賢と云べし、程朱此人を王佐の才と稱せられしは、才智ばかりを云にてはなし、此正直の心を可レ見、役人には不レ限、人主とてもそれほど高慢にては人の上に立られず、綸言如レ汗、出て再不レ復といへども、それも事によるべし、いかにも信を人に立つべきことは再び復らぬがよし、人主たる人は一言一句も其出さゞる前によく〳〵遠慮愼なるべしと云こと也、過たることを再び復へさぬは大きな無理也、「君子之過也、如二日月之食一焉、過也、人皆見レ之、更也、人皆仰レ之」と云、「小人之過也必文、」と云へる經文有難きこと也

衣服の制法諸事儉約の條目は嚴しきがよし、今花美に長たる世間なれば、有來るものは可レ用と云はをとなしくきこゆれど、それでは勝手にはならず、いかにも初は下々の絹類も剝取り過代取ぼとにするよし、手狹くせはしき仕置のやうに覺へて、人々はどこでも叱るもの也、それに貪著せず、急度申付るがよし、後には人々の勝手になる故、獨と守り誠に尤成ることゝ思ふ者也、子產政をする時奢者をかたひしにひしぎし故、人々わるく思ひてあれども、後には我父母なりと云ひき、初手より結構過たる仕置は針ごたへなく、自惰落になりて上の法度を畏るゝことなし、内中を見られては仕置は不レ立、底意に物を一ツづゝのこすもの也

先規より替置たることを平生入用なし、費也とて妄に除き改ることなかれ、當時は入用になくとも古代より設たる意味よく〳〵考へ、いよ〳〵無用に極りたることは除くこともあらん、昔孔明蜀を治し時、蜀の地四方險難にして他國よりは打入べき國にあらざれども、一ツの間道ありて敵忍び入べき所一ヶ所あり、此所に兼て番所を建て常に人數を置、制札を立て永代此番所を除くべからずと書けり、孔明歿して後に、常に無用の人數備へをくこと費なりといつしか引あげぬ、果して魏の大將鄧艾此間より忍入て大に不意を打、蜀を一時に責をとしたり、孔明の制法を守らば如ㇾ此無下に責をとさるべきや、鄧艾忍び入り此處を過る時、番所の遺りたる體をみ、制札の條目をよみて、あゝ天下の英才なりと孔明の遠き慮りを感心せり、獨軍事のみに非ず、仕置前にも箇樣なる類多し、よく〳〵吟味して當分の費ばかりを目がくべからず

或人曰、予が論をきゝてなるほど一通り尤ときこゆれども、只儉約質素を本として、大名の儲積をしてすりきらざることのみを第一ときこゆ、左樣に仕置前をすれば、大學に財聚民散ずの害あるべし且禮讓小さきに聞へて一國には相應にも見ゆれど、天下などの仕置には不調法也、左樣にかたづまりにて義理がちに云ては通遍なきに似たり、予答曰、夫財は天下日用の根本にして、治亂のかゝる處なれば、人々上下とも大切の物なり、夫故大學平天下の章に、これを大事とて財の偏よりなきを以て平の字をとけり、人主財の重寶計を知て、民をせたげ一人に私すれば民散りて大亂の基となる、それ

によりて生ㇾ財有二大道一と云ことを述べられたり、其大道と云は、無用の奢をやめ費を省き、儉約を守、財を儲をく術也、何ほど仁心ありてもすりきりては民を救ふこともならず、家人を扶持することも、難義をすくひ加恩褒美を遣すこともならねば、財は義理を行ふ脚と可ㇾ知、然れば國家をたもつものは專ら勤べき根本也、年貢をまし民財をあつむる術にあらず、人主のをごるべき爲に儲る財にあらず、皆國民家來を救ふべき爲なれども、今時は民を救ふことはさてをき却てせぶりせたげ、家來は定りの知行さへ引上る、これを國君人主とも云べきや、辭の上にて結構を云計りを仁愛とするは不實と云べし、只無用のことに費さずして、手前よりへぎ出し下を貪ることなく、下々も是を妄らず儉約を守り、身上相應に暮し、自身よりうみ出すこと也、侍も知行相應に暮し、少しづつ其内よりへぎ出して儲をすれば、上の苦勞にならず、奉公前も一分のつとめをして、明日何國へ供するとも、不意の早使をするとも、一錢も人の世話にならぬやうに心掛べし、大きなる武邊は金銀なくてはならずと古人も云り、先よき札の具足を持、よき馬をつなぎ、能郎等を扶持しおかねば目に立武邊ならず、大名侍はすり切ても立もの、誰れも打殺にも來ぬと云るは、借錢して人に損かけるえせ者の云へることと也、大名侍ほどすり切りてはならぬものはなき也、人々箇樣に金銀を大切に思ひ、無用の費をやめ、餘義なき暮し方のみして身上持よければ、上下互に平均に成るべし、聖人の政には平均を大事として、妄に大設をして一夜長者に成事をさせず、人々家々如ㇾ此にならば物の直段も平等に、四民ともくつろぎて、

それよりして忠孝人倫の道も行はるべし、然れば國治り天下平なる仕置なるべし、一國の仕置には相應なれども、天下には小體なると云ことなかるべし、尤天下は天下の事體あれば、事によりて一同にはなけれど、畢規矩は一ッなり、天下とて手をひろげたるものには非ず、一國〳〵のくゝりあつめを天下といへば、一國を治るに宜ければ、天下を治るにも宜し、たとへは大屋を立るも小屋を立るも、規矩合は一ッもの也、大學に「欲ㇾ明ニ明德於ニ天下一者、先治ニ其國一」と、孟子云はずや、天下の本は國に在り、國の本は家に在りと、吾子能思ㇾ之

右に餘義無き暮し方のみをすると云は、右の風儀になれば金銀大切になるゆへ、人々無用の道具を不ㇾ調、是非につまりたるものばかりを調るゆへ、花美なる道具をうるものもなく、無用の物を買者もなし、たとへば百姓は米をあまして農具をあつらへ、鍛冶屋は農具を打て飯米にかへ、天下皆手間がへにて立つもの也、是を天下は交易して立と云なり、孟子の「有ニ大人事一有ニ小人事一」と云るも、畢竟は手間がへのことと可ㇾ知、然れば前にある結構なる遊道具をして富人に金を遣すと云は、如何なる道理ぞや

或問、聖人の政にも隱し横目と云者あるべきにや、予曰、いかにも可ㇾ有ものなり、さやうの者なければ下の事狀政の批判上へ達しがたきことあり、然れども隱し横目と云からは、人の不意を窺ふものゆへ、仕置者よく心得あるべし、箇樣なる者は人の氣の付ぬものを目利して申付るゆへ、多くは輕き

者也、此者の云ことむざと眞うけにしては、むざと人を取損こと多かるべし、日本の法にも目附横目と云て目附は急度侍を選みて申付る、役横目と云は又一段輕き者を申付て、目附の直不直をうかゞふゆへ、横合より見ると云を以て横目と云り、すれば目附の横目なり、箇樣の定りたる役人てさへ言ことを眞うけにはせぬ物にて、よく其相よみを取り考へ合すべきこと也、況や隱し横目は輕き者にして、隅々へも行通ふものを云付る故、申すことを了簡してよく相よみを考へて用べし、人の陰惡をきき出し、人を取倒すものとのみ思べからず、此役を設る主意は下の迷惑して上へ難レ通こと、政の批判をきゝて手前の心得にするを第一とすべし、さま〴〵裏屋小屋のことまでをきゝ出してせは〳〵しくあらば散々のこと也、唐の德宗方々へ間者を出して存よりもなきことをきゝ出して、宰相大夫をおどしめ、平相國の十人の童子を洛中へ出し、甲州の信玄高坂彈正にさへ間を入られしことども、先ははしたなく刻剝の筋にして、臣下の歷々をあしらはるべき道にあらず、民免而無レ恥の患もあらん、これをたのみてきめる心にては只上の恐れあやぶむのみにして、中心よく歸服せぬ者也、又は忍すつぱ嗅物聽などと云、治世にもあるべきにはあれど、亂世治世ともにこれを遣ふことには、いかにも心得あるべし、遣ひ方大切の者なり、これによつてこそ間は「非二聖人一不レ能レ遣」と云へり

文王の政に鰥寡孤獨の四民を先とせられしと云は、富人は飢饉に逢ても兎も角もなれ共、只便りなき後家寡の類ひこそたれ世話する者なければ、是をかねに立ること先は人君の本心なり、さて事實を以

て見ても、是を曲尺に立ざればいつでも曲尺はあたらぬ者也、然れば百姓は水飲百姓を仕置のかねと見、家來は足輕中間をかねと可レ見、大旨世間の下への施を見るに、只百姓は頭立たる者をかねにし、家中は大身なる者を曲尺にする故、いつでも小民小卒はのこりて恩澤届かず常に怨不足あり、小民小卒をかねにして施をすれば、富人大身へも相應にかねはあたるものにて、末々まで届と可レ知、是へとどかされば、平等の政とは云はれず、たとへば一から十とよみ、又十から一へよみ戻す心得なれば、いつでも平等なりとしるべし

或曰、子が論固根强滯の言と聞ゆればも、當世の仕置者はは遠く存るなるべし、予曰、さればそれは尤なり、さるゆへに始仕置と云義を說るは、そこを可レ申ためなり、昔孟子齊宣王へ仁政を說けれども迂遠而濶二於事情一と、世俗の目からは古今ともに左樣に見ゆるものなり、人々妙藥を信じて本道の藥を不レ信、是以今道不レ行、孔孟時に不レ合ことむべなるかな、可レ悲して可レ嘆

燕居偶筆卷之下 終

此編不レ著ニ撰人名氏一、或云大月氏所レ著亦不レ詳ニ何許人一也、夫治レ病者必有ニ其方一、而貴ニ先明ニ其證一焉、昔者扁鵲、飮ニ上池水一明ニ五臟之癥結一、而病乃無レ不レ可レ治、古今流俗之通病亦多矣、此編所レ論繩引規切一一中ニ其病一有レ益レ於ニ實用一、然世之病亦恒在レ欲ニ矯レ弊圖一レ治、徒事察察不レ本ニ諸人情一、夫人情所レ不レ樂、則不レ可ミ以從ニ事於一レ久、不レ可ミ以從ニ事於一レ久則非ミ唯不ニ克濟一、災亦隨レ之、故先王必因ニ人情一而施ニ之治一、是亦不レ可レ不レ察焉

藤森大雅識

救餓大意

附社倉略法
社倉法大意

三輪希賢著

救饑大意

附社倉略法、社倉法大意

三輪希賢著

三十年來御静謐にて豐年打續、吏民共に餓死の事を忘れて其備なし、たとひ未然にふせぐ心有人ありとも、世間の花美と國用の費、公役の勤に事不レ足ば、明日飢民有までも、其支度する事不レ能、夫運を以て見るに、天下一變して、上下共に大方一とをり改まりぬれば、三十年一世の變にあたれりと見へたり、近年陽氣盛にしても地方漸盡ぬ、何れ近きうちに飢饉あるまじきものともみへず、若一旦これあらば、國君は三年の畜もなきほどの方多く、公儀とても打續きたる御物入にて國々の御貯米多く可レ有様にも無レ之時節なれば、大分の人民を飢饉せしめて、日のあたり殍死を見むこと、いたましきことならずや、今より其心付にて、社倉などをなして其備あらば、猶間にあふ事もあらん、されど夫は私領の分こそ心儘にもなるべけれども、京、大坂、江戸など町中の者には、此法も施がたからむ、然ば農民には社倉をなし、町人には時にあたりて救ふ法有べし、社倉も古法になづみて本意を不レ知ば、不斷のみならず、必其害有べし、差當りて財寶多く入りて難儀なるべし、上に少の費なく、下にも少のいたみなくして、一年に壹萬石の所にて、百石宛の社倉米出來る法あり、志ある人の爲にかたるべし、飢

民を救法、三十餘年前京師大に飢て、死人ちまたに滿り、仍レ之北野幷東河原におびたゞしく小屋をかけ、粥を煮て養ひたまへり、仁心仁聞ありと云へり、然れども目の前の了簡にて、深く考へ給ふに暇なかりしにや、却て費るのみならず、死人益多して壹人のすくひにはならざりしなり、其仔細を段々下にのべ侍べし、小屋を大にかくるには、先二三日四五日には出來せず、其間餓死のものまたす小屋の物入を米にして救はゞ、大勢助るべし、小屋場京の內にてならざれば、必北野邊東河原邊なり、飢民それまで足をはこぶ、其中行斃るゝもの不レ知レ數、たとひ僅に粥を得ても、飢民遠路の往來には腹うへて不レ得も同前なり、是惡で費たるなり

京中一二ヶ所の小屋にて、京中の者を聚る故、夥しく推合ゆへ、無力の飢民はたゆること能はずして、死に至るものあり

大勢の事なれば、役人も多からねば、ならして役人に與次郎（乞食の惣名）と云ふものをすれば、此飢民には如何樣の者可レ有も難レ計、殊に乞食に支配さするは無禮の至なり、其中にもあまり飢ぬ力あるものは、老少幷に力なくよろばふものの食を奪ひとる騷動あり、夫を制するとて棒を以てうち倒す、依レ之痛もの夥多、却て不仁の事となる、是及ざる事なり

大勢の食なれば、時刻をきわめざればならずして、大方四ツ時に小屋の內へ入るゝ、未明より來て寒氣病氣にあたりたるもの、四ツ時まで待て飢死る者有、大勢にて吟味ならざれば、有レ力ものは二度も

受早く請るに、無力の飢人は押合よろばひて、遲く請て一度も全くは不レ食、たとひ今日受ても明日うへ、又宿まで歸る事不レ能して、野に臥て寒氣にあたる者不レ知レ數、野陣にて小屋をかくれば、雨風雪雷の時は不レ能、なせともいたみ死す

惣じて食を賜とあれば、手前にて少づゝもらくるものも、夫をやめてもらふゆへに、無用の所へ費ゆる鍋、釜、桶等大分の物入多し、右の外吟味すれば、大分の費どもあり、然ば此施行の害は多けれども利益は見えず

右の害ひとつもなく、飢民すくなく、天命は不レ知、壹人もころさず、右の米千石の所には五百石をも不レ用して、役人もいらず救良法あり

問、小屋をも不レ懸、釜桶の類も不レ用、役人もいらず、飢民を歩行させずして養事は其町々の者共へわたすかと云、否、夫にては町人難儀すべし、又問に、盜取るやうなることも出來、町代役人などの私も出來ぬべし、然ば如何して救ふべきや、云、されば其良法あり、されども志なき人にかたれば、一應の噺になりて、必其事行はれざるものなり、外に樣々の邪魔も出來、やかましく成て却て益なし、故に其人ならでは語るまじき事なり、されども其法をしるし置侍るまゝ、夫を秘して自分の了簡にてなし給ん御心の上にて、御考のため一覽あるべし

饑饉にてかたはし飢饉るゝ時には、先第一京都ならば、上下東西の乞食小屋、幷穢多村嶋原へふれを

なして、乞食村にては乞食頭の者、其村中の飢に及者を壹人も外へ出すべからず、其内にて一日に壹合か、壹合半の粥を煑て養ふべし、壹人にても其村より飢人を出し、町中にて死せしめば、その頭は追放たるべし、夫乞食頭の者其次なる者も、常におびたゞしく金銀を貯居る事なり、頭より其次なる者へわり付、相應米壹石か或は五斗づゝ出させて、毎日其女房などに煑させて、及レ死類の者をやしなはしむべし、穢多村同前たるべし、嶋原の者にもくるはあげ屋などと云て、大分富たる者多し、其富たるもの共其内の餓死に及ぶべき者に粥を煑てくはせ、壹人も外へ出すべからず、若外にて嶋原のものとて餓死する者あらば、尤追放たるべし、品により死罪なるべし、乞食も常々町中へ行て、定たる方ありてもらひありくものは其通り、さなき者は門に番をすへて壹人も出すべからず、是にて大分の餓死の人途中往來の害なきものなり、鼠盜の類もやむものなり、凡乞食の手に入たる金銀など、二度外へ出る事なければ、ケ樣の事にて同類を養はするも、其者共の爲にも冥加の事なり、日頃町中にてやしなはるゝ報恩には、かやうの時盜賊の亂行をとゞめ、見苦敷者を道にたふれしめぬとも、亦至極の理也

町中にても室町三條などの繁昌地にては、如何樣の飢饉にても餓死に及者はなきなり、然ば邊土第一也、扨町にても小屋〳〵の其日廻の者多き邊など又其次なり

北野邊、清藏口、寺町、西院、丹波口、東寺、伏見海邊、粟田口などの邊を見立、貧人多き少きを見立、貧

人多きを見立、其邊の寺或は三ヶ寺、或は五ヶ寺、町中にては或は一ヶ寺二ヶ寺へ參じて、其寺にて粥を煑てくはすべし、寺僧も死をすくひ人をいかす事は元來の役目なれば、とくと合點させて、その寺の釜桶を用て煑とゝのふべし、役人も外より不レ用して其寺の僧下人にすべし、是にも又法あるべし、法は一ヶ寺に人數百人と心得べし、粥の米は精貳斗なるべし、夫を一日兩度用ゆべし、先づ朝壹斗調ふ、先寺の門をさして、門の外に與次郎二三人程番に付置て、未明より粥を煑て少しさまし、桶いくつにも入て、米にて壹合程の積り入るゝ柄杓を多く拵て、夫に一盃づゝくみて、壹人づゝ門を入れさまに施すべし、夫を受たる者すぐに內に入て、寺の內にて食べし、かくのごとく百人までとらすることは、半時もかゝらぬなり、夫をくみてあてがふものも、其食をうくる者の內をえらびて、二三人づつかはり〳〵にさせ、其者にはおはりに又一ひしやくづつあとふべし、至極うゑたる物には多くあとふれば死するなり、用捨あるべし、あまり飢ぬ者に粥をくますべし・寺の僧にても下人にても壹人かゝり居れば、壹斗の粥を煮るにはあまる事なり、百人に滿て粥盡る時は、門をしめてもはやいれず、扱粥を施にも門外の與次郎は不レ及レ申、寺のうちの者にても、とせよかくせよと慮外なる言葉を出すべからず、乞食の分は門とめにて、出ぬからは皆町々者共なり、然者御公儀樣より粥を被レ下候間、難レ有存しいたゞけよなどして能あいしらふべし、先施べき日限を定めて、京中洛外迄ふれをなして、何の方角は何方の寺、何方はいづかたと定ていたゞきに來る、一日貳合粥を下され候間、其心

にて參候へと申すべし、しかれば一ヶ寺百人のつもりにても、五ヶ寺にて五百人なり、京中邊土八所にて四千人なり、先ほどはあるべし、如何なれば乞食穢多嶋原をとゞむる故數少なきはづなり、其上町中にてはその邊の寺ありて、又五拾百づつほどこす故、さまでつきあわぬはづなり、然ば邊土にても五百人より上はあるまじ、扨門の內へ入て晩方迄門をさして不出不入なれば、外にかせぎて三合ももうくるものは不來、又至極の飢人は道をありかぬゆへはらすかず、若風雨雪霜の凌がたき時は、門の下、鐘樓の下、或は堂の內などに居てしのぐべし、是雨ふりにも行はるゝなり、或草履を作り、その外所作をなさんと欲するものは、わらを持來て寺の內にてなす事をゆるすなり、扨又晩方に及で、又朝のごとくして、又壹合の粥をくみて壹人づゝあたへて門を出すべし、然ば一日に二合づつの粥を時節よくくらへば飢死は無となり、若亦宿もなくて野にふせるものは、すぐに此寺の內門の下堂の內に居さすべし、扨病死か又は飢民の命盡て死るものは、かの門番する乞食に命じて、其寺の墓所にうづむべし、尤僧の役目なり、然ば京中にて五千人とつもればあまるほど有べし、然ば一日に白米拾石づつなり、三十日養て三百石なり、凡餓死するほどの事は廿日計りにてはやむものなり、然ば是ほどもいらぬなるべし、扨餓死は一人もなきはづならずや、扨釜小屋などの物入をはぶきてみれば、先年の三ッ一もいらぬはづなり、若亦それをも施べきとならば、其物入を積り、その半分なりとも、かの寺寺の僧の骨折にとらせてよし、乞食小屋などへとらせてもよかるべし、其上は如何樣ともなる事な

り、此を潤色する事は其人にあるべし、是大略を記也

扨又町中にても、少金銀ありてかやうの時には、寒夜などに粥を煮てもたせ出して施もの有、されども飢人およびたゞしく取付て難儀する事なれば、仁心あるものもえせぬいきほひに來てやむることなり、是も又上よりふれをなして、毎々飢の時はヶ樣の事有よし、兼々上へも聞へたれば、又此度も左樣の志ある者も有んか、必左樣にほどこせよと被㆓仰出㆒候にてなけれども、若存寄たる者有とも、方へ持出す事はすべからず、その一町の飢民にふるまふべし、然ば己が宅のおもて庭にてえさすべし、富町の一町にもさよふの者なき方にては、其横町〳〵壹丁にても二町にても、力の及ほどあとふべし、若それもいかゞと思ふ者有て、是非施度思ふものは、面々の寺を頼みて成とも、又は公儀より被㆓仰付㆒候寺の內へ又賴で、晝の食にえさせ成ともいたすべし、左樣の輩は寺々に記置本寺へとゞけ、誰々ヶ樣の施を仕たるを可㆓申上㆒、本寺より又書付て公儀へ可㆓申上㆒なり、寺にてすべきと思はゞ、寺の難儀にならぬ樣に人を遣はすか、さなくば寺へ其料をあとふべし、如㆑右寺を用る事當世の活法なり、諺に云る禍も三年をけば用にたつとは此類か、扨亦私に人の餓死をうれへて食にても施し度と思ふには、ひろくすくはんも力及ぶべきにあらずして、鄉黨は又相すくふの義も有㆑之、その饑をみるにしのびざる事有、ほどこさんとすれば、前に云へるごとく、饑人たかりて取付ほどこす事あたはず、のみならず却て害出來ぬべし、されば我が勢の及ぶほどをすくひ、費なき惠みやうあり、これはわた

くしごとなればしるさず、志ありてなさんと思ふ人よく〳〵考へば行べし

社倉畧法

古人社倉の法、いろ〳〵と時に臨みて行ふたるあとあれども、いづれも今に行ひがたし、其意を得てそのあとになづまずば、故意を失はざるべし、されば町を救と農人を救ことは同じかるまじ、土地の遠近にても政はちがふゆへ、國中は九一にして自賦せしめ、野は士にして徹すといへるたぐひをみるべし、今の時にして社倉の意を行はれたとならば、高壹萬石の所にては、年貢は四ッにもせよ、五ッにもせよ、四ッ一ふにする仕様あるべし、四ッ常免ならば、四の上に五厘民に出さすべし、君へ收る四ッを上へ、三分九半にとるべし、然ば壹萬石にては上へ三千九百石十石納て、下よりは四千五拾石上るなり、それにても元來民を十分に取りたる上なれば、さだめて出す事を迷惑に思ふべし、惣じて民より出すものは上の利にもならず、下の利にもならずしてすたるもの相應にあるものなり、吏のぬすむものあれども、それは却てわづかなり、其ぬすむよりして費しすたることあり、いかんとなれば、きつとしまりたる中にてはまぎらわされぬものなれば、米一俵掠めんとする時は、三もまぎらはしき中ならではならぬものなり、吏人も不届とは云へども、今迄あり來たることにて、おのれはじめて

かすめたるにもあらねば、一がいにとがとも云がたし、その合點にて大勢くらせる者を、今さらにすみなさんもむごき事なり、それもいたまぬよふにして、今よりはぬすまぬ樣に役替をして、あとより來るものは、その外のかくれたる費をはぶくならば、民の出す半計はうまるべし、そのわけを民に云聞せて、志ありと才あるものに吟味させ、無用の費をやめさせなば、たとひ半多く出すともまたよけい有べし、上よりくだすにも如レ斯の類多し、是亦吟味の仕樣あるべし、學に志なき人にさせば、下のいたみて難儀する事多かるべし、仁愛にても才なき人にせしめば、當分上の難儀たるべし、こゝにて兩方の除り百石を倉にをさめば、よき社倉たるべし、年貢も上へおさめてからは、わづか五十石も出すは大儀なるものなり、夫を半通りとらぬは取たるも同事なり、故に收納の時に行ふべし、當分は右の百石を莊屋に成とも預置なり、夏の中民食の乏しき時、歩食を願ふものあらば、夫に少づつ借べし、兩鄰庄屋の請合にてかすべし、利足は米十石にあらむき壹石を上げさせ、是も直に社倉として收むべし、五年如レ此せば、壹萬石の下にては元米五百石出來るなり、刈麥も又五十石も有べし、是にては大體飢死は免かるべし、若仕合にて十年豐年ならば、元米千石に麥百石も有べし、惣て飢饉の年は大方夏頃よりしるゝものなり、さやうの年は麥米ともに借べからず、米高くならば米を皆賣て、麥を澤山に調置て、窮民にあて行ふべし、夫にては百人救ものが、二百人はすくはるゝなり、きゝんの年は役人をまわして、一村〳〵村ぎりに吟味して、貧なる食盡たるごときの者ばかりを撰みてあとふべし、倉

米多く成て事欠ぬ時は、此法に限るべからず

社倉法大意

近年打つゞき大變多しと云へども、幸に民のなりはひすくなくならで、そのゆたかなる事類なければなり、されど諸物のあたい沸騰して、人々物の得がたきを苦しむ、是は其よる所あるにや、よる所といふは、此頃金銀を改鑄て甚あしくなれるゆへ、物のあたひ高くなれり、然るに人心は日々に浮花になり行、儉約にしたがわずして、貯有ものすくなければ、一旦五穀の實らざる年あらば、餓死のものすくなかるまじ、其時に臨で俄に是をすくはんとせば、府庫を空ふすとも及ぶべからず、國君郡主も公私の用に費多して、ゆたかなる年だにあまりなければ、たとひ志ありともその餓莩をいかんし給はんや、さありとも見ごろしにもなるまじければ、あらかじめ心を用て其備へをなすべき事、第一の急務なるべし、故に古聖賢民の產を制し給ふ事、三十年耕して十年のたくはへを存せり、一年のたくはへなきは國とだにいはずといへり、堯に九年の水、湯に三年の旱あれば、天地變は聖人も免かれ給はず、されど聖人はあらかじめ其備をなして、應變の道を盡し給へば、民の水旱にくるしむことなし、たとへば家に居る者の夏のあつきときより冬の備を設ぬれば、寒さにあたりてこゞゆることなきにひ

とし、暴君の世にも豐年は常に多けれど、花侈に民を虐すれば水旱にあへるくるしみにひとし、たゞ其備あれば、德禹湯にあらずと云へども、民は三代の澤を蒙る、若備なければ、仁心仁聞ある君といへども、民は桀紂が虐くるしむ故に、孟子堯舜の道も仁政を以てせざれば、天下を平治する事あたはずといへり、夫救レ民の法三あり、豫め備をなすは上なり、時にあたりて藏を開きて民をやしなふは次なり、饑にのぞみて粥を作りてわづかに其死を救は下なり、今の國君郡主平日の費だにたりがたくして、或は諸士の常祿を減じ、或は時に先だつて民に收むる人多ければ、時にあたりて藏をひらくべきにも積る米なし、飢に臨て粥つくるばかりの事もやすくはなし得べからず、只あらかじめ備を設ることは甚かたきに似て、志だにあればかへりてやすき所なり、それも時を失へば又益なきことあり、宋の蘇軾は數萬の費ありて民に一毫の益なき事は、遲かりつる故也といへり、今にあたりて王制の三年耕て一年の畜を存するの法は、もとより行がたかるべし、唐にてだに漢以來は其意を以て、時によりて法をたてたる人もあり、隋の開皇年中に義倉と云を置たるより、宋の世また其趣にしたがへる人多し、されど時異に地殊なれば、常法となしがたし、猶朱子の社倉のみ惠で費なしとて、象山の陸先生も其是を稱し給ひ、その兄梭山先生とこれを用ひて民をすくへり、それも吏に私あるものあらば行がたしとて、愼正の人を撰ぶこと第一なるより、司馬温公ものたまひて、陸子もまた此の言あり、此外平價の法とて米のあたひを三段にきはめ、甚年ありて下直なる時は、中のあたひを以上へ買上ケ、甚み

のらて高直なる年は、又中の直をもつて上よりくだし賣ことなどする法もあれど、是は日本にては津輕などいふ外の通用のなき國などは行はるべきか、さらでは天下一統の政ならでは、一國には行ふべからずして、それも君とみ給ひてゆたかなる時のことなるべければ、今の世にはあひがたかるべし、夫社倉とは、一社〳〵の地に倉をたてゝ米を貯置を以てこれに名づく、其法米六百石を上より請ひ受け、夏の頃民のかてすくなき時是を民にかし、利足を加へて冬是をかへす、みのりあしき年はその利の半をゆるし、甚あしき年は其元米ばかりを返し納む、十四年用ﾚ之て其利米にて倉三間を建て、元米六百石を上へ返し、餘り三千石ありしを右のくらにつめ置て、是より民に借に利足をとらず、只へりしろとして壹石に三升づつをかへてかへし納む、まことに良法といふべし

されば身ひとつを送るものは、あしたにいとなみて夕べの食とす、三五口も養ふものは一月も前より心を用ひざれば、その人を養事あたはず、百二百の人を召使主人は一二年もたくはへざれば必行あたりてうゆるもの多かるべし、これよりはかりみれば、一郡一國の民を治るには、三五年或は七八年の積にあらずんば、その歉歳をふせぐ事あたわじ、たとひ金銀珠玉はあまり有とも、頓ひて民命を救べきにもあらざれば、遠く救民の貯なくんば、近く饑死のうれへあるべし、民の菜色なきこと既に三十年にあまれり、聖人の世といへども三十年に一變するは氣運の常數なれば、近きほどに不登の年あるまじきにもあらず、今より貯ずんばあるべからず、夫さへ七年の病に三年の艾なれど、これをもなさ

ずんば終身及ぶべからず、殊更今茲は農作甚よろしく、風水の變もなければ、百年にもあらざる豊年なりと、巷にうたひてよろこびあへる事なれば、今年必是をなさずんば、何れの日か行べきや、これを以て今時に行ひ易からんことをはかりて、社倉の急を述侍る事左のごとし

高壹萬石の領地四ッにもせよ、五ッにもせよ、免をさだむる時、その年貢の外に五厘通りくわへて納めしむべし、五厘とはわづかに高一石に五合づつのつもりなり、一萬石にて元米五拾石なり、されど定りたる年貢さへ民力一盃にて定むれば、其上に僅といふとも、甚難儀なる由をいひて心うけがはぬべし、其時誠實をのべて是君の御用にあらず、異日水旱の爲のそなへなる故に、君よりも是ほど出し給ふ旨をつげきかせ得心せしむべし、扨亦君へおさむる四五千石の物成の内にても、また五厘通りをのぞきてあとを納むべし、其除く所の五厘と合て一分となる、是一萬石の高にては元來百石なり、これを其所の庄屋の藏に預け置べし、君の藏に納むべからず、元來村々にくらをたつべきなれども、それほどのよけいなければ、藏を建つる迄は先預け置なり、我は城下近き所は御城の明藏、或は矢倉などにつめ置も可也、扨まづしき民あらば、其分際相應を考て、その保民あるひは親類のうけ合を以是をかし、冬に至て利足を加へて收レ之べし、壹人に多く借すべからず、若みだりにこれをかす時は、利の爲にかるもの多くて、貧民の救にはならぬものなり、惣じて早く民を悦ばせんとおもへば、必惠で費るものなり、随分をしみ置て大切なる時に用ゆれば、一人もころさぬ仕方あるなり、如此して多く

はゆれば、高一萬石にて元米五百石と、利足を合せて六七百石にも及ぶべし、八九年も積りて事缺ぬほどになりなば倉をも立て、それよりは君よりもいださず、民よりもあつめず、利足を随分輕くして借べし、其利米にては貧きものを撰てあとふとも、路橋の修理に民の力を不ﾚ用樣になりとも、堤川除の普請にもちゆるとも、又國替所替などあらば、其米の半は君へ引とり、家士の引こしの料とし、あとの半ばを民にわかちかへすとも、兎角如何樣ともなりやすきこと也、又其如くめだたずして自然に軍用の備にもなるなり、常憲院樣諸代官中へ民のうへにのぞまんとき、救になるべき心得あらば、可ﾚ及言上の仰あり、其後すこしづつ御のけ米といふことをせられける人も有とかや、それも甚わづかにして、しかも打つゞきても行はれず、君の御米ばかりにては、多く除んとすれば、御取簡少くなりて國用に給せず、すくなく除んとすれば、きゝんの貯になるほどもあらずして、はては其御米は何になりたるもしれぬよふになれるもあり、其時に社倉の心ある人も無かりしにや、殘多き事なり、兎角當年のごとき豐年よりなしはじめずんば、何れの時にか善政をおこすべきや、先年京師の貧民を御尋ありて、口をかぞへて各鳥目を給りし事など、誠に臨時の救には惠で不ﾚ費良法なり、御借し米と云事など昔は益もありしやしらず、今にあたりては甚無益のことなり、今年米價の甚貴きを以て町人よりこれを願ひ出たりとかや、されどそれも眞實の願にあらず、京の町の困窮したる事を上へしらせ奉らん爲と、又は御かし米出るとならば、其勢にては米價いやしくならんと思ふ心より申出る也、其實は御かし米と

云事は、町人の營てよろこばぬ事なり、家もちたるものは一人に五升三升の米は必かりても無ㇾ詮なり、無ㇾ家ものは飢に及べども壹合もうけず、是を以て不ㇾ願なり、今にあたりては至貧の者のためになるべき改と、人心の浮花をおさめて、實につくるやうなる事のみ急務なるべきか、今の世の中に繁昌といふて喜ぶ事は、多くは浮華の所作也、一旦毀譽に拘らずして始終の始を計るべきことにや、たゞし人をえらぶには別て口傳あるべきなり、此法天下一統の儀にはいかゞあらん、猶私領不ㇾ得ㇾ已の大略なり、天下に論ぜん事は卑賤の及ぶ所にあらず、さて此社倉法未だ民に命ぜられざる前に、君の一決大事なるべし、君必定是を行給わんの御心ゆるぎなければ、其誠心にて行はれざる事はなき事なり、此命出たるに民うけかはずんば、これをやめ給んとならば必定行はれまじ、若民うけずんば、君收納の五厘のみをつみて、待給ふ事二三年もせば、その誠實を民みて感ぜざらんや、若感ぜずば、いつまでも君獨なし給ふべし、是にても五年の所に十年かゝれば同じ事なるべし、愈效を見るは私なるべし

正德三年癸巳七月十八日　　三輪希賢誌

平山潛云、三輪希賢者、其初從二于闇齋門一、從二佐藤直方一受ㇾ學、其後信二陽明王氏之學一、以主二張之一、所ㇾ著有二乾坤講義、傳習錄、標注四言教講義等書一、三宅尙齋常稱ㇾ之云二老奸賊一、可ㇾ見二希誠非二富固篤二

英雄之士矣

昌世曰、庄屋の私の藏に預べからず、鄕藏とて村々に年貢米を收る藏あり、其中に入置、名主組頭等三四人立合封をすべし

昌世曰、矢倉などにつめ置も、君の藏に收置に同じければ、少しづつにても畢竟其所の爲にする事なれば、右に言如く鄕藏におかば、民の心を安ずる意も有べし

昌世曰、古へ暴君汚吏の邪なる政さへ行れ、くるしみながらも年をつむ事あり、今仁君上にいまし、賢臣下にありて事をはからば、置郵して命を傳ふるより猶はやかるべし、一日同志の人問曰、今元米を積事民よりあらたに出さず、下よりあつめずしてすこしづつもなすべきの術有や

予答曰、あるべし、當時國々の城は詰米とて、上より預置給ふ米其城々の高に應じて有、常憲院樣御代天和元酉年、元祿十二卯年、安永五子年、文照院樣御代正德三巳年に江戸淺草御藏へ、其内をおさめしめ給ふといへども、猶餘米すくなからず、此殘米を城主に命じて先城近き村々へ、利足を輕くして夏の間借し、秋に至て右の意を以て納めしめて、年をかさねば其效有べし、しるしをだに見及ばは、村々の百姓も此事を願べし、民心悦てのうへは、如何樣にもなし安かるべし、誠に民を新にするよりは親むと云事むべなり

又曰、此城詰米を借す事來年よりなさんとならば、當冬其城近き御代官兩人ほどに命じて手代壹人づつ出させ、城主の家來立合、米の員數をあらため封置べし、翌年の夏よりなすべし、又秋にいたり元米利足の俵數を改め封置べし、城主の手前役人を疑ふにはあらねど、事を公に正してするの一筋ならんか、猶是を行ふの仕方品々あるべし、後の君子を俟と云

享保八年癸卯十一月廿一日書寫終

操齋主人吉田正恭

救饑大意　終

辻六郎左衞門上書

辻六郎左衛門上書（一名辻氏獻可錄）

一　關東八州者　武藏、上總、下總、常陸、安房、上野、下野、相模外に甲斐、出羽、奥州を入候て關東方と唱候

一　五畿內三州と御勘定所にて申候者

五畿內、近江、丹波、播磨にて候

一　丹後、但馬、備後、備中、美作、伊豫、讃岐、德島、小豆島、鹽飽、駿河、遠江、三河、伊勢、美濃、信濃、越前（加賀越前）白山、能登、飛驒、佐渡、石見、隱岐、肥後、肥前、筑前、日向、豐後、豐前

右之分於二御勘定所一上方と唱來候

公儀御料所無レ之國々

尾張、紀伊、加賀、越中、大隅、薩摩、壹岐、對馬、筑後、備前、因幡、伯耆、淡路、阿波、土佐、伊賀、周防、若狹、出雲、志摩、兵庫

一　御代官所支配所切に御取箇を郡切に付立、都合之御物成を書上候帳を差出帳と申候、又郡切に壹

村限に銘々に御取箇附いたし、並品々之小物成運上物等山林等迄、記し候帳を御取箇々帳と申候

一　田方上中下の反取の間、上七斗、中六斗、下五斗、古來壹斗飛定法に候得共、當時勘辨次第定格無レ之候

　畑方永取も貳拾文飛に候得共、是又當時定格なし

一　永錢と申は、永と申錢無レ之候、永と申形は無レ之、惣て勘定拂の金積り之名目にて、永壹貫文を金壹兩に用ひ、米壹石に積り候定法に候

一　御物成と申は、御年貢御取箇、又は御所務と申も、皆同樣の事に候

一　小物成浮役と申は、何年貢何役と申て、山林、原野、海川、其外何にても、年貢の通年々定納に仕り候を、小物成浮役と申候

一　右の小物成浮役等の儀、萬石以下の知行渡の時、本高に結入申候、萬石以上の大名へは、本高物領高の外に渡申定法にて候

一　惣て運上と申者、山林、海川何にても請負に仕、年季を限り候故、又は毎年不定米金納候を運上と申候、是者萬石以下の知行渡にも高に結入不レ申、拜領高の外に渡申定法にて候

一　御家の地方の法、伊奈流、彥坂流と申候て兩家御座候、伊奈備前守、彥坂小刑部と申地方功者にて法を立候よし、伊奈流は豐年にても多く取箇を増す、凶年にても多く不二引下一平らかなり、長久の法

に成候地方にて候故、只今以て伊奈流はすたり不レ申候、彦坂流は豊年には大分上げ、凶年には大分下げ候仕方にて、平らかならざる、長久には用ひがたき地方故に、只今者すたり用ひ不レ申候、彦坂者家斷絶仕、子孫無ニ御座一候

一　地方の一大事者、田畑へ檢地入候儀にて候、檢地入候儀を竿入共、繩入共申候、檢地と申は、田畑上中下等段々位附を仕直し、高石盛は附直し申儀にて候

一　檢地の儀御條目に格法記有レ之候、大名に檢地被ニ仰付一候節、檢地奉行へ御條目相渡り候

一　公儀の檢地は、前に大名御手傳被ニ仰付一候

一　檢地帳は水帳共申候、百姓等は地帳共申候、檢地帳は竪横間を記、上中下の反歩、銘々地主の名を書付、畝名を銘々肩書に記申候、檢地帳には第一畝附を大切に仕候事に候、田畑地續の筆唯不レ違樣に仕候、依レ之田畑帳と別々に水帳仕立候儀不レ宜候

一　地押又者地詰と申は、往古檢入候村方へ、何ぞ出入等有レ之時竿を入、田地を改申儀にて候、田地の上中下又は石盛も不ニ仕直一、以前の通りに仕置、地所計竿入れ改候儀にて候、地所の廣狹を改繩竿を入候て、位附高石盛等不ニ附直一、是を地押共地詰共申候

一　地押帳に候得ば、帳の外題に地押帳と書付申候

一　石盛の儀は斗代共唱申候、此石盛を以て盛附、又者村高を附申候

一　村高附樣の起り者、上田壹歩の稻を刈、籾壹升有ㇾ之候得ば、此壹升を米に摺五合に成候故、一反三百歩へ右五合の米を懸け候得者、壹石五斗と見へ候、此壹石五斗を拾五の盛と申候、中下の田を此積を以石盛を附申候

一　往古の檢地者、六尺四寸竿を以打申候、六尺四寸四方を壹歩と申候、此時代の一反歩者、當時の三反六拾歩程に當り申候、是者田壹反歩の米にて、壹人壹年の扶持方程有ㇾ之積を以、壹反歩を定候と申傳候

一　壹反歩三百歩に定候儀は、文祿年中より初り候由申傳候

一　太閤時代の檢地者、田畑の反歩を三百歩を一反、貳百歩を大歩、百歩を小歩、五十歩を半歩、右の通に唱申候由

一　三拾歩を壹畝と申事者、文祿年中より初り候由、壹畝は十合一反と申候、一反は三百歩にて候、田畑にては壹坪を壹歩と申候

一　檢地帳の田畑、屋敷都合書の末外書に、御朱印地に續候て除地の無年貢地を記候、除地と申は重き儀にて候、寺社境内並免田畑等諮文有ㇾ之故、又は前々より檢地帳の末外書に除地と記來候者、除地と記申候、其外に無年貢地者何程にても見檢地と記し置申位にて候

一　田壹歩の稻を苅、如何程有ㇾ之候と試申候を、坪苅、歩苅、舂法、籾摺等とも申候

一　田畑の立毛を見分いたし候を毛見と申候、檢見共書申候、檢見と書候儀者、立毛計を見分仕候にあらず、田畑の作毛は不ㇾ及ㇾ申、村方百姓の家居村と盛衰萬事も考へ見る事も申候、觀察に心得有ㇾ之を檢見と申候

一　檢見者大檢見、小檢見、坪檢見三段御座候、大檢見と申は、御代官自身に手代古き村に廻り委細見分仕候、小檢見と申は、手代兩人宛手分を仕村々へ相廻し、損毛惡作を隨分入念見分吟味の上、段々坪苅日ためし仕候て毛見引を仕候、坪檢見と申は、村々より一場立候處に別而損毛惡作爲ㇾ定、田坪の分計を見分仕、一村を不ㇾ殘見分不ㇾ仕候を坪毛見と申候

一　坪檢見の仕樣に色々流々有ㇾ之候、一樣には無ニ御座ㇾ多年仕附候趣に爲ㇾ仕候

一　關東の內私領抔は前々よりの取らせにて、田畑米取に致來候て、反取に不ㇾ仕、厘附取に致し候も稀には有ㇾ之候得共、御料の法には無ㇾ之事に候

一　厘附と申事は、高にて取米を割候て、幾ッ、幾問、幾厘と極候て厘迄用候故、厘附と申候得共、いつの頃よりか幾厘幾毛と毛迄を申候、是者取極候時毛迄を用候得者、大高と懸候時取米の員數多く成候故、是をも捨不ㇾ申相用候、古法にて無ㇾ之事にて候

一　新田を新開共申候得共、一場立候て大立候者新田と申、少宛の場所をば新開と唱候

一　新田出來候儀宜事に候得共、當時新田に成候能地所は無ㇾ之、前々新田を見立開發仕候、御代官者

開候、新田の御物成米の十分一を被ㇾ下候に付、六七十年以前迄に、連々新田に可ㇾ成地所は、不ㇾ殘國々にて開立候、近年の新田は秣場を新田に願出候て起申候に付、秣場は本田を養ひ候こやし馬を飼立候場所にて候故、此地を新田に仕候得ば、本田やせ、又は百姓馬持立候障に成候故、當時の新田は好しからず事に候

一　新林は地續に林無ㇾ之、一場立候場所に木を植立候を新林と申候、古林の地續の所に木を植立候を立出しと申候

一　森と申は寺社地等の境内等に木を植置、材木、薪等にも伐取不ㇾ申、立置候を申候

一　新田検地入候て高を附候事、三年の耕□□□正數竿を入候て、石盛の考は壹坪の稻を苅籾にいたし、壹升有ㇾ之時は五合摺の積、壹反三百歩へ懸候得ば、米壹石五斗と成申候、是を十五の盛に致し候、然共大法の儀にも一向に極て、此積を以石盛附候と申には不ㇾ限候、地所の様子を考、又は近邊地續の石盛をも見合て、石盛を極候儀にて候、但し坪苅の仕様殊の外能成がたき事に候、功者の入候儀にて候

一　新田の御取箇者餘程ゆるめに取候て、農を働かす様に仕候儀肝要の事に候、百姓に候得者、村方賑ひ候様に持立候儀第一の儀にて候、初年より御取箇能、御所務の立候様に仕儀は、畢竟御爲に成不ㇾ申候、不功者の致方にて候

一　古法は新田の檢地は、一等竿ゆるめに入、高附低て致置候、高役等も多不ㇾ懸様にいたし、年數を經候て再び檢地入候て、的當の石盛を付高増候様に仕候、近年者此法を取失ひ候て、初年より石盛を高く附、高多く成候様に仕候得共、本法にて無ㇾ之候、意味有ㇾ之候て右の趣に候

一　惣て見取場と申者、田畑共に新開新田等高に結、堅き場所にて高を不ㇾ付候て差置、輕き年貢を申付候場所故、見取年貢を付候て見取場と申候、年を經候て作なれ地も能成候て、高を附候ても可ㇾ然見へ候時、高に結候て新田に取置候て、村へも品により入候事に候

一　新田等惡地の場所者高を不ㇾ付、反高と申候て町歩計記し候て、相應の取箇を付置候所、關東方に者數多有ㇾ之事に候、高を付候得ば高役懸り候故、高役の上に年貢納候儀成兼候、縱令取箇附候ても、餘り少計の取箇を附候後者、高役も同事の様成故、不ㇾ得ㇾ已候て高附無ㇾ之、反高にて差置候

一　新田儀四方の新田者、たとへば地所あしく候ても、入こやしの仕方年を經候て作なれ候得ば地面能成候、畑方計の新田は惡地の所、野廣場にては上大風吹拂、小麥も作候事成兼候様、百姓の爲に不㆓罷成㆒候、畑にて人手間入、こやしも多く入、人馬多く懸候て、百姓の仕當合兼候事故、畑計の新田は益に立不ㇾ申候、就ㇾ中關東方にては野原多く候故、前々より畑計の新田者、取立候儀不㆓申付㆒候儀に候得共、近年者畑新田も大分出來候得共、用立不ㇾ申候

一　新田と申候得ば田畑、屋敷等の惣名にて候、細に申候得ば、田、新田、畑新田の差別有ㇾ之候

一　永壹貫文を村高に積り候時入石に仕候、取箇に直し候時者、永壹貫文を貳石五斗替に仕、地引渡の時は實取と申候て、此貳石五斗を貳ッに割り、壹石貳斗五升に仕候

一　往古は高何百石と申事無ㇾ之、何百貫文と申候、文祿年中の頃より永を高に積り、永壹貫文を高拾石にも拾五石にも積候儀有ㇾ之候と申傳候、慥定候儀相知不ㇾ申候、關東御入國以來は、壹貫文を高五石に極候て積り候

一　定めの事、百姓に相對致し極候法に候、拾ヶ年の取箇平均厘付を極、幾ッの定め幾年と季を定め、三ヶ年五ヶ年の定め申付候儀に候、定めに極候村方は、旱損水損のうれい、是迄村を定めに仕候故、定めに成候村方は、澤山には無ㇾ之事に候、定めに難ㇾ成村方を申付候へば、小百姓痛申候、惣て定めは田地多く持候百姓は悦、小分持候百姓は痛申候、地方の大切は小百姓の爲め能候樣に仕候儀第一の儀にて、鰥寡孤獨を救候術を大切に仕定めにては、此救成兼申候故、小百姓甚痛申候、惣て定めに成候村は多くは無ㇾ之儀に候

一　口米、口永と申候は、關東方にては田方の御取箇米壹石に付口米三升宛、畑方の御取箇永壹貫文に付口永三十文宛、古來より御代官に被ㇾ下來候、上方筋は田畑共に米取故、壹石に付三升宛御代官に被ㇾ下候處、御代には口米口永は公儀へ納候て、御代官の御役儀に付入候積を以、諸入用を米金を以御代官の高に應じ被ㇾ下候、口米、口永被ㇾ下候ては、關東方下免の場所は、口米、口永少分にて御役儀勤

兼候て、御代官前に引負等も仕候故、御吟味の上諸入用を被ㇾ下候に付、引負仕候儀は而後無二御座一候
積に候
一　六尺給と申は、古來の御臺所六尺の人數を以、六尺の給米糧を百姓役に御料所へ割懸候處、近來は六尺の人數に不ㇾ構、前々の六尺給米高の員數平均を以定納に申付候、私領方にては夫米と申候
一　百石壹歩と申候て、御料所高百石に付壹分宛毎年上納仕候、御藏前入用と申候て是を納申候、近來の事にて、古來は無ㇾ之事に候
一　御年貢米國々より江戸廻の時、海上にて難風に逢候てすたりに成候分は、公儀御損失に成候、川船にて破船の分は、百姓の損失に成候定法にて候
一　御年貢を在にして鄕藏に納置候時、發火事にて米燒候得ば、百姓の損失に成候
一　質田地の儀、金主方へ田地を請取置候て手作に仕候共、又外のものに小作に渡置候共、勝手次第に仕候、是者本質地にては金主へ田地を不ㇾ渡、田地主の方にて手作仕候て、直小作と申候て、質地に成申候地主より金主へ小作證文を渡し申事に候
一　書入田地と申は、金子借主方へ田地を不ㇾ渡、若金子返濟滯候へば、田地相渡し可ㇾ申と申證文にて候へば、是者質地とは不ㇾ申候て、書入地と申候て、常體の借し金田地にて候
一　惣て取箇の高免と申事、唯厘付免掛の高共計を調候て、高免共下免共不二沙汰一候、其所の田畑の

石盛如何程と開屆候上ならでは、高免共下免共申しがたく候

一　地方にて三草と申は、木綿、紅花、藍、四木と申は、桑、楮、漆、茶なり

一　桑、楮、茶所に寄、高にも結入候儀も御座候、木綿、紅花、藍の儀者、外に畑作同事にて、高に結入候儀無二御座一候

一　在々堤川除等の普請の儀、人足出樣百名に拾人宛、古來は百姓役に出候處、田畑開のために仕候普請の儀に候故、近來は高百石に百人宛、品に寄其外にも百姓役に出し候、百姓役の人足には、御扶持方を不レ被レ下候

一　在々堤川除等の普請の儀、人足御扶持方被レ下は、大破にて百姓自力に難レ叶、大分の入用懸り候所は御扶持方被レ下候、又は大河、大堤等大外にて及二大破一候て、村方人足を以難二申付一所者、日雇人足に申付、賃錢被レ下候儀も御座候故、樋、橋等の御普請者、入用金銀多少に不レ限被二下成一候、海道筋にて在鄉橋にても所役に不レ入用大分懸り候分は御入用被二下成一候

一　用水又は惡水落の儀に付出入爭論の儀者、御料私領共に役人立會候て、隨分可レ成程者奉行所へ不二訴出一、內分にて不首致し、事濟候樣に可レ仕の旨被二仰出一、今程者大方は內分にて埒明け申候て、能々難レ濟分計奉行所へ訴出申候得ば、取上げ裁斷御座候

一　取上げ田地屋敷等の儀者、其村々水飲百姓田地不レ持ものゝ內、人品宜正路の者に御代官吟味の上

為ㇾ取申事も御座候、右田地惣村中の者總作と申候て預置作らせ候て、御年貢諸役共耕作入用を引、作德殘り候得者、名主に預け置、何ぞ村入用に爲ㇾ仕候、右田地入札を以て御拂に申付候儀も御座候
一 田畑永代賣前々より御制禁に候故、田地質に入置候もの、身體潰候て退寵仕候時は、質入年季の內は質に取候者に爲ㇾ作置、年季明候上は可ㇾ取上ㇾ、若年季を限らず質入候分は、早速取上げ申候
一 私領の上げ地有ㇾ之候節、其年の物成先地頭へ納候以後、上げ地に成候得ば地頭へ納候、請取の慥成儀に候分は、其證文を以御代官の御勘定に相立申候、尤上ケ地受取、早速物成の儀吟味仕候て、御勘定所へ其趣相違置候
一 關東方にては御取箇御年貢可ㇾ納日祿、年々百姓へ渡候を年貢割付と申候、所に寄下げ札共申候
一 惣て關東方者御年貢取方、田者米取、畑は永取の定法にて、反取と申候て、たとへば
上田一反七斗取、中田一反六斗取、下田一反五斗取
大法反取上中下の間壹斗飛に仕候、上畑一反永貳百五拾文取、中畑一反永貳百三拾文取、下畑壹反永貳百拾文取
大法上中下の間貳拾文飛に仕候、如ㇾ斯に候得共、上中下の間の飛樣は、取箇考の上段に作略有ㇾ之、先定法は書面之格に候
當時は定格無ㇾ之、年々豐凶を以勘辨仕取申候

一　惣て上方は御年貢取方、田畑共に米取の定法にて、厘付取と申候て、たとへば上田壹反の石盛十五に候得ば、一反の高壹石五斗にて候、五ッ取の時は壹反に七斗五升取なり、中田壹反の石盛十三に候得ば、一反の高壹石三斗にて候、五ッ取の時は壹反に六斗五升取なり、下田壹反の石盛十一にて候得ば、高壹石一斗にて候故、五ッ取の時は壹反に五斗五升取なり

右石盛上中下取付の間貳ッ飛にて候故、高にては貳斗飛成候、上中下上々の間の飛様段々此格にて候

一　名寄帳と申は、百姓持地を一人切の持反歩壹所に寄候て記し申候

名寄帳の認樣左の通

田方何町何步　　何右衞門印

此譯

中田何町何反步　下田何町何畝何十步

畑方何町何反步　　何左衞門印

上畑何町何畝步　中畑何町何步

田畑合何町何反步

右の名寄帳を以御年貢御役割も仕候、尤地主の印形名所に押させ候て、帳の末に名主組頭の印形被〻

仕置ニ候

一　石盛と申は、田畑壹反の高付の事に候、たとへば十五の石盛を附候得ば、高壹石五斗に成候、此高を都合いたし候を村高と申候、又上中下田畑の反別を寄せ高を附候を分米と申候

左の通

上田何町何畝歩

此分米何拾何石何斗

中田何反何畝歩

此分米何石何斗

下田何町何反歩

此分米何拾何石何斗

高合何百何拾何石何斗

上畑何町何歩

此分米何拾石何斗

中畑何反何畝歩

此分米何石何斗

屋敷何町何畝歩

此分米何拾石何斗

何村と一村之高に成候

一　何方にても惣て國境、郡境、村境の川は、川の中央を境に相立候定法に候、山は岸切、水落は水の流を境に相立候古法に候

一　川瀬附寄次第と申儀は、村境の川瀬大水にて向の村方へ川瀬寄附候て、村高外の秣場、野原地、河原等此方の地續の樣に成候得ば、たとへば向村の持分の地所にても此方の地に成候、地方の定法如ㇾ斯

候、然といへ共田畑村高の內の地所にて候得者、此方の地所にいたし候儀不ㇾ成ニ定法一に候、是は向の村高減候儀難ㇾ成事に候、やはり向の田地に致置候、是を飛地と申候、川瀨附次第心得違の不法に候

一　出作を心得違候て、越石と唱へ候事相違成儀にて候、越石と申は知行割の時割合仕候節、高拾石より內の割合不足有ㇾ之て、隣村の內を足高渡候を越石と申候、越石者田畑を割合渡候儀不ㇾ被ㇾ成、勿論百姓をわけ渡候事も不ㇾ成候て、足高分の年貢計を年に渡候儀にて候、越石高へは總て諸役等人足役も不ㇾ掛法にて候、右越石高者其本村の高の內を越石分程除置、夫程は年貢を年々相渡候事に候

一　出作と申は、何方にても田畑を調候て、質流にも成、長く村々に持候田畑を作候百姓を出作百姓と申候、此田畑を出作地と申候、村々遠近無ㇾ構、何方にても居村の外に田地を持、通ひ作に致し候を出作共入作共申候、出作は此方より何の方へ出て候て作り候と申儀に候、入作は何の方より此方へ入候て作候と申儀にて候、出作百姓の地を持添とも申候、右出作百姓へも其年々の年貢割附、並諸役割懸帳を本村百姓同事に見せ候法にて候、惡しく致し候得ば、出作百姓へは右帳面を見せ不ㇾ申、本村並より多く割懸候儀も間々有ㇾ之事に候故、此法を立置候

一　小作と申候ば、自分の持田畑を居村にても外村にても、他の百姓に小作に爲ㇾ致、二拾ヶ年過候得ば永小作と申候て、地主へ取返候て外のものに小作爲ㇾ仕候儀不ニ相成一定法に候、是を永小作と申候、然共小作人より地主方へ、作德小作の米金を不ニ相濟一及ニ難澁一候得ば取戻候、無ㇾ左候得ば、不ㇾ爲ニ取

戻ニ候大法にて候、勿論永小作は小作人の方にて質地等、又は別人へ小作に爲レ仕候儀一切不レ爲レ仕制禁に候、當時は小作證文の年季短く極候て、度々證文仕直させ又は外の小作人へ申付候事に候

一　關東にて年季賣の田畑の儀を、上方筋にては本物返りと申候、是は金子を借し田畑を年季を定め買取、田畑の作徳を金の利の代にいたし、利無レ之に年季明候上返し候故、本返しと申候

一　關東方にては名主、組頭と申候、上方筋にては庄屋、年寄と申候、所に寄庄屋、年寄、組頭の立候も有レ之候、西國筋にては別當、庄屋と立候所も有レ之候

一　田畑石盛壹反に付廿を越候て、石盛高き國者越前國、出羽國、奥州にも廿七八、又は三十七八迄も有レ之候、大和、甲斐杯も石盛廿六七迄有レ之候、此外にも可レ有レ之候

一　關東方古昔の檢地入候時々には水帳無レ之所に多有レ之候、名寄帳を以御年貢諸役割も埒明候故、水帳有無に構無レ之事濟候

一　關東は御取箇反取故、田畑の高には無レ構、反別さへ知れ候へば反取の埒明申候、上方は厘附取故田畑の高を第一に仕候て反別には構無レ之事濟候、右の通りゆへ、關東百姓者、自分持地の高を不レ存、反別計り覺罷在候、上方百姓者自分持地の反別不レ存、高計覺罷在候もの有レ之儀に候

一　百姓の譜代の者を百姓に仕付置候を家抱と申候、門屋庭子とも申候

一　秣場、野原、山林等入會の地所には、何れも地元有レ之儀に候、地元は野山年貢不レ出候も、又は年

貢出候も有レ之事に候、入拂候儀は古例次第の事に候、何れも先者證文證據無レ之事に候、地元村たりとも新開立出等は不レ爲レ仕定法に候

一　百姓の山林秣場等、前々より割持に分切の立候所も有レ之て、古來より山錢野錢も不レ出所も有レ之儀にて候、所により古き檢地の村方には、入會の無年貢空地も有レ之事に候、一概に如レ斯の空地無レ之と難レ定候

一　在々墓所、死馬捨場者入會の定法に候、一分持に不レ爲レ仕候定法に候

一　總て關東上方共に、村方の公私の小入用夫錢割合の儀、高割を以割合出候定法に候、然ども市立候町場の村々、山方、濱方、浦方にて、高に應じ候ては家數大分多き村々は家別割にも致し候、是棟別割共申候、關東方には高割に成惡き村も有レ之候故、是者田畑反別割にも致し候村方も有レ之事に候

一　院田と申は、檢地入候時案內致さず候て殘し置候、田畑檢地入候後一所務致し候後も地主より、訴不レ出候を院田と申候て、礫に被レ行候定法に候、但し檢地入候て一所務仕候上に、一二年過候ても落地有レ之旨注意候得ば、落地と申にて科不レ被レ行事故、新田、新開、切添等の場所は三年四年不ニ申出一候ても、院田と申筋にては無レ之咎不レ申事に候、惣じて新開等又は荒地等起返り候を、早く改出し候て年貢取候儀者不レ宜事に候、一兩年も年貢を免じ置候て、百姓の入用手間等の替りに爲レ取候儀能候、如レ斯致さず候得ば、新開、荒地の起返し不レ出レ精候故にて候

一　逐電缺落の百姓は、田地者取上候法にて候、擲田地には不ㇾ致、村惣作に申付置、何の科無く身體不ㇾ成候て逐電缺落仕候者は、咎無ㇾ之候事に候故、後日立歸候節田地爲ㇾ取候事も有ㇾ之候故、總作に申付置事に候

一　追拂又は仕置に成候百姓闕所申付候田地の事、質地に入置候分は入札申付候て、質しより入札直段高く候得ばかし金程相渡し、殘りの分は取置候はぬ、入札直段下直に候得ば、田地を流地に致し候法にて候

一　未進百姓年貢納兼とて、田地取上げ申候儀は無ㇾ之法に候、未進百姓何とも納候儀難ㇾ成候て、上ケ田地と申候て、田地を當分上ケ候得者惣作に申付、又は小作にも爲ㇾ致候て、漸々と未進程取候へば其後は地主へ田地を返し爲ㇾ取候事も有ㇾ之候儀に候

覺

一　惣て定免の村方不作に付、檢見取に致し候儀四分程の不作にて可ㇾ被ㇾ定事に候、然者田方は年年豐凶各別の儀有ㇾ之事に候得ば、畑方は二毛作三毛作候も有ㇾ是候に付、田方とは替り四分程の損毛は先は無ㇾ之事に候、依四分の損毛に不ㇾ當候得ば、定免破候格に無ㇾ之候、左候得ば村方は小百姓痛申事に候、且小百姓は能田は不ㇾ持惡田持候もの多分有ㇾ之候に付、右の通りに付地方の肝要は、小百姓

相續候樣に救候儀專一の儀に候處、定免にては不作の時、小百姓及二難儀一候、長久の仕形は、田方大分不作のときは、畑方計り定免に致置、田方は引分け別々に相應の取箇申付、田方損毛多持候者を救候樣に引方を立候て、鰥寡孤獨も救候術有レ之樣に仕度儀にて候、四分より以上の損毛は檢見取と申候ても多くは無レ之物にて候

一　定免に成候村方は、實事の吟味にては、先は澤山には無レ之事に候、定免に成にくき村方を申付候得ば、年を重候上には小百姓段々及二困窮一、潰候者も出來候故、公儀の御冥加に不レ宜事にも可レ有二御座一候間、定免の儀は御代官隨分入念候て、定免に致候て不レ苦村方計撰出し、三五ヶ年程宛定免に致候て、其上又二三ヶ年程宛檢見取に仕候て、樣子見合候上又定免に致し候樣に仕可レ然奉レ存候、一向に何方迄も定免には中々難レ成儀にて候、旱損場は莫大の損毛先は無レ之候、水入場は年々兎角大分歟小分歟損毛格別有レ之事に候ゆへ、一切定めには難儀に候、强て、定免に致し候へば、甚及二難儀一候小百姓多御座候

一　定免は大百姓田地多持候者、善惡の田地取交持候故悅び、小高持候者は、多くは惡田を持候故、定免は迷惑に候得共、村中高持百姓共定免に請負候得ば、不レ及二是非一候て小百姓も請候、仍甚不作の時は、小百姓年貢可レ納手段無レ之者には、大百姓共申合候て寄荷候て、年貢は償爲レ取候樣にも致候得共、渡世の入用は寄荷とらせ候儀不レ仕候故、年を重候得ば小百姓及二困窮一申候・如レ斯の儀御代官も村

方の内所の分けは不レ存事にて、連々小百姓甚痛潰候者も出來候、右に付定免の儀、總體一樣には中々難レ成筋に御座候、此段地方功者にて村方の樣子も能存、地方へ隨分厚く心を用ひ、民間の辛苦勞に仕、實に能はまり勤候御代官に、心底不レ殘存寄の趣申上候樣に御尋被レ成候て、樣子委細に可二申上一候樣、其上にて定免に被成候村方能ゑらびしらに立候て、定免に仕候儀可レ然と奉レ存候、其上にも前條の通り田方の不作多時は、檢見取に仕樣に爲レ致候ては、下に行渡り候儀にては有二御座一間敷候

一 檢見取筋の儀樣に坪刈を元に立候て致し候事、是は素人取と申候て嫌候儀に候、惣て坪刈の儀は功者の上には用ひて不用の考有レ之て、坪刈は年々豐凶見分と、實の取實とを試み檢見引方立候、合毛附の目こぶしを立候ために仕候事に候、世間地方心得候者も、坪刈にて取箇極候樣に存候儀不功者成儀に候、素人取の元に可レ仕ための坪刈も、中々能成にくき儀にて大切の事に候、坪刈者誰も致し候儀に候へ共、吟味致し候ては坪刈は殊の外能成がたき六ッケ敷者に候、ケ樣に坪刈の儀を心附候人も少く候中に、正路實事の坪刈は容易に難レ成事に候、其功者の入候儀にて候、元來高免に取成村方にては、中々坪刈を以取箇に當り候て、筈の合候儀にて無レ之候、如レ此の村方にては坪刈不レ仕事に候、坪刈いたし候得者、時には違候共益無レ之故に候、其上百姓高免の訴訟申程に鍛錬不レ仕候ては難レ成事に候、地方少し心得候へば理屈取に成候、實正取の儀は中々言筆不レ及事にて候、縱令ば取箇下免に候とて、一槪に指候儀曾て難レ成事に候、高免も下免も前々より年久敷取つくせし所を取直し可レ申して、中々

一兩年など懸り候て難レ成事に候、甚勘辨吟味有レ之事に候

右之通有増記レ之候、書留に難レ及事にて候

田中勘十郎と申者差上候書付爲二御見一被レ遊一覽仕候

一　諸國御料所元祿年中撿地入候所は相除、其外の分撿地入候はゞ高も增し、百姓地境等分明に成可レ申候、年久敷撿地にて地境等不分明出入も出來候、御年貢諸役勤も無二覺束一存申百姓も可レ有レ之哉の由書上候へ共、撿地入候はゞ、高增候處も減候處も可レ有レ之候、撿地入候とて一概に高可レ被レ增と難レ申候、百姓地境不分明にて出入等も有レ之由の儀、田地境の儀出入訴候儀は、稀成儀に御座候、御年貢諸役の儀は自分の持地分明に相知有レ之候に付、無二覺束一可レ存儀も無二御座一候

一　無反別厘附取の村方も有レ之、高計にては變化等有レ之、百姓仲間甲乙可レ有レ之哉の儀、關東方は反別取、上方は厘附取の定法にて候故、上方の內には無反別、慥に不レ知所も御取箇等に構無候、關東方には反別は慥に有レ之候て、百姓一人前の高附不分明の所も間には有レ之候へ共、是また御取箇等に不二相構一儀にて、御年貢諸役に手支候儀無二御座一候

一　村方に寄年久敷撿地にて水帳無レ之所の儀、前々よりの名寄帳を以御年貢割合諸事埒明ケ候儀故、水帳の有無何の障無二御座一候

右の通に候間、撿地入候はゞ、百姓仲間明白に成、高も貳割程相增、其上百姓の御救に可レ成旨右書

付に相見候へ共、國に寄子細有ㇾ之候間、石盛大分高仕、田畑所に不二相應一、莫大に高附多所には撿地入候はゞ、大分高減じ可ㇾ申候處、惣體にて高二割程增可ㇾ申との儀、如何樣の考を以申上候候哉難二心得一奉ㇾ存候、百姓仲間明白に成、御救に可ㇾ成旨記候へ共、百姓は撿地入候をいとひ申事に候、御救に可ㇾ成筋は有二御座一間敷哉と奉ㇾ存候、國々撿地入候て地所分明に相正成候得者、理を以申候得ば、至極宜事に候得共、公儀撿地は大名御手傳被二仰付一候儀にて、國々撿地眞實に正敷難ㇾ成儀に奉ㇾ存候、其上諸國撿地と申儀者廣大成儀にて御座候故、容易に難ㇾ被二仰付一御事と奉ㇾ存候、右勘十郎書付返上仕候、以上

九　月

覺

惣て御代官所より私領に渡候ては、御料の時より御取箇格別上り、私領より御料に成候ては、私領の時の取箇より下り候儀は如何樣成入用懸、百姓難儀故御取箇下り候哉、存寄可二申上一旨被二仰渡一候に付申上候

一　御料所村方へ御年貢の外、品々御口米、六尺給米、御藏前入用高懸金三分一御直段拂の樣、御餅米買樣、江戸御廻米缺米、津出入用御廻米、船上乘入用、同陸才料入用、幷外取共江戸御藏前入用、桑名御廻米船積入用等大立候懸り物、如ㇾ斯書面の外不時の巡見衆、又者朝鮮人琉球人等來聘の時は、不常の入用大分懸り申候、尤も私領も定て不二表立一候由、品々掛り物も可ㇾ有ㇾ之候得共、御料の通表立書面の通の入用諸品の私領方には不ㇾ及ㇾ承候

一　私領と申内にも、壹萬石以下の小給人の知行の儀は不ㇾ及ㇾ擬事にて候、大分の領分にても他國は不ㇾ及ㇾ申。濃州の内にて候取箇米は、内三分一金納と申儀も無二御座一、先は惣未納の積にて申付候間、所拂又は外へ出し候て、入札を以米相拂申候に付、其直段にて百姓金納にも申付候も有ㇾ之由候、此趣候故公儀三分一御直段のは格別下直に候、三分一直段は年々百姓餘程の直段拂の辨御座候事

一　御料所の御年貢米と私領の米拵は、俵繩共吟味の仕方甚違申候、御料の米とは、私領の米拂直段迄餘程下直に御座候事

一　御料所の御年貢米不ㇾ殘江戸廻しに成候故、俵入も込米仕、其上江戸着の節缺米立候故納足仕候、於二江戸一御藏納方にても、百姓損餘程御座候事

一　御料所は近年は夫食貸程貸不ㇾ被二仰付一候、若御貸被ㇾ下候ても小分の儀にて、年切の返納にて、百姓の助に難ㇾ成御座候、私領の方にては夫食貸作食等の貸物有ㇾ之、年賦に返納仕、又は凶年には扶持米、又は金子くれ切にも仕救御座候事

一　御三家方幷國持大名は格別、外の大名は取箇强く取候て、たとへば未進すたりに成候ても、下免に無ㇾ之樣に仕候て、所替の物成積の爲に仕候儀と相見へ申候、若不作にても多く下げ不ㇾ申、豊年にもさのみ上げ不ㇾ申候樣に、大格定取の趣に仕候て、不作は高にて引候樣仕方に仕候、私領多く如ㇾ此相見へ申候

右の通御料と私領との取箇の様子、有増如ㇾ此御座候、勿論國により違申儀も御座候、惣て取箇の儀者村方仕置を以、高免にも下免にも仕候、常に仕置の致様により、高免にても百姓困窮不ㇾ仕、下免にても百姓甘不ㇾ申儀と相見へ申候、其子細者御料所の內にも、國々より由緒有ㇾ之て、無年貢諸役免許にて、百姓作取の村方有ㇾ之候得共、古來の百姓は大分潰申候て、高免に年貢納候村々、百姓田地を賣下も御座候由、然れば仕置の仕方を以、取箇の下にも寄不ㇾ申候て、村方盛衰も御座候故、畢竟者仕置次第にて、取箇は高下仕候儀と見へ申候、御料の御仕置を以、私領の通の取箇取候儀者難ㇾ成御座候、百姓は常に心入の覺悟、御料と私領とは各別の儀に御座候、依て御料より私領に渡候得ば、百姓覺悟仕候て常々渡世の様子も私領並に仕候、勿論私領にも御料より取箇下免成所も、同村續にも、地所も違不ㇾ申所にも、間には下免成所も有ㇾ之候得共、夫共に私領の事は內所に分け御座候儀と相見へ申候、惣て畢竟御料所より私領は取高き定法にて古來より成來、たとへ潰れ候百姓いか程有ㇾ之候ても、其筈と心得候て地頭よりも驚不ㇾ申、百姓も替り候事と不存趣に成來り申候、御料にて左様に潰百姓抔多く候得ば、御代官衆も不調法に成、百姓も驚入訴出申儀に候間、御年貢も滯り申様に成候故、何れの道にも御料の御取箇私領同事の者不ㇾ能成ㇾ儀と奉ㇾ存候、元來の御作法御仕置の節、御料と私領との格別違ひ候儀御旗本衆の家ものとし差別の様成にて、中々御料と私領と一同の道理には難ㇾ成儀に御座候、書面の外に委細の儀何共筆紙に難ㇾ申上ㇾ儀共御座候に付、右體の趣申上候、以上

酉三月　　　　　　　　　　辻六郎左衛門

右濃州郡代より、御勘定吟味役被仰付候辻氏地方功者に付、享保年中御尋に付申上候草案の寫なり

附錄

覺

六十四州

惣高都合貳千五百七十八萬六千八百九十五石餘

外對馬　蝦夷　松前　無高也

一　御一門方諸大名人數貳百六十四人　此知行高千七百五十五萬百石餘

一　御旗本知行取人數二千六百七十人　此知行高二百六十三萬七千五百三十石餘

一　同御切米御扶持方取人數一萬九千八百三十人　此御切米高四十七萬七千八百三十石餘　此御扶持方七萬六千九百五十石餘

一　御役料取り人數千五十八人　此御役料米高五萬四千八百三十石餘

二　條

一　大坂加番在番等之面々

駿　府

此御合力米高七萬五千七百石餘、此人數增減有レ之雖レ相定一

一　御女中樣幷女中衆御合力、此米高一萬三千三百五十石餘、此金高六萬四千二百七十兩餘、此銀高六百五十六貫餘、以上

享保七寅年八月

日本國中惣村數

壹萬貳千壹ヶ村　御料幷社寺領共

四萬三千五十一ヶ村　萬石以上領分幷社寺領共

八千九百貳拾四ヶ村　萬石以下知行幷寺社領共

村數合六萬三千九百七十六ヶ村

寅四月廿六日

一 御傳馬宿入用　高百石に付六升宛
　免除高相除

一 淺草御藏前入用　高百石ニ金壹分宛銀拾五匁分
　御傳馬宿助鄕相除

一 六尺給米　高百石ニ付貳斗宛
　御傳馬助鄕幷夫銀夫米納ル村々相除

一 大豆掛リハ　高百石ニ貳斗　一 荏掛リハ　高百石ニ貳斗

一 夫食一日ニ米二合男 同一合女　穀麥四合男 二合女　から稗四合男 二合女　一 種貸壹反に付壹斗宛圃に寄又吟味に寄八升尚又六升九升計も有レ之

一 人足扶持高百石ニ五十人迄者還捨
還捨の外五十人迄者、一日に壹人七合五勺宛御扶持方被レ下

一 高百石ニ百人餘の分者、何程にても一日壹升七合宛貸米を被レ下、尤所相場を以て代金にて相渡す

一 春普請は前年十月の相庭を用る、一 夏普請は其年正月の相庭を用る
　是は其所の村々近邊の城下、又は市町有レ之所の相庭を相用る

一 秋普請は其年四月の相庭を用る、一 冬普請は其年七月の相庭を用る

享保七寅年七月被仰出候御書付之寫

萬石以上の衆被召爲ニ席々へ、御老中御列座にて御不勝手に候間、壹萬石に付百石宛に差上候、且又只今迄壹年在國在邑の衆は一年半、半年在所の衆は壹年在所に罷在、緩に休息可仕旨被仰渡候

但御役並幼少にて在江戸の衆は、一萬石に付百石の三分の一差上候樣に被仰渡候

右の通り席々御書付を以被仰渡候

此時の御老中戸田山城守、水野和泉守、安藤對馬守、若御老中大久保長門守、大久保佐渡守、石川近江守、京都所司代松平伊賀守、大坂御城代松平和泉守也

淺草より出候御切米

一　七拾八萬九千六百九十俵　　但三斗五升入

右只今迄春夏冬三度の御切米の分

一　武拾萬九千六百五十俵　　右同斷入

是は月並御扶持方十二ヶ月分

二口〆九拾九萬九千三百四拾俵　　此度萬石以上納米

現米拾八萬七千四百五十石　　此俵五拾三萬五千五百七拾壹俵、但右同斷入

右と差引

四拾六萬三千七百六拾九俵　　不足

辻六郎左衞門上書 終

宣室夜話

山縣周南著

宣室夜話自序

蒼蒼者吾知ニ其爲一レ天也、坱坱者吾知ニ其爲一レ地也、蒼蒼之表、坱坱之裏、吾不レ知ニ其爲ニ何物一也、鬼神之不レ可レ知也、猶ニ之天地之不一レ可レ知乎、吾不レ知矣、人亦不レ知焉、吾將ニ誰從而問一レ之、吾不レ知焉、而以爲レ知也、猶レ語ニ疇昔之夢一、誰能信レ之、倘或信焉、一人語レ之、一人聞レ之、誰契夢之非レ夢乎、鬼神其不レ可レ知焉、故孔子曰、未レ事レ生也安能事レ鬼、未レ知レ生也安能知レ死、此篇或得ニ諸東鄙君子一、不レ語ニ神怪一其野人之語歟、雖レ然明經引レ史、博覽雄辯、非ニ野人之事一、古云、禮失而求ニ於野一、其此之謂乎

宣室夜話

夜半前席

山縣孝孺著

上天日月星辰雲雨等ヲ祭ル神ヲ天神ト云、土地山川林丘等、民ニ有ニ功德一者ヲ祭ルヲ地祇ト云、聖賢

忠孝、凡ソ大徳ノ人ヲ祭ルヲ人鬼ト云、總テハ是ヲ鬼神ト云、地祇ヲバ天神ニコメテ神ト云、天地ハ尊クシテ遠ク、宗廟先祖ハ親シテ近シ、鬼神ト云フハ近キヨリ始ムル言也、凡ソ鬼神ハ天地ト其徳ヲ齊ウス、人智ノ所レ測ニ非レバ、容易ニ語リ難シ、但天ノ道ハ福レ善殃レ淫ト云ヘリ、天地ト徳ヲ齊ウシ玉フ神明ナレバ、身ニ惡行穢徳有ル人身ノ福ヲ求メントテ、人ヲ勞シ財ヲ費シ祈禱ヲセバ、譬ヘバ公正ノ官人ヘ財寶ヲ多ク贈リ、賄賂ヲ行ヒテ身ノ福ヲ求ルガ如シ、福ヲバ與ヘ玉ハデ、却テ咎ヲ蒙ルベキナリ、鬼神ノ徳聰明正直ト云ヘリ、吾身ニ咎メラルベキ惡行有リナガラ、供物ヲ盛ニシ媚ビ諂ヒテ、聰明正直ノ徳ヲ掠メントスルハ、愚暗ノ至リ言フベキ樣ナシ、孔子ノ「丘也禱久矣」ト曰フハ、神明ニ惡マルベキ惡行ヲ常ニナサネバ、助ケラルベキ程ノ事ナラバ、神明爭デカ助ケ玉ハザラント、神明ヲ信ジテノタマヘルナルベシ、然テハ無慙ノ祈禱ハ、吾ガ惡行ヲ神明ヘ啓白シテ、愈々罪ヲ增ス事也ト心得ベキ也、又孔子ノ「獲ニ罪於天一無レ所レ禱焉」ト曰ヒシハ、凡ソ人貴賤共ニ身ニ應ジテ勤ムベキ職分アリ、是ヲ天職ト云、天職ニ怠リテ、天ニ疎マルベク惡マルベキ罪アル身ガ、我信仰ノ神ニ祈リテ、福ヲ求ルハ、譬ヘバ主君ノ心ニ背キタル身ガ、出頭ノ權臣ニ諂テ福ヲ願フガ如シ、權臣ノ心ヲバ得タリトモ、君ノ心和グマジ、爭デカ福ヲ得ンヤト云義ナルベキ、又「務ニ民之義一敬ニ鬼神一而遠レ之」トノタマヘリ、民ヲ教ヘ導キ、世ヲ經ムル道ヲ民之義ト云、□ニ是ニ心ヲ盡スヲ務ムルト云、是君子ノ天職ナリ、農ノ農事ニ力ヲ盡シ、商ノ商ニ力ヲ盡スノ類、皆各相應ノ職分也、是ヲ務ムルコト人道之本也、鬼神ハ天地ノ靈

ニテ、天地ノ有ル所ニ莫レ不レ有ニ鬼神一、天地ノ氣ハ天地ノ間ニ充滿シテ透間ナシ、器ノ有レ孔者不レ受レ水氣在レ内也、別開ニ一孔一發レ氣則水入、氣ノ無レ透コトヲ可レ見也、人ノ氣中ニ居ルハ、魚ノ水中ニ居ルニ同ジ、故ニ「洋洋乎如レ在ニ其左右一」ト云ヘリ、然レバ上一下左右悉神明在マス、疎カニ心得バ、遲速ハアリトモ冥罰逃ルベカラズト知ルベシ、凡世間ハ「人力居レ半天道居レ半」ト云ヘリ、假令ヘバ耕作ニ力ヲ盡スハ人力也、陰陽和風雨順五穀成熟スルハ天道也、人力疎ナケレドモ風雨水旱ノ災アレバ益ナシ、天道半ニ居ルニ非ズヤ、凡治平ノ大業ヨリ、末ハ民間日用ノ小事マデモ、天道神明ノ擁護ヲ得ザレバ其事成就セズ、故ニ古之聖王祭禮ノ禮ヲ定メ、事ニ鬼神一ノ道ヲ敎ヘタマヘリ、敬ニ鬼神一ト云ハ是ナリ、祭祀ノ禮法ニ不レ遵シテ、有マジキ祭祀祈念ヲシテ福ヲ願ヲバ譬ヘバ君ニ事ル者ノ奉公ノ勤メ疎ニシテ、僣上諂ヲ專トスルガ如シ、却テ罪ヲ招ク道ナルベシ、祭禮ノ禮ト申スハ、天子ハ天下ノ主ナレバ、天地日月宗廟社稷ヲ祭リ、諸侯ハ國土ノ主ナレバ、領内ノ山川宗廟社稷ヲ祭リ、大夫士庶人ハ、鄕社、氏神、竈ノ神、先祖ノ神靈、分ニ應ジテ祭ル事ナリ、遠レ之トハ用捨シテ心易クセヌ心ナリ、心易クセヌハ、崇敬ノ心ナレバ如レ此シテ神明納受シタマフト敎ヘタマヘリ、妄ニ神佛ヲ勸請シ、不時ノ祈禱ヲシテ、近カ道ノ擁護ヲ願フハ、神佛ヲ小使ニ使フ心ニテ不敬ノ至ナリ、又神佛ノ心ヲ得ントテ施物ヲ多クシ、莊嚴ヲ極メ供物ヲ盛ニシテ、有マジキ願ヲ叶ヘントスルハ、賄賂ヲ以テ貪汚ノ官吏ヲ傾クルワザナリ、神佛ヲ侮リ、瀆スノ至極也、爭デカ擁護ヲ得ンヤ、能々孔子ノ言ヲ得心

シテ、神明ニ事フルノ義ヲ喩ルベシ、偖又鬼神ノ類ニテ邪氣妖怪ハ、動モスレバ人ヲ病シメ、横死ヲ致シ、世ヲ惑ハシテ政道ヲ妨、風俗ヲ傷リ世ノ亂ノ基トモナレバ、此惑ヲ開キ度事也、去共是天地陰陽ノ氣ノ爲ス事ナレバ、其ノ理深奥ニテ明ニハ言難シ、經傳子史古人ノ記セル所ト、予ガ目ノアタリ見聞シタル事ヲ、試ニ言テ見ルベシ、次第モナク心ニ浮ブニ任テ言散スナレバ、見ル人心ヲ廻シテ善ク心得テ、讀デ其可否ハ心ニ決セラルベシ、我サヘ會得セスコトナレバ、人ニ必ト強ヒ難シ、

天地ハ生物ナリ、易ニ「天地大德曰レ生」ト云ヘリ、萬物ヲ生ジテ不レ已ガ天地ノ能也ト云義也、生物ニ非レバ物ノ生ズルコト不レ能、水火ハ氣質ノ間ナル物ニテ、氣ヲ以テ行ク物也、炎上潤下ノ勢ヲ見テ、天地ノ氣ノ生物ナルコトヲ知ルベシ、此氣聚レバ即形ヲ成ス、形ヲ成セバ即血肉アリ、其生ズル所人物ノ血肉ハ、即天地ノ血肉也、乾卦ノ六爻ハ、此氣ノ象ヲ畫ケル、其象ヲ龍ニ取レリ、龍ハ血肉具ハリタル生物也、是ヲ天ノ象ニ取ルコト、其意可レ觀也、偖此氣極メテ盛大、極メテ剛健、極メテ充實也、著往寒來、寒往著來コレヲ名ケテ陰陽ト云、陰陽ハ人ノ呼吸、潮ノ進退ノ如シ、此氣ノ進ム氣機也、易ニ之ヲ尺蠖ニ譬ヘテ、「尺蠖之屈求レ伸也」ト云ヘリ、牽ク進ム體ナレドモ、一屈一伸ノ勢ニ乘ズルニ非レバ進マズ、譬ヘバ同ジ息ナレドモ呼スレバ溫ナリ、吸スレバ冷シ、口ヲ開テ氣ヲ吐ケバ溫カナリ、唇ヲ閉テ吐ケバ冷ナリ、一氣ノ體ハ伸ビテ陽ナレドモ、屈スル時ニ當テ陰トナル、南北ノ寒溫ハ日道ノ遠近向背ナリ、土地ニ南北寒溫ノ別性アルニ非ズ、男女牝牡ハ屈伸開闔ノ家ナリ、物ニ大小輕重アルガ如シ、

搆精シテ生ズル所ハ其ノ陽ノ動ク也、人物ニ男女牝牡ノ別種アルニ非ズ、聖人陰陽現成ノ形ニ法リテハ、尊卑貴賤ノ等ヲ定メ、禮樂ヲ制シ教ヲ立タマフ也、此氣ハ本流行寒暑有テ、對峙東西ナシ、一ニ於生ニ故也、天地ニ充滿シテ透間ナシ、盛大ナルガ故ナリ、終古旋轉シテ少モ緩慢ナシ、剛健ナル故ナリ、萬物ヲ生ジテ觸ル、處形ヲ成ス、充實ナルガ故也、旋轉シテ不レ已ハ即進ム勢ニテ、物ヲ生ズルノ性ナリ、古人是ヲ盤中ノ水、旋轉シテ不レ已ハ、塵土中ニ凝ルニ譬ヘタリ、地ハ旋轉ノ中心ナルガ故ニ、地ニ近キ物ハ、凝テ形ヲ成ス、人禽草木是ナリ、地ニ遠キ物ハ象アリテ形ナシ、日月星辰雲霧是ナリ

天地ノ氣ハ活潑潑タル生物ニテ、靈動變幻限ナキ物ナリ、天地ヲ響カシ、山岳ヲ摧ク、雷霆翻レ海簸レ山大風、凡雲霧雨雪ノ變、旱潦水火ノ災モ、皆此氣ノ靈動ナリ、又男女搆レ精、乍人ヲ生ジ、寒天呵レ爪、滴露忍生レ甲、腐臭墮レ地、目前ニ虫蛾トナル、草木ノ鬱茂スル所ニハ、必鳥獸ヲ生ジ、毛髮ノ生ズル所ニハ、必蟣蝨ヲ生ズ、是生靈ノ氣天地ノ間ニ充塞シテ、所在皆氣ナル故、同氣相感ジ、同類相求メテ、少モ便アル時ハ即チ聚リ結ビ、形質ヲ成シテ物トナルナリ、就レ中人ハ天地純粹ノ靈氣聚テ生ズル所ナリ、故ニ五尺ノ軀方寸ノ心ヲ以テ、天地ノ運日月ノ度ヲ知リ、萬物ヲ宰制シテ材成リ、輔相ノ功ヲナス人ハ萬物之靈ト云是ナリ、易ニ「火就レ燥、水流レ濕、同氣相感、同類相求」ト云ヘリ、ヨク乾燥タル薪ニ火ノ付キヤスク、下濕ノ地ニ水ノ流レ聚ルガ如ク、氣類相感應スルコト天地ノ性ナリ、故

ニ人精氣ヲ以天地ノ靈氣ヲ感動スルコト、團扇ヲ以テ火ヲ煽クガ如シ、故ニ先王祭法ヲ定メテ、貴賤各其可レ祭神ヲ祭リ。不レ可レ祭神ヲ祭ラズ、「古者鬼神與レ人雜處」ト云フハ、上古祭法未レ定時、家ニ鬼神ヲ祭リ、人人祭祀祈念ヲ事トスル故ニ、石モ物イヒ木モ言ノ類、靈妙奇特多シ、今モ邊鄙島島ナドハ、吉凶共ニ祈禱鬮取リ、神事ヲ專トスル故、常ニ神怪ノ事多シト云、是レ鬼神人ト雜處スルナリ、「命二重黎一絕二地天通一」ト云フハ、地ハ人民ナリ、天ハ鬼神也、通ト云ハ則雜處スルコトナル也、上古如レ此ナリシヲ、堯重氏黎氏ノ祠官ヲ立テ、祭祀ノ禮ヲ司ラシメ、可レ祭神ヲ祭リ、不レ可レ祭神ヲ祭ラズ、此禮ヲ國土ノ法ニ立テ、人民ヲ敎ヘタマヒシカバ、天地ノ氣撓亂セズ、神怪ノ事止デ神ト人トノ分正ク、禮義ノ風俗ニ成タルコトヲ云ヘリ、「醫門多二病者一」ト云フアリ、醫療ヲ業トスル家ニハ、不思議ノ病人多ク來ル、妄ニ鬼神ヲ勸請シ、祭禱ヲ事トスル家ニハ、必妖怪アリ愼ムベキ事ナリ

易乾上九ノ辭ニ、「亢龍有レ悔」トアルハ、陽氣盛ナルニ過ギテ、上ニ過グル時ハ、過亢ノ害アリト云義ナリ、坤上六ニ「龍戰レ野其血玄黃」トアルハ、陽氣盛ナルニ過ギテ、在ベキ位ヲ越ユレバ、其氣血强悍ニ成テ、陽氣ト對敵シ、爭ヒ戰テ陰陽互ニ傷ツキ、血ヲ流スニ至ル、玄黃ハ天ト地ノ色ナリ、陰陽ヲ表セルナリ、夫レ陰陽純正ノ氣ハ、萬物ヲ生養スレドモ、過亢スレバ物ヲ害ス、水火ハ人ヲ養フ物ナレドモ、常ヲ失ヘバ人ヲ害シ物ヲ毀フ、陰陽ニ此不正ノ氣アル故ニ、萬物亦其不正ノ氣ニ感ジテ生ズル物アリ、人ニ桀紂如キ凶惡ノ人アリ、獸ニ狼アリ、虫ニ蛇蝎アリ、草木土石皆毒物アリ、凡此

類皆陰陽之變、天地之邪氣也、素問ニ八風扇邪トアルモ、此事ニテ、八方ノ風氣ノ中、自然ト邪氣アリテ、人ニ觸ルレバ病ヲ生ズルコトヲ云ヘリ、天地ノ氣聰明正直ノ貴神アレバ、又淫厲妖怪ノ邪鬼アリテ、邪物ニ依憑和同シテ、民物ニ害ヲナスナリ

易ニ「原レ始支レ終、故知ニ死生之説一、精氣爲レ物、游魂爲レ變、是故知ニ鬼神之情狀一」ト云ヘリ、凡ノ事終リノハテ、未來ノ事ハ證據ナケレバ、知ラレヌナレドモ、最初始リ來ル所ノ時ヲ打返シテ、終リヘ當テ見レバ知ラルルナリ、人ノ生レル陰陽ノ氣ニ感ジテ胎マレ、十月ヲ經テ人形ニ成テ生レ出、年月ヲ經テ成長シ、成長極テ老衰シ、老衰極テ死ス、陰陽屈伸自然ノ次第ナリ、陰陽ノ氣聚テ生ルルヲ見レバ、陰陽ノ氣散ジテ死スルコト疑ナシ、陰陽ノ氣散ジテ別ニ行キ所ハナシ、元トノ陰陽ヘ歸ル故ニ、「魂歸ニ於天一、魄歸ニ於地一」ト云ヘリ、人生レテ男女ノ欲作ル時ガ、則子ヲ生ズルノ始ナリ、三十而夫婦アリ、既ニ胎レテモ十月ニシテ始テ人形具ハル、是ヲ以見レバ、死シテ魂氣ノ散ズルモ、暫然トシテ散ズルニハ非ズ、必次第アルベシ、佛書ニ七七四十九日ニシテ七魂變ズト云ハ、數理ノ大概ヲ以テ定メタルナルベシ、禹ノ時ノ防風氏、周ノ家ニ至テ不レ朽、漢ノ天子ノ諸陵、晋ノ世ニ盜賊コレヲ發クニ、其形生ルガ如シト云ヘリ、其ノ外ニモ其類數多アリ、必人人カクアルベキニハ非ズ、厚ク葬深ク藏ル時ハ、間間カヤウノ事モアルベシ、人ハ天地純粹ノ精氣凝リテ成ル物ナレバ、サルコトモアルベシ、魂氣ハ目ニハ見エネドモ、形質ノカクアルヲ見レバ、魂氣ノ散モ一槩ニハ有ベカラズ、「精氣爲レ物」

トハ祭禮ノ事ヲ云ヘリ、宗廟ヲ深クカマヘ、神主ヲバ尊ク崇メテ、七日散齋シ、五日致齋シ、其容貌ヲ思ヒ、其ノ行事ヲ思ヒ、感通ノ心深ク、誠敬ヲ盡シテ祭ル時ハ、火ハ燥ケル物ニ移リ易キガ如ク、同氣相應、同類相求メ精氣聚リ、神靈感格シテ、サナガラ在スガ如シ、爲レ物ト云ハ、シカト形ハナケレドモ、何ヤラ在ルガ如シト云心ナリ、今世先祖ノ忌祭ヲスル者ハ、僧ヲ供養シ、作善ヲ營メバ、幽靈成佛スルコトナリトバカリ心得テ、僧ニ任セテカマハネバ、此心ウツラズ、靈神靈佛ノ斗帳ノ內、何ヲ藏メタルハ知ラネドモ、畏敬ノ心生ズル所ニテ、精氣爲レ物ノ妙ヲ悟ルベキナリ、游魂トハ魂ハ形ナシ、唯氣ナレバ日ニ不レ見、雲霧ナドノ浮游スルガ如クナルベシト云義ナリ、爲レ變トハ、游魂ハ形ナクシテ唯氣ナレバ、變幻無レ定、物ニソレテ祟リヲナスト云義也

宣室夜話 終

治國修身錄

岡白駒著

治國修身錄序

我龍洲先生之學、淵博古簡、朴茂正實、不レ好二葩藻之浮文一、故其所三講二說於其君一者、亦藹如也、蓋人君之業、下民之風也、苟能法二此道一、追二蹤前修一、取二譬於近一、則蘊爲二好生之德一、發爲二解慍之薰一、其孰有二不レ偃者一乎、宜哉小川氏摹二印梁木一、堵而一世二於茲一、讀レ之彌思二味之彌長一、嗚呼亦景矣

寬政丙辰孟秋　弟子平安　福井軌謹序

治國修身錄上

岡白駒著

一　書經曰、惟天地萬物父母、惟人萬物靈」といへり、天地陰陽五行の氣を以て、萬物を生ず、無情の山川草木、有情の人物、禽獸蟲魚まで、すべて是を萬物といふ、其有情中にて、人は最も靈なるものなり、人は智能ありて、天地の道、一切の事の理をしり、萬物をきりもりする故に、萬物の靈といふなり、夫天地は萬物を生育するの本なり、たとへば草木五穀の種子を土におとせば、必生じて成長し

花さき實のる、是故に天地は萬物の父母といふなり、しかれば天地は生育を以て心とす、聖人天に則り、天に代りて民を治め、萬民を安んじ、其生育を遂しむるを仁といふなり、人君は天道を奉ずといふもこれをいふなり

一　人は萬物の靈にて、智惠才能の質は生れつけども、其智惠才能を成就する事は、學ずして生ながらなるものにあらず、連城の璧は天下の至寶なれども、其みがゝざる時の璞は瓦礫とおなじ、或は生れて才能智惠ある人いかほど發明なりとも、聖人ならぬ凡人は、かならず思違多く、または邪智にはせゆく、是故に孟子も「非義之義、非禮之禮」といへり、是は其心に十分是とおもひ、十分義とおもへども、眞の禮義にあつれば、大にちがひたる事多し、たとへば權なしに輕重をはかり、度なしに寸尺をはかるがごとし、才智ある人も、己が善惡みづから見えがたし、故に聖賢の道を權度とす、昔者伏羲神農黄帝堯舜禹湯文武周公孔子、これ數聖人、千億萬人にすぐれたる智惠才能をもつて、人の道を立給ふ、これをまなびて、人の人たるところの義理をしり、諸侯は明君となり、卿大夫以下庶人は賢人になる、これ人の禽獸に異なる所、萬物の靈たる所なり、若蒙昧にして德義をしらぬは、天の我を生ずる本意に背くなり

一　凡天下の廣大なる、其人幾千億兆、其數しられず、其内にて上一人より諸侯卿大夫となる、人力にあらず、我日本六十餘州の内にても、諸侯の員は何程とかぞへらるゝ、是天命をもつて人君とな

るなり、故に書經に「天陰騭二下民一」といへり、是は人君となり、卿大夫となり、下士民となるも、皆天のさだむるといふ事なり、各其分を守り

分を守るとは、賤は貴につかへ、小は大につかへる、是理の當然にして、即天に順の道なり、我日本の風習是をはぢ、動輙、武士の一分立ずなどいふて、小事をも忍びず、身を亡す人有、是は俠者の風にて、君子の道にあらず、君子とは下民を治る身分をいふなり

下として上を望む心なく、賤して貴を願ふことなく、其受る所の天命にそむかぬを、命をしるといふなり、されば天命とは天の仰を蒙ることなり、天ものいふにあらず、此人此身に生れきたるを、天命を受といふなり、孟子も人君を天吏といへるも、天の役人といふ事也、古人の教にも、人君となるを己が一分のためとおもはず、天の命を蒙りて、此民を治めしむる役人と心得て、天に代りて民を治め、天を敬し天を畏れ身を愼むを、人君奉レ天敬レ天といふなり、天を敬し天を畏るゝ人は、永く國家を保ち、子孫繁昌す、是釋氏因果の說に似たれども、さにあらず、書經曰、「天道福レ善禍レ惡、」易經曰、「積善之家有二餘慶一、積不善之家有二餘殃一」といへり、是聖人の敎なり、釋氏因果の說は、一己の上にていふなり、たとへば父母の惡業なりとも、其子善行なれば、父母の善惡に拘らず、聖人易經の文は、積善之家といふ、之家とは、子孫を期する辭なり、善人其身に福なければ、子孫に必福あり、惡人其身に禍なければ、子孫に必禍あり、歷史の載る所往々其驗あり、是儒釋の分なり

一　昔愼子といへる賢人、齊の國へ行、齊侯に見ゆ、齊侯愼子に諸侯たるの道を問ひたまへば、愼子こたへて曰、國君を立るは國の爲なり、國を立て君の爲にするにあらず、此義を能しり給はゞ、國を治る事は難からずと

一　凡物皆各職分あり、犬の夜を守り、鷄の晨を報ずるも、亦職分なり、禽獸かくのごとし、いはんや人においてをや、臣は君に奉公し、忠を盡すを職分とし、人君は一國の主として、民を治るを職分とす、

一　人君となり一國の上にたつ人、事の是非道理をしらで叶はぬ事なり、天下の事理多端、いかほど寸智發明たりとも、生れながらにしるべき理なし、孔子終日食ずして思案し、終夜いねずして思案すとも、學ぶにしかじとのたまへり、聖賢の書を讀學びて、其道を會得し、是を式として、萬事のきりもり邪ならず、正道になり行なり、士民は學ずして、但その上を標準するものなり、たとへば民の內に、無理非道をするものあれば、上へ訴て、上の決斷にて、無理非道をさせぬなり、其上たる人事の是非道理をしらで、いかゞ判斷なすべき、人君は下民の標準となるものなれば、その身愼むべきは、「上所レ好下有レ甚焉」と聖人の戒なり、是は上一人の好む所、下風俗となりて、甚好といふ事なり、たとへば人君學問を好めば、一家中みな學問をこのみ、それより一國の風俗となりて、文字はしらねども、自然に不義無道をはづる風になる、人君遊興を好めば、一家中より國中の士民にいたるまで、其風俗となり、人君華美奢侈をきわむれば、一家中も自然と奢る風になり、下士民にいたるまで、分を

こゑて花美を好む、奢侈の究は不足なり、不足の究は必非義無道をなす、非義無道の究は、國家を亡す、必至の勢なり、近世まのあたり見る所なり、人君儉約なれば、下風俗となり、分限をこゑず、分を守れば衣食に足る、故に管子曰、衣食足りて仁義起り、倉廩充て禮節を知、爭は不足より起り、讓るは餘あるより生ずといへり、殊更太平の世の有様、年々萬事華美になる、儉約を以て持せず、世のなりゆくまゝにまかせぬれば、上下の窮困無道の基なり

一 儉約をむねとすといへども、儉約と吝嗇と似て非なるものなり、儉約とは其分をうちばにすることなり、人君には人君の分際あり、卿大夫には卿大夫の分際あり、其分をこゑるを奢といふ、其分よりうちばにするを儉約といふ、吝嗇とは、世にいふしわくさもしきをいふ、世に儉約の名を假て、吝嗇を行ふもの多し、吝嗇なるものは必ず不仁にして、慘刻なるものなり、儉約の名を以て、しわくむさく、人情に外れて人の苦をも顧ず、人の心もはなるゝもの也、是故に孟子も爲ㇾ富不仁也といへり、儉約と吝嗇の分、是また辨ずべき事也、凶德と盛德との界なり、吝嗇の人必ず不仁としるべし

一 風俗は自然になりゆくさまにて、是を人君の教化といふ、號令を以て禁制するは、其威權に恐れ、表向はうくれども心服せず、たとへば旱する時に、井の水を汲て田圃に灌漑するがごとし、一時の旱枯を救ふといへども、終に五穀草木の生長を遂ず、風化はたとへば雨のごとし、油然として雲を起し、沛然として雨を降す、其うるほひ五穀草木の英發、井の水のおよぶ所にあらず、教化により

て、一國の風俗義理を重んじ、道義のあきらかなるを强國といふ、孫子といふ兵書に、有道の國はみだりに攻むべからず、利を得がたしといへり

一　學問の要二ツなり、聖人の道を明に會得し、次に古今の治亂に達す、此ふたつを要とす、道は六經論語のしるす所是なり、治亂の跡は歷史是なり、歷史は史漢通鑑これなり、道にあきらかならざれば義理にくらく、歷史をよまざれば古今の得失にくらし

六經は、易詩經書經春秋二禮なり、書經はむかし聖人賢臣とたがひに政務をはかり給ひ、其事みな聖人のなされし事迹、其議論みな聖人の言史官しるしおきて、萬代の道となれり、易經はもと古筮の書也、聖人辭を係たまひ、吉凶存亡進退の理備るなり、詩經はもと民間の歌謠なり、當時上の政事の得失、民の情に感じ、うたひたるものなり、人君は九重の深き内に居て、民のありさま人情をしる事うとし、人情に通ぜざれば政を施しがたし、詩經はもつぱら人情に通ずるためなり、よつてをしへの書となれり、春秋は魯國の史記なり、孔子筆削し給ひ、左丘明といふ人、傳を作りて其事實をしるせり、是當時諸侯の得失詳かなり、通鑑は春秋につぎて、近世までの事迹をしるせる書なり

一　大抵人は生れのまゝ、質のまゝにて、聖人の道を學ばざれば、生長するにしたがひ、利欲にながれ、不義無道になりゆく、是おしなべての人情なり、荀子はこれを見て、人の性は惡なるものなり、

ゆゑに聖人道を立、教をまうけて其道にしたがはしむといへり、習性となる、學びて勤れは善人にならぬ道理なし、孟子はこれを見て、人は其性中に善を備てゐる、人の性みな善也といへり、或は學ばずして天性孝悌忠信なる人もあれども、是は千百人中の一人なり、大抵は皆あしきかたにうつりゆくものなれば、聖人の教を學ばてかなはぬことなり、但學びてなるれば、人の性はよくうつるものなり、孔子も上智と下愚とはうつらずとのたまへり、上智と下愚の人は多からずして、皆中人衆ければ、上智下愚の外は、みな其性よくうつるものなり

一　論語曰「性相近、習相遠、習成レ性」と云り、是は人の性必しも惡ならず、善にならへば善になり、惡にならへば惡になる、その始は善なく惡なく、なべて是相近きものなれども、習によつて善惡懸隔遠し、但ならへば皆天性の如く、是を習成レ性といふ、成とは學びて成就するの義也といふ事也古の賢哲、善を行ひ道を樂しむと云事、凡俗の了簡にては信じ難し、但其境界に造者しるべしといへり、其初はつとめて道に從ひ善を行ふ、久しくならひなれぬれば、自然に善を行ふ事、たのしみになるべし、たとへば他の藝能は雜事なり、初の程はさのみおもしろからねども、久しくならひなるれば、後には甚おもしろし、いはんや聖人人情にしたがひて立給ふ道、人のかくあるべき事なれば、其境界にいたらば、必ずたのしみとなるべきなり、人の心は義理をよろこぶものなり

一　學問をこのめば、自然に智慧あきらかに、義理をしり、朝夕聖賢と事をはかるがごとし、聖賢に

まのあたり教をうくるがごとし、中華は堯舜の代より、凡三千六七百年におよび、我日本は神武より凡二千餘年、其間の治亂得失、種々の事、ゐながらしる事、今見るごとし、世は久しくふりにけれども、我身は其世を歷たるがごとし、是學問をこのむの長壽なり、是もたのしみのひとつなり

一　學問に品流あり、聖賢の書を讀、其教を體認して、平生の心持とし孝悌忠信はいふにおよばず、凡萬事の處置、皆義にたがはぬを主とす、是を實學といふ、又専ら詩文を好み、博く事をしるを主とするあり、詩文はまことに學文の英華なり、されど實學ならぬをそしる人あれども、それはひが事なり、たとへ褊學なりとも、書をよむは他の遊藝にははるかまされば、凡書籍は雜書たりとも、義理を說たるものなれば、これを讀ば、人心の靈自然に感悟する所あり、利害をしれば、むざと惡事はせぬなり、昔一人書をよみ、學問をしけれども、其人行迹よからざれば、人みな論語よみの論語よまずと、そしりあへり、其友人規して曰、そなたには書をよみ事の是非もわきまへながら、かゝる行迹のあるべきやと、念頃にいひければ、此人感悟して行迹をあらため、善人となりければ、友人大に賞嘆して、さきにそしりし人に、諧歌をよみておくる、其歌に、「論語よみの論語よまずはたのもしや、論語よまずの論語よまずは」といへり、まことは學ばずして非義無道なるは、論語よまずの論語よまずにて、一生善人になる期なし、悲しむべし、されば不行迹にも其品あり、色欲にふけりて人倫の禮をうしなひ、酒をこのみて本業を廢し、武藝を稽古せずして戲れ遊びにのみ、月日を送るの類は、不

行迹とはいひながら、其罪己れ一分にて、さのみ人の害にならず、但表向よろしき人に見ゑて、諸事にさとく疵なきものに見ゆれども、不學無術義理をしらず、日夜利欲の中に染て、大概善悪は心にしれども、賄賂によりて是を非にまげていひなし、又はおのか私のひいきにて、あしきをよきに取なす、隱惡のもの非義無道のはたらき、是等は不行迹にあらねども、惡人といふものなり、就レ中役義を掌るものに、右體の人あれば、萬事のとりはからひ、皆君の威權をかりて執行ふゆゑに、主君は努努しらぬ事を、下に怨られ、臣の忠心を薄くす、これらの人物を國賊といふなり、人君の心をつくべき事也

一　人君の要道三ッあり、此三ッにて萬事備る、一曰、驕奢を戒む、二曰、寛裕人を容る、三曰、能人をしる、驕奢の害、上に述るがごとし、人君一國の主となり、一人の身の上ばかりならば、さのみ害にもなるまじくみゆれど、一國の風俗となり、終に國を貧しくし、非義をなす基となる、寛裕人を容るとは、人君一人の下知をもつて、下みな是にしたがふ、若慈愛の心のうすく刻薄に嚴重に過れば下堪がたし、慈愛は仁の端なり、いさゝかの事もゆるさず、毛を吹て疵を求むれば、必ず慘刻になる、昔尹文といへる賢人に、齊の宣王、人君の要道を問はれしに、「大道容レ衆、大德容レ下此二而已」とこたへしも是なり、むごく下を虐ぐを不仁といふ、故にいにしへより明君は必大度なり、論語に、上に居て寛ならざれば、其餘は見るにたらずといへり、諺曰、萬事從レ寛其福厚しといへり、しかしな

がら寛裕ばかりに偏なれば、下より上を恐怖する事なく、輕んじて命をそむくにいたる、但慈愛の心を主として、いつくしみも失はず、罰すべき事は嚴に罰し、威立つて下おそるゝは、人君の正直による、人君の正直とは、いつはりなく小心なるをのみ正直といふにあらず、凡事の此處置私なく、公にしてひいきなく、道義を以て其理を立、よこしまならぬをいふなり。書經洪範に、正直、剛克、柔克、を人君の三德といふ、堯舜の代にも刑罰を廢せず、一種の人あり、教にも禁制にもしたがはぬやからは、刑を以て教を助くといへり、其きびしかるべき事は嚴きを剛克といふ、其やはらかなるべき事はやはらかなるを柔克と云、剛克柔克の二ツを私なく、ひいきなく、道義をもつて執行ふを、正直といふ、正直にして私なければ、姦邪も入ることなし、讒言侫奸の取いるも、人主の私より起れり、此三德、皆慈愛と柔克を主とすといへり、是寛裕のいはれたり、能人をしるとは、いかほど發明の人主たりとも、一國の大なる、事の多き、一人の身にて治らるゝものにあらず、一國を治るは、それぞれの有司を以て治るなれば、其官職に、其才智、其德行の人を用ひねば叶はぬ事なり、知人といふは、堯舜の聖もかたき事と宣へり、故に人主たる身には學問して、事の是非善惡を會得し、人情世態をしり、默して私なく、ひいきなき所よりめきゝせねば、人の邪正見えがたし、凡人臣の君に仕る、君の機嫌を伺ひ、其心の好むところを察し、兎角に君の心にかなふ様にするものなれば、うかと見れば皆善人君子のごとし、是故に是に似て非なるもの多し、表向よきと見えて內心あしき者、上にいふ

ごとく大佞奸の國賊なり、古賢のをしへに、大抵人のめきゝは、其平生に見るべし、人の氣を伺ひ、とかくに其こゝろに愜ふ樣にするは、元來こしらへものゆゑに、終に馬脚をあらはし、其本眞のところ、見えるものなり、平生に見るとは、おほよそ人親に孝行に、兄弟にしたしく、交友に信ありてこころたのもしく、一家中の中もみなよき人と評判するは、是善人なりとしるべし、されば聖賢の言にも、忠臣は必ず孝子の門に求むと宣へり、親に不孝に、兄弟にしたしからず、交友に信なき人は、君に仕へて不忠必然なり、不孝不信の人、君に忠あるといふ事決してなき理なり、又天性むごきなさけなき人あり、此人かならず不忠なりといへり、忠はうらなく中心のまことを盡し、己が事をするもはかるも、人の事をするもはかるも、露塵私なきを忠といふ、忠は人の德行かぐべからざる事也、殊更人臣は君につかへて主君に代りて、事を執行ふものなれば、忠を人臣の大德とするなり、忠は君臣の間の道とのみおもふはひが事也、日用人倫に交はる人、忠なくて立ず、論語に「爲ㇾ人謀而不ㇾ忠乎」と、曾子の身を省しも此事なり、是は大概の人のめきゝにて、人心面のごとし、其品種々多ければ、人主たる身は學問をもつてひろく人情世態を會得し、默してめきゝするに、大概は人を得べし、但公ならざれば人を知り難し、臣下に役義を申付るに、其人若佞奸私ある人ならば、下の殃を蒙る甚し、凡有司は君の威權を以て行ふ事なれば、たとひ十分の無理非道なりとも、君命なれば是非なく承れども、人情かならず怨を生ずべし、其人私の遺恨をもつて、君命をかりて人をさいなめ、己が心の儘に

行ふ、又賄賂によりて非を是となす類、天下往々すくなからず、是皆其役人の姦曲にして、義理をしらず、至極の殘忍よりかくのごとし、しかれば人を用る必ず人をしるを要とす、さればとて、うたがひふかくては、却て人を得がたし、故に聖賢人をとるの大法ありて、備るを一人に求むる事なかれといへり、是は人の一身の上何事なりとも一德はあるものなり、何も角も一人の身にそなはる人を求ては得がたし、其一德によろしき事あらば、其よろしきところをとりて、その餘りいさゝかの小疵をとはず、これ聖賢人を用るの大法なり、孝悌忠信はさらなれども、役を命ずるは才を主とす、才は忠信より出る才をいふ、忠信ならざるは才も邪智なり、用るにたへず、凡政事を執行ふ人は、才なければ、其心忠信なりとも、下の患害多し、是故に孔子も「參也魯、柴也愚」とのたまひしも、此二人、孔門七十子の内の賢哲なれば、其忠信なる事しるべし、魯なり、愚なりと宣ひしも、菽麥を辨ぜざる愚にあらず、但政を執ての上、其才短を愚魯と宣へり、孔子、子貢に汝と顏回といづれかまさると問ひ給ひしに、子貢顏回の德行に服せずして、一を聞て十を知の才に服するも、政事を執行ふ上の論なり、仁は大德なり、七十子の賢も、顏回の外仁德をゆるされしはなし、しかれども、孔子管仲に仁をゆるして、其行迹をはぬ道を、聖人えらび給ひ、賢者はうつむきて就き、不肖者は企て取つかるゝゆゑに、中といひ、庸は常なり、平常かならずおこなふべき道なるゆゑに、是を中庸の德といふ也、孝悌忠信の內孝を主とす、父子の道は天性にて、幼穉より自然に父母を慕ふこゝろあり、聖人これにより

孝の道を立つ、書經のはじめに、堯萬國を協和し給ふも、九族を親むより始る、九族を親むは、父母に孝より推して、其親族を親しみ、一國是に化して、終に天下も和す、是を萬國協和すといふ、萬國孝悌忠信の風俗に相和して、天下太平にいたる、是を堯の仁德といふ、是故に論語曰、「孝弟也者、其爲二仁之本一與」といひ、孟子も「仁之實事レ親是也」といへり、孝悌忠信なきものを、不仁者といふも是なり、悌は兄弟にしたしきをいふ、孝なればおのづから悌なり、忠は上にいふごとし、しかれども信なければ、孝悌も孝悌にあらず、信の道廣し、いふことのたがはず、その言と身の行ひとのたがはぬを信といふ、是勿論なり、いまだ信の道を盡さず、信の德は人に信ぜらるゝを主とす、我に其德なく、その實なければ、人信ぜず、「民無レ信不レ立」といふも、民其上を信ずるをいふなり、人君もその號令をつゝしみ、民を欺ざれば、民上を信ず、信の道は一切に通ずるなり、孝悌忠信を以て人をえらび取、孝悌忠信をもつて國を治め、孝悌忠信を以て人を敎化す、聖人の道此外別にあらず、ゆゑに「堯舜之道者孝悌而已矣」といへり

治國修身錄上 終

治國修身錄 下

一 或の曰今の世の人主、さのみ學問を好むにもあらず、其諸家中も皆不學ながら、それなりけりに、治りゆくといひければ、古老の人の曰、それは泰平の世の推合にて、それなりけりになりゆけども、其源に束る所ありて、治れるゆゑなり、人主のしわざにより、治れるとおもへるは、ひがことなり、古より聖賢國家の治方の道を立給ふ、其道はたとへば大匠の器、刀鋸鑿錐のごとし、此器ありといへども、常人はこれを用ひて、宮殿樓閣を作る事かなはず、但良工は此器をもちひて、宮殿樓閣をよく作るがごとし、聖賢の道を用ひず、不學無術の者の國家を治るは、たとへば繩からげに家を作るがごとし、當前の雨露はしのげども一朝大風大雨にあへば、立どころに傾敗におよぶ、今いふそれなりけりに治ると同じ、良匠の其器を用ひて作りたる家は、むざとかたぶかず、君子は「安而不レ忘レ危」とは、是をいふなり、國家の一大事の出來るは、大風大雨の類にあらず、國家を治るもの心得べき事也といへり

一 人の性一ならず、天性文字にうとく記憶うすく、書をよむに無器用なる人あり、これらは藥物なりや、曰、さにあらず聖人に藥物なし、獨文字にうときのみにあらず、志ありても身貧しく、書なく

て學ぶことのならぬ人もあり、業の勤事多くして、まなぶ暇なき人も有、されば學問とはまなびといふことにて、聖人の道をしれる人に、とひてしる是も學問なり、力ある人は力なくして、才ある人にまなばせるも、是も學問を好むなり、必しも躬ら書をよむにもあらず、但人主の教化により、道義を尊ぶ風俗になれば、學問の行はるゝといふもの也、昔舜邇言を察す、其時今の世のごとく書籍多くあるにあらず、善言美事人の聞て益になる事、古老のいひつたへしなり、邇言とはちかき言といふことにて、深き道理ある妙計にもあらず、日用の内に心をつけたる言なり、大舜は是等の鄙言まで問ひ聞て察し、人情に通じ給ひしなり、しかれば人主の教化により、道義を好む風俗になすを主とす、但賢をねたみ能を害む、姦曲のくせものはしりぞくべきなり

一　一國の廣き臣下の多き、善人ばかりあるものにあらず、但人君人の用ひ様によりて、皆化して善人になるなり、論語に人の用ひ様を、材木にたとへて、「擧レ直錯二諸枉一、能使二枉者直一」といへり、これはたとへばなま木を積に、直なる木を枉れる木の上におけば、其下なる木は上のすぐなる木におされて、自然に直になるといふ事也、故に子夏これを釋して、「舜有二天下一、選二於衆一擧二皐陶一、不仁者遠矣」といへり、是は舜天子になり給ひ、衆人の内より皐陶といへる賢者を擧て、諸官の上に立て用ひ給へば、不仁者はいつとなく化せられて、善人になりしといふ事也、不仁者は、孝悌忠信の心なき者をいふ、語曰、「人主誠正、則直士任レ事、而姦人伏匿矣」といふも、人君私なく正直の道を以て、義理を

しれる人を、上に立て用れば、其奸惡の非道者は終にかゞみかくれて善に化し、いつとなく風俗になりゆく、必しも惡人を尋さがして、逐ちらすにあらず、是聖人教化の術なり、又姦佞の人を上に立て用れば、皆上官に阿りて善人も姦曲の人となる、人君の人を用ひ様心をつくべき事なりとぞ

一 人君はたとひいかほど才智發明たりとも、其智を蔽して但人をしるを大智とす、人君みづから其智を用るは、人君の度にあらずと、古人も評せり、夫一人の智かぎりあり、昔大舜を數聖人の内にて、大智と稱せしも、能く人をしりて、人の智を用ひし故也、數千百人の智を用るは、何程才智發明たりといへども、數千百人の智におよぶ理なし、是故に人君は能諫を納れ、衆人の言を容て、其よろしき所を取るを、人君の度とす、しかしながら人の言を偏に信ずるは、姦の生ずる端なり、唐の太宗、魏徵といへる賢臣に、明君と暗君とのわかちを問ひけるに、魏徵こたへて曰、兼聽を明君とし、偏聽を暗君とすといへり、兼聽とは衆人の言を聞て、心にえらび其よろしきを用ゆるをいふ、偏聽とは一人の言ばかりを、かたづりに聽いれ、自餘の人の言は用ひざるをいふなり、古より偏聽して國を亡し、身をはづかしめし事、歷史のしるす所其數あげてかぞへがたし、聖人は天下を以て耳目とし、暗君は近習をもつて耳目とすといふも、此をいふなり、衆議の上にて是非得失を論じて、其言を用れば事に失誤なし

一 語曰、明君に特寵の臣なし、特寵の臣は他にこえて寵せらるゝ臣をいふ、是偏聽の本なり、此人よ

りいふ事、君必よくきゝいるゝ故に、讒言も必ず行はるゝなり、孔子もこれを浸潤の潜膚受の愬とのたまへり、浸潤の譖とは、いつとなく毎々そろ〳〵と、讒言すれば、是は何さま實とおもはせる様に、讒言するをいふ、膚受之愬とは、たとへば其人に我寃を蒙るといひなし、其様ことの外に甚しくいひ、外より聞ても是はかくあるまじき事也と、人ににくませる様に告るをいふ、凡人主に事を告る、國家の利害、人主の心のいたらぬ所を告るは忠告なり、此外に凡公ならず、私に告る事は、大概は姦曲か、又は爲にするところあるなり、人情賢をねたみ人のよきをそしるは、小人の常態なり、或は人主、一善人をしりて、取立んとする時に、傍より其人のあしき事をまうけなして、いひおとすは、是賢をねたむにあらざれば、其人に素仇有なり

一 祖宗の法は、輕々敷を改むる事なかれと古人も戒たり、是迄此通りにて事濟來りしに、新法をいひたてゝ、目前の利害少は道理あるに似たれども、多くは其有司の奸計より出る也、是までのしかたにては、己が私曲行ひがたきにより、新法をかりて私曲を行ふ便にするためなり、こゝに利あれば必かしこに害ある、必然の理なり、且下は皆君の惠に育せらるゝ者なり、上に少し利ありとて、下を剝するは仁の道にあらず、下のくるしみをかへり見ず、少の上の利を見出して、忠と心得る臣あり、是道義にくらき故なり、易の益の卦に、聖人辭を繋て、上を損し下を益すを國の益とす

一 唐太宗貌嚴肅にして威儀堂々たり、凡言上する人畏れて言葉をえ盡さず、太宗みづからこれをし

り、凡言上する者あれば、必わざと顏色をやはらげ、言をつくされる樣にして、別して政務の得失をいふものあれば、必心をかたぶけ聞給ひし、常に諸臣に語て曰、人みづから其形を見んとおもへば、必鏡をてらしてみる、人君其過あらんやと思へば、必忠臣の諫言を聞べし、人君若みづから智なりとして、人の言を用ひざれば人諫言せず、一人の智かぎりあり、事に危敗多かるべしとのたまへり、誠に諫言をいれず、忠言を用ひず、みづから智ありとし、其智を用ひて、敗れに及びしためしちかく我日本にも武略古今にすぐれたる良將あれども、たゞみづから其智にほこり、臣下をあなどり、人の言を聞いれず、萬の事みづからのはからひにしけり、臣下をあなどりし故に、其臣某、怨をふくむ、又人の諫をきゝいれず、物を輕んぜしゆゑに、要害もなき寺にいりて逗留しけり、某其備なきをうかゞひ、不意におしよせ、遂に弑害せられしなり、某が逆心のする所といへども、其もとはみづから智とし、事を輕んぜしより起れり、是みづから招くといふべし、古より諫を用ひず、己が一分の了簡を以て、事をやぶりしためし其數多し、是故に明君はよくいさめをいれ、亡君は必諫をふせぐ、歷史のしるすところ、證明なり

一　小事にくはしく、大道にうとく、近き物にさとく、遠略にくらきは、人主の器にあらず、小事近物は人にさせ、其大略をもつて下を使を人君の度といふ、若人君小事にくはしければ、人のするところ心に叶はず、必みづからせまくおもふ、叢脞にたへず、夫人主は死生與奪の權を執る、其勢固人に

勝つ、是に加ふるに小事にくはしきを以すれば、誰か犯す者あらん、國家の事の多き、皆みづからなすべきにあらず、人君は但人をしるを本とす、小事は利害目前に見え、近物は其驗試やすし、大道遠略は學問にあらざれば通じがたし

一　人君みづから智を用ることをこのみ、人の諫を用ひざれば、毎事につきて、其心の趣しれ易し、姦人其氣にかなふ樣にしなし、いひなし、是より讒言も入やすし、故に曰、人を知るは君道なり、事をしるは臣道なり、論語孟子にも智の字を釋して、智は人をしるをいふといへり

一　英才發明の人も、道を學ばざれば道理にくらし、英才發明は、よく事を察す、事の來らぬ先に察するゆゑに必疑ふかし、心道理にあきらかならぬ故に、察すといへどもゆきとゞかぬ所多し、故に必疑深し、英才といへども學ざれば眞の英才にあらず、多くは邪智に馳するなり

一　たとへば人あり軀命を千萬貫の財寶にて買んといふとも、天下に賣る人なし、如此大切なる軀命なれども、義に臨んでは塵芥より輕んずるは、平生義理をしれる故なり、義を知るの本は、道義にあきらかなるにあり

一　國初の頃とかや、一明君あり、學問を好み給ひ、一國大概風をなしける、或時儒臣を會してのたまひけるは、大抵書をよむものは、物の是非をもしれども、卑官下々にいたりてはしらぬ者多し、國中の人、我號令禁制はは犯すものすくなし、愚蒙の心にも會得しやすく、さとしやすき、教かたもあ

るべしやと有ければ、儒臣の內より、一々ヶ條をたて丶、國字にてしるし、上覽に入れ、かくもあるべしやと伺ひければ、君見給ひて、一々道理あり、しかしながら如ㇾ此ヶ條だちては覺えがたし、賤夫賤婦もおぼえやすく、曉しやすく、一言にてしらせまほしとて、君自ら筆を執て、父母に孝行に、法度をまもり、謙り、奢らずして、面々の家業を勤め、正直を本とする事、誰も存知たる事なれども、いよ〳〵つねに相守べき者也、と書給ひ、家中より士民にいたるまで、此旨心得べしと、數百張書せて下々へくだし給ふと也、家業は諸侯より士民に至るまで、皆其職業あり、諸侯は諸官に命じて國を治るを家業とし、武士は武藝を稽古し學問をして、官に在る人は、其官の勤かたを、大切に心を盡し、農工商も皆己が家業をつとむ、此本文は誰も存知たる事なれども、常に守るべしといふ處肝要なり、美談事義を耳に聞て、尤なりとおもへども、身に行ざれば益なし、其後君またのたまひけるは、下に守らせるに術ありとて、諸士の內に右の書面を、能く守る者をひきあげて官を命じ、士民の內にも、能守る者に賞賜(ホウビ)ひて、其民の頭役を申つけ給ひしかば、數年の間に一國の風俗よろしくなりしとぞ、是論語の材木を積むの喩に暗にかなへり、人はひまにて徒居(ダヾキ)すれば、必ず妄念生じやすく、あしき事をするものなり、上一人より下庶人にいたるまで、皆其職業あり、されば孔子も博奕をするは徒居にまされりとのたまへり、此博奕は今の金銀かけもの丶博奕にあらず、圍棊の類なり、人業を勤れば、ひが事するに暇なし、人を踏む惡馬も、馳行うちには人をふまず、立てゐる時は足にひまあ

るゆゑに人を踏むなり
一　政は寛簡を貴ぶ、聖賢の教へなり、寛は寛容なり、上に述るごとし、簡は事すくなに繁苛ならぬをいふ、若放縱にして、法令を立ぬを寛と心得、疎略にして事はぬけめあるを簡と心得るは、大に聖賢寛簡の本意にあらず
一　善馬に騎る者は馬をわすれず、よく人に上たるものは下をわすれず、馬の力をはからず、息をもやすめずに騎れば、終に馬を斃す、下のおもひやりなく、不仁に治め虐れば下たへがたし、鳥獸の人に懼るゝは、人に勝ことのならぬ故也、しかれども鳥も窮すれば却て人を啄き、獸も窮すれば必人を咬傘す、下上に勝こと叶はね共、窮困にいたれば上を犯し、法を犯し姦惡盜賊せずといふ事なし
一　人君天を敬し、天を畏るゝは、聖人の敎なり、天は無心にして浩々茫々たる物に似たり、聖人これを畏れ、是を敬するは、何のいはれぞや、曰、天命の義、已に上に述るごとし、夫天は生育を以て心とす、萬民の心は卽ち天の心なり、民心安ければ天心やすし、民心苦しめば天心も苦む、是故に君はたとへば船なり、民はたとへば水なり、民なければ君立ず、水よく船をうかぶれども、又よく舟を覆す、これ人君天を敬し、天を畏るゝいはれなり
一　人君に六勿といふ事有、一曰小過を以て大功をしりぞくること勿れ、二曰小怨を以て大德をすつること勿れ、三曰小失を以て大義を掩ふこと勿れ、四曰邪說を以て正度をみだること勿れ、五曰讒嫉

を以て賢能を廢すること勿れ、六曰奸詐を以て忠をやぶること勿れ、是を六勿といふ也、奸詐とは姦佞なる人ありて人の陰事を聞出し、ひそかに告るをいふなり、人主此六勿を愼ざるは、忠臣を勸る道にあらず、昔戰國の時に、魏の文侯といへる諸侯あり、野に出て老馬を見る、是はいづくの馬ぞと問ひ給へば、見しれる人ありて、是はもと公家の畜馬なり、今年老罷れて用に立ぬ故、捨られしなりとこたへければ、文侯曰、壯盛の時に其力を用ひて、老てすつるは仁者のすることならずとて、牽き歸り養ひければ、四方聞つたへて、良士歸服し、當時の强國となれりとぞ

一　昔齊桓公、甯戚といふ賢者を、牛車の下に得て、これと語りて其賢德を知り、學用んとす、左右の人の曰、此人は衞國の人なり、衞國と齊國と、其道路遠からず、人を遣して此人の樣子を問はしめて、其上にて用ひ給へといひければ、桓公の曰、それはさることなれども、若問しめば、恐らくは小惡を聞出し來らん、人の小惡を以て其大德をすつるは、人君人を得るの道にあらずとて、終に任用しければ、此人果して功を立て、桓公の霸業をたすけたり、是も人を取るの大法なり

一　明君も邪臣に任すれば、國治ることかたし、官必ず人をえらぶべし、正臣も暗主につかへては、治をなしがたし、是故に人主は必ず義理にあきらかならざれば善有司も益なし

一　人聖人ならねば、何ほど才智發明たりといへども、必短き所あり、明君は其短き所をおもひ、聞ひきゝて善を益す、暗君は其短き所をかくし掩ひて、愚を永くすといへり、護短君には、人諫をい

はず、愚を遂てさとす期なし

一　昔魯哀公孔子に告て曰、魯國によく忘るゝ者あり。宅を他所にうつして、其妻を忘れて連行ざりし、世にはかゝるよく忘るゝ者も有と語りければ、孔子答て曰、猶是より甚しきあり、昔桀紂といへる悪王は、其身を忘れて、非道悪虐を行ひ、終に國を亡ぼし、身を失ひしとぞこたへ給ふ

一　衰世の政は、大事に寛にして、小罪に急なり、歴史のしるすところ、皆かくのごとし、是みな愛憎の私心よりする所なり、禮記に曰、「愛而知二其悪一、憎而知二其善一」といへり、若憎で其善をしらざれば善をするもの懼る、若愛して其悪をしらざれば、悪をする者實に多し、寵臣悪事をするは是故なり

一　人の才能一品ならず、各其得たる所あり、故に器二使之一といふ、器使とは其器次第にて用るをいふ、陶器に陶器の用あり、木器に木器の用有、馬に重きを牽すべからず、牛に速路を求むべからざるがごとし、其才に因て用れば、皆其任にあたるをいふなり

一　「禍福不二虚至一」とは、禍も福も皆其人の情行より生ず、故に古人の語に醜夢も正行に勝ず、國に妖祥ありとも、善政に勝ずといへり、聖人與を求めず、誹を避ず、身を正し行を正して、衆邪おのづから息といへり

一　禍福の萌、其始は甚だ微なり、故に庸人は是を慢てゆるがせにす、賢者は其始を見て其終をしる、易曰、「履レ霜堅氷至」とはこれをいふなり、霜地にしくにいたれば、是堅き氷に至るをしるとい

ふ事也、善事は小なりといへどもなすべし、惡事は小なりといへどもなすべからず、君子微を愼とは是をいふなり、書經曰「不レ矜二細行一終累二大德一」といふも小事妨なしと思ひ愼ざれば、終に大事の妨と成といふことなり、凡そ事の成就するも、又微を積て大をなす、今まはりどほき樣なることなれども、歲月をつめば其事成就す

一　唐太宗の時、佞臣を逐去んと言上する者あり、太宗曰、朕人を官に任ずるは、皆賢者なりとおもひて其職に置、何をもつて其佞臣をしらんやと有ければ、此人の曰、佞臣をしるに術ありとて、密に奏して曰、陛下佯り怒りて試むべし、其怒りをおそれず、直言を以て諫るものは正臣なり、恐れて御尤なりといふ者は、みな佞臣なりといひければ、太宗曰、流水の淸濁は其の源に在り、源濁れば末の流れ濁り、源淸ば其末の流れも淸めり、人君は政の源なり、諸臣下民は水のごとし、人君みづから詐りをなして、臣下の正直を行んことを求むるは、源を濁して下流の淸めるを求むるがごとしと宣ひければ、其人はぢて退きぬ、諸臣これを聞て人々皆矜持して、誠信に役を勤けり、古賢の戒にも、人主はむざと、小人と婦人の言を信ずべからず、小人婦人はみな鼻のさきの智惠にて、遠き慮にいたらず、但道術義理の言のみ信ずべしといへり

一　昔晉國の君、穆伯といふ大臣を大將として、鼓城を攻させけり、鼓城は小城なれ共、要害よき構へにて、年を經て城降らず、時に間倫といふ者あり、大將に請て曰、鼓城は有司に我甚だねんごろに

する人あり、我城内にしのび入て、彼人と申合せ、内通させば早速城を攻くだすべしと、其計を告けり、此間倫といふものは、甚佞姦なる人にて、穆伯もとより其事をよくしりければ、間倫が計策を用ひず、隊將みた〱穆伯にすゝめければ、穆伯曰、此計必定城を攻くだすべし、軍功あれば必爵祿の賞あるべし、さあれば是佞姦を賞するなり、間倫もし大夫となり、君に近づけば晋國の害甚多し、佞姦志を得るの害は、鼓城を得るの利より多しとて、終に其計を用ひず、穆伯は晋國の賢大夫なり

一　人を見てみづから見ざるは、曚(メクラ)の道なり、人の事を聞て己が事を聞ざるは、聵(ミヽツブレ)の道なり、君子は、おのがあやまちをきくをこのみ、小人は人の過をきくをこのみて、己が過をきくをにくむ、君子は其過を聞て改め、小人は其過をかざりて遂ぐ、孔子春秋を作り給ふ、春秋は魯國の史記なり、本國の事においては、小惡といへども必しるし、諸國の事においては、大惡にしてはじめてしるすも、みづからしるを主とす、己正して而後に人を正すの義なり

一　人君の戒は、欲を専らにするに在り、欲をもつぱらにするときは、その欲する處、義理を辨ずして、下のくるしみをかへり見ざるをいふ、人臣のいましめは、利をもつぱらにするにあり、利をもつぱらにするときは、己が勝手をおもふまゝにして、不忠不義をかへりみざるをいふ

一　身は父母の遺體なり、飲食起居を節にして身をほしいまゝにせず、つゝしみて疎略にせぬは、孝の道なり、ことさら人君は社稷の主として一國の本なり、其任ことに大なり、もつとも愛重すべき事

なり

此一小册子、先伯考龍洲先生所ニ選述一以上ニ進於其君蓮池侯一也、書以ニ國字一者、蓋欲レ俾レ易ニ通曉一耳、嗟乎忠恭訓誨之誠、責難閉邪之實、溢ニ于言外一足ニ以見ニ其拳拳之意一矣、近書肆小川氏、請刻以公ニ諸四方一余懼ニ其久而亡失一故授レ之以上レ梓云

寛政癸丑孟春

姪彦謙謹識

治國修身錄下終

東都書林

本石町二丁目十軒店

椀屋伊三郎

齊桓問對

澤村琴所著

齊桓問對

上

齊桓公入レ國、明日召二集群臣一問曰、寡人賴二祖宗之靈一、得レ有二今日一、方二是時一、苟不レ能下興二隆社稷一撫中安臣民上、豈特獲二罪明時一而已、赫々皇天、亦將レ降レ罰、夫學二先聖之術一、而無三濟レ物之志一、不レ達二時務之要一、雖レ多亦奚以爲、學士大夫、願直言極論、竭二盡所蘊一、以副二寡人求レ治之志一、其或言涉二僭狂一、亦所レ不レ咎、但使下其道不レ戾二邦俗一、不レ違二人情一、切二乎時務一、而易中施行上、寡人則樂從焉、夫古今殊レ宜、華夷異レ俗、若違レ時戾レ俗、驚二動民情一者、固寡人之所レ不レ取、今擧二其要一、咨詢如レ左

一　治國之本在レ得レ人、得レ人之道自レ古難レ之、今欲下進レ賢退二不肖一、無上レ失二其實一、爲レ之如何

一　庶政闕失、臣民疾苦、吾欲二一一知一之、爲レ之如何

一　令必行矣、禁必止矣、國中士女、風俗頓變、蓋亦有レ術乎

一　役レ人不レ知二其勞一、如レ之何

一　士精二武藝一、國無二棄材一、如レ之何

一　藝仕者（若二醫者祐筆類一）各精二其業一、如レ之何

一　每レ有二失火一、輙多二延燒一、何以救レ之

一　凶年飢歲、不レ費ニ賑給一、而國無ニ饑莩一、如レ之何

一　不レ務ニ聚斂一、而足ニ國用一、不レ待ニ惠施一、士免ニ窮困一、豈亦有レ術乎

一　上佐ニ一人一、下臨ニ兆民一、名振ニ海內一、慶流ニ子孫一、願亦聞ニ其要一

齊桓問對

澤村維顯　著

桓公既問ニ政要一、而群臣相顧、未レ能レ對也、有ニ隰朋者一、乃進告ニ於公一曰、君之有ニ是言一、實宗廟社稷之福也、臣敢不下盡ニ愚忠一以答中盛意上、夫進レ賢退ニ不肖一、無レ失ニ其實一、在レ立ニ選擧法一、以審レ之、其略曰

國君於ニ諸士中一、モシ重任ヲ授ケント欲セバ、先命ニ卿大夫及諸將一、（卿大夫ハ家老ノ事、諸將ハ即士隊將也）各其所レ知ノ賢才ヲ擧シムベシ、於レ是、群大夫及諸隊將、ソノ部下ノ評定衆、並執達（評定執達見ニ于後一）ト會議シ、百人ノ中ニ十人ヲ選ビ、十人ノ中ニ一人ヲ拔テ、其姓名ヲ具ヘテ獻納ス、喩バ群大夫諸隊將凡十人アラバ、人々各一人ヲ擧レバ、選擧ノ士亦十人ナリ、此十人ノ嚢ヲ國君又監察官ニ命ジテ、詳カニコレヲ檢察セシメ、而後吾意ニ合ル者ニ定メタマフベシ

凡知レ政將レ隊ノ大臣ハ、常ニ國士ノ行能ヲ審視シテ、爲レ國ニ賢才ヲ舉ヲ務トスベシ、是大臣之本務ナリ

如又群大夫（凡大夫ト云ハ當テレバ、從レ政ノ人ニ非ズトモ、千石以上ノ大臣ハ當レ之、但コレハ本藩ニ在テ知レ是也、他ハ國ノ大小ニ從テ、各有ニ不同一）之中ニ於テ、從レ政ノ人ヲ選ニハ、偏ク文武ノ諸官ニ命ジ、其任ニ堪ヘタルヲ、人々各以ニ封事一上言セシムベシ、其選擢ノ法ハ、上ニ記スル旨ニ同ジ

惣ジテ吾邦ノ俗ニテ、大夫多ハ世レ官、故ニ非器ノ人ト云ヘドモ從レ政者有レ之、ソレ不レ知ニ治レ國之道一、而任ニ治レ國之職一トキハ、譬バ庸醫ガ術ヲ學バズシテ、病ヲ療セントスルガ如シ、何ヲ以テカ濟レ事ンヤ、然則爲レ之如何、曰置ニ之贊佐一トキハ、自大過ナカルベシ、所レ謂執達ト評定衆是ナリ

評定衆ハ、中士下士ノ中ニシテ（上ノ三等、國ニヨリテ不同ト云ドモ、本藩ニ在テハ、五十石ヨリ二百石マデヲ下士トスベシ、三百石ヨリ五百石マデハ中士、六百石ヨリ八九百石マデハ上士、千石以上ハ大夫（三等ノ士ノ祿與ニ富强殊不レ同事ハ、彼ハ二十五万石ノ國ヲ以テ論ジ、此ハ本藩ノ上ニテ云故ノミ）才智學術アル輩ヲ以テ任レ之ベシ、大底年五十以後ノ士ヲ取ルニ宜シト云ドモ、モシ拔群ノ俊士ナラバ、年齡ニハ拘ベカラズ、此職ニ任ゼル士ハ、常ニ其大夫ノ家ニ出入シテ、親キ事如ニ骨肉一ニシテ、道ヲ論ジ事ヲ議シテ、彼所レ不レ及ヲ輔翼スル事也、勿論役料アルベシ、其人ノ員ハ、時ニ隨テ定リナカルベシ

問、五十以後ノ士ヲ取ル事ハ何ヤ、曰、凡ソ吾邦ノ所レ謂士ハ皆兵ナリ、然レバ年過ニ半百一則筋力衰

ヘテ、多ハ用ルニタヘズ、且政事ノ職ノ如キハ、却テ老成練熟ノ人ニ宜シ、此官ヲ設クルトキハ、其才アル者ハ、老テ又其力ヲ伸ル事ヲ得、又多病弱質兵役ニ堪ザル事ハ、初ヨリ此職ヲ望デ、學ヲ勤ムベケレバ、國無ニ棄材一ベシ

又問、其上士ヲ不レ取ハ何ゾ、曰、上士ニシテ有レ才バ、直ニ主務ニ任ズレバナリ

執達ハ大臣ノ下吏ナリ、家ゴトニ二人、其一ハ從者ノ中ニ取リ、一ハ廣ク求テ堪任者ヲ用ベシ、此役ハ祐筆馬役ノ如ク、人々自擧ル事ナ聽スベシ、然ラバ民間耕釣ノ徒ノ中ニモ、其才器アル者輩出スル事有ン、國無ニ其人一トハ謂ベカラズ此職ハ爲レ人廉正ニシテ、治道ニ明カニ、世務達セル者ヲ選ムベシ

凡選レ人之道ハ、偏信ヲ去テ兼聽シ、言ニ就テ其智ヲ計リ、行ニ因テ其志ヲ察ス、至公無私ニシテ、不レ任ニ愛憎一則失レ人之甚シキニ至ラジ別有ニ知レ人要訣一コヽニハ姑ク略レ之

凡大夫ヨリ諸士以下、一役アレバ皆料ヲ給ス、其式詳ニ于富强錄一但執達ハ、大臣役料ノ中ヨリ給レ之、大底五十表ナルベシ

卿大夫ハ皆以ニ次第一輪ニ執政務一スベシ、輸執ハマハリモチノ事、今ノ月番モ、一月ヅヽノマハリモチナリ但一年ヲ爲レ期、或云三年爲レ限ベシ、是號ニ執權一ソレ爲レ政ノ道、專ニシテ不レ久、則雖ニ管樂一難レ盡ニ其能一

一　庶政ノ闕失、士民ノ疾苦、一々ニ知レ之事ハ、開ニ言路一而達ニ下情一ニ在リ

所レ謂言路ヲ開トハ、卿大夫以下、文武諸官ニ命ジテ、直言極諫スル事ヲ聽ス也、其間ニ狂妄僭越ノ言アリトモ、必シモ深ク咎メズ、唯其理ニ當ル者ヲ採用シテ、コレヲ褒賞アルトキハ、人々自ラ竭サ

ズト云事ナシ、又進善箱ヲ國門ノ傍ニ設テ、貴賤ヲ論ゼズ言上スル事ヲ許サバ、何ノ闕失カ知ラザラン、何ノ疾苦カ聞ザル者アランヤ

凡進善箱ニ上言スル者ハ、専ラ爲レ君爲レ民ニ獻言事ナレバ、一己ノ恩怨、一定ノ得喪ヲ訴アル事ニ非ズ、豫ジメ此旨ヲ令ニ布ベシ

此箱ニハ緊シク錠ヲ下シテ、町奉行ヨリ直ニ國君ニ奉ルベシ、國君コレヲ親ラ披テ、其理ニ當ル者ヲ擇取タマヒ、其是非得失ノ疑シキハ、卿大夫並評定官ノ輩討二論之一

一 令行レ禁止テ、國俗頓ニ變ズル事ハ、定二法制一テ賞罰ヲ明ニスルニ在リ

夫法制ハ、祖宗ニ本ヅキ、和漢ニ考テ、隨レ宜斟酌スル事ナレバ、容易ニ論ズベカラズ、然ドモ其要ヲ語レバ、嚴二統屬一正二度數一是ナリ、統ハ統領也、屬ハ從屬也、卿大夫ハ諸士ヲ統領シ、諸士ハ卿大夫ニ屬從スルヲ云、其法曰、

五家爲レ列、列有レ首、（一町ノ内ニテ、五戸ヅヽヲ一列トシ、其中ニテ、厚饒カ高家ヲ首トス）

二十五家爲レ組、組有レ頭、（千石以上ノ家ヲ以テス、一隊ニハ、二人ヅヽ有ベシ（組頭、或曰番頭、番頭ノ稱最當レリ））

五十家爲レ隊、隊有レ將、（即士隊將也、卿大夫ノ家コレヲ兼任ス）

一列ノ間ハ、行儀相戒、器械相通、（輿馬舟楫等ノ類）吉福相慶、患難相濟テ、五指ノ相離レザルガ如クス、如違二此令一者ハ、同列相格ス、不レ從者ハ組頭責レ之、猶未レ從者ハ、隊將コレヲ君ニ白シテ、隨二其輕

重ニ行レ罰ベシ、モシ又知而不レ格者、同列倶ニ同レ刑ベシ 如レ此ニ組合セバ、平日令行シ禁止ノミナラズ、軍陣ニハ晝戰ニ共面相識リ、夜戰ニ其聲相認テ、自挙患ナク、其難ノ利アルベシ、不レ可レ不レ知

組頭二人ハ、智勇アリテ兵法ニ達セル者ヲ用ユ

隊將ハ勿論非ニ其才器一雖レ爲ニ大臣一、不レ宜ニ妄任一、凡此職ニ居ル人ハ、平常其部下ニ親ミ接リ、審ニ諸士ノ行能ヲ知テ、進退用捨ヲ誤ベカラズ、モシ其部下禁令ヲ不レ用シテ、違犯ノ輩多ニハ是其隊將及組頭ノ罪也、依レ法行レ罰ベシ 減ニ其祿一落ニ其格一等ノ類ナリ、下ノ罪格ニテ並考ベシ

問、近習及麾下兵士、ソノ宅諸將ノ部下ニ在者ハ、如何センヤ、曰、是亦常ニハ一列ニ組入テ可也

又問、此輩ノ外ハ部下ニ他ノ組ヲ混ゼザルカ、曰、然リ、他組ヲ雜置バ、令禁ノ行ル事有ベカラズ

又問、町ニヨリ千石前後ノ家多キハ、列法難レ施カラン

曰、列法ハ本爲ニ諸士一ニ設タリ、且千石前後ノ家ハ、多クハ組頭或六奉行、旗鎗ノ武者奉行各二人ヅヽ、合六員也 歩卒隊正等、及其他ノ顯職 用人側用人町郡ノ兩奉行ノ類 ニ居ル、故ニ其例自別ナリ、然ドモ隣家互ニ相助相戒ル事ハ列法ノ旨ヲ守ベシ（此一段ノ注意ハ令下チ分ヲ定ルト云處其要也）

凡卿大夫ヨリ士庶ニ至マデ、度數ヲ正スヲ法制ノ要トス、度ハ制度、數ハ等數也、服色輿馬、賄遺宴饗ヨリ、僕從器械、スベテ事々物々ニ其爵祿ニ應ジテ格ヲ定ムベシ 其詳ハ富強錄ニ見ユ 又功罪ニ於テ格ヲ立ベシ、功格有レ五

一曰大功凡爲レ國、立ニ非常功一者ナ云、今姑從役二十度以上、可レ準レ之歟（從役ハコ、ニハ江戸ヅメノ事借ニ用フ、又從東ト稱スルモ可也、其說富强錄ニ詳ニス）

二曰上功其功次レ大者ナリ、今姑以ニ從役十度以上者一準レ之

大功上功、賞以ニ爵祿一、大傳ニ三世一、上傳ニ二世一、三世トハ、己ト子ト孫ナリ、二世トハ己ト子ト合テ二代也

三曰中功功次上者、今姑以ニ從役七度一以上準レ之中功賞以ニ資財一、不レ以ニ爵祿一、々止ニ其身一、死後滅レ祿五分一、千石ナレバ八百石トス、但是ハ父死シテ其子缺ニ、或不肖、無ニ少勤勞一者ニ施スノミ、若又其子有ニ功勞一ハ、論レ宜テ不レ減ベシ、他ノ減例並準レ之

四曰下功功次中者、今姑以ニ從役三度以上一準レ之中功賞以ニ資財一、死後滅レ祿四分一千石ナレバ七百五十石トス

五曰小功功之最微者、今以ニ從役一兩度一準レ之小功賞以ニ資財一、死後滅レ祿三分一千石ナレバ六百石トス、凡六百石以上ハ不レ滿ニ五十一零數、皆去レ之

如レ無レ功者、祿滅ニ其半一（本領ノ事、富强錄ニ比スレバ多シ、各有ニ此說一當ニ併考一之）五百石トス

死ニ公事一者、三年不レ滅死シテ三年以後ニハ、依レ格滅レ之、未ニ三年一間ハ、其祿ヲ其家ニ賜ナリ

但滅レ祿之例モ至ニ本領一則止本領トハ、卿大夫及諸士ニ、世々相傳テ給スル地方ノ知行ヲ云、大抵諸士ニハ、五十石ヨリ百石餘ニ至リ、大夫以上ニハ、二百石ヨリ五百石ニ至ル、多モ不レ過ニ五百石一、少モ不レ下ニ五十石一、非レ有ニ重罪一、數十世ニ傳ヘテ、減損アル事ナキ、士大夫ノ隱居地ナリ、其詳ハ見ニ于富强錄一

凡雖レ有ニ大功一、非ニ其器一者、勿ニ賞以モ職、職ハ祖業ヲ守リ、王事ニ奉ズル所ナリ、モト國君ノ私スベキニ非ズ、臣下亦不レ顧ニ己才一、唯以ニ顯官一爲レ榮者ハ、不レ知レ耻之甚、固無レ足レ論

如レ是ニ格ヲ設テ、有功ヲ賞スベシ、又從役一度無レ之トモ、有レ功有レ勞者ハ、按ニ此格一ジテ、大上功ニモ準ズベシ、或奉レ法守レ度、始終不レ怠者、無功ト云ドモ亦準ニ中功一、十年不レ怠者準ニ下功一、五年不

レ怠者準ニ小功一ベシ、風俗ヲ厚スル所以ナリ

一曰極罪ハ斬、殺レ牛殺レ親等、大逆無道者、並處ニ此刑一（斬ハ棄市ナリ、衆ニ觀セシメテセイバイスル也）

二曰大罪ハ死、盜殺傷賊、惡次ニ極罪一者類、並處ニ此刑一（死ハ賜死ナリ、自殺セシムルヲ云フ）

三曰重罪ハ放、無禮不義、行近ニ禽獸一、壞ニ亂風俗一者、並處ニ此刑一（放ハ放逐也、オヒハラフナリ）

四曰小罪ハ廢、逸遊無レ度、常事ニ飲博一、阿ニ事權貴一、不レ睦ニ親戚一、於ニ文武業一無ニ一所能一等類、並處ニ此刑（廢ハ廢置也、官職ヲ奪テ本領ニ廢置スルナリ）

五曰微罪ハ貶、事無ニ功績一、動多ニ差過一者類、並得レ處レ之（減レ祿貶レ爵ス事ナリ、是刑名ニ非ズ、故ニ不レ曰レ刑、タヾ罪格五者ノ其一ノミ）

凡大夫以上之罪、毎減ニ一等一（放スベキハ奪スル類）

問、磔刑、亦士ニ施スベキカ、曰不忠不孝、大逆無道者ハ、不レ可レ不レ處レ此

如レ上ニ善ヲ勸メ惡ヲ懲サバ、令必行レ、禁必止ン

一　役レ人使レ不レ知ニ其勞一事ハ、即如レ上ニ功罪ニ隨テ賞罰シ、少シモ其私ヲ用ザルトキハ、人々自勸メ自ラ懲リテ、其勞ヲ竭シ其勞ヲ忘ルベシ、人ヲ役シテ勞ヲ知ザラシムルノ術、古今コノ外ニハ有ベカラズ

一　士精ニ武藝一、在ニ春秋簡閲一、定ニ其優劣一、

春秋仲ゴトニ、（八月二日）當職執權、從ニ各部隊正、及主務一員、監察二員一、於ニ其講場一、諸士ノ弓馬刀鎗ノ術

ヲ臨視シテ、其優劣ヲ考フベシ、但中等以下ノ藝ハ、不レ許レ入レ場タヾ其姓名ヲ具ヘテ、其師ヨリ帳ヲ以執權ニ呈スベシ

問、上等ノ藝バカリヲ簡閲スル事ハ何ゾヤ

曰、如レ此スレバ、中下等ノ輩、其場ニ不レ出ヲ耻テ、自勵ムベキ故、却テ逐一ニ臨視スルニ愈ランカ、且此令一タビ出バ、諸士悉ク武藝ヲ習テ、必今日ノ寥々タルガ如クナラジ、然ラバ一師ノ門下ニモ、數十百ノ弟子アリテ、一日コレヲ閲センニハ、不レ堪二其煩一事ナリ、故ニ其上等ノミヲ試ム

又諸流藝士、タガイニ講場ニ往來シテ、勝負ヲ試ムル事ヲ聽スベシ、モシ又各流ノ師タル者、相與ニ其術ヲ試ント欲セバ、マヅ豫メ監官ニ請テ、其場ニ臨テ證人タラシムベシ、凡試二勝負一之所ニハ、皆榜ヲ立テ、如レ左ニ令スベシ、其文曰

士之講レ武、將レ答二主恩一、其試二勝負一、亦豈爲レ己、苟挾二私意一、既非二正士一、其藝雖レ優、固無レ足レ取

カヤウニ相定テ、其勢無雙ノ者ヲバ、國君ノ師範トスベシ、如又師範ト勝負ヲ試テ、其上ニ出ル者アラバ、更ニ師範號ヲ賜テ、彼上ニ位セシムベシ、敵ナル者ハ其下ニ位シテ、亦師範トシ、下ナル者ハ賞賜アルノミニテ、號ハ賜ベカラズ師範モシ年老技退カバ、號ヲ辭シテ位ヲ去事ナリ

凡勝負ヲ試ムル事、鎗刀ノ如キハ、兩度相當ルヲ限トス、兩度全勝者ハ、所レ謂出二其上一也、一勝一負者、爲二敵手一、兩度共ニ負者ヲ下トス、弓馬等ノ諸術モ、準レ之可レ立二其格一、但弓ハ專主二容與一貫

シテ、必シモ中ヲ貴バズ、又華人ノ射法ヲ參考シテ、其道ヲ究ムベシ、凡ソ弓馬ノ二ツハ、中華ノ法ヨリ精ハナシト見ユ

凡諸士武藝ハ以二弓馬鎗刀一爲二四部一、各專門之業トシ、其性ノ所レ好所レ能ヲ講究スベシ、有二餘力一則大銃火砲棍法拳法等ニモ涉ルベシ、但必シモ兼ネ習事ヲ主トセズ、精練ヲ貴トス、四部武藝ハ、射手騎手鎗手刀手ト稱シ、各爲二一隊一ベシ、又騎手ハ馬役ノ事ト不レ同、此一隊ヲ設置テ、敵陣ヲ乘切ニ用ユナレバ、常ニ其主意ヲ忘ベカラズ、射手ノ輩ハ、專ラ寄ト貫トヲ貴テ、中ヲ主トスル事勿レ、凡諸藝皆實用ヲ主トス、豈一場ノ佳觀ノ爲ナランヤ

但馬ト刀術ハ、諸士不レ可レ不二兼習一、若又多病、或寡二氣力一シテ、武藝ヲ能シ難キ輩ニハ、儒學軍學、及禮容天文、書算等ノ中ニシテ、其性ノ近キ所ヲ習シムベシ、儒學軍學ノ如キハ、勿論開レ法定レ亂之道、其係ルトコロ莫大ナリト云ベシ、ソレ文武如二車有二兩輪一、アニ偏廢スベケンヤ、世俗大抵貴レ文賤レ武、コレ戰國ノ餘習未レ除ノミ、如レ是ニ定テ、其業頗成者ハ、不レ問二貴賤一、悉賜二出身一、既ニ出仕セル輩ニハ、又隨二其宜一賞賜アラバ、文武ノ才士、年々ニ競出テ、國中自ラ棄財無レ之、或非レ文非レ武、無レ才無レ行ノ輩ハ、是竊レ祿ノ罪人、天地間ノ一蠹虫ノミ、速ニ祿ヲ減ジ爵ヲ貶シテ、勸懲ヲ正スベシ

右ハ皆諸士ノ事ナリ、モシ又千石以上ノ大家ハ、入相出將トナルノ任ナレバ、專學二儒術兵法一、以爲二邦家一、立二大勳一ベキ事也弓馬鎗刀ヲ習事勿レト云ニハ非ズ、其重ンズルトコロ、此ニ在テ彼ニ在ラズト云ルノミ、但馬ハ大夫タル人ハ、能乘ラズンバ有ベカラズ

鳥銃ハ近世始起ルト雖ドモ、其利天下ニ無レ敵、且攻戰守禦ミナ通用スベシ、中ニ就テ大銃ノ利最

大ナリ、大銃ハ即破ナリ、明ノ戚元敬始テ佛狼機虎跤等ノ破ヲ製シ、進退左右意ノマヽニ轉ジヤスク、敵ヲ十里ノ外ニ殺スベシ、但其製知者ナシ、近ゴロ長州藩士ニ其製ヲ知ル、又コレニ因テ自ラ推究テ破牀ヲ造ルニ、輕キ事如ㇾ葉ト云リ、尋究テ其法ヲ得バ、實ニ天下ニ敵ナカルベシ

一 藝仕者、各其業ニ精シキ事ハ、考課之法ヲ立ルニ在リ

今世藝事ノ輩、其業ニ怠ル事ハ、不ㇾ論ニ其能ㇾシテ、祿ヲ世ニスルガ故也、故ニ考課ノ法ヲ立テ、其弊ヲ改タム、喩バ醫師ナラバ、分爲ニ二等ㇾ曰醫學、曰醫術、術學兼備者爲ニ其長官ㇾ偏長者（術力學力一方ニ長ゼルナリ）亞ㇾ之、隨ニ其優劣ㇾ大ニ小其祿ㇾ

祐筆亦分爲ニ二等ㇾ曰文者、曰筆者、文筆兼備者爲ニ其長官ㇾ偏長者亞ㇾ之、隨ニ其優劣ㇾ上ニ下其祿ㇾ

凡藝仕家ハ、其子不肖ナレバ、養嗣ヲ以業ヲ承シムベシ、其子ハ又他家ニ養テ、其性之所ㇾ能所ㇾ嗜ノ事（或文或武、凡ソ爲ㇾ國可ㇾ立ニ功勳ㇾ者ナス）ヲ習テ、其才ヲ遂セシムベシ、或他姓ヲ冒スル事ヲ不ㇾ願者ハ、別ニ他藝ヲ習テ、其志ヲ立ル事ヲ聽スベシ、又先業ヲ繼ント欲シテ、未ㇾ成ニ其材ㇾ者ハ、其學成テ後ニ、先職ニ居ル事ヲ聽スベシ（其間ハ、中功以下ノ家ハ、減少ノ餘俸、或ハ厚秩ナ仰デ家居シ、タヾ佳節朔望ニ朝シ、或閑暇ニ習スルノミナリ）馬役ハ厩ナリ、厩亦分ニ二等ㇾ曰馬術、曰馬學、馬學ハ軍馬ノ諸法、及馬ニ關ルホドノ故實ヲ知レルヲ云、考課之法ハ、喩バ醫生ナラバ、先於ニ城下野外ㇾ民家極貧ナル病者ヲ尋テ、可ニ療治ㇾ之、勿論此ニノ禮物ヲモ受ベカラズ、如ㇾ此スル事積年ニシテ、其全癒成者、乃有司コレヲ考試ス、其法病家十數ヲ限トス、（此病人モ、先ハ微賤ノ家ニテ、難治ノ證ナ云）醫生コレヲ診察シ

テ、或ハ療レ之、或ハ辭レ之、其言十人ニシテ八九當ルヲ上等トシ、十ニシテ六七ヲ中等トス、半ヨリ以下ノ輩ハ、退ケテ其學ヲ勤シムベシ、其上等中等ハ、即賜ニ出身一ベシ

右ノ格ヲ以テ、廐書吏モ、其考課ノ法ヲ立ベシ、今玆略レ之

一　火災不レ至ニ延燒一、在ニ分レ地防救、吏董ニ勤怠一

分レ地防救トハ、先以ニ郭門內外諸街一、分爲ニ上中下一、又步卒緣レ水（芹水ヲ云）諸巷ヲ以テ、分爲レ之ベシ、內街上路ニ災アラバ、步卒巷ハ其所ヨリ某マデト、其相近キ間ヲ以テ、預ジメ配當セヨ、外街ノ配當亦如ニ此例一、群隊ノ卒正ハ、又部下ニ遠カラヌ家ヲ以テス、士隊將ノ中一人、一月替ニ統ニ領之一（部下組頭二人、同從レ之、其他ノ大夫士ハ、至親ノ災ニ非ズンバ、妄ニ出テ場ヲ塞ベカラズ）統領ハ燒所ニ近ク馬ヲ寄ヨ、諸正ノ所爲ヲ視テ、隨レ宜指揮ス（或過レ剛傷レ人アリ、或ハ過レ柔テ火ヲ延シムルアリ）

火災アラバ、正ハ不レ待レ卒、卒ハ不レ待レ正、速ニ馳至テ防救ベシ、凡救火使ハ、一町ゴトニ幾隊ト定メ、後ヨリ來者ハ、前後左右ニ場ヲ見合セテ備へ、統領ノ令ヲ待チ、或臨機應變シテ、其功ヲ立ツベシ、大抵二隊ヅツヲ以テ救滅セシメ、統領コレヲ下知シテ、生手ヲ入替〳〵防レ之ベシ、二隊ヲ一番トスル事ハ、妄ニ混雜セザラシメン爲ナリ、勿論火勢熾ナル處ハ、幾隊ノ限ハ有ベカラズ、生手入替ラバ、初ノ隊ハ速ニ引退キ、場ヲ見合セテ備ベシ、此時ハ專以ニ戰陣之法一、進ニ退諸卒一スル事、隊正ト統領ノ本意ナルベシ（如レ是スレバ、國中ノ武備モ盛ニ、其役人ノ才不才モ知ヤスシ）卒隊ニハ、毎レ隊ニ旗二本ヅツ、一本ハ卒長（手代ノ事）コレヲ執

テ、速ニ其所ニ立ツテ（旗ニハ何某組ト書テ、常ニ身近ク設置）一本ハ隊正コレヲ持セテ出ル也、是ヲ以テ相總テ、一所ニ會聚ス
救火監ヲ置テ、統領並諸隊正ノ勤怠優劣ヲ、帳面ニ記シテ、國君ニ上覽セシムベシ（此役ハ三町ヲ一組トシテ、三人ヅヽヲ一月替ニシテ務シム、其三町ノ内ニ火出バ、吾屋宅ニハ少モ顧セズ、速ニ火所ニハセ至テ、如上ニ監視スベシ）
凡町中ニ塗屋ヲ多構ヘシメ、水桶小池等ヲ、地ノ宜ニ隨テ設ケ、又常救火ヲ置テ、速ニ救應セシムベシ（此雇ハ至貧ノ者、或乞食ノ中ヨリ、健壯ナルヲ選取テ、町ゴトニ二人ヅヽ、三町ヲ一組トス、町側ニ小屋ヲ設テ居シメ、其養ハ町中ヨリ給ス、勿論妻子器用ヲ不レ帶）能勤タル者ニハ賞錢アリ
凡救火ノ諸具ハ、隊正ヨリ始テ、諸街ノ備フルニ至マデ、毎年ニコレヲ修補シ、實用ニ適ハシメテ、文具トナスベカラズ（諸隊正ハ、各役料ノ中ニテコレヲ修補ス、近世多ハ費ヲ厭テ、其破損ヲ戒ムル故ニ、イタヅラニ隊傍ニ引置テ、事畢ルマデ不用者アリ、是無二役料一シテ、修補ニナヤム故ナラズヤ、町中ノ諸具ハ、勿論皆其町ヨリ錢ヲ募リテ修ス）
火滅セバ、國君依救火監之帳一、統領及諸隊正ノ有レ功者ヲ賞賜アルベシ、統領及諸正ハ、又其部下ノ功勞アル者ニ賜ヲ分與ヘシ、如レ是ニセバ、大風暴颶ニ非ズバ、妄リニ延燒ノ甚キ事ハ有マジキナリ、兵亂ノ患ハ幸ニ治世之民ハ知ル事ナシ、コレニ次デハ火災ヨリ慘シキハ無レ之、濟物ノ志アル君相ハ、常ニ其備ヲナシテ、不虞ヲ待ズンバ有ベカラズ

一　凶年ニ無二饑莩一事ハ、定レ租省レ事、設レ方治レ產シムルニ在リ

定租トハ常免ノ事也、常免ナレバ順檢使等ノ諸吏、村中ニ出入スル事ナク、村長免ヲ乞テ府下ニ往來セズ、其省レ費既ニ十之二三ナリ、大抵一村ゴトニ、年中ノ費用三分之二ハ、群吏ノ給供ト、貪吏ノ

秋求、村長苞苴ノ用ニ費ス、故ニ農ノ不レ窮ヲ欲セバ、吏人ノ相出入スルヲ止ルニ如クハナシ、定免ナレバ農夫モ亦餘計ヲ得ルヲ樂ンデ、其力ヲ勵ス事多シ

凡爲レ農定レ租之法ハ、今年ヨリ上十ヶ年ノ間ニ於テ、其中分ナルヲ以テ爲レ度ベシ（國初ノ定免ヲ用トキハ、却テ農家ノ大患ナルベシ）如レ是ナルトキハ、吏人ハ村ニ出入事少ク、村長ハ諸謁ノ費ナリ、上ヨリノ惠貸無レ之トモ、一年ノ費用既ニ三分之二ハ得レ省トス

村ニ有二荒地一モノハ、其邊ノ貧民ヲ以テ闢カシメ、其貨ヲ厚シテ、彼ノ急ヲ救ベシ、（目前ノ飢ヲ免ル、也）又五百石以上ノ處ニシテ、流水アル村ニハ、必水車ヲ設テ、舂杵ノ勞ヲ省ベシ、其餘力ヲ以テ、コレヲ畎畝ニ施セバ、其利不レ少

社倉ヲ立テ窮民ヲ救賑スベシ、社倉ハ村ゴトニ倉ヲ置テ、年々米ヲ貸ス事也、喩バ高千石ノ村ナラバ、百石ノ社倉ヲ設ク、然ルニ此米俄ニ辨ジ難シ、故ニ其村或ハ隣近ノ富民ニ募リテ、マヅ五十石ヲ出サシメ、是ヲ原米トシテ、年々ニ借シ救フ事ナリ、其法毎年春夏ノ間ニ、村ノ貧民ヲ擇ビ、借米ヲ願フ者ニ、其口數ヲ量リテ貸シ與フベシ（至極ノ貧民ハ、サマデ多クハ無レ之モノ也、シカレバ大抵春夏ノ間ニ於テ、飢ニ充ルホドノ事ニアラズ、餓死ニ至ル事ハ有マジ）如レ是ニシテ、其歳末ニ一分半息加ヘテ還納セシムベシ、此一分ヲ以テ、年々ニ本主ニ還セバ、十年ニテ悉ク畢ルナリ、（但本バカリニテ利息ナシナリ）（原米五十石、此利一年ニ七石五斗也、此内五石ハ米主ニ返シ、餘ル二石五斗、十

年ノ間ニハ二十五石ト成ル。此二十五石ヲ以テ、原米五十石ニ通ジテ、七十五石ナリ、於レ此又七十五石ヲ原米トスレバ、此息一年ニ拾壹石二斗五升也、然レバ十年ニシテハ百拾貳石五斗ニ至ル、コレヲ原米七十石ニ合スレバ、百八十七石貳斗也、五十石ハ倍シテ百石トナルトハ、大數ヲ以テ云リ、實ハ七十五石ナリ）

既ニシテ餘贏ノ米ヲ以テ、原米ニ雜ヘテ借レ之事ハ、十年ニ及ベバ、五十石ハ倍シテ百石ニ餘ルベシ、於レ此原米ニ通ジテ二百石ヲ、常ニ貯ヘ置テ、自レ是以後ハ、利息ヲタヾ耗米ニ脩ルホドニシテ、春夏或ハ冬春ノ際、飢寒逼レ骨ノ輩ニ惠借トキハ、何ゾ餓莩ノ患アランヤ、此外菽麥等ノ雜穀ニ至マデ、年豐トキハ其餘贏ヲ收納セシメ、此倉ニ貯置キ、飢荒ヲ待テコレヲ賑サバ、何以テカ窮スル事アラン（是ハ古ノ義倉ノ旨、吾邦ニモ王代ニハ有レ之）

社倉奉行ヲ定テ、最モ人ヲ撰ベシ、如レ是ノ良法ト云トモ、更非ニ其人一、有レ害而無レ益、古賢ノ云有ニ治人一而無ニ治法一、是亦不レ可レ不レ知（右ハ高千石ノ村ニテ論レ之、餘ハ準レ之可レ知）

社倉奉行ヲ定テ、最人ヲ撰ベシ、如レ是ノ良法ト云トモ、更非ニ其人一、有レ害而無レ益、古賢ノ云有ニ治人一而無ニ治法一、是亦不レ可レ不レ知（右ハ高千石ノ村ニテ論レ之、餘ハ準レ之可レ知）

富民ノ原米ヲ出セル者ニハ、其多少ト、志ノ淺深ニ因テ賞褒アリ、（此賞褒ハ、服色或賜レ氏、或許ニ帶刀一等ノ中ニテ、各其分限ニ隨テ、事ニ害ナキ者ヲ以ス）

凡農夫ハ、高二十石ニ及バズンバ、子弟ニ產ヲ分事ヲ許スベカラズ、農ノ貧困ニ至ルハ、多クハ爲レ此

ナリ 其子賤人アリトモ、一人ノ外ハ、皆他所ニ遣シテ、或人仕シ、或ハ他業ヲ習ハシムベキナリ

縣吏ハ清廉ニシテ學術アル者擇ベシ、其貪暴ナル者ハ、村民直ニ典農司ニ訴テ、是ヲ罷ル事ヲ聽ス、或不レ得レ罷レ職トモ、其治下ヲ更ベシ 南筋ナラバ北筋トナス モシ其子不肖ナラバ、必職ヲ繼シムベカラズ

今ノ代官ハ、民ノ訟訴、其事ノ不レ重者ハ、多クハ自ラ裁許ス、民ハ邦ノ本ナリ、故ニ古ノ賢君ハ躬親臨レ之タマヘリ、今不レ及レ此トモ、不肖ノ者ヲシテ治シムベケンヤ、縣吏スラ如レ此、況ヤ典農ヲヤ、最當レ撰ニ其人一

村正亦清廉ニシテ謹愼ナル者ヲ撰ベシ、又數年ヲ出ズシテ替レ之ベシ 其事ニ習ルホド、怠慢ノ心生ジテ、濟債多ク、村民ニ害アリ 然ドモ村ニ任ズベキ者多カラズバ、唯其可ナル者ヲ撰ベシ 村中ヨリ入札ヲ爲セテ可レ定

村中ノ五人組、近世ハ其名アッテ其實ナシ、宜ク古法ニ據テ、力役相助ケ、非違相正、器用相通、費ヲ省カン爲也、但物ニヨルベシ 患難相恤ベシ、其不レ從者ハ、村正ニ告ゲ組ヲ外スベシ、其例大抵上ノ例法ニ同ジ

一 聚斂セズシテ國用足リ、惠施ヲ待ズシテ、士ニ窮困ナキ事ハ、制度ヲ立テ奢侈ヲ禁ジ、卿大夫ヨリ始テ、衣帶服色、輿馬僕從、贈遺宴饗、婚嫁祭喪等ノ上ニ、事々物々ニ、其格式ヲ撰定テ、過分ノ費ナキヤウニスルナリ、其詳コトハ富強錄ニ見ユ、並考ベシ加增ヲ止テ役料ヲ給シ、依ニ罪格一而減ニ其祿一、本領ヲ設テ鄉居ヲ聽スニ在リ、本領ハ前ニ云コトク、士大夫ニ遠方ニテ賜ル、世々相傳ノ知行所ナリ、貧困ノ家ハ、此本領ヘ退歸テ、其制ハ祿ヲ四分ニシ、一分ハ上約米トシ、二分ハ宿債ヲ償ヒ、一分ヲ以テ自養ヒ、五年三年期ヲ定テ、其中ニ貧窮ヲ免ル、コト也 本領之設ケ、其利甚多、詳ニ見ニ于別書一、卽富強錄 又千石以上之家ハ、子弟ニ分知ヲ願事ヲ聽スベシ、大底國ニハ厚祿ノ家少ヲ爲レ利、何ゾナ

レバ千石ノ家ハ、五騎ノ兵ヲ不レ能レ出、百石士十家ハ、十騎並與テ出レバ也、況ヤ諸士ノ於ニ武事一、雖レ不ニ精鋭一、而未レ可レ出ニ陪臣之下一也、誠ニ如レ此セバ、根本固シテ枝葉榮へ、國用足ツテ士免ニ窮乏一

一 上輔ニ一人一、下臨ニ兆民一、名振ニ海内一、慶流ニ子孫一、亦豈他ニ在ンヤ、上ニ所レ陳ヲ一々ニ施行シ、加以下崇レ道講レ學、不レ任ニ私智一、採中納直言上、則朝有ニ賢臣一、野無ニ遺才一、君徳日進、治道日開、百神降レ祉、吉福悉臻ン、然則所レ謂上輔下臨、名振ヒ慶流ハル者、無ニ事不一レ成、嗚呼盛哉

齊桓問對　終

金銀吹替評

金銀吹替評

元祿年中より、金銀米錢の儀に付公儀よりも、度々被二仰出一、諸國の騷動、萬民も此儀に心定り不レ申、度々混亂に及候、文昭院樣御代の御書出しにも、東照宮の定置れし法のごとくになし返さるべき御本意候間、天下貴賤宜く此旨を存ずべき由被二仰出一、御代の始より常に御心に掛れし所は、金銀の品もとのごとくに、諸物の價も平かに、いかにもして天下の煩を除るべき御本意に候得ども、凡物一たび破れ候後、もとのごとくになし返がたき事は、定れることわりにて、中にも今日金銀の品を、もとのごとくになし返され候事、尤御難儀の事に候と被二仰出一候、然處に當御代にて、もとのごとく慶長金に成し替され候事は難い、御仁德乍レ憚御器量御廣大の御儀と、諸國の士農工商ともに奉レ感、安堵の思ひを成し、萬々世も變じ不レ申候樣にと奉レ願候處、金座銀座の者共、先年より心奢り、只今貧窮におよび候故、吹替被二仰付一候はゞ、天下百分一の長者と、自身にも唱へ、銀座等も數年吹替の事を相願候は、皆々身の爲計にて、天下の御爲め、國土の官は貪着不レ仕、當分の道理宜き樣に、奉行所を謀り相願候故、御役人の內にも、道理御考へ無レ之、當座の利程になづみ、尤の樣に言上可レ被レ致候、一度御直し被レ遊候金銀、問もなく又々惡敷品に被二仰付一候儀と、末代迄將軍の御恥辱と奉レ存候、此上萬々一吹替被二仰出一候はゞ、又々世上の大混亂、大き成さしつかへに可レ成候は當然、三割の增し有レ之

樣に申上、百兩と百三十兩に引替、百萬兩の内にて三十萬兩の金子增候道理に申上候得共、三十萬兩增し候はゞ、又々三百萬兩も金銀隱れ候道理にて、却て國土元金銀は夥敷減少仕儀にて候、元祿金吹替被二仰出一候節者、元祿金の吹替の員數計、世上に通用いたし、慶長金の分不レ殘隱し、人々たくはへ置、世上へ出し不レ申候、其後乾の字金に吹替被二仰付一候節、乾金計の通用にて、外の金銀は彌隱れ申候、當御代に又々新金吹替被二仰付一候て、慶長金と取交通用仕候樣に被二仰出一候得者、前の隱れ居候慶長金夥敷出、新金よりは結句慶長金の員數、國土に夥敷出申候、七年以前、乾の字金も取交、通用仕候樣に被二仰出一候處、又々何十萬兩と申す乾金、世上へはびこり、只今世上の金銀夥しく相增し、元祿年中より以來、只今までの樣成儀は無二御座一候、此度又々吹替被二仰付一候はゞ此度の新金計にて、慶長金新金乾金正銀共に隱れ、大分減少可レ仕候、其上三割增の勘定を申募り、家質證文預け金の手形等に、爭論出來、其外地代店賃諸色の相場も狂ひ、諸國の大騷動、諸人の心定り申間敷候、金座銀座並掛りの役人計の德用有レ之、諸國元士農工商は大きなる難儀にて、誠以天下の煩とは可二罷成一候、金銀共に吹替への儀は、御代々堅く御制禁に仕度候、此度金座にては前日請求仕人を抱へ、近日吹替被二仰出一候樣に風聲仕、並掛りの役人も、慥に吹替有レ之旨決定に申レ之、金座手代とも每日御役所へ被レ召、神文等被二仰付一候得共、最初より不レ殘洩れ聞、諸國の沙汰隱れなく、諸人歎き申候、然る處に本多中務大輔、壹人天下の御爲め、忠心の筋を以、御得心無レ之、此上御役儀御免は不レ及二是非一候、

御在役の内は、中々吹替の儀者、被二仰出一間敷儀と被レ仰候故、暫く此沙汰相止奉るは、年號改元の御觸も、御見合、金銀吹替並鑄錢の御觸ともに一度に被二仰出一候積に候處、又御思案も出來候故、年號改元の御觸計にて、翌日鑄錢の儀は障り無レ之故に被二仰出一候との風說世上に隱なく、中務大輔殿御儀を、天下の寶、萬民の寶と奉レ感候、亂世には、先祖本多平八、武功を以、御世に成し奉り、今又治世の御代には、其子孫の中務、忠諫を顯し候も、偏に東照宮の御神德、天下を御守被レ遊候驗と彌難レ有奉レ存候、水野和泉守殿、御在役の節も、兼々被レ仰候は、金銀吹替へと、米直段の御沙汰と、飛彈山の請負の事、此三ッは天下の大災なり、和泉守在役の内は、中々被二仰出一候樣に仕間敷候、和泉守退去の後は、早速此三ッの煩起り可レ申と、是のみ御苦勞に被二思召一、御遺言にも、此事のみを被二御置一候、東照宮の御神德つきさせ給はずば、此以後本多中務など、執政の役にて被レ成候、和泉守死後、中務ならでは、天下の爲めの忠諫は、有レ之間敷と被レ仰候、細田方より二度迄、銀吹替への伺書を上ゲ被レ申候へ共、和泉守殿なげ返し給ひ、以の外御立腹にて、御取上ゲ無レ之候、銀座の年寄、內緣を以和泉守殿へ、御目に懸り候積に出向申候處、にらみつけ給ひ、御言葉さへ御掛け不レ被レ成候、然るに和泉守殿御役御免の砌より、はたして米の御買上始り、去冬定直段の御觸等にて、諸國の大災にて、手詰罷在候、米の直段さばけの方便と申立、又々金銀吹替への儀、御相談相始り候も、和泉守殿御遺言、末を御考への儀、毛頭違に無レ之段、今更奉レ感候、然共東照宮の御神德、和泉守忠信の一

念の魂盡きずして、中務を忠諫、誠以不思議なり、有がたし、天下國家安穩の吉端と、大名小名、萬民まで、悦びて眉を開くべし、唯今者中務殿一人を、萬民も賴に仕可㆓罷在㆒候、彌忠勤くじけ給はず候樣にと奉ㇾ願候、御諫言を以、天下安堵、公儀の御名も穢さず、末世に至り、將軍の御惡名をも殘さず、天下の出來不ㇾ申候樣にと奉ㇾ願候、一度御改被ㇾ遊候金銀を、又候間もなく、惡金銀に吹替へ被㆓仰付㆒候儀は、全く公儀の思召には叶ひ申間敷候處、將軍の御名を末世迄穢し、天下の御恥辱をすゝめ候儀は、役人の當分の利潤に目のつき、天下の災の勘辨は毛頭無ㇾ之、大きなる誤り、不忠至極と可ㇾ申哉、愈金銀吹替への御沙汰御停止被ㇾ遊、並河岸八町の外にても、前々の通りに無㆓御構㆒來商買仕候樣に被㆓仰出㆒候はゞ、天下安穩、御代長久、世上も自然と困窮も直り可ㇾ申儀、明白の道理にて、幼童迄も、此理考へざるものあるべからず候、御時も早く、御改可ㇾ然もの歟、

金銀吹替評　終

杢政談

杢 政 談

眞田伊豆守殿幼君聰明睿知之事

爰に、信州川中島松代の城主眞田伊豆守幸豊は、先祖より武功の家筋世以所㆑知にして、甲州武田家旗下たり、其後武田家滅亡以後、慶長五年濃州關ヶ原の砌、信州の道を塞ぎ將軍家を惱し奉りし程の家也、但伊豆守信幸は、御當家にしたがひ、當時拾萬二千石を領し松ノ間詰の內歷々たり、然に寶曆の頃當主拾五歲に成給ふとかや、或時御側衆申上けるは、公には餘り御學問ばかりに御出精なし給ふ事宜敷儀にては候へども、斯く御心を勞し給ひては御身の障りとも成なん事計りがたし、折節は何がな御慰も遊されて然るべからんと申上ければ、君の仰に成程能も心付たるものかな、其方何ぞ思ひ付あらば申せよとの仰也、依て彼者申上げるは、此節何をか宜しき思付も御座なく候、飼鳥を被㆑遊候はゞ御慰が然るべからんと御進め申上ければ、君の仰に飼鳥は宜きものかと御尋ね故、成程御慰にも相なり、第一御目覺の爲に宜く御座候と申上ければ、然らば飼ふて見るべし、萬事は其方へ申付候間能に取計ひ申べしと仰付られ也、委細奉㆑畏候とて御受申上退出し、夫より急ぎ作事奉行へ鳥籠御用の旨、高サ七尺、長サ九尺、巾六尺、右溜塗にして金具を打、隨分立派に拵可㆑申旨、上より被㆓仰出㆒

候間、急ぎ可二申付一とあれば、奉行委細承り細工人へ申付、御注文の通り拵立、程なく御居間の椽側に居へ置けり、君御覽有て彼飼鳥を進めし何某を召れ被レ仰は、鳥籠出來せり、是にて宜きやと御尋なり、彼者能く見分して、成程結構に出來仕候、鳥籠にて是より上は有間敷と申上ければ、其方の氣に入候哉と御尋也、如何樣江戶表にて上樣の御鳥籠なりとも、此外にいたし方は有二御座一間敷と申上ければ、其方の氣にさへ入ばよしとの仰也、然らば急ぎ鳥の才覺仕るべしと申上ければ、いや鳥の才覺はいそぐことなし、進める者を入るゝなりと仰故、彼者平伏して居ければ、先づ献立を一通り其方が思ひ入に仕立候へとの仰ゆへ、わたくし唯今迄献立を終に仕候事無二御座一候故、甚だ不調法に候間此儀は御免下さるべしと申上ければ、いかやうにても苦しからず、其方が心にたりてよしとさへ思へは宜候間、先づ拵へてみよと重々の被二仰付一故、是非なく奉レ畏と御受申上、則御料理人と相談の上献立一通認、御前へ差出候處、君御覽有て面白き取合なり、其方心にも是にてよしと思ふやと御尋也、甚だ不調法にて候、此外にはいたし方も存不レ申由申上ければ、其方が心にさへ叶へば我も滿足なりとて、則御料理人へ此通りの料理二人前明晝飯に拵候樣被二仰付一奉レ畏候とて、則翌日御料理出來候由御膳方へ申上候へば、即刻彼者を被二召出一、其方あの鳥籠の戶を明け內へ這入樣子を見るべしとの仰故、奉レ畏候とて中へ這入候へば、なんと能恰好也と仰也、成程宜御座候と申上る、然ば其方は其中にて煙草を吸ふて見よとて、御側衆へ多葉粉盆を籠の內へ入させ、たばこを吸ながら矢張其內にて咄

せよと仰故、是非なく多葉粉を吸ながら居たり、扨又仰には、申付置たる料理二人前の膳を出せよとの仰にて、則御膳を持出、一膳は御前へすへ、今一膳は如何可レ仕哉と申上ければ、鳥籠の内へ入よと也、君仰には其方が献立せし料理なれば、嘸うまからん、我も相伴すべし、喰ふて見よと仰なり、彼者申上けるは、此中にて給候儀は御免被レ成下レ候樣にと申上ければ、何も慰也其内にて喰ふて見よと達て被レ仰候故、是非なく籠の中にて給候へば、何成とも氣に入たる物を替へて澤山に喰べしと御强被レ成、扨又夫より菓子濃茶薄茶など被レ下、食餌相添四方山の御物がたりにて、一時餘りも籠の中に居候へども、出よとの仰なかりしかば、最早御出し被レ下候樣にと願ひければ、イヤ出す事は不二相成一候間、一生其内に居て、何成共望の物を喰べし、必ず〳〵遠慮なく食事を好み申べし、大小用の節は出し申べし、左樣相心得よと仰也ければ、彼者殊の外難儀がり、色々御訴訟申上けれ共、イヤ何をするも奉公なり、其内にて望の物を喰ふて我慰と成も奉公なり、訴訟するには及まじと中々出し給ふ氣色なし、彼人淚を流し御側衆を賴み、幾重にも御免可レ被レ下候、餇鳥を御進め申上候事誤り奉り候間、御詫言賴入と申に付、御側衆も笑止におもひ、色々と御訴訟申上ければ、君の仰に其方は左ほど苦敷存候哉と御尋故、殊の外苦敷誤り入候段申上ければ、然者出よ、其方を苦しめて我慰する所存はなし、是へ參れ、申聞する事あり、次の者共皆々是へ呼べとの仰故、皆御前へ罷出る時に仰有けるは、扨其方能々了簡して見よ、其方が屋敷にて平生住居する處、隨分廣くて拾疊敷か八疊敷ならでは

有まい、其居間よりみれば籠の内少し狭しといへども三疊敷もあれば、壹人の寢起立居共に餘り狭しとも言難し、その上外に仕事をさせるにあらず、大小便の用は外へ出し、山海珍味は望次第に喰すべし、さすれば難儀に思ひ候事はなし、出す事ならぬといへば苦しがり、涙を流し譫言す、況や鳥類天地の間を住家とし、虚空を自由に飛廻り、心の儘に食物を求るものなり、夫を纔成る籠の中へ入、此方は心を盡し食餇を與へても、それが心に相應するや否やはしれず、色々面白き聲を出して鳴くを、此方に面白く思ふとも、かれは如何ほどかなしくて鳴やはかり難し、さすれば其方が苦しむ鳥の苦しむとはいか計ならん、鳥類なればとてかれを苦しめ慰にせんとは、さりとは心有る人のすべき事にあらず、能く合點すべし、斯いへば定めて其方面目をかいて殘念に思ふべけれども、左にあらず、其方も忠義なる者にて、平生よく奉公し、何にても其方惡敷事なし、此たび飼鳥を進めしも、我心を慰ん事計りに、風と思ひ付てすゝめしならん、少しの心得違ひといはん、世間にて飼鳥を好む者かゝる處へ氣の付かざる故ならん、然ば最初より、此趣申聞せなば、其方早速合點すべきなれども、夫にては汝が忠義顯はれず、第一我嗜みの爲にもならず、人の心は替りやすきものにて、けふ如レ斯なれども明日はしれず、若又重ねて進むるものあらば、我又飼鳥をする心に成間敷ものにもあらず、如レ斯其方を籠の內へ入れ、物を喰せ恥しめければ、再度飼鳥を進める者もなく、我も又飼鳥をいたし度き心出來たり共、其方へ對し飼ふ事成まじ、其外鳥計にあらず、萬事に心を付て嗜ねばならぬなり、左す

れば向後我身の愼には諫言せしよりも却て百倍せり、汝が忠義莫大の奉公なり、其上に上一人の心は下萬人の心なれば、今我飼鳥を好むは少分なれ共、我領分拾萬石の者共、飼鳥を好むべし、然ば是いか計の費ならん、又何程の惡事計りがたし、今汝を籠の中へ入て糺明させし事聞へなば、家中の者共は申に及ばず、領分の者是迄飼鳥せし者も多くは止むべし、然ば是夥敷吉事なり、如㆑斯なれば、汝一人の奉公にて萬人の爲にする善根をなさしむる師範とも言つべし、必々面目を缺で殘念の事也と聊思ふべからず、猶此上我身に惡事あらば諫言をし、奉公せよ、心外成事少もなしとて、御褒美として目錄金子拾兩被㆓下置㆒候、雖㆑有仕合と涙を流し退出す、一座の面々はつと計感心平伏し、難㆑有御政務大慈悲の御仁徳と申も中々愚なり、斯る名將の御目がねにて撰み出し給ふ、恩田木工の器量、行末思ひやられけり、

恩田江戸へ被㆓召寄㆒別事被㆓仰付㆒事

眞田家の領分信州川中島は、水損場にて、年々御損毛多く、自然と御勝手御不如意に付、御取續難㆑被㆑成由にて、去る寛保年中公儀へ御願被㆓差上㆒候に付、金壹萬兩拜借被㆓仰付㆒候程の事なれば、次第に御勝手六ヶ敷當御城主の御代に相成、寛保五年江戸御在府の砌、御親類中御參會の節、眞田殿被㆑仰候は、何れも御承知の通り手前勝手不如意故、先年公儀より一萬兩拜借被㆓仰付㆒候得共、中々取續

相成兼候、去ながら拙者つく〳〵案ずるに、國元は恩田木工と申者、老職の末座にて年若には候へども、器量有レ之者に付、領分の政道申付度候得共、私儀若年、彼も若年故、申付候とも領分の者共決て得心仕間敷候、依レ之近頃御無心ながら各がた御對座にて、恩田木工へ勝手取直の事被ニ仰付一被レ下候樣仕度候と被レ仰ければ、何も御挨拶に、御不如意の儀は皆同樣ながら、別て豆州には御先代より公儀へも知れて、御拜借被ニ仰付一候程の事御難儀察入候、就レ夫御國元に御勝手向可ニ取直一器量の者御座候て、御目がねに留りし由、夫こそ重疊の御事に御座候、手前等申聞候事は容易き事に候、先木工とやらんを御呼寄可レ被レ成との御事故、千萬忝候と挨拶有て、其日は各御歸宅あり、其より早飛脚を以て御國元へ被ニ仰越一は、御用の儀有レ之候間、老職始諸役人どゝ、月番の者壹人宛殘り、其外は皆々恩田木工を同道して、急に出府可レ致と仰せ遣されければ、何事か出來候やと、いづれも取物も取あへず出府す、時に御親類中御招請有て、先達て御賴の趣諸役人不レ殘被ニ召出一、御親類中御對座にて御老年の御方より被ニ仰出一候は、此度恩田木工幷諸役人共召呼候儀外の儀には非ず、元來豆州御勝手不如意に付、手前共御相談の上御勝手を取直の儀、恩田木工に申付候間、無ニ辭退一國元の政道心任せに取計ひ可レ被レ申候、老職を始、諸役人共萬事木工が差圖を受て役儀相勤可レ申候、豆州にも兼て右の思召故、何れも相談の上申付左樣被ニ心得一候樣にと被ニ仰付一ければ、皆々内心には其意を得ざる事とは存ながら、何と申詞もなく、皆一同に奉レ畏候と御受申上ける、木工申上けるは御親類樣方御相談の上にて私へ

御役儀被二仰付一候段、身に餘り千萬難レ有仕合奉レ存候、御直に御訴訟申上候段恐多御座候得共、又御參會の期も難レ計候間、憚を顧みず御直に御訴訟申上候、私體の者かゝる重き御役儀、中々相勤可レ申儀は出來不レ申候、幾重にも御免被二成下一候様奉二願上一候と申上ければ、重て被レ仰は、一州の御勝手不如意成儀は、兼て公儀迄も知れたる程の事なれば、たとへ此上直らぬ迚も、其許の不働き不調法にも不二相成一候間、先相勤見らるべし、其上にて役儀勤り兼る儀有レ之候はゞ格別、只今辭退いたしては、却て不忠共いふべきか、先相勤見候へとの仰故、是非なく此上御訴訟申上候ては不忠との仰恐入候、然者可レ奉レ畏と御受申上候へば、何も得心有レ之滿足也、扨又右に付何ぞ願の筋あらば、此席にて無二遠慮一可レ申段、重ねて被二仰出一候故、ハット平伏して重々難レ有奉レ存候、然者申上度儀御座候、一通り御聞屆可レ被レ下候、右御役儀相勤中に付ては、私の申儀を左様にはならぬ抔と申者御座候ては、相勤り不レ申候間、老職の者を始、諸役人共へ私申儀、何事に不レ限、相背申間敷と申書付出し、私へ相渡し候様被二仰付一可レ被レ下候、其代りには私方よりも私をいたし、不忠の儀御座候はゞ、如何様にも御仕置に預り可レ申候、其節少しも御恨み申間敷段、誓詞を仕、諸役人中へ相渡可レ申候間、此儀御聞屆被レ遊候はゞ難レ有奉レ存と申上ければ、皆々一同に尤の願也とて、則木工申通りに老職を始、諸役人中へ被二仰付一、何れも不得心ながら、殿を始め御家門中より被二仰付一の事なれば、無二是非一木工被二申出一儀、一言半句相背申間敷段、書付を以て血判し差出す、則御親類中御覽の上にて、木工へ被二相渡一、木工は先達

て願申せし如く相認、誓詞血判を以て差出す、是又御家門中御覽の上、諸役人へ被㆓相渡㆒依㆑之一國の政道恩田木工壹人に任せらるゝに一決して、何れも退出しけるとかや、

恩田木工家内一門掟之事

扨恩田木工諸役人と誓詞を取かはし相添、國中の政道心の儘に取計ひすべき大役を蒙り、歸國して自分の親類一門を不㆑殘呼集め申けるは、此度江戸表へ被㆓召出㆒、御當家御親類様がた御列座にて被㆓仰聞㆒候は、當家勝手不如意に付、何卒御勝手取直すべし迚、勘略の役儀は被㆓仰付㆒候、不肖の某故達て御辭退申上候得共、御免無㆑之是非なく御受申上候、一國の政道汝が心任せたるべしとの仰付られ也、難㆑有仕合とは乍㆑申、某一生の浮沈此時に至れりとの覺悟は極め罷歸たり、依㆑之存寄有㆑之候間、何れも此以後某と義絶いたし呉よと申ける、一座もあきれて一言の返答なし、次に女房倅家來に至迄不㆑殘罷出よと呼出し、此度江戸表にて大役被㆓仰付㆒候、夫に付存る旨有㆑之に付、女房は離縁して親元へ歸り申べし、又倅共は今日より勘當致すまゝ何方へ成とも心任せに立去べし、家來共は不㆑殘暇を遣し候間罷出よ、入用の物者皆呉候間持參すべしと也、此一言を聞て只あきれ果て互に顏を見合居たり、時に内室進み出で申さるゝは、我々には如何成不屆候て御暇被㆑下候ぞと尋ければ、其方共不屆なる儀少しもなし、只今度の役儀に付邪魔に成候故暇を遣すなり、外々子細有㆑之儀にてはなしと有れば、其時親

類中被レ申は木工殿には狂氣ばし被レ成候や、いかに勘略奉行の大役被二仰付一候迚も親類を義絶し、女房を去り子供を勘當し、何とも心得ざる御了簡也と有ければ、イヤ某狂氣も不レ仕候、先程も申す如く此度の役儀に付、邪魔に成候故、右の仕合にて候、成程此以後とても拙者壹人にても不二相濟一候間、又外の者を召抱可レ申と被レ申ける、其時內儀被レ申は、御役儀に付御邪魔に相成候との御事なれば、成程暇も貰ひ可レ申候、併しケ樣〳〵の譯にて邪魔に成候と申譯を不レ承候ては、親元へ參り何と申譯を可レ仕哉、又子供にも譯を被二仰渡一得心させて被レ下べしと泪と共に被レ申ける、親類中も口を揃へ、成程是は內室の被レ申處尤の筋なり、親類共迚も役儀の障に相成候譯承り、其上にて義絶致し候べしと申ければ、木工のいはく、譯を申たり共皆々得心も有間敷、無益と差控候へ共、各達て聞度との事故成程申べし、元來此度被二仰付一候役儀、一國の政道を汝が心任せたるべしとの被二仰付一也、左すれば甚だ重き儀也、某つく〴〵思案を廻らし候に、一國の政道は先づ身分に於て一言半句も嘘を申ては政道不二相成一候、依レ之向後某に於ては構へて嘘を申さぬ所存にて候、左すれば女房を始倅共、家來一門中にて嘘言を申者、有レ之候ては、木工は嘘をいはぬといふ共、家內の者親しき一門あの通なれば、木工も合點ゆかぬなどと疑を受ては人の氣和合せず、然る時は此役儀不レ勤第一也、二ッには殿の御勝手取直の役は外より金銀わき出る處なし、つく〴〵案ずるに儉約より外はなし、依て平生飯と汁の外は香の物も菜なれば、たべ申さぬ了簡なり、三ッには衣服を木綿物にすべし、併是は今急に相改め

ば費多かるべし、依て今迄有來りの衣服は其儘着し、是より新規仕立は木綿と相定也、此三ッ是迄言付し虚言も言たかるべし、夫故皆々暇を遣す也と有れば、其時内室の曰、然ば向後うそを一切不ㇾ申食も汁の外は給ず、木綿物を着し候半、右の三ヶ條急度相守り候はゞ、いかにも離別するに及ばずと被ㇾ申ければ、然ば此三ヶ條急度相守可ㇾ申候間、矢張差置れ被ㇾ下べしと有ば、イヤ夫計にあらず、家來には暇を遣す上は、無人なれば飯も焚ねばならぬ、水も汲ねばならぬ、成程飯も焚、水も汲可ㇾ申、彌夫に相違なしや、誓言にて候、然ば去に及ばず、扨子供は何方へ成とも立去べし、路金は相應に呉て遣すべしと被ㇾ申ければ、私共も嘘言申間敷候、飯と汁とより外たべ不ㇾ申、木綿物を着可ㇾ申候、勘當御免可ㇾ被ㇾ下と申ければ、彌左樣に相違なきや、成程誓言にて候、然者勘當致に及ばず、家來共立出よ、私共も嘘は申間敷候、菜は一切給申間敷、今旦那より御暇を申受ては難儀に奉ㇾ存候、然ば向後急度相改、仰の趣何にても相守可ㇾ申候間、御慈悲に何卒御召仕被ㇾ下べしと申ければ、其方達暇を遣ても、又々召抱ねばならぬ人也、嘘を言ずに菜喰事を好まず、主人の申す事を不ㇾ背、奉公大切に勤るものならば暇を出すに及ばず、然共萬事儉約なれば今迄とは違ひ、何か不自由がち成べし、其旨能々相心得申すべし、併給金は今迄の通りに不ㇾ替遣し可ㇾ申とあれば、皆々口を揃へて、食事は旦那より被㆓下置㆒、着物は當分着候程は所持仕候、此末は旦那の古着なりともいただかせ被ㇾ下候へば、外金銀入用無㆓御座㆒候間、御給金はいたゞかずとも不ㇾ苦候、御慈悲には御召仕被ㇾ下候はゞ難ㇾ有奉

レ存と申せば、いやとよ我は知行千石なれ共、飯と汁より外は喰ぬ積りなれば、其方共へ給金を遣し、家内の入用を引て殘りは殿へ差上る所存也、其方共も妻子を養育する身なれば給金は不二相替一急度差遣一可レ申候間、左樣に相心得べしと被二申渡一ければ、重々難レ有仕合に候とて御受相濟みけり、扨又親類中には彌義絶に預り度とあれば、いや我々も嘘一切申間敷、家内の者共へも貴殿御家の通り急度申渡し相守らせ可レ申候、イヤ各御家の儀は御勝手次第に可レ被レ成候、各方さへ嘘不レ被レ仰候へば、手前の邪魔に成筋は無二御座一候とあれば、左樣にては候へ共手前計嘘を申さぬとて、家内の者共が申ては濟不レ申、又儉約は一統いづれも殿の御扶持方頂戴仕候得ば、殿の御勝手御取直の儀とあれば、誰々も同じ事也、貴家の掟の通り急度相守らせ可レ申と被レ申ければ、夫は一入滿足なり、左樣なれば義絶にも不レ及候、何分入魂仕度候、某何ぞ不忠の筋、又は外に目の屆かざる事あらば、隨分御心添られ可レ被レ下と有ければ、親類中大に悦び、扨々此節の大役、誠に御太儀千萬に存候と挨拶をはり、各歸宅ありけり

右の通り江戸より歸國して直に家内一家を最初に堅めし事尤才智勝れし事どもなり

家中へ被二申渡一一件之事

扨又登城有て其職の衆中を始、諸役人中相集め被二申出一けるは、各御存知の通、此度江戸表に於て勘略奉行被二仰付一候得共、元來不調法なる拙者壹人にても中々相勤り候事にては無二御座一、萬事被レ添二御心一

可レ被レ下候、いかに致せばとて御前向御用筋は勘略も相成候間敷候、拾萬石相應に不レ致候ては相濟不レ申候外之儀に付、萬事費なるを隨分勘略いたすべき事に候、御前の儀は古來の通りに可レ致候間、各左樣に御心得可レ被レ下候、扨又各方を始下々迄近年御勝手御不如意に付、歩一引有レ之候へ共手前役儀相勤候間は、一向歩一引不レ申、本高之通月々急度相渡し可レ申候、左樣御心得可レ被レ成候、其替りには御奉公も急度御勤可レ被レ成候、既に被レ下候知行一向引なしに被二下置一候間、御奉公に少も麁略有レ之に於ては、急度曲事に申付候、此旨下役支配下迄御申渡し、右の趣を以て御奉公大切に相勤候上、非番の節は何成共自分の樂み弓馬劒術は勿論、學文手習扨は詩歌、連誹、謠曲の類、淨瑠璃三味線慰みには少々宛博奕たり共、御奉公急度相勤候上は餘分有レ之、致事ならば如何程の事にても不レ苦候、人人相應の樂み無レ之候ては、平生急度計には勤り申さぬ者にて候、隨分樂しみ分相應に可レ致事也、其外勘略の儀は急に致方も無二御座一候間、先只今迄の通り可レ被レ致候、君御歸城あらば追々御相談可レ致と被二申渡一ければ、何れも餘り結構成申分にて御儉約にて、又々知行へらされぬさへ不審成に、却て是迄の歩一引迄被レ下候は何共心得ずと、內證にては色々取々なる評判なりけるとかや、扨木工は別事工夫をなして日夜心を盡し、殿の御歸城を相待けり

恩田木工國中政道被二申渡一事

既ニ寶暦五亥年四月、眞田伊豆守殿江戸御暇にて首尾能御入國也、諸家中御祝儀御目見相濟、恩田木工御前へ罷出申上けるは、君の御歸城相待、いまだ御政道に取懸り不㆑申候、近日國中の政道に掛り可㆑申旨申上ければ、成程其方の勝手、一日も早く政道に取懸り候樣にと被㆓仰付㆒、委細奉㆑畏候と御受申上、即時に一封の廻狀を認、老職を始諸役人中へ遣しける、其文に曰

何月何日御領分中に政道の儀申付候間、いづれも乍㆓御太儀㆒御列座可㆑被㆑下候、爲㆑其如㆑此候、以上

月　日　　恩田木工　判

諸家中

姓名略㆑之

右の通申遣し、扨又御領分中へは手分を以廻狀に仰出さるゝは

來る何月何日何時に、村々庄屋長百姓小前百姓の中にも能口きゝ候者召連可㆓罷出㆒候、御用金先納金差出候者並御年貢致㆓未進㆒候もの不㆑殘召連可㆓罷出㆒、町方も庄屋組頭平町人も右同樣に候、以上

右の通相觸候間日限無㆓相違㆒可㆓罷出㆒者也、如㆑斯廻狀被㆑出ける

領分百姓へ被㆓申渡㆒之事

扨定日にも成りければ、家職を始諸役人不㆑殘大廣間へ列座あれば、恩田木工しづ〱と立出、何れ

も今日は御太儀に存候と一禮畢て、百姓町人不レ殘是へ出よと呼出しければ、不レ殘白洲へ詰餘りけり、木工はし近く立出被レ申けるは、先達て聞及も有べき、此度某儀江戸表へ被レ召出、御一門中樣御列座にて、御家の勘略奉行被レ仰付レ候、段々御辭退も申上候得共、御免無レ之に付無レ據御受は申上候得ども、自分の働にて此役儀相勤まる事には無レ之故、今日は太儀には候へども呼寄、皆の者へ得と致レ相談レ度儀有レ之候、先某が申儀を一通り聞たる上にて、皆々の存寄を申べし、先以御家近年御勝手御不如意に付、只今迄御領分の者共も殊外難儀いたし候由、其上に又某勘略奉行と相成候得ば、猶以御領分の難儀たるべし、依レ之相談とは爰の事なり、先づ某儀向後何事によらず、一言半句たり共嘘をいふまじ、申出したる事は一度返替を致さぬ所存也、此儀兼て皆々左樣相心得よ、扨又向後皆の者共某と肌を合せて萬事相談して呉ざれば、儉約の役儀も相勤らず候間、何事も心安く某と相談づくにいたし呉よ、是を第一に皆の者へ賴なり、此儀得心して呉ねば、某は腹を切ねばならず、某に役儀を首尾能勤さするも腹をきらするも、皆の者の了簡次第に候間、何れも所存を聞たしと有ければ、誰有て返答する者もなし、其時被レ申は、ケ樣ばかり申ては返答も有まじ、今日は某が申事を能々聞覺へて歸り、惣百姓と能く相談し、追て返答をして呉よ、第一に先にも申通り某儀向後嘘を言まじ、申出したる事二度返變に致すまじ、夫共に嘘をいわつては皆の爲にあしかるべき、いかゞ思ふと尋られてければ、只今迄御役人樣がたうそを被レ仰、御たまし被レ成候には甚だ迷惑仕候、向後は被レ仰候事、再御返替

不レ被レ遊との御事、千萬難レ有諸人大慶奉レ存候と申ければ、然ば皆々得心して與先づは滿足なり、扨又手前儀祝儀事、愁嘆事、何事不レ寄、惣て音物類一圓に不レ請候間、何ほど輕き品にても可レ爲二無用一候、夫共賄賂をとらざれば皆々の爲に難儀可レ爲哉、是は如何、いやはや難レ有思召にて御座候、賄賂は致度は無二御座一候得ども、仕らねば願訴訟一向に相叶不レ申候故、無二是非一賄賂を仕來り候、此以後賄賂も御取不レ被レ遊、其上訴訟願の筋御聞屆被二下置一候はゞ何分難レ有仕合奉レ存候、然ば此以後願の筋菜聞屆可レ申候、賄賂を一紙半錢たり共仕候はゞ可レ爲二曲事一候、惣て諸役人へも向後音物いたし候事、皆可レ爲二無用一候、賄賂等致候儀相知候はゞ、是又双方共曲事可二申付一候、奉二畏入一候、然ば此儀も皆々得心にて滿足なり、扨又只今迄は千人の足輕を百人は、所々の番人に殘し、殘り九百人は月々在方へ年貢催促に差出候由、彌左樣か、成程左樣に御座候、向後は一人も出さぬに於ては、皆の爲に悪かるべきやいかゞ、其儀は猶以難レ有候事に候、御足輕樣方在方へ御出被レ成候ては、御逗留中村々物入も多く、甚だ難儀仕候筋に御座候、向後は壹人も御出被レ成間敷との御事、千萬難レ有仕合奉レ存候、然ば此儀も皆々得心にて滿足也、扨又菜儀永き儀は難レ計候、先五ヶ年も此役儀相勤候積故、其間は地方普請に付ては格別、御上へ相勤候役諸役共に免し候積也、左樣相心得よ、先共に皆の爲に役に遣はねば悪かりなんやいかゞ、諸役御免との御事、重々難レ有仕合奉レ存候、然ば此儀も得心して滿足なり、是迄申せし事彌右の通相心得可レ申哉、何分奉レ畏候、扨此の次の段は皆々と能相談せねばなら

ぬ、皆々能聞て哭よ、是迄先納、且先々納差出候百姓共は參り居候や、不レ殘相詰罷在候、其方共は何故に先納、先々納迄差上候や、但し先納をいたせば何ぞ勝手宜儀筋有レ之哉いかゞ、御役人樣より被二仰付一故、至極迷惑には奉レ存候得ども無二是非一差上申候、扨々汝等はいかに馬鹿者共也、但役人が申付ればとて先納を出すさへ過分、當年の年貢の外出すべき筈なし、夫に先々納出すと言事が有物か、扨又百姓共がいかに出せばとて、役人も役人、先納先々納迄取上ると言事が有ものか、甚だ無慈悲の致し方也、おほやけに有間敷事なり、此段は百姓大たわけ、役人は無慈悲者といふべきか、併斯いへば皆利屈なり、何をいふも殿樣の御勝手御不如意故に、役人も百姓より取上ざれば御用辨ぜぬ故、無慈悲の先納を申付たる事なれば、あながち役人の無慈悲と言にてもなし、無二詮方一御奉公なり、又百姓も先納先々納迄差上るといふは、殿の御勝手御不如意の譯を能存たる故、迷惑ながら、役人の私ならぬ事を能合點して差上たるならん、然らば汝等は能々正直なる者也、殿の御果報いみじけれども、御勝手御不如意なるは無二是非一事也、乍レ去向後先々納は勿論、當御年貢の外先納は不二申付一候間、左樣に相心得候べし、難レ有仕合奉レ存候、扨又御用金差上たる者共は參居候や、罷在候、其方共は何故御用金差上たるぞ、上れば利足にても被レ下、何ぞ勝手に宜事有レ之差上たるかいかゞ、唯今迄折々御用金差上候得ども利足被二下置一候儀は勿論、元金も終に御返濟被レ遊候儀無二御座一候、夫故殊の外難儀至極仕り候共、御役人樣方の嚴敷被二仰付一故、無二是非一差上申候、されば役人より何と

申付候とも、御座らぬと言て出さぬ筈也、縦ひ殿へ公儀より御用金被㆓仰付㆒候共、某江戸へ罷出御座らぬと言て出す所存はなし、出さぬとて殺しはせぬ故、出す筈なき筋なり、夫を役人がおどせばとて心能出す其方達も其方達なり、役人も役人也、其方共が出せばとて返済もせぬ金銀を出させると言は、餘り非道成致し方也、併斯く言ふも皆利屈也、實は御上になき故、其方共の當時持合たるを幸に、無理とは知ながら無㆑據無心をいふて、江戸表へ御用を辨じたるものなり、返済はしたくても元來なき物故、仕方なく其分に打過たるものならん、然ば是又役人の非道といふにもなし、其方共も江戸の御用の譯を能知り候故、迷惑ながらも差出し、御用の間を合せたる事、さりとは奇特千萬の者也、殿も御滿足遊さるゝ也、然共向後御用金は一向申付間敷候、左様相心得候へ、難㆑有仕合奉㆑存候、此儀も皆々得心して滿足せり、扨又御年貢未進の者は參り居候や、相詰罷在候、汝等は何として御年貢上納を未進したるぞ、惣じて田地といふものは御年貢上納し、諸役相勤候上にて相應に作德の餘計有て、妻子を養育するにも有付候ものなれば、蒔べき時節蒔付、夫にこやしを入れ時節をたがへず耕作すれば、御年貢の上納ならざる筈はなし、夫を未進するとは第一家業に疎き故也、人並に耕作もせぬ故、御年貢上納する程作り出さぬと言は不屆千萬也、既に御年貢上納の上、先納先々納迄上る働者さへ有るに、未進するとは言語道斷の不屆者也、うぬらはずたずたにしてもあきたらぬやつ原也、役人は又何として此者共に未進をさせて置たぞ、骨をひしひてなりとも、急度取立べき筈也、既

に九百人の足輕月々在々へ入込、何をして居たるぞ、役人も大べら坊、うぬらは不屆もの也と、大聲にはつたとにらんで顔色替ければ、人々はつと恐入、何とも一言の答へもなく、平伏してぞ居たりける、中にも未進せし者共は、雷の落懸りしよりも恐敷、生た心地はなかりけり、暫有て木工言葉を和らげ、かくいふも是又理屈なり、殿の御勝手御不如意の事も知たるゆへ、御用金先納先々納迄も差上候者の中にて、未進すると言は能々貧乏にて有べし、定て人並に御年貢上納は致度思ふらんが、不仕合に逢ふてか、長煩ひするか、不時の災難に逢ふて耕作も思ふ樣に不ㇾ成、夫故何かの取箇少く夫等の故なるべし、嘸や家内難儀に暮すべし、さりとは不便の次第也、又役人も汝等が物なきを能く知りたる故、未進をも川捨して置たるものなり、是は役人の仁政と申て、難ㇾ有事にあらずや、然ば此上未進を取立んとすれば、元來一物もなき者共なれば、百姓つぶれに及ぶべし、小百姓たり共民は國の元と聞ば、一軒にても潰れては殿の御本意に成らず、依ㇾ之是迄の未進の分は不ㇾ殘被二下置一候間、左樣相心得よ、難ㇾ有仕合奉ㇾ存候、扨又向後當御年貢より一粒にても未進させる事はならぬぞ、急度上納可ㇾ致、此上若未進仕候者猶有ㇾ之ば、急度曲事申付候間、左樣相心得候へ、委細奉ㇾ畏候、然ば此者共も某が申通り得心して滿足也、扨又先納先々納差上たる者共へは、何卒返濟致度ものなれ共、皆々知りたる通り、未進の分は呉て仕廻たれば、彌以て先納方への返濟は出來ぬなり、元來其方抔は平素の働よく當御年貢の外、先々納迄差上申とは神妙の事也、今是を返濟せずとてもさして身代の痛にも不

レ可レ成者なれば、至極無理成願なれ共、是迄差出したる先納先々納は損毛にして、殿樣へ進上して呉ぬか、此段は某言にくき無心なりと有ければ、皆々口を揃へ委細奉レ畏候、向後先納先々納被二仰付一間敷と先刻被二仰渡一候上は、只今迄差出候分は一切御返濟に及不レ申、殿樣へ差上申候、扨は皆々得心して呉れ千萬過分滿足せり、其上に一ッの無心あり、此段今日直に返答も成間敷候間、宿へ歸り惣百姓へ得と申聞せ、能々熟談の上重ねて返答して呉よ、其無心と言は、是迄差上たる先納先々納を損にして、其上に御年貢を上納して呉よ、左樣にして呉ねば一向御取續が出來ぬ也、此段達て賴なり、扨又其方共も算用を能しりつらんが、某此程算者に能々つもらせみるに、年中何か願事等に御領分より諸役人に賄賂遣ふ事、年中には百石に付何程、又年中諸役に人足手間の費百石に付何程、九百人の足輕を年貢催促に出せば月々の事故、是又年中には其費百石に付何程、右の事共〆上げみれば、御年貢の爲にもならず、皆百姓方の費無益の事共也、今日より相改め此費を除き、今迄の費に三四と足なば御年貢は相濟なり、此處を惣百姓へ能々言聞せ、當月より御年貢上納して呉候樣賴也、最初より申す如く、某一言半句も嘘を言ぬ所存なれば、申出せし事返改はせぬ、此事百姓得心して呉ねば、某切腹するより外なし、罷歸り惣百姓へ熟談の上、追て返答して呉よと被レ申ければ、皆々奉レ畏候、今日直に御受申上度奉レ存候へ共、氣々區々に御座候間、ケ樣被二仰付一候事故、難レ有御政道の趣得と惣百姓へ申聞せ悅せ候上にて、重ねて御受可二申上一候と同音に申上ければ、惣百姓の所存は不レ知、先今此場

に居合候者共得心の趣滿足せり、扨又御用金差上たる者、是に利足を差添へて返濟すべきが本意成るが、皆々知りたる通り元來一物なければ、唯今返濟はならぬ也、斯言ふは如何敷けれ共、人の身の上浮沈のある習なれば、只今富貴成共如何樣の不仕合にて、子孫に至て貧乏に可レ成や、知ぬが世の中なり、依レ之萬一左樣の者が出來候節は急度返濟すべし、夫共殿樣の御勝手直り御富貴ならば、利足を添て遣すべき、其節も御不如意ならば元金計返濟すべし、先々殿樣へ利なしに御預け申置たと思ふべし、此方に名前を急度留置間、何年過たりとも相願可レ出、是は先納先々納差上たる者も同じ事なるべし、皆記錄に留置間左樣に相心得よ、此儀いかゞ得心して呉べきやとあれば、難レ有奉レ存候、御上の御用にて差上し金子の事たま〳〵の事に候はゞ、何ぞ御返濟被レ下候には及び不レ申候得共、餘り度度の儀に候得ば、甚だ難儀に奉レ存候處、向後御用金は一圓被二仰付一間敷との御事、左候はゞ只今迄差上候金子は、御貰申所存は無二御座一候處、子孫にて難儀の節は被二下置一候思召との御事、重々難レ有御慈悲無二此上一仕合奉レ存候と感淚を流し悅びけり、扨又此儀も皆々得心にて滿足せり、扨又此上願訴訟の筋あらば、一書認め封じて身が處へ持出べし、其外此上一家中にて無理非道成事致者有レ之ならば、無二遠慮一書顯して封印いたして可二差出一と有ければ、皆々言葉を揃へ殘る方なき御政道難レ有仕合、委細奉レ畏候と平伏してぞ歸りける、扨一座の面々老職をはじめ、諸役人中今朝より恩田氏の御政道の器量萬人に勝れし事、皆々感心して被二聞居一しが、一家中の善惡書顯し、百姓共に無二遠慮一出せ

との事、身に覺有人々は惣身に冷汗を流し、色青ざめ只針の上に座する心地して、此末いか成目にかあわんも難レ計と、内心甚だ辛勞して、其日は皆々退出有しとかや

恩田木工政道にて國中安堵之事

扨又百姓共皆々歸宅して惣百姓を集め、今日は木工樣被二仰渡一候趣、ケ樣〳〵也と逐一に申聞せければ、扨々難レ有御政道かなと悦び勇み、日待月待をして悦びあへり、扨是迄は年月足輕共在中へ出、我儘を言に銘々困り果たるに、向後壹人も出さぬとは、是計にても難レ有事なるに、諸役御免被レ成との事、可レ申樣もなく難レ有事哉、此上は當御年貢は勿論二年分の御年貢成共御用ならば可二差上一、此段早く御受申上、木工樣御安氣の樣に可レ被レ成と、一同に悦び申故、莊屋、組頭も皆々早速の得心、我々共も大慶也、扨又木工樣被レ仰候は、是迄一家中にて無理非道の取扱致候族もあらば、誰にても無二遠慮一一封に認め可二差出一との御事なりと申ければ、扨こそ百年目疫病の神て敵打とやいはん、是迄餘りつらかりし意趣ばらしは此時也と悦び勇み、思ひ〳〵に訴狀を認め、明日を遲しと待居たり、翌日早朝より名主組頭長百姓御役所へ罷出申上候は、先達て被二仰渡一候趣、惣百姓共へ爲二申聞一候處、皆皆一同難レ有仕合奉レ存、無二此上一仕合奉レ存候、扨又當御年貢の儀は勿論、二年分成共御用に候はゞ差上可レ申との事にて候、何時成とも御用被二仰付一被レ下候樣奉二願上一候と申ければ、木工も大に悦び、

扨々惣百姓の志滿足至極せり、痛い目をせぬは其方共のかげ也、過分なるぞや、其上御入用ならば二年分成とも上納可ㇾ致との事、百姓共の志し上聞に達しなば御前にも嘸御滿足に思召され候はん、乍ㇾ去當御年貢さへ上納して與るなら充分也、二年分上納には不ㇾ及候、此段惣百姓共へ申聞て此後隨分家業無ㇾ油斷ㇾ可ㇾ致、出精申迄は無ㇾ之、家業に疎く麁略なる者は天下の罪人なり、家業出精して其餘分あらば、分限相應に樂しみは、いかやう成とも不ㇾ苦候間可ㇾ仕候、碁、將棊、双六、謠、俳諧、扨は淨瑠璃、三味線の類、慰ならば博奕成とも、好みたる事をして樂むがよい、去ながら博奕は天下の御法度なれば商賣にはならぬ、若商賣にする者あらば急度曲事申付候間、此旨能々申聞せよ、慰に致すべし、惣じて人は分限相應の樂なくては、又精を出しても面白からぬもの也、依ㇾ之樂みもすべし、殊更佛神こそ第一なれ、神佛を信向する心なきものは災難多きものなり、依ㇾ之神佛を信仰して現當二世を祈るべし、親に孝行成者には御褒美を被ㇾ下置ㇾ候間、此旨能々申聞せよ、其外兄弟夫婦の中能く、朋友睦敷萃すべし、某噓を言が嫌ひなれば、善惡共に正直に申渡すべし、扨又噓をいふ者は人とは思はぬぞ、扨先達て申聞たる訴狀持參せしか、成程持參仕候と差出ければ、木工うけとり、是は某が見るにも不ㇾ及殿の御覽に入れる也、皆々太儀也、歸りて出精せよとの事、皆々難ㇾ有と平伏してぞ歸りける

恩田木工諸役人被レ用振之事

されば木工は早速御前へ被レ出被二申上一けるは、先以御悦可レ被レ遊、御勝手は十分直り申候、其譯御借用は不レ殘相濟、當月より拾萬石丸納り、一粒御損失無二御座一候故、御勝手十分調ひ申候、其上壹人も御上を御恨申者無二御座一却て難レ有がり候て、當月より無レ滯御年貢上納仕筈にて御座候、是偏に君の御仁徳にて候と申ければ、殿にもことの外御喜悦にて、是我徳にあらず、皆其方の働莫大の功なり、金石にも銘ずべき忠勤也と御稱美被レ成ければ、木工頓首して難レ有御意謝するに所なしと平伏す、扨又是は百姓共相認め持參仕候訴狀にて候、密に御らん被レ遊可レ被レ下と差出せば、君悉く封印を開かせられ御覽あるに、何れも同樣の文言なり、扨木工を近く召され、一々是をみよとの仰也、木工見をはりて定てヶ樣に可レ有と推察仕候處也、君の仰に是をいかゞ計らひ可レ申哉と御尋有ければ、少も御心を御勞し被レ遊まじく候、是々の者はどちらへも付候者にて、能人に付ては能なり、惡敷人に付ては惡敷成者にておもんぱかるに足り不レ申候、又是々の者共は死罪にも可二申付一程の不屆者にて御座候、乍レ去是々を正直に仕らば一家中の人多く損可レ申、ヶ樣の惡事も器量なくては相成不レ申候故、其器量を遣ひ候へば、又いづれか殿の御用にも立ものにて御座候、是は今日御前へ被二召出一隨分御面色を和げられ候て、木工へ此度の政道申付候へ共、壹人にては行屆間敷候間、其方共へ木工が添役申

付候間、木工が差圖を受、木工と肌を合せ、萬事取計可レ申旨被二仰渡一可レ被レ下と申上ければ、君の仰に、夫では其方が邪魔には成間敷哉との御尋に付、少しも搆ひ無二御座一と申ければ、其方爲にさへあしからねば兎も角もとの仰故、木工は退出す、卽刻右之者共を御前へ被二召出一、平日より御面を和らげられ、右の通りに被二仰付一候へば、皆々奉レ畏難レ有仕合奉レ存候と御受申上候て退出し、何も打寄申合けるは、今日御前へ被レ召被二仰付一候趣、さりとは合點のゆかぬ事なり、只今迄手前共が惡事は百姓共の訴狀にて、御前迄顯れし事明白也、然ば今日御前へ召さるゝは、決定我々が身の上と覺悟を極め罷出候處、思の外成御意を蒙りし段、何もいかゞ思召候や、此度木工が萬事の取計ひをみるに、格別の仁中々我々共の及ぶ處にあらず、若又我々木工に成替り、手前共の身の上を裁判せば、死刑にも可二申付一程の事也、夫を相役とは思の外なる事ならずや、よもや御前ばかりの御召にては有レ之間敷、定て木工の計ひ成べし、我々の及ばぬ處也、是より心底を改め、御前御意の通り木工と肌を合せ、忠義を盡さずんば誠に身の破滅、先祖への不孝、是に不レ可レ過、然ば是より直に恩田へ參り、謝禮申上候こそ本意ならんといへば、皆詞を揃へ、御尤千萬也、我々も御同意とて、是よりは木工の補翼と成、忠勤を可レ盡と各善心に入替り打連、木工が宅へ罷越、先以今般御大役御苦勞千萬、莫大の御政道、御取扱致二感心一候、夫に付今日於二御前一、我々貴公御相役被二仰付一難レ有仕合、早速御受申上候得共、是迄の心底誠恥敷候、然に斯被二仰付一候は、全く貴公御執成故、首尾好結搆被二仰付一候儀と千萬忝存

候、然し御存の通の不調法者共、此上の儀無二御遠慮一御差圖奉レ願候、依レ之御禮旁參上いたし候と有ければ、木工挨拶には此方より罷出可レ申筈の處、預二御出一被レ入二御念一候御儀忝存候、此上は各樣御心添に預り不レ申候ては、ヶ樣の大役迚も拙者壹人にて相勤り候事には無レ之候へば、拙者不二心付一儀、無二御遠慮一御心添可レ被レ下とあれば、各御互に不二差置一御相談可レ仕候間、貴公より萬端御差圖奉レ願と挨拶濟で歸りける、是より何も心を改め、木工が補翼と成しかば、木工も世話なしに、盜人はなく成にける、其譯は下役の者、此儀はヶ樣被レ成被レ下と申出れば、イヤ左樣にはならぬ、今迄と違ひ、萬一木工に知れては身の破滅成べし、向後萬事左樣に相心得よと其道を知りたる大將殿が心底を改て手下の者を禁めける故、自然と盜する事ならざれば、末々迄皆忠義を第一とし、正直を元として、御奉公大切に心懸る樣に成しとかや、是皆殿の御賢智より木工を見出し給ふ故、斯る賢人出て一國を能取治し事難レ有事ぞかし

一家中諸藝出精之事

されば松代御家中を始め、御領分中へ分相應の樂しみをせよ、慰ならば博奕成共、好たる事をして樂しめと究屈がましき事は一向言ずして、自身には隨分質素に暮し、子共迄に飯と汁とより外は香の物も食べさせず、只學文を專とし武藝を第一に稽古させ自身には武道は言ふに不レ及、學文のみ專にし

て神佛を信心し二世安樂を祈り、殿にも治世亂世共に、文武の兩道は武士の常に候へば、片時も忘れ給ふべからずと、御進申上、神佛を御信向、是又忘れ給ふべからず、とかく神佛の加護にあらずんば、仁德も行れまじと被₂申上₁ければ、君にも甚だ御喜悅にて、先より猶御信心彌增し、文武兩道一入御出精被₂成ける、依₂之上に好む處下亦如₂斯と、誰制さね共、一家中幼少の子供迄博奕する者一人もなければ、君の身代忽立直し、五ヶ年も立たぬ內に大分御金出來、御領分へも利安にて、拜借金など出候故、自然と御領分も豐に成、諸家中安樂に暮しけると也、御家中七八歲の童子も明六時に厩へ行御馬をかり五時迄馬を責め、朝飯後より四時過手習させ、夫より半時劍術稽古夫より休み、弓鐵砲の稽古九時より七ッ迄休息、その內碁、將棊、双六の類を慰とす、又七ッ時より鑓の稽古夕飯後十露盤の稽古、夫から諸の稽古、或は一時、或半時替りに、明六時より夜四時迄色々稽古品替れば退屈もせず、皆出精を專一とす、依₂之一家中子供迄諸藝に達したる人多しとかや、されば博奕などはゆるしが出てはいれど、左樣成事をする隙に外の稽古せねば恥しめを受るゆへ、誰制せねども自然と止み、一家中物入なく奢るものなく、只諸藝をのみ心懸る故、盜をする者上の目をかすむる者なくなり、自然と人情正直にして、目出度國とぞ成にける

御用金減少幷木工家內へ慈愛之事

或時従二公儀一御役被二仰付一候付、金子二千両入用のよし、江戸表より申来り、依レ之木工相役中と及二相談一候處、相役の中より両人進み出申けるは、此御役儀は先年も當りし事あり、二千両とは其節の格也、今我々此役儀蒙りなば、千三百両にて相濟可レ申候間被二仰付一可レ被レ下と申ければ、木工被レ申けるは、江戸表の儀は此方とは違ひ難レ計候、倹約も事による、公邊の事は少の事にても疎略ありては取返されずと言へば、前度當りし時、我々在府にて、此役儀能存じ罷在候間、両人にて被二仰付一可レ被レ下と達て望候故、然ば乍二太儀一御出府なされ、公用の儀随分首尾好く御勤可レ有、江戸にても誰をか壹人差加へ、御相談の上忠勤を勵らるべし、金子の儀は掛酌なしに御遣ひ有べしと念頃に申含、金二千両相渡しける、両人悦び出府して江戸役人と相談して、御用向十分に首尾好く相勤め、千三百両にて相濟し七百両持歸り候故、木工殊の外両人を稱美し、則御前へ申上らるゝは、毎度此御役相當り候節金二千両入申候處、此度は両人働を以て千三百両にて首尾好く濟申候、依レ之御褒美として右両人江戸役人、都合三人へ金百両宛被二下置一可レ然奉レ存候、元来七百両は盗仕舞ふはづの金子成に、両人の働にて七百両持歸候也、さすれば三百両被レ下候ても、四百両全く御徳に御座候、左候得者此以後又々出精仕忠勤を勵み可レ申候故、何程の御徳か難レ計と申上ければ、君甚だ御喜悦有て、則三人に百両宛御褒美として被二下置一ければ、三人共殊の外難レ有思ひ、夫より彌以忠勤を勵み出精せしとかや、是又木工が仁政難レ有事共なり、扨又木工常々神佛を信み、折々は歸依僧を信じて供養をなし、

自身にも日課念佛を勤られ、佛果菩提を願ふ事まめやかにして、奇代不思議の賢人也、折節歸依僧見へければ、長く留置て饗應す、其仔細を尋るに僧を供養する計にてもあらず、平生家内の者に飯と汁とより外は喰はせぬとの掟也、依て僧を供養の序、御客の相伴と名付けて家内中下々迄も同樣に、二菜なれば二さい、五菜なれば五菜にて菜を食せらるゝ故、家内大に悅び御客さへあれば皆々悅ぶとかや、つら〳〵世の中を觀ずるに何方にても客人あれば、家内追つかはれ、別て下々は客の間をいやがり、御客とさへ言ば不ㇾ悅、中に木工の家にては御客の逗留ときけば猶悅あへり、殊更出家衆の相伴は木工ばかり精進にて、勝手は魚類を遣ふ共不ㇾ苦と免さるゝ故一入悅び、澤山に魚鳥を遣ひ、菜を拵へて給べにけり、依ㇾ之最初には香の物も菜なれば成ぬと言付故、汁より外は喰ぬ心得の處、御客の節は同樣の料理被ㇾ下候ゆるし故、下々の悅び言計なし、先達て申付候儀、常々は急度守らせ、ゆるめる事は又格別故、行屆きたる取計ひ中々外の者共及ばぬ所なりと、家中の取沙汰聞及し者迄も、譽ぬ人はなかりけり

領分不ㇾ制して博奕止し事

先達て慰に致す分は、博奕にても不ㇾ苦仕れとの仰付られ故、夫のみを商賣にする者、扨こそ我等が旗あげるは此時なりと心得、盛に博奕繁昌にこそ成にけれ、依ㇾ之宜敷身代も不ㇾ殘棒にふる者も多く、

俄に難澁に及ぶあり、右に付所々にて風聞するには、木工の政道何一ッぬけめなく、何一ッ言べき様なき御仁政の内に、博奕を免されし事こそ心得ね、誰々は能き身代にて有しが、今は見る目も氣毒なりなど、口々の評判漏聞へければ、又々御觸書にて慰の博奕に負けて難澁に及ぶものあらば申出べし、御救下さるべし、遠慮なく眞直に申出べしとの御觸なり、右に付所々より難儀のもの罷出願上候處、御吟味の上誰々を相手に致し候哉と御尋なり、何村誰々相手にて何程負候と、有様に打明て申上ければ、扨々其方共は不所存者よ、慰にする事を左ほど迄身代の痛と成程に大造に取やりの勝負をする事不屆千萬なり、左樣の損徳をするは慰にあらず、商賣といふものなり、それ故先達て申付には商賣にはならぬと申渡し置たり、先其相手を呼て委細とくと聞べしと、則相手を呼出し相手早速罷出たり、其時木工申けるは、其方はあの者と慰に博奕をいたし、是ほど勝たるかと尋あり、元來御免被レ成博奕なれば、包み隱すには及ばず有體に申べしと有ければ、何ほど勝候と答たり、然ば其勝たる金子を不レ殘差出せとの事なり、無二是非一奉レ畏候と差出せば、則負けたる者へ返せとの申渡し也、勝たる人申上るは、夫は甚だ迷惑に奉レ存候、何卒其儀は御了簡可レ被レ下と願ひければ、其方は博奕を商賣にする也、兼て申付たる通商賣には成ぬ、博奕商賣する事は天下の御法度じやから、若商賣にするなら、急度曲事に申付ると申渡候間、定て慰に致たる事なるべし、慰にする事なれば、人の身代つぶれるほどの事はあるべからず、人の身代をつぶしてよいものか、悪いものか考て見るべし、依て勝たる金を

負たる者へ返してやれば、五分〳〵といふものにて、元が人の物なれば、ふたぬ先なりと思へはよし、急度申付たぞ、此以後迚も了簡違ひにて、身代の障りに成ほどな慰をすべからず、身代の痛みに成ぬ様にするが慰なり、此後誰にても大分勝たる者は、何れも斯く取計候間左様心得よと申渡故、是非なく奉レ畏候と言て歸りけり、依て博奕を打、縱へ勝たるとも取かへされては無益なりとて、博奕好の者も取やりが身にもならねば面白からず、誰留るともなく自然と博奕は國中にてはやらず、誠に妙なる政道なり、依て國中安穩に治り、行者は道を讓り、國豐にして民も賑ひ、君々たれば臣も臣たりとは是等の事共也

寶曆十一巳年冬の初

杢政談 終

地方國本錄

太田英任著

地方國本錄卷之上

太田英任著

古人曰、農は國の本、故に上古より藉田の禮として、年始に　天子自耕し給ふ祭事ありとや、帝堯も虞舜に天下を讓り給ふも、民を憐給ふ御仁德高きは、下を以て基とす、其本を正せんとする者は、其本を正すといへり、古昔より地方は井田の助法を本にすとなり、一井は九百畝にして、八面は八百畝、是私田として八夫に與へ、眞中の百畝、則公田なり、貢法といふは、一夫に百畝をあたへて、一井は九百畝に九夫を置て、九夫のもの合力、互に耕作す、是を毎年毛見のものを遣して、善惡を正し、損益に隨ひて、十分一の年貢を出させしとなり、此毛見の事は、今以禁裡御一代に一度大嘗會の御行是なりといへり、其故は　天子御即位の年、國郡の內何れの所、宗廟に奉らんと卜定ありて、民に神田を作らせ、十月に至り、勅使を下し、其毛を見て稻穗をとるを、拔穗の使といへり、其穗を以十一月中の卯日、天子自新米を供進ましますといへり、是を大嘗會の御祭と申とかや、如レ此何に隨ひて、檢見の上、立毛の善惡を見屆、御取箇を極め來りしとぞ、然るに檢法も世々に變じて、今時は國々所所大凡定免の所も多し、孟子も助より善はなし、貢より不善は無と、委しく說き示し給ふ、しかはあれど、今時は諸色見聞る程の功者も少く、縱ひ有りといへども、實成も稀なれば、上み下の便能方に

して、民を安じ國を富しむる事、是なん時に中するといわんか、予多年心掛少しく覺侍る、税法そこ爰書き記し、國本錄と名ぞらへ、文盲愚案の思慮、其嘲眼前至極なる事も不レ思、後農人の目を穢にもあらず、遠からぬ初心の便にもならんかしと而已

寶曆三癸酉孟春　　太田英任

夫地方は、天地開けてより以來と見へたり、大極分れて兩儀となり、兩儀分れて四象と成る、四象分れて八卦と成る、是元一にして、淸濁陰陽と分る、一に五を掛れば、一ン五が五ト成る、此五に五を掛れば、二ト五ト成る、此二五に五を掛れば、一貳五と成る、是則五石替の根元、貳石五斗の虛厘、壹石貳斗五升替の實厘也、此五石替を以盛を定め、高の元を究め、取箇ハ根元として、永貳拾貫に五を掛れば、高百石と成る、是貳拾貫百石の法也、貳石五斗替は定法にして、諸色に是を用、高に何ッの物成と云時、畑永壹貫文は、貳石五斗替に直す事なり、壹石貳斗五升替は實厘にして、上方三分一銀四拾八匁の法、又知行渡の節、五ヶ年平均の厘付に是を用るなり、十五と言は、たとへば壹坪に籾壹升の出來作の時は、壹反三石なり、是に五を掛れば、三五十五の盛と成る、是に五ッを掛れば、七斗五升の反取と成る、檢見の節坪苅の出合を七五に掛れば、反取何斗何升と顯る、是則石盛付取箇の

根元なり

一　石盛は合勺才を積て、何萬石の高と成る、高に四ッの取箇を四公と云、六ッの用捨を六民といふ、石盛は取箇の根元にして、百姓の盛衰究る所、至て大切の事なれば、能々勘辨すべき事なりとぞ

縦　令

上田十五盛	六　斗　代
中田十三盛	五斗貳升代
下田十一盛	四斗四升代
上畑十二盛	永百九拾貳文
但四ヶ掛貳石五斗替	
中畑十盛	永百　六拾文
同　斷	
下畑八盛	永百貳拾八文
同　斷	

右何も同様なり、十五の盛は元一の法なれば、十五を石盛の根元とす也、然共上方は上々地にして、出來方壹升餘の所も多し、依レ之十五より登りたる所も有なり、關東は甚下地にして、過分下り、五ッ四ッ三ッ等の盛も多く有レ之也、國々所々の土地、諸色出來不出來に應じて其合を以、たとひ壹坪

壹升の籾は三石なり、五合摺にして十五の盛となる、其外浮役臨時物を積り立、高に結ぶと云へり、取合壹割貳分五厘引にして貳段下り、畑方は壹坪麥壹升有時、是も壹反三石なり、貳割除き貳石四斗と成る、是に五を掛れば、十二の盛と成る、十の盛は壹坪八合三勺、是も貳割除き六合七勺、是に三を掛れば、壹反貳石壹升と成り、又五を掛れば、壹石五合と成る、是を十の盛とす、何れともに壹坪の有合を貳割引、殘合へ三を掛け、二ツに割れば、何ツの盛と成る、少しづつの過不足雖ㇾ有ㇾ之、勘辨を以究る事と見へたり

但貳割除きは、貳を引八ッを掛る

術

田壹坪

籾壹升は三石なり、五合摺にして壹石五斗、是則十五の盛

畑壹坪

麥壹升は三石なり、是を貳石五斗にて割ば、米壹石貳斗と成る、

是則十二の盛、たとへ壹坪何合成共、三を掛け貳石五斗にて割れば、何ッ何分の盛と顯る

石盛を付るに、土を坪に掛て、其輕重を以盛を定め、或は土をなめて、其味を知て盛を究るといへども、土には格別の違有事なれば、秤目は同樣にして、土に差別有るべし、味似たりといふとも、其甲

乙多く可レ有レ之事なり、一郡一領一村の內、田畑壹枚毎にも、土には種々の替りあり、依レ之其所の作毛出來方に應じて、盛は相究る事肝要なりといへり

但一坪籾へ三を掛五を掛ると石盛と成る

壹升 十五	九合三勺四才 十四	八合六勺六才 十三
八合 十二	七合四勺 十一	六合七勺 十
六合 九ツ	五合三勺 八ツ	四合六勺 七ツ
四合 六ツ	三合三勺 五ツ	二合七勺 四
二合 三ツ	壹合三勺 二ツ	六勺六才 壹ツ

右の通、作毛合取を以盛を究る時は、末代に至て甲乙有レ之間敷事なり、前々より有來田畑の高にも、甚高下の違多く有レ之事は、秤目の輕重にても究め、味を以定めたると見へたり

一 浮役臨時物といふは、絹麻紙葛所などゝ云事あり、其外里方にては葭蕋くゞ菅、山方にては桑漆楮等の例によらず、餘慶有物を臨時物と云、又は所々の盛衰をも積立、高に結ぶ事なり、夫事は當時の事に不レ構、末代迄にも違變の有無を勘辨して、石盛に加へ入る事なりといへり

一 取箇の事は、田畑共に米取なり、上方は厘取なり、尤金納等は三分一、銀壹石貳斗五升替、四拾

八夕の法を以相納るといへども、皆米取なり、關東は下地の所故、畑方は永取といへども、是は畑方の盛に、中用四ッ取を掛け、貳石五斗替にて割、是を畑方永取と直すなり、是には段々譯あり、三ッ五分にても、下地は及二過分一所もあり、三ッ五分を掛け、貳石五斗にて割もあり、又は關東六分違の法にて、壹石五斗にて割もあり、六分違といふは、貳石五斗に六を掛れば十五と成る、是等は其所々の地面廣狹、土地の上中下、浮役盛衰に隨て究る事成りといへり、惣て石盛物成詰の事は、五石替の法を以相極る事ゆへ、上中下の盛に五ッ取を掛、貳石五斗替にして、畑方の永取といたす事なり、前にいふ如く、高に何ッ物成と厘付を見る時、畑方永壹貫文、貳石五斗に致すを以考知るべし

一　野高幷上木高等は、取永を極め、其取永を五石替にして、高に結ぶ事なり、依レ之右の類には、反に何ッと云盛はなき事と見へたり

永貳百五拾文　上木永

永三百五拾文　野永

永百貳拾五文　芝永

右の類は、少々宛の永取にして、或永五文三文、又は永八文九文拾文計の事故、反に何ッとも、盛は付けがたき事と見へたり

永の事は昔より有來といへども、名は有て其形無し、尤永樂錢といふ錢、今以稀に有レ之といへども、

是は明の代にて、永樂十九年に此錢を鑄るといへり、日本へは後小松帝應永十八年、此時に源義持公通書を以乞二永樂錢一、日本へ渡りしとなり、日本にても寛永十三丙子年鑄造し錢を、寛永通寶と名付るとなり、永と永樂とは、樣子の違ひなり、永は前にいふ如く、大極にして元一なり、永壹貫文に五を掛れば、高五石と成る、永の四割替といふ事は、永壹貫文四ッに割、貳石五斗替なり（永樂錢日本へ渡る說さま〴〵多し、其頃は永樂壹錢を以四文に替、通用せしとなり、是は永四割替のこゝろへ違なるべし）

鎌倉永を元にして盛を極、取箇の元にすといへり、先年石盛と云事無き以前には、高何千貫領、又は町步何千町の鄕村といへり、是は壹坪永壹文として何千貫と見、壹坪籾壹升として（籾何千何百石、町步何千何百町）の所を見るなり、古昔北條時宗公、靑砥左衛門に三萬貫の地所を給ひしは、今石盛にて拾五萬石なり、此町步壹萬町の所、上々地と見へたり、但高百石に付、六町六反六畝拾八步

三萬貫　　五を掛れば

高拾五萬石

壹萬町步　　十五を掛れば

高拾五萬石

右の永に五を掛るも、元壹坪永壹文の法、町步に十五を掛るも、元一坪壹升の法なり、昔は貫高にて、石盛高といふことは無レ之と見へたり、今稀には貫高の所有レ之也

貫高

一　永百貳拾貫文　何村高辻

上田壹町七反壹畝拾八歩　永百七拾文

此永貳貫九百拾七文貳分

中田貳町六反九畝貳拾歩　永百五拾文

此永四貫四拾五文

下田拾壹町貳反三畝貳拾四歩　永百三拾文

此永拾四貫六百九文四分

下々田四反九畝拾五歩　永　百　文

此永四百九拾五文

但歩の所は、三にて割レ之永を掛る、永錢目は不レ入

田合拾六町壹反四畝拾七歩

此永合貳拾貳貫六拾六文六分

上々畑壹町八反七畝拾八歩　永百三拾文

此永貳貫六百七文八分

內百六拾九文　上木高　永百拾文

上畑拾六町四反拾五歩

此永拾九貫五百四拾三文五分

內壹貫四百九拾八文　上木高　永八拾文

中畑三拾町八畝九歩

此永貳拾六貫七百三文四分

內貳貫六百三拾七文　上木高　永五拾五文

下畑六拾三町八反九歩

此永三拾八貫八百九拾七文七分

內三貫八百六文　上木高　永貳拾文

下々畑拾貳町六反六畝三歩

此永四貫貳文貳分

內壹貫四百七拾文　上木高　永百貳拾文

屋舗五町壹反四畝貳拾七歩

此永六貫百七拾八文八分

畑合百貳拾九町九反七畝貳拾壹歩
此永合九拾七貫九百三拾三文四分
內九貫五百八拾文　　上木高
田畑屋敷合百四拾六町壹反貳畝八歩
此永百貳拾貫文　　石盛〆六百石
右之通、今以貫高の村方稀には有レ之候得共、貫石同意、其譯左に記

何村
高辻

永百貳拾貫文
一　高六百石
反別百四拾六町壹反貳畝八歩
籾壹石七斗
上田壹町七反壹畝拾八歩　　盛八ッ半
分米拾四石五斗八升六合
但反取　米四斗貳升五合　永百七拾文
籾壹石五斗
中田貳町六反九畝貳拾歩　　盛七ッ半

分米貳拾石貳斗貳升五合貳勺五才

但反取 米三斗七升五合 永百五拾文

糓壹石三斗

下田拾壹町貳反三畝貳拾四步 盛六ツ半

分米七拾三石四升七合

但反取 米三斗貳升五合 永百三拾文

糓壹石

下々田四反九畝拾五步 盛五ツ

分米貳石四斗七升五合

但反取 米貳斗五升 永百文

糓壹石三斗

上々畑壹町八反七畝拾八步 盛六ツ半

分米拾貳石壹斗九升四合

但反取 米三斗貳升五合 永百三拾文

糓壹石壹斗

上畑拾六町四反拾五步 盛五ツ半

分米九拾石弐斗弐升七合五勺

但反取　米弐斗七升五合　永百拾文

籾八斗

中畑三拾町八畝九歩　盛四ツ

分米百弐拾石三斗三升弐合

但反取　米弐斗　永八拾文

籾五斗五升

下畑六拾三町八反九歩　盛弐ツ七分五厘

分米百七拾五石四斗五升八合弐勺五才

但反取　米三斗三升七合五勺　永五拾五文

籾弐斗

下々畑拾弐町六反六畝三歩　盛壱ツ

分米拾弐石六斗六升壱合

但反取　米五升　永弐拾文

籾壱石弐斗

屋敷五町壹反四畝貳拾七歩　　盛六ツ
分米三拾石八斗九升四合
但反取　米三斗 永百貳拾文
永九貫五百八拾文　　上木高
此分米四拾七石九斗　　但五石替
分米合六百石
此取米三百石
内米五拾五石壹斗六升六合　田方
永九拾七貫九百三拾三文六分　畑方
但貳石五斗替

籾は則貫高也、米に摺れば石高に成る、土地に應じ、取箇を以盛を定め、又盛より取箇を積る事なれば、石盛の事は、口傳有レ之とぞ

一　往古は壹反三百六拾坪なりといへり、其時は拾貳合の桝を用しとなり、今壹反三百坪に成り、拾合の桝にて計るを以、三百六拾坪の收納も、三百坪の納も、同事成るべきか、古の三百六十坪は、年の日數を以壹反とすといへり、壹坪は六尺四方、是を重たるに依て、六々三百六拾坪ともいへり、尺寸を其儘掛合、三六にて割れば歩と成る、然共是等の義、實說をしらず、今三百坪の事は、是も月の日

數を以、三百坪と致す事といへり、是は左も可ㇾ有事なり、總て物におゐて五ッの數は、はなれざる事なり、別て地方は五を以本末にす、壹坪六尺に五を掛れば、五六三百坪と成る、三百坪に五を掛れば、三五十五の盛と成る、前に云如く、五石替は大極より分る、地に生る物數多ありしといへども、依ㇾ之米穀を以、五穀と名付るといへり、地方は天地陰陽の理を以、古昔より定め置れしとなり、此定法を背時は、國不ㇾ治といへり、正道に執行すべき事なりとぞ

石盛並取箇厘附大概

一　高三百三拾三石五斗四升貳合　　何村　四ッ取

此取米百三拾三石四斗壹升六合八勺

反別三拾町九反八畝貳拾壹步　　田畑屋舗

内　拾壹町貳畝三步　　田方

拾九町九反六畝拾八步　　畑方

此わけ

上田貳町五反壹畝步　　但五合摺（壹坪籾壹升）

分米三拾七石六斗五升　　石盛十五

取米拾五石六升　　反六斗取

中田三町貳反拾貳步　　同八合七勺

分米四拾壹石六斗五升貳合　石盛十三
取米拾六石六斗六升八勺　反五斗貳升取
下田五町三反貳拾壹歩　同七合三勺
分米五拾八石三斗七升七合　石盛十壹
取米貳拾三石三斗五升八勺　反四斗四升取
上畑四町壹反拾五歩　壹坪麥壹升 但米壹升ニ貳升五合替
分米四拾九石貳斗六升　石盛拾貳
取米拾九石七斗四合
壹反四斗八升取に當る
永にして百九拾貳文也
但永壹貫文に米貳石五斗替
中畑六町五反貳畝歩　同麥八合三勺
分米六拾五石貳斗　石盛十
取米貳拾六石八升
壹反四斗取に當る

永にして百六拾文

但前の通

下畑八町拾八歩　同麥六合七勺

分米六拾四石四升八合　石盛八ッ

取米貳拾五石六斗壹升九合貳勺

壹反三斗貳升取に當

永にして百貳拾八文

但前の通

屋舗壹町三反三畝拾五歩　壹坪麥壹升九勺三才四毛

分米拾七石三斗五升五合　石盛十三

取米六石九斗四升貳合

壹反に五斗貳升取に當る

永にして貳百八文

但前の通

小以　米五拾五石七升壹合六勺
　　　永三拾壹貫三百三拾八文壹歩

外

永四百五拾文　　野　永

此高二石貳斗五升

永三百六拾文　　上木永

此高壹石八斗

右高の取箇、則反別取なり、田畑共に四ッ取にして、壹反に付八升下り、又五ッ取は五升下りに當る、右の通高の取の割にては、畑方の取高く成候間、斟辨可レ有レ之事なり

一　野永上木永等の儀は、貳拾貫百石の法にて高に直す

一　反取の事、上田拾五盛、五分五分にては七斗五升なり、五分の取と云は、上方筋は麥田、關東にては、上野下野武藏の内にても、麥田兩作の所は、五分取も可レ有レ之、其外惡地麥國にても無レ之所は、四分六分、十五盛は六斗代可レ然、是を以有來反取相應か不相應か可レ考事也、不巧者にては、反取の上ゲ下ゲ、猥に不レ致事といへり

一　込高の事

是は御料にては無レ之事なり、御私領方の御拜領高に添事なり、知行替の節、只今迄の知行四ッ取レ之所、此度引替相渡る村方は、三ッ五分にも候へ共、前々知行高の取米、此度相渡る所の三ッ五分を以

割れば、前の知行より高多く成る、此多く成る分、込高と云なり、尤物成は前々の通相納、又新に御加増等、たとへば高千石の時、是に五を掛て、御藏米三ッ五分の御定法を以割れば、千何百石と成る、當時御加增の所ゝ五ッにても當る所なれば、込高は無ㇾ之事なりと見へたり

一　延高之事

是は先達ての知行所は三ッ五分、此度渡る所は四ッの厘に當れば、四ッを以最前の知行所の取米を割れば、前之知行高より減ず、此減の分を延高と云也、但畑方永は、壹石貳斗五升にて米に直す

一　無地高の事

是は只今まで、有來上中下の反別盛を寄候時、割付高に不足の分を無地高と云、反別石盛慥成所には、無地高雖ㇾ有ㇾ之、少々宛の物、大方は檢地年久敷所にて不分明、申傳の村方に有ㇾ之事なり、又所により慥成所にも有ㇾ之なり

一　色高の事

是は桑漆高楮高青苧(カ)高くゞ蓏高抔の類なり、總て右の類有ㇾ之を、高に結ぶ場所多くあり、但右の畑廻りに有ㇾ之分は、大方其品かぞへ立、分米に結ぶ事、色高といへり

桑漆楮等は、長サ三尺に廻り三尺にして、壹束に付分米壹升の高に結び、取永は分米壹升の高に、永貳文極る事なり、菅眞蓏くゞ等の儀は、其趣により取永を極、右を永五石替にして、高に極る事

なり、皆五ッ取の定法なり、右の類は如ㇾ此高に結ぶ事なりといへども、國により檢地の節、漆畑桑畑と込て、高に結びたるも有ㇾ之事なり

一　反高の事

是は新田等取立候ても、百姓不ㇾ仕付ㇾ芝地等にて開發にも成兼候所は、位無しに、反別取に申付候場所の事なり、上中下と位を積り、高に結びては、御取箇致ㇾ不足ㇾに付、下免の所は、反高にて差置事といへり、反高と云は、村居なし、無高を云なり、尤所により、高外見取場等も有ㇾ之事なりといへども、是とは少し違たるなり

一　上田石盛壹石五斗と極る事は、壹坪に籾壹升有時、反取七斗五升、是五ッ成に當る積を以壹石五斗に極る心なり、又は壹石六斗、壹石八斗、壹石貳斗、三斗、夫より下りたるも、皆五ッ取の考なり、所により違はあれども、大槪の所は貳斗違多し、畑方は反取より石盛を取出す考なり、たとへば上田永貳百文取りなれば、貳石五斗にて直し五分なり、是を壹俵にして壹石の石盛と極る、永貳百文を五石に直しても、壹石の石盛と成る

一　上方關東共に、村々高何千何百石と極るを以見れば、元田畑共米取の積也、關東は下地多く畑勝ち、米不足ゆへ、永取に致す事と見へたり

右石盛は五ッ成の積を以極ると見へたり、併上中下共石盛の通には、只今は不ㇾ出來ㇾに依て、不足の

立毛に引方立ゆへ、平均にし、夫より内にも當るなり、然共五ッ取に極りたる證據は、浮役の類高に結び、知行に相渡るを見れば、壹石の米は貳石なり、高にむすび永壹貫文は、五石の高に直す、何れも五ッ取に當る、石盛は五ッに當る積を以付候事の定法たるべし

一 海石何百石と水帳に記し、陸高の通の掛り物不殘懸り、應付に有之所は、古來濱にて魚の揚りを見て、運上を積り、高に結びたるといへども、新規海石高に結ぶ事は、成難き事なりといへり

地方國本録卷之上終

地方國本録卷之下

一 始て郷村請取候は、去年中の御物成郷帳の寫、宗門人別帳五人組の類、其外當時御鷹の御用に付、諸證文等相改之、又は廻状村續順帳、大概水屆書付可取之

一 村々名主組頭の書付可取之、村方により名主百姓出入等の上、名主も替目組頭年寄持の所にて

は、追て出入の種残る物に候間、致二吟味一、其譯共に書付可レ取レ之事

一　郷帳受取候上、拾ヶ年以來の割附の寫、村差出帳申付、奥書名主組頭長百姓の判形取レ之、村差出帳には、惣百姓の判形可二申付一、但し拾ヶ年割附の外、跡拾ヶ年分も、壹ヶ年の米永より反取迄、別帳に可レ取レ之事

一　村差出帳受取候はゞ、反別永引等割附に引合無二相違一哉、又は浮役物の類納候譯、入會の山野、江戸海陸道法、米津出し普請所等迄、入念可下遂二吟味一置上事

一　村方請取候はゞ、村々一通り相廻り、可レ成程は致二見分一、御林普請所之類可三相二改之一、名寄帳に引合、水帳の寄せ、外除地見取場等、委細に寫レ之、若水帳無レ之候はゞ、名寄帳の〆書付可レ取レ之事

一　定引永引の類、上中下の位式、古來の持主をも取失候所も可レ取レ之、知行分ヶ郷も相成候節差支、其上出入にも相成可レ申候間、持主並田畑上中下位相改、横帳に爲レ認レ之、百姓印形取レ之、永引當引共に多少によらず、其場所可レ致二見分一候、乍レ然年久敷事故、永引定引等の改に付ては、不レ計出入出來候儀も難レ計事候、勘辨可レ有レ之事なり

一　村々名主組頭役料、又は古來新田開發人抔の持分除、或は樋守渡守等給分抔の致方、是等の事より後々は、出入も出來候物有レ之候間、其譯委細書付可レ取レ之事

一　人別は高百石百人、家數廿軒程中い村也、右の積より人數多き所は、暮し方可レ宜候、高より人

家共に不足の所は、衰微の村方と知る、但地面能所にても、石盛下り候哉、惡地の所にても、石盛登り、只今困窮にもおよび候事か、是等を見分け、御取箇勘辨可ㇾ致事なり

一　高免の村方なれども、百姓不ㇾ痛村方も有り、下免にも百姓困窮の村方有ㇾ之也、右の通浮役臨時物餘慶の德昧も有ㇾ之哉、又は年貢の外過分公役高掛物有ㇾ之哉、ヶ樣成儀も、入念承屆可ㇾ申事肝要なり

一　巡鄕の節、其村々の地形、用水の便、惡水吐口心を付、永荒砂押山崩等の引物、能々見屆可ㇾ申事也

一　神社佛閣所之鎭守菩提寺等も、其所の盛衰により、出來候事なれば、爰を以可ニ考知一事なり

一　百姓家居藪林等、或はこやし等の仕方、百姓の出精不精、考知るべき事なり

一　百姓貧成所には、醫師出家諸浪人等なし、富貴なる所には、遊人諸勸進の類多し

一　春の祭禮を見聞しては、去年の作德を考、秋の祭禮を見ては、其年の立毛を可ㇾ知事也と言へり

一　百姓の風俗、屋敷寺社の修理、諸勸進奉加等、年忌月忌の執行、何神の開帳迄も心付、盛衰を知るべき事なり

一　田畑屋敷質地等の直段を以、免相を考へ知るべし

一　土の善惡を見樣之事は、前々より地方の書物ともに樣々有ㇾ之といへども、前書に云如く、田畑

壹枚毎にも種々の差別あり、依レ之前々檢地の時分、地方達ハ能々土の味を見屆、石盛に積高に結置し事と見へたり、其故は十五十三十一は平均にして、高百石に七町六反九畝餘に當る、十二十ヲ八ッは、拾町百石に當る、十ヲ八六は平均にして、拾貳町五反に當る、其餘は段々高百石に付、拾六七町廿四五町、至て惡地なる所は、三拾町程迄、其所々の地味を見屆、石盛高積置事なれば、差て當分土の善惡を改見るには及間敷か、併土地により、石盛に高下の違等も可レ有レ之哉、地面に廣狹等も可レ有レ之哉、御取箇掛辨可レ有レ之

一　眞土小石まじり上地成といへども、山方の所とては尤なり、至て上地の所には、小石も無レ之事なり、土には種々の色、樣々名ありといへども、いなこ眞土といへるは、小石もなく、靑土の所極上地なり、赤土にも段々雖レ有レ之、赤石砂まじりの所は、極惡地なり

一　檢見の事は、享保四年亥八月中被二仰出一候御條目の趣を以、可二執行一事なり

一　檢見に罷出候節、先達て村々へ差出す廻狀、案文の有增し

當國方立毛爲二檢見一我等共其村々へ被二差遣一候に付、音信禮物受用の義は不レ及レ申、酒肴等振舞馳走ヶ間敷儀、召連候小者迄、一切請申間敷旨、堅く誓詞被二仰付一參候間、若右の類仕掛候村方有レ之は、其趣書付候て、御役所へ差出事に候

一　泊休にて食物の儀、野菜二色を限るべし、所に有合のもの外は、何にても相用申間敷候、尤米代

木錢の儀は、御定の通可ニ相渡一候

右の通堅く相守、書面の通手入ヶ間敷儀、一切仕間敷候、此旨相背候ものあらば、其段申上候上にて、急度曲事可レ被ニ仰付一候間、其心得可レ有レ之候、以上

何月　　誰

何村々

名主組頭　　誰

惣百姓中

右廻狀之趣、拜見仕奉レ畏候、名主組頭長百姓之請書印形可レ取レ之

一　檢見村々名主組頭呼寄、內檢見の儀は惣百姓不レ殘立會、隨分念入、少も依怙贔負なく見殘致し、(マヽ)合附上中下共に段々に毛揃致し、勘定合寄帳面先達て可ニ差出一、尤檢見の時分は、田毎に可レ致ニ立札一

書樣

何合

上田何畝何步　　何左衛門

右の通上中下共に、稻より貳尺程高く可ニ立置一、檢見の節、若場所違など有レ之候はゞ、可レ爲ニ越度一

旨、是を可二申渡一候

一 検見の事は、所により致來り之定法、又は面々の勝手、品々見様雖レ有レ之、大検見、小検見、畝引検見、色取検見等有増書記

一 検見は、去年の取箇を今年の立毛に用るといふ事あり、是は先去年の納りを、其村々の田方有町步に割付、平均壹反に付何斗何升と見て、此何斗何升に四ッ掛て三にて割れば、何合何勺と合毛に成る、當立毛を見渡し、平均何程可レ有レ之哉と見定め、去年の合毛へ引合、格別の相違と見へ候はゞ、去年の出來分と、今年の出來分は如何と、百姓に可レ尋レ之、去年今年の內、豐凶の年も有レ之候はゞ、其詮議には不レ及候、右は平年の事なり

一 大検見は、奉行郡代諸役人を引連れ大廻、其年の作毛出來分見分の上、惣取石を考、代官了簡を突合、吟味の上免相を究るなり、大検見は、委細にあらずといへども、地方鍛錬の上、其年の様體を以相究候事ならば、大格ははづるゝ事なし

一 検見は、先達て中付置候內見之帳面、請取有石を致二勘定一、其村々の百姓の下心を計り、検見に可二罷出一事なり

一 耕地へ見分の節、百姓案內之道疑敷相見へ候は、外の道へ手分け〳〵に相廻り可レ致二見分一、或は深田等にて、通路惡敷場所は、遠方に立二置札一、貳三枚も致二目印一、取寄是を見て、格別合附下げある

は、其所迄いか樣にも罷越可ニ見屆一也、惣體立札の合附、出來方の有合と能々見分け、中の場所にて坪苅可レ申ニ付之一

檢見入用

一 歩棹貳組　升三ツ 壹升 五合 壹合　鎌　莚

繩　こき箸　莚かます

一 上田 中毛　上々毛 下毛　上毛 下々毛

一 中田 中毛　上々毛 下毛　上毛 下々毛

一 下田 中毛　上々毛 下毛　上毛 下々毛

一 下々田 中毛　上々毛 下毛　上毛 下々毛

右の通田の位にて、四五段に毛能く見分け、上々毛をば除、位々の上毛へ引付、上毛よりおとり候分、夫々に一割より七八割迄法を立可レ引也、位每の合毛の見樣は、所々にて致ニ坪苅一舂法の出合を以是を極め、然共位每にて、四五段づゝ坪苅候ては、大分手間取候に付、何稻の何程の出來にては、籾何合可レ有レ之と相改、相談の上七八所も目ためし致し、坪苅の出合を以見極可レ然、小檢見は、御取箇上ゲ下ゲ多くには不ニ相成一候得共、百姓仲間の損德高下なきためには可レ然候、差て惡毛も無レ之

候はゞ、却て百姓ヲ大切ノ收納の時分隙を費し、外の障に可二相成一候、依レ之此儀有增爰に記

一　前々より上中下の斗代究り、反別取の所は畝引、高の取之所は石引、反別取の畝引の仕様、上毛壹坪に付壹升壹合有る時、是よりおとり候分、壹升壹合へ引付申候

たとへば

壹坪に付		
五勺不足	四分五厘	拾三歩半引
壹合	九分壹厘	貳拾七歩引
壹合五勺	一割三歩六厘	壹畝拾壹歩引
貳合	一割八歩貳厘	壹畝貳拾五歩引
貳合五勺	二割貳歩七厘	貳畝八歩引
三合	二割七歩貳厘	貳畝貳拾貳歩引
三合五勺	三割壹歩八厘	三畝五歩引
四合	三割六歩三厘	三畝拾九歩引
四合五勺	四割九歩	四畝三歩引
五合	四割五歩四厘	四畝拾六歩引

五合五勺　五割　五畝歩引
六合　五割四歩五厘　五畝拾三歩引
六合五勺　五割九分　五畝貳拾七歩引
七合　六割三歩五厘　六畝拾壹歩引
七合五勺　六割八歩貳厘　六畝貳拾五歩引
八合　七割貳歩七厘　七畝八歩引

貳割五歩引
上田五町三反七畝拾五歩
內壹町三反四畝拾壹歩　檢見引
殘四町三畝四歩　反六斗取
取米貳拾四石壹斗八升八合

貳割引
中田七町貳反五畝三歩
內壹町四反五畝壹歩　檢見引
殘五町八反貳歩　反五斗貳升五合取
取米三拾石四斗五升三合

壹割五歩引
下田拾壹町貳反六畝九歩

檢見引

反四斗五升取

内壹町六反八畝貳拾八步

殘九町五反七畝拾壹步

取米四拾三石八升壹合

上田壹反に付六斗代は、當り八分也、坪苅にて籾六合出候得ば、當りに貳合不足なり、此貳合を當り之八合にて割れば、貳割五分引也、上田五町三反七畝拾五步へ、右貳割五步を懸れば、上田壹町三反四畝拾壹步、檢見引中田壹反に付五斗貳升五合は、當り七合也、坪苅五合六勺有時、壹合四勺不足は貳割引也、下田壹反に付四斗五升は、當り六合なり、坪苅五合壹勺有時は、九勺不足壹割五分引、何も上田の心得なり、斗代は段々可レ有レ之候得共、四を掛け三にて割れば、當り合と成る、此當り合にて不足の分を割れば、何割何分の畝引出るなり

一 斗代に不レ構、年の立毛次第に御取箇相究候檢見も、先達て申付置候内見帳面請取、水帳の通上中下田悉爲レ致二立札一、立毛と札の合附とを見合、相役立會相談の上、所々にて坪苅可二申付一、中分の出來方の場所にても、百姓は是は苗間跡にて御座候の、又は水口際にて御座候の、或は此田計持候百姓にて、精出しこやしも入候田にて御座候抔と申もの也、其時は然らば其方共勝手の所にて、壹坪相願べし、此方の望場所にて壹坪取、春法貳ッに割、平均して合取可二相極一段爲二申聞一、百姓共にも得心致させ、坪苅申付、證文可レ取レ之

覺

上田何畝何拾歩　　田主 何右衛門

六合　　内見合附

七合五勺　　御坪苅出合

中田何畝何歩　　田主 何左衛門

五合　　内見合附

六合五勺　　御坪苅出合

下田何畝何拾歩　　田主 何兵衛

四合　　内見合附

六合　　御坪苅出合

右は中通の出來方、立毛の場所を以御坪苅被仰付、少も御非分成儀無御座候、此上御坪苅出合の御勘定、御割合を以御取箇被仰付候上は、一言の御訴訟ヶ間敷儀申上間敷候、爲其名主組頭惣百姓代印形差上申候、如件

年號月日　　何村

田主

名主
組頭
惣百姓代

一　坪苅は其位々にて、何ヶ所宛苅候共、右の通村々にて證文取レ之、勘定の儀は、坪苅の増合平均何割と致ニ勘定ー候とも、又は位毎に勘定いたし候共、其趣によるべし、但し致ニ平均ー候ても、御取箇には相障不レ申候得共、百姓方にては甲乙可レ有レ之候

合寄

上中下田合拾七町八畝拾五歩
此わけ
八合坪苅出合　百姓内見合附
五反三畝拾五歩　五合五勺毛
此籾拾貳石八斗四升
七合五勺
八反六畝九歩　五合毛
此籾拾九石四斗壹升七合五勺

七合　　四合五勺毛

壹町三反貳拾七歩

此籾貳拾七石四斗八升九合

六合　　四合毛

三町八反一畝十八歩

此籾六拾八石六斗八升八合

五合五勺　　三合五勺毛

四町七反五畝三歩

此籾七拾八石三斗九升壹合五勺

五合　　三合毛

三町貳反三畝歩

此籾四十八石四斗五升

四合　　二合毛

壹町六反五畝歩

此籾拾九石八斗

水腐

九反三畝三歩

是は吟味之上引可ㇾ申事

籾合貳百七拾五石七升六合

取米六拾八石六升九合

一當時は位檢見畝引等の檢見は稀にて、大方は上中下斗代に不ㇾ構、年々立毛を以て取箇も相極る事なり、尤年久敷御檢地にては、土地も大方違變いたし、上田より中田宜敷、中田より下田宜敷、下田より下々田立毛、甚宜敷出來上り候ても、斗代限にては、御取箇も相登り不ㇾ申、其上百姓の方は、甲乙可ㇾ有ㇾ之、其年の立毛、田毎之出來方に應て、御取箇被㆓仰付㆒候得ば、御取箇相增し候ても、石取相應に御年貢上納仕候付、百姓の痛にも曾て不㆓相成㆒事に候

一檢見は、其年の立毛善惡見極候心得計にても無ㇾ之、土地の樣子、地面廣き所か、詰りたる所か見計、御取箇も可ㇾ致㆓勘辨㆒事なり、地面廣きか、詰りたるの見樣は、所々にも田の廻りへ人を廻し、見通し見計を以て、立札の畝歩と見合、札の畝歩より貳三割も廣きは、坪苅出合より少々御取箇相登り候ても、百姓も痛不ㇾ申候、又其詰りたる場所有ㇾ之候とも、壹反三百歩の割より詰たる所は無ㇾ之筈なり、二三割も詰たる場所有ㇾ之ば、可ㇾ致㆓吟味㆒事なり、其故は御檢地の時分、竿先見捨等は可ㇾ有ㇾ之候得共、歩も無き所へ、過歩を水帳に書のせ可ㇾ申譯は無ㇾ之候事也、過分に詰り相見へ候場所

は、檢見立札の間違、又は外の札を二重に立込候哉難ㇾ計事なり、片下り等にて、水持惡敷所は、水帳にて一筆一枚の田を、幾枚にも致し置物也、此等も可ㇾ致ニ吟味一事なり、或は又畔並み同位の上田にて、外の田は上毛、壹人の田は格別おとり不出來の時は、四五割も引不ㇾ申候ては、合ひ申間敷候得共、元より場所地面共に同所の上田なれ共、不精成百姓にて、草も能く取らず、こやしも不ㇾ致、水の掛り干し迄油斷にて、作りおとり候田も可ㇾ有ㇾ之候、ヶ樣成場所、出來に應て引遣候ては、外の障に相成候間、上毛並に年貢可ニ申付一其上にも有不精の百姓には、過怠をも申付度事なり
右の通畝引石引同樣なり、然共時之了簡を以、其場所〳〵にて引候ては、後に差つかへ可ㇾ有ㇾ之、野先にて內見帳面に合印致し置、其日限に晚の旅宿にて、有增勘定致し置可ㇾ申候、他の村へ移り、前の村方の勘定致し候ては、取紛れ候事も有ㇾ之ものなり、其外小檢見の致し方色々可ㇾ有ㇾ之候得共、委細には難ニ書取一至極初心のため、有增を記
一　御取箇の事は、檢見の趣計にても有ㇾ之間敷事なり、村により田勝もあり、畑勝もあり、或は作德の外、浮役臨時餘慶等にて渡世いたし、能き所もあり、左樣成所にては、少々の免にても、百姓も不ㇾ痛、又は田多く、外に何の餘分もなく、偏に田計にて致ニ渡世一所は、少々下免にても、百姓及ニ困窮一是等之事共、勘辨も可ㇾ有ㇾ之事なり
米取立納方たとへば

一　米三拾五石　　　　　　　　　　　三五にて割る　本石
此口米壹石　　　　　　　　　　　三五にて割り三七を掛る
此斗立壹石五升七合
合米百貳拾石三斗壹升七合　　　　　　但三斗七升入
其外所により、三斗八升、四斗、又は四斗貳三升入、其餘にて納來候所も、勘定之儀は、右の仕立にて相濟可ㇾ申事也

一　御取箇の事は、上方筋は厘取なり、奥州にても會津米澤邊には、厘取の所も多し、關東は下地にて畑勝の所故、大方畝歩へ掛て、石取に致す事なり、厘取りの儀は、高の内にて引物を引殘り高へ其年の厘をかけ、御取箇を極る事なり、是等は皆人存候事ゆへ、爰に不ㇾ記

一　口米之事は、古來より本石壹石に付、三升に相極候所、其後はいか様の譯にてか、關東筋は納め壹俵に付、本石壹升づつ取立相納候、然所に納壹俵に付、斗立壹升の御取立被二仰付一も御座候由、本石壹石に付三升に究候證據は、只今にても、上方は大方本石壹石に付、斗立三升の口米なり、遠國も所々に、本石壹石に斗立三升の口米納所多し、壹俵に斗立壹升にては、上方筋壹石三升の口米と突合見れば、本石壹石に付、壹合四勺貳才八毛餘不足なり、依ㇾ之壹俵本石壹升ヅヽ取候得ば、遠國の三升に同事、然し本石壹石に付貳勺過、但三斗七升入の積りなり

本石を三五にて除けば、口米と成る、此に米を三五にて除き、三七を掛れば、斗立と成る、俵入は

何程にても同じ事なり

一　米壹萬石　　上方

此口米三百石　　斗立

一　米壹萬石　　關東

此口米貳百八拾五石七斗壹升四合　　本石

右斗立にも拾六石三斗貳升六合不足、依ㇾ之本石にて取候得ば、三百貳石四升と成る

一　口永の事は、古來銅錢四貫文に、長鐚百貳拾文也、此百貳拾文を四貫文割、永壹貫文に付、同三拾文ヅヽ取來候由、其後九六の儀に成り、四文の出目有ㇾ之に付、長鐚百貳拾四文となり、又貳拾四文へ壹文の出目を加へ、百貳拾五文と成る、是四貫文替に直せば、參拾壹文貳分五厘と成る、是より三壹貳五と云口永の法出候と見へたり、三一貳五にては、金八兩に付同壹分に當る也、三拾貳貫文にけ、壹兩づつの積ゆへ、三拾貳にて割り候ものも候得ば、享保五子年口永は三拾文づゝ可ㇾ申付ㇾ旨被ㇾ仰出、其後大方三拾文づゝ取立候得共、享保五年の御沙汰も無ㇾ之所にて、三拾貳文にて割もあり、三拾貳を掛るもあり、末三壹貳五にて取立候も有ㇾ之由、時々承ㇾ之候

一　近年は御料私領共に、大概は定免の所多し、然共風水旱損にて、三四分以上之不作の事は、檢見

も可レ有レ之事なり、凶年の檢見別而入念、少々の殘毛たり共、吟味の上御取箇可ニ申付一事なり

一　定免の致方、大方は前拾ヶ年の納り平均の上に、壹貳割も相增究め候得共、此儀も前拾ヶ年の平均石高を、其村々の田方町歩へ割付、壹反に付何斗何升と見て、此何斗何升を七五にて割れば、平均反に付何合何勺と成る、其村々當時の出來方積合、又は田勝の所か、畑勝の村分成か、其外餘慶等も有レ之、渡世も致し能き所成か、吟味の上定免相究候得ば、御取箇相增し候ても、百姓もあまり痛にも成申間敷候、定免の儀は、年季五七ヶ年、或は拾ヶ年にも相定り申事に候得ば、壹ヶ年限の檢見の御取箇とは、格別年季の内損益に相成り候間、定免究候節、又は年季の切替の時分、心の及ぶ程は、遂ニ吟味ニ可ニ申付一事なり

一　地方百石と云ふは、百姓の作德、百石作り出す所見屆盛に積り、百石の高に結ぶ事なり、石盛の事は前につぶさなり

大御番兩御番の御方樣方、御同高にて御知行御藏米もあり、地方御知行も有レ之也、御藏米は三ッ五分に限り、地方は五ッにも納候得共、格別の御勤も無レ之事なり、五ッにも納り兼候所は、込高被レ下事と見へたり、込高の事は、前々委しく記

一　地方百石は、百姓の作德、百石作り出す所を盛に積り、百石の高に結ぶ事なり、物成は四ッにしても四拾石なり、石盛の事は前に具なり

一　御藏米百石は、三拾五石なり、是は高三ツ五分物成也
右の通御藏米、地方知行とは格別に候得共、地方には不作の年もあり、其外物入も多し、地方知行に込高と申は、平均御藏米同様にあたる積りなるべし、其譯左に記す

一　高百石　　御藏米
此物成三拾五石　　三ツ五分
壹俵を高壹石と云、壹石と云は、三斗五升に極ると見へたり

一　高百石　　地方
取米三拾五石　　本辻
外六石壹斗四升貳合八勺　　口米延米
二口合四拾壹石壹斗四升貳合八勺
此俵百貳俵三斗四升貳合八勺
御藏米より六石壹斗四升貳合八勺多し
右の外に、小物成其所々にて、前々定法を以納る事なり
諸家中知行、幷物成渡米の事

一　御高拾萬石にては、五萬石は家中諸士へ、地方にて渡るもあり、石にて渡るもあり、或は中小姓

以下無足人は、扶持方俵數にて相渡る事なりとぞ、但し是等は三斗五升入壹俵として、三ッ五分の積を以、相渡る事なりといへり

貳拾人扶持百石高といふは、壹年三百六十日分、米三拾五石四斗なり、御藏米百石三拾五石に同意、石取は四ッ物成にしてゝ米四拾石、共餘も有レ之なり、扶持方俵取渡米、本文の通

一 高百石　　　　　　　　　　　　地方知行取

取米四拾石　　　　　　　　　　　高四ッ

外米七石貳升四勺　　　　　　　　口米延米

二口合四拾七石貳升四勺

此俵百拾七俵貳斗貳升四勺　　　　但四斗入納

御藏米には拾貳石貳升四勺多し

共外小物成は、御定法の通相納る事なり

地方知行所には、不レ計風水旱損の年も有レ之、用水悪水圦堰等の普請物入等も雖レ有レ之、三四年に一度づゝ不作損毛にて、一切物成相納不レ申候共、右の餘分圍置時は、不足成事は有レ之間敷事なりといへり、右知行所田畑、當分田勝畑勝成り共、厘取に致す時は、毛頭違なし、込高の事は、共村々五ヶ年平均の厘付を以、百石の物成を割れば、込高出るなり

石取

一　高百石
此物成百俵　但四斗入
此石四拾石
御藏米より五石多し、七ヶ年には、三拾五石の餘米あり

同斷

一　高百石
此物成百俵　但四斗貳升入
此石四拾貳石
御藏米より七石多し、五ヶ年は、三拾五石の餘米有り
右石取の分は、地方知行取よりは、二割程物成不足と見へ候得共、地方知行取とは違、格別何にても物入なし、依之地方知行同意なり
一　諸家中高貳百石の侍、騎馬一騎の積り、在所にては馬を持、三百石の侍は勿論、在番節は馬を牽せ可勤番事なり、地方は前に云如く、風水旱損之凶年有り、或は米下直成事も間々有之事也、依之地方知行石取の面々常々御藏米同意に心得、縱ば七ヶ年に一度づゝ、大凶年も有、一向物成不相納、渡米不足の事有之候共、參勤交代、猶又騎馬軍役等の爲め、右の餘分圍置心掛專要なりといへり

檢地之事

一　檢地は、百姓の盛衰極所、後々迄鑑に罷成儀に候間、正路第一に仕、當分の出高入高に心を不レ付、繩目不レ結樣に心得、當見次第に可レ仕事

一　百姓に神文爲レ致、一村切の繪圖、并田畑上中下の色付、兼て百姓に申付、其上遂ニ見分一、大概を相極め、古水帳をも見合、檢地可レ仕事

一　檢地は、竿繩兩樣にて候得共、近代竿檢地に候、深田又は山畑大屋敷等の足立不自由成所は、繩檢地可レ然事

一　竿の間（ケン）は、壹丈貳尺貳寸、但し竿の本末に、繩元印判可レ仕事

一　水帳の書樣、壹枚八行に極め、半迄可レ書事

一　屋舖檢地の儀、田畑同事には無レ之、見計用捨可レ仕事、但し町並の表口八寸迄可レ打事

一　隣村入組境目不分明の所は、双方百姓立會、詮議の上申分無レ之方、双方より手形取レ之可ニ相極一候、論所の儀は、相繪圖申付、追て詮議仕可レ極事

一　寺社領給地入組の所、双方百姓爲ニ立合一可レ致ニ檢地一之事

一　御朱印地の外、寺社領寺内、又は穢多等屋舖、惣て除地の儀、糺ニ先規一書付取レ之、先檢地を入、石盛をも致、内覺別帳に可レ仕事

一　田畑の内、大石大木塚土手等有レ之、作毛仕付難レ成所は、竿の内にて考捨、其所野帳に可ニ書付一

事

一　畔の儀は可ニ引捨一幷道橋がけ下、堰の掛口、木下、藪際、蔭のこさ等作毛一盃に仕付難レ成所は、見計次第用捨可レ仕事

一　附藪際等竿打候事、竿立所相談の上相極め、百姓にも其斷爲ニ申聞一野帳に書記、田畑主案內の者共に、判形爲レ致置可レ申事

一　大道作場道、又は新道堰代水落付替、並缺堀落堀狹く有レ之所、百姓訴訟申候はゞ、其趣書付を取見計、百姓申通無レ僞候はゞ、長何間横何間除候と野帳に書付、田畑主案內の者共、判形爲レ致置可レ申事

一　當毛無レ之田畑、先水帳繩請候とて、御繩望申百姓候はゞ、致ニ詮議一障儀無レ之候はゞ、手形を取打立可レ申事

一　新田畑起返切添、又は山手野手場之內、新田畑有レ之候はゞ、高に結可レ申事

一　永荒川缺山崩等の場所、可ニ起返一場所有レ之候はゞ、早々田畑に仕候樣申付、檢地致別帳に可ニ記置事

一　永荒地沼等、一兩年中にも田畑に可レ成所百姓望候はゞ、手形取高に入可レ申事

一　畑の廻り楮桑漆等有レ之候はゞ、無ニ其構一打立、水帳に楮共に桑共に漆共にと斷書可レ仕事

一　御藏屋敷は高に入置、御藏有レ之ば、御年貢を除可レ申事

一　百姓林の儀は、少分の所は、其通にて可ニ差置一候、大分の所は、見計次第輕年貢可ニ申付一事

一　入歩の事、其田畑添に有レ之分計入歩と可レ書、少成共隔候はゞ、別繩に可レ打事

一　野帳に斷書有レ之所、又は消字等其場所〳〵において、繩手面々判形可レ仕事

一　田畑之上か中か下かと、色兩位へももたれ候ては、心記いたし置、村々田畑上中下多少相考詮議の上積合可ニ相極一事

一　田畑石盛の儀、隣村の盛、幷古水帳見合、詮議の上可ニ相極一事

一　間違、又は竿の延縮み有レ之哉、折々置竿、又は管繩を以改可レ申事

一　屋敷近所、又は野畑にも、百姓勝手に荻楮桑漆等植候はゞ、本畑同事に相立、何畑と帳面に可レ記事

一　田畑共に、下の位より惡敷所は下々、又は原畑山田山畑共、少は可レ打事

一　畑の廻り堀田少々有レ之、畑へ打入候はゞ、堀田共に帳面可レ書事

一　間違等有レ之、田地詰候由百姓申出候はゞ、改直し可レ申事

一　檢地仕廻候村毎にて、御檢地に付何にても非儀無ニ御座一候、若田畑位違有レ之候はゞ、御檢地中に可ニ申出一旨、手形取可レ申事

一　壹村御繩打仕廻候は、御帳何冊の寄目錄致し、屋敷帳の奥に、右の目錄書寫、幷石盛書付可レ申事

一　水帳の寫百姓に相渡候はゞ、帳の末に寫と書付、墨付をも書付、繩手の面々致二印形一可二相渡一候

檢地の事は山川沼地等、或は登り檢、下り檢、横檢、大繩小繩打樣等の儀、種々有レ之といへども、所々に至り勘辨の上、可二相勤一事肝要なり

予多年地方に心掛、古書をも見侍りしに、大方は古昔聖賢の御代の税法、ことに遠き異國の沙汰、近くは一國一郡一村の内にも、格別の違ひあり、其故は、田畑蒔物籾麥等の種をおろすに、壹反三百坪の場所へ、籾は三升五六合より四五升八九升迄、麥は六七升より八九升壹斗壹斗貳三升餘も蒔事なり、石取りも右に順じ、壹反歩之作徳、七八九斗より壹石四五斗、中の所にて貳石程、中の上にて三石程、大上々地にて四石程石取有レ之事也、種いらざる所は石取多し、種多く蒔土地程石取少し、如レ此甲乙有レ之候へ共、書物には一通りにして、委敷事は日本紀に有り、口傳に有といへり、或は田を植に、壹反歩に苗三百を植へ、其壹抱を永壹文と見て貫高に積り、是は貳拾貫百石の法を以石高に結とあり、是も大格の積りにて、委敷は書取がたき事と見へたり、其故は、上田は都て用水の掛干よき高場のものなり、是には貳百五六拾より三百程に極るなり、稻草にもよる事なり、中の田には、三百四五拾四百程植る事なり、常に水溜りの深田には、五六百も植る事なり、縱ば惣名は菊なれど、花には千色百品のかわりあり、依レ之鍛練の上毛、所々を能見屆可二執行一事肝要なりといへり

第一は御爲不ㇾ漏樣に心掛
第二は百姓不ㇾ痛、訴訟公事出入等も無ㇾ之
第三は其所靜に治り候樣、執行事肝要なりといへり
右者餘り愚成事共なれど、前書に記如く、他自なき初心の爲にもと思ひ出せし言葉、書記者也
右の二卷は當用少しの覺書なり、地方は廣大にして、不ㇾ及二筆紙一事なりといへども、廣事は功者に尋べし、臨機應變なることは、隨分錬磨すべし

番町筋高四千五百石の御旗本様へ、地方功者の申立にて、御擬作過分に首尾致し、御地行所武州熊谷在へ檢見に罷越、野先へ臼杵持せ候付、名主是は何の御用に御座候哉と申上候時、右御役人立腹いたし、不屆成事を申もの哉、舂法とはウスツクと云ことなり、己等は如何相心得候哉と大きに呵られ候と、其村の名主直談の物語承レ之候

下谷筋高千五百石の御旗本様へ、猿樂町邊地方功者の申立、飯塚何とやら申者の世話にて、地方役人被二召抱一相州藤澤在へ檢見に被レ遣候、高五百石程の村にて、田方貳拾貳三町有レ之所、六七日致二檢見一未三分一も不二相濟一候付、宿の名主壹人殘り、惣百姓江戸へ罷出申上候は、右の通の檢見にて、日數三十日餘も懸り候はゞ、刈揚も不二罷成一當御年貢上納可レ仕樣無二御座一候段申上、村方には檢見の案内百姓壹人も無レ之、可レ仕樣無レ之、役人は江戸へ歸候由、依レ之外の者を御頼、是は幸相模へ檢見に罷越候に付御請仕、通りがけに右の村を檢見いたし、先づ急ぎ候故、其村には不レ致二一宿一候、彼の者の直の物語承レ之候

是等の功者を、世中にて書物藝といふ事にや、筆算達者なれば、地方はなるものと、不案内にて皆人のいふ事なり

地方國本錄下終

宮崎幸麿
小西武治　校

大正三年十一月十九日印刷
大正三年十一月廿二日發行

日本經濟叢書 卷六 非賣品

編者 瀧本誠一

發行者 佐藤卯兵衛
東京市神田區駿河臺鈴木町拾六番地

印刷者 中田福三郎
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社秀英舍第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

不許複製
日本經濟叢書刊行會

發行所
東京神田區駿河臺鈴木町拾六番地
電話本局三一八五・振替口座東京二六八一〇
日本經濟叢書刊行會

理事
高木範之丞
鹽谷壽作
佐藤卯兵衛

CONTENTS

of the sixth volume

BIBLIOTHECA JAPONICA ŒCONOMIÆ POLITICÆ

VOL. VI

TŌKIŌ
NIHON KEIZAI SŌSHO KANKŌKWAI
1914.

BIBLIOTHECA
JAPONICA
ŒCONOMIÆ POLITICÆ

VOL. VI

TŌKIŌ
NIHON KEIZAI SŌSHO
KANKŌKWAI
1914.